

茨城県教育財団文化財調査報告第59集

一般国道6号(日立バイパス)改築  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

金木場遺跡  
向畑遺跡

平成2年3月

財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第59集

一般国道6号(日立バイパス)改築  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

かな き ば  
金 木 場 遺 跡  
むかい はた  
向 畑 遺 跡

平成 2 年 3 月

財団法人 茨城県教育財団



金木場遺跡全景



灰釉陶器(金木場遺跡第23号住居跡出土)

S =  $\frac{1}{3}$



金木場遺跡第58、59、60、62号住居跡



焼印 (SI-47)

巡方 (SI-54)

鉸具 (SI-58)

鉄斧 (SI-9)

金木場遺跡出土金属製品

# 序

茨城県日立市内において、一般国道6号（日立バイパス）の改築工事が、建設省によって計画されております。これは従来の路線より東側にバイパス道を新設するものでありますが、その予定地内に金木場遺跡・向畑遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、建設省と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び、昭和63年1月から同年9月まで両遺跡の発掘調査を実施いたしました。そして、この調査によって、貴重な遺構・遺物が検出され、日立市の歴史を解明する上で多大な成果を上げることができたものと思います。

本書が、研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である建設省をはじめ、茨城県教育委員会、日立市教育委員会等関係各機関及び関係各位からいただいた御指導・御協力に対し、衷心より感謝の意を表します。

平成2年3月31日

財団法人 茨城県教育財団

理事長 磯田 勇

# 例 言

- 1 本書は、建設省の委託により、財団法人茨城県教育財団が、昭和62年度から昭和63年度にかけて発掘調査を実施した茨城県日立市に所在する金木場遺跡及び向畑遺跡の調査報告書である。
- 2 金木場遺跡、向畑遺跡の調査・整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	川 又 友三郎	～昭和63年 5月	
	磯 田 勇	昭和63年 6月～	
副 理 事 長	磯 田 勇	～昭和63年 5月	
	小 林 元	昭和63年 6月～	
常 務 理 事	滑 川 貞 雄	～平成元年 3月	
	小 林 洋	平成元年 4月～	
事 務 局 長	坂 場 庸 克	～平成元年 3月	
	一 木 邦 彦	平成元年 4月～	
調 査 課 長	青 木 義 夫	～平成元年 3月	
	石 井 毅	平成元年 4月～	
企 画 管 理 班	班 長	水 飼 敏 夫	昭和62年 4月～
	主任調査員	山 本 静 男	～平成元年 3月
	〃	小 河 邦 男	平成元年 4月～
	係 長	園 部 昌 俊	昭和63年 4月～
	主 事	山 崎 初 雄	～平成元年 3月
	〃	富 永 明	～昭和63年 3月
	〃	大 部 章	昭和61年 4月～
調 査 第 一 班	〃	吉 井 正 明	平成元年 4月～
	班 長	沼 田 文 夫	昭和62年度
	〃	石 井 毅	昭和63年度
	主任調査員	小 河 邦 男	昭和62年度調査
	〃	斎 藤 弘 道	昭和63年度調査
調 査 員	吉 川 明 宏	昭和62・63年度調査 平成元年度整理・執筆	
整 理 班 長	加 藤 雅 美	平成元年度	

- 3 本書は、発掘担当者の協力を得て、吉川明宏が執筆・編集を担当した。
- 4 本書に使用した記号等については、第3章第1節2の記載方法の項を参照されたい。

- 5 本書の作成にあたり、鉄製品について阿久津久氏（茨城県立歴史館）から、土師器・須恵器について川井正一氏（同）から、日立市内出土遺物について佐藤政則氏、鈴木裕芳氏（日立市郷土博物館）からそれぞれ御指導を得た。
- 6 発掘調査及び整理に際して御指導・御協力をいただいた関係機関、関係各位に対し、心から感謝の意を表したい。

# 目 次

口絵	
序	
例 言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査方法	1
1 地区設定	1
2 基本層序の検討	2
3 遺構確認	2
4 遺構調査	3
第3節 調査経過	3
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 金木場遺跡	10
第1節 遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法	10
1 遺跡の概要	10
2 遺構・遺物の記載方法	10
第2節 竪穴住居跡	14
1 縄文時代	14
2 奈良・平安時代	18
第3節 溝	250
第4節 その他の遺構	253
1 掘立柱建物跡	253
2 土坑	254
3 集石	263
4 性格不明遺構	264
5 ピット	264



第5節 遺構外出土遺物	267
第6節 まとめ	271
1 縄文時代	271
2 奈良・平安時代	272
第4章 向畑遺跡	287
第1節 遺跡の概要	287
第2節 竪穴住居跡	287
1 縄文時代	287
2 奈良・平安時代	290
第3節 掘立柱建物跡	294
第4節 その他の遺構	295
1 土坑	295
2 溝	300
3 ピット	301
第5節 遺構外出土遺物	302
第6節 まとめ	303
終章 むすび	304
写真図版	

## 挿 図 目 次

第1図 調査区呼称方法概念図	1	測図	23
第2図 基本土層図	2	第13図 第5号住居跡実測図	24
第3図 金木場・向畑遺跡周辺遺跡位置図	8	第14図 第5号住居跡カマドA・B実測図	25
第4図 第64号住居跡実測図	14	第15図 第5号住居跡出土遺物実測図	26
第5図 第64号住居跡出土遺物実測図・拓影図	15	第16図 第6号住居跡・カマド実測図	27
第6図 第68号住居跡実測図	16	第17図 第6号住居跡出土遺物実測図	28
第7図 第68号住居跡出土遺物実測図・拓影図	17	第18図 第7号住居跡出土遺物実測図	30
第8図 第1号住居跡・カマド実測図	18	第19図 第7号住居跡・カマド実測図	31
第9図 第1号住居跡出土遺物実測図	19	第20図 第8号住居跡実測図	33
第10図 第2号住居跡実測図	20	第21図 第8号住居跡出土遺物実測図	33
第11図 第3号住居跡・出土遺物実測図	21	第22図 第9号住居跡出土遺物実測図	35
第12図 第4号住居跡・カマド・出土遺物実測図		第23図 第9号住居跡・カマド実測図	36
		第24図 第10号住居跡・カマド実測図	38
		第25図 第11号住居跡・カマド実測図	39

第26図	第10号住居跡出土遺物実測図	40
第27図	第11号住居跡出土遺物実測図	41
第28図	第12号住居跡出土遺物実測図	42
第29図	第12号住居跡・カマド実測図	43
第30図	第13号住居跡実測図	44
第31図	第14号住居跡・カマド実測図	45
第32図	第14号住居跡出土遺物実測図(1)	46
第33図	第14号住居跡出土遺物実測図(2)	47
第34図	第15号住居跡・カマド実測図	49
第35図	第15号住居跡出土遺物実測図	50
第36図	第16号住居跡・カマド実測図	52
第37図	第16号住居跡出土遺物実測図	53
第38図	第17号住居跡実測図	54
第39図	第17号住居跡カマド実測図	55
第40図	第17号住居跡出土遺物実測図	55
第41図	第18号住居跡カマド実測図	56
第42図	第18号住居跡実測図	57
第43図	第18号住居跡出土遺物実測図	58
第44図	第19号住居跡・カマド実測図	59
第45図	第19号住居跡出土遺物実測図	60
第46図	第20・21号住居跡実測図	63
第47図	第20号住居跡カマド実測図	64
第48図	第20号住居跡出土遺物実測図	65
第49図	第21号住居跡出土遺物実測図	66
第50図	第22号住居跡実測図	67
第51図	第22号住居跡出土遺物実測図	67
第52図	第23・31号住居跡実測図	69
第53図	第23号住居跡カマド実測図	70
第54図	第31号住居跡カマド実測図	70
第55図	第23号住居跡出土遺物実測図(1)	71
第56図	第23号住居跡出土遺物実測図(2)	72
第57図	第31号住居跡出土遺物実測図	74
第58図	第24号住居跡実測図	75
第59図	第24号住居跡カマド実測図	76
第60図	第24号住居跡出土遺物実測図	77
第61図	第25号住居跡実測図	79
第62図	第25号住居跡カマド実測図	80
第63図	第25号住居跡出土遺物実測図(1)	81
第64図	第25号住居跡出土遺物実測図(2)	82
第65図	第26号住居跡・カマド実測図	84
第66図	第26号住居跡出土遺物実測図	85
第67図	第27号住居跡カマド実測図	87

第68図	第27号住居跡実測図	88
第69図	第27号住居跡出土遺物実測図	89
第70図	第28号住居跡・カマド実測図	90
第71図	第28号住居跡出土遺物実測図	91
第72図	第29号住居跡カマド実測図	92
第73図	第30号住居跡・カマド実測図	93
第74図	第30号住居跡出土遺物実測図	94
第75図	第32号住居跡・カマド実測図	96
第76図	第32号住居跡出土遺物実測図	97
第77図	第33号住居跡実測図	99
第78図	第33号住居跡出土遺物実測図	99
第79図	第34号住居跡実測図	100
第80図	第34号住居跡カマド実測図	101
第81図	第34号住居跡出土遺物実測図	101
第82図	第35・38号住居跡実測図	102
第83図	第35号住居跡出土遺物実測図	103
第84図	第36号住居跡実測図	104
第85図	第36号住居跡出土遺物実測図(1)	105
第86図	第36号住居跡出土遺物実測図(2)	106
第87図	第37号住居跡実測図	109
第88図	第37号住居跡カマド実測図	110
第89図	第37号住居跡出土遺物実測図	110
第90図	第39号住居跡実測図	112
第91図	第39号住居跡カマド実測図	113
第92図	第39号住居跡出土遺物実測図	114
第93図	第40号住居跡実測図	116
第94図	第40号住居跡カマド実測図	117
第95図	第40号住居跡出土遺物実測図	118
第96図	第41・42号住居跡実測図	121
第97図	第41号住居跡出土遺物実測図(1)	122
第98図	第41号住居跡出土遺物実測図(2)	123
第99図	第42号住居跡カマド実測図	125
第100図	第42号住居跡出土遺物実測図	126
第101図	第43号住居跡カマド実測図	127
第102図	第44号住居跡カマド実測図	128
第103図	第45号住居跡出土遺物実測図	128
第104図	第45号住居跡・カマド実測図	129
第105図	第46号住居跡実測図	130
第106図	第46号住居跡カマド実測図	131
第107図	第46号住居跡出土遺物実測図(1)	132
第108図	第46号住居跡出土遺物実測図(2)	133
第109図	第46号住居跡出土遺物実測図(3)	134

第110図	第47号住居跡出土遺物実測図	137
第111図	第47号住居跡・カマド実測図	138
第112図	第48号住居跡実測図	140
第113図	第48号住居跡カマド実測図	141
第114図	第48号住居跡出土遺物実測図	141
第115図	第49号住居跡実測図	142
第116図	第49号住居跡カマド実測図	143
第117図	第49号住居跡出土遺物実測図	143
第118図	第50号住居跡カマド実測図	144
第119図	第50号住居跡実測図	145
第120図	第50号住居跡出土遺物実測図	146
第121図	第51号住居跡出土遺物実測図	148
第122図	第51号住居跡・カマド実測図	149
第123図	第52号住居跡カマド実測図	150
第124図	第52号住居跡実測図	151
第125図	第52号住居跡出土遺物実測図	152
第126図	第53号住居跡実測図	154
第127図	第53号住居跡カマド実測図	154
第128図	第53号住居跡出土遺物実測図	155
第129図	第54号住居跡・カマド実測図	157
第130図	第54号住居跡出土遺物実測図(1)	158
第131図	第54号住居跡出土遺物実測図(2)	159
第132図	第54号住居跡出土遺物実測図(3)	160
第133図	第54号住居跡出土遺物実測図(4)	161
第134図	第55号住居跡・カマド実測図	165
第135図	第55号住居跡出土遺物実測図	166
第136図	第56号住居跡カマド実測図	167
第137図	第56号住居跡実測図	168
第138図	第56号住居跡出土遺物実測図(1)	169
第139図	第56号住居跡出土遺物実測図(2)	170
第140図	第57号住居跡出土遺物実測図	171
第141図	第57号住居跡・カマド・第61号住居跡 実測図	172
第142図	第61号住居跡カマド実測図	173
第143図	第61号住居跡出土遺物実測図	174
第144図	第58号住居跡カマド実測図	175
第145図	第58号住居跡実測図	176
第146図	第58号住居跡出土遺物実測図(1)	177
第147図	第58号住居跡出土遺物実測図(2)	178
第148図	第59号住居跡・カマド実測図	182
第149図	第59号住居跡出土遺物実測図(1)	183
第150図	第59号住居跡出土遺物実測図(2)	184

第151図	第60号住居跡実測図	186
第152図	第60号住居跡出土遺物実測図	186
第153図	第62号住居跡実測図	188
第154図	第62号住居跡カマド実測図	189
第155図	第62号住居跡出土遺物実測図	190
第156図	第63号住居跡カマド実測図	192
第157図	第63号住居跡実測図	193
第158図	第63号住居跡出土遺物実測図(1)	194
第159図	第63号住居跡出土遺物実測図(2)	195
第160図	第65号住居跡実測図	197
第161図	第65号住居跡カマド実測図	198
第162図	第65号住居跡出土遺物実測図	198
第163図	第90号住居跡カマド実測図	200
第164図	第66・90号住居跡実測図	201
第165図	第66号住居跡カマド実測図	202
第166図	第66号住居跡出土遺物実測図	202
第167図	第90号住居跡出土遺物実測図	203
第168図	第67・69号住居跡実測図	205
第169図	第67・69号住居跡カマド実測図	206
第170図	第67・69号住居跡出土遺物実測図	207
第171図	第70号住居跡カマド実測図	208
第172図	第70号住居跡実測図	209
第173図	第70号住居跡出土遺物実測図(1)	210
第174図	第70号住居跡出土遺物実測図(2)	211
第175図	第71号住居跡・カマド実測図	213
第176図	第71号住居跡出土遺物実測図	214
第177図	第72号住居跡・カマド実測図	215
第178図	第72号住居跡出土遺物実測図	216
第179図	第73号住居跡カマド実測図	217
第180図	第73号住居跡実測図	218
第181図	第73号住居跡出土遺物実測図	218
第182図	第74号住居跡実測図	219
第183図	第74号住居跡カマド実測図	220
第184図	第74号住居跡出土遺物実測図	220
第185図	第75号住居跡・カマドA・B実測図	221
第186図	第75号住居跡出土遺物実測図	222
第187図	第76号住居跡出土遺物実測図	223
第188図	第76・77号住居跡実測図	224
第189図	第76・77号住居跡カマド実測図	225
第190図	第77号住居跡炭化材検出状況実測図 ……………	226
第191図	第77号住居跡出土遺物実測図	226

第192図	第78号住居跡実測図……………228	第224図	土坑実測図(1)……………259
第193図	第78号住居跡カマド実測図……………229	第225図	土坑実測図(2)……………260
第194図	第78号住居跡出土遺物実測図……………229	第226図	土坑実測図(3)……………261
第195図	第79号住居跡出土遺物実測図……………230	第227図	土坑実測図(4)……………262
第196図	第79・80号住居跡実測図……………232	第228図	第1号集石実測図……………263
第197図	第80号住居跡カマド実測図……………233	第229図	第2号集石実測図……………263
第198図	第80号住居跡出土遺物実測図(1)……………233	第230図	第1号性格不明遺構実測図……………264
第199図	第80号住居跡出土遺物実測図(2)……………234	第231図	遺構外出土遺物実測図……………267
第200図	第81号住居跡出土遺物実測図……………236	第232図	遺構外出土遺物拓影図(1)……………268
第201図	第84号住居跡出土遺物実測図……………236	第233図	遺構外出土遺物実測図・拓影図(2)…269
第202図	第81・84号住居跡実測図……………237	第234図	須惠器坏分類図……………274
第203図	第81号住居跡カマド実測図……………238	第235図	土師器坏分類図……………275
第204図	第82号住居跡・カマド実測図……………239	第236図	主な住居跡の時期区分……………278
第205図	第82号住居跡出土遺物実測図……………240	第237図	向畑遺跡第1号住居跡実測図……………288
第206図	第83号住居跡・カマド実測図……………241	第238図	向畑遺跡第1号住居跡出土遺物実測図 拓影図……………289
第207図	第83号住居跡出土遺物実測図……………241	第239図	向畑遺跡第2号住居跡出土遺物実測図 ……………290
第208図	第85号住居跡出土遺物実測図……………242	第240図	向畑遺跡第2・3号住居跡実測図…291
第209図	第85号住居跡・カマド実測図……………243	第241図	向畑遺跡第3号住居跡出土遺物実測図 ……………292
第210図	第86号住居跡・カマド実測図……………245	第242図	向畑遺跡第1号掘立柱建物跡実測図 ……………294
第211図	第86号住居跡出土遺物実測図……………246	第243図	向畑遺跡土坑実測図(1)……………297
第212図	第87号住居跡・カマド実測図……………246	第244図	向畑遺跡土坑実測図(2)……………298
第213図	第87号住居跡出土遺物実測図……………247	第245図	向畑遺跡土坑出土遺物実測図・拓影図 ……………299
第214図	第88号住居跡・カマド実測図……………248	第246図	向畑遺跡第1号溝実測図……………300
第215図	第89号住居跡実測図……………249	第247図	向畑遺跡遺構外出土遺物拓影図……302
第216図	第2号溝実測図……………250	第248図	金木場・向畑遺跡遺構全体図 ……付図
第217図	第1号溝実測図 ……251・252		
第218図	第1号掘立柱出土遺物実測図……………253		
第219図	第1号掘立柱建物跡実測図……………253		
第220図	第33号土坑実測図……………254		
第221図	第55号土坑実測図……………255		
第222図	第55号土坑出土遺物拓影図……………255		
第223図	第81号土坑実測図……………256		

## 表 目 次

表1	金木場・向畑遺跡周辺遺跡地名表……………9	表5	向畑遺跡土坑一覧表……………295
表2	金木場遺跡土坑一覧表……………256	表6	向畑遺跡ピット一覧表……………301
表3	金木場遺跡ピット一覧表……………265	表7	向畑遺跡竪穴住居跡一覧表……………303
表4	金木場遺跡竪穴住居跡一覧表……………284		

## 写真図版目次

PL1	遺跡遠景・調査前風景	PL3	第3・4・5号住居跡
PL2	第1・2・3号住居跡	PL4	第5・6・8号住居跡

- P L 5 第7・8・9・10号住居跡  
 P L 6 第10・11・12号住居跡  
 P L 7 第14・15号住居跡  
 P L 8 第16・17号住居跡  
 P L 9 第18・19号住居跡  
 P L 10 第20・21号住居跡  
 P L 11 第22・23・31号住居跡  
 P L 12 第24・25号住居跡  
 P L 13 第26・27号住居跡  
 P L 14 第28・29・30号住居跡  
 P L 15 第30・32号住居跡  
 P L 16 第33・34・35・36・38号住居跡  
 P L 17 第36・37・41号住居跡  
 P L 18 第39・41・42号住居跡  
 P L 19 第40・43・44・45号住居跡  
 P L 20 第45・46・47号住居跡  
 P L 21 第47・48・49号住居跡  
 P L 22 第50・51号住居跡  
 P L 23 第51・52・53号住居跡  
 P L 24 第53・54号住居跡  
 P L 25 第55・56・57・61号住居跡  
 P L 26 第57・58・59・60・61号住居跡  
 P L 27 第58・59・60・62号住居跡  
 P L 28 第60・62・63号住居跡  
 P L 29 第64・65・66・90号住居跡  
 P L 30 第66・67・69号住居跡  
 P L 31 第66・67・68・69・70号住居跡  
 P L 32 第70・71・72号住居跡  
 P L 33 第72・73・74号住居跡  
 P L 34 第75・76・77号住居跡  
 P L 35 第78・79号住居跡  
 P L 36 第79・80・81号住居跡  
 P L 37 第82・83・85号住居跡  
 P L 38 第85・86・87・88号住居跡  
 P L 39 第88・89号住居跡・第33・55・81号土坑  
 第2号集石  
 P L 40 性格不明遺構・第1号溝  
 P L 41 基本土層・遺構外出土遺物  
 P L 42 向畑遺跡調査前風景・第1号住居跡  
 P L 43 向畑遺跡第2・3号住居跡・第1号掘立  
 柱建物跡・第1号溝・第8号土坑  
 P L 44 土師器甕(1)  
 P L 45 土師器甕(2)  
 P L 46 土師器甕(3)  
 P L 47 土師器甕(4)  
 P L 48 土師器(平鉢・鉢)  
 P L 49 土師器(環・高台付環・皿・高台付皿)  
 P L 50 土師器・須恵器(甗)  
 P L 51 須恵器(甕・壺)  
 P L 52 須恵器環(1)  
 P L 53 須恵器環(2)  
 P L 54 須恵器環(3)  
 P L 55 須恵器高台付環(1)  
 P L 56 須恵器高台付環(2)  
 P L 57 須恵器(蓋・盤・高台付皿)  
 P L 58 須恵器(播鉢・転用硯・高環), 砥石  
 P L 59 紡錘車・土製品・支脚  
 P L 60 縄文式土器・石器  
 P L 61 鉄製品(1)  
 P L 62 鉄製品(2)  
 P L 63 鉄製品(3)  
 P L 64 鉄製品(4)・鉄滓  
 P L 65 陶器・巡方・その他  
 P L 66 向畑遺跡出土遺物(1)  
 P L 67 向畑遺跡出土遺物(2)・向畑遺跡全景  
 P L 68 遺跡全景

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経過

一般国道6号は、水戸市・日立市・土浦市など主要都市を結んで茨城県を南北に縦断し、並行するJR常磐線とともに、県内交通網の中軸を成す道路である。近年の産業・経済の発展、車社会の発展により本国道の交通量の増加は著しく、日立市内においても慢性的な交通渋滞がみられ、早急な対策が待たれる現状にある。この様な状況の中で、建設省は、増大する交通量の緩和を図るため、「日立バイパス」の建設を計画した。

昭和61年7月17日、建設省関東地方建設局常陸工事事務所は、茨城県教育委員会に対し、建設用地内における埋蔵文化財の有無について照会し、同年9月2日、金木場遺跡と向畑遺跡が所在するとの回答を得た。そこで、両者は遺跡の取り扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから、発掘調査による記録保存の措置が講じられることになった。茨城県教育委員会は、建設用地内において試掘調査を行い、記録保存を必要とする範囲を明確にして、それを建設省に示すとともに、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した（昭和61年12月25日）。

当教育財団は、建設省と詳細な調整を重ね、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、昭和63年1月1日から9月30日にかけて、金木場・向畑両遺跡の発掘調査を実施することになった。

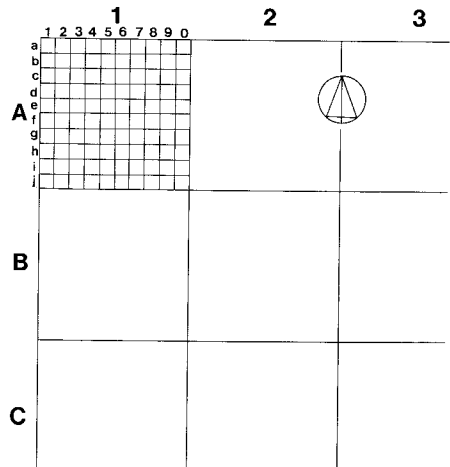
## 第2節 調査方法

### 1 地区設定

発掘調査を実施するにあたり、遺跡及び遺構の位置を明確にするため、調査区を設定した。

日本平面直角座標第IX座標系、X軸(南北)+68,040m、Y軸(東西)+75,840mを基準点として40m方眼を設定し、この40m四方の区画を大調査区(大グリッド)とした。さらに、この大調査区を東西・南北に各々十等分して、4m四方の小調査区(小グリッド)を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用



第1図 調査区呼称方法概念図

いて表記した。大調査区は、上記の基準点から北へ200m、西へ120mの点を起点とし、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、大調査区の呼称と合わせて「A1b2区」「B2e0区」のように呼称した。前述の基準点は「F4a1区」の基準杭の位置に当たる。

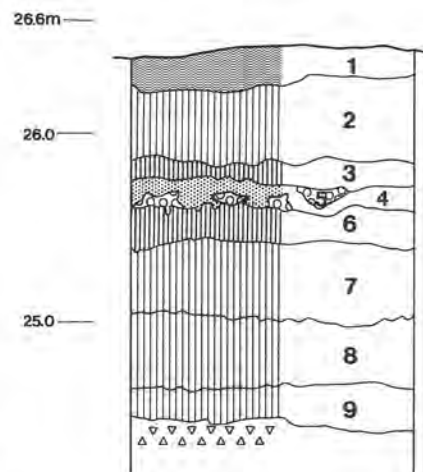
## 2 基本層序の検討

金木場遺跡の中央部、E3h9区内にテストピットを設定し、遺跡地下の土層を観察した。

1層は耕作土（表土）で、15～25cmの厚さがある。2層はハードローム層だが、植物の根などが入り込み、もろく崩れやすい。スコリアを微量混入する。本層の上面が「遺構確認面」に当たる。3層もハードローム層で、鹿沼軽石（KP）を多量に含む。4・5層は鹿沼軽石層である。4層は極めて多量の鹿沼軽石とロームが均質に混入した層で、特に鹿沼軽石がブロック状に集積した部分を5層とした。

6層はハードローム層で、部分的に鹿沼軽石を混入する。7・8層もハードローム層で、微量の砂や細礫が混入している。9層もロームだが、上層よりも軟らかく、粘性が強い。

さらに下層は、台地を形成する段立堆積物（礫層）と、その基盤を成す凝灰質泥岩層が続く。なお、1・2層の間に、他地域で見られる漸移層やソフトローム層に相当するものが確認できなかったが、これは、畑の耕作などで地表面が長い間風雨にさらされてきたために、表土が失われ、その分耕作が徐々に下層に及び、ローム層上部が削られたものと考えられる。



第2図 基本土層図

## 3 遺構確認

調査前の遺跡の現況は畑地として耕作されてきた状況にあり、表面から土師器や須恵器の破片が採集されていることから、奈良・平安時代の遺構の存在が予想された。

調査区域全域にグリッドを設定し、調査面積の16分の1、8分の1の割合で試掘を行った。その結果、調査区域のほぼ全域に遺構（住居跡・土坑等）が存在することが認められたので、担当者間で協議し、重機を導入して速やかに調査を進められるよう図った。そして、バックホーによる表土除去と作業員による遺構確認作業を行い、多数の住居跡や土坑・溝などを確認した。

なお、昭和62年度分（金木場遺跡中央部）の調査では、人力によって表土除去を実施した。

## 4 遺構調査

両遺跡における遺構調査は、次のようにして実施した。

竪穴住居跡は、平面プラン確認後、長軸方向とそれに直交する方向に土層観察用ベルトを設定し、ベルトによって区画された4つの区画を床面まで掘り下げを原則とした。区画の名称は、北東部から時計回りで1～4区と呼称した。

土坑は、長軸（径）方向で二分して、先ず南側または東側を掘り込み、土層観察の後、残りの2分の1を掘り込むことを原則とした。溝は、適宜な位置に土層観察用ベルトを設定して、掘り込んだ。

土層観察は、色調、含有物の種類と量、粘性等を記録した。色調については、「新版標準土色帳」（小山正忠・竹原秀雄編著、日本色研事業株式会社）を使用し観察記録した。

遺物は、柱状に出土位置を残し、遺構の掘り下げ後、遺構平面と共に位置を図化し、レベルを測定して取り上げた。

遺構平面図は、水糸方眼地張測量により、20分の1の縮尺（カマドは10分の1）で図化した。

## 第3節 調査経過

金木場遺跡・向畑遺跡の発掘調査は、昭和63年1月1日から同年9月30日までの9か月間にわたって実施された。（3月末で年度が切り換わるため、昭和62年度及び昭和63年度の2年度にかけての調査となった。）以下、調査の経過について、月ごとに記述する。

昭和62年度（金木場遺跡中央部、2,890㎡の調査）

- 1 月 発掘調査に必要な、現場事務所・倉庫の設置、調査器材類の搬入に次いで、鍬入式を挙行し、直ちに作業に入った。青作や雑草などを取り除き、グリッド発掘による試掘を実施して、住居跡・土坑・溝等の遺構の存在を確認した。
- 2 月 人力による表土除去、遺構確認作業を進めながら、遺構調査に入った。月末までに8号住居跡まで調査した。
- 3 月 引き続き遺構調査を実施した。そして、竪穴住居跡14軒のほか、土坑、溝、集石を検出して、昭和62年度分の調査を終了した。

昭和63年度（金木場遺跡の北側及び南側部8,747㎡と向畑遺跡1,480㎡の調査）

- 4 月 新たな調査体制を編成する。テント設営、アルミタワー組立などの諸準備に続いて、伐開、清掃、試掘（グリッド発掘）を実施した。各地区から、住居跡・土坑等多数の



遺構が検出された。

- 5 月 重機による表土除去、遺構確認作業を実施した。その結果、遺構が調査区域のほぼ全域に分布すること、特に金木場遺跡の南側部に住居跡が密集していることが認められた。
- 6 月 向畑遺跡の遺構調査を先に実施した。竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟のほか、土坑、溝、ピットを検出して調査を終え、下旬には、調査の主力を金木場遺跡の南側部へ移した。
- 7 月 金木場遺跡に多数の住居跡の存在が確認され、期間内での調査終了が困難であると判断されたので、建設省と協議を持ち、その結果、作業員を増員して、期間内に終了させることが確認された。遺構調査は住居跡を優先して進められ、月末までに、64号住居跡まで調査した。
- 8 月 南側部は、カマド調査や平断面図作成などの記録作業が中心となり、掘り込み作業の主力は北側部へ移った。住居跡の調査はほぼ終了に向かい、月末には、土坑や溝の調査に重点が置かれるようになった。
- 9 月 住居跡や土坑の調査を進める一方、航空写真撮影のための清掃を実施した。17日には現地説明会を開催し、遺構・遺物を一般公開した（見学者284名）。20日に航空写真を撮影した後、補足調査、資料整理を行い、27日に作業員による作業を終了した。そして、調査器材類・資料の搬出、事務所・倉庫の撤去などを行い、30日にはすべての作業を終えた。

なお、昭和63年度分の金木場遺跡においては、竪穴住居跡76軒のほか、土坑、溝、ピットが検出された。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

金木場遺跡は、日立市滑川町金木場1,650番地ほかに所在し、その北西側に隣接して、向畑遺跡が同市滑川町向畑1,658番地ほかに所在する。

日立市は、茨城県北東部、県都水戸市の北東約30kmに位置する、面積153.18km<sup>2</sup>、人口203,638人（平成元年5月1日現在）の工業都市である。北は十王町と里美村、西は水府村と常陸太田市、そして、南は久慈川を挟んで東海村、那珂町に接し、東は、南北約25kmの海岸線をもって太平洋に面している。当市は、日立鉱山や日立製作所をはじめとする鉱工業によって発展してきた地域で、JR日立駅や多賀駅付近を中心に市街地が形成されてきたが、現在は、海岸地域全域から丘陵部まで開発が延びている。

地形的にみると、日立市は次の4地域に区分される。市域の大半を占める多賀山地、海岸線に沿って南北に細長い範囲に分布する海岸台地、北西部山間地域(里川流域)、そして、南部、久慈川下流域の沖積低地である。

多賀山地は、古生代の花崗岩質岩石や変成岩で構成された、隆起準平原といわれる起伏の少ない高原状の地形である。この多賀山地を水源とする多数の小河川が樹枝状に山肌を刻み、東流して太平洋へ注ぎ込んでいる。高鈴山（623.3m）と神峯山（598m）との間を流れる宮田川の峡谷には、日立地方の近代化の基礎を築いた日立鉱山がある。

多賀山地の東側に続く海岸台地は、第三紀層（凝灰質岩石）の基盤の上に砂礫層やロームをのせる海成あるいは河成の段丘である。多賀山地から流出する小河川によって開析され、ひとつひとつが舌状の様相を示す台地が北から南へ連続的に分布しており、それらが海岸では波に削られ標高20m前後の海食崖を成している。日立の海岸線は全体として単調ではあるが、海食崖と台地を刻む小河川の谷とが交互に続き、変化に富んだ景観をみせている。この海岸台地が、南部の久慈川下流域の沖積低地と併わせ、人々の主な生活の舞台となっており、JR常磐線や国道6号などの幹線道路が走り、工場群や住宅地が密集している。

金木場・向畑遺跡は、日立市街地の北東部、日立市役所から北東へ約3kmの海に面した台地上に位置している。この台地も南北両側に谷が入り込み、周囲の低地から20m程の比高をもって、ひととき高く区画されている。標高は24～30m程で、北西から南東に緩やかに傾斜している。この付近では比較的広く平坦面の残された所で、一面が畑として利用されてきた。金木場・向畑遺跡の間は、市道の走る切通しによって切断されているが、もともとはひと続きの台地であった。

周囲の低地は、10年程前までは水田として利用されていたが、現在は住宅地が増えてきている。

## 第2節 歴史的環境

『茨城県遺跡地図<sup>(1)</sup>』によれば、日立市内には、先土器時代から近世にかけての遺跡が多数所在しており、発掘調査の行われた遺跡も数多い。

まず、先土器時代の遺跡では、線刻礫の出土した宮脇遺跡<sup>(2)</sup>や、ネバ山遺跡、上笹目遺跡<sup>(3)</sup>などが知られているほか、鹿野場遺跡<sup>(4)</sup>、六ツヶ塚遺跡<sup>(5)</sup>、橋の作遺跡<sup>(6)</sup>、泉前遺跡<sup>(7)</sup>などの調査例がある。この中で、鹿野場遺跡は、高鈴山麓の丘陵上に位置し、不定形石器、搔器、敲き石などが鹿沼軽石層直上の地層から出土しており、県内でも最古層に属する遺跡として位置づけられている。

縄文時代の遺跡は、多賀山地東縁の丘陵部、及び山沿いの地域に多く所在する。まず、早期では、鹿野場遺跡から鶴ヶ島台式～茅山式期の住居跡が、そして遠下遺跡からは茅山式期を中心とした住居跡が多数検出されている。前期では、遠下遺跡<sup>(8)</sup>から浮島式期のものとみられる住居跡が1軒検出されている程度で、確認されている遺跡も泉原貝塚など数が少ない。それが中期に入ると、遺跡数が増大し、上の代遺跡<sup>(9)</sup>、南高野貝塚<sup>(10)</sup>、諏訪遺跡<sup>(11)</sup>など、調査例も増える。上の代遺跡からは加曽利E II～IV式期の住居跡が検出され、南高野貝塚からは、中～後期の土器のほか、骨角器や赤色顔料が塗布された貝輪などが出土している。また、諏訪遺跡からは多数の袋状土坑が検出され、阿玉台式や大木7b式などの土器とともに、石器や炭化したクルミなどが出土している。しかし、後・晩期になると、また遺跡数が減少してくる。その中で、鹿野場遺跡から堀之内式期の柄鏡型住居跡が検出されているのは貴重な資料である。

弥生時代の遺跡は、海岸台地上に点在しており、その数は少ない。ここでは、大沼遺跡<sup>(12)</sup>から、初期弥生式土器が出土しているのが特筆される。遺構は伴わず、数点の破片が出土しているだけだが、県内の弥生式土器では最古のものに属する土器であるといわれている。そのほかでは、横内遺跡<sup>(13)</sup>から中期後半の土器棺墓が2基、曲松遺跡、金井戸遺跡<sup>(14)</sup>から住居跡が1軒ずつ検出されている。

古墳時代では、多数の古墳や横穴が確認されているが、その多くは、海岸線に沿った地域に並ぶように分布している。古墳としては、6世紀中葉の馬具が出土した西大塚古墳群<sup>(15)</sup>や六ツヶ塚遺跡<sup>(16)</sup>などの調査例がある。横穴では、壁画で知られるかんぶり穴横穴群や相田横穴群<sup>(17)</sup>、北の台横穴群<sup>(18)</sup>などが北部に、また、南部には、赤羽横穴群<sup>(19)</sup>、千福寺下横穴墓群<sup>(20)</sup>などの調査例がある。これらはほぼ7世紀代に造られたものとされているが、中には9世紀ごろまで埋葬が継続されたものもみられる。古墳時代の集落跡としては、曲松遺跡、金井戸遺跡<sup>(21)</sup>で大規模な調査が

行われている。

奈良・平安時代の遺跡は、海岸台地上を中心に約90か所ほど確認されており、調査例も多い。古墳時代末から8世紀前半の集落が検出された泉前遺跡<sup>(22)</sup>をはじめ、8世紀後半から9世紀代の横内遺跡<sup>(23)</sup>や遠下遺跡<sup>(24)</sup>、吹上遺跡<sup>(25)</sup>、大沼遺跡<sup>(26)</sup>、鹿野場遺跡<sup>(27)</sup>などから多数の遺構が検出されている。当時の日立地方には、久慈郡（高月郷、助川郷、高市郷）及び多珂郡（道口郷、伴部郷）が置かれ<sup>(28,29)</sup>、9世紀初頭まで活発に行われていた蝦夷攻略の交通路として重要な役割を担っていたものと思われる。（金木場・向畑遺跡の所在する滑川町付近は、多珂郡道口郷に属していたものと推定されている。）

中世の遺跡としては、久慈城跡、要害城跡や滑川浜館遺跡などの城館跡が挙げられる。また、泉前遺跡<sup>(30)</sup>の調査で、地下式壙が検出され、内耳土器片が出土している。

近世の遺跡としては、助川海防城跡や初崎砲台跡などがある。

## 注

- (1) 茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』 昭和62年
- (2) (12) 茨城県『茨城県史 原始古代編』 昭和60年
- (3) 日立市『日立市史』 昭和34年
- (4) (27) 日立市教育委員会『日立市鹿野場遺跡発掘調査報告書』 昭和54年
- (5) (16) 日立市教育委員会『日立市六ツヶ塚遺跡発掘調査報告書』 昭和54年
- (6) (18) 日立市教育委員会『橋の作遺跡 北の台横穴墓』 昭和57年
- (7) (22) 日立市教育委員会『泉前遺跡（第二次）』 昭和57年
- (8) (24) 日立市教育委員会『日立市遠下遺跡発掘調査報告書』 昭和50年
- (9) (10) 茨城県『茨城県史料 考古資料編 先土器 縄文時代』 昭和54年
- (11) 日立市教育委員会『諏訪遺跡発掘調査報告書』 昭和55年
- (13) (23) 日立市教育委員会『日立市小木津町横内遺跡発掘調査報告書』 昭和54年
- (14) (15) (17) (21) 茨城県『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 昭和49年
- (19) 日立市教育委員会『日立市赤羽横穴墓群発掘調査報告書』 昭和52年
- (20) 日立市教育委員会『久慈千福寺下横穴墓群』 昭和60年
- (25) 日立市教育委員会『久慈吹上』 昭和56年
- (26) 日立市教育委員会『日立市大沼遺跡発掘調査報告書』 昭和53年
- (28) 久信田喜一「和名抄に見える常陸国久慈郡の郷について」『日本歴史』482 昭和63年
- (29) 久信田喜一「古代常陸国多珂郡の郷について」『茨城史林』12 昭和63年
- (30) 日立市教育委員会『泉前遺跡（第一次）』 昭和57年



第3図 金木場・向畑遺跡周辺遺跡位置図

表1 金木場・向畑遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	遺跡の時代							番号	遺跡名	遺跡の時代						
		先土器	縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世			先土器	縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世
1	金木場遺跡		○			○			17	曲松遺跡		○	○	○			
2	向畑遺跡		○			○			18	金井戸遺跡		○	○	○	○		
3	宮脇遺跡	○	○			○			19	西大塚古墳群				○			
4	ネバ山遺跡	○							20	かんぶり穴横穴群				○			
5	上笹目遺跡	○							21	相田横穴群				○			
6	鹿野場遺跡	○	○			○			22	北の台横穴群				○			
7	六ツヶ塚遺跡	○			○				23	赤羽横穴群				○	○		
8	橋の作遺跡	○				○			24	千福寺下横穴墓群				○	○		
9	泉前遺跡	○		○	○	○	○		25	吹上遺跡		○	○	○	○		
10	遠下遺跡		○			○			26	久慈城跡						○	
11	泉原貝塚		○						27	要害城跡						○	
12	上の代遺跡		○						28	滑川浜館遺跡		○			○	○	
13	南高野貝塚		○						29	助川海防城跡							○
14	諏訪遺跡		○			○			30	初崎砲台跡							○
15	大沼遺跡		○	○		○			31	成沢窯跡					○		
16	横内遺跡			○		○											

# 第3章 金木場遺跡

## 第1節 遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法

### 1 遺跡の概要

金木場遺跡は、日立市の北部海岸地域、標高24~27mの台地上に位置する、奈良・平安時代を中心に集落の営まれた遺跡である。『日立市史』によると、当遺跡から、縄文式土器片（加曾利E II式）や土師器・須恵器の破片が出土しており、須恵器坏の底部に篋書きされたものも報告されている。縄文時代、及び奈良・平安時代の遺跡として周知の遺跡であったものであるが、今回の発掘調査により、ほぼ同時期の遺構・遺物が多数検出された。

台地上全面が「金木場遺跡」として捉えられているが、調査区域はその西側部分、面積11,637㎡の範囲である。検出された遺構は、竪穴住居跡90軒、掘立柱建物跡1棟、溝2条、土坑71基、集石2基、性格不明遺構1基、ピット69か所である。竪穴住居跡は、縄文時代前期のものが2軒で、その他はすべて奈良・平安時代に属するものである。土坑の中には、陥し穴とみられるものも含まれる。これらの遺構は調査区域のほぼ全域に分布しているが、特に南側部分に多く検出されている。

出土遺物は、遺物収納箱（54×34×20cm）に126箱程度である。内容は、縄文式土器片（早~後期）や弥生式土器片（中・後期）が少量みられるほかは、奈良・平安時代の土師器・須恵器が主体である。土師器坏の中には墨書土器も含まれる。陶器片も少量出土しており、猿投系の短頸壺がある。また、細片ではあるが、緑釉陶器片も出土している。土器以外では、紡錘車や砥石、鉄製品（斧、鎌、刀子、鋏、焼印など）のほか、銅製品（帯金具=巡方）が1点出土している。

### 2 遺構・遺物の記載方法

本書における遺構・遺物の記載方法は、下記の要領で統一した。

#### (1) 使用記号

本書で使用した遺構・遺物に関する記号は、次のとおりである。

竪穴住居跡 **SI** 掘立柱建物跡 **SB** 溝 **SD** 土坑 **SK** 集石 **SS** ピット **P**

性格不明遺構 **SX** 攪乱土層 **K** 土器 **P** 土製品 **DP** 金属製品 **M** 石器・石製品 **Q**

#### (2) 遺構・遺物の表示

本書で使用した遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。





- 土器拓影図は、右側に断面を図示した。
- 遺物は、実測図を浄写したものを1/3に縮小して掲載することを原則とし、それ以外のものについては「S=1/4(縮尺4分の1)」のように表記した。

(5) 土層の分類について

各遺構における堆積土の土層については、調査時に、色調・含有物・粘性・締まり具合などの観点から層を区分し、観察記録を行った。整理の段階では、色調と特に記載を要する含有物等について実測図の横に掲載し、覆土の堆積状況については、遺構解説本文の中に記載した。なお、金木場遺跡及び向畑遺跡の覆土には、基本的に微～少量のローム粒子、炭化粒子、焼土粒子が含まれている。

(6) 遺構の解説について

- 遺構番号は、調査の過程で種類別・調査順に付したものである。
- 位置は、小調査区名で記載した。複数の調査区にまたがる場合は、遺構の占める面積の割合が最も大きい調査区名を記載した。
- 重複関係は、重複する遺構名と、本跡と比較しての新旧の別を記載した。
- 平面形は、長軸：短軸の値が1.1を越えるものについては、長方形とし、それ以下のものは方形とした。円形、楕円形の区別もこれに準じた。
- 規模は、平面図の上端で計測した、長軸(径)、短軸(径)の値である。〔 〕で表示してあるものは、重複あるいはエリア外へ遺構がのびる場合の計測可能な範囲での値である。
- 主軸方向は、カマドの造られた壁とその対面に当たる壁を結ぶ線を主軸とし、座標北に対してどの方向へどれだけ傾いているかを、「N-12°-W」(座標北から西へ12°傾く)のように角度で表示した。縄文時代の住居跡及び土坑については、長軸(径)方向で表示した。
- 壁は、壁高とその傾きを記載した。傾きは、床面からの立ち上がりの角度が80°～90°のものを直立、80°未満のものを外傾とした。
- ピットの規模については、上端径と深さを「P1(30×25, -40cm)」(長径30cm×短径25cm, 深さ40cm)のように記載した。
- 遺物は、その種類と出土した破片の数を記載した。( )内には、器種名を記した。
- 所見・備考の項目には、遺構の特記事項について記載した。

(7) 表の見方

<住居跡一覧表>

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模		床面	ピット	カマド	覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						

- 各項目の記載については、遺構解説の内容に準じた。
- 覆土は、人為堆積、自然堆積の区別を記載した。
- 備考には、重複関係等を記載した。

<土坑一覧表>

番号	位置	長軸方向 (径)	形状	規模		壁面	底面	覆土	備考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)				

- 各項目の記載については、遺構解説の内容、住居跡一覧表の記載方法に準じた。
- 底面の形状は、平坦、凹凸、皿状に区分した。

<土器観察表>

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考

- 法量は、A—口径、B—器高、C—底径、D—高台径、E—胴部最大径、F—つまみ径、G—高台高、H—つまみ高を示し、現存値には〔 〕、推定値には( )を付した。
- 色調については、土層調査時に使用した土色帳を使用した。
- 備考は、残存率と遺物整理番号(P, Mなど)、出土地点、写真図版番号(PL)等を記載した。

<金属製品観察表>

図版番号	種類	法量 (cm)	備考

<土製品、石器・石製品観察表>

図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	備考

- 法量及び重量の欄で、〔 〕を付した数値は、一部を欠損しているものの現存値である。

## 第2節 竪穴住居跡

当遺跡から、90軒の竪穴住居跡が検出されている。このうち、縄文時代前期に属するものが2軒で、いずれも調査区域の南部に位置している。その他の88軒は奈良・平安時代に属するもので、調査区域のほぼ全域に分布しているが、特に南部から多く検出されている。

### 1 縄文時代

#### 第64号住居跡（第4図）

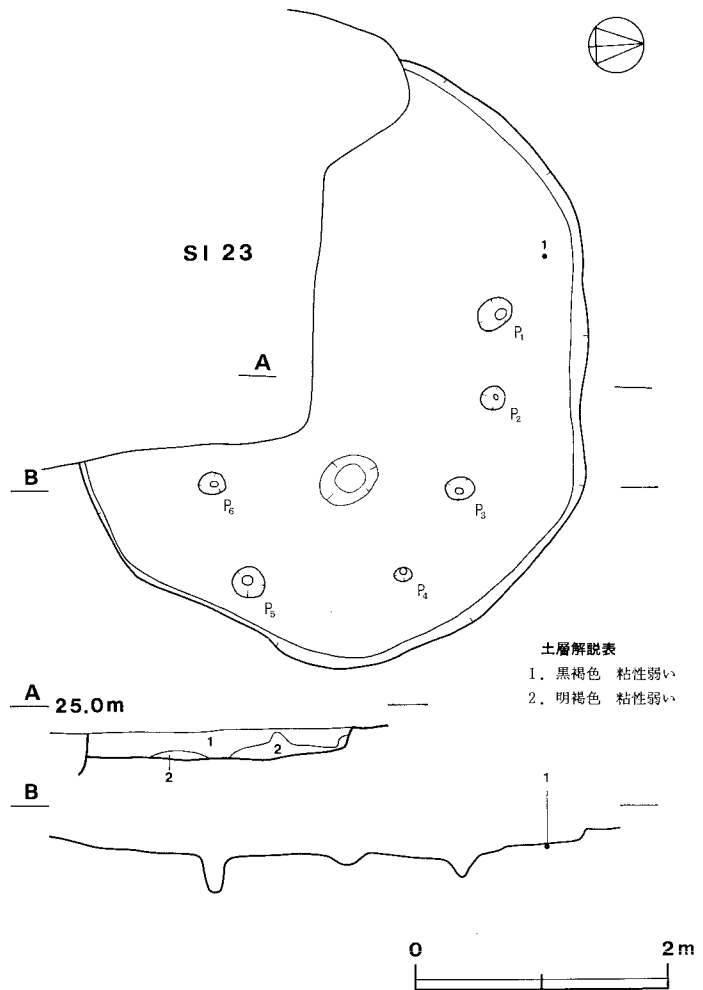
**位置** I4j4区。**重複関係** SI-23より古い。**平面形** 楕円形。**規模** 4.85×4.00m(推定値)。**長径方向** N-85°-W。**壁** 外傾。壁高5~18cm。**壁溝** 無。**床** ゆるい起伏。**ピット** 6か所。P1(30×22, -24cm) P2(19×18, -22cm) P3(22×18, -20cm) P4(14×12, -12cm) P5(25×25, -17cm) P6(22×17, -33cm) **炉** 床面中央から東寄り。上端径50×35cm, 深さ11cmの楕円形の地床炉。覆土への焼土の混入は極少量ではあるが、周囲の床が焼けていることや、すぐ横に焼けた礫がまとまって出土していることから、炉跡と思われる。**覆土** 自然堆積。

がまとまって出土していること

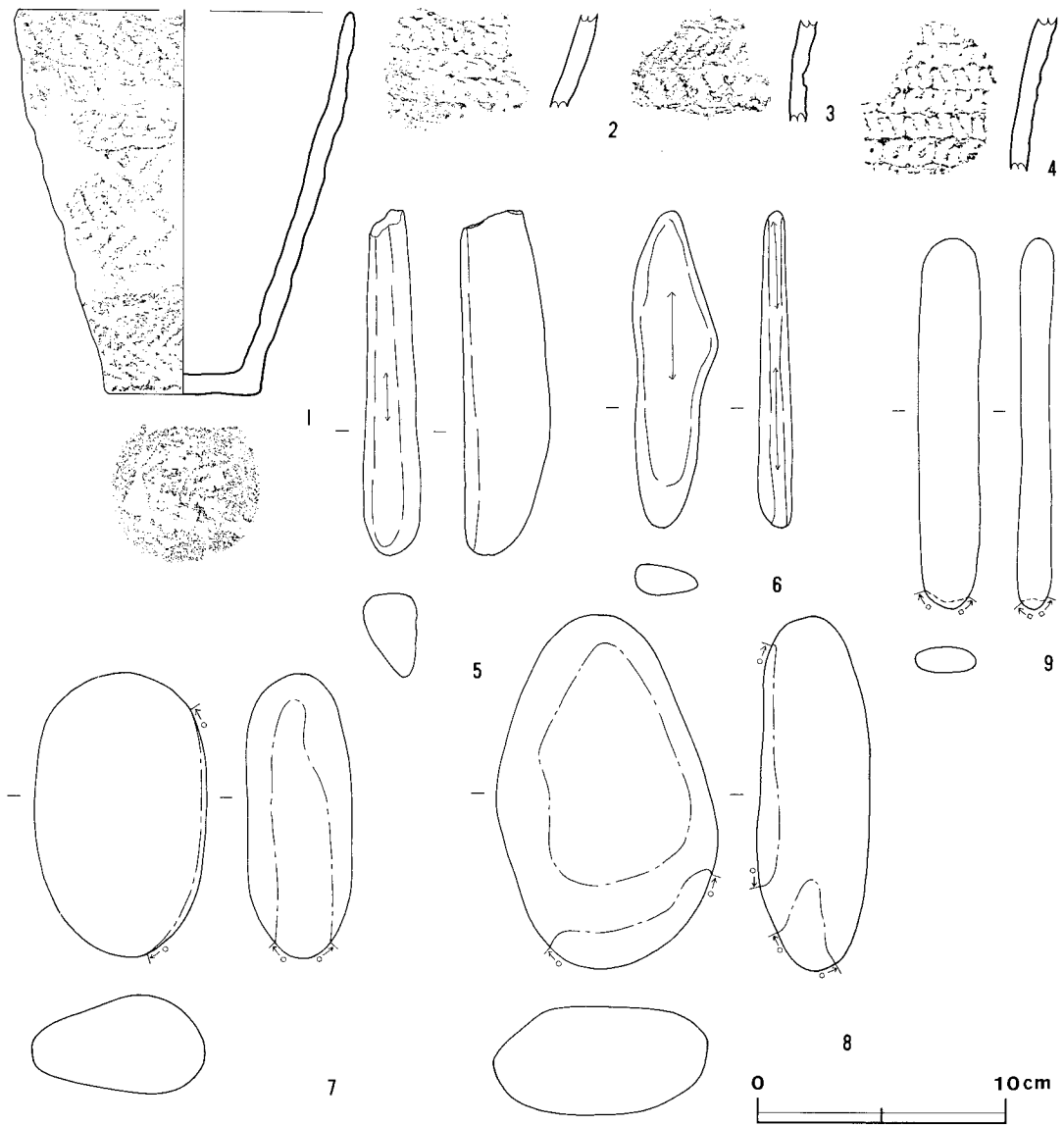
とから、炉跡と思われる。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 縄文式土器片116点。石器（砥石2, 磨石2, 敲石1）5点。第5図1の小型の深鉢は、北西壁際の床面に細かく潰れた状態で出土している。

**所見** 本跡は、出土遺物から縄文時代前期前半に比定される。



第4図 第64号住居跡実測図



第5図 第64号住居跡出土遺物実測図・拓影図

第64号住居跡出土遺物（第5図）

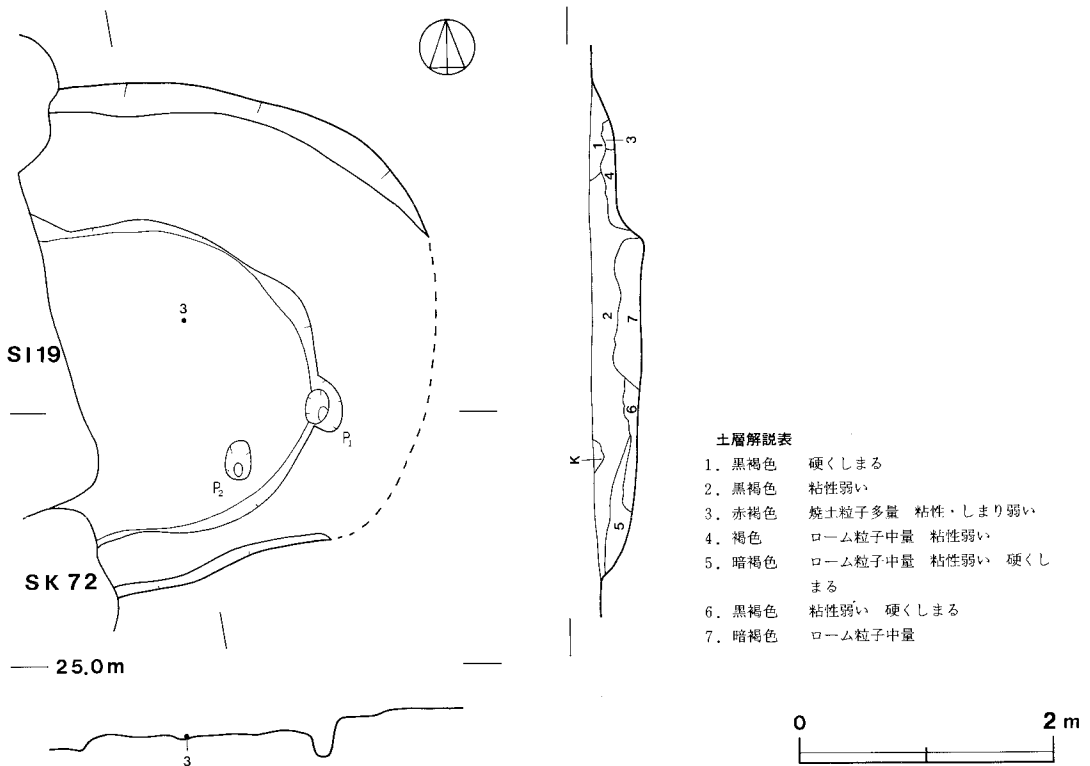
1は縄文式土器の深鉢である。口径(13.6)cm, 器高15.6cm, 底径6.2cm。平底で, 胴部はほぼ直線的に立ち上がる。胴部全面に羽状縄文が施されているが, 上半と下半とでは原体が異なる。底部にも縄文が施されている。2~4は胴部片で, 3には羽状縄文, 2・4にはループ文が施されている。いずれの土器も, 胎土に繊維が含まれている。(PL60)

出土遺物観察表

図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第5図5	砥石	14.0 × 2.3 × 3.5	147.6	砂岩。1面に使用痕が認められる。北東部覆土下層出土。PL60・Q14
6	砥石	12.9 × 3.4 × 1.0	72.2	流紋岩。3面に使用痕が認められる。北東部覆土下層出土。PL60・Q15
7	磨石	11.5 × 7.0 × 3.9	474.1	砂岩。1面に使用痕が認められる。南東部覆土下層出土。PL60・Q27
8	磨石	14.3 × 8.8 × 4.6	759.7	砂岩。2面に使用痕が認められる。北東部覆土下層出土。Q28
9	敲石	20.0 × 2.6 × 1.0	76.0	流紋岩。先端部に使用痕が認められる。北東部覆土下層出土。Q31

第68号住居跡 (第6図)

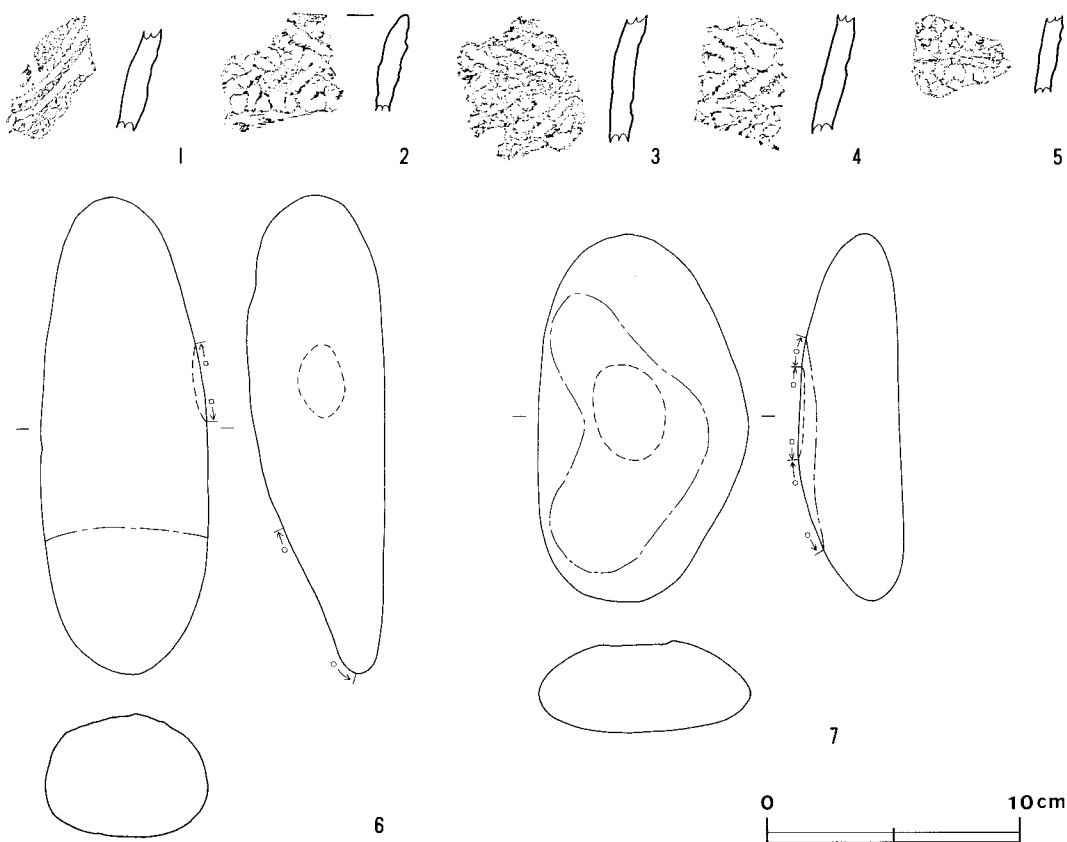
位置 I4h5区。重複関係 SI-19, SK-72より古い。平面形 楕円形。規模 3.95×(2.98)m。長径方向 N-10°-W。壁 外傾。壁高 5~20cm。壁溝 無。床 ゆるい起伏。二段掘り込み。上段(外側)と下段(内側)との比高は10~20cm程度。上段は、壁から床面まで比較的なだらかに傾斜しているのに対し、下段はほぼ垂直に掘り込んでいる。ピット 2か所。P1(42×30, -20cm) P2(30×18, -59cm) 炉 SI-19に西側を削平され、炉の有無は不明。覆土 自然堆積。



第6図 第68号住居跡実測図

**遺物** 縄文式土器片15点。石器（磨石1，敲石2）3点。土器はいずれも小破片で，覆土から出土している。

**所見** 本跡は，出土遺物から縄文時代前期前半に比定される。



第7図 第68号住居跡出土遺物実測図・拓影図

**第68号住居跡出土遺物（第7図）**

1～5は縄文式土器である。1は胴部片で，縄文原体が弧状に押圧されている。2は口縁部片で，上半に羽状縄文，下半にループ文が施されている。3～5は胴部片で，羽状縄文，ループ文が施されている。いずれの土器も，胎土に繊維が含まれている。

**出土遺物観察表**

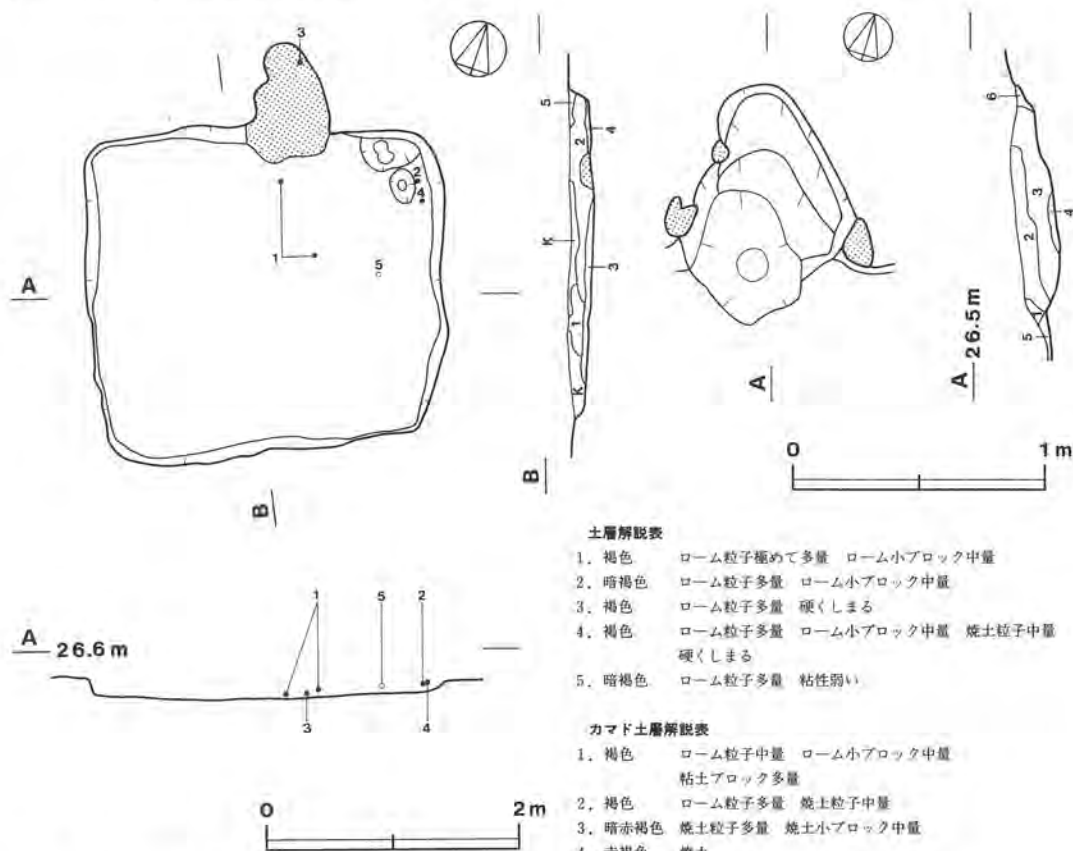
図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備考
第7図6	敲石	19.0 × 6.2 × 4.4	723.4	流紋岩。2面に使用痕が認められる。北部床面直上(上段)。PL60・Q32
7	磨石	14.6 × 8.3 × 3.5	932.9	流紋岩。1面に使用痕が認められる。南部覆土中層出土。PL60・Q33

## 2 奈良・平安時代

### 第1号住居跡 (第8図)

位置 F4i2区。平面形 方形。規模 2.83×2.63m。主軸方向 N-18°-W。壁 外傾。壁高 11~17cm。壁溝 無。床 ほぼ平坦。北東コーナー付近がわずかに窪む。ピット 無。カマド 北壁東寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長94cm, 幅81cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は床面より10cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

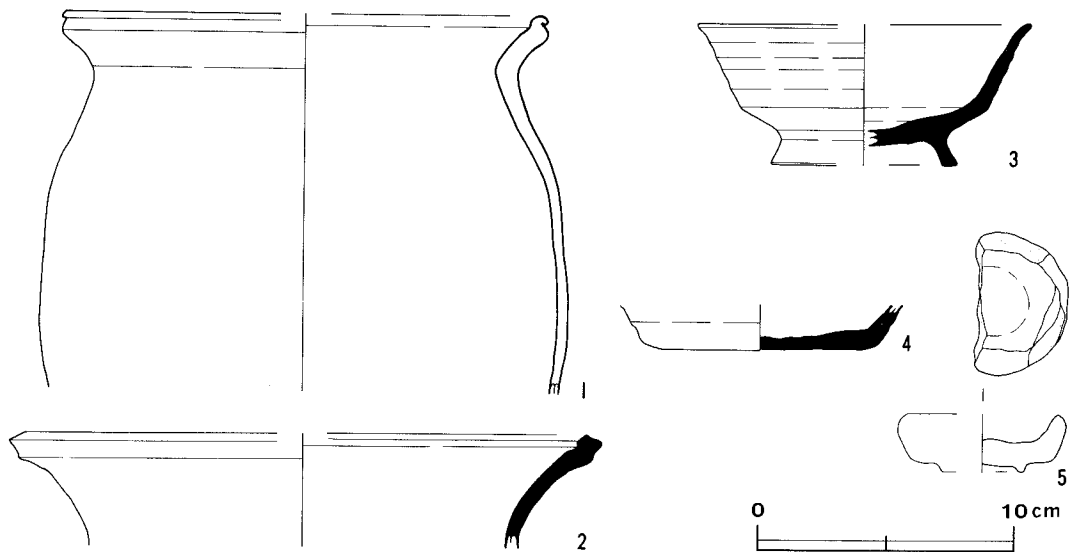
遺物 土師器片 (甕, 坏) 84点。須恵器片 (甕, 坏, 高台付坏) 21点。土製品1点。鉄滓1点。カマド付近, 及び北西部を中心に出土している。



第8図 第1号住居跡・カマド実測図

### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	甕 土師器	A (19.2) B (15.0) E (20.8)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頭部内・外面, 横ナデ。胴部内面, 縦位のヘラナデ。外面, 縦・斜位のヘラ削り。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	10% P1 中央部覆土下層



第9図 第1号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 2	甕 須恵器	A (22.2) B (4.5)	口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁端部は短く上方へ屈曲し、外面に強い稜をもつ。	内・外面、横ナデ。	砂粒 灰色 普通	5% P3 北東コーナー付 近覆土下層
3	高台付 坏 須恵器	A (12.9) B 5.6 D (7.3) G 1.4	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 青灰色 良好	45% P4 カマド覆土 ヘラ記号 PL55
4	坏 須恵器	B (1.8) C (8.2)	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。	底部、回転ヘラ切り後、軽いナデ。	砂粒 灰オリーブ色 普通	10% P5 北東コーナー付 近覆土下層
図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
5	环型土製品	{5.7} × {3.7} × 2.3	29.3	小型の环状を呈する。東部覆土中層出土。PL59・DP1		

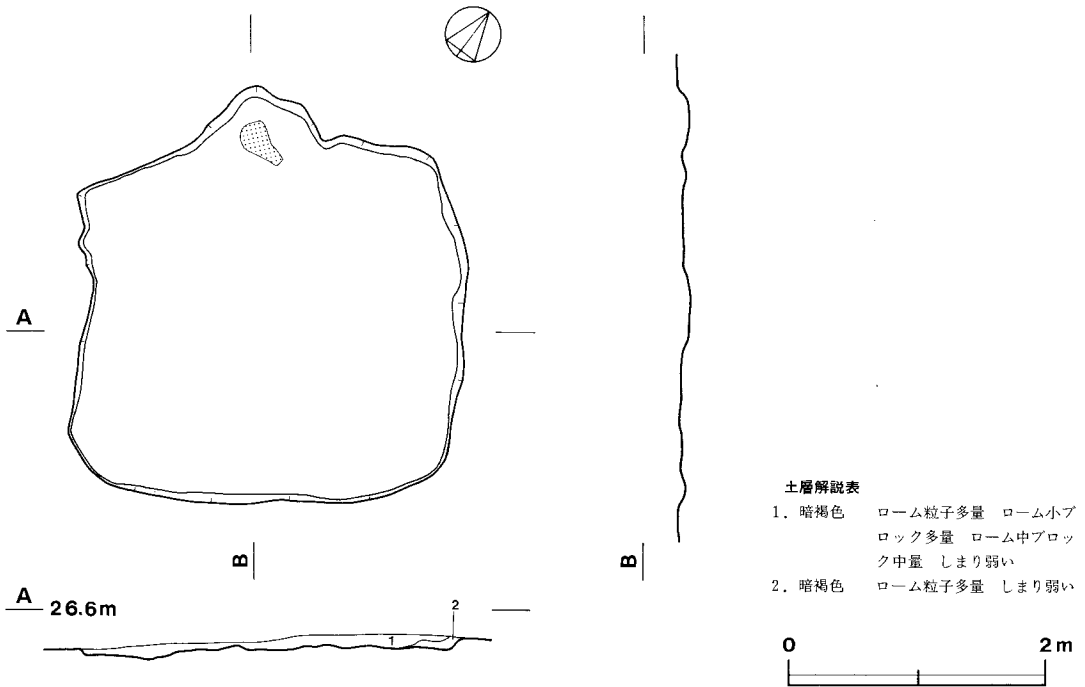


**第2号住居跡 (第10図)**

**位置** F4j1区。**平面形** 方形。**規模** 3.04×2.93m。**主軸方向** N-39°-W。**壁** 外傾。壁高4~7cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。規模不明。攪乱で大半が失われ、焼土化した火床の一部を検出。**覆土** 攪乱。

**遺物** 土師器片 (甕) 88点。須恵器片 (坏) 7点。鉄滓1点。いずれも小破片で、主に北西部の覆土から出土している。

**備考** 耕作によって大きく攪乱され、遺存状態は良くない。



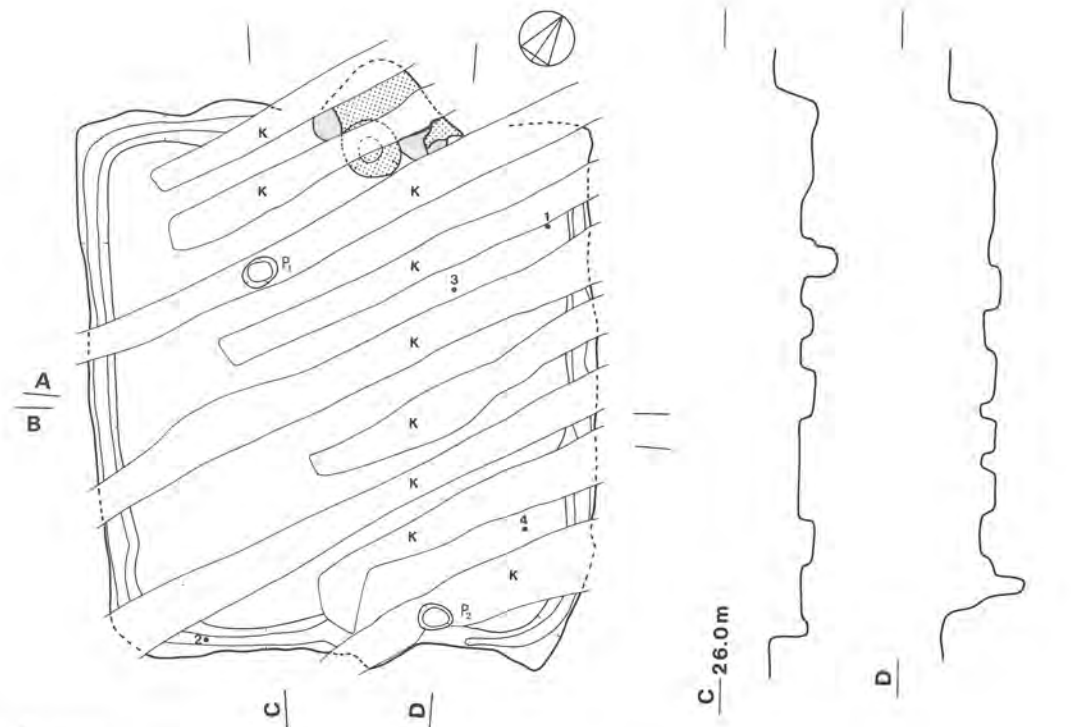
第10図 第2号住居跡実測図

**第3号住居跡 (第11図)**

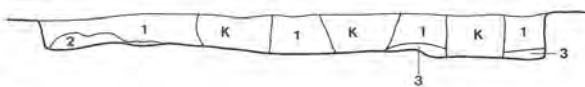
**位置** G4a4区。**平面形** 長方形。**規模** 4.34×3.80m。**主軸方向** N-36°-W。**壁** 直立。壁高34~43cm。**壁溝** 全周。上幅17~27cm、深さ5cm程度。**床** 平坦。**ピット** 2か所。P1 (30×23, -25cm) P2 (36×30, -32cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長、幅とも1m程度。攪乱のため詳細は不明。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片 (甕, 坏, 平鉢) 830点。須恵器片 (坏, 盤) 14点。鉄製品 (器種不明) 1点。遺構内全体に散乱した状態で出土している。

**備考** トレンチャーによる攪乱が床面まで達し、遺存状態は良くない。貼床下の掘り方は、中央部を残し、周辺部が深く掘り窪められている。



A 26.8m

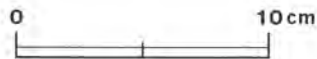
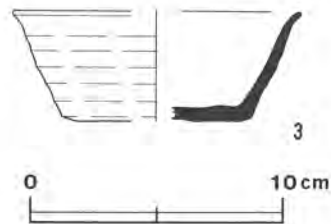
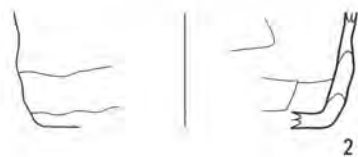
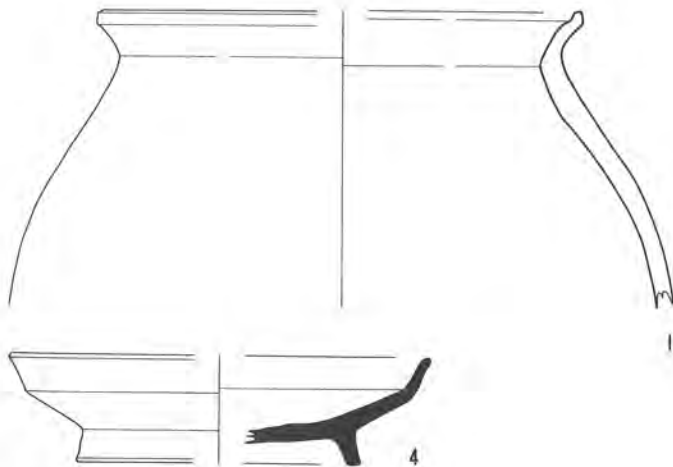


B



土層解説表

- 1. 暗褐色 ローム粒子多量 しまり弱い
- 2. 暗褐色 ローム粒子中量
- 3. 暗褐色 ローム粒子中量 硬くしまる



第11図 第3号住居跡・出土遺物実測図

## 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	甕 土師器	A (14.2) B (11.8)	丸く張った胴部から頸部は外反し、口縁部は外上方へ開く。口縁部は上方へ屈曲し、口唇部は丸くおさまられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のへらナデ。外面、縦位のへら磨き。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	10% P6 北東コーナー付 近床面直上
2	平鉢 土師器	B (4.6) C (11.4)	平底。体部はわずかに外傾して立ち上がる。	体部内面、横位のナデ。外面、ナデ。外面に輪積み痕を明瞭に残す。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P8 南西コーナー付 近床面
3	坏 須恵器	A (11.4) B 4.4 C (6.6)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 灰黄色 普通	30% P10 北東部床面直上 PL52
4	盤 須恵器	A (16.7) B 4.3 D (11.3) G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はほぼ直線的に立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰黄色 普通	35% P9 南東コーナー付 近覆土下層

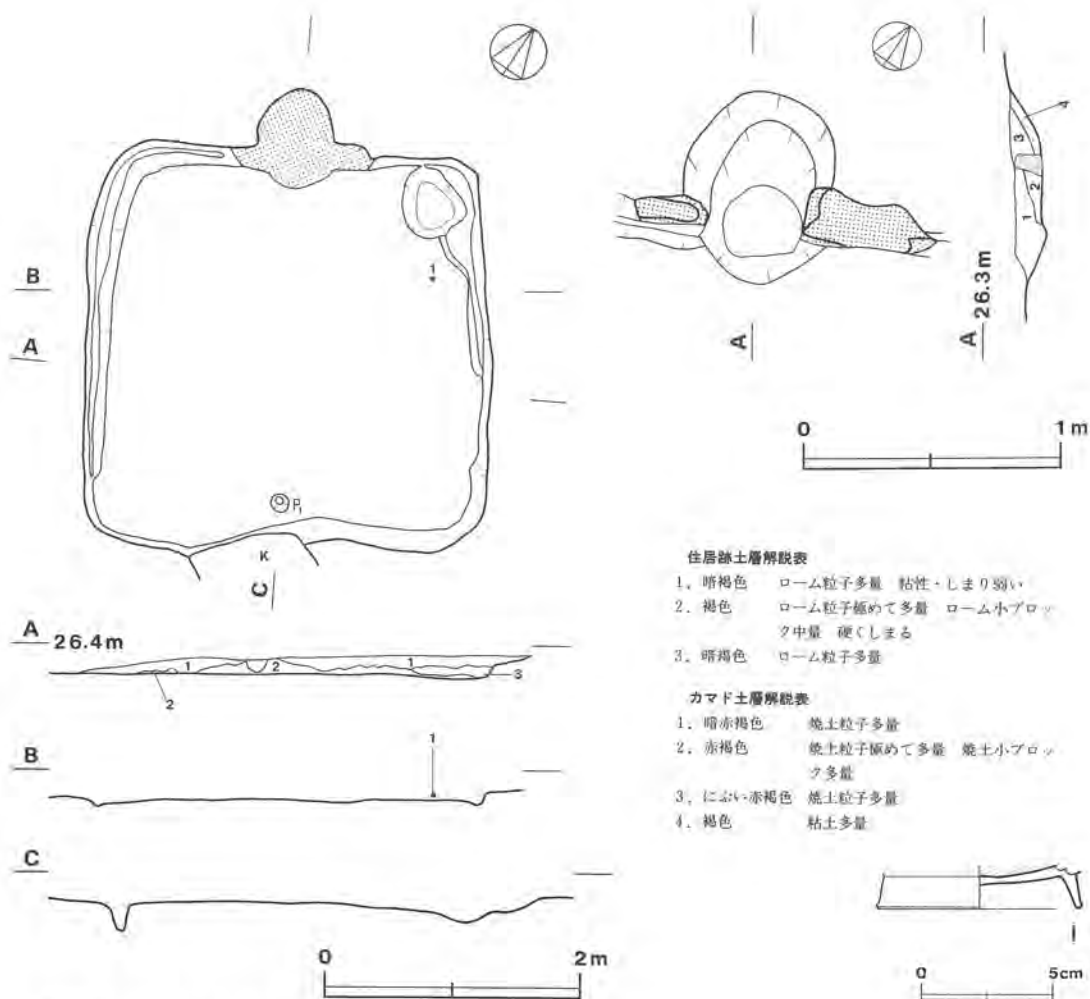
### 第4号住居跡（第12図）

**位置** G4a1区。**平面形** 方形。**規模** 3.28×3.19m。**主軸方向** N-32°-W。**壁** 外傾。壁高5～15cm。**壁溝** 西・北・東壁際に検出。上幅14～26cm、深さ3～4cm。**床** ほぼ平坦。北東コーナー付近が若干円形に窪む。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長77cm、幅115cm、煙道部の壁面への掘り込みは約45cm。火床は床面より10cm程深く掘り窪められている。火床中央部に凝灰岩製の支脚が立った状態で出土している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏，高台付坏）41点。須恵器片（坏）3点。主に北部の床面から覆土下層にかけて出土している

## 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	高台付坏 土師器	D 8.0 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	ロクロ整形。底部、回転へら削り後、高台貼り付け。内面、へら磨き、黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	20% P11 北東部床面直上



第12図 第4号住居跡・カマド・出土遺物実測図

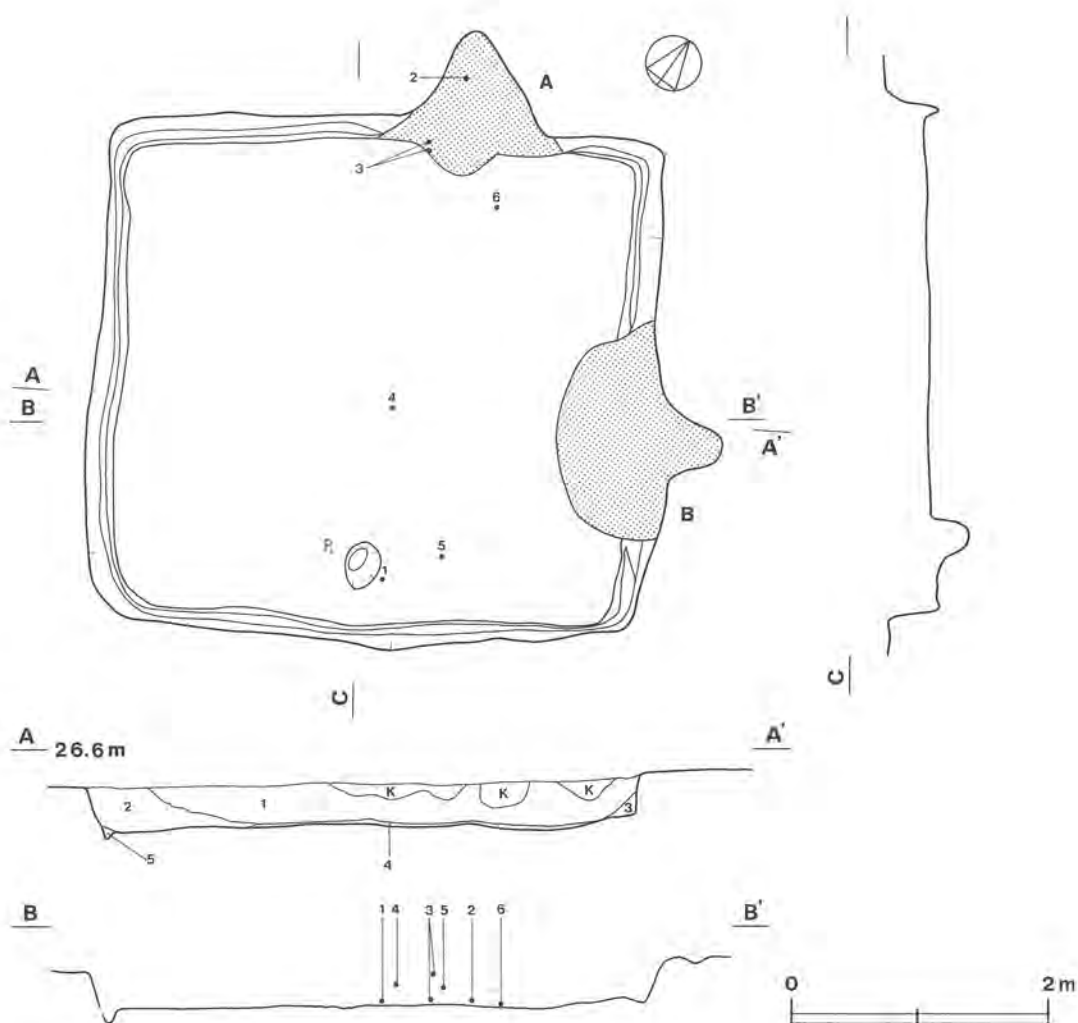
第5号住居跡 (第13図)

**位置** G4c4区。平面形 方形。規模 4.58×4.25m。主軸方向 N-32°-W。壁 外傾。壁高 30~38cm。壁溝 全周。上幅6~25cm, 深さ2~10cm。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(40×37, -31cm) **カマドA** 北西壁東寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長115cm, 幅137cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は, 床面より10cm程深く掘り窪められている。遺存状態は良好で, 燃焼部からは赤く焼けた粘土の側壁も検出されている。 **カマドB** 北東壁南寄り。粘土で構築。全長135cm, 幅110cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。表面が粘土で貼り固められており, 廃棄された状態で検出されている。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片 (甕, 坏) 447点。須恵器片 (甕, 坏, 高台付坏, 盤, 蓋) 50点。鉄滓1点。第

15図3の坏は、カマドA焚き口付近の床面直上から斜位で出土している。その他はいずれも小破片で住居跡全体に散らばって出土している。

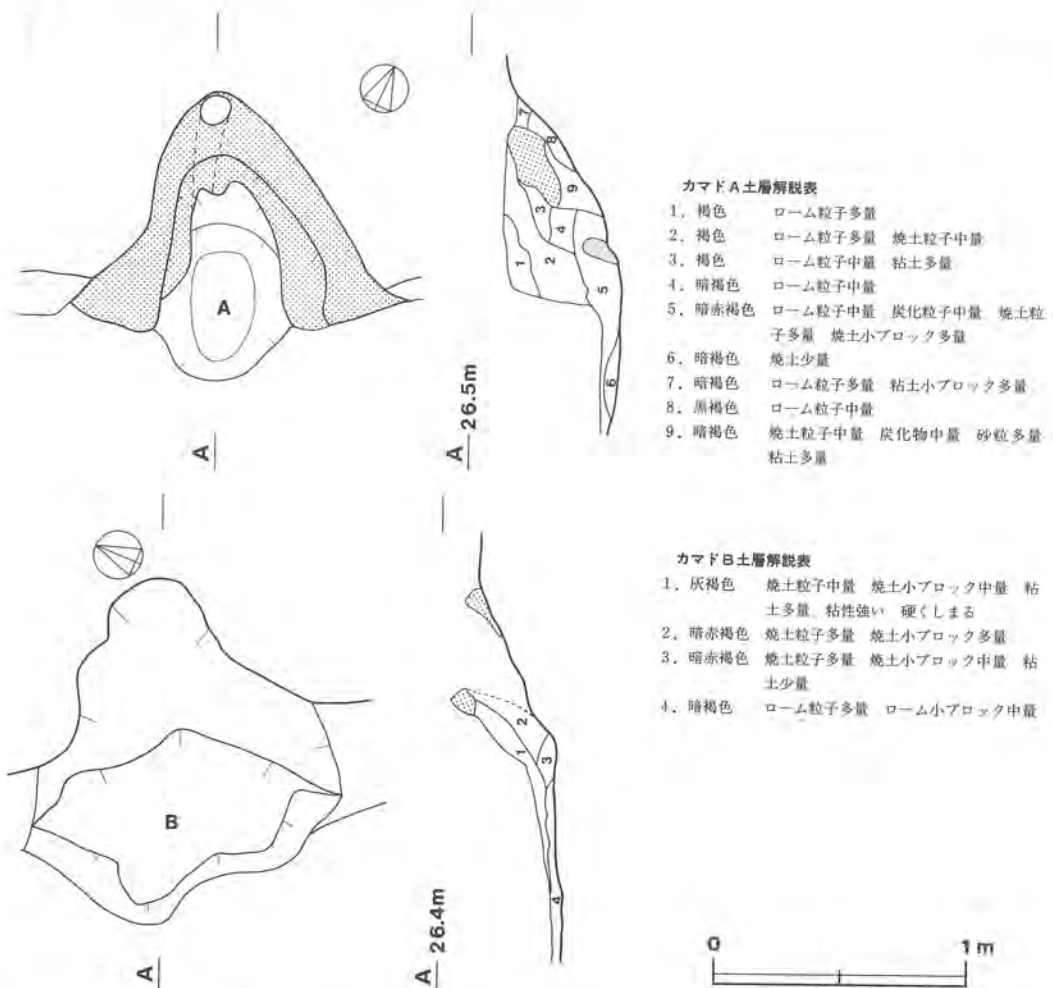
備考 本跡は、カマドの作り換えが確認された点で注目される遺構である。また、貼床について調査したところ、床はロームを主体とした土で固められ、掘り方はSI-3と同様に、中央部を平坦に高く残し、周辺部は深く掘り窪められていた。



土層解説表

- |        |            |                |
|--------|------------|----------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子多量    | ローム小ブロック多量     |
| 2. 暗褐色 | ローム粒子極めて多量 | ローム小ブロック多量     |
| 3. 褐色  | ローム粒子中量    | 焼土粒子中量 粘土極めて多量 |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子多量    | 硬くしまる          |
| 5. 黒褐色 | ローム粒子多量    | しまり弱い          |

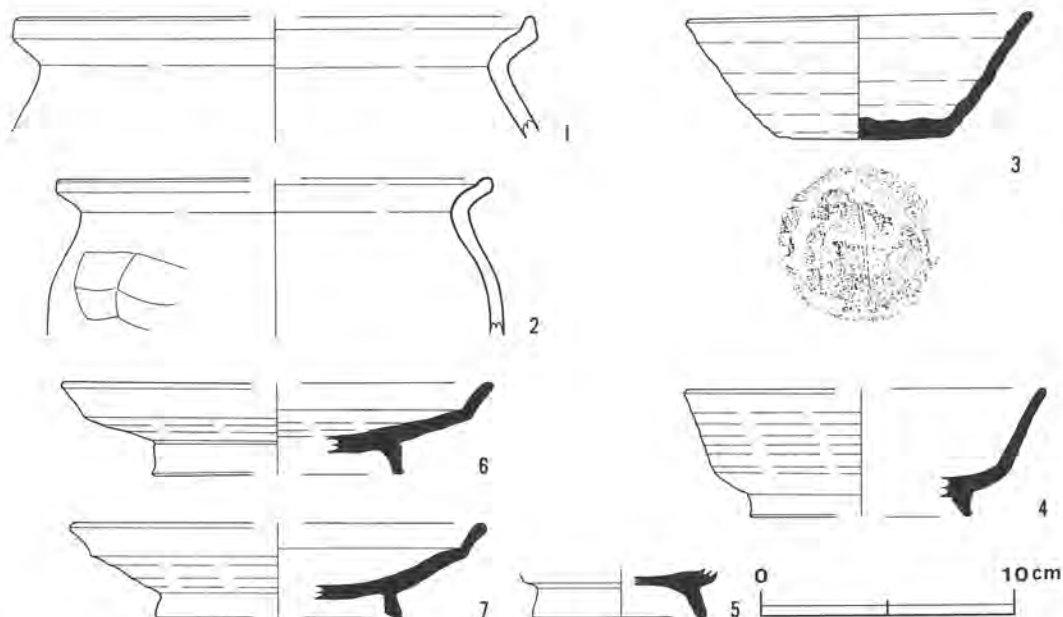
第13図 第5号住居跡実測図



第14図 第5号住居跡カマドA・B実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	甕 土師器	A (20.8) B [4.8]	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 におい橙色 普通	5% P12 南部床面
2	小型甕 土師器	A (17.3) B [6.3]	丸く張った胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、短い口縁部が付く。口縁端部は極く短く直立し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。 胴部内面、横位のナデ。外面、ナデか(磨減)。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	5% P13 カマド覆土
3	坏 須恵器	A 13.7 B 5.1 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り。	砂粒 灰白色 良好	70% P20 カマド前床面直上 ヘラ記号 PL52



第15図 第5号住居跡出土遺物実測図

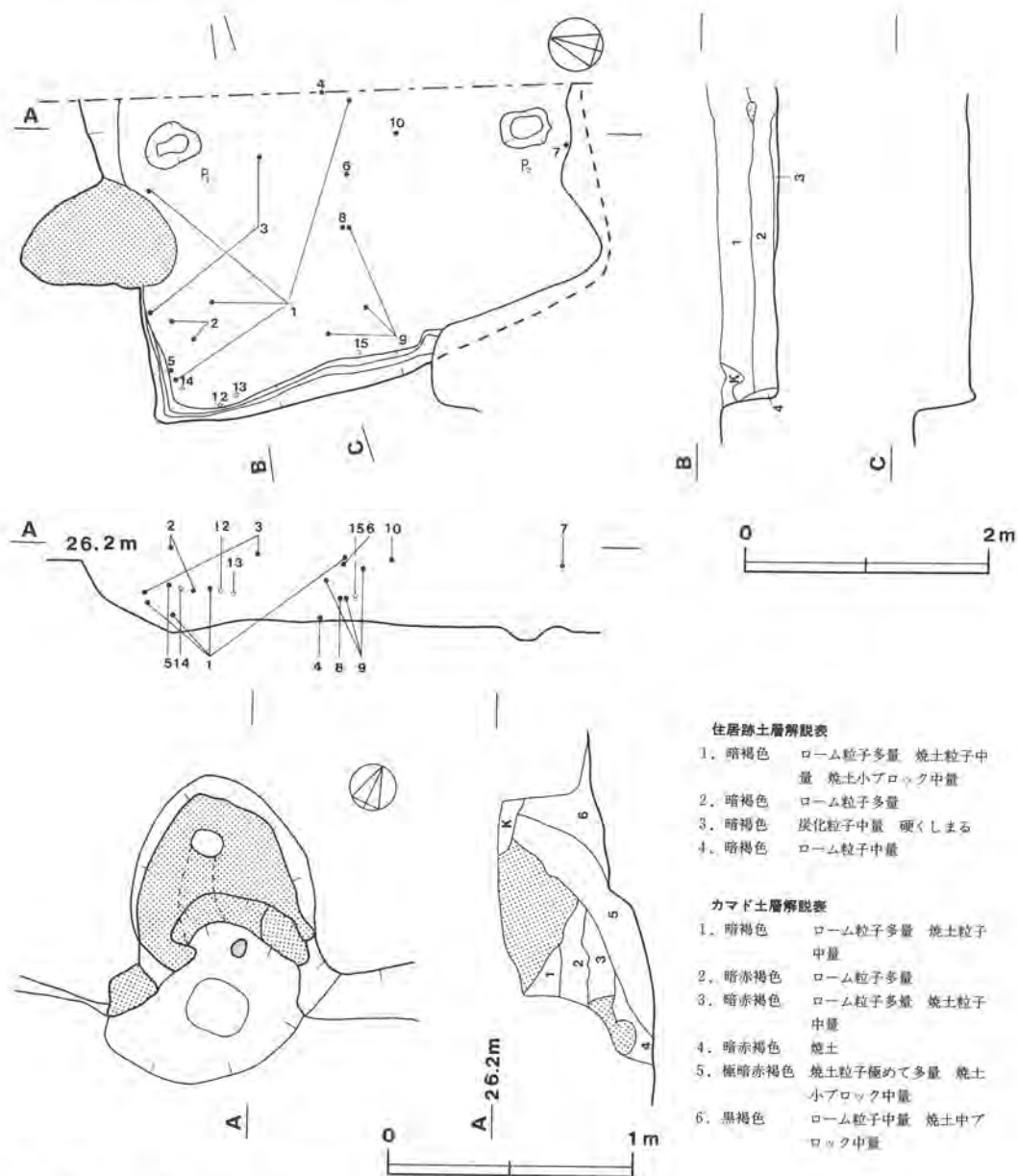
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 4	高台付 須恵器	A (14.3) B 5.1 D ( 8.8) G 0.9	平底。ほぼ直立する高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部の調整は不明。	砂粒 灰白色 普通	20% P17 中央部覆土下層
	高台付 須恵器	D ( 6.8) G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	10% P18 南部覆土下層
	盤 須恵器	A (17.1) B 3.7 D ( 9.9) G 1.4	平底。わずかに外側へ開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反し、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	20% P16 北東部床面直上
	盤 須恵器	A (16.2) B 3.8 D ( 9.8)	底部は平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はほぼ直線的に立ち上がる。口縁部は軽く外反し、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰黄色 普通	40% P15 南東部貼床下

第6号住居跡 (第16図)

**位置** G4j6区。**重複関係** SI-7・8より新しい。**平面形** 方形,あるいは長方形。規模 3.80×(2.78)m。**主軸方向** N-24°-W。**壁** 直立。壁高45cm。**壁溝** 北・西壁際に検出。上幅10~27cm,深さ6cm。**床** 平坦。**ピット** 2か所。P1 (44×34, -10cm) P2 (40×30, -15cm) **カマド** 北壁中央(方形の住居跡なら,若干西寄りか)。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長

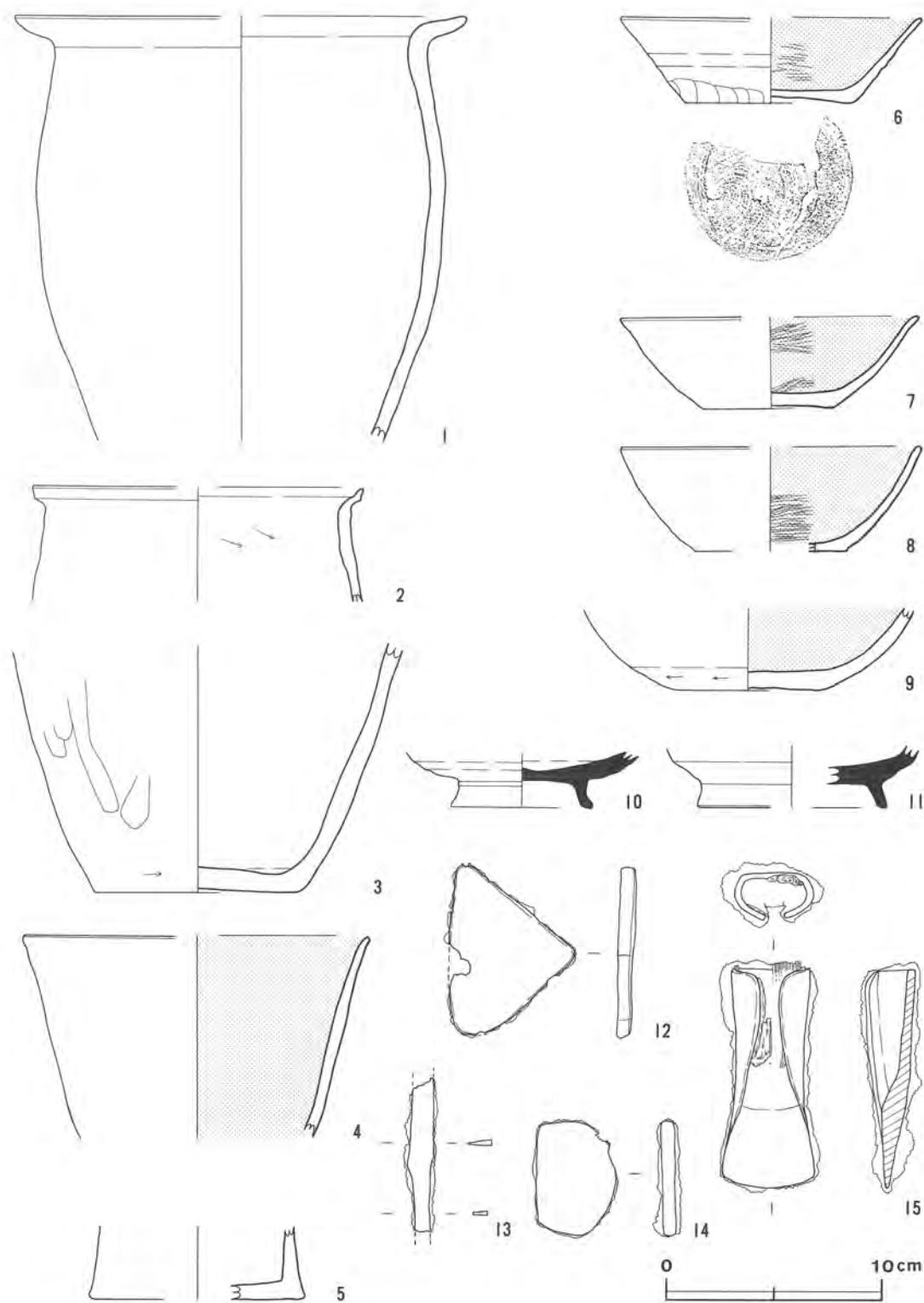
127cm, 幅80cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 高台付坏, 鉢, 甑) 599点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 甑) 75点。砥石 2点。鉄製品(斧1, 刀子1, 板状鉄製品2) 4点。いずれも破片で, 床面から覆土上層にかけて, 住居跡全体から出土している。



第16図 第6号住居跡・カマド実測図





第17图 第6号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

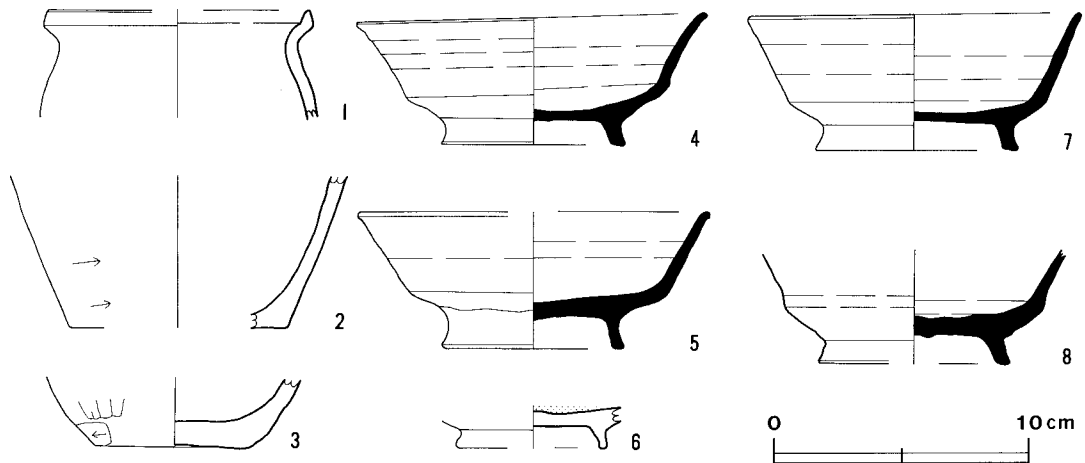
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	甕 土師器	A (20.9) B (19.8)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部は「く」の字状に大きく屈曲し、口縁部は外方へ開く。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、縦位のヘラナデ。外面、ナデか。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	35% P23 中央・北部の覆土中・上層
2	甕 土師器	A (15.4) B (5.3)	胴部上位はわずかに内傾して立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	15% P25 北部覆土中層
3	甕 土師器	B (11.5) C 9.5	平底。胴部は軽く内彎しながら外傾して立ち上がる。	胴部外面、縦位のヘラ削り。下端部は横位のヘラ削り。内面ナデ。底部、外周部を除いて、ていねいなナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	20% P26 北部覆土中層
4	鉢 土師器	A (16.2) B (9.4)	胴部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口唇部は丸い。	ロクロ整形。 胴部内面、ヘラ磨き、黒色処理。外面、部分的に斜位のナデがみられる	砂粒・雲母・スコリア にふい橙色 普通	10% P29 中央部床面
5	平鉢 土師器	B (3.4) C (10.0)	平底。胴部は直立し、下端部は外方へ軽くつまみ出される。	胴部外面、粗いナデ。内面、横位のヘラナデ。底部、無調整。	砂粒・長石・スコリア にふい橙色 普通	5% P27 北部覆土中層
6	坏 土師器	A (13.5) B 4.1 C (7.8)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転糸切り後、外周部回転ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	60% P32 中央部覆土上層 PL49
7	坏 土師器	A (13.8) B 4.2 C 6.1	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、体部下位、回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	30% P34 北東部覆土
8	坏 土師器	A (13.8) B 4.9 C (7.0)	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口唇部は丸味をもつ。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、体部下位、回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	40% P33 中央部覆土中層 PL49
9	坏 土師器	B (3.8) C (6.6)	平底。体部はゆるやかに内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、体部下端付近回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア 浅黄色 普通	40% P36 西部覆土中・上層
10	高台付坏 須恵器	B (2.5) D 6.5 G 1.3	平底。外側へふんばる高台が付く。	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒 灰黄色 普通	20% P37 中央部覆土上層
11	高台付坏 須恵器	B (2.9) D (8.8) G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広い面を成す。	底部調整不明。	砂粒 灰色 普通	10% P39 北西部覆土

図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
12	板状鉄製品	全長7.8 最大幅5.9 最大厚0.8	器面がわずかに彎曲する。北東部覆土中層土。M4
13	刀 子	全長〔7.3〕 最大幅1.2 最大厚0.3	刀身、及び茎の一部を欠損。北東部覆土中層出土。M3
14	板状鉄製品	全長5.3 最大幅3.7 最大厚0.6	北東部覆土中層出土。M5
15	斧	全長10.2 刃部幅4.2 基部幅3.7 基部厚2.2	有袋式。袋部に木質付着。西壁際覆土中層出土。PL61・M2

### 第7号住居跡（第19図）

**位置** G4is区。**重複関係** SI-6より古い。**平面形** 長方形。**規模** 3.56×3.18m。**主軸方向** N—9°—W。**壁** 直立。壁高26～40cm。**壁溝** 全周。上幅14～18cm、深さ4～8cm。**床** 平坦。中央部に上端径120～130cm、深さ30cm程度の円形の落ち込みがある。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長140cm、幅115cm、煙道部の壁面への掘り込みは約85cm。火床は床面より10cm程度深く掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

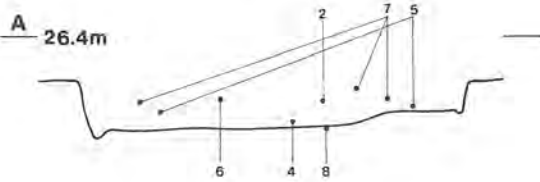
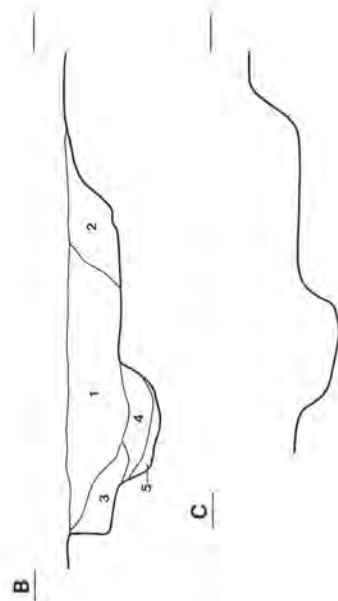
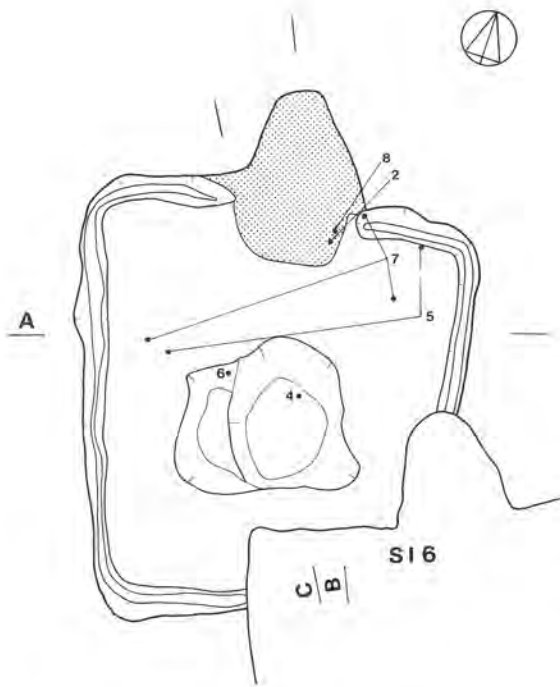
**遺物** 土師器片（甕，坏，高台付坏）241点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，蓋）71点。カマド付近及び中央部を中心に、大半は覆土から出土している。



第18図 第7号住居跡出土遺物実測図

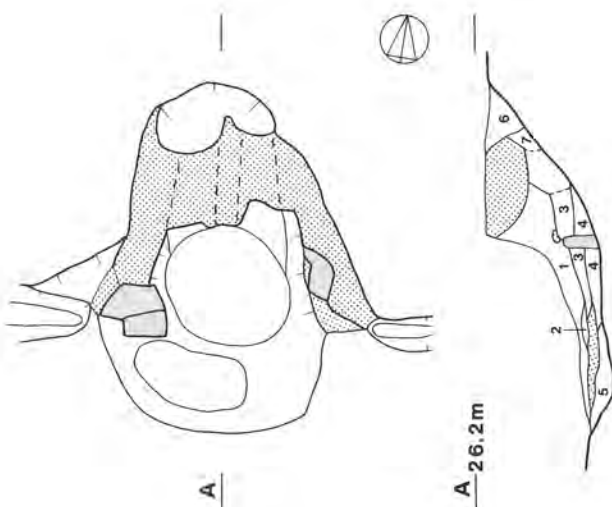
### 出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 1	小型甕 土師器	A (10.4) B〔4.3〕	やや丸味のある胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のナデ。外面、不明。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P42 覆土
2	甕 土師器	B〔6.1〕 C〔8.5〕	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部下位、横位のヘラ削り。内面、横位のヘラナデ。底部、木葉痕。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	5% P43 覆土



住居跡土層解説表

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 1. 黒褐色 | ローム粒子多量             |
| 2. 黒褐色 | ローム粒子多量 焼土粒子中量 粘土中量 |
| 3. 暗褐色 | ローム粒子多量             |
| 4. 黒褐色 | ローム粒子多量             |
| 5. 褐色  | ローム粒子極めて多量          |



カマド土層解説表

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1. 極暗赤褐色 | ローム粒子多量 炭化粒子中量 焼土粒子中量 |
| 2. 赤褐色   | 焼土                    |
| 3. 暗赤褐色  | 焼土粒子多量                |
| 4. 暗赤褐色  | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量      |
| 5. 黒褐色   | 炭化粒子極めて多量 焼土粒子多量      |
| 6. 暗褐色   |                       |
| 7. 暗褐色   | ローム粒子中量               |



第19図 第7号住居跡・カマド実測図

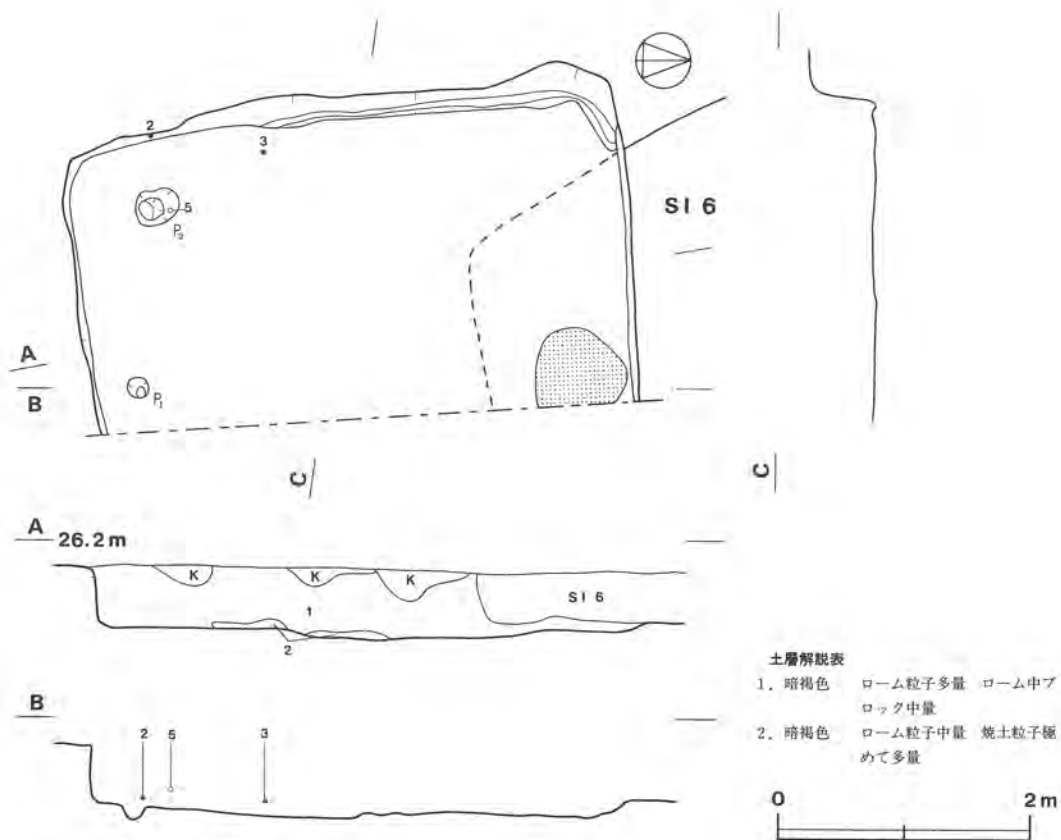
図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 3	甕 土 師 器	B ( 2.8) C 6.1	平底。胴部は、外傾して立ち上がる。	胴部下端付近、縦位のへら削り後、横位のナデ。内面、へらナデ。	砂粒・雲母 にふい褐色 普通	5% P44 覆土
4	高台付坏 須 惠 器	A 14.0 B 5.3 D 7.4 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は軽く外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 良好	70% P48 中央部床面直上 斜位 PL55
5	高台付坏 須 惠 器	A (14.0) B 5.5 D 7.2 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、ナデ、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰黄色 普通	50% P49 北東部・西部覆 土下層
6	高台付坏 土 師 器	D ( 6.0) G 0.8	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	ロクロ整形。内面、へら磨き、黒色処理。底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	10% P45 中央部床面直上
7	高台付坏 須 惠 器	A 13.1 B 5.5 D 8.0 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 良好	90% P47 カマド付近・西 部覆土中層 PL55
8	高台付坏 須 惠 器	B ( 4.6) D ( 7.6) G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	20% P50 カマド内覆土

### 第 8 号住居跡 (第20図)

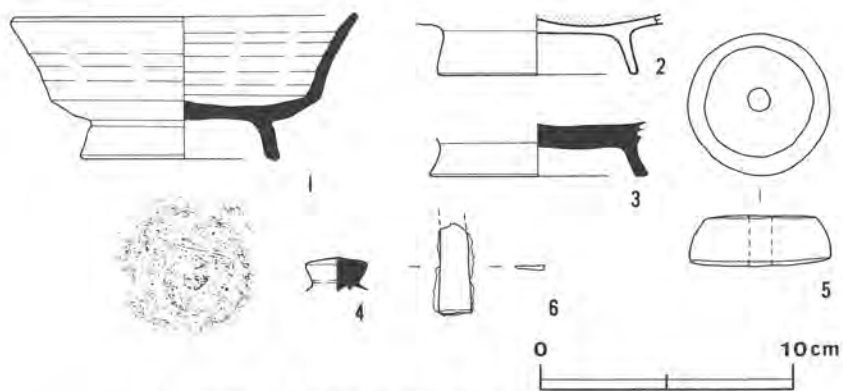
**位置** G4j6区。**重複関係** SI-6より古い。**平面形** 方形。**規模** 4.47×(2.48)m。**主軸方向** N-4°-W。**壁** 直立。壁高44~48cm。**壁溝** 西壁際に検出。上幅7cm、深さ4cm。**床** 平坦。**ピット** 2か所。P1 (17×15, -12cm) P2 (38×28, -12cm) **カマド** 北壁中央。構築材は粘土と凝灰岩(床面上に散乱)。規模、形状等不明。SI-6構築時に破壊され、火床(焼土化したローム、床面とほぼ同じ高さ)のみが確認される。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 高台付坏) 49点。須惠器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋) 105点。砥石 1点。鉄製品(刀子) 1点。土製紡錘車 1点。床面から覆土上層にかけて、住居跡全体に散らばった状態で出土している。

**備考** 3軒重複(SI-6~8)の中で、最大規模の住居跡である。本跡の北側部分に、SI-6の貼床が検出される。



第20図 第8号住居跡実測図



第21図 第8号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	高台付坏 須恵器	A 13.8 B 5.8 D 7.9 G 1.5	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 青灰色 普通	60% P56 北西部覆土 ヘラ記号 PL55

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第21図 2	高台付坏 土師器	B〔2.4〕 D 8.0 G 1.6	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・パミス 浅黄橙色 普通	20% P54 南西コーナー付 近覆土下層
3	高台付坏 須恵器	B〔2.1〕 D 8.7 G 1.2	「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。中央部、ナデ。	砂粒 灰色 普通	20% P57 西壁際覆土下層
4	蓋 須恵器	F 2.5 H 1.0	つまみ。擬宝珠形。		砂粒 灰黄色 普通	5% P58 北東部覆土

図版番号	種 類	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備 考
5	土製紡錘車	5.7 × 5.6 × 2.0	71.6	孔径0.9cm。南西部覆土下層出土。PL59・DP2

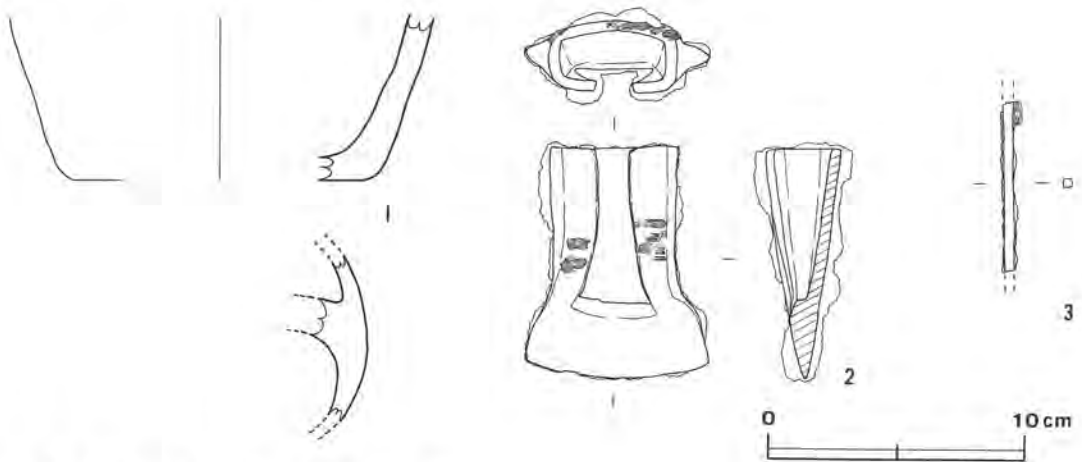
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
6	刀 子	全長〔3.7〕 最大幅1.3 最大厚0.2	刀身の一部。覆土出土。PL61 M6

第9号住居跡 (第23図)

位置 H4c6区。平面形 長方形。規模 5.46×4.12m(推定)。主軸方向 N-7°-W。壁 直立。壁高40~48cm。壁溝 北・東壁際に検出。上幅15~24cm, 深さ9cm。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁西寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長95cm, 幅90cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。覆土 人為堆積。覆土中に炭化物が点在している。

遺物 土師器片(甕, 坏, 甑) 70点。須恵器片(甕, 坏) 8点。鉄製品(斧1, 鋏1) 2点。土器は大半が覆土から小破片で出土。第22図2の鉄斧は北東部床面から出土している。土師器坏の中には墨書が1点含まれるが, 小片のため判読は不可能である。

備考 第一年次に北東部, 第二年次に南西部を調査。遺構の主要部は調査区域外のための詳細は不明である。

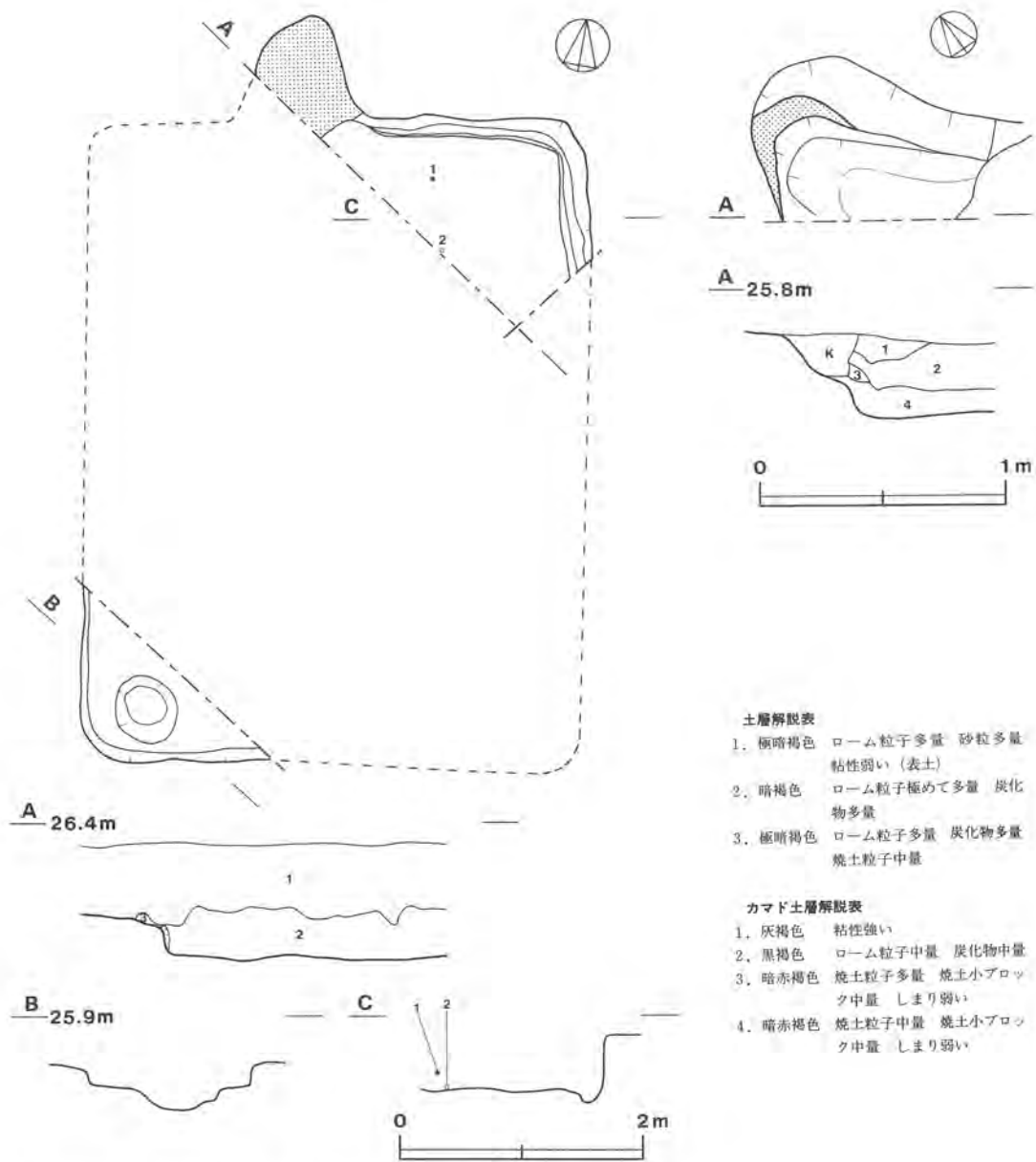


第22図 第9号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	甕 土師器	B [6.6] C 12.2	多孔式	胴部内・外面, ナデ。	砂粒・雲母・バ ミス 橙色 普通	5% P62 北東部覆土下層
図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
2	斧	全長9.2	刃部幅7.3 基部幅5.1 基部厚3.0	有袋式。袋部に木質付着。北東部床面出土。PL61・M7		
3	鋏	全長 [6.8]	最大幅0.4 最大厚0.4	基部破片。南西コーナー付近覆土出土。PL61・M8		





第23図 第9号住居跡・カマド実測図

#### 第10号住居跡（第24図）

**位置** G4i4区。**重複関係** SI-11, SX-1より古い。**平面形** 方形。**規模** 3.70×〔3.20〕m。**主軸方向** N-27°-W。**壁** 外傾。壁高30～36cm。**壁溝** 南壁際に検出。上幅25～36cm, 深さ3cm。**床** ゆるい起伏。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長105cm, 幅70cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約45cm。大きく攪乱され, 遺存状態は良くない。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片（甕, 坏）486点。須恵器片（甕, 坏）41点。鉄製品（板状鉄製品）1点。中央部から西部の床面及び覆土下層に出土している。

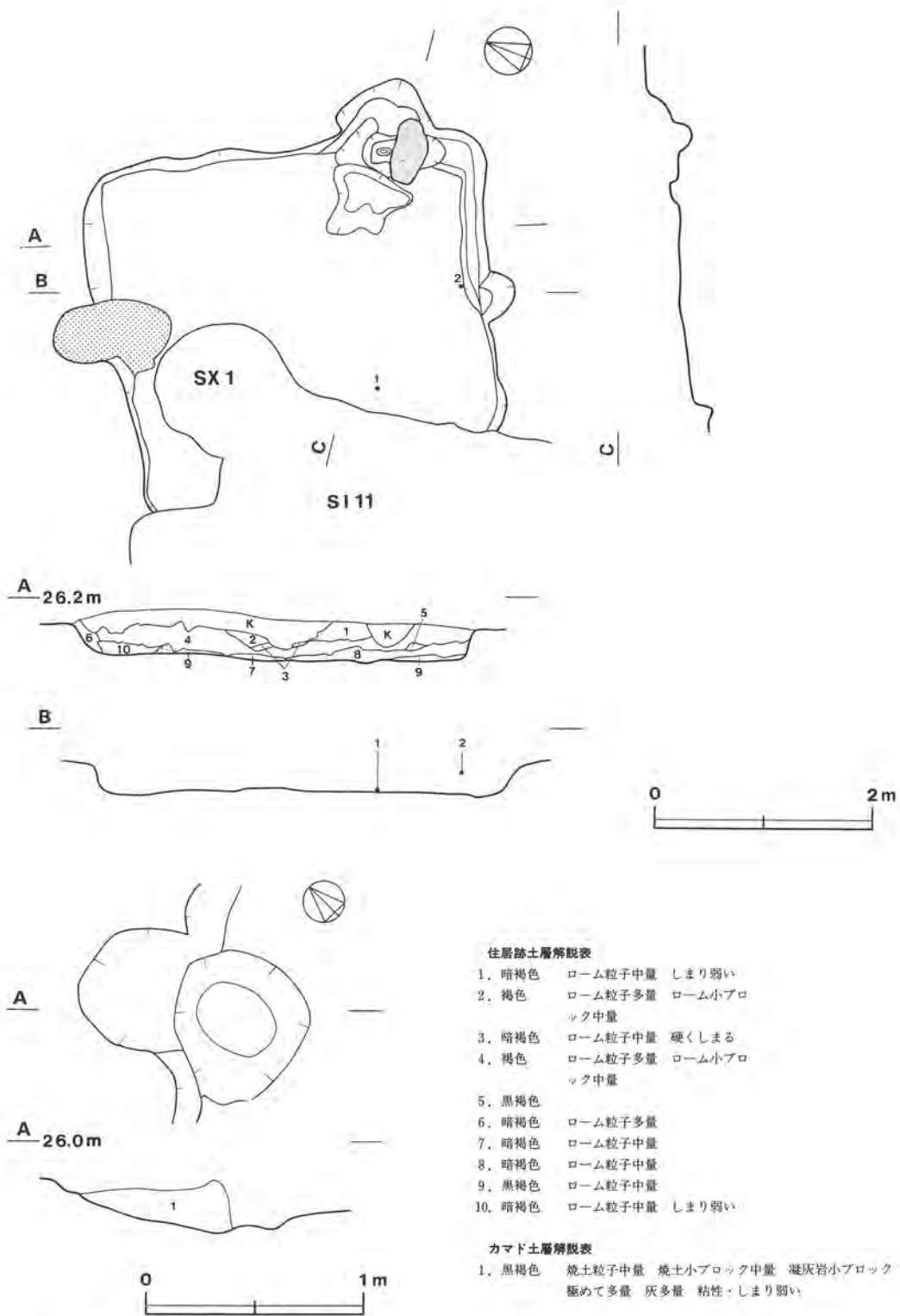
**所見** 東壁南寄りの壁面に, 幅95cm, 奥行45cm程の三角形の掘り込みが検出された。壁際が15cm程掘り窪められており, 一見カマドの掘り方に似た形状を示す。上部に凝灰岩の切石（58.0×25.0×8.5cm）をのせており, また, この前面の床面より若干高まり, 硬く踏み締められていることから, 入り口の施設という見方もできるが, 現時点では, その性格を特定することはできない。

#### 第11号住居跡（第25図）

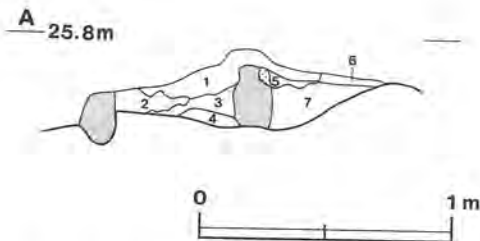
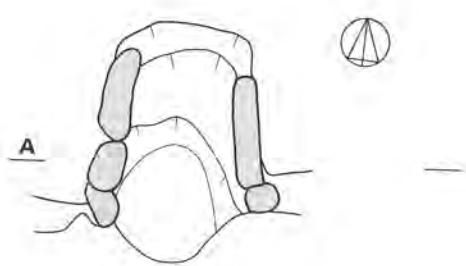
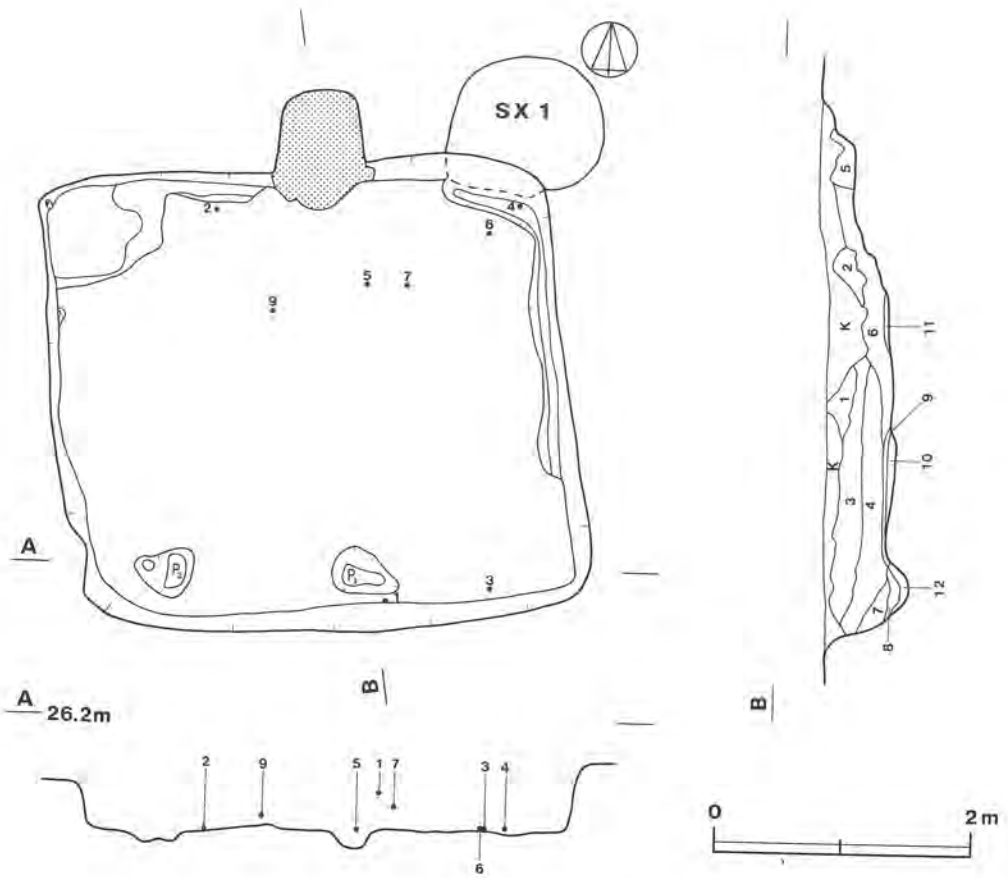
**位置** G4j3区。**重複関係** SI-10・12, SX-1より新しい。**平面形** 方形。**規模** 4.06×3.75m。**主軸方向** N-6°-W。**壁** 外傾。壁高42～57cm。**壁溝** 東壁際に検出。上幅14～30cm, 深さ4cm。**床** 平坦。**ピット** 2か所。P1（52×36, -20cm） P2（46×40, -14cm） **カマド** 北壁中央。粘土で構築。焼き口部から側壁にかけて凝灰岩を使用。右壁部分（奥行53cm, 幅10cm, 高さ26cm）, 左壁部分（奥行72cm, 幅10cm, 高さ28cm）, 左右壁間40～48cm。全長96cm, 幅77cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は床面とほぼ同じ高さで, 灰が厚く（層厚5～6cm）堆積している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕, 坏, 高台付坏）1,248点。須恵器片（甕, 坏, 高台付坏, 盤, 壺）128点。第27図4の長頸壺と6の高台付坏は, いずれも北東コーナー付近から並んで出土している。その他は小破片がほとんどで, 全体に散乱した状態で出土している。

**所見** カマドが, SI-12の軟かい覆土を切って構築されたので, 壁面を補強するために凝灰岩を使用したものと思われる。



第24図 第10号住居跡・カマド実測図



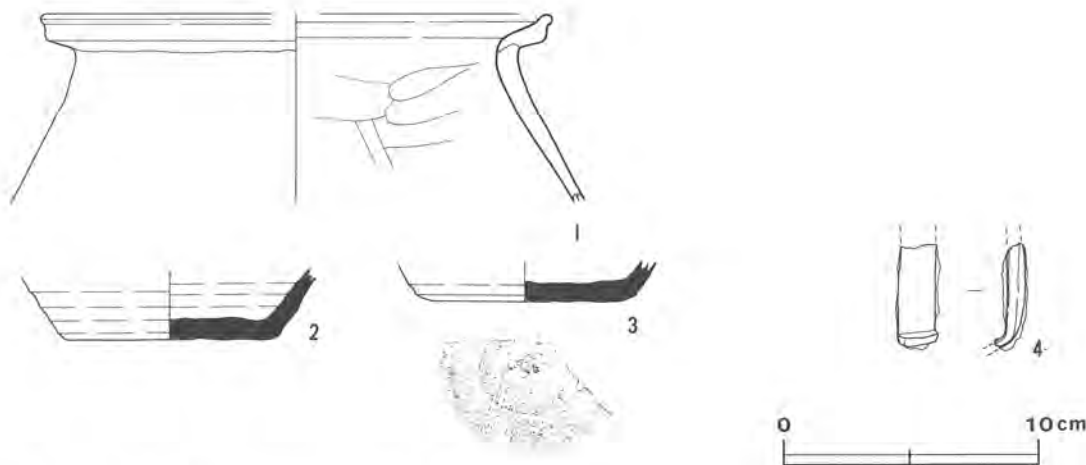
住居跡土層解説表

- |         |         |                   |
|---------|---------|-------------------|
| 1. 暗褐色  | ローム粒子中量 |                   |
| 2. 暗褐色  | ローム粒子中量 |                   |
| 3. 暗褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 焼土粒子中量 |
| 4. 暗褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量        |
| 5. 暗赤褐色 | ローム粒子中量 | 焼土粒子中量            |
| 6. 暗褐色  | ローム粒子中量 |                   |
| 7. 黒褐色  | ローム粒子中量 |                   |
| 8. 暗褐色  | ローム粒子多量 |                   |
| 9. 黒褐色  | ローム粒子中量 | 炭化粒子中量 しまり弱い      |
| 10. 暗褐色 | ローム粒子中量 | ローム小ブロック中量 硬くしまる  |
| 11. 暗褐色 | ローム粒子中量 | 硬くしまる             |
| 12. 黒褐色 | ローム粒子中量 | しまり弱い             |

カマド土層解説表

- |           |          |                |
|-----------|----------|----------------|
| 1. 褐色     | 焼土粒子中量   | 粘土多量 凝灰岩ブロック多量 |
| 2. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量   | 粘性強く しまり弱い     |
| 3. 暗褐色    | 焼土粒子多量   | 粘性・しまり弱い       |
| 4. におい褐色  | 粘性・しまり弱い |                |
| 5. 暗褐色    | ローム粒子多量  | 焼土粒子中量         |
| 6. におい赤褐色 | 焼土粒子多量   | 粘性・しまり弱い       |
| 7. 明褐色    | ローム      |                |

第25図 第11号住居跡・カマド実測図



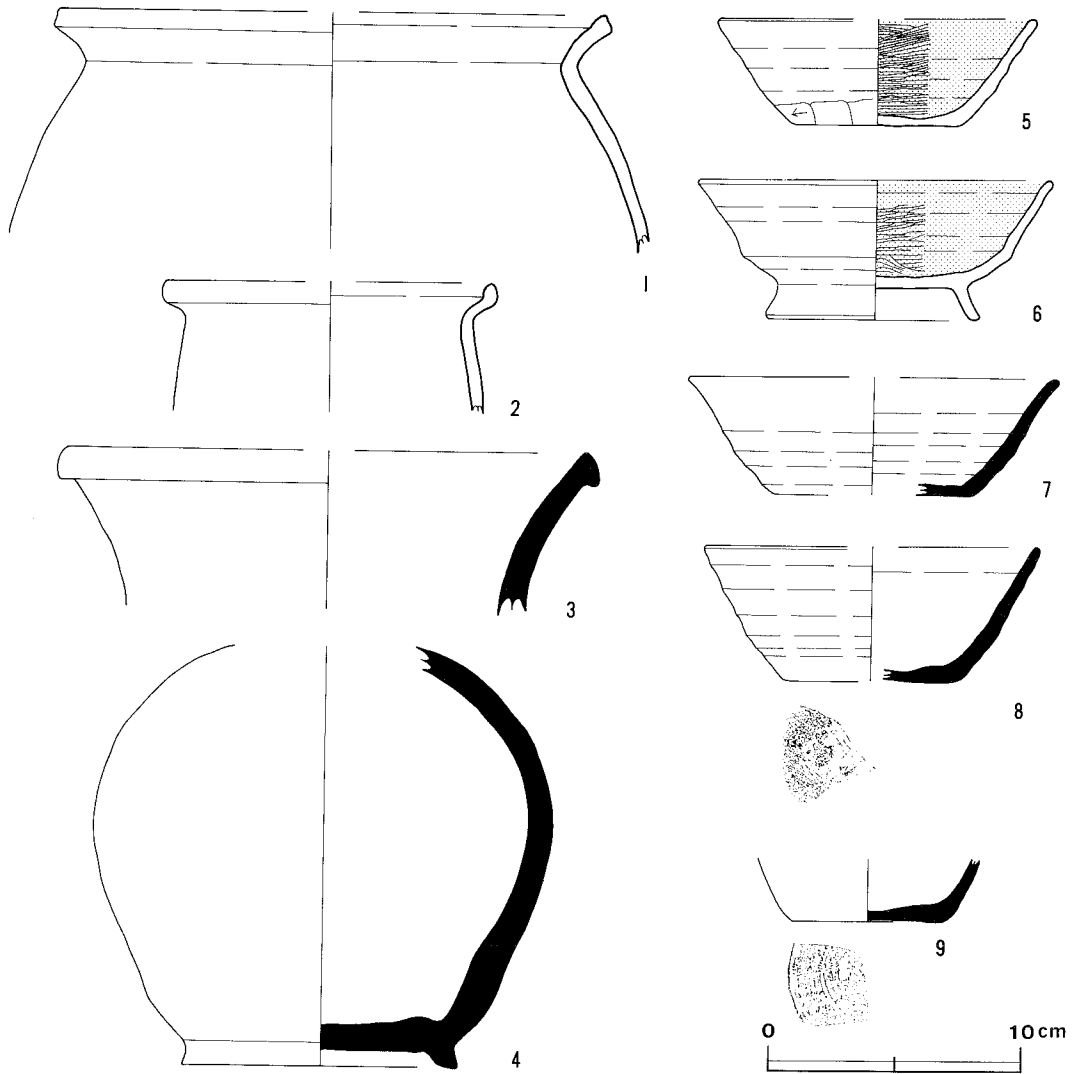
第26図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	甕 土師器	A (20.4) B [ 7.5]	頸部は強く屈曲し、口縁部は外方へ開く。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。頸部直下内面、横位のヘラナデ。頸部外面に、粘土のナデつけ痕。	砂粒 橙色 普通	5% P61 南西部床面直上
2	坏 須恵器	B [ 2.8] C ( 8.0)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	30% P63 南部覆土上層
3	坏 須恵器	B [ 1.6] C ( 7.6)	平底。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	10% P64 南西部覆土 ヘラ記号
図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
4	不明	全長 [4.1]	最大幅1.6 最大厚0.7	細長い板状を呈する。北西部覆土出土。PL61・M9		

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	甕 土師器	A (21.6) B [ 9.5]	頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられ、外面には内傾する面を成す。	口頸部内・外面、横ナデ。その他、ナデ。	砂粒・雲母・スゴリア にふい橙色 普通	5% P66 南部覆土中層
2	小型甕 土師器	A (13.0) B [ 5.2]	張りの弱い胴部から頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は上方へ屈曲し、口唇部は丸い。	口頸部及び胴部上位内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P67 北部床面直上
3	甕 須恵器	A (21.4) B [ 6.3]	口縁部片。外反しながら立ち上がり、口縁端部は下方へ突出する。		砂粒 にふい橙色 普通	5% P68 南東コーナー付 近覆土下層



第27図 第11号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 4	長頸壺 須恵器	B (16.7)	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。胴部は内彎しながら立ち上がり、中位よりやや上に最大径をもつ。口頸部欠損。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	40% P65 北東コーナー付 近覆土下層横位 PL51
		D 11.0				
		G 1.0				
5	坏 土師器	A (12.6)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、多方向のヘラ削り。体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	50% P69 カマド付近床面 直上 PL49
		B 4.3				
		C (6.6)				
6	高台付坏 土師器	A 14.2	平底。外側へふんばる高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 にぶい橙色 普通	80% P77 北東部床面 ヘラ記号 PL49
		B 5.6				
		D 8.4				
		G 1.4				

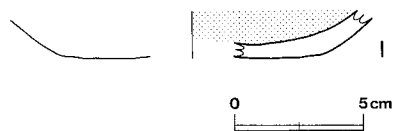
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 7	坏 須恵器	A (14.6) B 4.7 C (7.8)	平底。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がり、口縁部で軽く外反する。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 灰黄色 普通	30% P71 カマド付近覆土 中層 PL52
8	坏 須恵器	A (13.4) B 5.4 C (7.2)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 にふい赤褐色 普通	10% P72 カマド覆土 へら記号
9	坏 須恵器	B (2.5) C (6.0)	平底。体部下端付近は内彎気味に外傾して立ち上がる。	底部、回転へら削り。	砂粒 灰色 普通	10% P74 中央部覆土下層 へら記号

### 第12号住居跡（第29図）

**位置** G4j3区。**重複関係** SI-11より古い。**平面形** 方形。**規模** 3.69×3.66m。**主軸方向** N-26°-W。**壁** 直立。壁高25～34cm。**壁溝** 西壁際に検出。上幅15～22cm、深さ3cm。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長103cm、幅80cm、煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は、床面とほぼ同じ高さである。火床中央に支脚と思われる凝灰岩の痕跡が残る。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，高台付坏）171点。須恵器片（甕，坏，高台付坏）17点。砥石1点。カマド横の床面に須恵器甕の破片が出土している。大半が小片で、覆土から出土している。

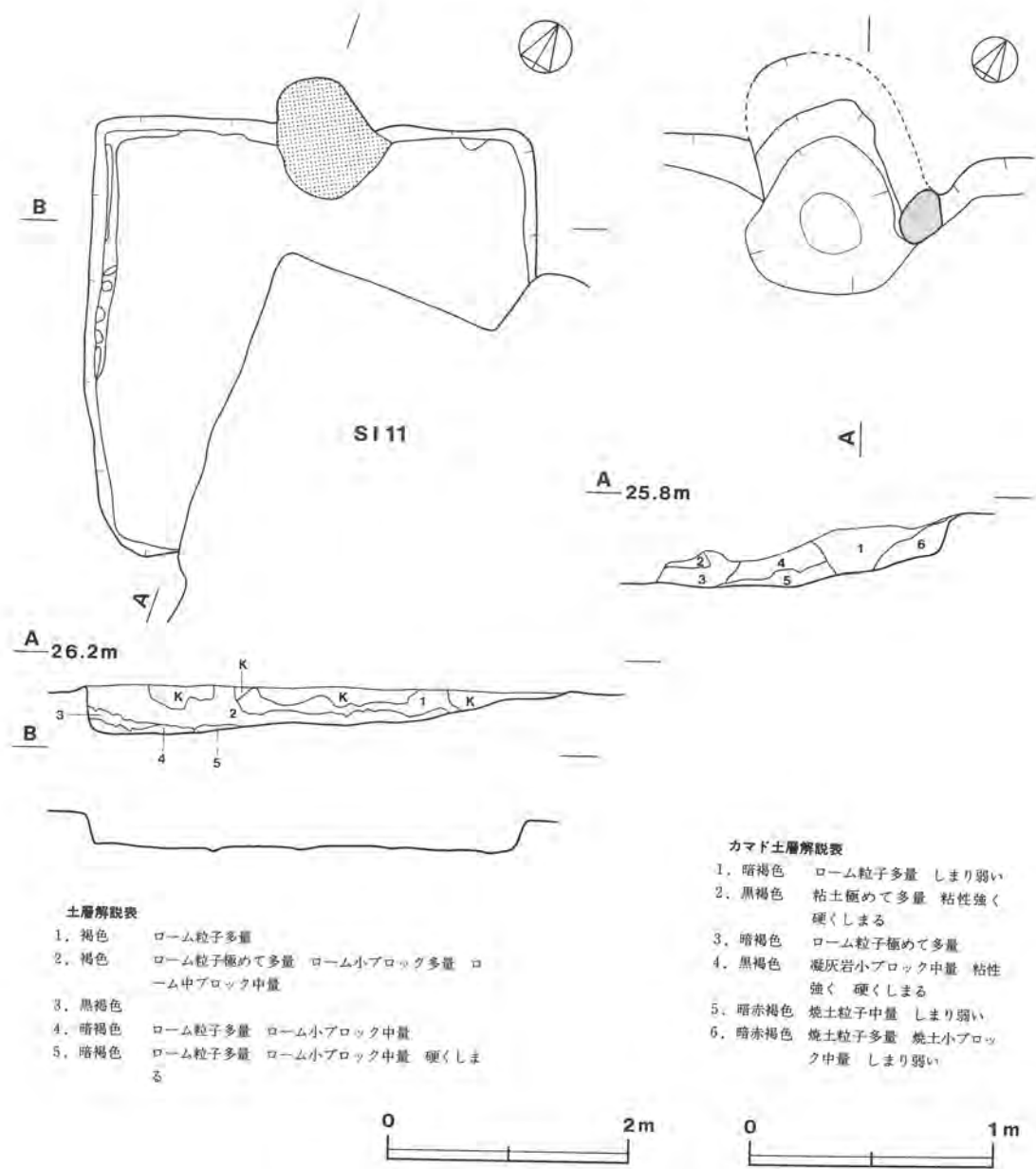
**備考** カマド前面（左側）の床が、周堤状にわずかに盛りあがっている。



第28図 第12号住居跡出土遺物実測図

### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	坏 土師器	B (1.9) C (10.2)	平底。体部下端は底部との境に鈍い稜をもち、内彎しながら立ち上がる。	内面、へら磨き、黒色処理。底部、多方向のへら削り。体部下端手持ちへら削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P78 南西部覆土



第29図 第12号住居跡・カマド実測図

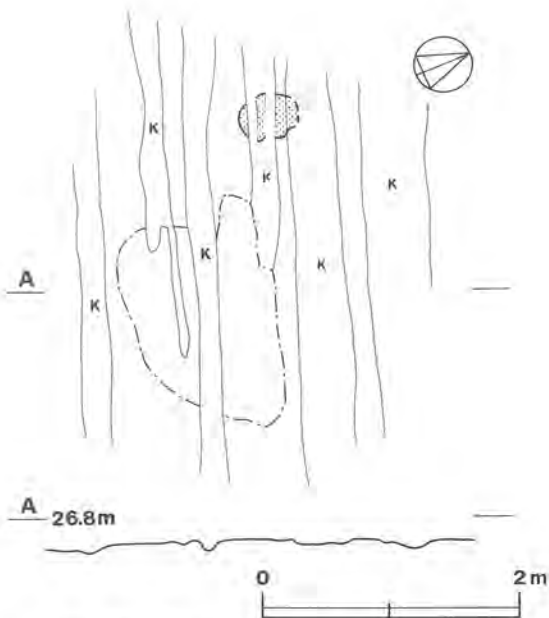


第13号住居跡 (第30図)

位置 F4d3区。平面形・規模・壁 不明。  
 床 硬く締まった床面の一部 (1.85×1.25m  
 の範囲) を検出。ピット 無。カマド 焼土  
 化した火床の一部 (径0.45×0.35m) のみを  
 検出。覆土 不明。

遺物 土師器片 (甕) 4点。いずれも小破片  
 で、床面、及び攪乱土層からの出土である。

所見 遺構確認の段階で、床面が露出して  
 いる。火床と硬い床面との位置関係からみて、  
 一辺3~3.5m程度で、N-35°-W前後の軸  
 方向をもつ住居跡と推測される。



第30図 第13号住居跡実測図

第14号住居跡 (第31図)

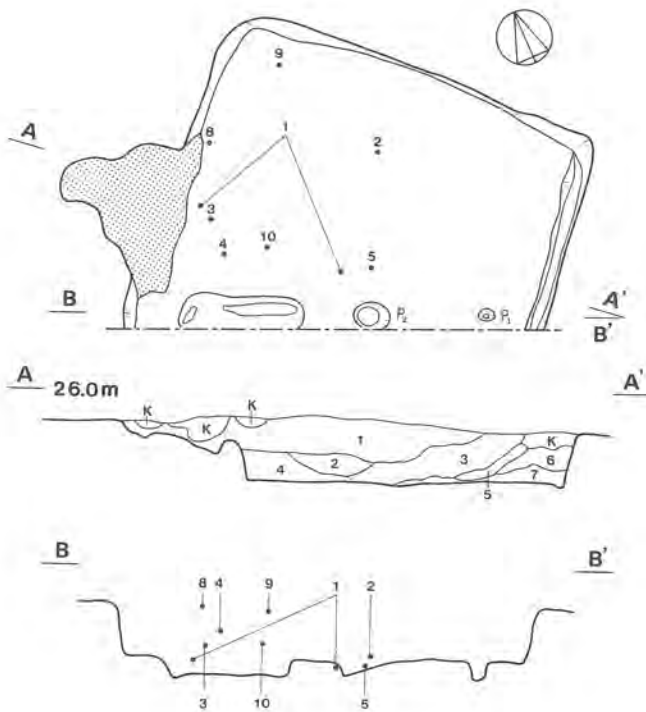
位置 G3h9区。平面形 方形。規模 3.10×[2.72]m。主軸方向 N-53°-W。壁 直立。壁  
 高44~62cm。壁溝 南東壁際に検出。上幅12~18cm、深さ2~5cm。床 平坦。ピット 2か所。  
 P1 (11×10, -17cm) P2 (28×22, -10cm) カマド 北西壁中央。粘土で構築。焚き口部に  
 凝灰岩を使用。全長112cm、幅138cm、煙道部の壁面への掘り込みは約75cm。火床は床面より10cm  
 程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片 (甕, 坏, 鉢) 125点。須恵器片 (坏, 高台付坏) 11点。坏類は極少量で、土師  
 器甕が大半を占めている。第32図1・2の甕は、いずれも床面近くから潰れた状態で出土してい  
 る。カマド付近の覆土中・上層からも多数出土している。

備考 凝灰岩の切石でカマドの焚き口部を構築した状態が良好に残されている。

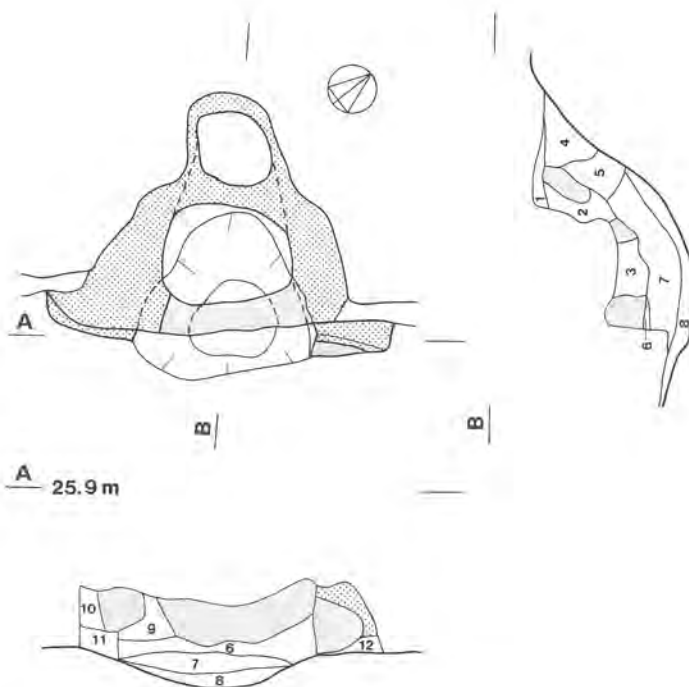
第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 i	甕 土師器	A (19.8) B (28.4) E (24.7)	底部欠損。胴部は内彎しながら 立ち上がり、上位に最大径をも つ。頸部は「く」の字状に屈曲 し、口縁端部は外上方へ軽くつ まみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、ヘラナデ。外面、縦位の ヘラ削り。下端付近は横位のヘ ラ削り。	砂粒・雲母・長 石 にふい橙色 普通	80% P79 中央部床面直 上・カマド付近 覆土下層 PL44



住居跡土層解説表

- |        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子極めて多量 炭化物中量                 |
| 2. 暗褐色 | ローム粒子多量                          |
| 3. 暗褐色 | ローム粒子極めて多量 ローム中ブロック中量            |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量 粘土中量 硬くしまる |
| 5. 暗褐色 | ローム粒子多量 炭化物中量 焼土粒子極めて多量 粘性強い     |
| 6. 黒褐色 | ローム粒子中量 しまり弱い                    |
| 7. 暗褐色 | ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量            |

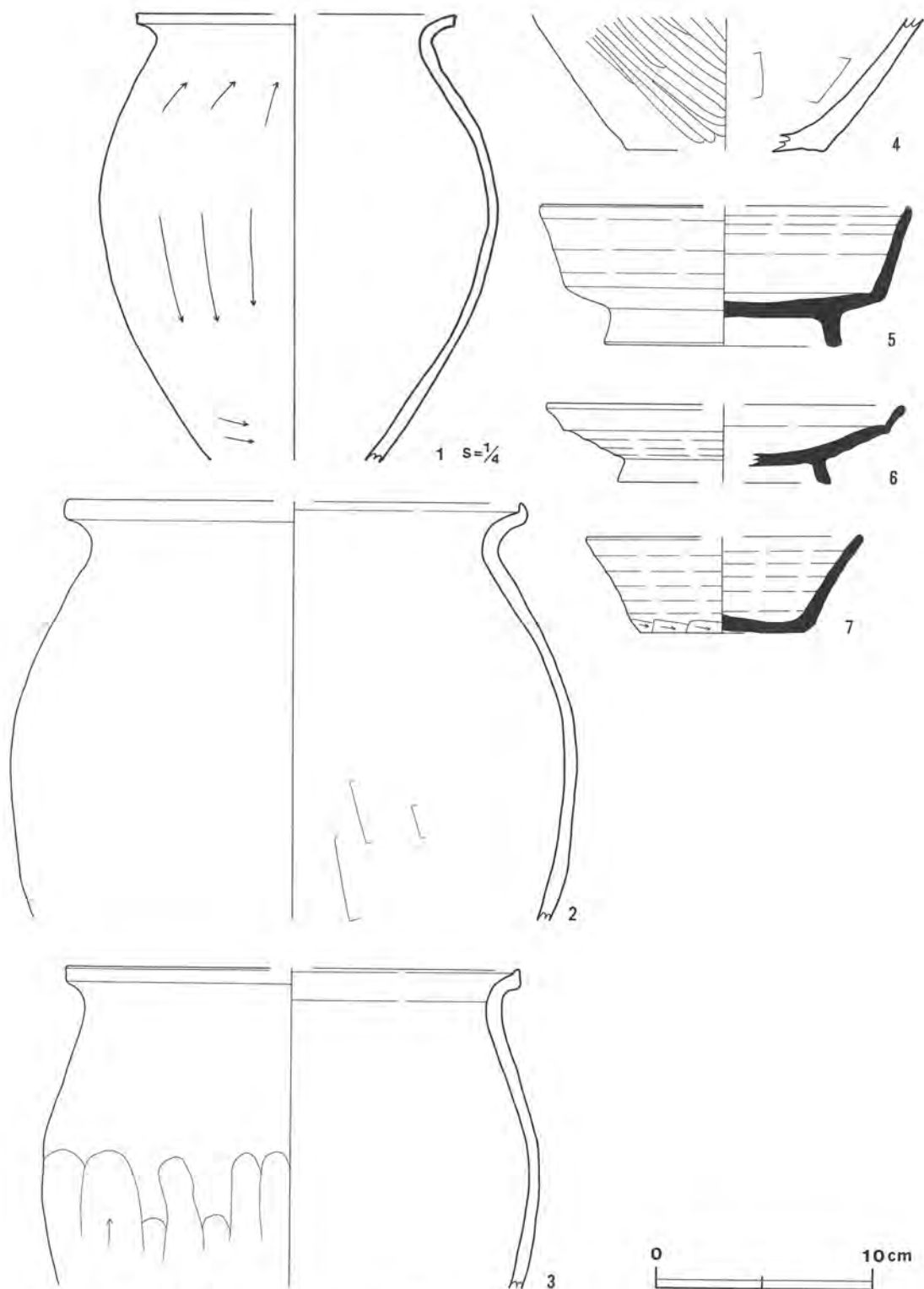


カマド土層解説表

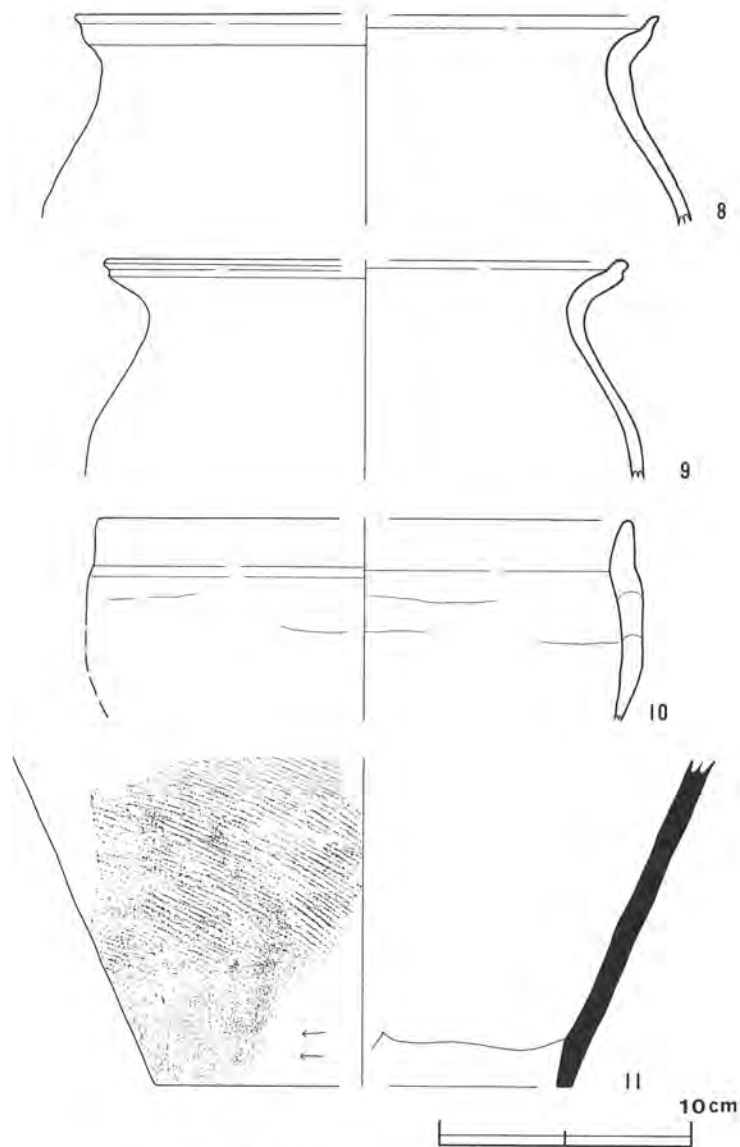
- |         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 1. 暗褐色  | ローム粒子多量 炭化物中量                     |
| 2. 褐色   | ローム粒子多量 しまり弱い                     |
| 3. 暗褐色  | ローム粒子多量 炭化物中量 焼土粒子中量 粘土極めて多量 粘性強い |
| 4. 暗褐色  | ローム粒子中量 炭化物極めて多量 焼土粒子中量           |
| 5. 暗褐色  | ローム粒子多量 焼土粒子中量 しまり弱い              |
| 6. 褐色   | 焼土粒子中量 ローム粒子中量                    |
| 7. 藍赤褐色 | ローム粒子中量 焼土粒子極めて多量 粘性・しまり弱い        |
| 8. 褐色   | 焼土粒子少量 焼けたローム粒子・ブロック多量            |
| 9. 褐色   | ローム粒子中量 凝灰岩極めて多量                  |
| 10. 褐色  | ローム粒子中量 粘土中量                      |
| 11. 褐色  | 焼土粒子中量 ローム粒子中量                    |
| 12. 褐色  | ローム粒子多量                           |



第31図 第14号住居跡・カマド実測図



第32図 第14号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第14号住居跡出土遺物実測図(2)

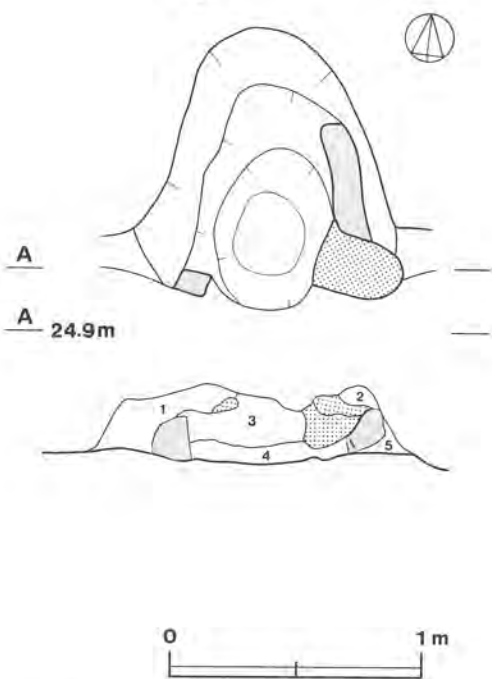
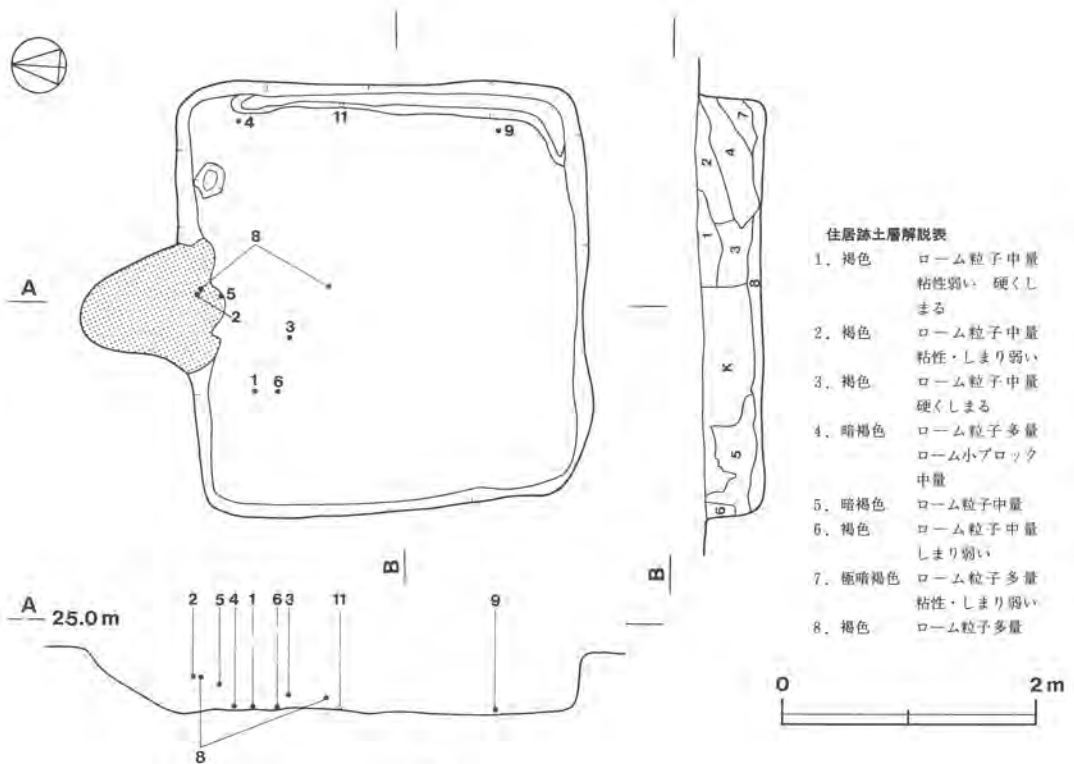
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 2	甕 土師器	A (21.2) B (20.0) E (26.5)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口縁端部は上方 へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面、 磨減が著しく、調整痕は不明。	砂粒・長石・雲母 にふい橙色 不良	35% P80 北東部床面
3	甕 土師器	A (21.4) B (15.0)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部は丸味をもつて外反し、口 縁端部は上方へつまみ上げられ る。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、ナデ。外面、縦位のヘラ 削り。上位はヘラ削り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 にふい橙色 普通	20% P81 カマド付近覆土 中層

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 4	甕 土師器	B〔6.3〕 C〔9.4〕	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面，横位のへらナデ。外面，縦・斜位のへら磨き。底部，木葉痕。	砂粒・雲母にふい橙色 普通	5% P88 カブト付近覆土 中層
5	高台付坏 須恵器	A(17.3) B 6.6 D 11.1 G 1.6	平底。軽く外側へ開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち，高台部との間に幅広の面を成す。	底部，回転へら削り後，高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	70% P90 中央部床面 PL55
6	蓋 須恵器	A(16.6) B 3.7 D(10.0) G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり，端部で軽く外反する。口縁部は外反して立ち上がる。	底部，回転へら削り後，高台貼り付け。	砂粒 灰黄色 普通	20% P91 覆土
7	坏 須恵器	A(13.0) B 4.5 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口唇部は丸い。	底部，回転へら切り後，多方向のナデ。体部下端，手持ちへら削り。	砂粒・長石 灰白色 不良	50% P92 中央部覆土上層 PL52
第33図 8	甕 土師器	A(23.0) B〔8.3〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は緩く「く」の字状に屈曲し，口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。その他，ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	5% P87 カマド付近覆土 上層
9	甕 土師器	A(20.6) B〔8.7〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し，口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。その他，ナデ。	砂粒・雲母・バミス 浅黄橙色 普通	5% P84 北コーナー付近 覆土上層
10	鉢 土師器	A(21.2) B〔8.2〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は直立し，口唇部は丸くおさめられる。	口頸部内・外面，横ナデ。その他，ナデ。外面に，輪積み痕を残す。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P86 カマド付近覆土 中層
11	甕 須恵器	B〔13.0〕 C(16.6)	胴部は外傾して立ち上がる。底部に透し孔をもつ。孔数は不明。	胴部外面，斜位の平行叩き。下端，横位のへら削り。内面，ナデ。	砂粒 灰色 普通	5% P93 カマド覆土

### 第15号住居跡（第34図）

**位置** I4g2区。平面形 方形。規模 3.47×3.22m。主軸方向 N-4°-W。壁 直立。壁高 45～50cm。壁溝 東壁際に検出。上幅18～29cm，深さ3～4cm。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部と燃焼部の側壁に凝灰岩を使用。全長112cm，幅92cm，煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は床面より5cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏）379点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，蓋）34点。砥石2点。鉄製品（板状鉄製品）2点。第35図4の坏は，体部に墨書（『進丸』）があり，北東コーナー付近の床面上から伏せた状態で出土している。



第34図 第15号住居跡・カマド実測図



第35図 第15号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	甕 土師器	A (22.0) B (9.6)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反する。口縁端部は外 上方へつまみ出される。	口頭部内・外面、横ナデ。その 他、ナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P96 カマド付近覆土 下層
2	甕 土師器	A (20.6) B (5.0)	頸部は「く」の字状に屈曲し、 口縁端部は外上方へつまみ出さ れる。	口頭部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P95 カマド覆土

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 3	甗 土師器	A (16.7) B ( 7.9)	丸味のある胴部から、頸部は「く」の字に屈曲する。口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母にふい赤褐色普通	5% P94 カマド付近覆土下層
4	坏 土師器	A 13.5 B 5.6 C 5.4	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、静止糸切り後、外周部回転ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒にふい黄褐色普通	80% P103 北東コーナー付近床面逆位 PL49 墨書「進丸」
5	坏 土師器	A (13.4) B 5.6 C ( 5.7)	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄褐色普通	20% P97 カマド付近覆土中層 ヘラ記号
6	坏 土師器	A (13.5) B 5.7 C ( 5.8)	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、静止糸切り後、回転ヘラ削り。体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 浅黄褐色普通	40% P98 カマド付近覆土下層
7	坏 須恵器	B ( 3.7) C ( 9.4)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	底部、回転ヘラ切り後、雑なナデ。	砂粒・雲母 橙色不良	10% P99 カマド覆土
8	高台付坏 須恵器	A (13.0) B 5.5 D 7.7 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅の狭い面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。切り離し痕を明瞭に残す。	砂粒 灰色普通	60% P100 カマド付近覆土中層 PL55
9	高台付坏 須恵器	B (2.7) D 6.4 G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り、高台貼り付け。	砂粒 灰色普通	40% P101 南東部床面逆位

図版番号	種類	法量 (cm)	備考
10	板状鉄製品	全長8.2 最大幅6.5 最大厚1.1	カマド付近床面出土。PL61・M11
11	板状鉄製品	全長6.6 最大幅5.4 最大厚0.8	東部床面出土。PL61・M10

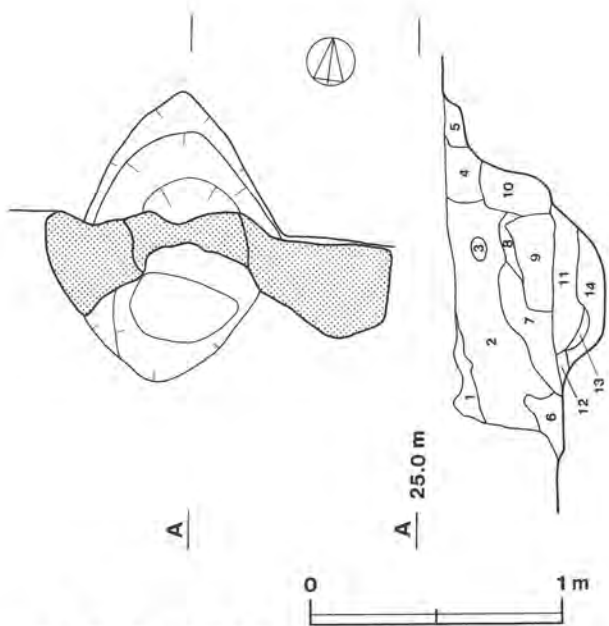
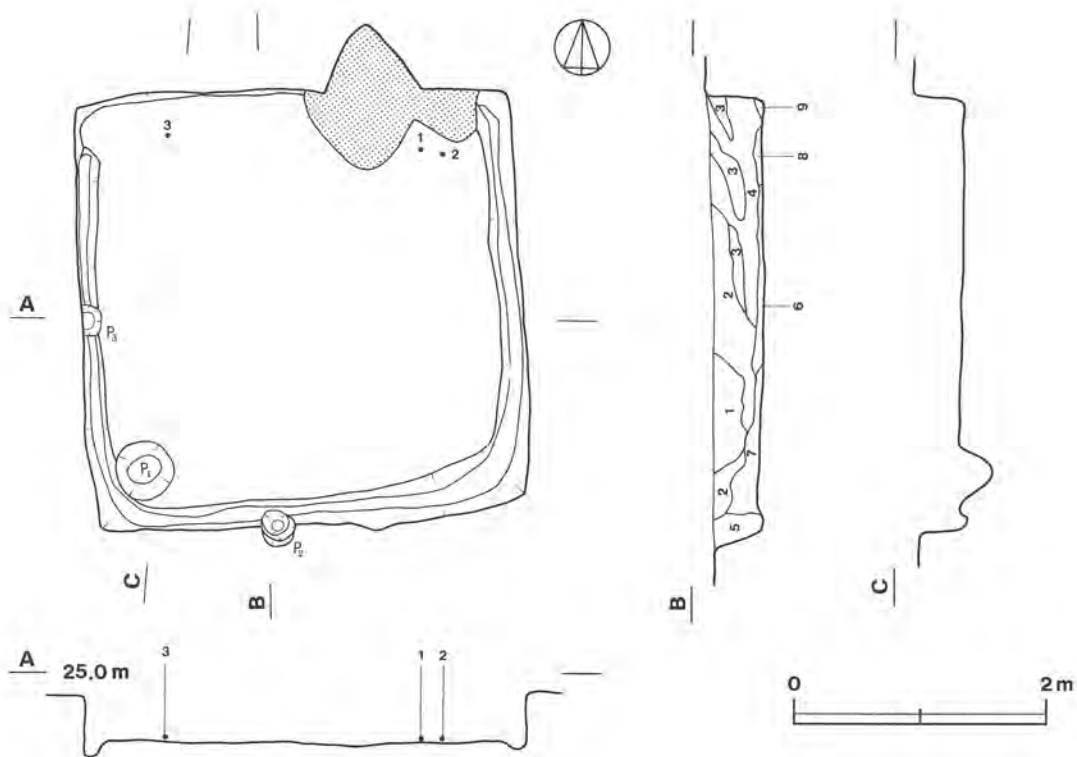
### 第16号住居跡 (第36図)

**位置** I4e1区。**平面形** 方形。**規模** 3.53×3.48m。**主軸方向** N-4°-W。**壁** 直立。壁高33~42cm。**壁溝** 東・南・西壁際に検出。上幅13~33cm、深さ6~10cm。**床** 平坦。**ピット** 3か所。

P1 (46×45, -26cm) P2 (30×27, -19cm) P3 (23×18, -12cm) P1は貯蔵穴か。**カマド** 北壁東寄り。粘土で構築。全長116cm、幅138cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面より10cm程深く掘り窪められている。燃焼部側壁の粘土が強く焼けている。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甗, 坏, 平鉢) 193点。須恵器片(甗, 坏, 高台付坏) 28点。第37図1の甗と2の平鉢が、カマド前面(右側)の床面上に並んで出土している。甗は一部底部が欠損し、カマドの方へ傾いた状態である。





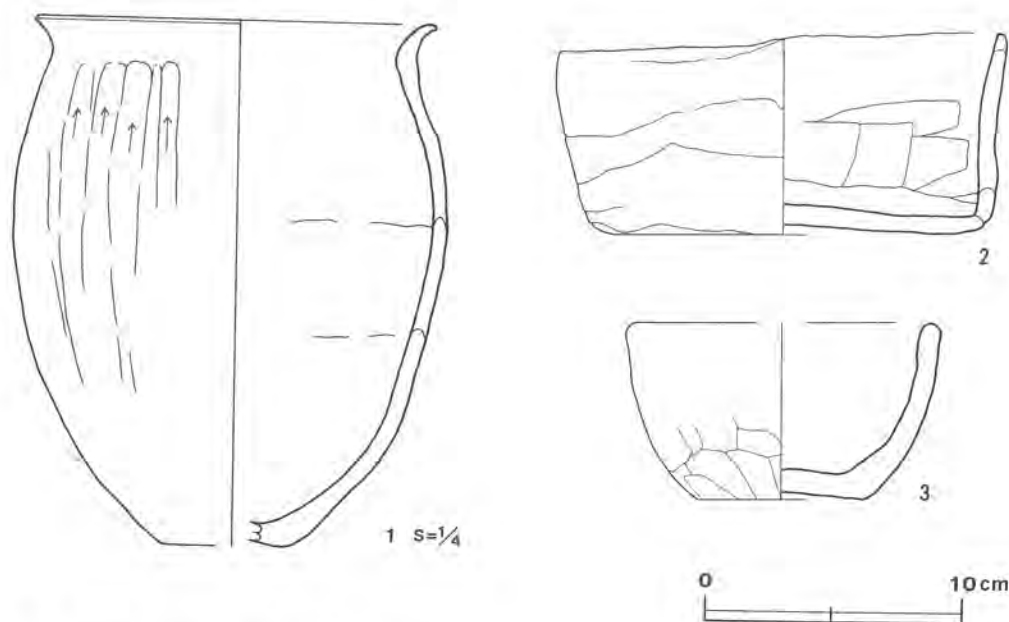
住居跡土層解説表

- |        |         |            |
|--------|---------|------------|
| 1. 褐色  | ローム粒子中量 | ローム小ブロック中量 |
| 2. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 |
| 3. 褐色  | ローム粒子中量 | ローム小ブロック中量 |
| 4. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 |
| 5. 褐色  | ローム粒子中量 | しまり弱い      |
| 6. 褐色  | ローム粒子中量 | しまり弱い      |
| 7. 黒褐色 | 粘性強い    |            |
| 8. 暗褐色 | 粘性強い    |            |
| 9. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック多量 |

カマド土層解説表

- |           |               |          |       |
|-----------|---------------|----------|-------|
| 1. 褐色     | ローム粒子中量       | 粘土多量     | しまり弱い |
| 2. 褐色     | ローム粒子・中ブロック多量 |          |       |
| 3. にぶい黄褐色 | 粘土            |          |       |
| 4. にぶい黄褐色 | 焼土小ブロック中量     | 粘土多量     |       |
| 5. 明褐色    | 粘性・しまり弱い      |          |       |
| 6. 黒褐色    |               |          |       |
| 7. 褐色     | ローム粒子・小ブロック中量 |          |       |
| 8. 灰褐色    | ローム粒子中量       | 粘性・しまり弱い |       |
| 9. にぶい黄褐色 | 褐色土中量         |          |       |
| 10. 灰褐色   | 焼土小ブロック中量     |          |       |
| 11. 暗赤褐色  |               |          |       |
| 12. 明赤褐色  | 焼土中ブロック中量     | 粘土多量     |       |
| 13. 明褐色   | 褐色土多量         | しまり弱い    |       |
| 14. 明褐色   |               |          |       |

第36図 第16号住居跡・カマド実測図



第37図 第16号住居跡出土遺物実測図

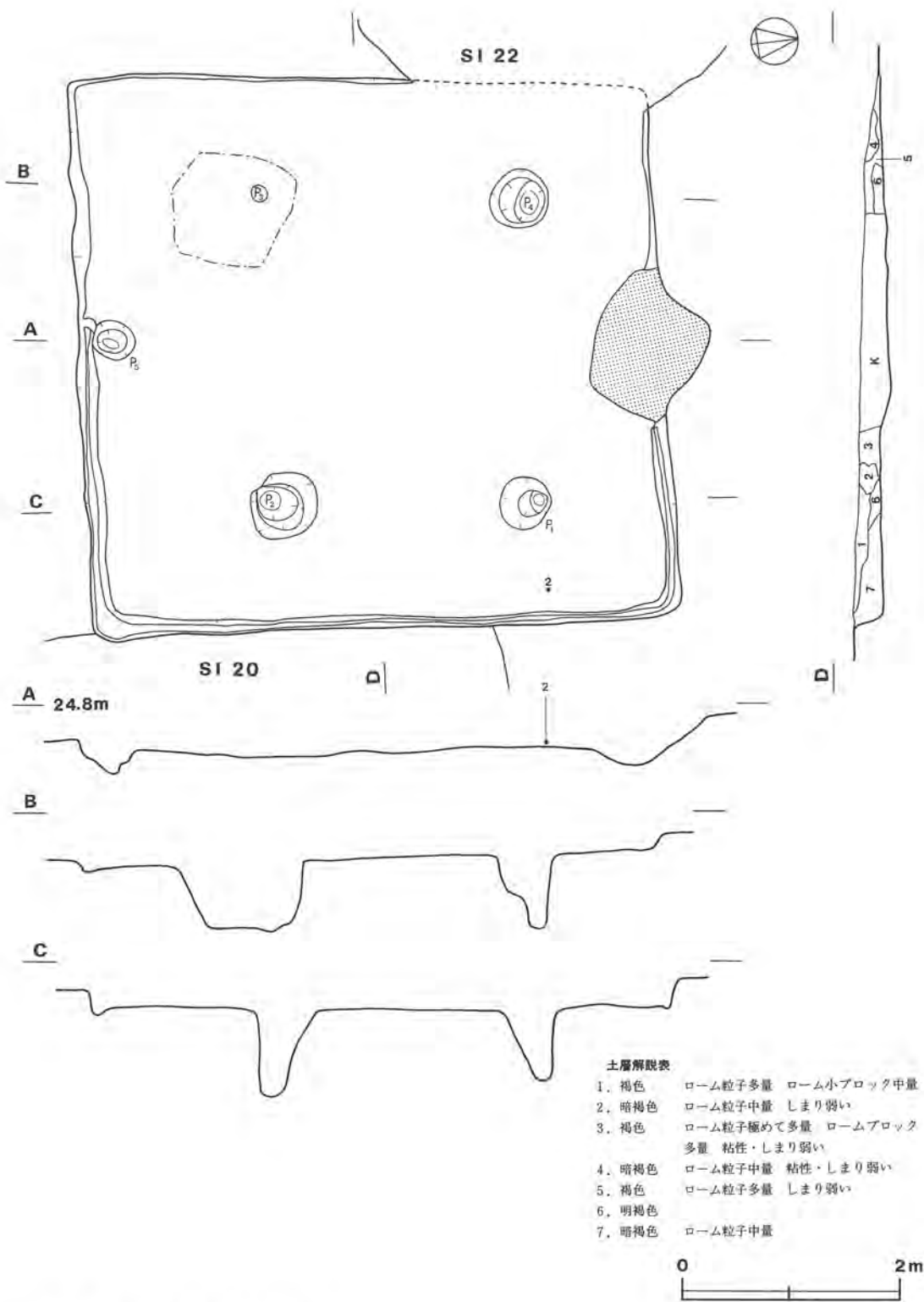
出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	甕 土師器	A 20.6 B 28.3 C (6.6)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。輪積み痕を残す。外面、縦位のへら削り、及びナデ。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・石英 黄橙色 普通	90% P110 カマド付近床面 斜位 PL44
2	鉢 土師器	A 17.4 B 8.0 C 14.6	平底。体部は、わずかに外傾して立ち上がる。口唇部は狭く平坦な面を成す。	体部内面、横位のへらナデ。外面、ナデ。輪積み痕を残す。底部、ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	95% P109 カマド付近床面 正位 PL48
3	鉢 土師器	A (11.6) B 7.1 C 6.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部ではほぼ直立する。口唇部は丸い。	口縁部外面、ナデ。内面、横位のナデ。体部外面、斜・横位のへら削り。底部、ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	30% P105 北西コーナー付 近床面正位

第17号住居跡 (第38図)

**位置** I4j区。重複関係 SI-20より新しく、SI-22より古い。**平面形** 方形。規模 5.50×5.03 m。**主軸方向** N-9°-E。**壁** 直立。壁高0~25cm。**壁溝** 北・東壁際に検出。上幅8~18cm、深さ7~8cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub> (55×45, -67cm) P<sub>2</sub> (70×57, -85cm) P<sub>3</sub> (床面位置での上端径不明, -62cm) P<sub>4</sub> (55×50, -74cm) P<sub>5</sub> (40×35, -20cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長117cm、幅143cm、煙道部の壁面への掘り込みは約45cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。**覆土** 人為堆積。

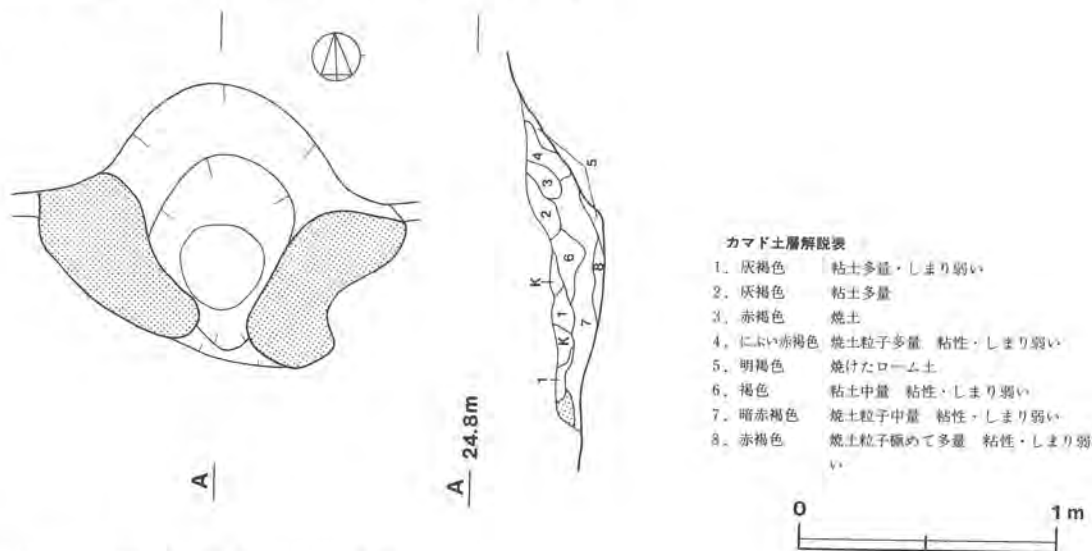
**遺物** 土師器片 (甕、坏) 140点。須恵器片 (甕、坏、高台付坏) 37点。砥石1点。鉄滓1点。



第38図 第17号住居跡実測図

第40図2の高台付坏は、北東部東壁際の床面直上から2つに割れた状態で出土している。その他は、小破片が多く、住居跡全体に散らばって出土している。

**備考** 床面中央部から南西部にかけて攪乱されている。P3付近は方形の土坑状の攪乱があり、柱穴の規模、形状等を正確に捉えることはできない。



第39図 第17号住居跡カマド実測図



第40図 第17号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

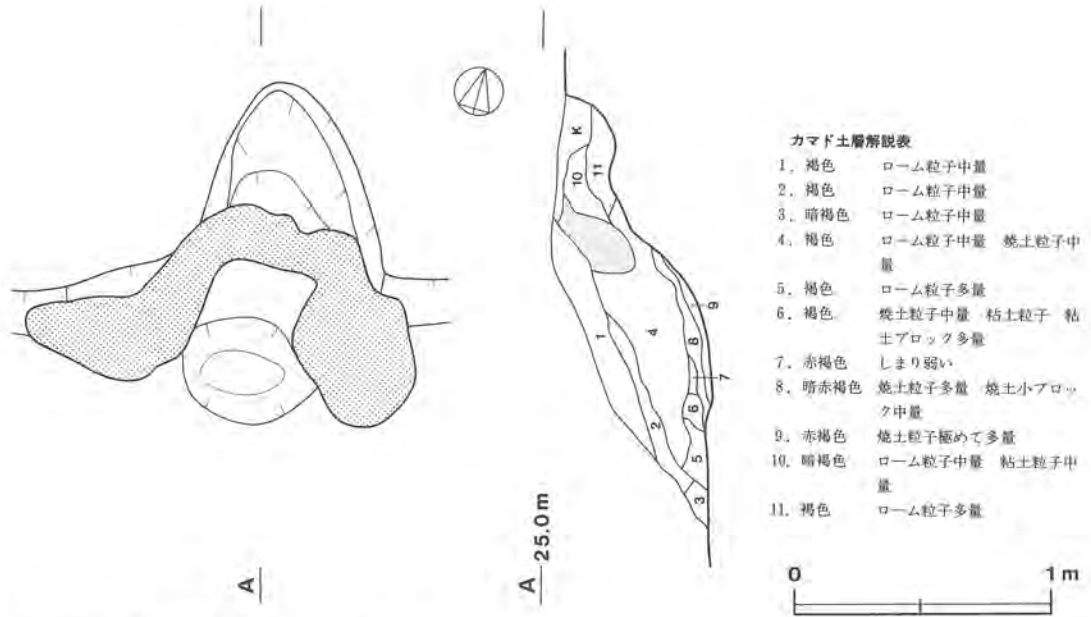
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	須恵器	A (23.0) B (5.1)	頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。口縁端部は下方へ突出し、外面は丸味をもった面を成す。		砂粒・雲母 にふい褐色 普通	5% P112 北東部覆土
2	高台付坏 須恵器	A 10.4 B 5.0 D 6.4 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、上位で軽く外反する。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	90% P111 東壁際北部床面 横位 PL55

第18号住居跡 (第42図)

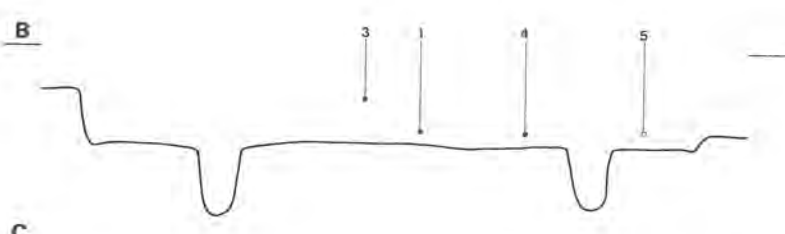
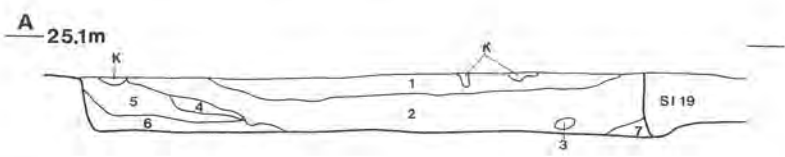
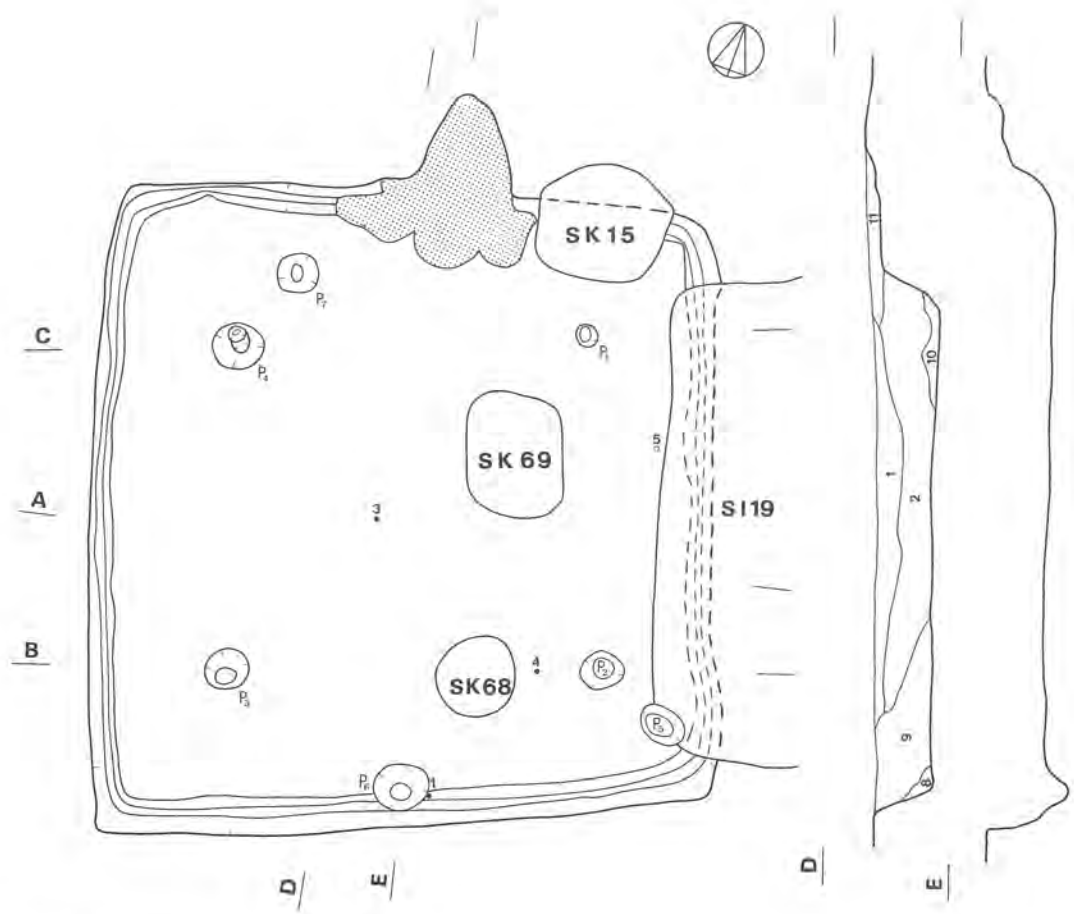
位置 I4i3区。重複関係 SI-19, SK-15・68・69より古い。平面形 方形。規模 5.20×4.95 m。主軸方向 N-19°-W。壁 直立。壁高40~46cm。壁溝 全周。上幅15~30cm, 深さ2~4cm。床 平坦。ピット 7か所。P<sub>1</sub> (19×16, -47cm) P<sub>2</sub> (35×28, -50cm) P<sub>3</sub> (34×30, -58 cm) P<sub>4</sub> (40×37, -46cm) P<sub>5</sub> (40×29, -19cm) P<sub>6</sub> (46×36, -20cm) P<sub>7</sub> (33×32, -17cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。カマド 北壁中央。粘土で構築。全長137cm, 幅155cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片 (甕, 坏) 453点。須恵器片 (甕, 坏, 蓋) 56点。石製紡錘車1点。鉄滓1点。遺物はカマド付近及び南東部に多く, 大半は覆土から出土している。

所見 カマド前面の床面に焼土・炭化物が堆積しており, カマド内からかき出されたものと思われる。



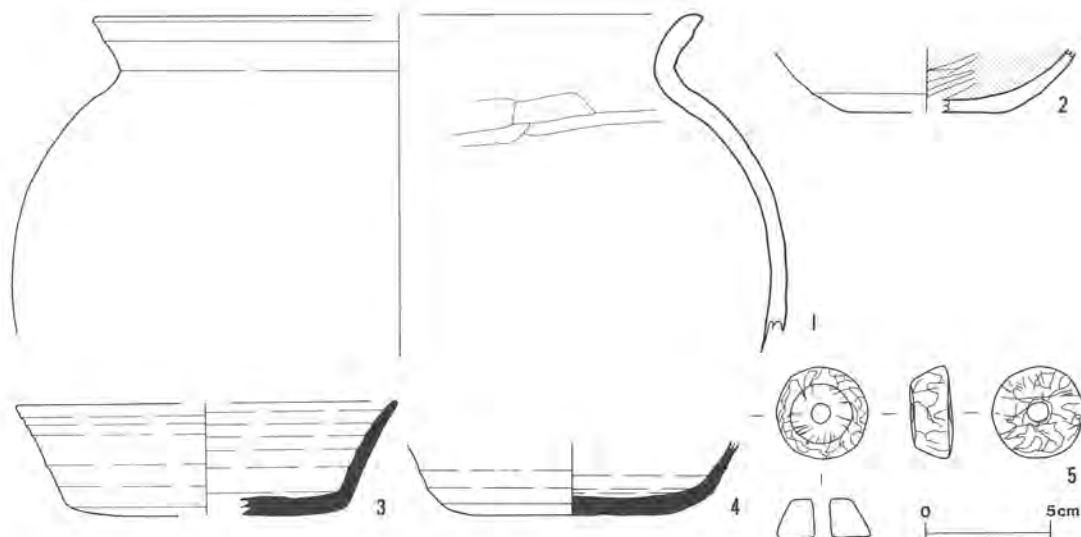
第41図 第18号住居跡カマド実測図



- 土層解説表
- 1. 褐色 ローム粒子多量
  - 2. 褐色 ローム粒子多量
  - 3. 黒褐色 粘性強い
  - 4. 暗褐色 ローム粒子中量
  - 5. 褐色 ローム粒子多量
  - 6. 褐色 ローム粒子多量
  - 7. 褐色 ローム粒子中量
  - 8. 明褐色 ローム粒子極めて多量
  - 9. 暗褐色 ローム粒子多量
  - 10. 褐色 炭化物多量 焼土粒子多量
  - 11. 褐色 ローム粒子中量  
全体に、粘性・しまり弱い



第42図 第18号住居跡実測図



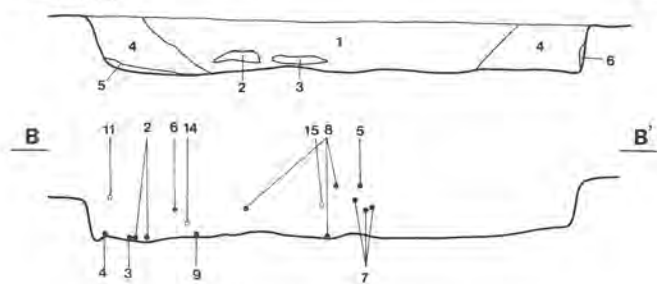
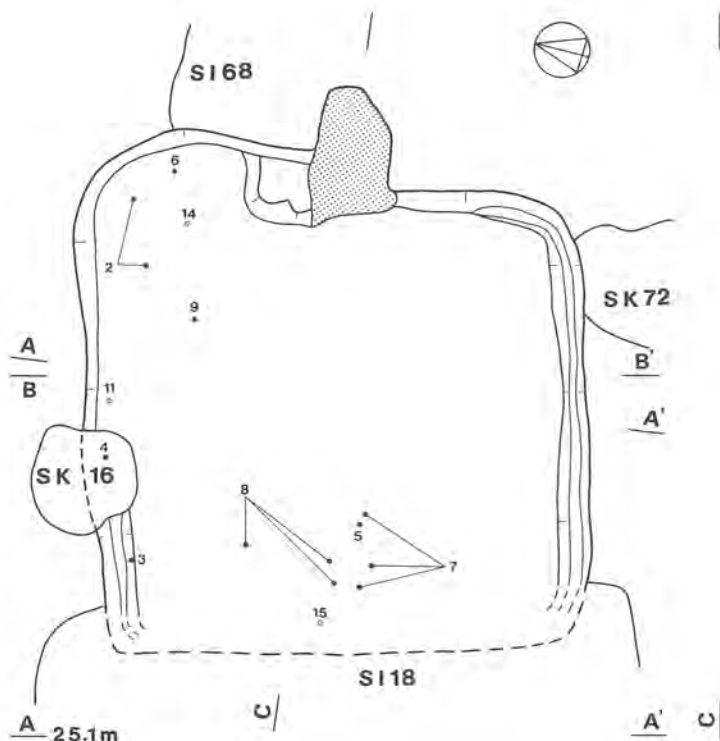
第43図 第18号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	甕 土師器	A (24.0) B (13.6)	丸く張った胸部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、口唇部はやや尖る。	口頸部内・外面、横ナデ。胸部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ	砂粒・長石 橙色 普通	5% P113 南部覆土下層
2	環 土師器	B ( 2.5) C ( 6.5)	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黑色処理。底部、体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P115 北東部覆土
3	環 須恵器	A (15.2) B 4.5 C (11.2)	平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 不良	30% P117 中央部覆土上層
4	環 須恵器	B ( 2.9) C 8.3	平底。体部との境は丸味をもつ。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒・礫 灰白色 普通	20% P116 南東部覆土下層
図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備考		
5	石製紡錘車	3.7 × 3.7 × 1.6	31.7	滑石。全面に線刻が施される。東部覆土中層出土。PL59・Q34		

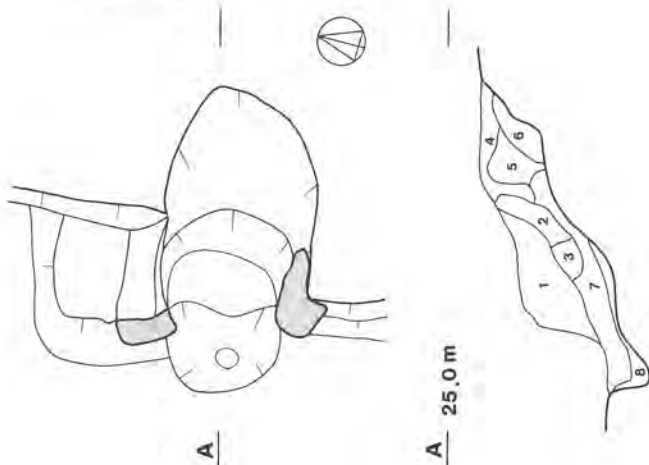
第19号住居跡 (第44図)

位置 I4h4区。重複関係 SI-18, SI-68 (縄文) より新しく, SK-16・72より古い。平面形不整形。規模 3.97×(3.85)m。主軸方向 N-75°-E。壁 直立。壁高34~40cm。壁溝 北・南壁際に検出。上幅24~26cm, 深さ3~4cm。床 凹凸。カマド付近は東へ傾斜。ピット 無。カマド 東壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長122cm, 幅84cm, 煙道部の壁面への



住居跡土層解説表

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 1. 黒褐色 | ローム粒子少量<br>粘性・しまりあり |
| 2. 黒褐色 | 炭化物中量 粘性・しまり弱い      |
| 3. 黒褐色 | 炭化物中量 しまり弱い         |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子中量<br>粘性弱い     |
| 5. 暗褐色 | ローム粒子中量             |
| 6. 暗褐色 | ローム粒子多量<br>粘性・しまり弱い |



カマド土層解説表

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 1. 暗褐色    | ローム粒子中量 粘性・しまり弱い      |
| 2. におい赤褐色 | 焼土粒子極めて多量 粘性・しまり弱い    |
| 3. 赤褐色    | 焼土                    |
| 4. 黒褐色    | 焼土粒子中量 粘性弱い 硬くしまる     |
| 5. 黒赤褐色   | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 粘性弱い |
| 6. 黒褐色    | 粘性弱い 硬くしまる            |
| 7. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量 粘性・しまり弱い       |
| 8. 暗褐色    | ローム粒子中量 しまり弱い         |



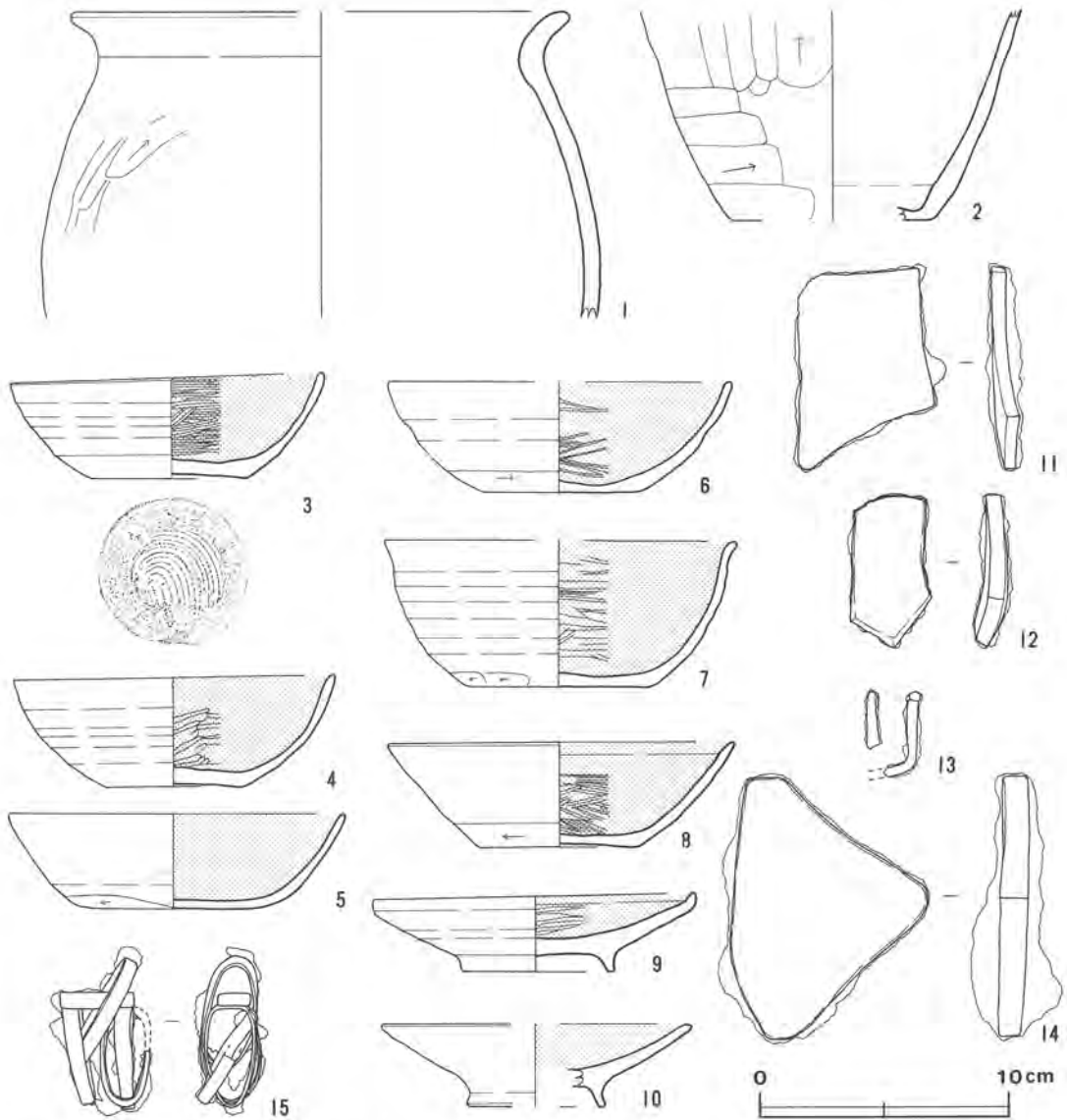
第44図 第19号住居跡・カマド実測図



掘り込みは約80cm。火床は床面より15cm程深く掘り窪められている。火床の奥に凝灰岩製の支脚が立った状態で出土している。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏，高台付坏，高台付皿）968点。須恵器片（甕，坏）88点。鉄製品（板状鉄製品3，鉸具1，足金具1）5点。鉄滓1点。北壁際の床面直上に，第45図3の坏が斜位で，4の坏が伏せた状態で出土している。9の高台付皿は北東部の床面から逆位で出土している。板状鉄製品が3点と多いが，いずれも覆土から出土している。

**備考** 当遺跡では例の少ない東壁際にカマドをもつ住居の1つ。北東コーナーの形状が歪む。



第45図 第19号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第45図 1	甕 土 師 器	A (19.8) B (12.4)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のナデ。外面、縦・ 斜位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	10% P118 カマド覆土
2	甕 土 師 器	B ( 8.5) C ( 8.0)	平底。胴部は内彎気味に外傾して 立ち上がる。	胴部内面、横位のナデ。外面、 縦位のヘラ削り。下位はさらに 横位のヘラ削り、及びナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	10% P119 北東コーナー付 近床面・床面直 上
3	坏 土 師 器	A 12.6 B 4.3 C 6.2	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転糸切り後、 外周部回転ヘラ削り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	100% P124 北壁際西部床面 直上斜位 PL49
4	坏 土 師 器	A 13.0 B 4.5 C 5.6	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口唇部はやや尖る。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部及び体部下端、 回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	100% P125 北壁際中央部床 面逆位 PL49
5	坏 土 師 器	A 13.4 B 3.9 C 6.4	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、体部下位、回 転ヘラ削り。	砂粒 橙色 普通	70% P127 西部覆土上層 PL49
6	坏 土 師 器	A (14.0) B 4.5 C ( 6.2)	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、及び体部下位、 回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	50% P126 北東部覆土中層 PL49
7	坏 土 師 器	A (14.4) B 6.0 C ( 7.6)	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口縁部で外反する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、多方向のヘラ 削り。体部下端、手持ちヘラ削 り。	砂粒 にぶい橙色 普通	40% P129 西部覆土中層 PL49
8	坏 土 師 器	A 14.0 B 4.2 C 6.5	平底。体部は内彎気味に外傾し て立ち上がり、口唇部はやや尖 る。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、体部下端、回 転ヘラ削り。	砂粒 灰褐色 普通	60% P128 西部覆土中・上 層
9	高台付皿 土 師 器	A 13.1 B 3.2 D 6.2	平底。ほぼ直立する高台が付く。 体部は直線的に立ち上がり、口 縁部は短く直立する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ切り 後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	80% P121 北東部床面逆位 PL49
10	高台付皿 土 師 器	A (12.6) B 3.4 D 5.6	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部から口縁部にかけて ほぼ直線的に立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ切り 後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	20% P122 北東部覆土

図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
11	板状鉄製品	全長8.2 最大幅5.5 最大厚0.6	器面がわずかに彎曲する。北壁際覆土下層出土。PL62・M12
12	板状鉄製品	全長6.1 最大幅3.2 最大厚1.0	器面がわずかに彎曲する。カマド覆土出土。PL62・M14
13	帯金具(鉸具)	全長(3.4)	枠と刺金の一部と思われる。南部覆土出土。PL61・M15
14	板状鉄製品	全長10.9 最大幅8.0 最大厚1.2	器面がわずかに彎曲する。北東部覆土下層出土。PL61・M13
15	足 金 具	全長6.1 最大幅3.5 最大厚2.6	西壁際覆土中層出土。PL61・M84

#### 第20号住居跡（第46図）

**位置** I4j<sub>2</sub>区。**重複関係** SI-17より古く、SI-21より新しい。**平面形** 方形。**規模** 5.70×5.28 m。**主軸方向** N-5°-W。**壁** 直立。壁高13~35cm。**壁溝** 全周。上幅13~22cm、深さ4~6cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>（75×74、-86cm） P<sub>2</sub>（29×27、-85cm） P<sub>3</sub>（47×37、-79cm） P<sub>4</sub>（80×72、-86cm） P<sub>5</sub>（32×30、-14cm） P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長117cm、幅138cm、煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は床面より10cm程深く掘り窪められている。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏）503点。須恵器片（甕，坏，高台付坏）43点。転用硯1点。鉄製品（鎌）1点。硯（第48図9）は須恵器高台付坏から転用したもので、南東コーナー付近の覆土下層から正位で出土している。11の鉄鎌は南西部南壁際の床面から出土している。土器類はカマド付近を中心に出土している。

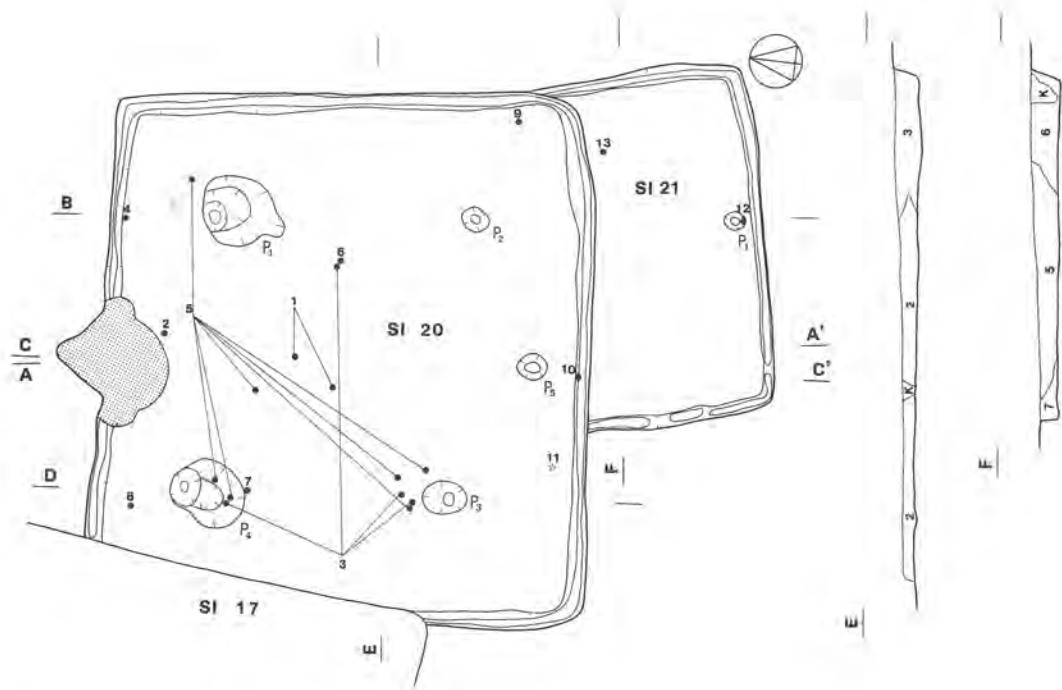
**備考** 当遺跡の住居跡の中では、最大規模の住居跡である。

#### 第21号住居跡（第46図）

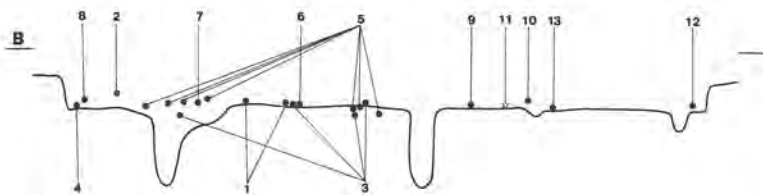
**位置** J4a<sub>2</sub>区。**重複関係** SI-20より古い。**平面形** 方形。**規模** 3.80×〔2.00〕m。**南北軸方向** N-13°-W。**壁** 直立。壁高18~31cm。**壁溝** 全周。上幅10~22cm、深さ4~6cm。**床** 平坦。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub>（22×20、-20cm）**カマド** 北側がSI-20に削平され、カマドの位置は不明。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏）29点。須恵器片（甕，坏）3点。住居跡全体にまばらに散らばって出土している。

**備考** 本跡は北側半分をSI-20によって切られており、南側半分のみを調査する。



A 25.0m

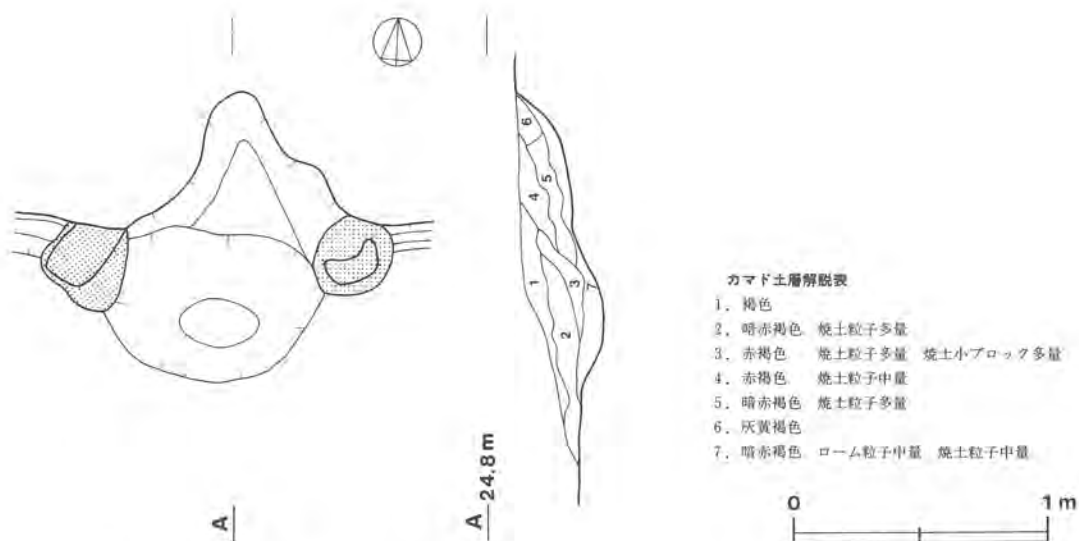


土層解説表

1. 暗褐色	粘性強い
2. 褐色	ローム粒子中量
3. 褐色	ローム粒子中量
4. 褐色	ローム粒子多量 粘性強い
5. 褐色	ローム粒子多量 ローム小ブ ロック多量 粘性・しまり弱い
6. 褐色	ローム粒子多量 ローム小ブ ロック中量 しまり強い
7. 暗褐色	粘性強い
8. 褐色	ローム粒子中量 粘性弱い
9. 暗褐色	ローム粒子中量 粘性弱い

0 2m

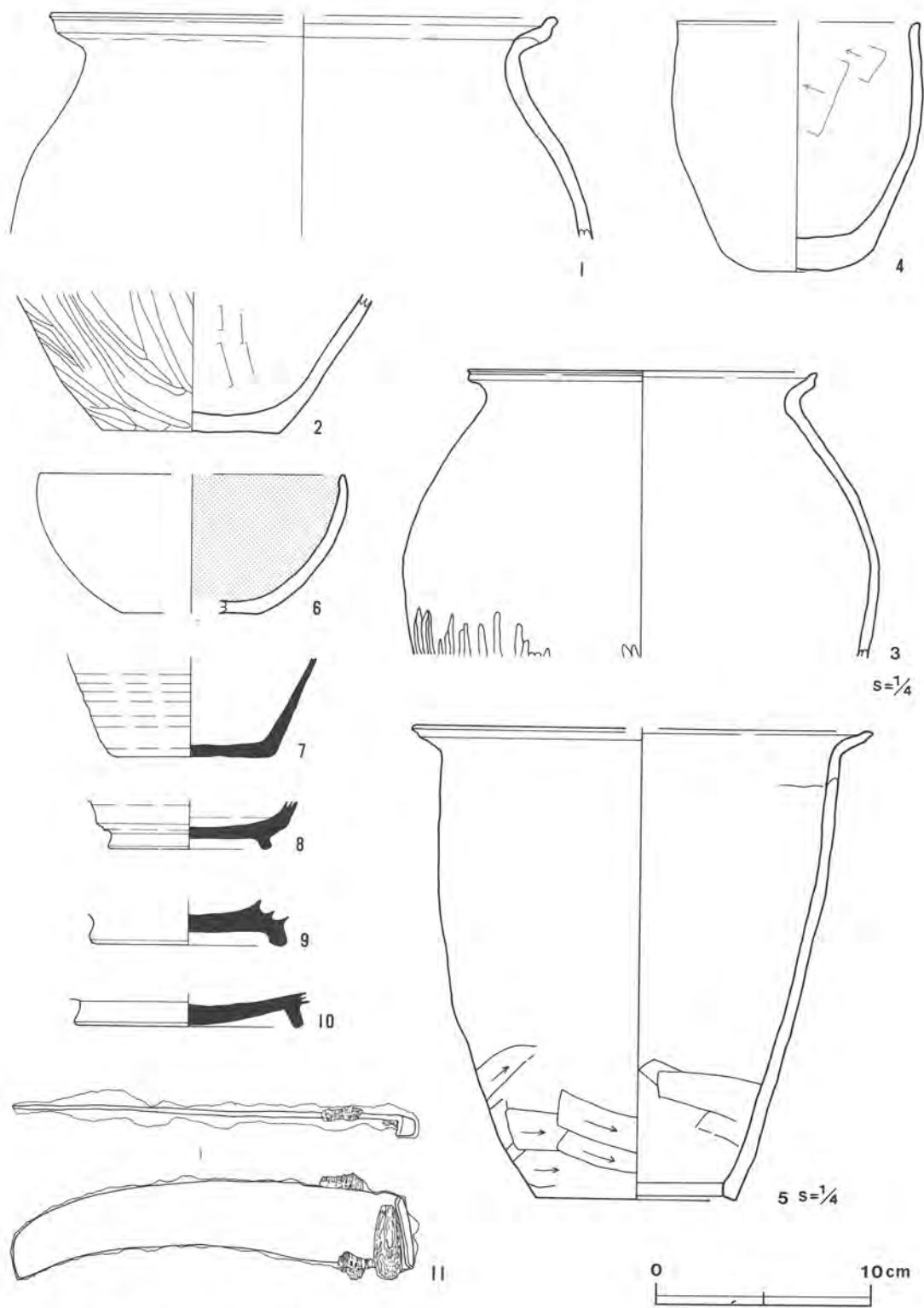
第46図 第20・21号住居跡実測図



第47図 第20号住居跡カマド実測図

出土遺物観察表

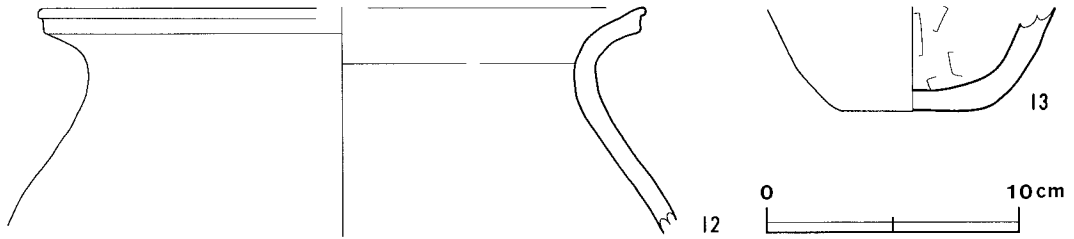
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	甕 土師器	A (23.4) B (10.3)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頭部内・外面、横ナデ。胴部上位外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	5% P136 中央部覆土下層
2	甕 土師器	B (6.5) C (8.2)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦・斜位のヘラ磨き。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・石英褐色普通	10% P141 北東部覆土中層
3	甕 土師器	A 21.5 B (18.0)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頭部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、中位以下に、縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母にふい褐色普通	25% P135 西部床面、覆土下層 PL44
4	鉢 土師器	A (11.3) B 11.7 C 6.8	平底。胴部はゆるやかに内彎しながら立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。底部、木葉痕か。(磨減が著しく、不明瞭)	砂粒・パミス・石英にふい橙色普通	50% P143 北東部覆土下層 PL48
5	甕 土師器	A (28.6) B 29.6 C 12.5	単孔式。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は端部を外上方へつまみ出すようにして、わずかな段を成す。	口頭部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。下位は、横・斜位のヘラ磨り。	砂粒・石英・雲母にふい橙色普通	60% P148 西部・北東部の床面・覆土下層 PL50
6	坏 土師器	A (14.2) B 6.5 C (6.4)	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口唇部は丸い。	内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、磨減が著しく、調整不明。	砂粒・雲母橙色普通	40% P144 北東部覆土



第48图 第20号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第48図 7	坏 須 惠 器	B〔4.7〕 C〔7.2〕	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	10% P147 北東部床面直上 へら記号
8	高台付坏 須 惠 器	B〔2.3〕 D 7.6 G 0.6	「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅の狭い面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	30% P146 北東部床面 へら記号
9	高台付坏 (転用硯) 須 惠 器	B〔2.1〕 D 9.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。		砂粒 灰白色 普通	30% P703 南東コーナー付 近覆土下層 PL58
10	釜 須 惠 器	B〔1.7〕 D 10.7 G 1.1	丸底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	20% P145 南部覆土中層

図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
11	鎌	全長18.7 最大幅3.5 最大厚0.2	基端部折り返し。接柄部に木質付着。西南部覆土下層。PL62・M16



第49図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第49図 12	甕 土 師 器	A (23.8) B〔9.1〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	10% P149 南壁際中央部覆 土中層
13	甕 土 師 器	B〔4.1〕 C 4.8	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。	内面、へらナデ。外面、磨減が著しく、調整は不明瞭。底部、ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	10% P150 東部覆土下層

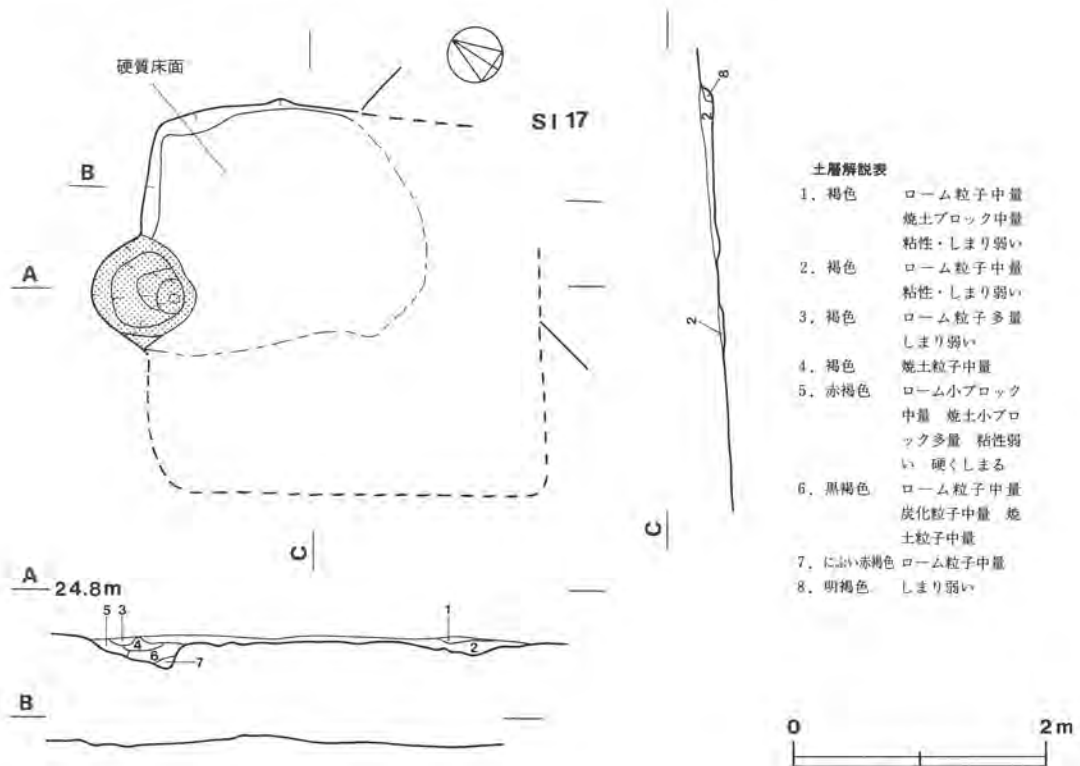
### 第22号住居跡 (第50図)

位置 I3i0区。重複関係 SI-17より新しい。平面形 方形。規模 3.17×3.15m(推定値)。主軸方向 N-38°-W。壁 外傾。壁高0~8cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁中央。粘土で構築。全長85cm, 幅90cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は床面より15

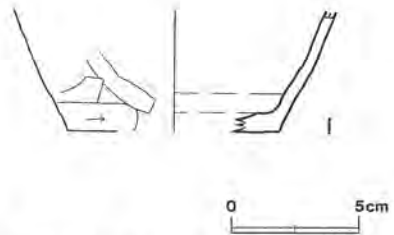
cm程深く掘り窪められている。覆土 本来の覆土は削平され、堆積状況は不明。

遺物 土師器片（甕，坏）15点。須恵器片（坏）2点。いずれも小破片で、北東部を中心に出土している。

備考 本跡は、遺構確認の段階で、北東部を残し、削平されている。



第50図 第22号住居跡実測図



第51図 第22号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	小型甕 土師器	B (4.8) C (8.4)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部下端外面、横・斜位のヘラ削り、及びナデ。底部、ナデ。	砂粒 にんじ色 普通	5% P151 カマド覆土



### 第23号住居跡（第52図）

**位置** J4a4区。**重複関係** SI-31より古く、SI-64(縄文)より新しい。**平面形** 方形。**規模** 5.12×4.95m。**主軸方向** N-4°-W。**壁** 直立。壁高25~42cm。**壁溝** ほぼ全周。上幅16~30cm、深さ9~14cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>(68×56, -83cm) P<sub>2</sub>(47×35, -77cm) P<sub>3</sub>(30×24, -78cm) P<sub>4</sub>(35×33, -81cm) P<sub>5</sub>(32×28, -30cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が主柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長200cm、幅165cm、煙道部の壁面への掘り込みは約85cm。火床は、床面より15cm程深く掘り窪め、粘土等を含む土で整地した後、その上面を使用している。煙道部に上端径25×22cm、深さ21cmの小ピットが検出された。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 鉢, 甑) 1,620点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 壺) 205点。陶器片(短頸壺) 1点。鉄製品(刀子2, 斧1, 鏃1, 小札1) 5点。多数の遺物が住居跡全体から出土している。第56図11の短頸壺は猿投系の灰釉陶器(半完形品)で、第55図10の坏とともに、北東コーナー付近の床面から出土している。第56図8の甕は外面に同心円叩きをもつもので、北東コーナー付近と南東部の覆土下層から出土した破片が接合している。

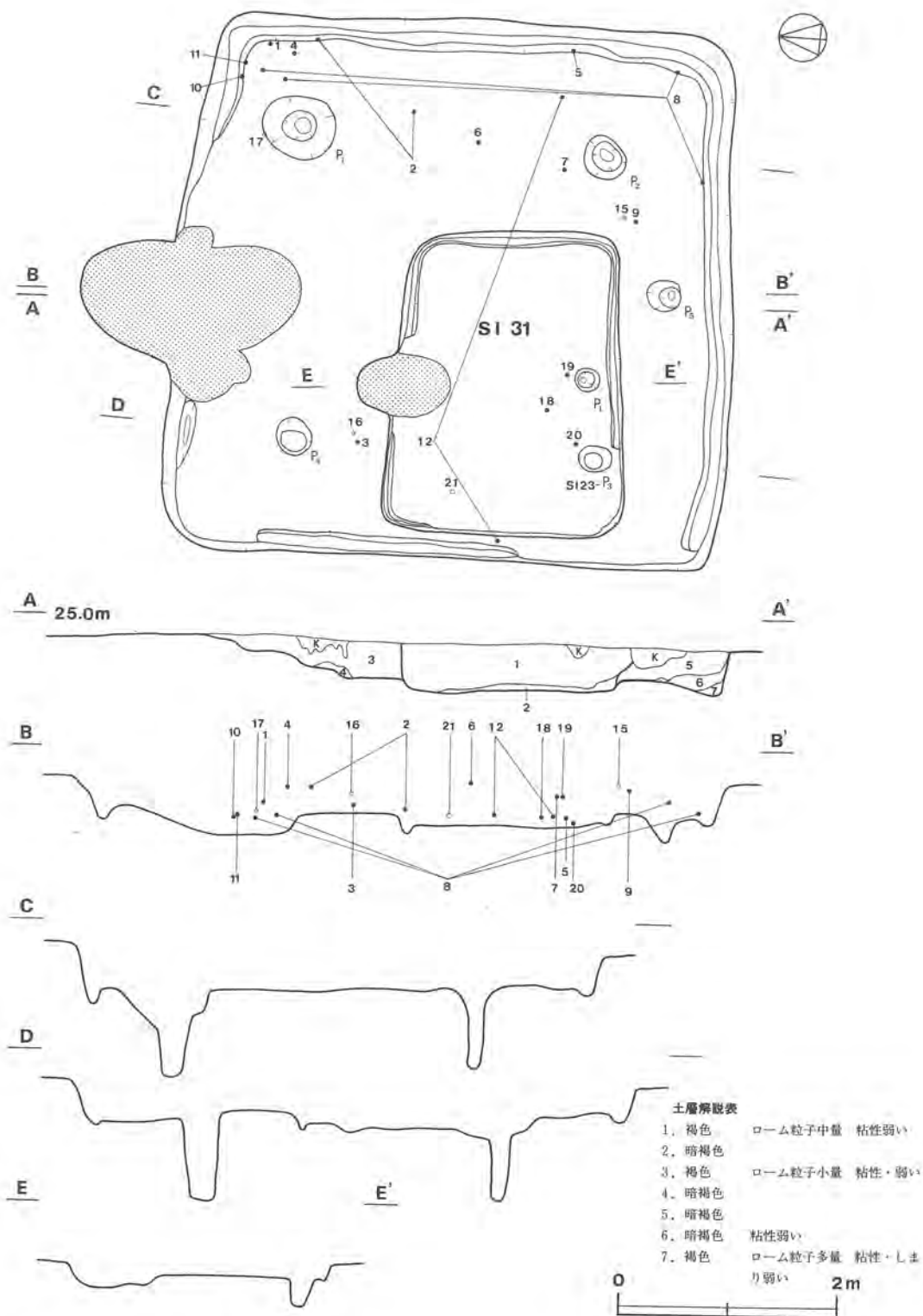
**備考** 須恵器や鉄製品に良好な資料が多いほか、灰釉陶器が出土したという点で特徴的な遺構である。

### 第31号住居跡（第52図）

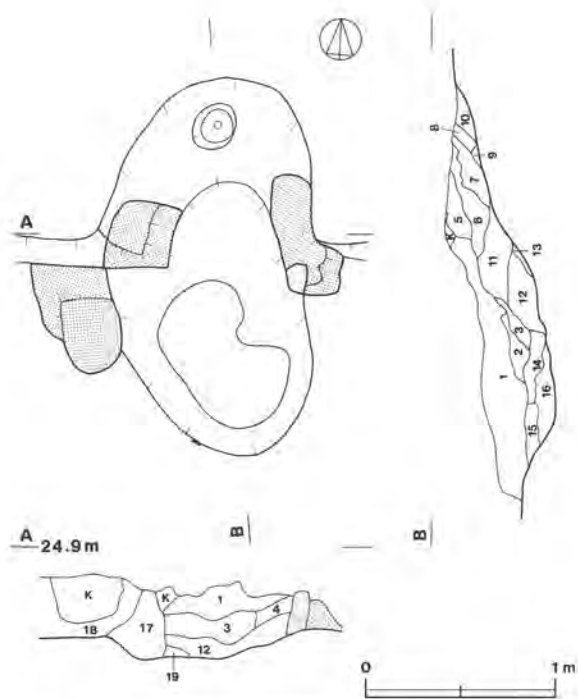
**位置** J4a4区。**重複関係** SI-23より新しい。**平面形** 長方形。**規模** 2.83×1.95m。**主軸方向** N-6°-W。**壁** 直立。壁高10~14cm(SI-23の床面からの掘り込み。確認面からの深さは38~40cm)。**壁溝** 全周。上幅7~15cm、深さ2~7cm。**床** 平坦。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub>(23×22, -28cm)**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長86cm、幅57cm、煙道部の壁面への掘り込みは約35cm。火床は、床面より15cm程深く掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏) 228点。須恵器片(甕, 坏) 35点。土製紡錘車1点。第57図18の坏は中央部覆土下層から出土している。カマド付近の床面に土師器片が散乱しているが、器形は復元できなかった。ほとんどの遺物は覆土から出土している。

**備考** SI-23の南西部を掘り込んで築かれた小型の住居跡である。



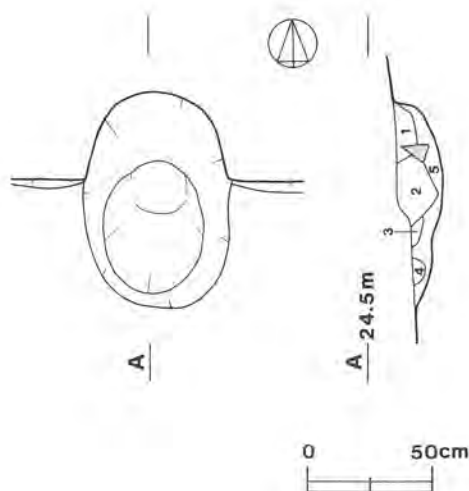
第52図 第23・31号住居跡実測図



カマド土層解説表

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 1. 褐色      | 焼土小アブロック多量                |
| 2. 暗赤褐色    | 焼土粒子中量                    |
| 3. 赤褐色     | 焼土粒子極めて多量 焼土小アブロック多量 粘土多量 |
| 4. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量                    |
| 5. にふい赤褐色  | 焼土粒子中量                    |
| 6. にふい赤褐色  | 焼土粒子中量 粘土多量               |
| 7. 褐色      |                           |
| 8. 赤褐色     | 焼土粒子多量 しまり弱い              |
| 9. 暗褐色     | 粘土多量 粘性・しまり弱い             |
| 10. 暗褐色    | 粘性・しまり弱い                  |
| 11. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量          |
| 12. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量                    |
| 13. 明褐色    | 焼土粒子中量                    |
| 14. 褐色     | 焼土粒子中量                    |
| 15. 暗褐色    |                           |
| 16. にふい赤褐色 | ローム粒子中量 焼土粒子中量 粘土中量       |
| 17. 褐色     | 粘土中量・しまり弱い                |
| 18. にふい赤褐色 | 粘性・しまり弱い                  |
| 19. 明褐色    | 焼けたローム                    |

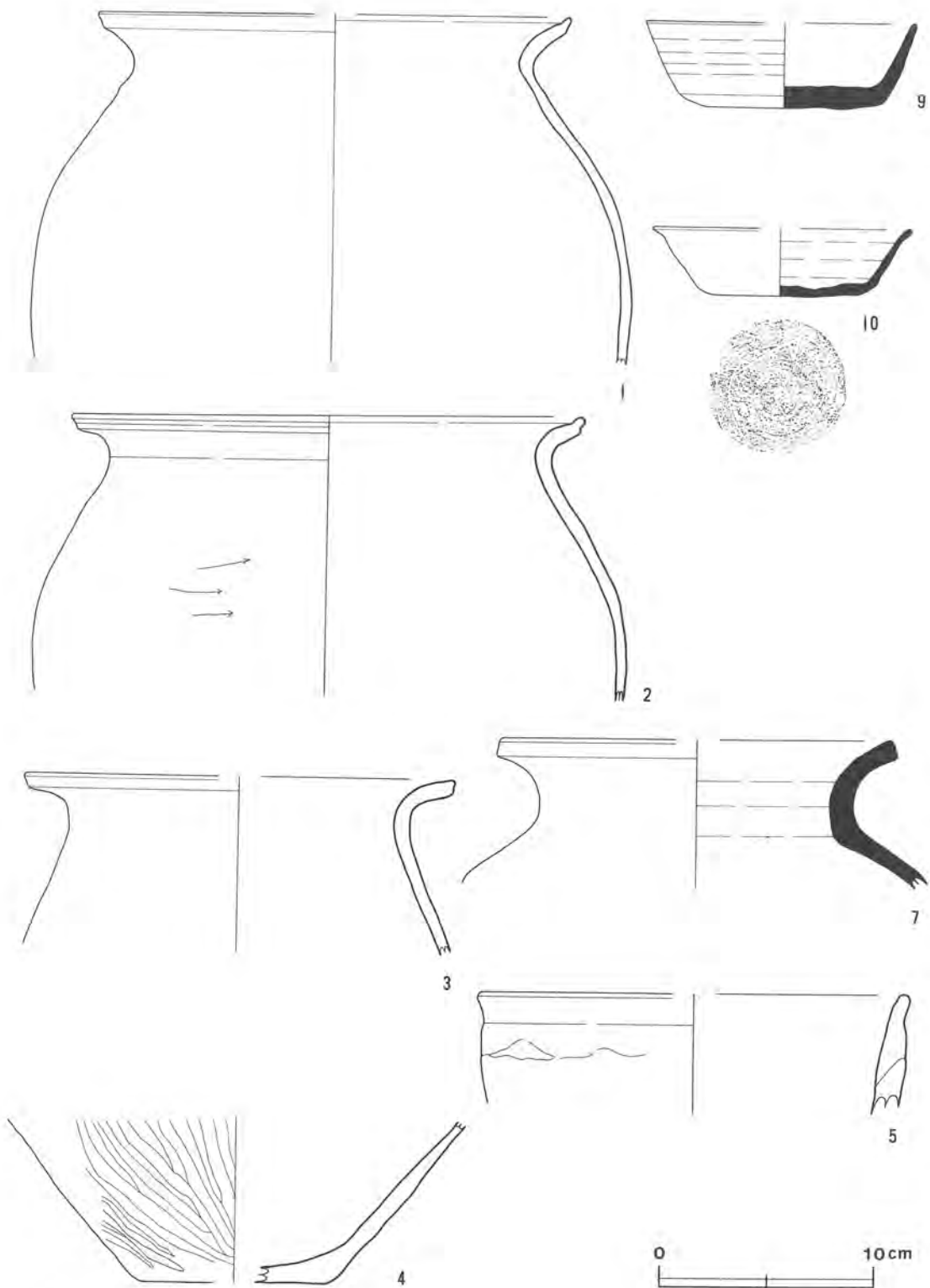
第53図 第23号住居跡カマド実測図



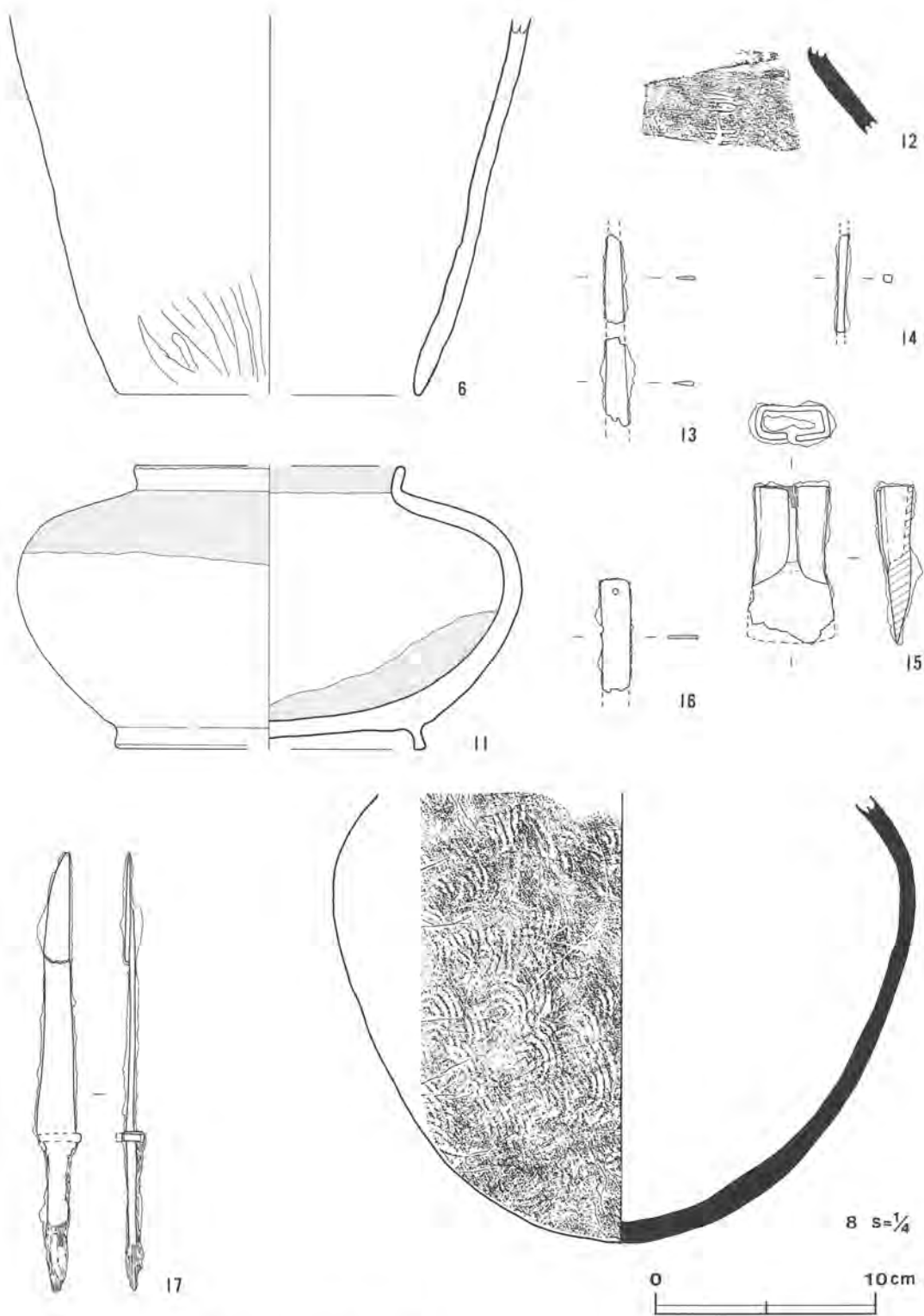
カマド土層解説表

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 黒褐色    | ローム粒子中量   |
| 2. にふい赤褐色 | 焼土粒子中量    |
| 3. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量    |
| 4. 褐色     | 粘土アブロック少量 |
| 5. 褐色     | ローム粒子中量   |

第54図 第31号住居跡カマド実測図



第55图 第23号住居跡出土遺物実測図(1)

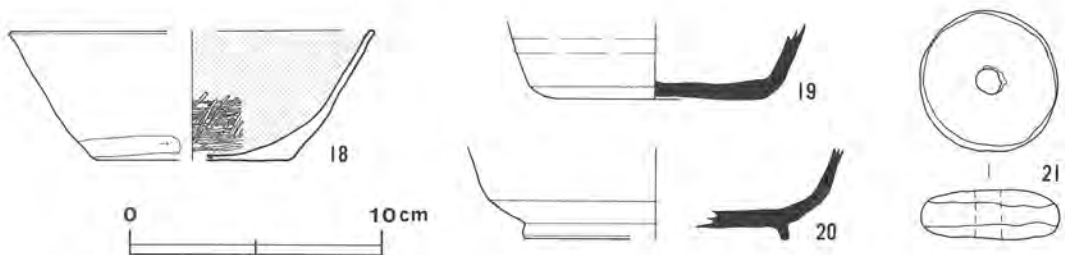


第56图 第23号住居跡出土遺物実測図(2)

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	甕 土師器	A (22.2) B (16.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口縁端部は外上 方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面、 ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P155 北東コーナー付 近覆土下層
2	甕 土師器	A 23.8 B (13.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口縁端部は外上 方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面、 ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	20% P153 北東部覆土中・ 下層 PL44
3	甕 土師器	A (20.2) B (8.3)	頸部は「く」の字状に屈曲し、 口縁端部は、上方へ軽くつまみ 出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・長石・石英 にふい橙色 普通	5% P157 北西部覆土下層
4	甕 土師器	B (7.8) C (8.6)	平底。胴部は外傾して立ち上 がる。	内面、ナデ。外面、縦・斜位の ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P158 北東コーナー付 近覆土中層
5	鉢 土師器	A (20.4) B (5.7)	胴部上位はわずかに外傾して立 ち上がり、口縁部はほぼ直立す る。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面、 ナデ。輪積み痕を残す。	砂粒 橙色 普通	5% P160 東壁際南部覆土 下層
第56図 6	甌 土師器	B (17.5) C (13.4)	無底式。胴部は内彎気味に外傾 して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、ていね いな縦位のヘラ磨き。	砂粒 にふい橙色 普通	10% P159 北東部覆土 PL50
第55図 7	甕 須恵器	A (18.9) B (6.9)	頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反する。口縁端部はわ ずかに下方へ突出し、外面には 内傾する面を成す。	頸部内面、横位のヘラナデ。	砂粒 灰色 普通	5% P164 南東部覆土中層
第56図 8	甕 須恵器	B (27.8)	丸底。胴部は内彎しながら立ち 上がり、上位に最大径をもつ。 口頸部欠損。	胴部外面、同心円叩き。内面、 軽いナデ。	砂粒 灰白色 普通	30% PL51 P162 北東コーナー付 近覆土下層、南 東部床面
第55図 9	坏 須恵器	A (12.8) B 4.1 C 9.7	平底。体部は外傾して立ち上 がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘ ラ削り。	砂粒 灰褐色 普通	50% P168 南東部覆土中層 PL52
10	坏 須恵器	A (12.1) B 3.2 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上 がり、口縁部で軽く外反する。体 部下位に鈍い稜をもち、底部と の間に面を成す。	底部、体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	80% P167 北東コーナー付 近床面逆位 ヘラ記号 PL52
第56図 11	短頸壺 灰釉陶器	A (12.2) B 13.0 D (14.2) G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。胴部は内彎しながら立ち 上がり、肩部が強く張る。口縁 部はわずかに外傾して立ち上 がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。口縁部、胴部上位外面、 底部内面に灰釉が施される。	砂粒 灰色 普通	45% P172 北東コーナー付 近床面横位 PL65
12	甕 須恵器		胴部片。	外面、平行叩き。内面、同心円 の当て具痕。	砂粒 灰色 普通	2% PL51 P165 東部床面、西壁 際覆土下層 刻書

図版番号	種類	法 量 (cm)	備 考
13	刀子	全長〔8.3〕 刀身幅〔1.1〕 刀身重 $\approx$ 0.2	刀身部破片。南部覆土出土。M20
14	鎌	全長〔4.6〕 茎幅0.4 茎厚0.4	茎部破片。覆土出土。M21
15	斧	全長7.1 刃部幅〔4.0〕 基部幅3.4 基部厚1.7	刃部の先端部破損。基部に木質付着。南東部覆土上層。PL62・M18
16	小 札	全長〔5.3〕 最大幅1.4 最大厚0.2	穿孔1か所。北西部覆土中層出土。PL62・M19
17	刀子	全長20.3 刀身長12.9 刀身幅1.9 刀身重 $\approx$ 0.4 茎長7.4 茎幅1.7 茎重 $\approx$ 0.5	ほぼ完存。 茎に、木質付着。北東部床面出土。PL62・M17



第57図 第31号住居跡出土遺物実測図

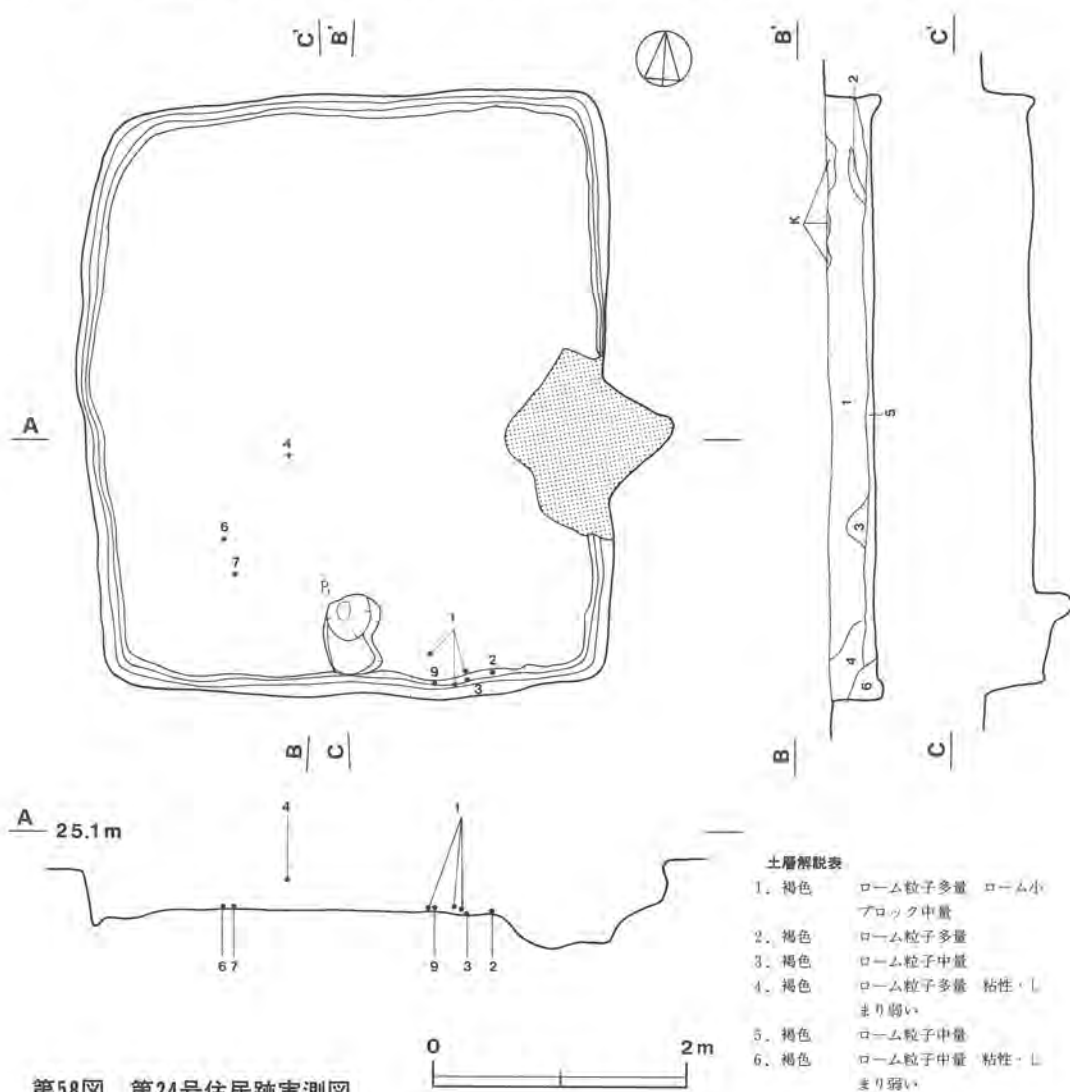
第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第57図 18	坏 土 師 器	A (14.6) B 5.2 C (7.8)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、へら磨き、黒色処理。底部、回転へら削り。体部下端、手持ちへら削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	25% P161 中央部覆土下層
19	坏 須 恵 器	B (3.0) C (8.6)	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。	底部、回転へら削り。	砂粒 灰白色 普通	15% P169 中央部覆土上層
20	高台付坏 須 恵 器	B (3.7) D (10.4) G 0.6	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に鈍い稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	10% P166 中央部覆土下層
図版番号	種 類	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備 考		
21	土製紡錘車	5.6 × 5.5 × 2.0	62.3	孔径1.0cm。北西部覆土下層出土。PL59・DP3		

第24号住居跡 (第58図)

位置 I3c0区。平面形 長方形。規模 4.78×4.20m。主軸方向 N-81°-E。壁 直立。壁高 32~44cm。壁溝 全周。上幅10~18cm, 深さ4~8cm。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(37×34, -34cm) カマド 東壁南寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長133cm, 幅141cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は, 床面より20cm余深く掘り窪めた後, 凝灰岩製の支脚(直径8cm, 長さ25cm程度)を立て, 粘土や焼土を含む土で整地した後, その上面を使用している。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏) 597点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋) 37点。鉄製品(刀子) 1点。土製品 1点。中央部から南部にかけての覆土から主に出土している。南壁際東寄りの床面上に, 第60図1の甕が丸石に押しつぶされたような状態で出土しており, すぐ横に2・3の坏が出

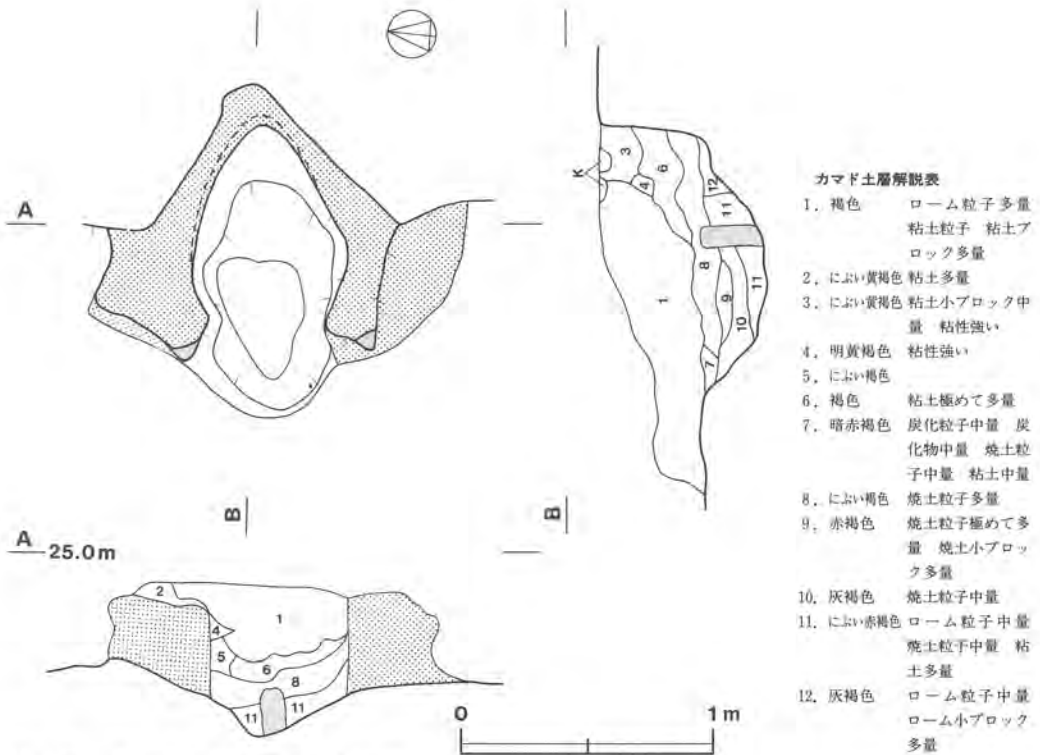


第58図 第24号住居跡実測図



土している。10の土製品は、カマドの奥壁に貼り付くようにして出土しており、カマドの構築の際に埋め込まれたものとも考えられる。

備考 当遺跡では例の少ない東壁にカマドをもつ住居の1つである。

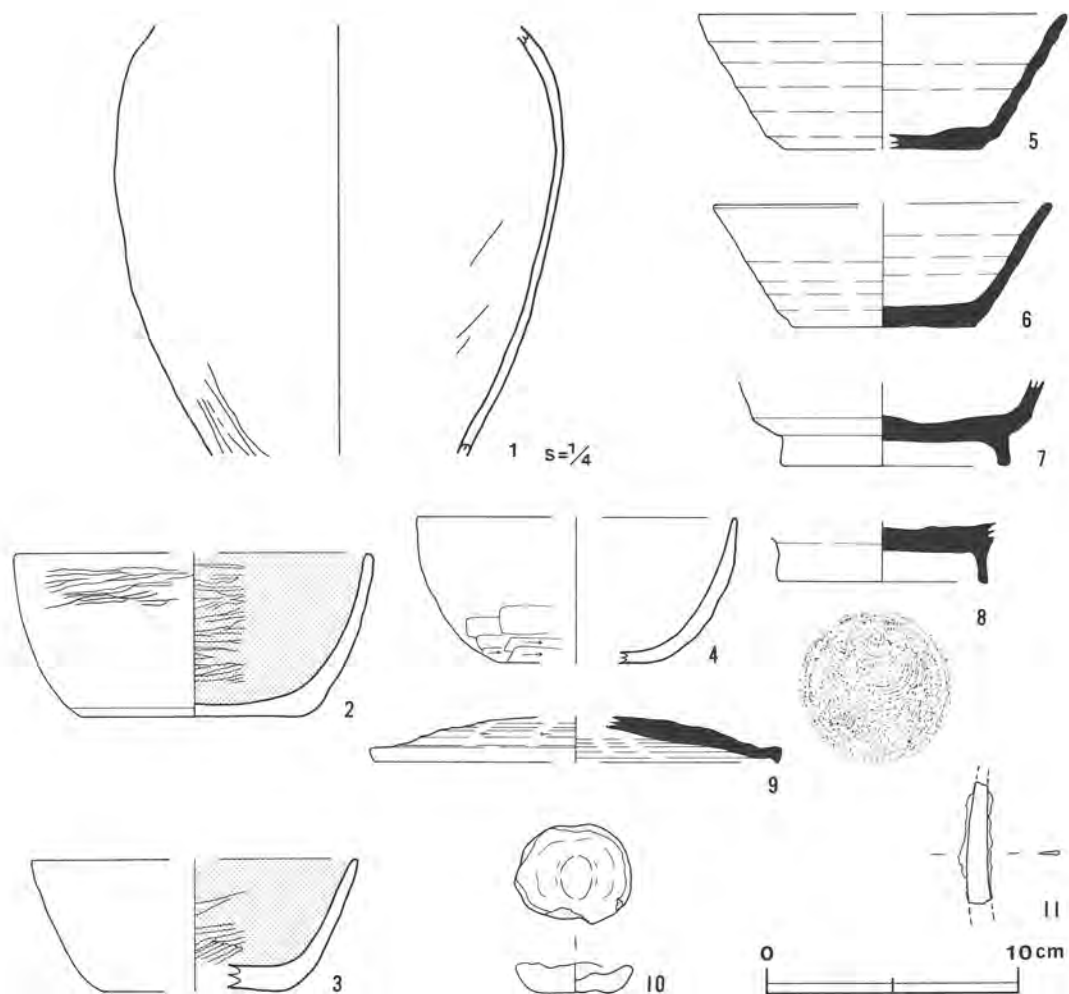


第59図 第24号住居跡カマド実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	甕 土師器	B (23.0)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 上位に最大径をもつ。	胴部内面、横・斜位のヘラナデ。 外面、縦・斜位のヘラ磨き。	砂粒・スコリア・ 雲母 にふい橙色 普通	40% P173 南壁際東寄り床 面直上
2	坏 土師器	A (14.0) B 6.5 C 8.9	平底。体部は内彎気味に外傾し て立ち上がる。下位に鈍い稜を もち、底部との間に幅の狭い面 を成す。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、口縁部外面、 ヘラ磨き、黒色処理。底部、体 部下端、回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	50% P175 南壁際東部床面 逆位 P L49
3	坏 土師器	A (13.0) B 5.3 C (7.0)	平底。体部は外傾して立ち上 がり、口唇部はやや尖る。体部と 底部との境はやや丸みをもって 屈曲する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	45% P176 南壁際東部床面 直上 P L49

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 4	坏 土師器	A (12.9) B 5.8 C (6.2)	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部でほぼ直立する。	口縁部内・外面、横ナデ。体部外面中・下位、横位のヘラナデ。底部、静止糸切り後、外周部ヘラナデ。	砂粒・スコリアにふい黄橙色普通	20% P174 中央部覆土上層
5	坏 須恵器	A (14.8) B 5.4 C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒にふい橙色不良	50% P177 北東部覆土・カマド覆土 P L52
6	坏 須恵器	A (13.6) B 4.9 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒灰色普通	45% P178 南西部床面直上正位 P L52



第60図 第24号住居跡出土遺物実測図

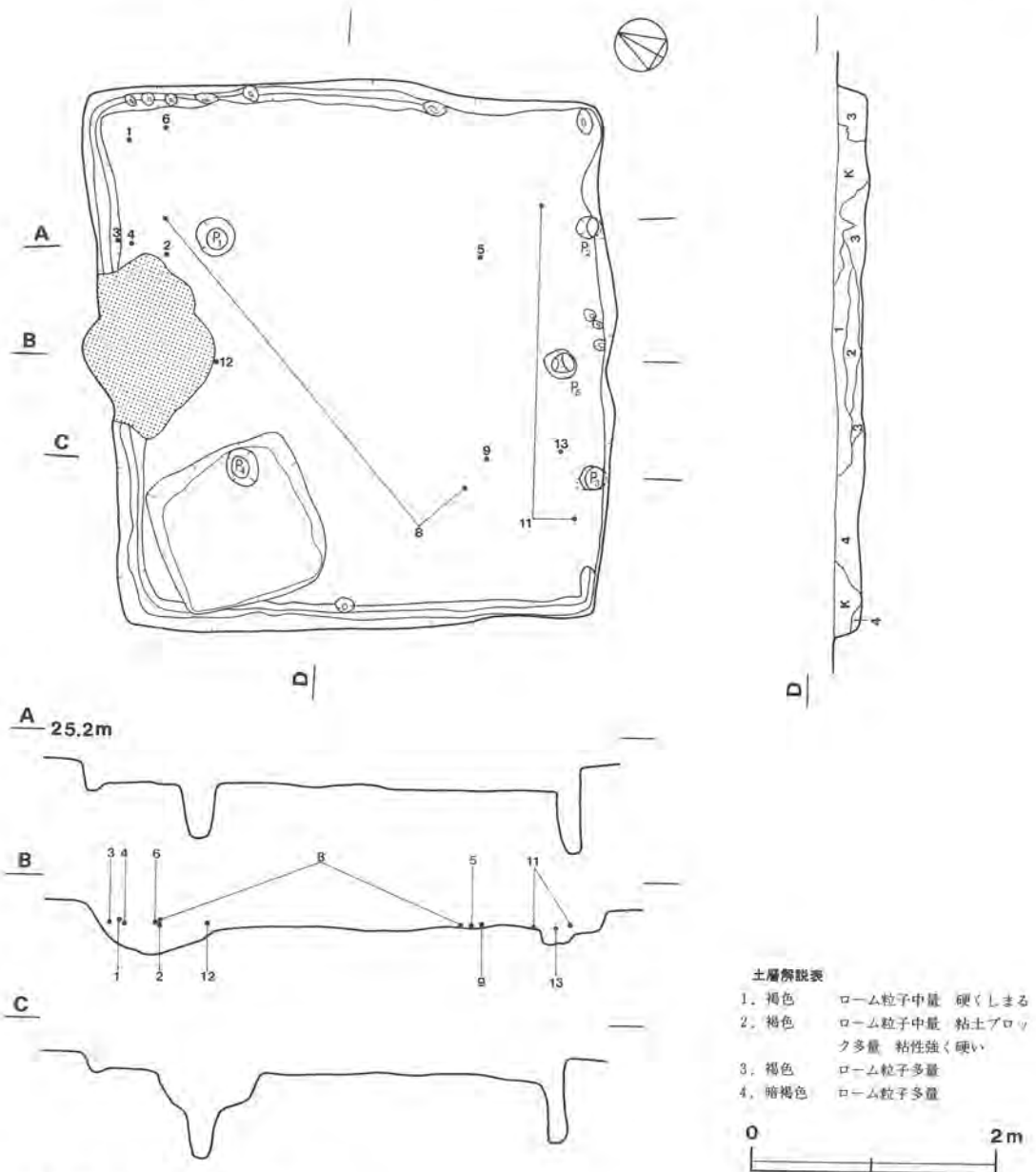
図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第60図 7	高台付坏 須 恵 器	B〔3.4〕 D〔9.2〕 G 1.2	平底。ほぼ直立する高台が付く。 体部下位に稜をもち、高台部と の間に幅の狭い面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼 り付け。	砂粒 灰色 普通	30% P182 南西部床面直上 正位
8	高台付坏 須 恵 器	B〔1.3〕 D 8.3 G 1.3	平底。ほぼ直立する高台が付く。	底部、回転糸切り後、外周部回 転へら削り、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	20% P181 北部覆土 P L56
9	蓋 須 恵 器	A〔16.4〕 B〔1.8〕	天井部は浅い。なだらかに下降 し、外周部で軽く外反する。口 縁部は短く垂下する。つまみ欠 損。	天井部、回転へら削り。	砂粒 にふい橙色 不良	20% P183 南壁際東部覆土 下層

図版番号	種 類	長さ × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備 考
10	皿形土製品	4.6 × 4.0 × 1.1	13.7	小型の皿状を呈する。カマド内壁面出土。 P L59・D P 4

図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
11	刀 子	全長〔4.9〕 最大幅0.9 最大厚0.2	刀身部破片。南東部覆土出土。 M22

第25号住居跡 (第61図)

位置 I3a0区。平面形 方形。規模 4.57×4.25m。主軸方向 N-26°-W。壁 直立。壁高 14~23cm。壁溝 東・北・西壁際に検出。上幅14~24cm, 深さ4cm。床 ゆるい起状。北西部の方形の落ち込みは攪乱。ピット 5ヶ所。P<sub>1</sub> (33×33, -48cm) P<sub>2</sub> (20×18, -57cm) P<sub>3</sub> (21×18, -57cm) P<sub>4</sub> (32×26, -47cm) P<sub>5</sub> (28×25, -13cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。P<sub>2</sub>, P<sub>3</sub>は内側へわずかに傾くように掘られている。壁溝に沿った小さな落ち込みは、極浅い窪み程度のもの。カマ

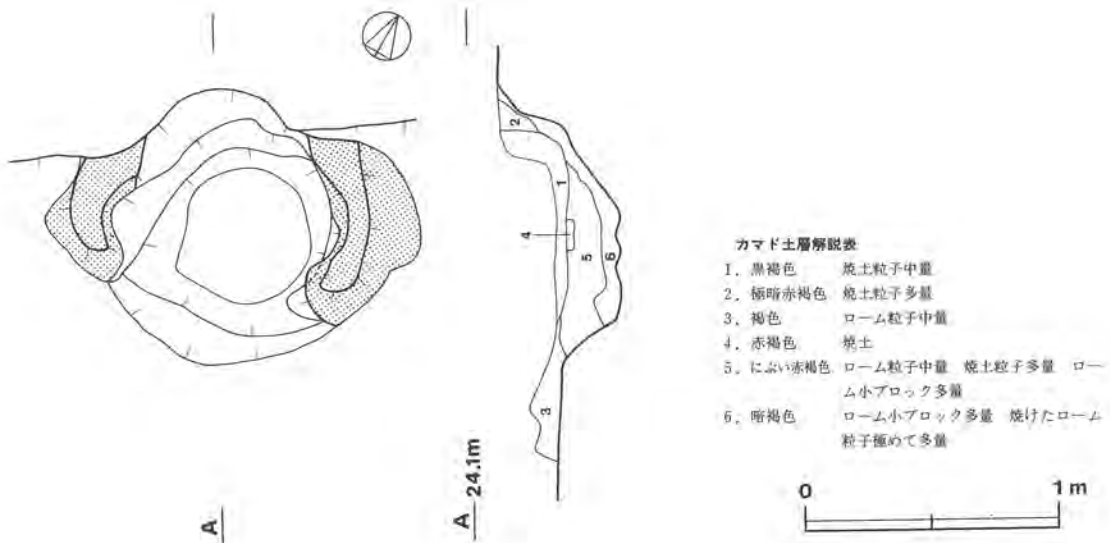


第61図 第25号住居跡実測図

ド 北壁中央。粘土で構築。全長110cm, 幅145cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約20cm。火床は、床面より20cm程深く掘り窪められている。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 鉢, 甑, 小型鉢) 185点。須恵器片(甕, 壺, 坏, 高台付坏) 39点。主に北東部及び南西部から出土している。

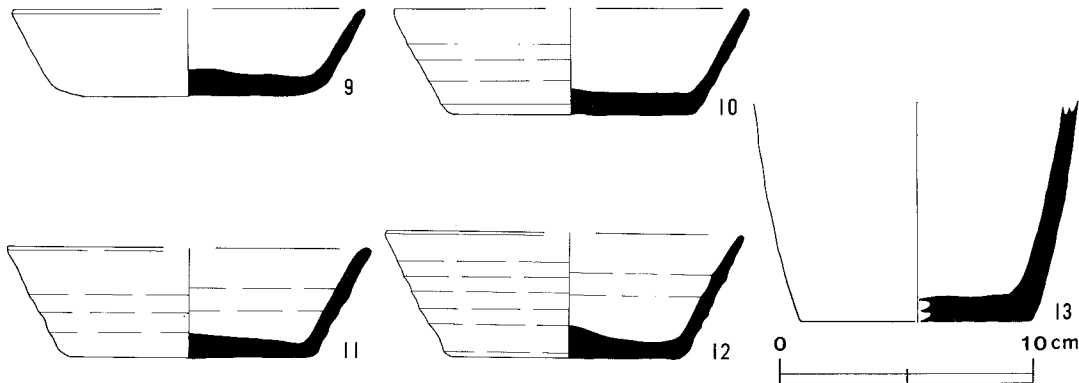
備考 第63図3の鉢や6・7の小型鉢など, 粗製の土器の多いことが本跡の特徴である。また, 内傾する柱穴も, 当遺跡では本跡のみに認められる。



第62図 第25号住居跡カマド実測図



第63図 第25号住居跡出土遺物実測図(1)



第64図 第25号住居跡出土遺物実測図(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	甕 土師器	A (28.9) B (14.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部はゆるく外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のへらナデ。外面、縦位のへら削り。	砂粒・石英 黒褐色 普通	10% P187 北東コーナー付近覆土下層
2	甕 土師器	A (22.8) B (9.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて、丸味をもって強く外反し、口縁端部は外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のへらナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% P186 カマド付近床面
3	鉢 土師器	A (9.2) B 9.6 C 5.0	平底。胴部は内彎気味に立ち上がり、中位からほぼ直立する。 口縁端部は外上方へつまみ出すようにして整えられている。	胴部内面上半、横位のナデ。下半、縦位の指頭によるナデ。外面、多方向のナデ。下端、横位のへら削り。内外面に輪積み痕を残す。底部、木葉痕。	砂粒 浅黄橙色 普通	90% P188 北壁際東部床面直上横位 P L48
4	鉢 土師器	A 10.8 B 11.5 C (5.9)	平底。胴部は内彎気味に立ち上がり、中位からほぼ直立する。 口縁部は器厚が薄く、軽く外反する。	口縁～胴部内面、ナデ。外面、ナデ。胴部下端、横位のへら削り。胴部内外面に輪積み痕を残す。	砂粒 にぶい赤橙色 普通	50% P190 北壁際東部床面直上 P L48
5	鉢 土師器	A 14.3 B 8.2 C 6.9	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。手捏状の歪んだ器形を呈する。	口縁～胴部内面、横・斜位のナデ。外面ナデ。胴部下端、横位のへら削り。底部、ナデ。胴部内外面に輪積み痕を残す。	砂粒 にぶい橙色 普通	80% P189 南東部覆土下層正位 P L48
6	小型鉢 土師器	A 5.9 B 4.4 C 3.8	平底。胴部は器厚を減じながらほぼ直立する。下位に稜をもち、底部との間に面を成す。口唇部はやや尖る。	口縁～胴部内面、横・縦位の指頭によるナデ。外面、ナデ。胴部下端、横位のへら削り。底部木葉痕。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	90% P192 北東部覆土下層横位 P L48
7	小型鉢 土師器	A (6.5) B 5.0 C (4.0)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、口唇部はやや尖る。	口縁～胴部内面上半は横位、下半は縦位の指頭によるナデ。外面、ナデ。輪積み痕をわずかに残す。底部、木葉痕。	砂粒 浅黄橙色 普通	40% P191 南西部覆土 P L48

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 8	甗 土師器	A (25.8) B (29.5)	無底式。胴部は内彎しながら立ち上がり、頸部は緩く外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面上位ナデ。中位以下、縦位のヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	砂粒・雲母 にふい黄橙色 普通	30% P193 北東部床面、南西部床面直上 P L50
第64図 9	坏 須恵器	A (13.8) B 3.5 C (8.2)	平底。体部は外傾して立ち上がり、底部との境は丸味をもつ。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	40% P194 南西部床面直上 正位 P L52
10	坏 須恵器	A (14.0) B 4.2 C (9.6)	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 不良	30% P196 北西部、カマド覆土
11	坏 須恵器	A (14.4) B 4.4 C 9.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	50% P195 南東部、南西部床面直上 P L52
12	坏 須恵器	A (14.2) B 5.0 C 8.9	平底。体部は器厚を減しながら外傾して立ち上がる。	底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 灰白色 不良	70% P197 カマド付近床面 正位 P L52
13	壺か 須恵器	B (8.7) C (9.2)	平底。胴部はわずかに外傾して立ち上がる。	底部、ていねいなナデ。	砂粒 灰色 普通	5% P198 南部床面直上

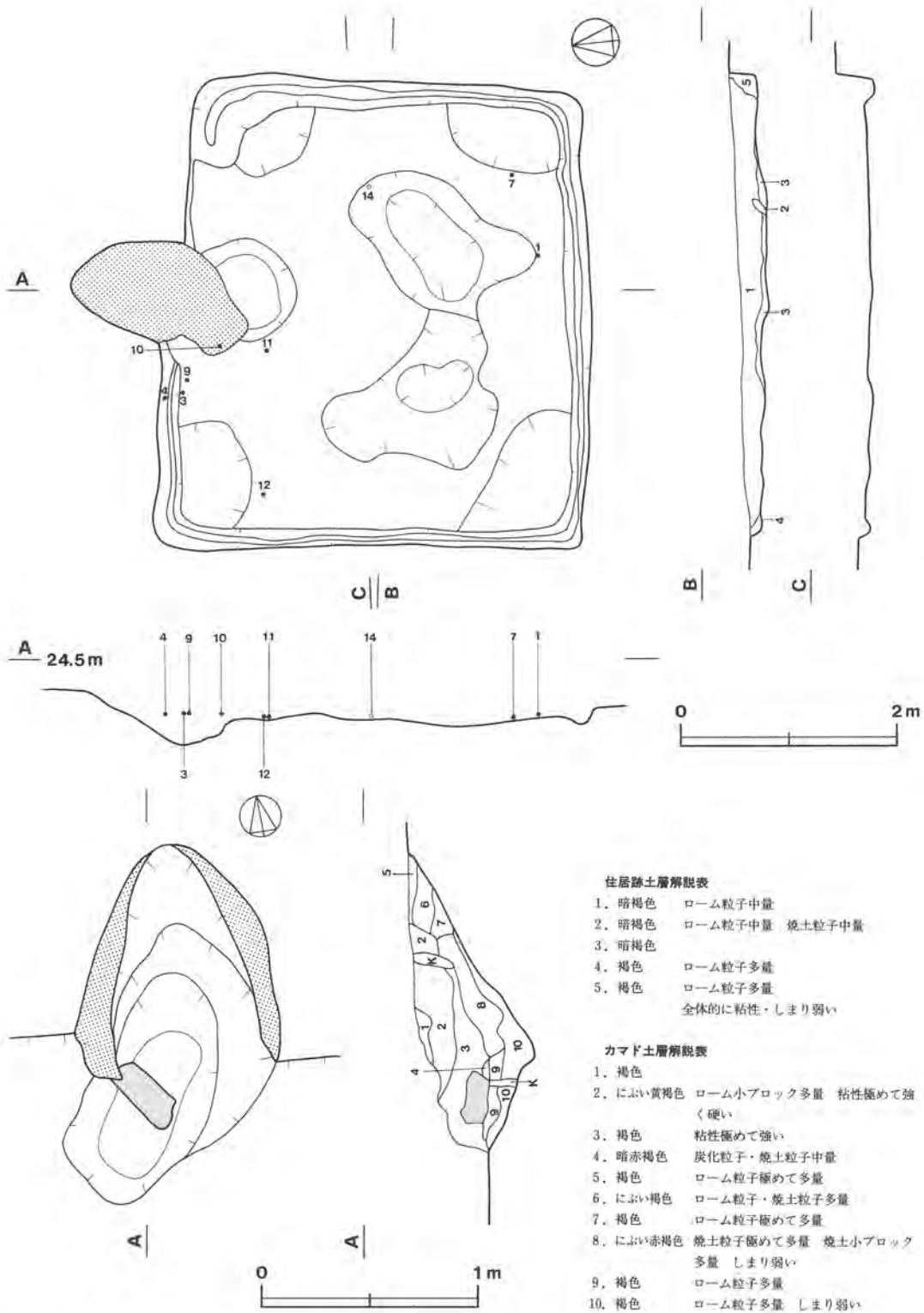
## 第26号住居跡（第65図）

**位置** J4e3区。**平面形** 長方形。**規模** 4.42×3.98m。**主軸方向** N-8°-E。**壁** 外傾。壁高7~28cm。**壁溝** ほぼ全周。上幅13~20cm、深さ3~7cm。**床** 凹凸。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長167cm、幅95cm、煙道部の壁面への掘り込みは約90cm。火床は、床面より20cm程度深く掘り窪められている。カマド前面の床も楕円形に大きく掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

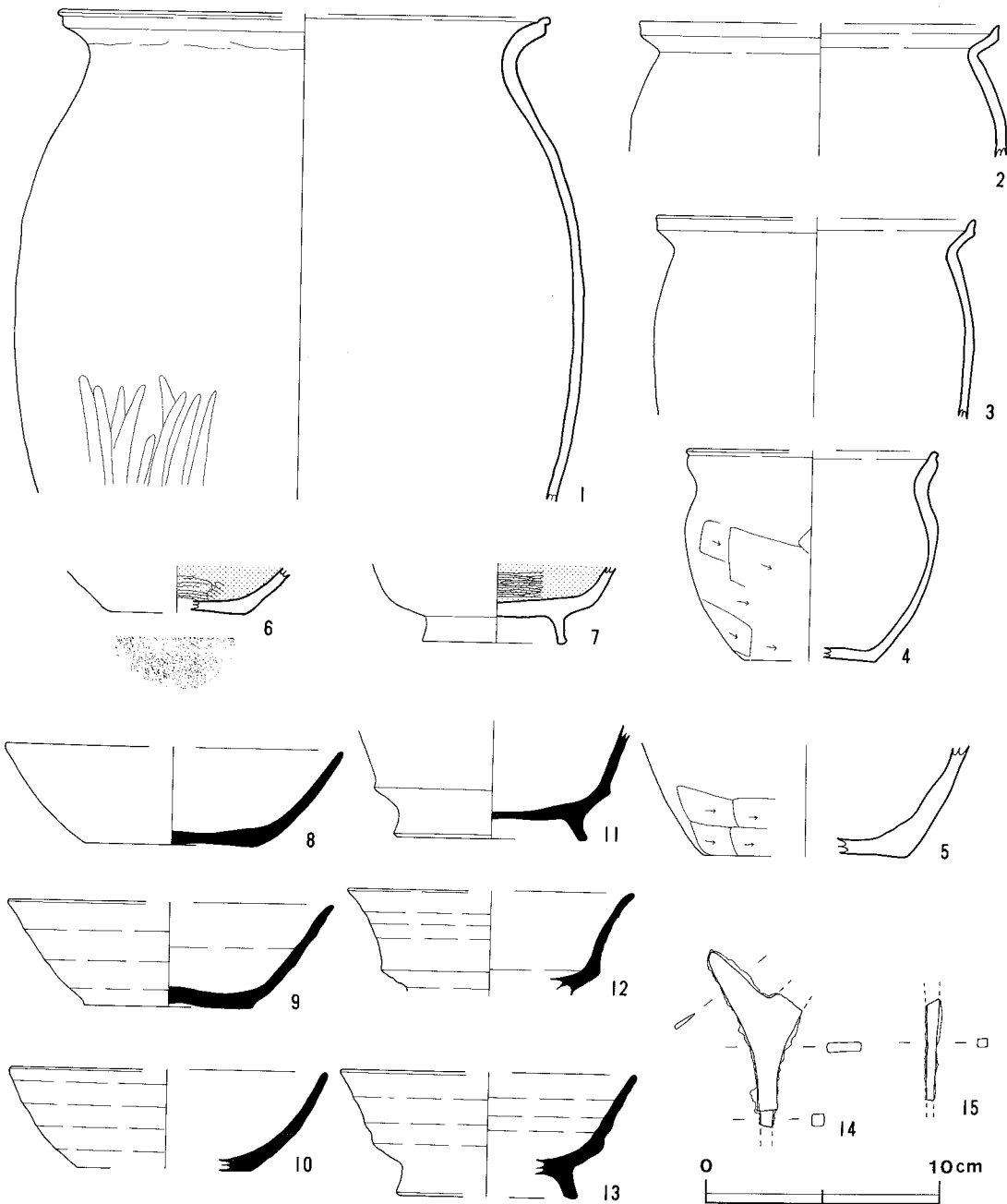
**遺物** 土師器片（甗，坏，高台付坏）296点。須恵器片（甗，坏，高台付坏，甗）65点。陶器片2点。鉄製品（鏃2，器種不明1）3点。砥石1点。第66図3・4の甗と9の坏は、カマド付近の床面にまとまって出土している。1の甗は、南東部南壁際の床面につぶれた状態で出土している。

**所見** カマド前面の掘り込みは、灰の掻き出し口と考えられる。





第65図 第26号住居跡・カマド実測図



第66図 第26号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	甕 土師器	A (21.0) B (20.9) E (24.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口縁端部は外上 方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面上 位、ナデ。下位、縦位のヘラ磨 き。	砂粒・雲母・石 英 にふい橙色 普通	20% P210 南壁際東部床面

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 2	小型甕 土師器	A (15.4) B ( 5.7)	丸く張った胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	5% P201 北西部覆土
3	小型甕 土師器	A (13.6) B ( 8.6)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	胴部内面、ナデ。外面下端、横位ナデ。外面、縦位のヘラナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	5% P212 北壁際西部床面
4	小型甕 土師器	A (10.6) B 9.1 C ( 5.6)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて器厚を増して外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	50% P211 北壁際西部床面 横位 P L45
5	甕 土師器	B ( 4.8) C ( 8.8)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面、横位のナデ。外面下位、横位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒、雲母 橙色 普通	5% P203 カマド覆土
6	坏 土師器	B ( 2.0) C ( 5.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、静止糸切り後外周部、及び体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒 にふい橙色 普通	10% P204 北西部覆土
7	高台付坏 土師器	B ( 3.3) D 6.2 G 1.2	平底。ほぼ直立する高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもって屈曲する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き。黒色処理。底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・スコリア にふい橙色 普通	50% P213 南東部床面直上 逆位
8	坏 須恵器	A (14.4) B 4.2 C ( 7.2)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	20% P207 南西部覆土 P L52
9	坏 須恵器	A (14.0) B 4.5 C ( 7.2)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 黄灰色 普通	50% P214 北壁際西部床面 逆位 P L52
10	坏 須恵器	A (13.6) B 4.2 C ( 7.5)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	底部、ナデ。	砂粒、長石 灰色 普通	20% P215 カマド付近覆土 下層
11	高台付坏 須恵器	B ( 5.1) D ( 8.0) G 1.0	平底。外側へふんばる高台が付く。下位に強い稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 浅黄橙色 普通	30% P217 カマド前面床面 直上正位 P L55
12	高台付坏 須恵器	A (12.4) B ( 4.4)	底部欠損。体部は外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。		砂粒 灰色 普通	10% P216 北西部床面直上
13	高台付坏 須恵器	A (12.8) B 5.4 D ( 7.8) G 1.4	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に丸味をもった稜をもち、高台部との間に面を成す。		砂粒 褐灰色 普通	10% P209 南西部覆土

図版番号	種類	法量 (cm)	備考
14	鎌	全長 (7.5) 茎長 (0.7)	鎌身長6.7 鎌身幅 (4.5) 茎幅0.5 雁股式。東部覆土下層出土。 P L62 M26
15	鎌	全長 (4.4)	茎の一部。M26と同一個体か。南西部覆土出土。 M25

第27号住居跡（第68図）

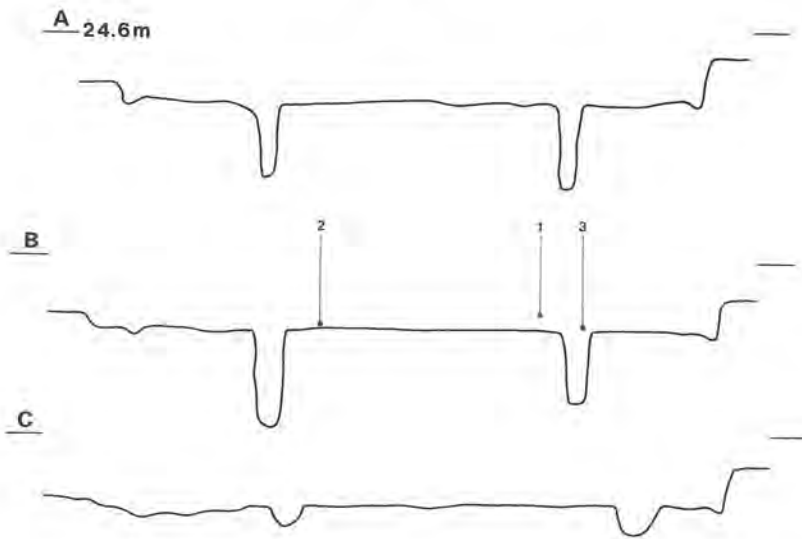
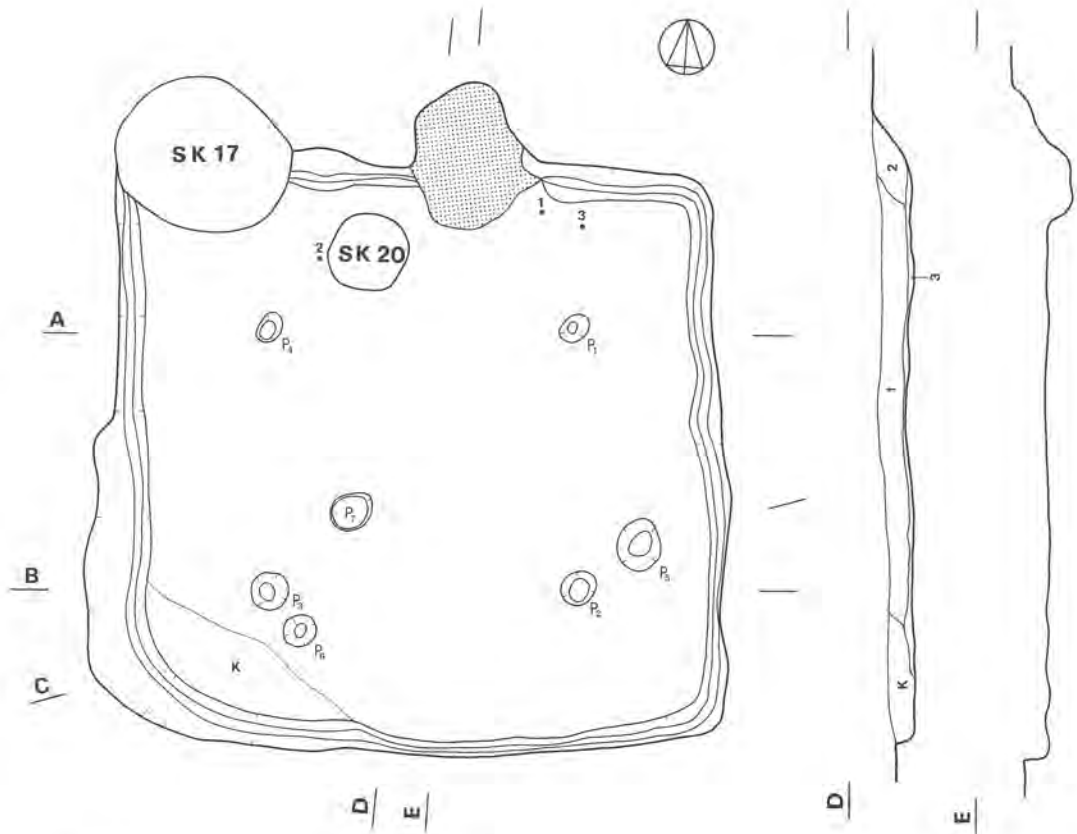
位置 J4e5区。重複関係 SK-17・20より古い。平面形 方形。規模 5.07×4.75m。主軸方向 N-4°-W。壁 直立。壁高12~36cm。壁溝 全周。上幅10~25cm, 深さ4~5cm。床 平坦。ピット 7か所。P<sub>1</sub>(25×25, -70cm) P<sub>2</sub>(29×27, -61cm) P<sub>3</sub>(30×28, -71cm) P<sub>4</sub>(23×19, -63cm) P<sub>5</sub>(40×36, -23cm) P<sub>6</sub>(26×24, -18cm) P<sub>7</sub>(32×30, -10cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が主柱穴。カマド 北壁東寄り。粘土で構築。全長112cm, 幅97cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は, 床面より15cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏) 239点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏) 16点。鉄製品(鏃) 1点。鉄滓1点。第69図1の甕片は、カマドの横(覆土中層)に内面を上に向けて出土している。

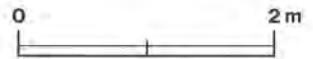
備考 中央部から南西部の床面, 及び覆土下層に, 長径5~20cm程の礫が多数(25点以上)散乱した状態で出土している。



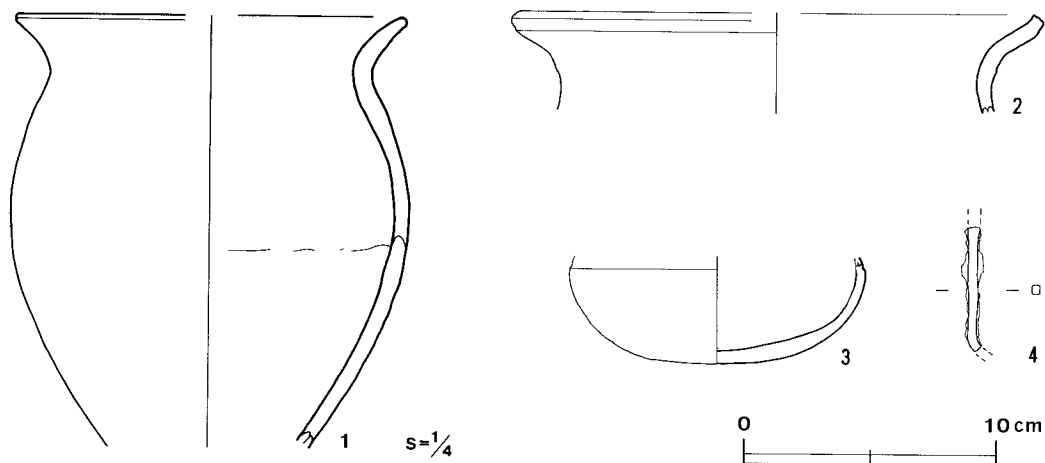
第67図 第27号住居跡カマド実測図



- 土層解説表
- |        |         |                |
|--------|---------|----------------|
| 1. 黒褐色 | ローム粒子中量 | 粘性・しまり弱い       |
| 2. 黒褐色 | ローム粒子中量 | 凝灰岩ブロック少量 粘性弱い |
| 3. 暗褐色 | ローム粒子多量 | 粘性・弱い          |



第68図 第27号住居跡実測図



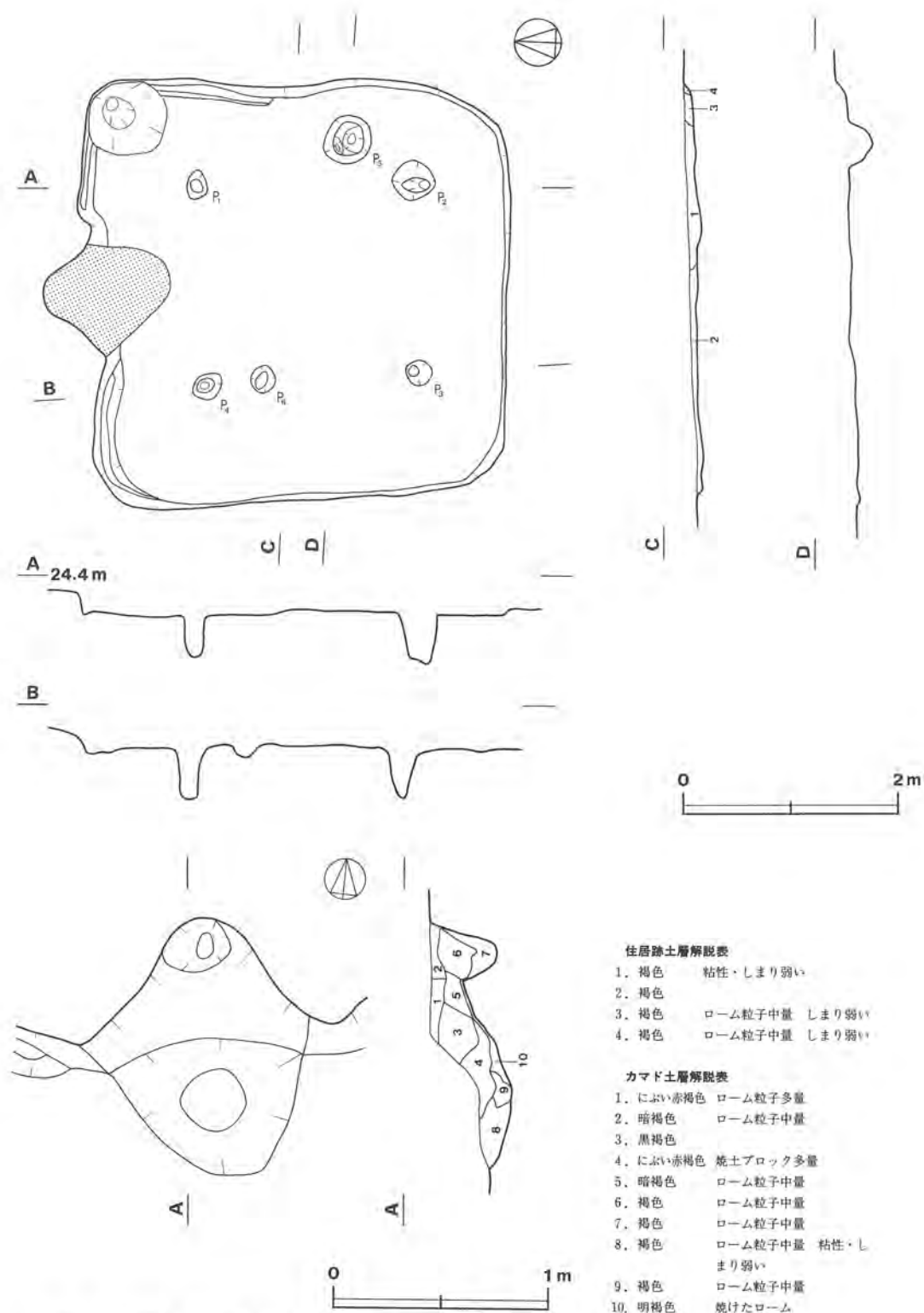
第69図 第27号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	甕 土師器	A (20.4) B (23.1)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、縦・横位のナデ。外面、縦位のへら削り、及びへらナデ。	砂粒・雲母・ス コリア 橙色 普通	30% P 199 カマド付近覆土 中層 P L 45
2	甕 土師器	A (20.6) B (3.9)	頸部は丸味をもって外反する。口縁部は上方へわずかに立ち上がり、口唇部は平坦な面を成す。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	5% P 202 北西部床面直上
3	坏 土師器	B (4.3)	丸底。底部から体部にかけて内彎しながら立ち上がる。口縁部は体部との境に稜をもち、わずかに内傾して立ち上がる。	内面、横ナデ。口縁部外面、横ナデ。体部・底部外面、ナデか (内外面とも磨減が著しい)。	砂粒 灰褐色 普通	50% P 240 カマド付近床面 直上
図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
4	鉄	全長 (5.0)	最大幅0.6 最大厚0.4	茎の一部。北西部覆土出土。		P L 62 M 27

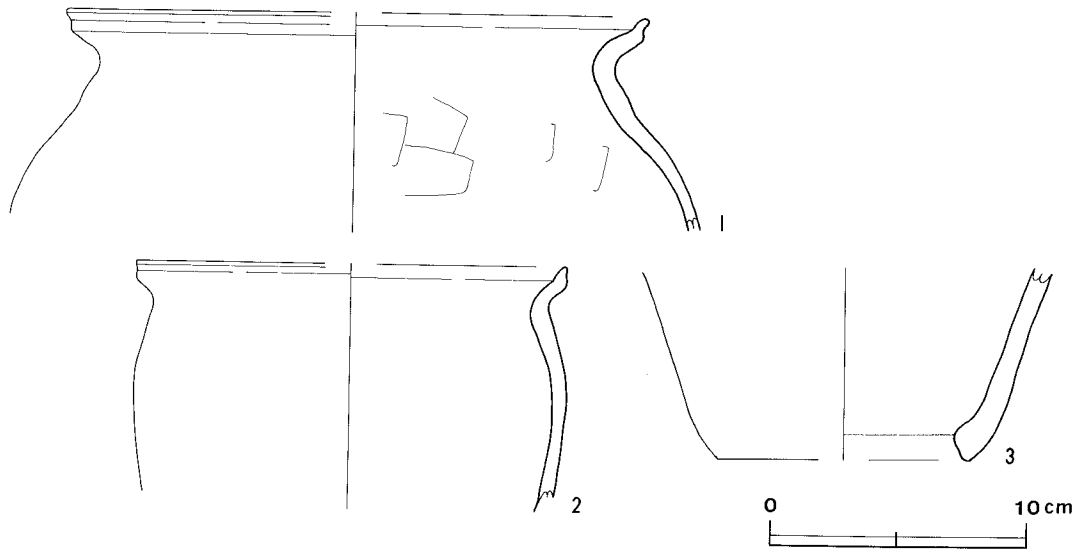
第28号住居跡 (第70図)

位置 J4g3区。平面形 方形。規模 4.02×4.02m。主軸方向 N-4°-W。壁 直立。壁高 0~20cm。壁溝 北・東壁際に検出。上幅12~20cm、深さ5~10cm。床 平坦。北東コーナー付近が10cm程円形に窪む。ピット 6か所。P<sub>1</sub> (28×18, -42cm) P<sub>2</sub> (40×40, -50cm) P<sub>3</sub> (25×24, -40cm) P<sub>4</sub> (30×25, -49cm) P<sub>5</sub> (45×40, -28cm) P<sub>6</sub> (27×24, -14cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が主柱穴。カマド 北壁中央。粘土で構築。全長120cm、幅90cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面より10cm程掘り窪められている。煙道部に、上端径30×25cm、深さ31cmの小ピットを検出。覆土 自然堆積。



第70図 第28号住居跡・カマド実測図

遺物 土師器片（甕，甌，坏）234点。須恵器片（坏，蓋）2点。大半が小破片で，覆土から出土している。



第71図 第28号住居跡出土遺物実測図

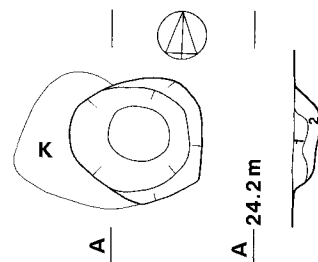
出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	甕 土師器	A (23.0) B〔8.5〕	張りの強い胴部から，頸部は丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，横位のへらナデ。外面，ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% P222 北東部覆土
2	甕 土師器	A (16.9) B〔9.8〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，横・斜位のへらナデ。外面ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P221 北東部覆土
3	甌 土師器	B〔7.7〕 C (10.0)	底部から胴部下位にかけての破片。	胴部内・外面，ナデ。	砂粒・石英 にふい橙色 普通	5% P223 北西部覆土



第29号住居跡（第72図）

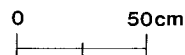
位置 J4f4区。平面形・規模・壁 不明。床 カマド前面に硬いロームの床面がわずかに残る。ピット 無。カマド 火床のみ検出。上端径52×51cm，深さ12cmの円形に掘り窪められ，底面のロームが焼土化している。覆土 遺構確認の段階で住居跡の大半が削平されているため，本来の覆土は不明。



遺物 土師器片（甕）30点。須恵器（坏）2点。確認面上に散乱した状態で出土している。

カマド土層解説表

- |        |         |
|--------|---------|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量 |
| 2. 明褐色 |         |



第27図 第29号住居跡カマド実測図

第30号住居跡（第73図）

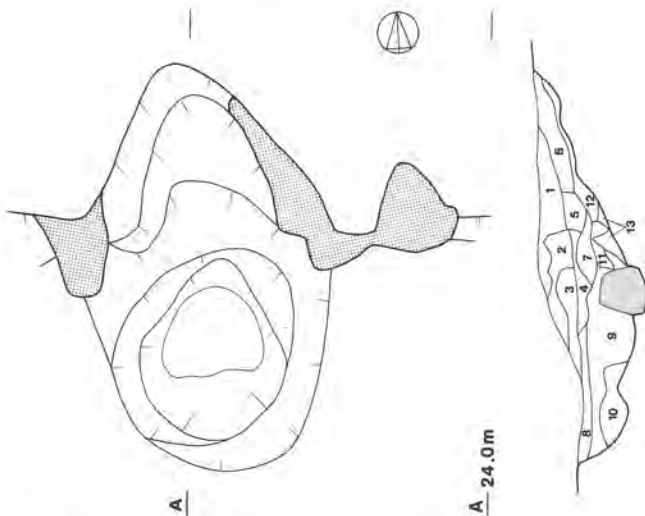
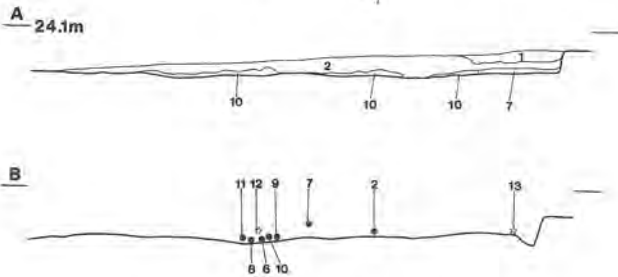
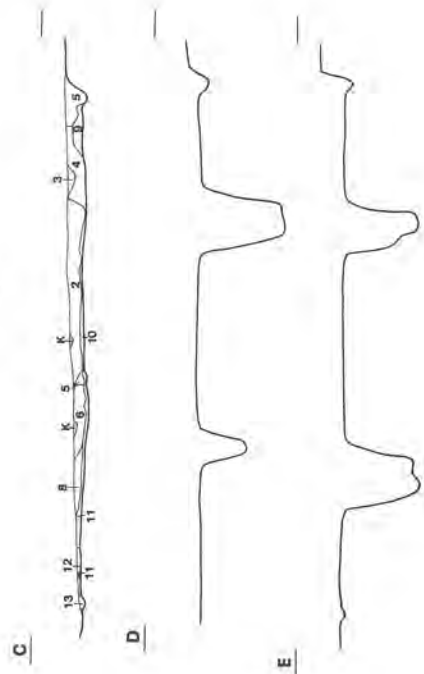
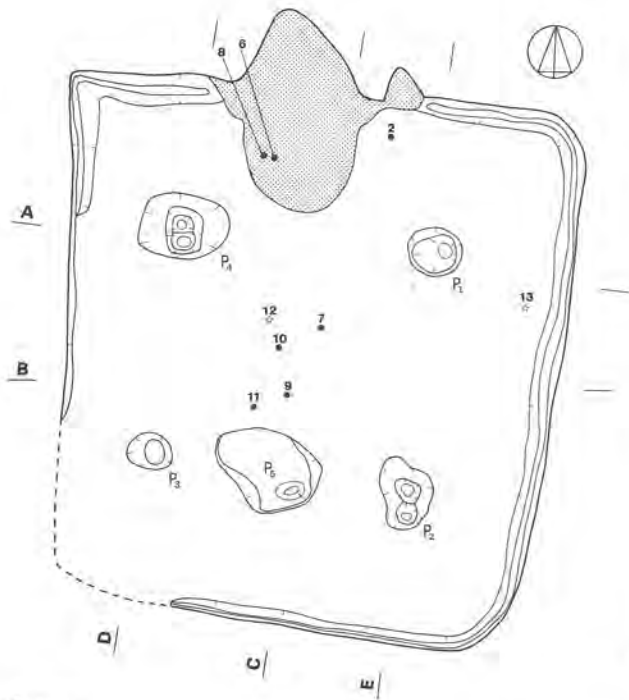
位置 J4g2区。平面形 長方形。規模 5.85×4.93m。主軸方向 N-4°-E。壁 直立。壁高 0~26cm。壁溝 ほぼ全周。上幅15~24cm，深さ4~10cm。床 平坦。ピット 5か所。P<sub>1</sub> (55×52, -79cm) P<sub>2</sub> (78×53, -74, -81cm) P<sub>3</sub> (48×40, -50cm) P<sub>4</sub> (90×70, -87, -90cm) P<sub>5</sub> (32×19, -30cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は支柱穴。P<sub>2</sub>, P<sub>4</sub>には2段の掘り込みがある。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長220cm，幅180cm，煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は，床面より30cm程深く掘り窪め，ロームや粘土を含む土で整地した後，その上面を使用している。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片（甕，坏）386点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，蓋，高坏）62点。鉄製品（刀子1，斧1）2点。第74図6・8の坏はカマド前面の床面直上にまとまって出土している。10の高坏，11の蓋，9の高台付坏は，いずれも中央部の覆土下層から出土している。

所見 粘土が南部の床面に貼り付くようにして堆積している（1.5×1.0m，厚さ8cmの範囲）。P<sub>2</sub>, P<sub>4</sub>の二段掘り込みから，建て替えが行われたことが推測される。

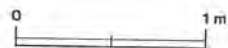
住居跡土層解説表

- |        |         |            |          |            |            |
|--------|---------|------------|----------|------------|------------|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量 | しまり弱い      | 7. 褐色    | ローム小ブロック中量 | 粘性強い       |
| 2. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 | 8. 褐色    | ローム粒子中量    |            |
|        | 硬くしまる   |            | 9. 褐色    | ローム粒子中量    | 粘土中量 粘性・強い |
| 3. 褐色  | ローム粒子中量 | 粘性・しまり弱い   | 10. 褐色   | ローム粒子中量    | 粘性強い       |
| 4. 褐色  | ローム粒子中量 | 粘性強い       | 11. 灰黄褐色 | 粘土         |            |
| 5. 褐色  | ローム粒子中量 | 粘性・しまり弱い   | 12. 褐色   | 硬くしまる      |            |
| 6. 明褐色 | 粘性弱い    | 硬くしまる      | 13. 褐色   | 粘性・しまり弱い   |            |

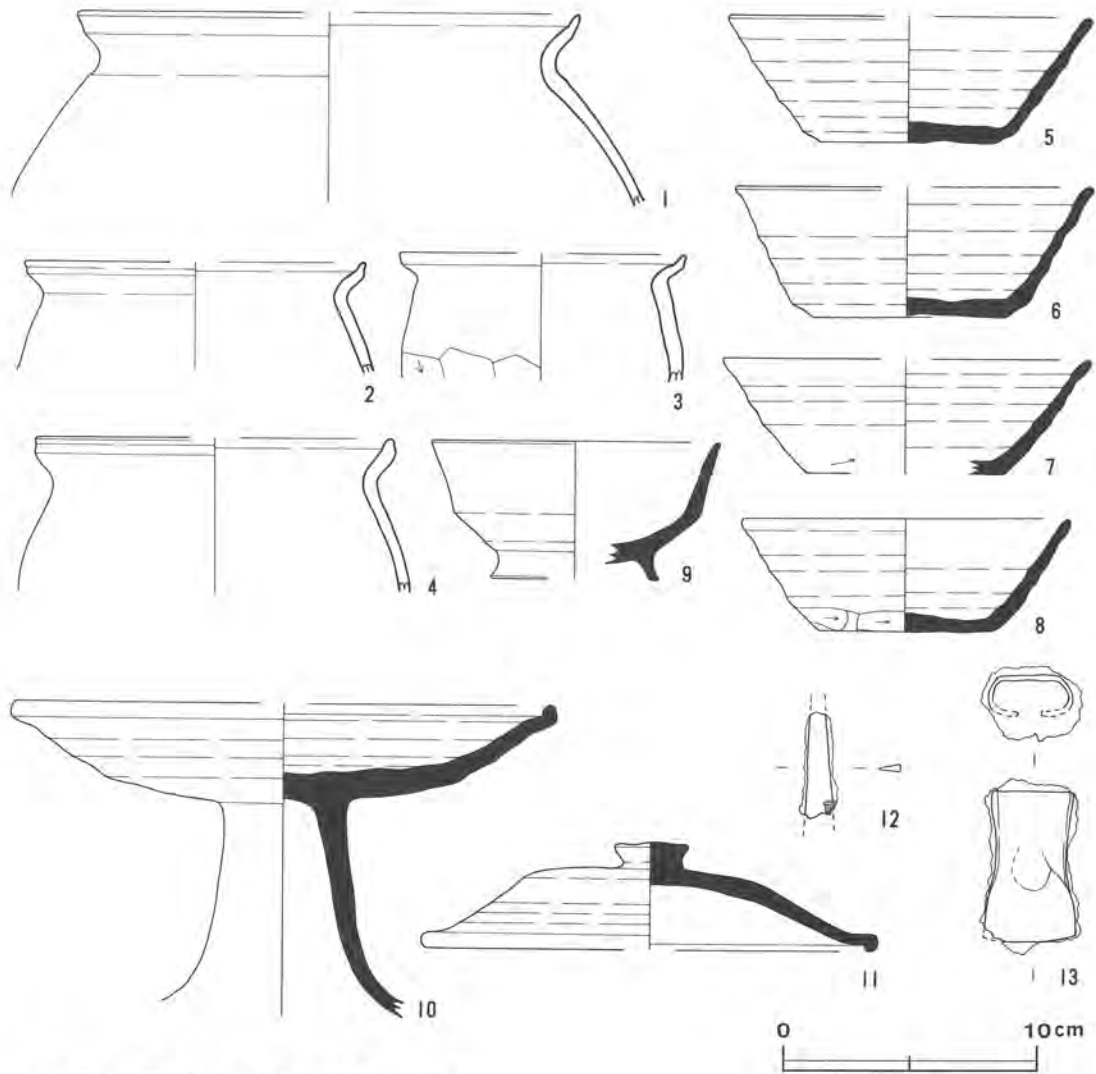


カマド土層解説表

- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 1. 褐色      | ローム粒子中量 粘土中量                    |
| 2. 暗褐色     | ローム粒子中量 焼土粒子中量<br>粘土粒子・粘土ブロック多量 |
| 3. 褐色      | ローム粒子多量 焼土粒子中量<br>粘土粒子・粘土ブロック多量 |
| 4. 暗赤褐色    | 焼土粒子中量                          |
| 5. 褐色      | ローム粒子中量 粘土中量 粘性<br>弱い           |
| 6. 褐色      | 粘土多量                            |
| 7. 赤褐色     | 焼土                              |
| 8. にぶい赤褐色  | 焼土粒子中量                          |
| 9. 褐色      | ローム粒子・ロームブロック中量<br>粘土多量         |
| 10. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量・粘土中量                     |
| 11. 灰褐色    | 粘土極めて多量                         |
| 12. にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量                    |
| 13. 明褐色    | 焼けたローム層                         |



第73図 第30号住居跡・カマド実測図



第74図 第30号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	甕 土師器	A (19.6) B (7.6)	張りの強い胴部から、頸部は丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、磨減が著しく調整は不明瞭。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P224 カマド覆土
2	小型甕 土師器	A (13.4) B (4.3)	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 暗赤灰色 普通	5% P228 北東部覆土上層
3	小型甕 土師器	A (11.2) B (5.1)	張りの弱い胴部から、頸部は「く」の状に屈曲する。口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面上位、横ナデ。中位、ヘラ削り。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P226 カマド覆土

図版番号	器 種	法 量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第74図 4	小 型 甕 土 師 器	A (14.4) B ( 6.2)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部は外反し、口縁端部は外上 方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内外面、ナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P225 カマド覆土
5	坏 須 恵 器	A (14.4) B 5.0 C ( 7.1)	平底。体部は外傾して立ち上が り、底部との境はやや丸味をも つ。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	45% P231 P <sub>4</sub> 覆土 P L52
6	坏 須 恵 器	A (14.3) B 5.2 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上が り、口縁部でわずかに外反する。 体部下端に鈍い稜をもつ。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	60% P229 カマド前面床面 直上斜位 P L52
7	坏 須 恵 器	A (14.6) B 4.6 C ( 7.8)	平底。体部は外傾して立ち上が り、口唇部は丸い。	底部、体部下端、手持ちヘラ削 り。	砂粒・長石 灰色 普通	10% P232 中央部覆土中層
8	坏 須 恵 器	A 13.0 B 4.5 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上が る。	底部、多方向のヘラ削り。体部 下端、手持ちヘラ削り。	砂粒・長石 青灰色 普通	60% P230 カマド前面床面 直上逆位 P L52
9	高 台 付 坏 須 恵 器	A 11.2 B 5.5 D ( 6.4) G 0.8	平底。外側へふんばる高台が付 く。体部は外傾して立み上がる。 下位に鈍い稜をもち、高台部と の間に幅広の面を成す。	底部、調整不明。	砂粒 灰色 普通	80% P233 中央部覆土下層 逆位 P L55
10	高 坏 須 恵 器	A (21.2) B (12.4)	脚部は円筒形状で、裾部は大き く開く。坏部は、底部から体部 にかけて緩やかに内彎しながら 立ち上がる。口縁部は軽く外反 した後、上方へ屈曲し、口唇部 は丸くおさめられる。	坏部底部、回転ヘラ削り後、脚 部貼り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	40% P237 中央部覆土下層 横位 P L58
11	蓋 須 恵 器	A (18.0) B 4.3 F 2.9 H 1.1	天井部はやや深い。なだらかに 下降し、外周部で軽く外反する。 口縁部は短く垂下し、口唇部は 丸い。	天井部、径10cmにわたって回転 ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	50% P236 中央部覆土下層 斜位

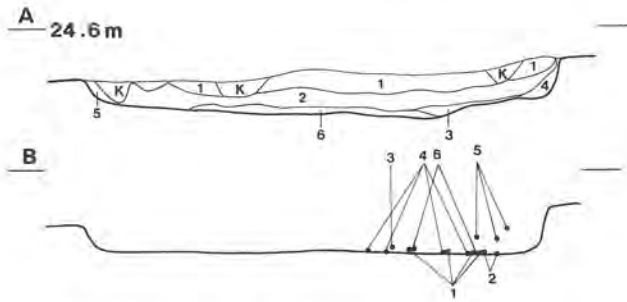
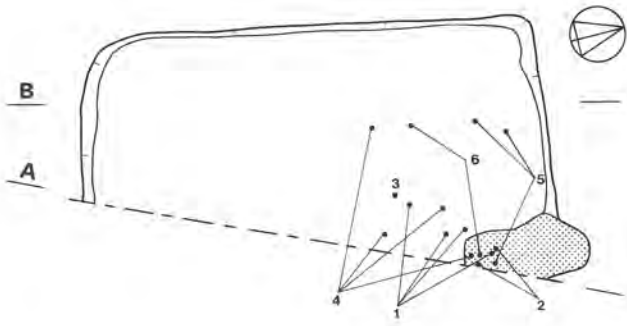
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
12	刀 子	全長〔4.2〕 最大幅1.2 最大厚0.3	刀身の一部。中央部覆土中層出土。 M28
13	斧	全長6.0 刃部幅3.7 基部幅3.3 基部厚1.7	有袋式。東壁際覆土中層出土。 P L62 M29

### 第32号住居跡 (第75図)

位置 J4g7区。平面形 方形。規模 3.72×〔2.02〕m。主軸方向 N-14°-E。壁 直立。壁  
高21~36cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝  
灰岩を使用。全長100cm、幅〔47〕cm、煙道部の壁面への掘り込みは約30cm。火床は、床面より10  
cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

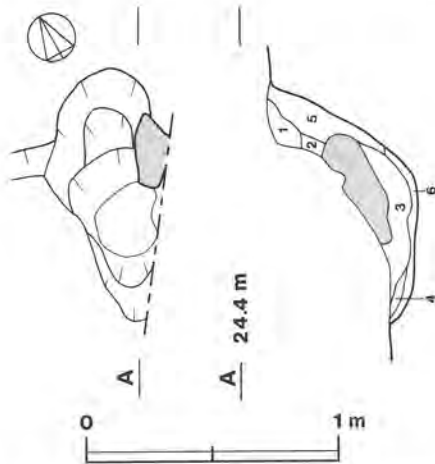
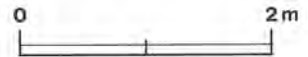
遺物 土師器片 (甕, 坏, 鉢) 280点。須恵器片 (坏) 4点。図示した遺物は、北西部の床面、  
及び覆土下層からまとまって出土している。出土遺物の大半を土師器甕が占めている。

備考 本跡の大部分は、東測（調査区域外）へ延びており、西側部分の調査に留まる。



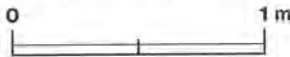
住居跡土層解説表

- |        |               |
|--------|---------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子中量       |
| 2. 黒褐色 | ローム粒子中量 硬くしまる |
| 3. 灰褐色 | 粘性強い          |
| 4. 黒褐色 | しまり弱い         |
| 5. 褐色  | ローム粒子多量 粘性弱い  |
| 6. 褐色  | ローム粒子中量 粘性強い  |

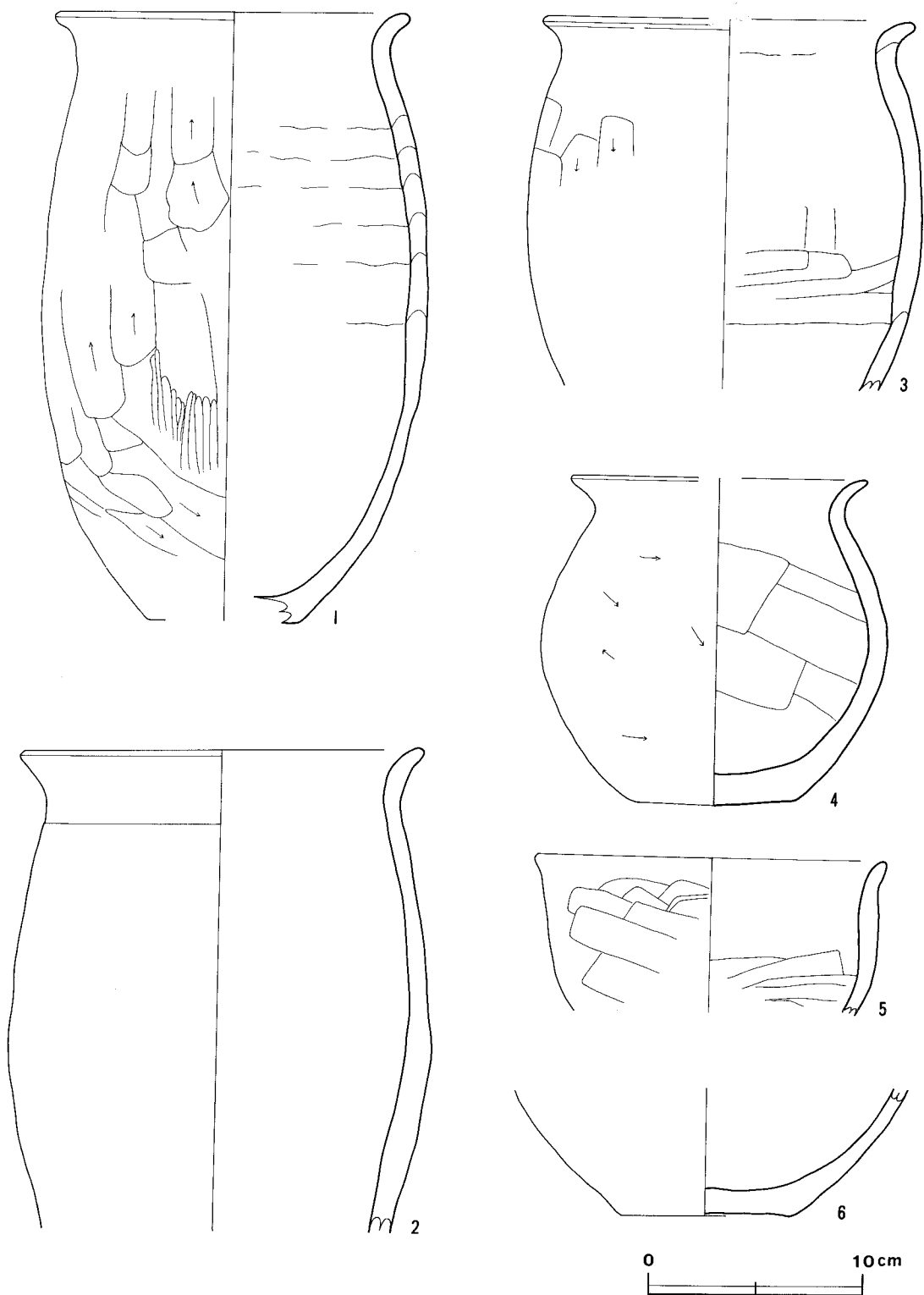


カマド土層解説表

- |           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 1. 黒褐色    |                           |
| 2. にぶい赤褐色 | ローム粒子多量 焼土粒子中量            |
| 3. 暗褐色    | 焼土粒子中量                    |
| 4. 赤褐色    | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量<br>黒色土中量 |
| 5. 褐色     | ローム粒子極めて多量                |
| 6. 褐色     | 焼けたローム層                   |



第75図 第32号住居跡・カマド実測図



第76図 第32号住居跡出土遺物実測図

### 第32号住居跡出土遺物観察表

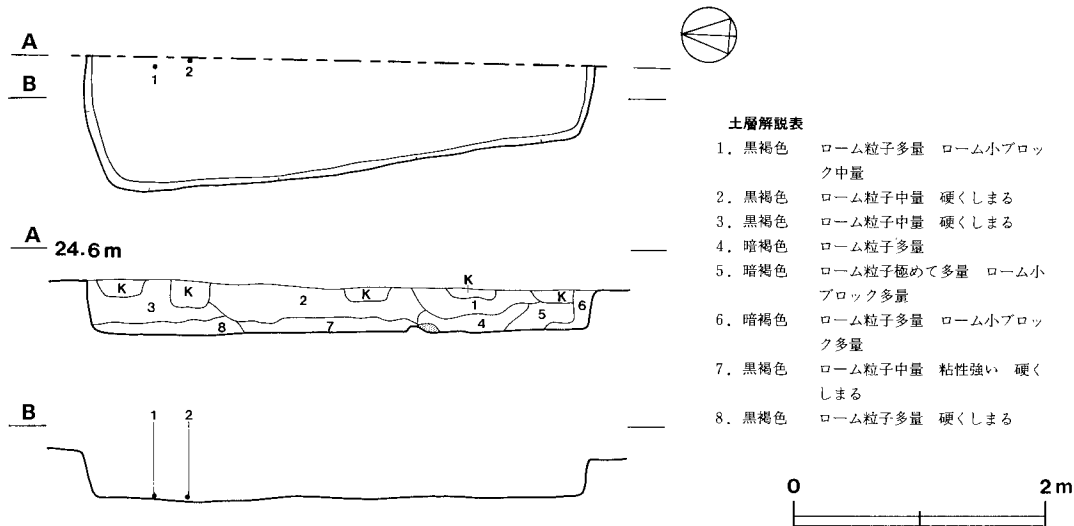
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	甕 土師器	A 16.1 B 28.8 C (7.0) E 18.1	平底。胴部は長胴形を呈し、中位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。輪積み痕を残す。外面、上半は縦位、下位は斜・横位のヘラ削り。部分的にヘラ磨きが施される。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	50% P239 北部床面直上 P L44
2	甕 土師器	A 18.9 B [22.9] E (19.9)	底部欠損。胴部は長胴形を呈し、中位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り、ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	80% P238 北部床面、床面直上 P L44
3	甕 土師器	A (17.0) B [17.4]	胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味を帯びて外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦位のヘラ削り、及びヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	25% P241 北部床面直上
4	小型甕 土師器	A (13.6) B 15.4 C (7.5) E (15.7)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、斜位のヘラナデ。外面、斜・横位のヘラ削り。底部、ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤橙色 普通	40% P242 北部床面直上、 西部床面 P L44
5	鉢 土師器	A 16.5 B [7.3]	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位はほぼ直立する。口縁部は軽く外反し、口唇部は丸い。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、横・斜位のヘラ削り。	砂粒・雲母 赤橙色 普通	50% P245 北西部覆土下層、北部床面直上
6	甕 土師器	B [6.0] C 8.0	平底。胴部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	内面、ナデ。外面、底部、磨減のため、調整不明。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	5% P244 北部・西部床面直上

### 第33号住居跡（第77図）

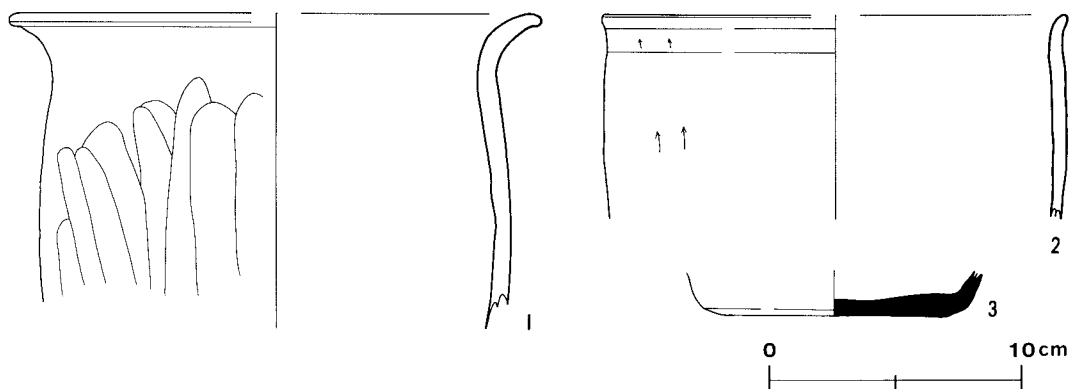
**位置** J4e7区。平面形 方形。規模 4.05×[1.13]m。主軸方向 N-12°-W。壁 直立。壁高29~39cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 不明。北壁際の床面直上に凝灰岩ブロックが散乱しており、北壁にあったものと推測される。覆土 人為堆積。

**遺物** 土師器片（甕）76点。須恵器片（甕，坏）74点。第78図1の甕は北西部の床面から出土している。その他は大半が小破片で、覆土に散らばって出土している。

**備考** 本跡の大部分が東側（調査区域外）へ延びており、西側の一部の調査に留まった。



第77図 第33号住居跡実測図



第78図 第33号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	甕 土師器	A (20.8) B (12.5)	胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り、ナデ。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	10% P246 北西部床面
2	鉢 土師器	A (18.4) B (8.1)	胴部上位から頸部にかけて、ほぼ直立して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。胴部と頸部との境はわずかな段を成す。	口頸部内面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% P247 覆土



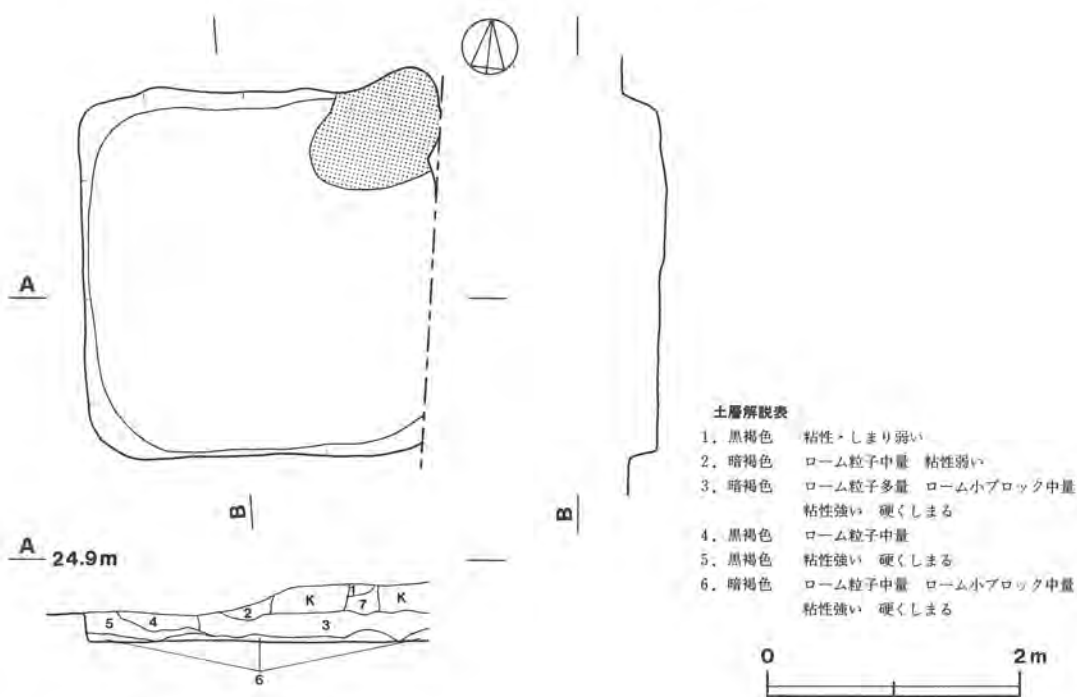
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 3	坏 須恵器	B ( 1.8) C ( 8.8)	平底。体部は、底部との境に丸味をもって立ち上がる。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	10% P249 北部覆土

### 第34号住居跡 (第79図)

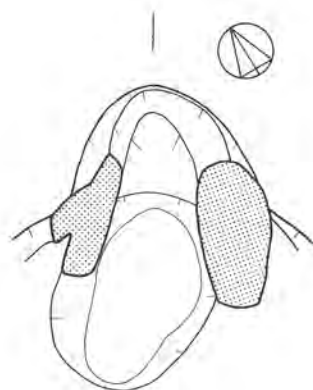
**位置** J4c7区。**平面形** 方形。**規模** 2.95×〔2.82〕m。**南北軸方向** N—11°—W。**壁** 外傾。**壁高** 22～34cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北東コーナー。粘土で構築。全長120cm、幅87cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面とほぼ同じ高さである。燃燒部側壁の粘土の焼けた状態が良く残る。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏) 131点。須恵器片(甕, 坏, 蓋) 17点。いずれも小破片で、覆土からの出土である。

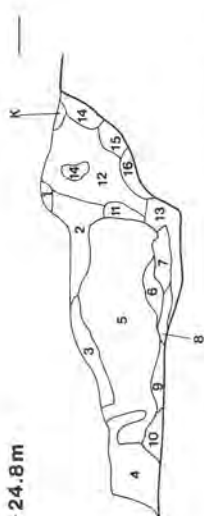
**備考** コーナー部にカマドをもつ住居跡としては、ほかにSI-86がある。



第79図 第34号住居跡実測図



A

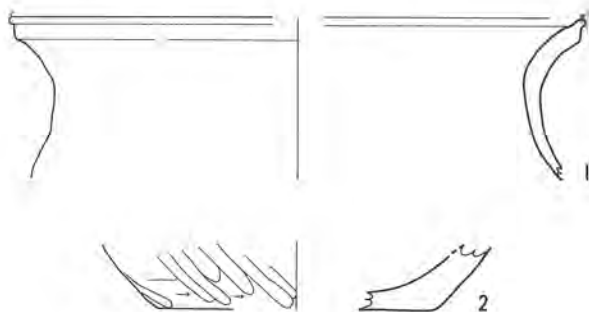
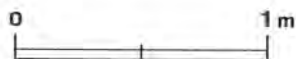


A 24.8m

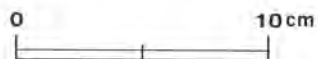
カマド土層解説表

1. にぶい黄褐色 粘性強い
2. 黒褐色 ローム粒子多量 硬くしまる
3. にぶい赤褐色 赤変した粘土層
4. 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量
5. 灰黄褐色 粘土
6. 暗褐色 ローム粒子中量 粘性強い
7. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
8. 暗赤褐色 焼土粒子中量
9. 灰褐色 ローム粒子多量
10. 黒褐色 粘性強い
11. にぶい赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック多量 粘土極めて多量
12. 黒褐色 ローム粒子中量
13. 黒褐色
14. にぶい黄褐色 粘土
15. 黒色
16. 黄褐色 ローム粒子極多量

第80図 第34号住居跡カマド実測図



3



第81図 第34号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	甕 土師器	A (22.8) B (6.4)	頸部から口縁部にかけて丸味をもつて外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面, 横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	5% P250 南西部覆土下層
2	甕 土師器	B (2.5) C (11.0)	平底。	底部, 木業痕。胴部下端, 横位のヘラ削り後, 従・斜位のヘラ磨き。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P252 北東部覆土
3	蓋 須恵器	A (14.1) B (1.5)	天井部は浅い。平坦な頂部からなだらかに下降し, 口縁部はわずかに垂下する。	天井部, 回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	10% P253 南西部覆土

第35号住居跡（第82図）

位置 J4a7区。重複関係 SI-36・38より古い。平面形 方形。規模 3.34×〔1.19〕m。南北軸方向 N-1°-W。壁 直立。壁高25~30cm。壁溝 無。床 ゆるい起伏。ピット 無。カマド 不明。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕，坏）228点。須恵器片（甕，坏）20点。いずれも小破片で，覆土からの出土である。

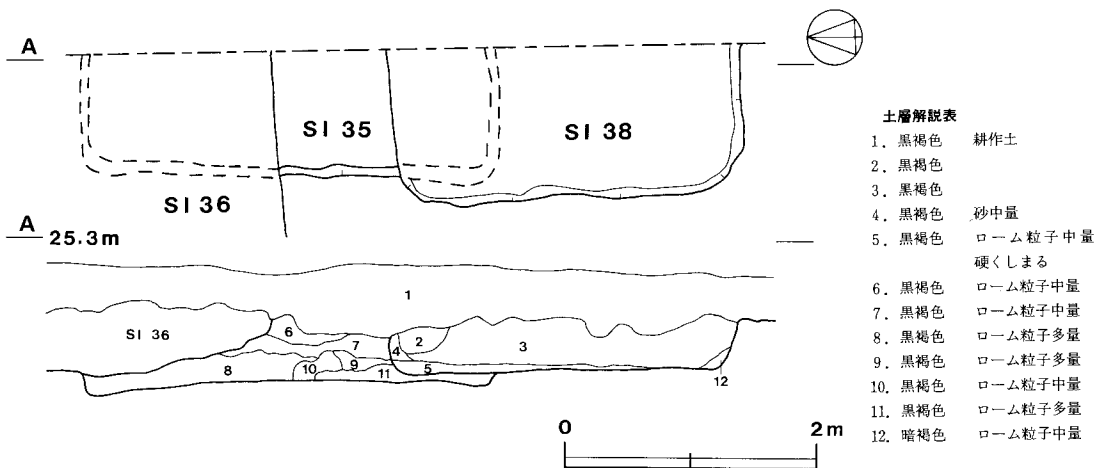
備考 跡の大部分は東側（調査区域外）へ延びている。南北にはSI-36・38が重複しているため，遺存状態は悪く，カマドの所在についても不明である。

第38号住居跡（第82図）

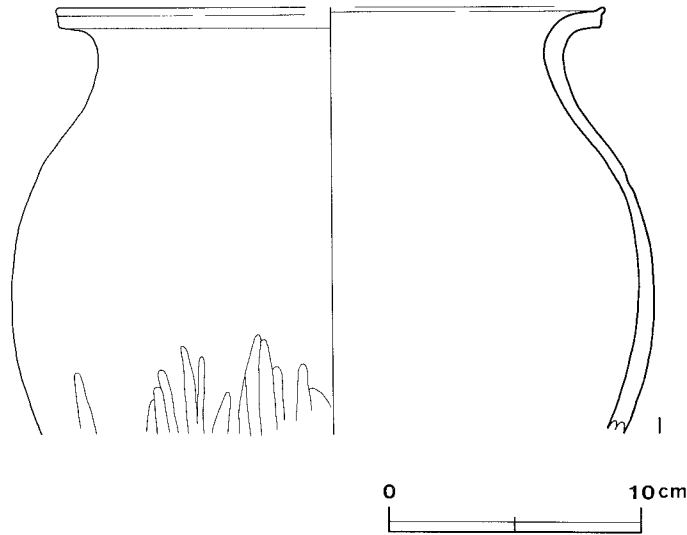
位置 J4b7区。重複関係 SI-35より新しい。平面形 方形。規模〔2.74×1.30〕m。南北軸方向 N-3°-W。壁 外傾。壁高15cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 不明。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕，坏）28点。須恵器片（甕，坏）6点。いずれも小破片で，覆土からの出土である。

備考 土層から，SI-35の上にいる本跡の貼床が確認される。本跡の大部分は東側（調査区域外）へ延びており，カマドの所在についても不明である。



第82図 第35・38号住居跡実測図



第83図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

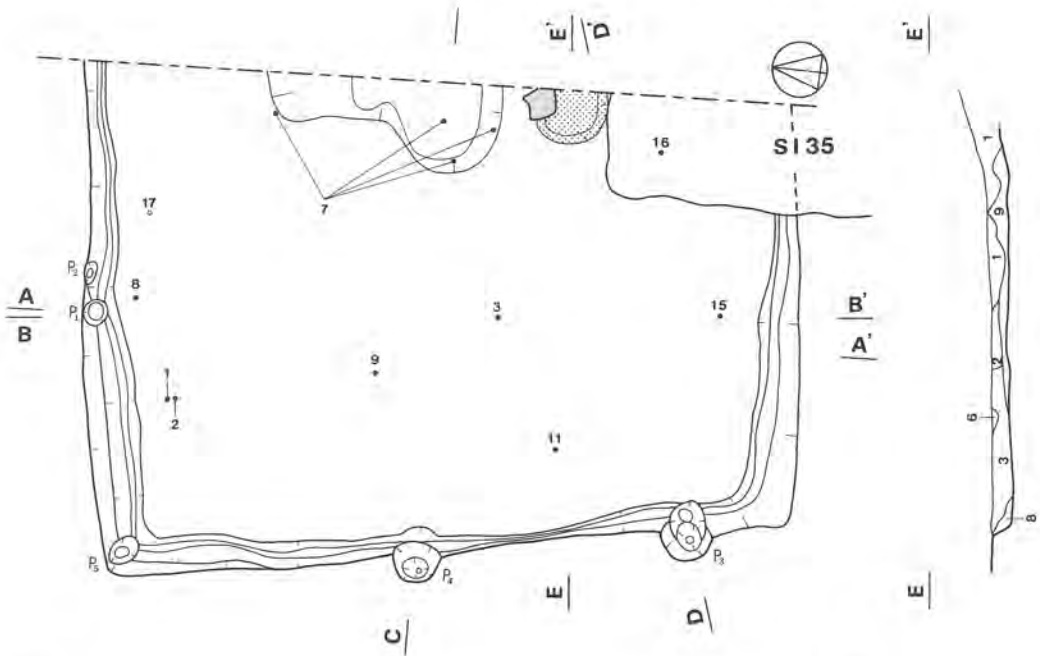
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	甕 土師器	A (21.8) B (17.0) E (25.6)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、ナデ。中位以下、縦位のへら磨き。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	10% P254 床面

### 第36号住居跡（第84図）

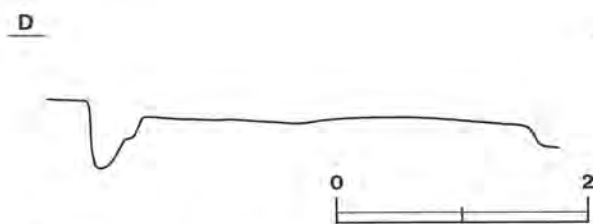
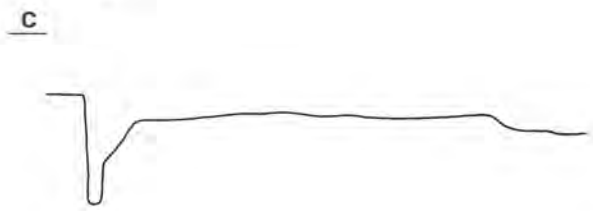
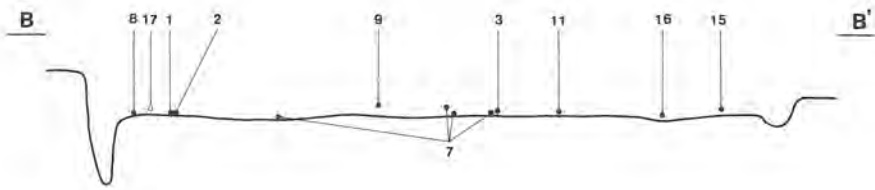
**位置** I4j7区。重複関係 SI-35より新しい。**平面形** 長方形。規模 5.70×〔4.07〕m。**主軸方向** N-79°-E。**壁** 直立。壁高12~25cm。**壁溝** 全周。上幅6~25cm、深さ10~18cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>(20×18, -55cm) P<sub>2</sub>(18×10, -17cm) P<sub>3</sub>(48×40, -42cm) P<sub>4</sub>(45×35, -67cm) P<sub>5</sub>(25×20, -39cm) P<sub>1</sub>・P<sub>3</sub>~P<sub>5</sub>が支柱穴。いずれも壁際に検出。**カマド** 東壁南寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。火床は、床面より10cm程深く掘り窪められているが、主要部が調査区域外へ延びているため、詳細は不明。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片（甕，甌，鉢，坏）882点。須恵器片（甕，壺，坏，蓋）53点。鉄製品（斧）1点。北部から北西部を中心に出土している。

**所見** 中央部から東・南部の床面に焼土・炭化物が堆積している。大きな炭化材はみられないが、焼失住居の可能性が考えられる。壁際に柱穴を巡らしている例は、当遺跡では他に無い。



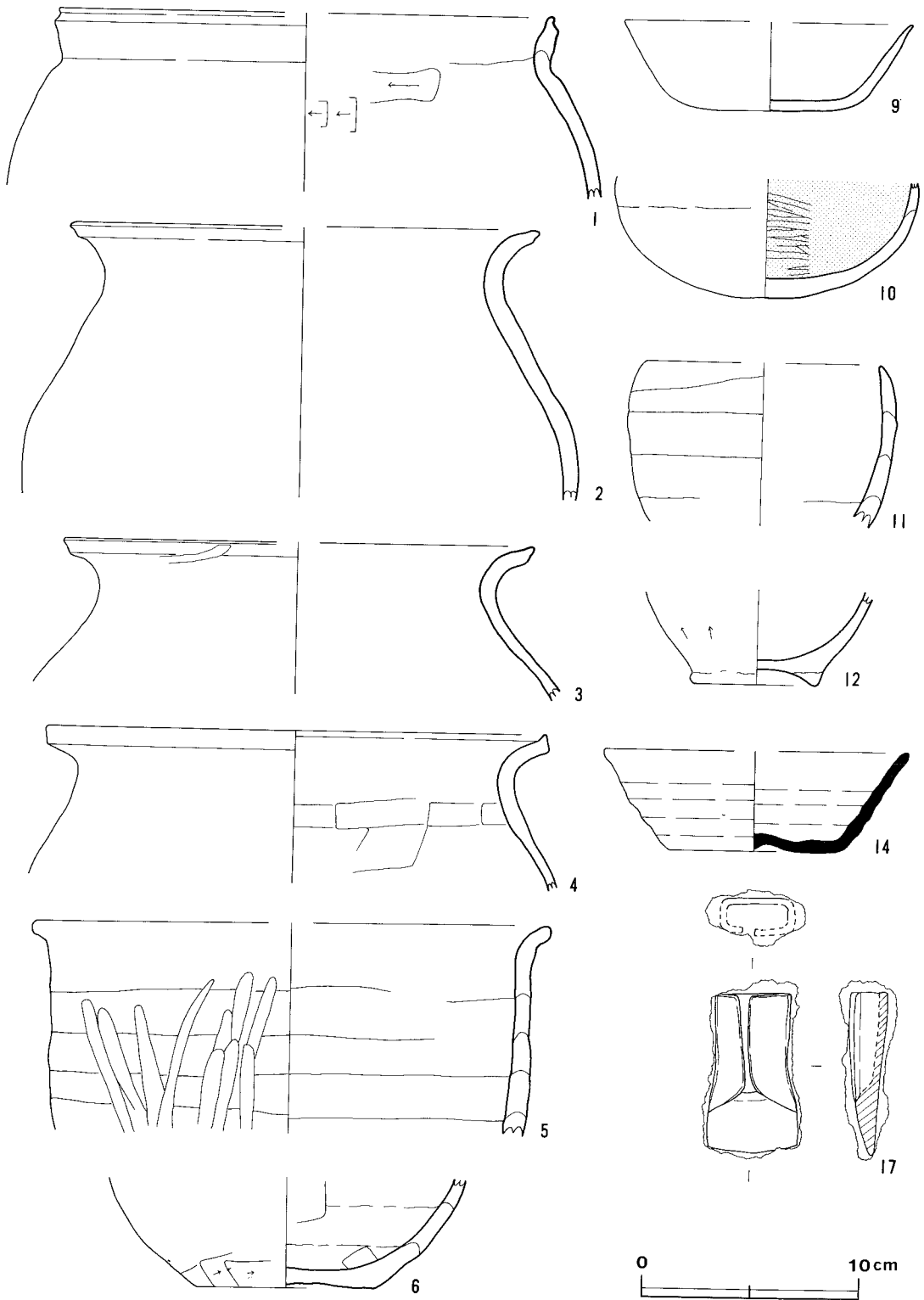
A 25.2m



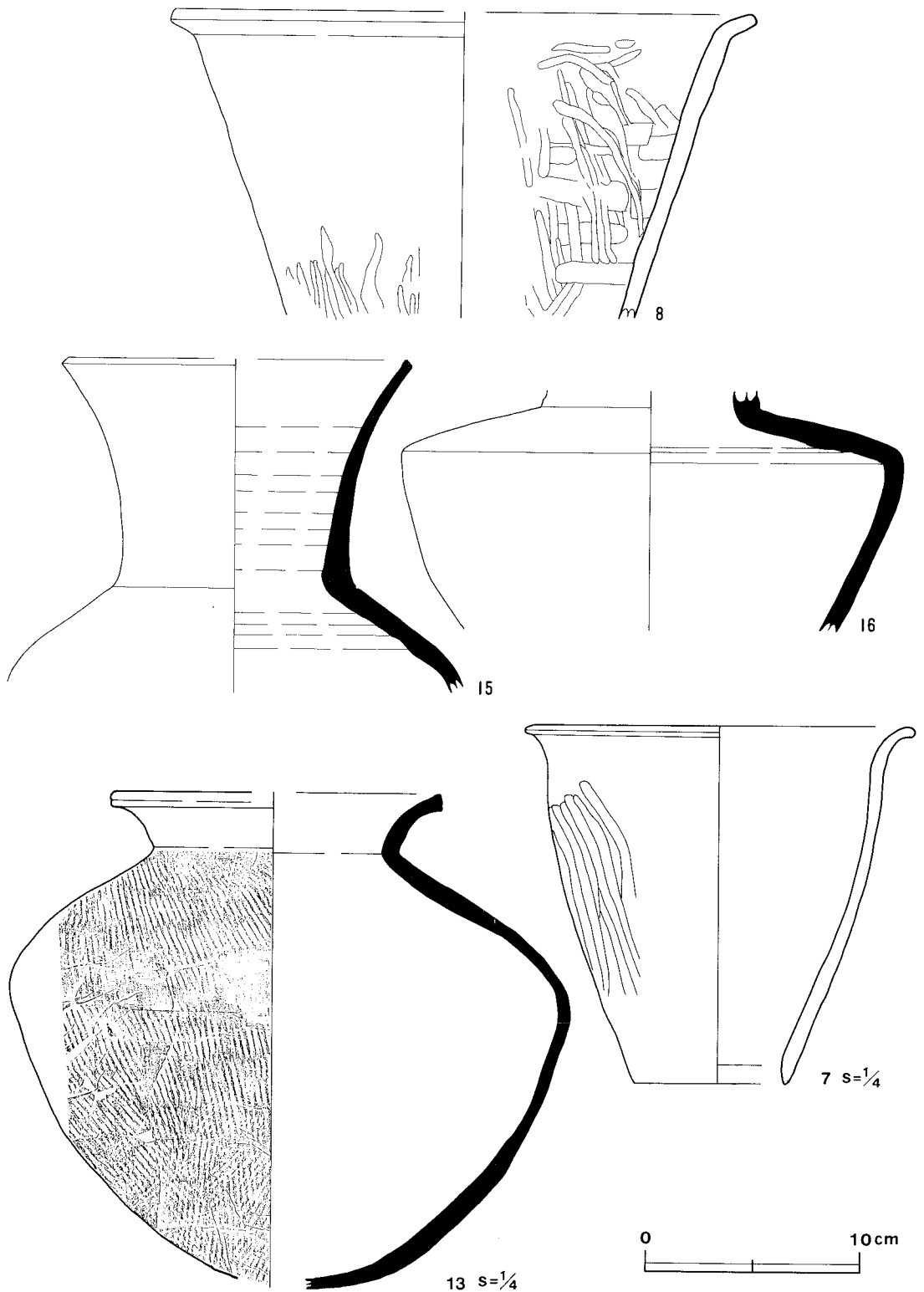
土層解説表

- |         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 1. 暗赤褐色 | ローム粒子多量                           |
| 2. 黄褐色  |                                   |
| 3. 黒褐色  |                                   |
| 4. 褐色   | ローム粒子中量    ローム小ブロック中量<br>粘性・しまり弱い |
| 5. 暗赤褐色 | 焼土粒子中量                            |
| 6. 暗赤褐色 | 焼土粒子多量    しまり弱い                   |
| 7. 暗褐色  |                                   |
| 8. 暗褐色  | ローム粒子多量    しまり弱い                  |
| 9. 黒褐色  | 炭化物多量                             |
| 10. 暗褐色 | ローム粒子中量    ローム小ブロック中量<br>粘性・しまり弱い |

第84図 第36号住居跡実測図



第85图 第36号住居跡出土遺物実測図(1)



第86图 第36号住居跡出土遺物実測图(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	甕 土師器	A (22.8) B〔8.5〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけてわずかに外傾して立ち上がり、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P258 北西部床面直上
2	甕 土師器	A (21.4) B〔12.7〕	胴部上位は内傾する。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、及び外面、ナデ。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	5% P260 北西部床面直上
3	甕 土師器	A (21.8) B〔7.2〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P262 中央部覆土下層
4	甕 土師器	A 23.5 B〔7.4〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。頸部直下内面、横位のヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	10% P257 南東部覆土
5	甕 土師器	A (23.8) B〔9.9〕	胴部上位はわずかに外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸い。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位の粗いナデ。内外面に輪積み痕を残す。	砂粒・石英 橙色 普通	10% P259 覆土
6	甕 土師器	B〔5.2〕 C (8.2)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。	胴部内面、横位のヘラナデ。輪積み痕を残す。外面、横位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・石英 赤橙色 普通	5% P267 東部覆土
第86図 7	甕 土師器	A 24.5 B 22.6 C 9.3	無底式。胴部は外傾して立ち上がり、中位からわずかに内彎する。口縁部は丸味をもって外反し、口唇部は丸い。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横・斜位のナデ。外面、縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	60% P272 東部床面、床面直上 P L50
8	甕 土師器	A (27.2) B (14.6)	胴部は外傾して立ち上がる。口縁部は胴部から「く」の字状に屈曲して開く。口唇部は丸い。	ロクロ整形。胴部内面、横位のヘラナデ。縦・斜位のヘラ磨き。外面、中位以下に部分的にヘラ磨き。	砂粒 にぶい赤橙色 普通	10% P264 北壁中央部床面 P L50
第85図 9	坏 土師器	A (13.4) B 4.2 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。口唇部はやや尖る。	ロクロ整形。内外面とも摩滅が著しく、調整不明。	砂粒 明褐色 不良	50% P269 西部覆土 P L49
10	坏 土師器	B〔5.6〕	丸底。底部から体部にかけて、内彎しながら立ち上がる。	内面、ヘラ磨き、黒色処理。外面、ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P270 西部覆土
11	鉢 土師器	A (10.9) B〔7.7〕	胴部から口縁部にかけて緩やかに内彎しながら立ち上がる。口唇部は尖る。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。内外面に輪積み痕を残す。	砂粒 橙色 普通	20% P263 西部覆土下層
12	鉢 土師器	B〔4.4〕 C 5.6	上げ底。胴部は内彎しながら立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り後、粗いナデ。底部外周部、高台状に粘土貼り付け。	砂粒・パミス 浅黄褐色 不良	10% P265 西部覆土
第86図 13	甕 須恵器	A (20.5) B (30.3) E 35.2	丸底。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面下位、ナデ。外面、斜位の平行叩き。	砂粒・長石 灰赤色 普通	60% P276 南東部・カマド付近覆土 P L51

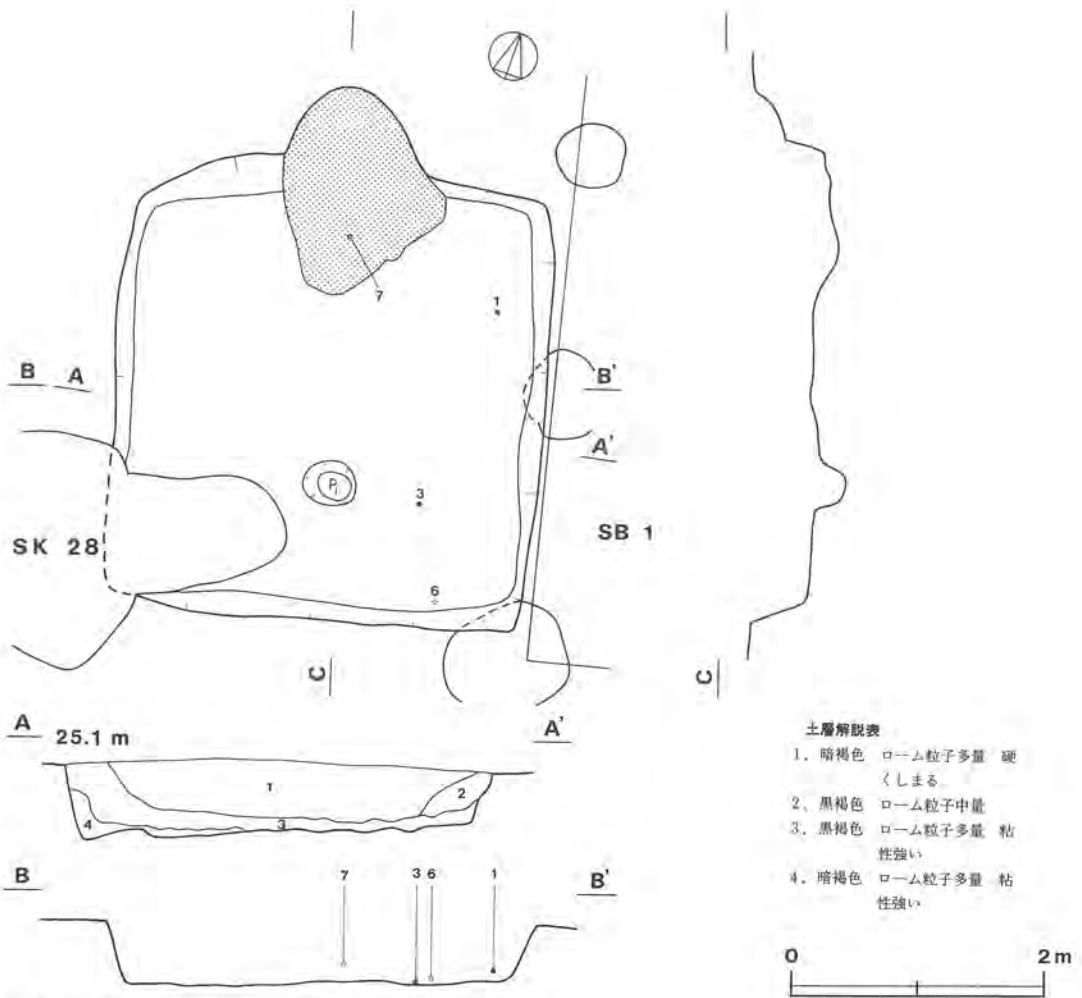


図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第85図 14	坏 須 恵 器	A (14.2) B 4.7 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰黄色 普通	30% P 275 東部覆土 P L 52
第86図 15	壺 須 恵 器	A (16.0) B (15.9)	胴部上位は内傾する。頸部から口縁部にかけて、器厚を減じながら外傾して立ち上がる。		砂粒・長石 灰色 良好	20% P 273 南東部覆土下層
16	壺 須 恵 器	B (11.4) E (23.7)	胴部片。肩部が強く張る。		砂粒 褐灰色 良好	50% P 274 東部・カマド覆土、SI-37覆土 P L 51
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考			
第85図 17	斧	全長7.3 刃部幅4.2 基部幅3.4 基部厚1.6	有袋式。北東部覆土下層出土。 P L 62 M 30			

### 第37号住居跡 (第87図)

**位置** I4i6区。重複関係 SB-1, SK-28 (新旧不明)。**平面形** 方形。規模 3.68×3.42m。**主軸方向** N-14°-W。**壁** 外傾。壁高45~57cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub>(43×35, -27cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。補強に凝灰岩を使用。全長165cm, 幅130cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約60cm。楚き口部前面を床面より20cm程深く掘り窪め, ロームや焼土を含む土で整地した後, その上面を火床としている。**覆土** 自然堆積。

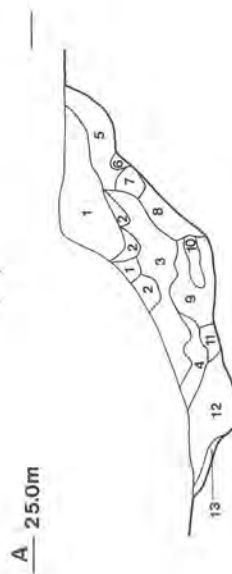
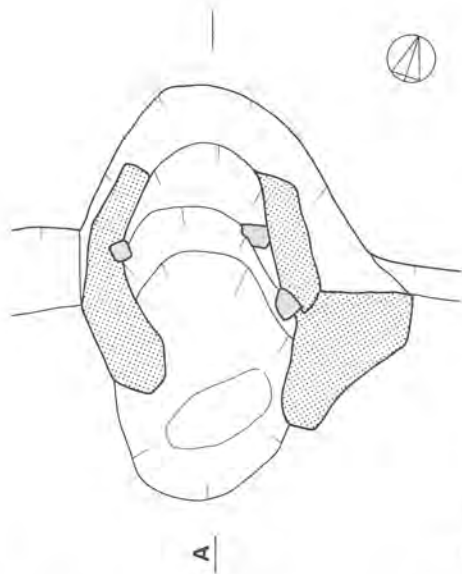
**遺物** 土師器片(甕, 甌, 坏, 高台付坏, 平鉢) 590点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋) 91点。鉄製品(刀子1, 器種不明1) 2点。南東部の床面直上から, 第89図3の小型甕が出土している。大半は小破片で, 覆土からの出土である。土師器坏には墨書のあるものが1点含まれているが, 小破片のため文字の一部しか認められず, 判読不可能である。



第87図 第37号住居跡実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	小型甕 土師器	A (15.8) B (8.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頭部は「く」の字状に外反し、口縁端部は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のナデ。外面頸部直下、横位のナデ。その他、縦位のへら削り。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	10% P277 東壁際北部覆土 下層
2	瓶 須恵器	B (9.6) C (12.4)	胴部は外傾して立ち上がる。	外面、平行叩き、下端は横位のへら削り後、横ナデ。内面、同心円の当て具痕、横ナデ。	砂粒 橙色 普通	5% P281 南部覆土
3	小型甕 土師器	B (6.0) C 7.9	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。	胴部内面、横位のナデ。外面、縦位、下端部は横位のへら削り。底部、木葉痕、ナデ。	砂粒・石英 にふい褐色 普通	20% P278 南東部床面直上

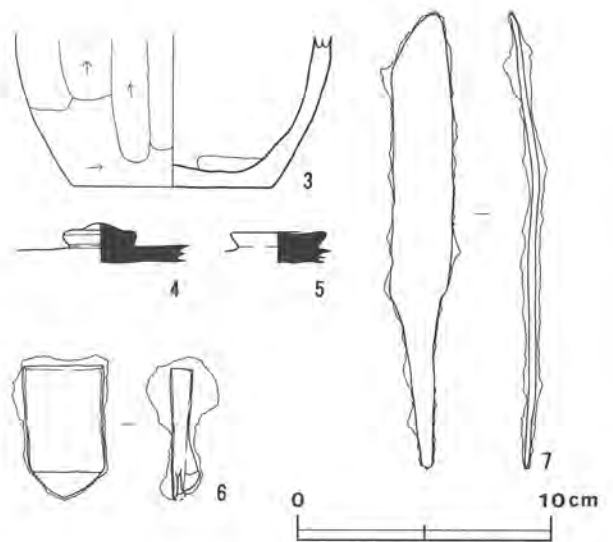
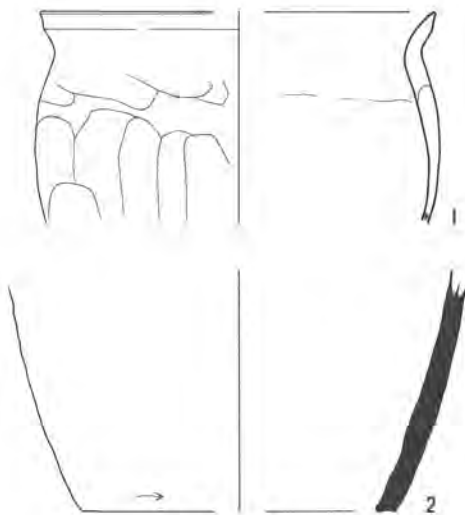


カマド土層解説表

- |           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 1. 褐色     | ローム粒子中量 硬くしまる            |
| 2. 灰黄褐色   | 砂多量                      |
| 3. 褐色     | 凝灰岩ブロック・粘土多量             |
| 4. 黒褐色    |                          |
| 5. にぶい赤褐色 | ローム粒子中量 焼土粒子中量           |
| 6. 黄褐色    | ロームブロック                  |
| 7. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量 焼土ブロック中量          |
| 8. 灰褐色    | 焼土粒子中量 粘土中量 しまり弱い        |
| 9. にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量                   |
| 10. 赤褐色   |                          |
| 11. 黒褐色   | ローム粒子中量 しまり弱い            |
| 12. 暗褐色   | ローム粒子中量 焼土小ブロック多量 硬くしまる  |
| 13. 褐色    | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 硬くしまる |



第88図 第37号住居跡カマド実測図



第89図 第37号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 4	蓋 須恵器	F 1.0 H 2.9	つまみ。偏平で、中央が盛り上がる。		砂 灰白色 普通	5% P283 西部覆土

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 5	蓋 須恵器	F 0.7 H 3.8	つまみ。偏平で、中央がわずかに盛り上がる。		砂粒 灰色 普通	5% P282 カマド覆土

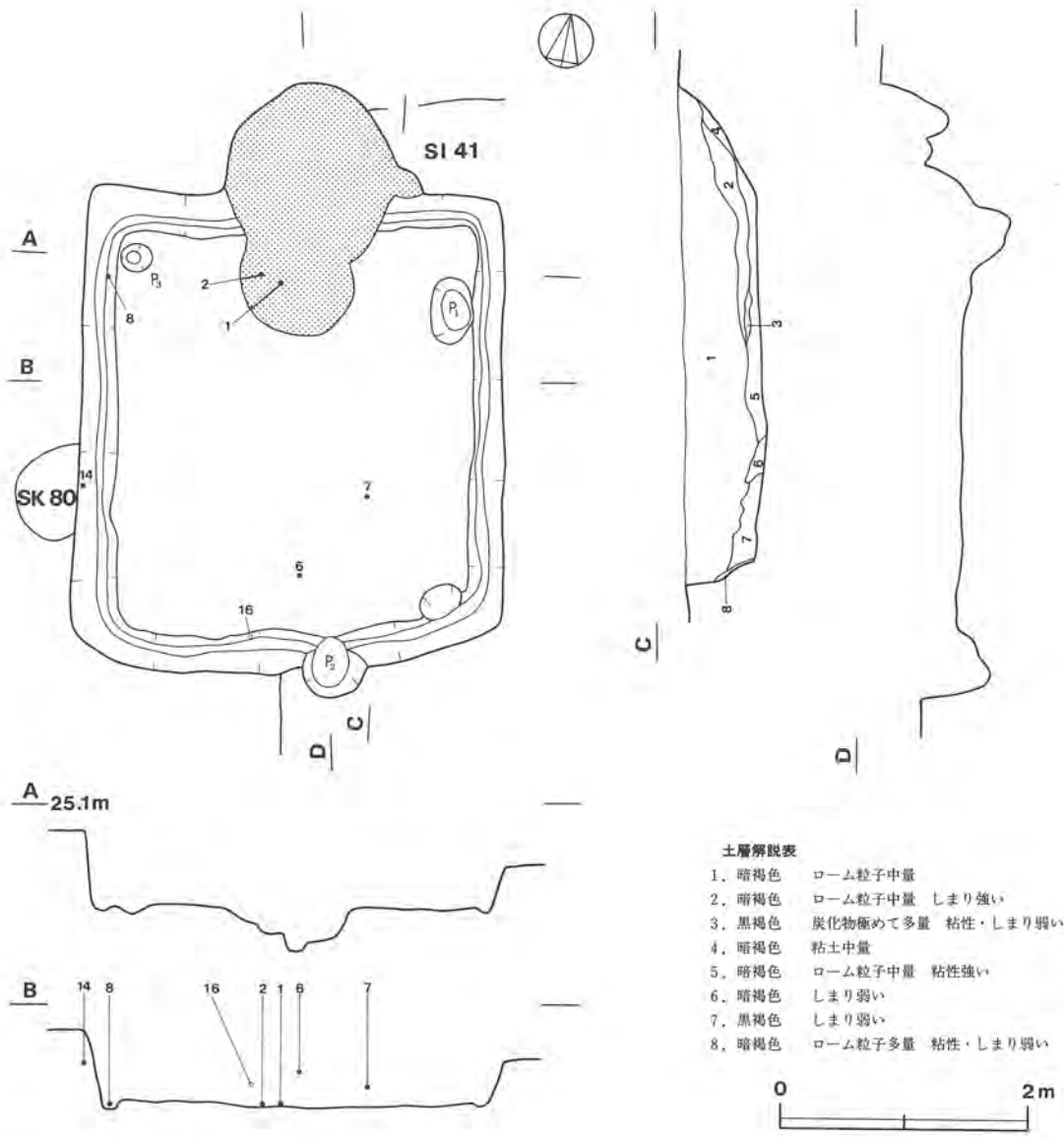
図版番号	種類	法量 (cm)	備考
6	不明	全長5.0 最大幅3.2 最大厚0.9	板状を呈し、下端部は丸味をもつ。南東部覆土下層。P L62 M31
7	刀子	全長18.1 刀身長10.9 刀身幅2.3 刀身重ね0.3 茎長7.2	カマド付近覆土中層出土。 P L63 M32

### 第39号住居跡（第90図）

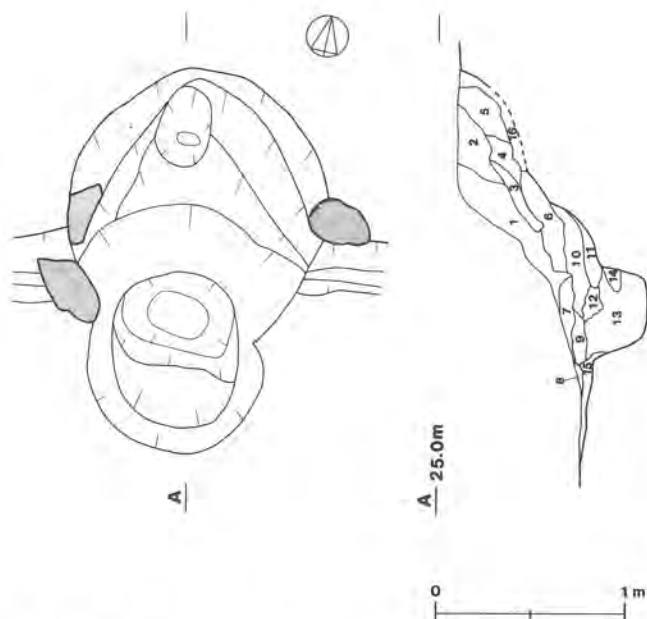
**位置** I4g6区。重複関係 SI-41より新しい。SK-80(新旧不明)。**平面形** 長方形。規模 3.90×3.43m。**主軸方向** N-8°-W。**壁** 外傾。壁高30~57cm。**壁溝** 全周。上幅25~35cm、深さ3~10cm。**床** ゆるい起伏。**ピット** 3か所。P<sub>1</sub>(55×35, -10cm) P<sub>2</sub>(52×47, -28cm) P<sub>3</sub>(25×22, -10cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長205cm、幅175cm、煙道部の壁面への掘り込みは約90cm。煙道部に深さ20cm程度の小ピットを検出。火床は、床面より30cm程深く掘り窪められ、焼土が多量に堆積している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 皿) 1207点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 盤, 壺) 123点。鉄製品(刀子1, 板状鉄製品1) 2点。鉄滓1点。土師器坏片の中に墨書が1点含まれるが、小破片のため判読不可能。第92図1・2の甕は、カマド前面の床面上にまとまって、その他の遺物は覆土中・下層から出土している。

**備考** 大型のカマドをもつ住居跡で、南側に隣接するSI-37と同様な形態をもつ。3か所のピットのうち、柱穴と認められるのはP<sub>2</sub>のみである。



第90図 第39号住居跡実測図



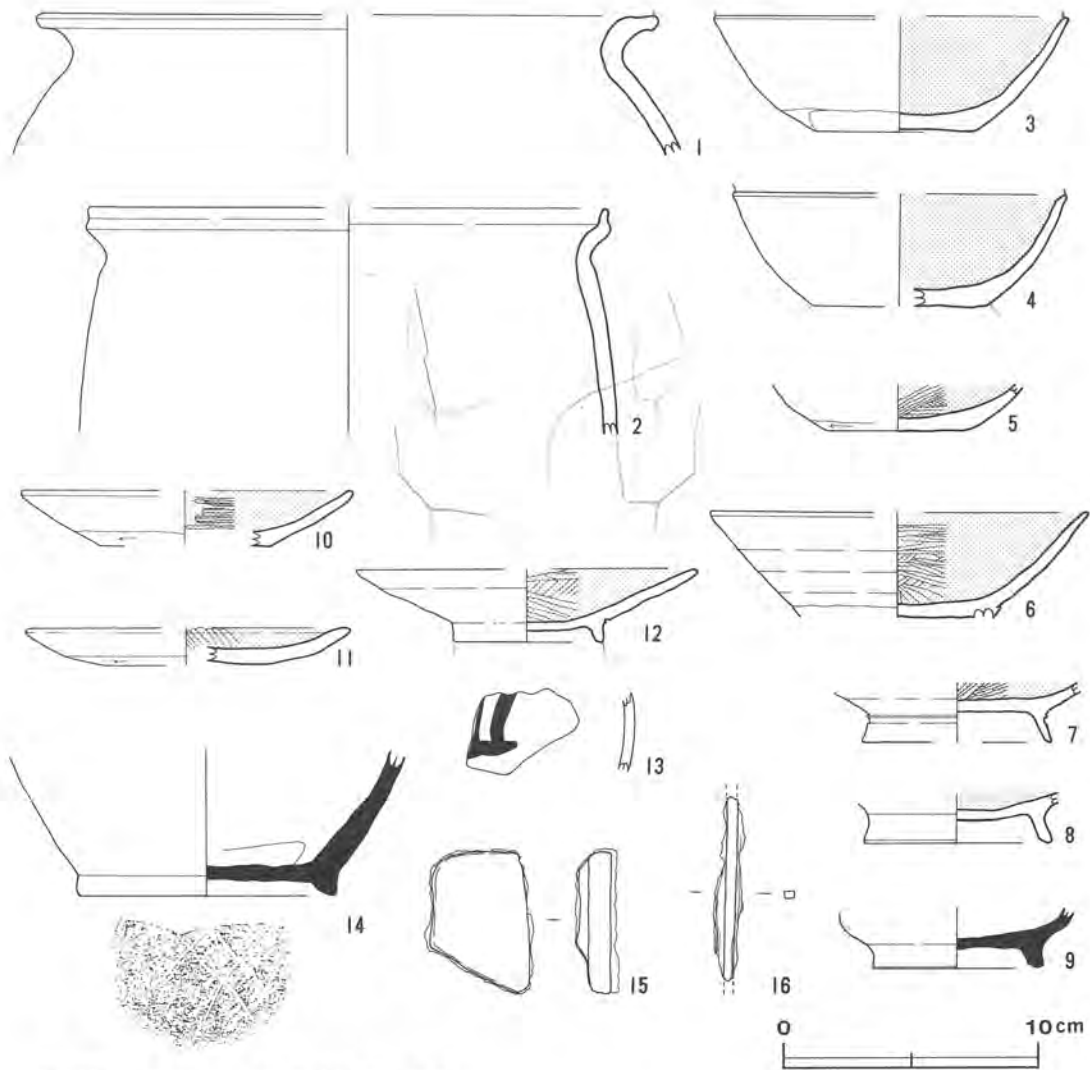
カマド土層解説表

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 1. 暗褐色     | ローム粒子中量             |
| 2. 褐色      | 粘性弱い                |
| 3. 灰黄褐色    | 粘性弱い                |
| 4. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量 粘性・しまり弱い     |
| 5. 暗褐色     | 粘性・しまり弱い            |
| 6. にぶい赤褐色  | 焼土少量                |
| 7. にぶい黄褐色  | 粘土                  |
| 8. にぶい赤褐色  | 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック中量 |
| 9. にぶい赤褐色  | 焼土粒子多量 粘土中量         |
| 10. 暗赤褐色   | 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック多量 |
| 11. にぶい赤褐色 | 焼土粒子極めて多量           |
| 12. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量              |
| 13. 極暗赤褐色  | ローム粒子中量 焼土粒子多量      |
| 14. 明褐色    |                     |
| 15. 黒褐色    | ローム小ブロック中量 炭化物多量    |
| 16. 褐色     | ローム粒子多量 粘性・しまり弱い    |

第91図 第39号住居跡カマド実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 1	甕 土師器	A (24.6) B [ 5.6]	張りの強い胴部から、頸部は丸味をもって強く外反し、口縁部は外方へ開く。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	5% P286 カマド付近床面
2	甕 土師器	A (20.4) B ( 9.0)	胴部(上位)は内傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方につまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	5% P284 カマド付近床面
3	坏 土師器	A (14.0) B 4.6 C 6.4	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	50% P289 中央部覆土中層 P L49
4	坏 土師器	A (13.2) B 4.5 C ( 6.8)	平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下位、回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 淡橙色 普通	40% P290 北東部覆土 P L49
5	坏 土師器	B [ 1.9] C 5.2	平底。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、体部下位、回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	30% P291 北西部覆土 ヘラ記号
6	高台付坏 土師器	A (14.8) B [ 4.2]	高台部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	60% P288 南部覆土中層正位 P L49



第92図 第39号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 7	高台付 土師器	B〔2.4〕 D〔7.6〕 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ削り 後、高台貼り付け。	砂粒 浅黄橙色 普通	10 P298 南東部覆土中層 逆位
8	高台付 土師器	B〔2.0〕 D 7.6 G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ削り 後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 橙色 普通	20% P297 西壁際北部床面 直上
9	高台付 須恵器	B〔2.4〕 D〔6.8〕 G 0.8	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼 り付け。	砂粒 浅黄橙色 不良	10% P299 東部覆土

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 10	皿 土師器	A (13.2) B 2.2 C (6.8)	平底。体部はほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下半、回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・ス コリア にふい橙色 普通	20% P293 カマド覆土
11	皿 土師器	A (13.0) B 1.5 C (6.0)	平底。体部は軽く内彎しながら立ち上がる。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下半、回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・ス コリア にふい橙色 普通	40% P292 カマド覆土 P L49
12	高台付皿 土師器	A (13.6) B 2.9 D (5.8)	平底。ほぼ直立する高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下端、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 褐灰色 普通	40% P296 北西部覆土 P L49
13	坏 土師器		体部片。	内面、ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 にふい橙色	2% P295 北西部覆土 墨書
14	壺 須恵器	B (5.5) D 10.3 G 0.8	平底。短く、ほぼ直立する高台が付く。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	底部、ナデ整形後、高台貼り付け。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	10% P300 北西部覆土 ヘラ記号

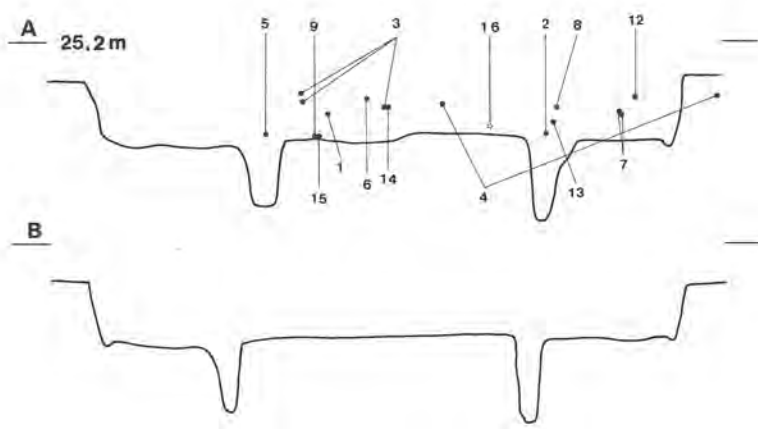
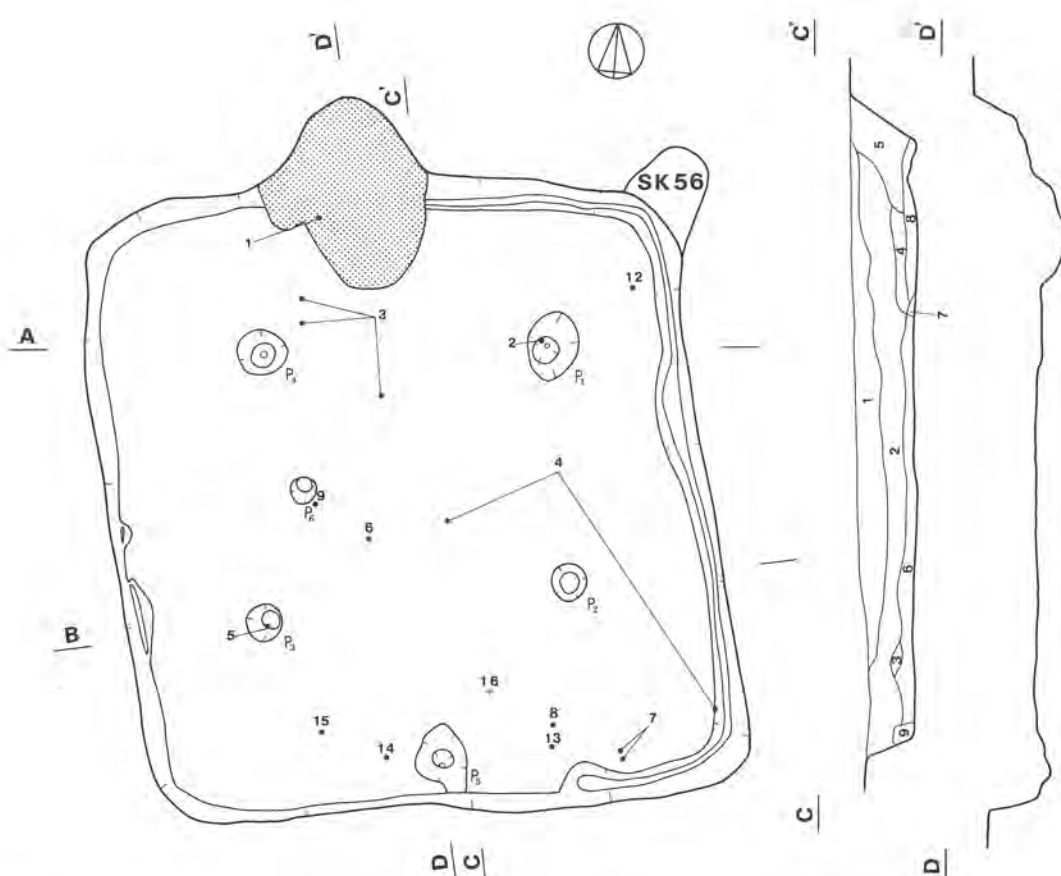
図版番号	種類	法量 (cm)	備考
15	板状鉄製品	全長5.6 最大幅4.0 最大厚1.0	器面がかかるく彎曲する。カマド覆土出土。 P L62 M34
16	鍔	全長〔7.3〕 基幅0.4×0.3	茎の一部。木質付着。南部覆土中層出土。 M33

#### 第40号住居跡 (第93図)

**位置** I4e6区。**重複関係** SK-56より古い。**平面形** 方形。**規模** 5.05×4.75m。**主軸方向** N—8°—W。**壁** 直立。壁高35~53cm。**壁溝** 東壁際に検出。上幅16~30cm、深さ3~5cm。**床** 平坦。**ピット** 6か所。P<sub>1</sub>(55×41, -67cm) P<sub>2</sub>(30×28, -70cm) P<sub>3</sub>(30×30, -60cm) P<sub>4</sub>(42×36, -54cm) P<sub>5</sub>(46×40, -13cm) P<sub>6</sub>(20×20, -22cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が主柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長155cm、幅125cm、煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は、床面より20cm程度深く掘り窪め、多数の粘土を含む土で整地して、その上面を使用している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 鉢)857点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 壺)68点。鉄製品(鍔)1点。カマド付近及び南部の覆土中・下層に多く出土している。南壁際の床面直上に凝灰岩製の支脚が横位で出土している。

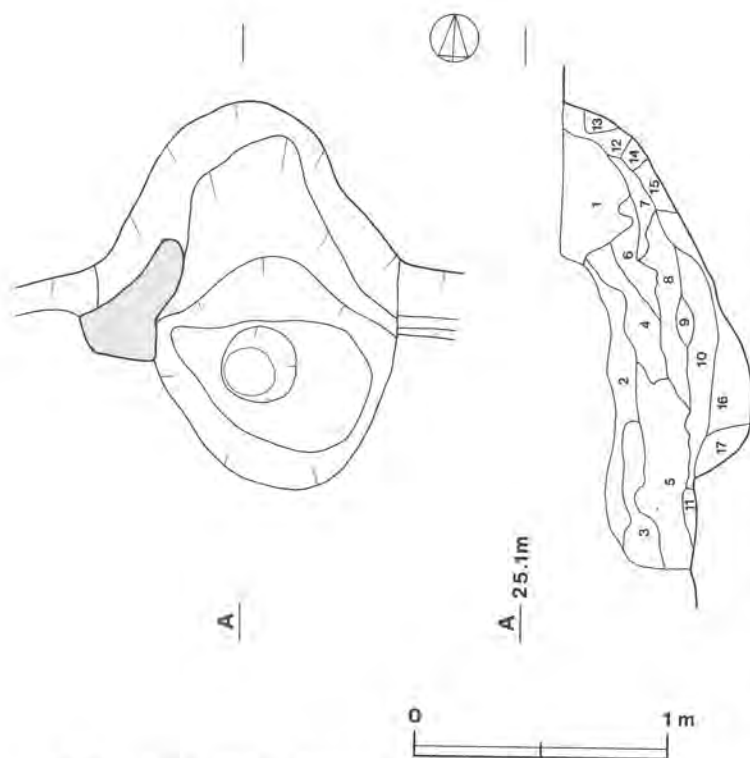




土層解説表

1. 黒褐色	ローム粒子中量
2. 暗褐色	ローム粒子多量
3. 黒褐色	ローム粒子中量 粘性強い
4. 褐色	ローム粒子多量
5. 赤褐色	ローム粒子多量 粘土小ブロック中量
6. 黒褐色	ローム粒子多量 粘性強い
7. 暗褐色	粘土極めて多量 粘性強い
8. 灰褐色	ローム粒子中量 粘土多量 粘性強い
9. 黒褐色	ローム粒子中量

第93図 第40号住居跡実測図

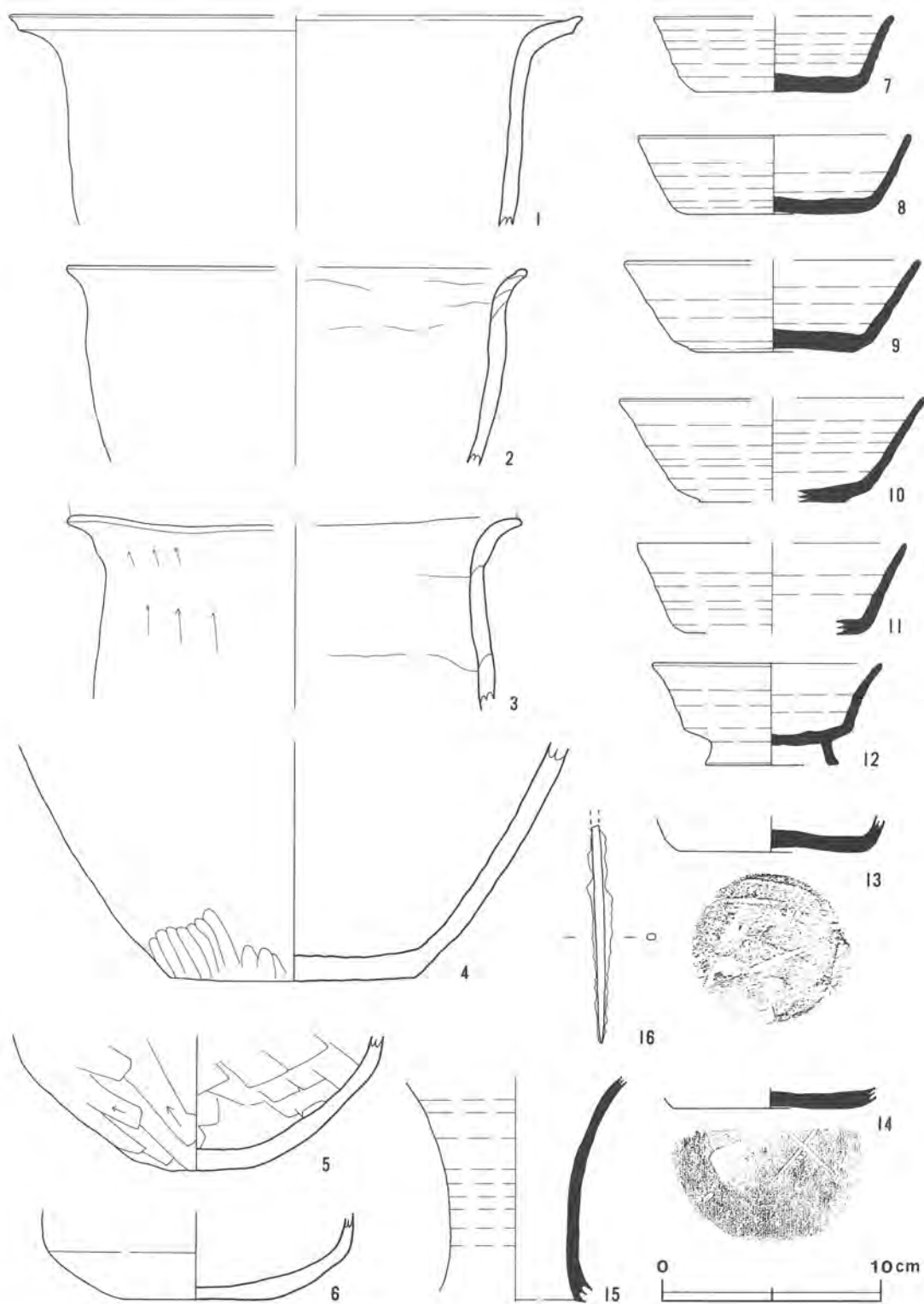


- カマド土層解説表
- |            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| 1. 黒褐色     | ローム粒子中量                               |
| 2. にぶい黄褐色  | 粘土・粘性強い                               |
| 3. 暗褐色     | ローム粒子多量                               |
| 4. 灰黄褐色    | 粘土・粘性強い                               |
| 5. 暗褐色     | ローム粒子多量 焼土<br>粒子中量                    |
| 6. にぶい黄褐色  | 焼土粒子中量 粘土極<br>めて多量 粘性強い               |
| 7. 暗赤褐色    | 焼土粒子中量 粘土小<br>ブロック中量                  |
| 8. にぶい赤褐色  | 焼土粒子極めて多量<br>焼土小ブロック多量                |
| 9. 赤褐色     | 焼土粒子多量 焼土小<br>ブロック多量                  |
| 10. 褐色     | ローム粒子中量 焼土<br>粒子中量 焼土小ブ<br>ロック多量 粘土多量 |
| 11. 褐色     | 粘性強い                                  |
| 12. 暗褐色    | 粘土中量                                  |
| 13. にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量 ローム<br>土中量                     |
| 14. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量 焼土小<br>ブロック中量 粘土ブ<br>ロック中量     |
| 15. 明褐色    | ローム土多量                                |
| 16. 褐色     | 焼土小ブロック多量<br>粘土中量                     |
| 17. 黒褐色    | ローム小ブロック中量<br>炭化粒子中量                  |

第94図 第40号住居跡カマド実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	甕 土師器	A (26.6) B (10.1)	胴部(上位)はわずかに外傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方につまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	5% P303 カマド付近覆土 中層
2	甕 土師器	A (21.1) B (9.2)	胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は丸い。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。内面に、部分的に輪積み痕を残す。	砂粒・礫・雲母 橙色 普通	5% P302 北東部覆土下層
3	甕 土師器	A (20.8) B (9.0)	胴部(上位)はわずかに内傾して立ち上がる。頸部は丸味をもって外反し、口縁部は外方へ開く。	口頸部、及び胴部内面、横位のナデ。外面、縦位のヘラ削り。内面に輪積み痕を残す。全体に粗い作りである。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	10% P301 カマド付近覆土 上層
4	甕 土師器	B (11.2) C 11.2	平底。胴部は、内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦・斜位のヘラ磨き(磨滅)。底部粗いヘラ削り。	砂粒・石英・長石 にぶい橙色 普通	10% P304 中央部覆土中 層、南東コー ナ付近中層
5	甕 土師器	B (6.3)	丸底。底部から胴部にかけて、内彎しながら立ち上がる。	内面、横・斜位のヘラナデ。外面、縦位のヘラ削り。	砂粒・石英 橙色 普通	10% P305 南西部覆土下層



第95图 第40号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 6	坏 土師器	B〔4.1〕 C〔7.0〕	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は器厚を減しながら直立する。	口縁部内・外面、及び体部内面、横位のナデ。外面、ナデ。底部及び体部下端、手持ちへら削り。	砂粒にふい橙色 普通	30% P307 中央部覆土中層 へら記号
7	坏 須恵器	A (10.8) B 3.5 C 7.3	平底。体部は軽く外反しながら立ち上がり、口唇部は丸い。体部と底部との境に丸味をもつ。	底部、回転へら削り。	砂粒 灰色 普通	70% P309 南東部覆土中層 正位 P L53
8	坏 須恵器	A 12.6 B 3.7 C 8.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。体部と底部との境は丸味をもつ。	底部、回転へら削り。	砂粒 灰色 普通	70% P L53 P308 南壁際東部覆土 中層逆位 へら記号
9	坏 須恵器	A (13.7) B 4.3 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。体部下位に鈍い稜をもつ。	底部、回転へら削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	50% P310 中央部床面、覆 土 P L53
10	坏 須恵器	A (14.2) B 4.9 C (6.8)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。体部下位に鈍い稜をもち、底部との間に幅の狭い面を成す。	底部、ナデ。	砂粒・長石 灰黄色 普通	40% P311 カマド覆土
11	坏 須恵器	A (12.4) B 4.2 C (7.6)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部はやや尖る。	底部、一定方向のへら削り。	砂粒 灰色 普通	30% P312 南西部覆土
12	高台付坏 須恵器	A 10.6 B 4.8 D 6.2 G 1.1	平底。体部は外反しながら立ち上がり、口唇部は丸い。体部下位に稜をもち、底部との間に面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	80% P317 北東部覆土中層 P L55
13	坏 須恵器	B〔1.7〕 C 8.5	平底。体部と低部との境は丸味をもつ。	底部、回転へら削り。	砂粒 灰白色 普通	20% P313 南東部覆土下 層、北東部覆土 へら記号
14	坏 須恵器	B〔0.9〕 C 8.8	平底。	底部、回転へら切り後、手持ちへら削り。	砂粒 灰黄色 普通	30% P314 南部覆土中層 へら記号
15	長頸壺 須恵器	B〔10.4〕	口頸部片。頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。		砂粒 灰色 良好	10% P318 南西部床面横位

図版番号	種類	法量 (cm)	備考
16	罍	全長〔10.2〕 最大幅0.4 最大厚0.4	茎の一部。南部床面出土。 P L62 M35

#### 第41号住居跡（第96図）

**位置** I4g7区。**重複関係** SI-39・42より古い。**平面形** 長方形。**規模** 5.51×4.05m(推定値)。**主軸方向** N-77°-E。**壁** 外傾。壁高15~30cm。**壁溝** 全周。上幅18~22cm, 深さ3~12cm, 床平坦。**ピット** 9か所。P<sub>1</sub>(24×20, -38cm) P<sub>2</sub>(21×20, -22cm) P<sub>3</sub>(35×30, -13cm) P<sub>4</sub>(37×30, -27cm) P<sub>5</sub>(44×42, -44cm) P<sub>6</sub>(25×22, -43cm) P<sub>7</sub>(15×15, -27cm) P<sub>8</sub>(30×18, -53cm) P<sub>9</sub>(床面位置での平面規模不明, -30cm) **カマド** 東壁南寄り。SI-42に切られており, 詳細は不明。周辺の床が焼け, 凝灰岩ブロックや焼土が散乱していることから, カマド跡と判断した。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 鉢, 平鉢) 2,063点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 盤) 39点。土製品1点。土師器甕を主に, 遺構全域に散乱した状態で出土している。

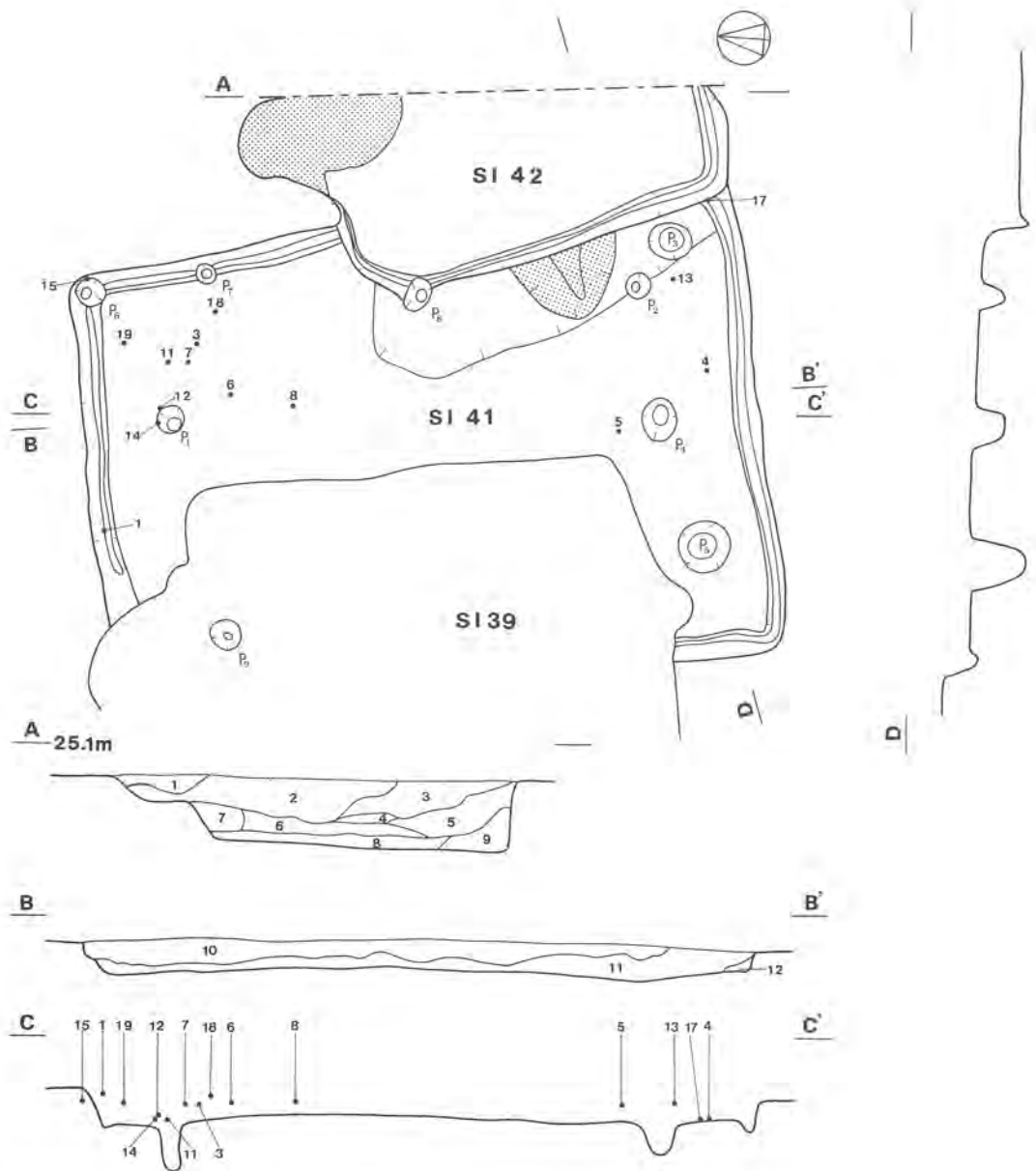
**所見** ピットは9か所検出されたが, 規模や位置関係からみて, 支柱穴を組むと思われるものは特定できない。平面形, カマドの位置などからみると, SI-36に類似している。

#### 第42号住居跡（第96図）

**位置** I4g7区。**重複関係** SI-41より新しい。**平面形** 方形。**規模** 3.18×〔1.60〕m。**主軸方向** N-18°-W。**壁** 外傾。壁高55cm。**壁溝** 全周。上幅10~23cm, 深さ4cm。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長130cm, 幅〔60〕cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。火床左奥には凝灰岩製の支脚(径8cm, 長さ20cm程度)が立って出土している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 甗) 599点。須恵器片(甕, 坏, 蓋) 35点。鉄製品(鏃1, 小札1) 2点。いずれも小破片で, 覆土から出土している。

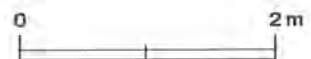
**備考** 遺構が東側の調査区域外へ延びているため, 全体を捉えることはできなかった。

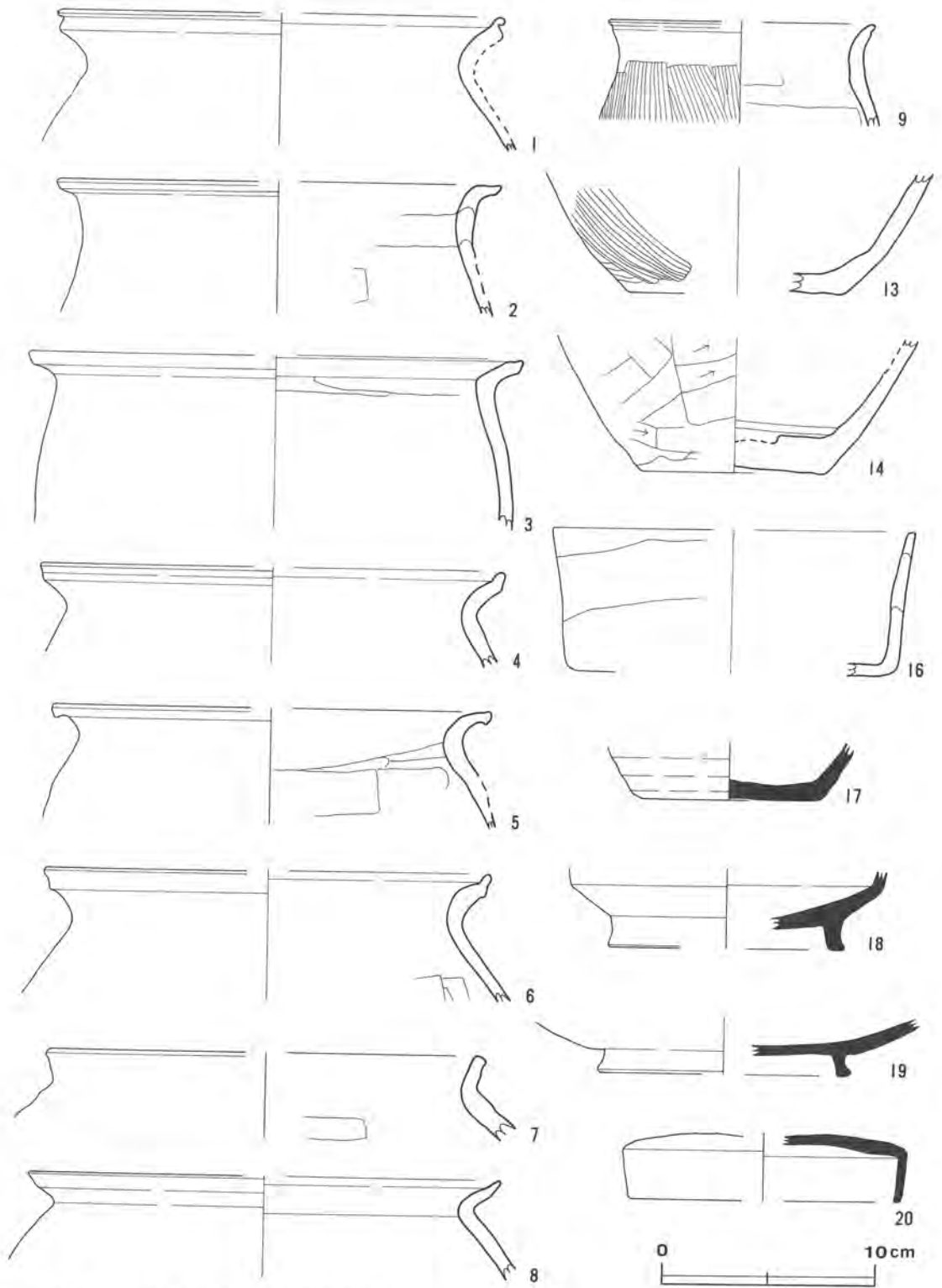


土層解説表

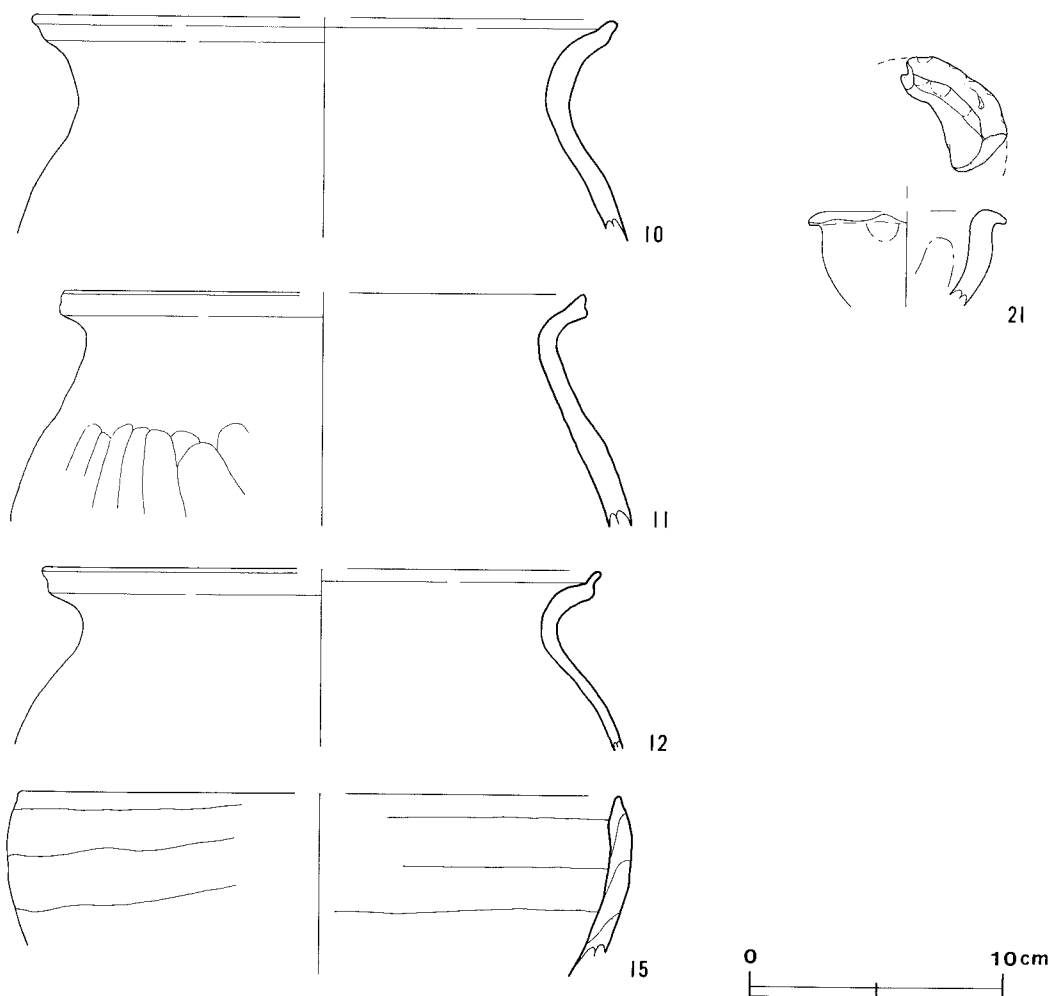
- |        |                                    |          |                                 |
|--------|------------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子中量                            | 8. 黒褐色   | ローム粒子中量 焼土粒子中量 粘性強い             |
| 2. 黒褐色 | ローム粒子中量 凝灰岩小ブロック極めて多量              | 9. 暗褐色   | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 粘性・し<br>まり弱い |
| 3. 黒褐色 | ローム粒子多量 粘性弱い                       | 10. 黒褐色  | 粘性・しまり弱い                        |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子多量 粘性・しまり弱い                   | 11. 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 粘性・しまり弱い                 |
| 5. 褐色  | ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量 粘<br>性・しまり弱い | 12. 暗褐色  | ローム粒子多量                         |
| 6. 黒褐色 | ローム粒子多量 粘性・しまり弱い                   |          |                                 |
| 7. 黒褐色 | 粘土中量 粘性強い                          |          |                                 |

第96図 第41・42号住居跡実測図





第97图 第41号住居跡出土遺物実測図(1)



第98図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

第41号住居跡出土遺物観察表

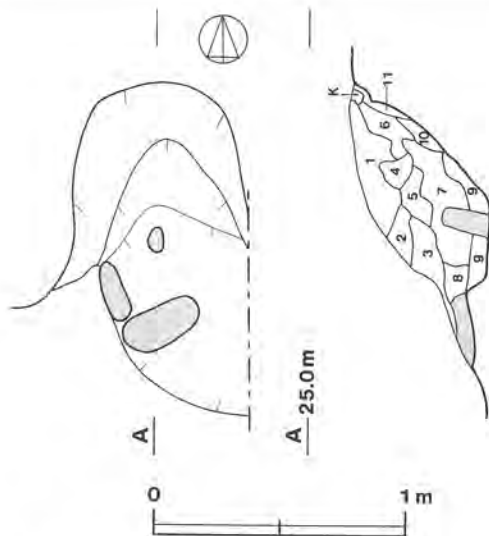
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	甕 土師器	A (20.8) B (6.3)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。	砂粒・雲母・ス コリア にぶい橙色 普通	5% P285 北壁際西寄り覆 土上層
2	甕 土師器	A (21.0) B (6.3)	直立気味に立ち上がった頸部が上位で鋭く屈曲し，口縁部はほぼ水平方向へ開く。口唇部は丸くおさめられる。	口頸部内面，横ナデ。胴部内面に輪積み痕を残す。外面は剥離が著しく，調整不明。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P321 南東部覆土



図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第97図 3	甗 土 師 器	A (23.2) B〔 8.1〕	張りの弱い胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は軽くつまみ上げられ、口縁部内面には凹線を巡らす。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内・外面、ナデ。	砂粒・雲母・バミス 橙色 普通	10% P320 北東部覆土上層
4	甗 土 師 器	A (22.0) B〔 4.5〕	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	5% P324 南部床面直上
5	甗 土 師 器	A (20.6) B〔 5.5〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は下方へ軽く突出し、口唇部は丸くおさまられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面は剥離のため、調整不明。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	5% P325 南部覆土中層
6	甗 土 師 器	A (21.2) B〔 6.1〕	張りの強い胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	胴部内面、横位のヘラナデ。その他、調整不明。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	5% P326 北東部覆土中層
7	甗 土 師 器	A (20.4) B〔 4.0〕	張りの強い胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲する。口唇部は、わずかに丸味を帯びる。	頸部直下内面、横位のヘラナデ。その他はナデか。	砂粒・長石・石英 淡黄橙色 普通	5% P327 北東部覆土中層
8	甗 土 師 器	A (22.4) B〔 4.8〕	張りの強い胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は、外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P328 北東部覆土中層
9	小 型 甗 土 師 器	A (12.6) B〔 4.8〕	頸部から口縁部にかけて緩く外反して立ち上がり、口唇部は丸くおさまられる。端部外面には、幅の広い沈線を巡らす。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦位のハケ目整形。	砂粒・雲母 淡赤橙色 普通	5% P329 東部覆土
第98図 10	甗 土 師 器	A (22.9) B〔 8.8〕	頸部から口縁部にかけて緩く外反して立ち上がり、口縁端部は外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、剥離が著しく調整不明。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P323 覆土
11	甗 土 師 器	A (20.6) B〔 9.3〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面ナデ。外面、縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色	5% P322 北東部覆土中層
12	甗 土 師 器	A (22.0) B〔 7.1〕	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内・外面、磨滅のため調整不明。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	10% P319 北都覆土中・上層
第97図 13	甗 土 師 器	B〔 5.7〕 C (10.0)	平底。胴部は、内彎気味に外傾して立ち上がる。	内面、ナデ。外面、斜位のヘラ磨き。底部、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	5% P331 南東部覆土中層
14	甗 土 師 器	B〔 6.4〕 C 8.8	平底。胴部は、内彎気味に外傾して立ち上がる。	内面、ナデ。下端部に幅の狭いヘラナデの痕跡が残る。外面、斜・横位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	15% P330 中央部・北部の覆土中層

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 15	鉢 土師器	A (23.8) B ( 7.4)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 口縁部で直立する。口唇部は働 くおさめられる。	口縁部内・外面、横位のナデ。 その他、ナデ。内・外面に輪積 み痕を残す。	砂粒 浅黄橙色 普通	5% P332 北東コーナー付 近覆土下層
第97図 16	平鉢 土師器	A (17.2) B 6.8 C (14.8)	底部は平底。胴部はわずかに外 傾して立ち上がり、中位で外反 する。口唇部は平坦である。	内・外面ともナデ。外面に輪積 み痕を残す。底部、ナデ。	砂粒 橙色 普通	20% P333 南部覆土
17	坏 須恵器	B ( 2.8) C ( 8.2)	底部は平底。体部は外傾して立 ち上がる。	底部、多方向のヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	30% P334 南東コーナー付 近床面
18	高台付坏 須恵器	B ( 3.8) D (11.2) G 1.5	底部は平底。わずかに外側へふ んばる高台が付く。体部下位に 鈍い稜をもち、高台部との間に 幅広い面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	20% P336 北東コーナー付 近上層
19	盤 須恵器	B ( 2.7) D 12.0 G 1.1	底部は平底。外側にふんばる高 台が付く。体部は緩やかに外傾 して立ち上がる。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	砂粒 灰白色 普通	40% P335 南東部床面
20	蓋 須恵器	A (12.6) B 3.2	天井部は緩やかに下降し、口縁 部はわずかに内側へすぼまるよ うにして垂下する。	天井部外周部に自然釉。	砂粒 灰色 普通	40% P337 北東部覆土上層

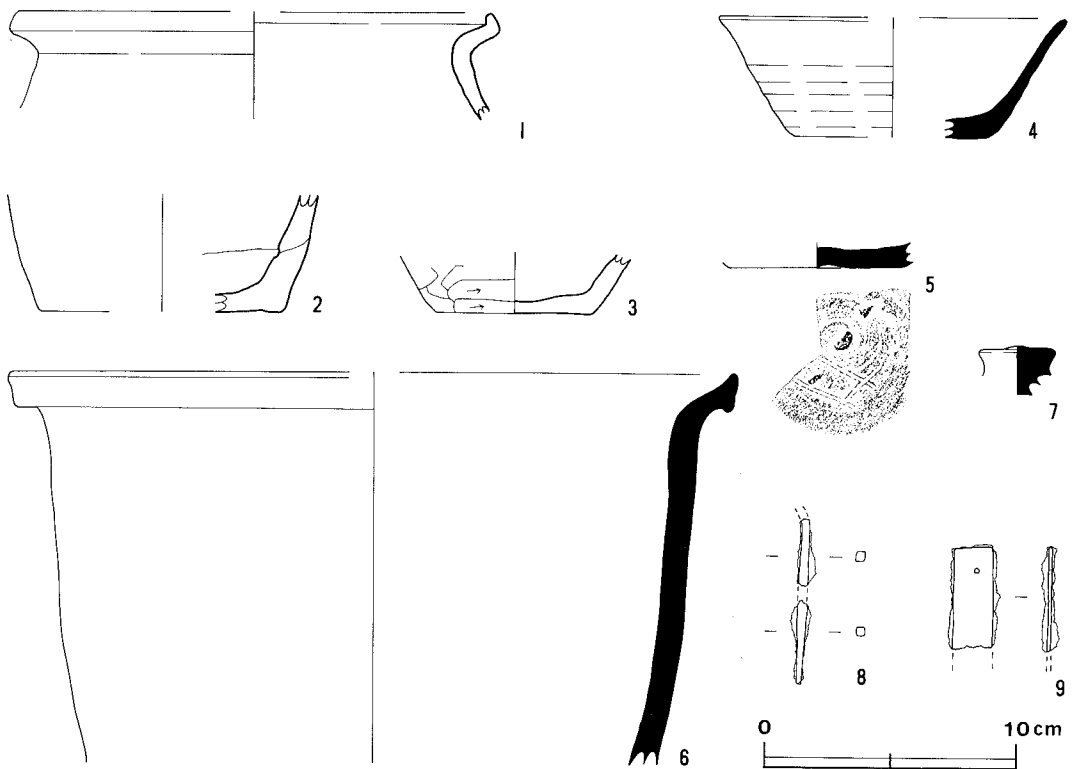
図版番号	種 類	長さ × 幅 × 高さ(cm)	重量(g)	備 考
第98図 21	塊状土製品	口径(7.9) 高さ(3.9)	22.6	小型の塊状を呈する。北東部覆土上層出土。 P L59 DP 5



#### カマド土層解説表

1. 褐色 ローム粒子中量
2. 灰褐色 ローム粒子中量 粘土極多量 粘性強い
3. 褐色 ローム粒子中量
4. によい黄橙色 粘性強い
5. によい赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子多量
6. 灰褐色
7. 灰褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量 焼土粒子多量  
焼土小ブロック中量
8. 暗褐色 焼土粒子中量
9. によい赤褐色 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック中量
10. によい黄褐色 粘土多量
11. 明褐色 焼土粒子中量 ローム土多量

第99図 第42号住居跡カマド実測図



第100図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	甕 土師器	A (18.8) B (4.3)	頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は内上方へつまみ上げられ、端部外面は内傾する。	口頸部内・外面，横ナデ。	砂粒・雲母 褐色 普通	10% P338 南西部覆土
2	甕 土師器	B (4.5) C (9.6)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	内面，ナデ。下端付近に輪積み痕。外面の調整は不明瞭だが，縦位のへら磨きと思われる。底部，木葉痕の上にナデを施す。	砂粒・雲母 褐色 普通	5% P339 カマド覆土
5	甕 土師器	B (2.5) C (6.2)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	内面，へらナデ。外面下端付近，横位のへら削り。底部，一定方向のへら削り。	砂粒 にふい橙色 普通	20% P340 南西部覆土
4	坏 須恵器	A (14.0) B 4.8 C (7.8)	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。口唇部は丸い。	底部，ナデ。	砂粒 灰白色 普通	20% P341 南西部覆土
5	坏 須恵器	B (1.0) C (7.0)	平底。	底部，回転へら切り後，ナデ。	砂粒 灰白色 普通	5% P343 へら記号 西部覆土 P L52

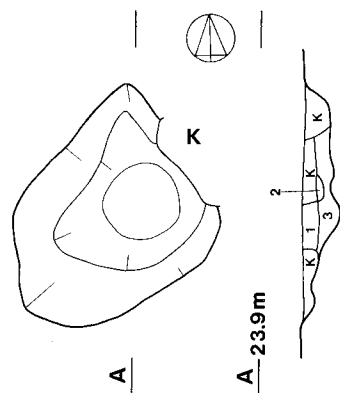
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 6	瓶 か 須 恵 器	A (29.2) B (15.6)	胴部は、わずかに内彎しながら外傾して立ち上がり、丸く屈曲する口縁部が付く。口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられ、下方へもわずかに突出する。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横ナデ。外面、斜位の平行叩き後、横ナデ。	砂粒・長石 灰白色 普通	10% P345 カマド付近床面直上
7	蓋 須 恵 器	F (3.1) H (1.9)	つまみ。腰高で、中央がわずかに盛りあがる。		砂粒 灰色 普通	5% P344 南西部覆土

図版番号	種類	法量 (cm)	備考
8	鎌	全長〔5.6〕 最大幅0.4 最大厚0.3	茎の一部。西部覆土出土。 M37
9	小 札	全長〔4.1〕 最大幅〔1.6〕 最大厚〔0.2〕	穿孔1か所。西部覆土出土。 P L63 M36

### 第43号住居跡（第101図）

**位置** J4h3区。平面形・規模・壁・床 不明。カマド 火床部のみ検出。上端径1.00×80cm，深さ15cmの不整楕円形で、底部のロームは焼けている。**遺物** 無。

**備考** 調査区域南端部の傾斜地に位置している。遺構確認の段階で、床面以下まで削平されており、カマドの火床部のみが検出される。

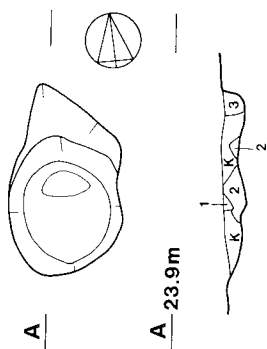


#### カマド土層解説表

1. におい赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 粘土粒子中量
2. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
3. 明褐色 焼けたローム



第101図 第43号住居跡カマド実測図



### 第44号住居跡 (第102図)

**位置** J4h<sub>3</sub>区。**平面形・規模・壁・床** 不明。**カマド** 火床部のみ検出。上端径75×55cm、深さ10cmの楕円形で、底面のロームが焼けている。構築材の粘土がわずかに残る。**遺物** 無。

**所見** SI-43の南東2.5mに隣接しており、遺構全体が残っているれば、SI-43と重複していたと考えられる。

#### カマド土層解説表

1. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
2. 明褐色 焼けたローム
3. 褐色 ローム粒子中量 粘土多量



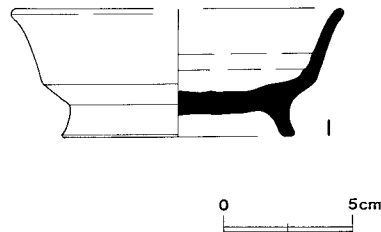
第102図 第44号住居跡  
カマド実測図

### 第45号住居跡 (第104図)

**位置** J4h<sub>1</sub>区。**平面形** 方形。**規模** [3.50×2.50] m。**主軸方向** N-19°-E。**壁** 外傾。壁高0～8 cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。北東コーナー付近がやや窪む。**ピット** 無。**カマド** 北壁。火床部のみ検出。上端径66×64cm、深さ10cm。焼土の周囲に粘土を検出(構築材)。**覆土** ローム粒子を多量に含む褐色土。残りがわずかなため、堆積状況は不明。

**遺物** 土師器片(甕) 10点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏) 8点。第103図1の高台付坏は北東コーナー付近の床面から、他の小破片とともに出土している。

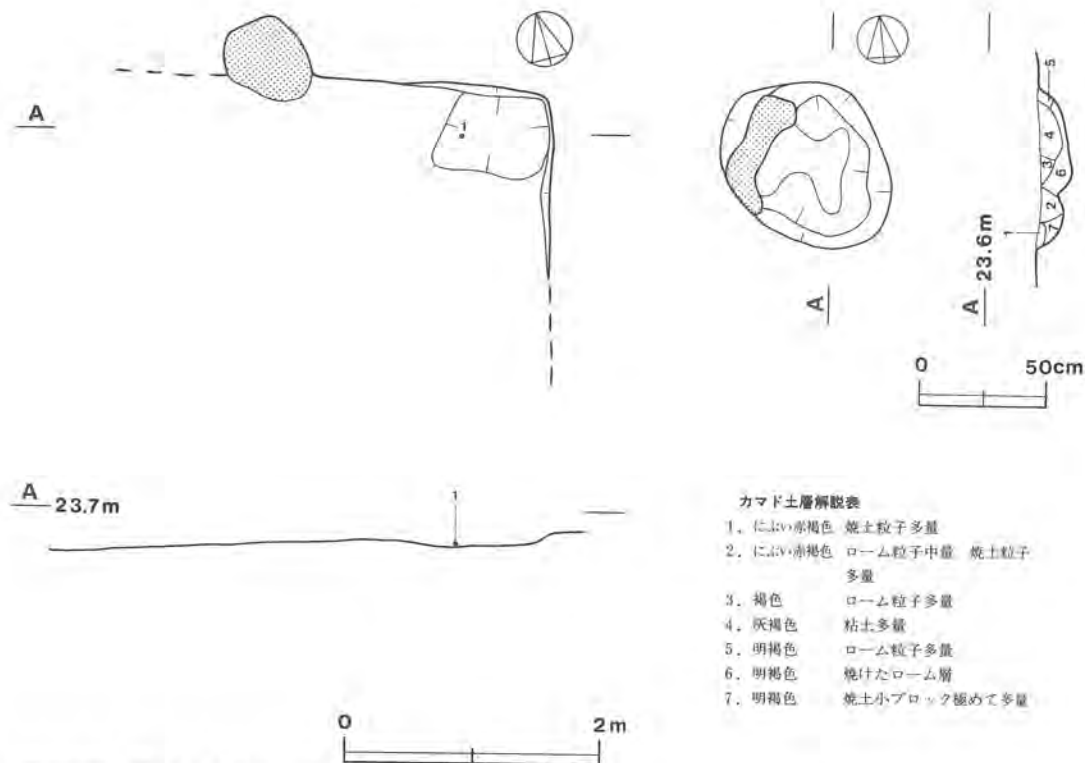
**備考** 調査区域南端部の傾斜地に位置する。カマドと北東部の床面が残存し、西側から南側にかけては、遺構確認の段階で既に削平されている。北東コーナー付近の床面はカマド付近よりやや低く、焼土や炭化物が堆積している。



第103図 第45号住居跡  
出土遺物実測図

#### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	高台付坏 須恵器	A 13.2 B 5.1 D 9.2 G 1.4	平底。外側へふんばる高台が付く。体部は軽く外反しながら立ちあがる。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部, 回転ヘラ切り後, 高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	40% P346 北東コーナー付近床面 PL55



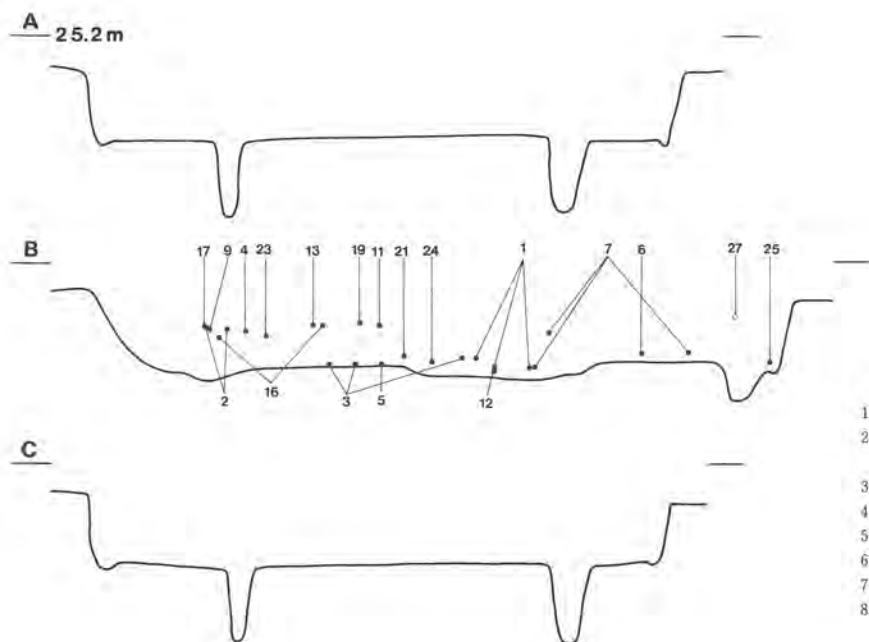
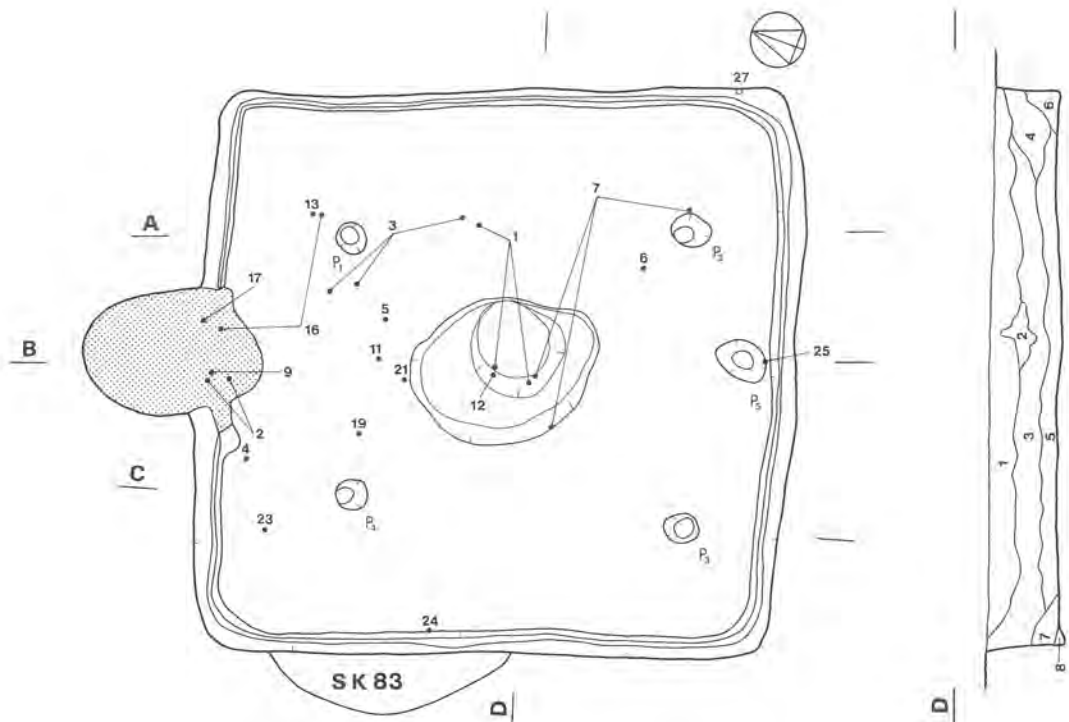
第104図 第45号住居跡・カマド実測図

第46号住居跡 (第105図)

**位置** I4f4区。重複関係 SK-83より古い。**平面形** 方形。規模 4.71×4.56m。**主軸方向** N-19°-W。**壁** 直立。壁高46~55cm。**壁溝** 全周。上幅12~20cm, 深さ3~6cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>(25×22, -65cm) P<sub>2</sub>(32×25, -60cm) P<sub>3</sub>(28×25, -66cm) P<sub>4</sub>(26×25, -66cm) P<sub>5</sub>(40×31, -32cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長142cm, 幅113cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約90cm。火床は床面より10cm程深く掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

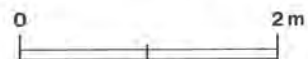
**遺物** 土師器片(甕, 坏, 平鉢) 1,640点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 盤, 高台付皿, 壺) 144点。石製紡錘車 1点。第108図5の甕(口縁部片)は中央部の床面から正位で, その横に第107図3の甕が潰れた状態で出土している。カマド内にも土師器甕の破片が多数出土している。第108図26の短頸壺はミニチュア土器ともいえる小形のもので, 北西部の覆土から出土している。

**備考** 床面中央部に, 不整楕円形の浅い落ち込み(-10cm程度)を検出する。覆土に焼土を含み, 底面も焼けているので, 鍛冶に関する施設と想定して調査を進めたが, それに関する遺物も無く, 性格を明らかにすることはできていない。

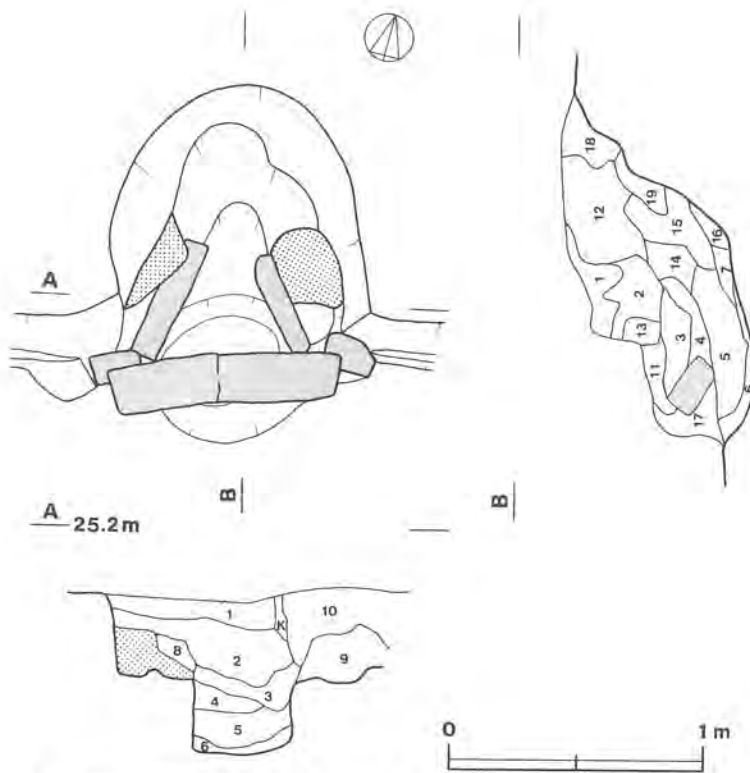


土層解説表

- |        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1. 黒褐色 | ローム粒子中量                   |
| 2. 黒褐色 | ローム粒子中量<br>炭化粒子多量         |
| 3. 暗褐色 | ローム粒子多量                   |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子多量                   |
| 5. 黒褐色 | ローム粒子多量                   |
| 6. 黒褐色 | ローム粒子多量                   |
| 7. 黒褐色 | ローム粒子中量                   |
| 8. 褐色  | ローム粒子多量<br>ローム小ブロック<br>中量 |



第105図 第46号住居跡実測図



カマド土層解説表

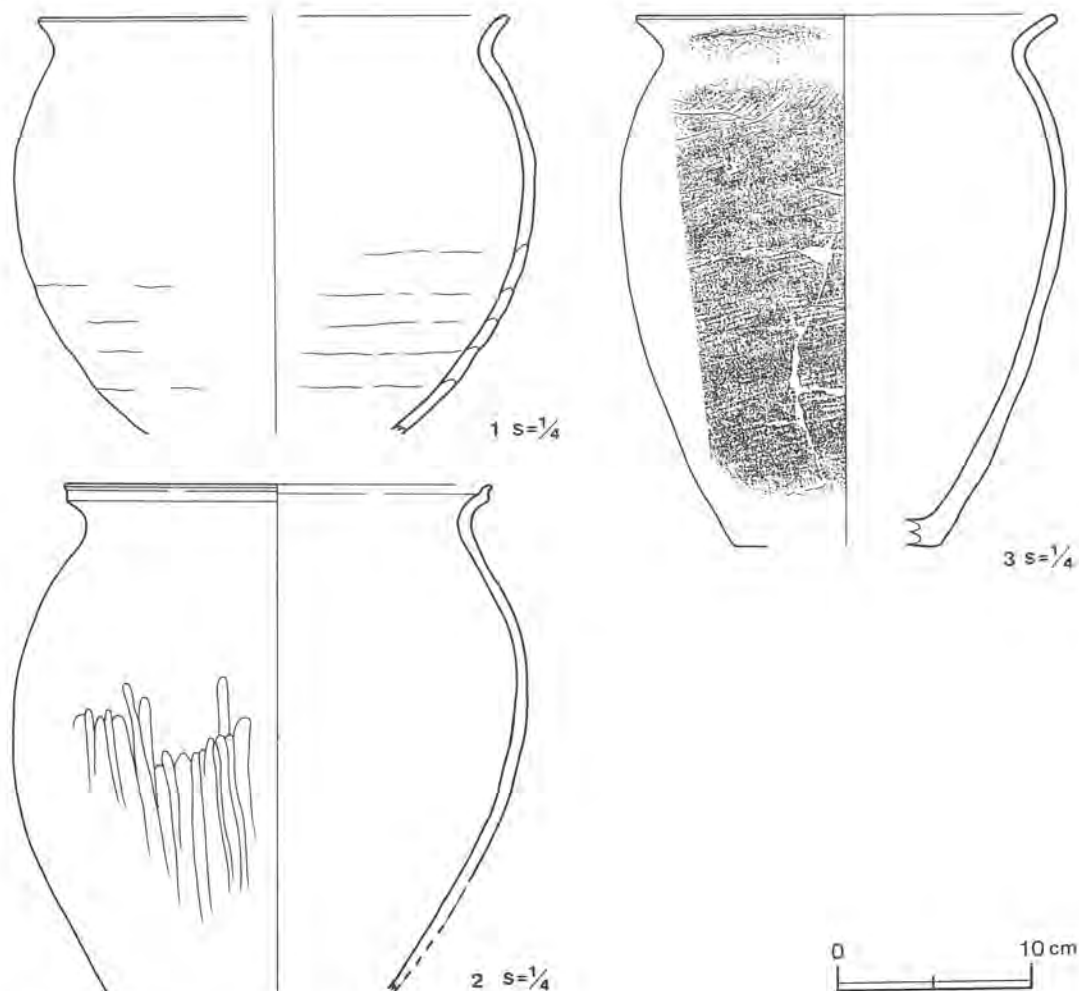
1. 褐色 硬くしまる
2. 褐色 ローム粒子中量 焼土  
ブロック中量 粘性強  
い。
3. 褐色 ローム粒子中量 粘土  
中量 焼土粒子中量
4. 極暗赤褐色 焼土粒子中量
5. 赤褐色 焼土極めて多量
6. 黄褐色 焼けたローム土
7. 極暗赤褐色 焼土多量
8. 褐色 ローム粒子中量
9. にぶい黄褐色 粘性強い
10. 褐色 ローム粒子中量
11. にぶい黄褐色 粘性強い
12. にぶい黄褐色 粘土極多量
13. 褐色 ローム粒子中量
14. にぶい赤褐色 焼土粒子多量
15. 灰褐色 焼土多量
16. にぶい黄褐色 ローム粒子多量
17. 褐色 ローム粒子中量 粘性  
弱い
18. にぶい赤褐色 焼土粒子中量
19. 黒褐色 焼土粒子中量 粘性弱  
い

第106図 第46号住居跡カマド実測図

出土遺物観察表

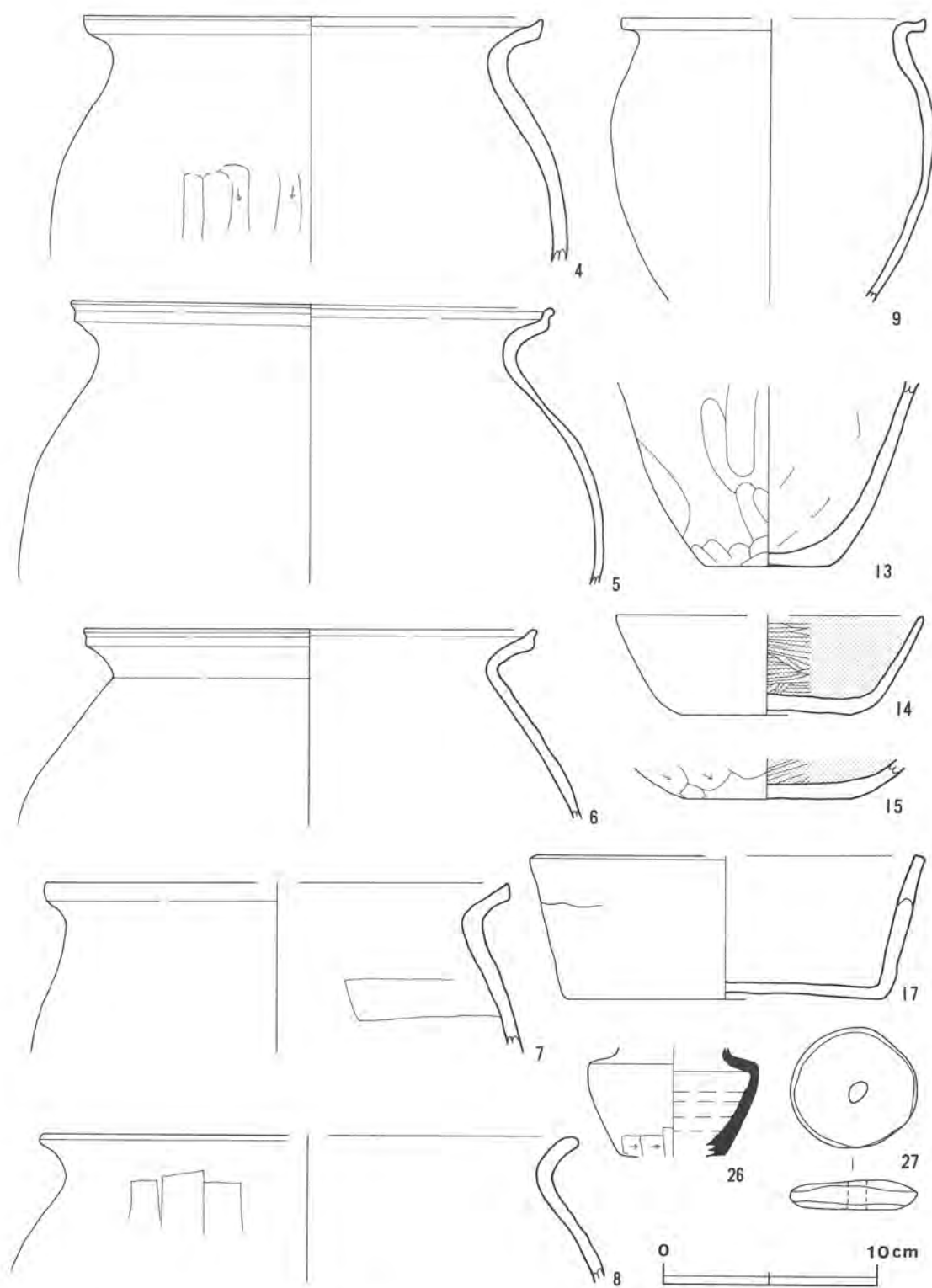
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 1	甕 土師器	A (24.6) B (22.4) E (27.2)	底部欠損。胴部は内彎しながら立ち上がり、胴部上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内・外面、ナデ。部分的に輪轆み痕を残す。	砂粒・長石 橙色 普通	30% P350 中央部・東部覆 土下層
2	甕 土師器	A 22.2 B (27.1) E 27.1	底部欠損。胴部は内彎しながら立ち上がり、胴部上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸みをもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。内面、ナデ。外面、縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	40% P348 カマド付近覆土 中層 PL45
3	甕 土師器	A 21.7 B 28.5 C (10.7) E (23.3)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、胴部上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のナデ。外面、斜位の平行叩き後、ナデ。底部はヘラ削りか。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	80% P347 北東部床面直上 PL45
第108図 4	甕 土師器	A 21.7 B (11.0)	丸く張った胴部から、頸部から口縁部にかけて大きく外反して開き、口縁端部は外上方へ軽くつまみあげられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部外面、ナデ。中位以下はヘラ削り(磨減が著しいため不明瞭)。	砂粒・長石・雲母 スコリア にぶい橙色 普通	40% P349 北西部覆土中層



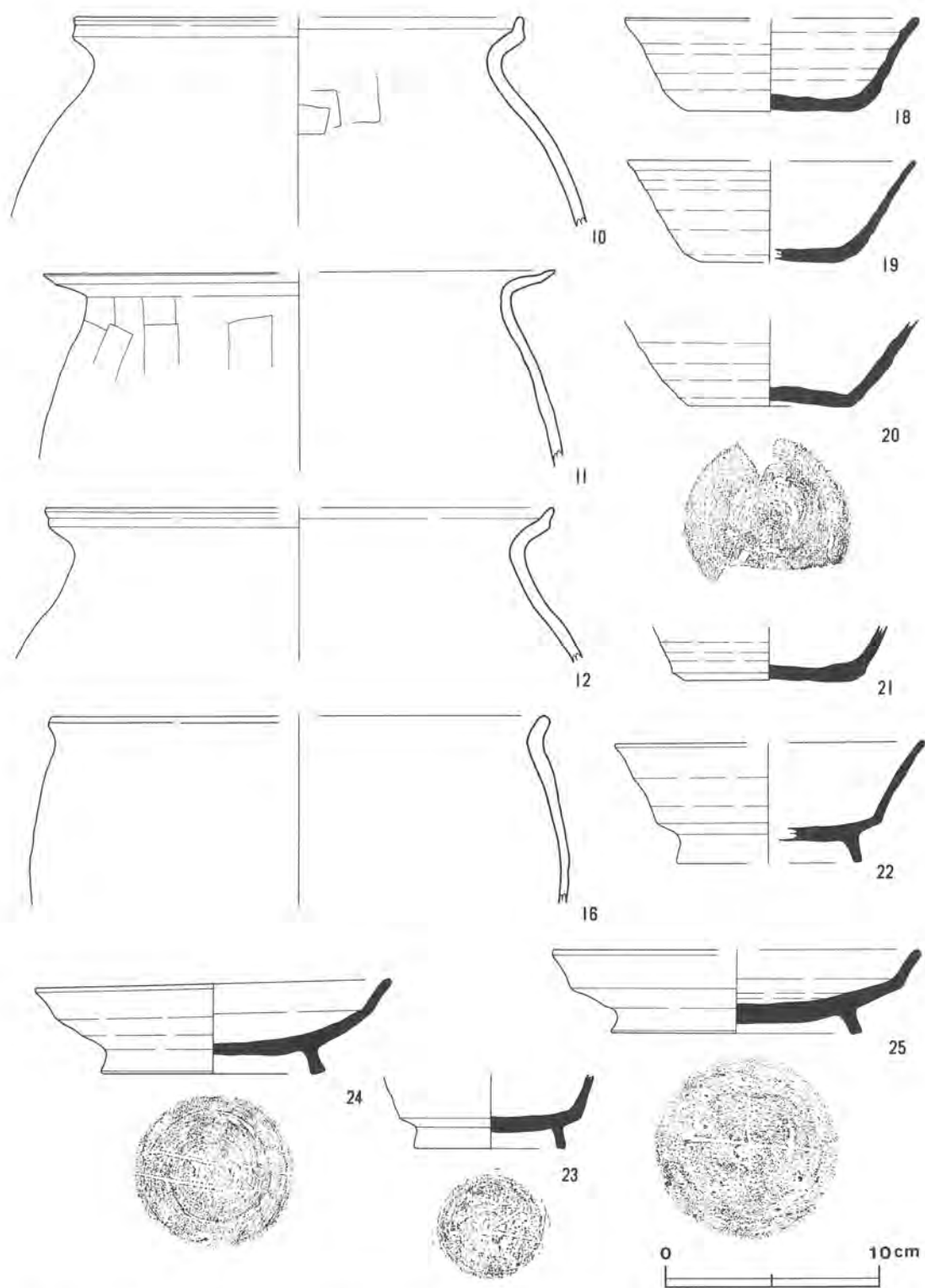


第107図 第46号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A 22.5 B [13.2] E (27.5)	張りの強い胴部が内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。その他、ナデ。	砂粒・雲母にふい褐色不良	30% P352 中央部床面直上
6	甕 土師器	A 21.4 B [ 9.3]	張りの強い胴部から、頸部は「く」の字に屈曲する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。その他、ナデ。全体に磨減が著しい。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	15% P355 カマド覆土
7	甕 土師器	A (21.8) B ( 8.1)	頸部から口縁部にかけて外反し、口縁端部は外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデか。	砂粒にふい橙色普通	25% P351 中央部・南東部覆土中・下層



第108图 第46号住居跡出土遺物実測図(2)



第109图 第46号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第108図 8	甕 土 師 器	A (25.0) B ( 6.9)	頸部から口縁部にかけて、丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。頸部直下内面、横位のナデ。外面、縦位のヘラ削り（剥離のため不明瞭）。	砂粒・雲母 橙色 普通	15% P356 カマド覆土
9	小 型 甕 土 師 器	A (14.2) B (13.5) E (15.1)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字に鋭く屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口縁部から胴部上位まで、内外面横ナデ。	砂粒・長石 灰褐色 普通	30% P353 カマド付近覆土 中層
第109図 10	甕 土 師 器	A (21.0) B ( 9.9)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P361 カマド覆土
11	甕 土 師 器	A (24.0) B ( 9.2)	胴部はわずかに内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は細くつまみ出され、外面に鈍い稜をもつ。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のナデ。外面、縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にふい橙色 普通	5% P359 中央部中層
12	甕 土 師 器	A (24.0) B ( 7.3)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へ軽くつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。その他ナデ。	砂粒・雲母・長石 にふい赤褐色 普通	5% P360 中央部床面直上
第108図 13	甕 土 師 器	B ( 8.7) C 6.0	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、斜・縦位のヘラ削り。底部、ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	30% P354 北東部覆土中層
14	坏 土 師 器	A (14.2) B ( 4.7) C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	30% P364 北西部覆土
15	坏 土 師 器	B ( 1.9) C ( 7.8)	平底。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	10% P365 北東部覆土
第109図 16	鉢 土 師 器	A (23.6) B ( 8.9)	胴部はゆるやかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は丸い。	胴部内面、横位のナデ。外面、縦位のヘラ削り（磨減が著しく、不明瞭）。	砂粒 橙色 普通	5% P357 カマド付近覆土 中層
第108図 17	平 鉢 土 師 器	A (18.5) B 6.8 C 14.4	平底。胴部はわずかに外傾して立ち上がる、口唇部は平坦な面である。	底部、胴部内外面ともナデ。胴部内外面に、部分的に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・長石 にふい橙色 普通	30% P363 カマド付近覆土 中層
第109図 18	坏 須 恵 器	A (13.8) B 4.4 C ( 8.4)	平底。体部は軽く外反しながら立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、軽いナデ。	砂粒 灰白色 普通	30% P368 中央部覆土 ヘラ記号P L53
19	坏 須 恵 器	A (13.5) B 4.8 C ( 7.0)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・長石 灰白色 普通	40% P366 中央部覆土中層 P L53

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
20	坏 須恵器	B〔4.1〕 C〔7.6〕	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転へら切り後、一定方向の雑なナデ。	砂粒 灰色 普通	40% P370 北西部覆土 へら記号
21	坏 須恵器	B〔2.5〕 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。下端付近に稜をもつ。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	50% P367 中央部覆土下層
22	高台付坏 須恵器	A(14.4) B 5.7 D〔8.8〕 G 1.4	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は軽く外反しながら立ち上がる。下端付近に稜をもち、高台部との間に幅狭な面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 にふい橙色 普通	30% P371 北東部覆土
23	高台付坏 須恵器	B〔3.5〕 D 7.1 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下端付近に稜をもち、高台部との間に幅狭な面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 黄灰色 普通	50% P372 北西部覆土中層 へら記号
24	盤 須恵器	A(16.7) B 4.5 D 10.6	平底。外側へ軽くふんばる高台が付く。体部は緩やかに外傾して立ち上がる。口縁部は外反して開き、口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 にふい赤褐色 普通	80% P378 西部床面直上 へら記号P L57
25	盤 須恵器	A(17.2) B 4.0 D 11.8 G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は緩やかに外傾して立ち上がる。口縁部は軽く外反し、口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	60% P379 南部床面直上 へら記号P L57
第108図 26	小型短頸壺 須恵器	B〔5.2〕 C〔5.0〕	平底。わずかに内彎気味に外傾して立ち上がり、肩部が強く張る。頸部は上方へ屈曲し、短い口縁部が直立する。	体部下端、手持ちへら削り。底部、多方向のへら削り。	砂粒 褐灰色 普通	35% P376 北部覆土

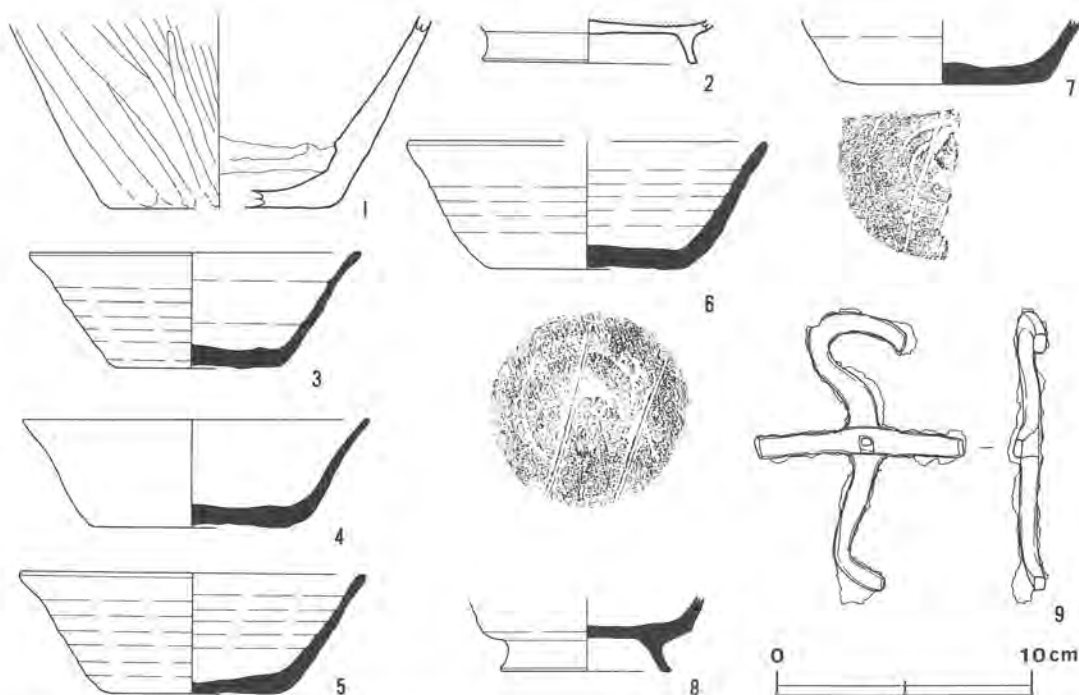
図版番号	種類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備考
27	土製紡錘車	5.8×5.7×1.4	40.6	南東コーナ一付近覆土上層。 P L59 DP 6

第47号住居跡（第111図）

位置 14a7区。平面形 方形。規模 4.51×[2.82]m。主軸方向 N-18°-W。壁 直立。壁高30~32cm。壁溝 全周。上幅8~15cm、深さ6~10cm。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub> (62×52、-32cm) カマド 北壁。粘土で構築。補強に凝灰岩を使用。全長128cm、幅110cm。煙道部の壁面への掘り込みは約90cm。火床は、床面より15cm程深く掘り窪められている。底面のロームが火熱を受けて焼土化した層は10cm程にもなる。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕、高台付坏）244点。須恵器片（甕、坏、高台付坏、蓋）38点。砥石1点。鉄製品（焼印）1点。土器はいずれも破片の状態で、北東部を中心に出土している。第110図9の焼印は「子」の字を象ったもので、北壁際西寄りの床面直上から出土している。

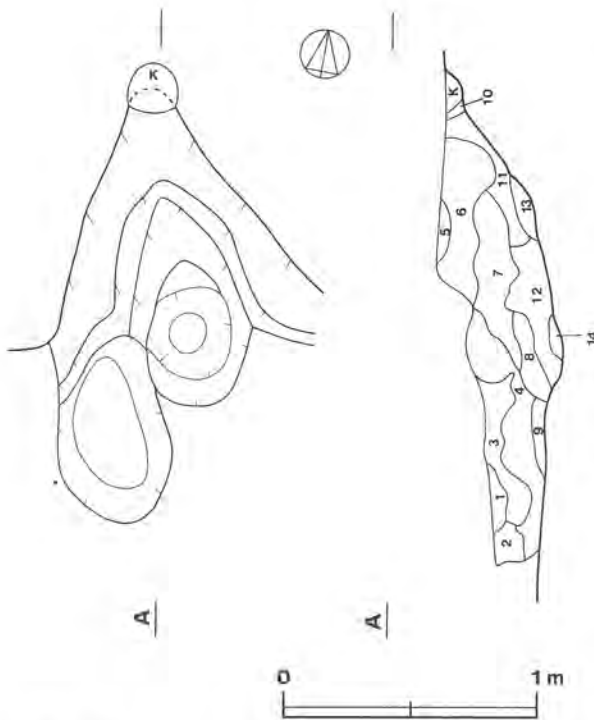
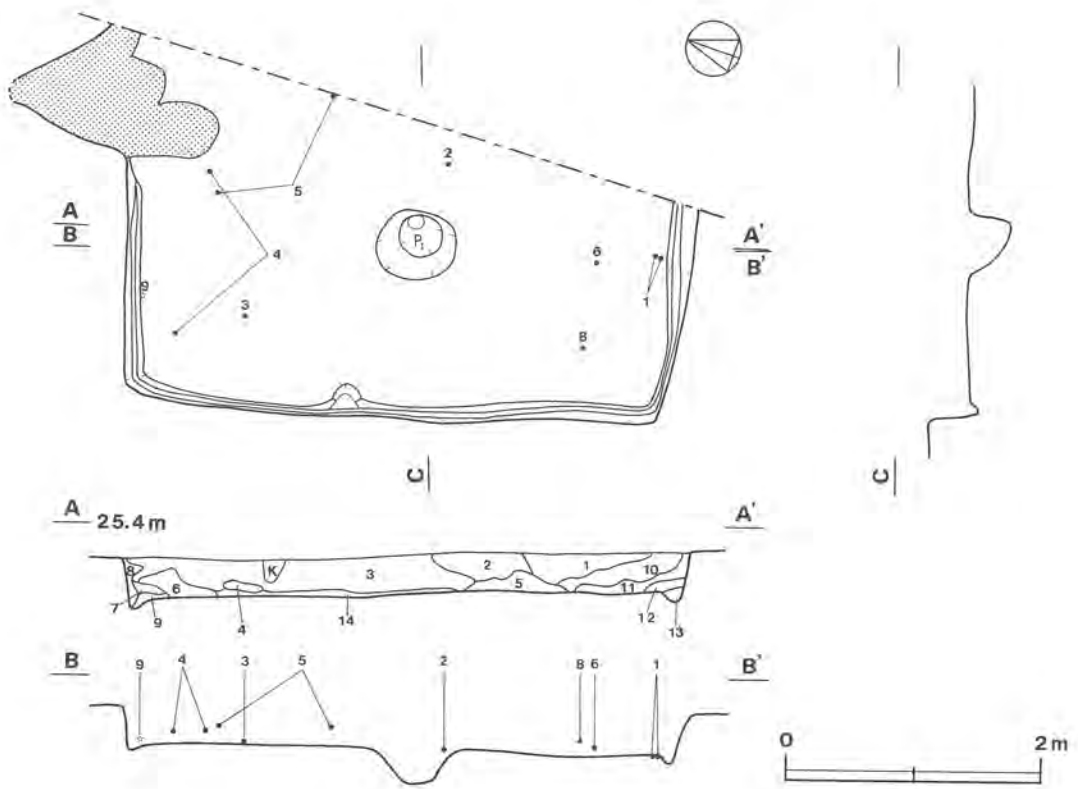
備考 本跡は東側の調査区地域外へ延びている。



第110図 第47号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	種類	法 量 (cm)	備 考
第110図 9	焼 印	全長11.1 最大幅8.2 最大厚0.8	「子」の字状を呈する。中央に柄を差し込んだと思われる小孔（0.4×0.3cm程度）をもつ。北壁際西部床面直上出土。 P L 63 M 38



住居跡土層解説表

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 1. 暗褐色  | ローム粒子多量                 |
| 2. 黒褐色  | ローム粒子多量                 |
| 3. 暗褐色  | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量      |
| 4. 灰褐色  | ローム粒子中量 粘性強い            |
| 5. 明褐色  | 粘性強い 硬くしまる              |
| 6. 黒褐色  | ローム粒子中量 粘土多量 しまり弱い      |
| 7. 明赤褐色 | 焼土粒子多量 粘性・しまり弱い         |
| 8. 灰褐色  | 粘土極めて多量 粘性強い            |
| 9. 褐色   | ローム粒子中量                 |
| 10. 黒褐色 | ローム粒子中量                 |
| 11. 暗褐色 | ローム粒子中量 しまり弱い           |
| 12. 褐色  | ローム粒子中量 焼土粒子中量 粘性・しまり弱い |
| 13. 褐色  | ローム粒子多量 粘性・しまり弱い        |
| 14. 暗褐色 | ローム粒子少量                 |

カマド土層解説表

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1. 黒褐色   |                       |
| 2. 黒褐色   | ローム粒子中量               |
| 3. 黒褐色   | ローム粒子中量 粘土多量 粘性強い     |
| 4. 暗褐色   | ローム粒子中量 粘土中量          |
| 5. 暗褐色   | ローム粒子中量 粘土中量          |
| 6. 暗褐色   | 焼土粒子中量 粘土多量 粘性強い      |
| 7. 黒褐色   | ローム粒子中量 粘土中量          |
| 8. 暗赤褐色  | 焼土粒子中量 粘土多量           |
| 9. 暗褐色   | ローム粒子多量               |
| 10. 褐色   | ローム粒子多量               |
| 11. 暗褐色  | 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量 粘土中量 |
| 12. 暗赤褐色 | 焼土粒子極めて多量 焼土ブロック少量    |
| 13. 暗赤褐色 | 炭化粒子多量 炭化物中量 焼土粒子多量   |
| 14. 明褐色  | 焼けたローム粒子極めて多量         |

第111図 第47号住居跡・カマド実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	甕 土師器	B ( 7.6) C ( 9.2)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面、横位のナデ。外面、縦位のヘラ磨き。底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 褐色 普通	20% P382 南壁際床面
2	高台付坏 土師器	B ( 1.8) D 8.6 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 橙色 普通	30% P384 中央部床面
3	坏 須恵器	A 13.2 B 4.7 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、上位で軽く外反する。	底部、回転ヘラ切り後、粗いナデ。	砂粒 灰黄色 普通	100% P385 北西部床面直上 P L53
4	坏 須恵器	A (13.8) B 4.3 C 7.8	平底。体部は器厚を減しながら、外傾して立ち上がり、上位から口縁部にかけて軽く外反する。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	70% P386 北西部、カマド 付近覆土中層 ヘラ記号 P L53
5	坏 須恵器	A 13.5 B 4.8 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 良好	65% P387 カマド付近、中 央部覆土中層 P L53
6	坏 須恵器	A (14.2) B 5.1 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 にふい褐色 普通	40% P388 南部覆土下層 ヘラ記号P L52
7	坏 須恵器	B ( 2.6) C ( 8.2)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	10% P390 北西部覆土 ヘラ記号
8	高台付坏 須恵器	B ( 2.9) D 6.8 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅の狭い面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。底部、ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	50% P391 南西部床面直上

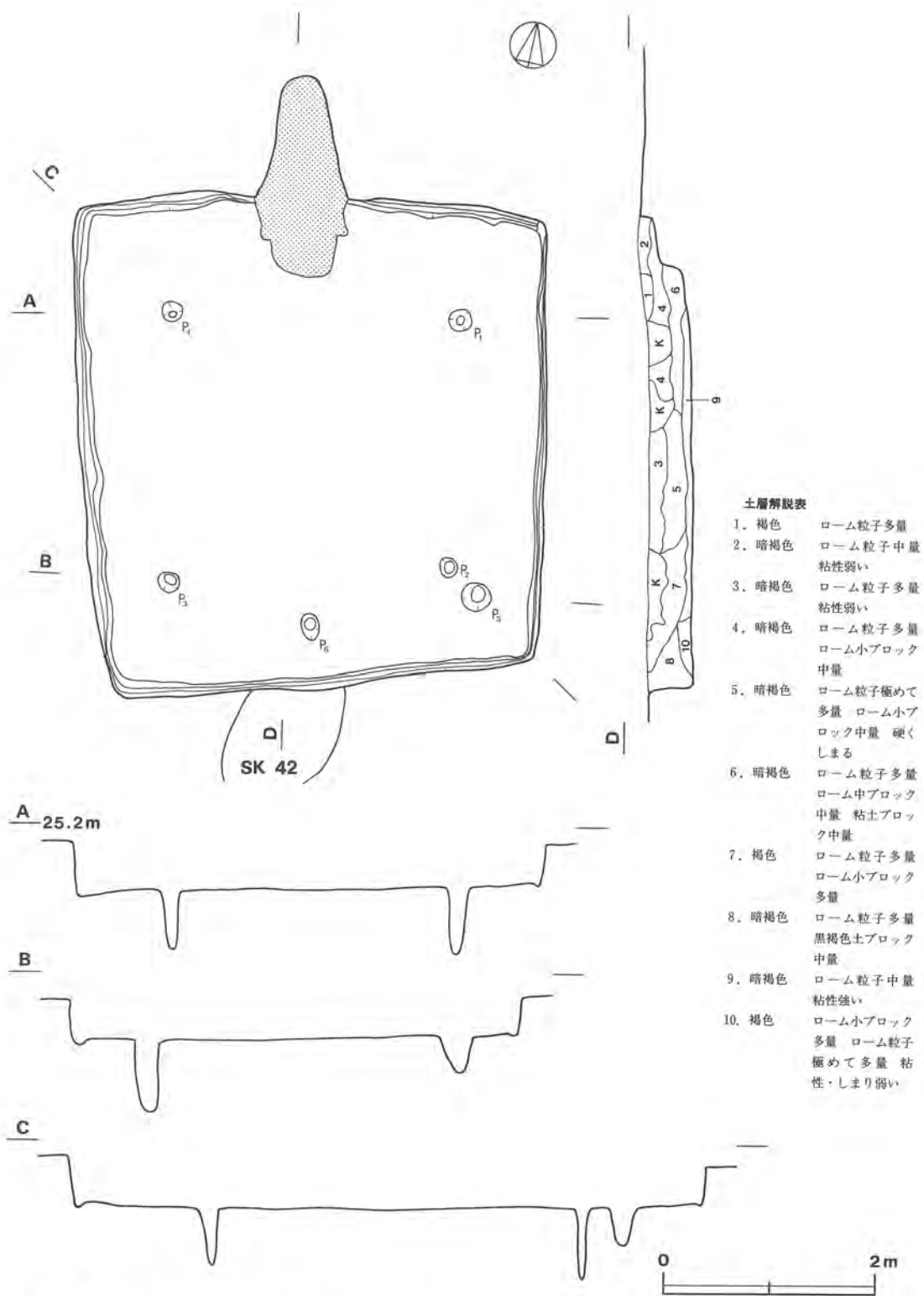
#### 第48号住居跡（第112図）

**位置** I4b5区。**重複関係** SK-42（新旧不明）**平面形** 方形。**規模** 4.72×4.45m。**主軸方向** N-14°-W。**壁** 直立。壁高38～47cm。**壁溝** ほぼ全周。上幅5～18cm、深さ3～5cm。**床** 平坦。**ピット** 6か所。P<sub>1</sub> (22×20, -64cm) P<sub>2</sub> (20×15, -70cm) P<sub>3</sub> (25×22, -68cm) P<sub>4</sub> (20×20, -57cm) P<sub>5</sub> (28×27, -38cm) P<sub>6</sub> (25×16, -25cm) P<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>が主柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長195cm、幅94cm、煙道部の壁面への掘り込みは約110cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。**覆土** 人為堆積。

**遺物** 土師器片（甕）59点。須恵器片（坏）2点。出土量は極めて少ない。第114図1の甕は中央部付近の覆土から出土した破片を接合したものである。

**備考** カマドの煙道部が他に比べて細長く、緩やかに掘り込まれていること、袖部が壁面よりも内側へ突き出すようにして構築されていることなどが特徴的である。

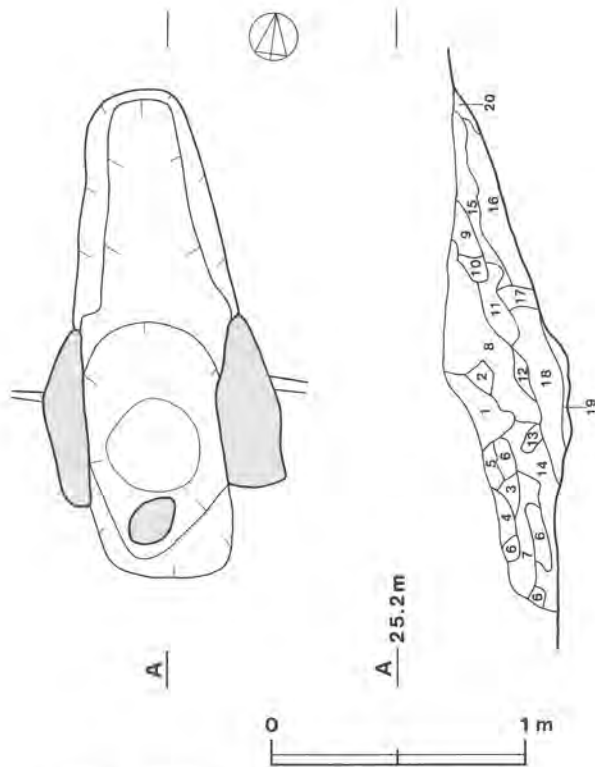




土層解説表

- |        |  |
|--------|--|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量                                    |
| 2. 暗褐色 | ローム粒子中量<br>粘性弱い                            |
| 3. 暗褐色 | ローム粒子多量<br>粘性弱い                            |
| 4. 暗褐色 | ローム粒子多量<br>ローム小ブロック<br>中量                  |
| 5. 暗褐色 | ローム粒子極めて<br>多量 ローム小ブ<br>ロック中量 硬く<br>しまる    |
| 6. 暗褐色 | ローム粒子多量<br>ローム中ブロッ<br>ク中量 粘土ブロッ<br>ク中量     |
| 7. 褐色  | ローム粒子多量<br>ローム小ブロッ<br>ク多量                  |
| 8. 暗褐色 | ローム粒子多量<br>黒褐色土ブロッ<br>ク中量                  |
| 9. 暗褐色 | ローム粒子中量<br>粘性強い                            |
| 10. 褐色 | ローム小ブロッ<br>ク多量 ローム粒<br>子極めて多量 粘<br>性・しまり弱い |

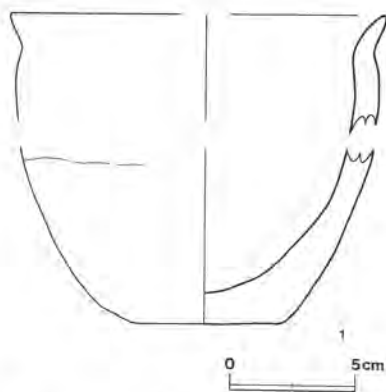
第112図 第48号住居跡実測図



カマド土層解説表

1. 黒褐色
2. にぶい黄褐色 炭化粒子中量 粘土多量
3. 黒褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック中量
4. 暗褐色 ローム粒子中量
5. 褐色 ローム粒子多量 粘性・しまり弱い
6. にぶい黄褐色 粘土極めて多量 粘性強い
7. 暗褐色 ローム粒子極めて多量
8. 褐色 ローム粒子多量 粘土中量
9. 黒褐色 粘土中量
10. にぶい黄褐色 粘性強い
11. にぶい黄褐色 粘土極めて多量
12. 褐色 粘土粒子中量 焼土ブロック中量 粘土中量
13. 暗赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子中量
14. 褐色 ローム極めて多量 ローム小ブロック中量
15. 暗赤褐色 焼土粒子中量 しまり弱い
16. にぶい赤褐色 焼土粒子極めて多量 しまり弱い
17. 暗赤褐色 焼土粒子多量 ローム粒子多量
18. にぶい赤褐色 焼土粒子多量
19. 明褐色
20. 黄褐色 粘性・しまり弱い

第113図 第48号住居跡カマド実測図



第114図 第48号住居跡出土遺物実測図

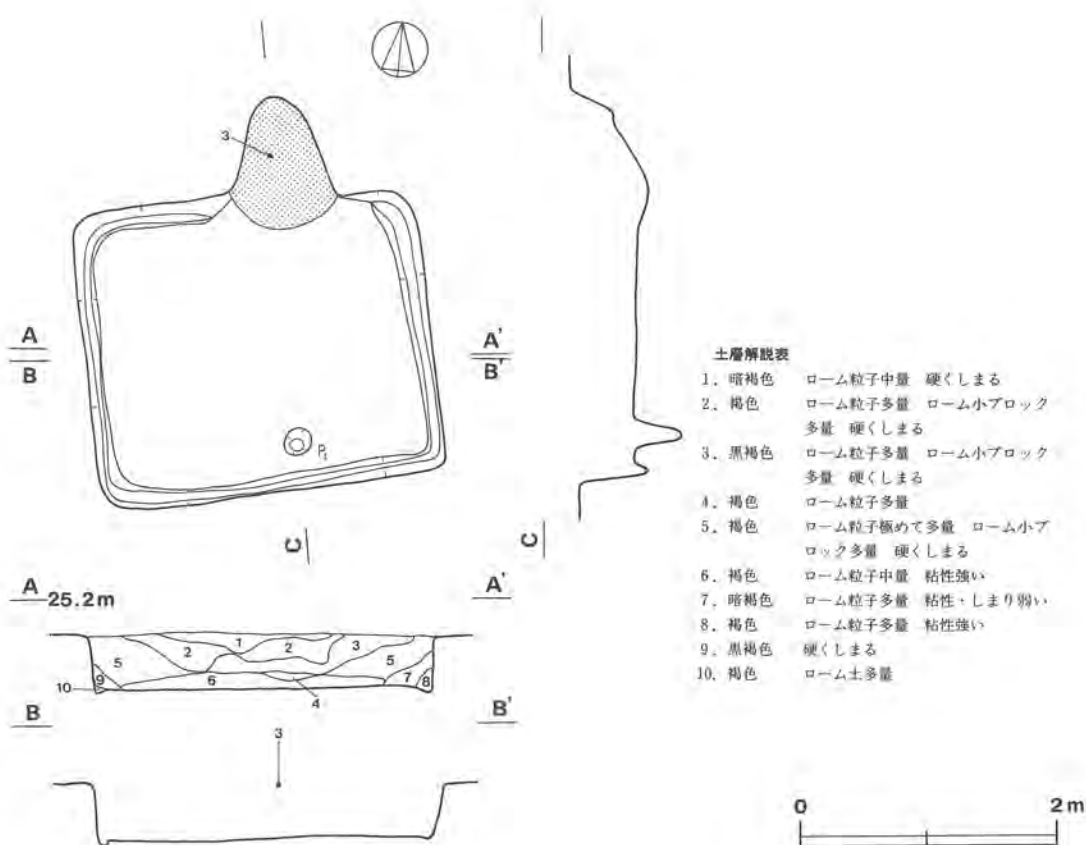
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 1	小型甕 土師器	A (14.8) C 5.9	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状にゆるく屈曲する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。わずかに輪積み痕を残す。	砂粒 灰褐色 普通	50% P392 中央部覆土に散乱

第49号住居跡 (第115図)

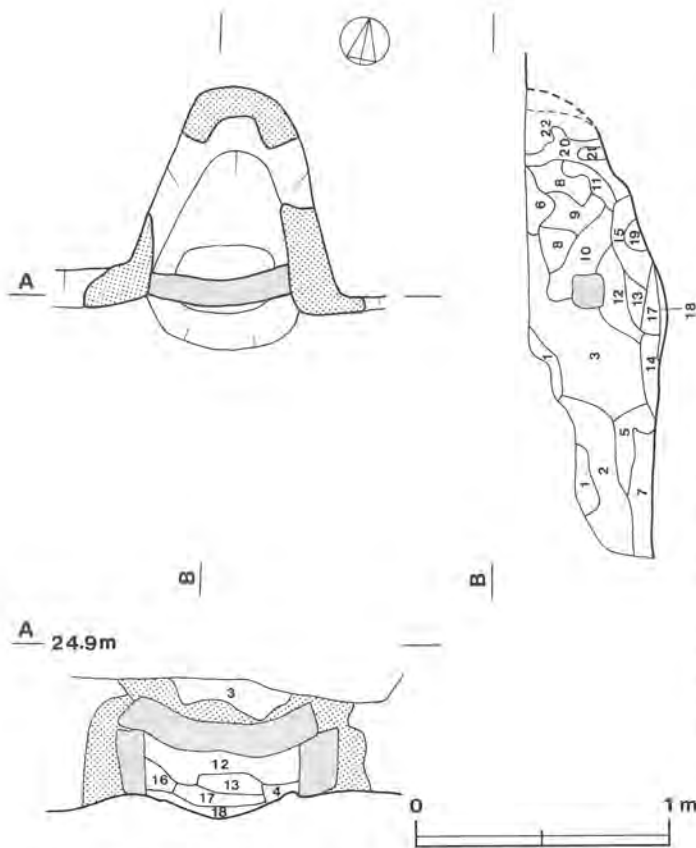
位置 14c<sub>4</sub>区。平面形 長方形。規模 2.75×2.38m。主軸方向 N-12°-W。壁 直立。壁高 43~50cm。壁溝 全周。上幅11~25cm, 深さ4~10cm。床 平坦。ピット 1か所, P<sub>1</sub>(23×20, -37cm)。カマド 北壁東寄り。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長104cm, 幅110cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約75cm。火床は, 床面より5cm程深く窪められている。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏) 103点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 盤) 13点。砥石1点。第117図の3の蓋は, 内面を斜め上方へ向けるようにして, カマドの上から出土している。1の甕は, カマドにかけられていたものが押し潰されたような状態で出土している。

備考 凝灰岩の切石でカマドの焼き口部を構築した状態が良好に残っている。



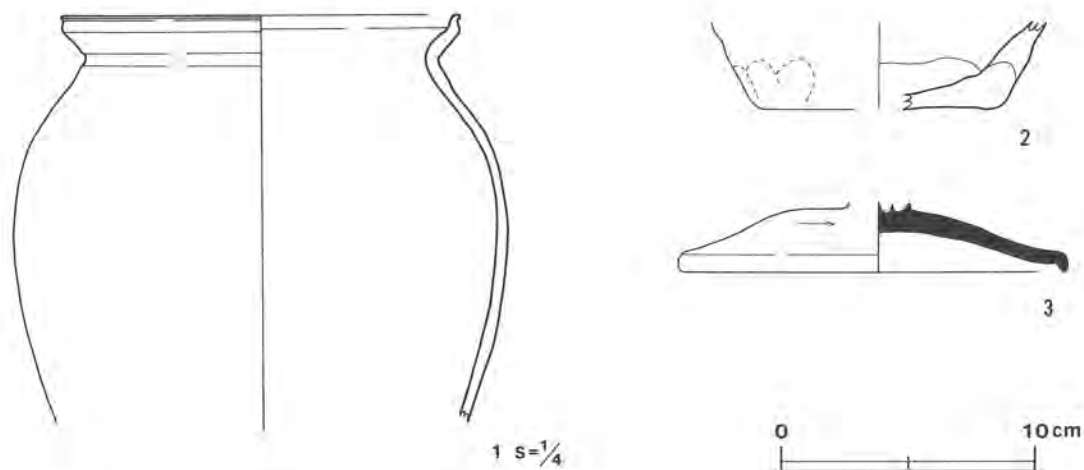
第115図 第49号住居跡実測図



カマド土層解説表

1. におい黄褐色 粘性強い
2. 黒褐色 ローム粒子中量
3. 暗褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量 黒色土ブロック中量 粘性しまり弱い
4. 灰褐色 ローム粒子中量 粘土多量
5. におい黄褐色 粘性極めて強い 硬くしまる 粘土多量
6. 暗褐色 硬くしまる
7. 褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量 粘性強い
8. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 粘土中量 粘性強い
9. におい黄褐色 粘性極めて強い
10. 灰黄褐色 粘性強い
11. におい黄褐色 粘性強い
12. 灰褐色 焼土粒子中量 粘土多量
13. におい赤褐色 粘性・しまり弱い
14. 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量 焼土粒子中量
15. 暗褐色 焼土粒子中量 焼土中量 しまり弱い
16. におい褐色 凝灰岩ブロック多量
17. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
18. 明褐色 焼けたローム
19. 明褐色 粘性・しまり弱い
20. におい黄褐色 粘性強い
21. 褐色 ローム粒子多量
22. 褐色 ローム粒子多量 粘土多量 粘性強い

第116図 第49号住居跡・カマド実測図



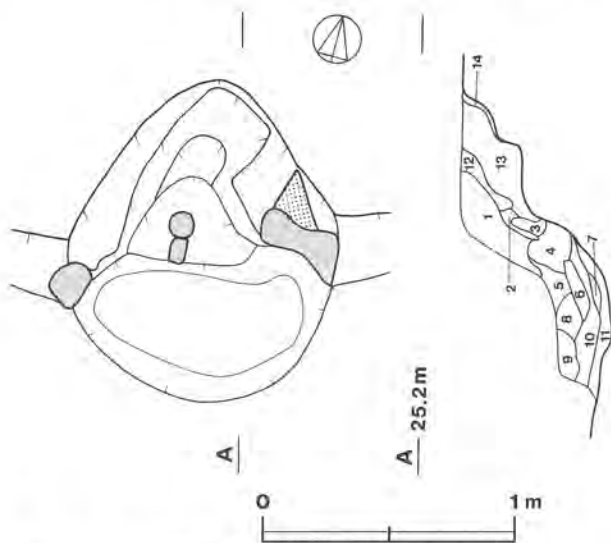
第117図 第49号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 I	甕 土師器	A 20.6 B (21.8)	底部欠損。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横・斜位のナデ。外面、縦位のヘラ削り（磨減が著しく詳細は不明）。	砂粒・雲母・ス コリア にふい橙色 普通	30% P393 カマド覆土
2	甕 土師器	B ( 3.5) C ( 9.8)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部下端外面、指頭圧痕。胴部内面、横位のヘラナデ。底部、ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	5% P395 北西部覆土
3	蓋 須恵器	A 15.4 B ( 2.7)	天井部は浅い。頂部からなだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。つまみ欠損。	天井部、径10cmにわたり回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	95% P396 カマド上面

第50号住居跡 (第119図)

位置 I4a<sub>3</sub>区。平面形 方形。規模 4.02×3.82m。主軸方向 N-10°-W。壁 直立。壁高 35~43cm。壁溝 全周。上幅15~30cm、深さ3~4cm。床 平坦。ピット 4か所。P<sub>1</sub>(45×20, -38cm) P<sub>2</sub>(27×26, -37cm) P<sub>3</sub>(30×23, -52cm) P<sub>4</sub>(40×30, -47cm) P<sub>1</sub>の周囲は直径70cm程度の範囲で浅く(-10cm)落ち込んでいる。P<sub>2</sub>はやや外側へ傾く。P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>の深さは確認面からの深さである。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長128cm、幅115cm、煙道部の壁面への掘り込みは約60cm。火床は、床面より5cm程深く掘り窪められている。火床中央に、凝灰岩製の支脚が2本、縦に並んで据えられて出土しており、その周囲に灰が多量に



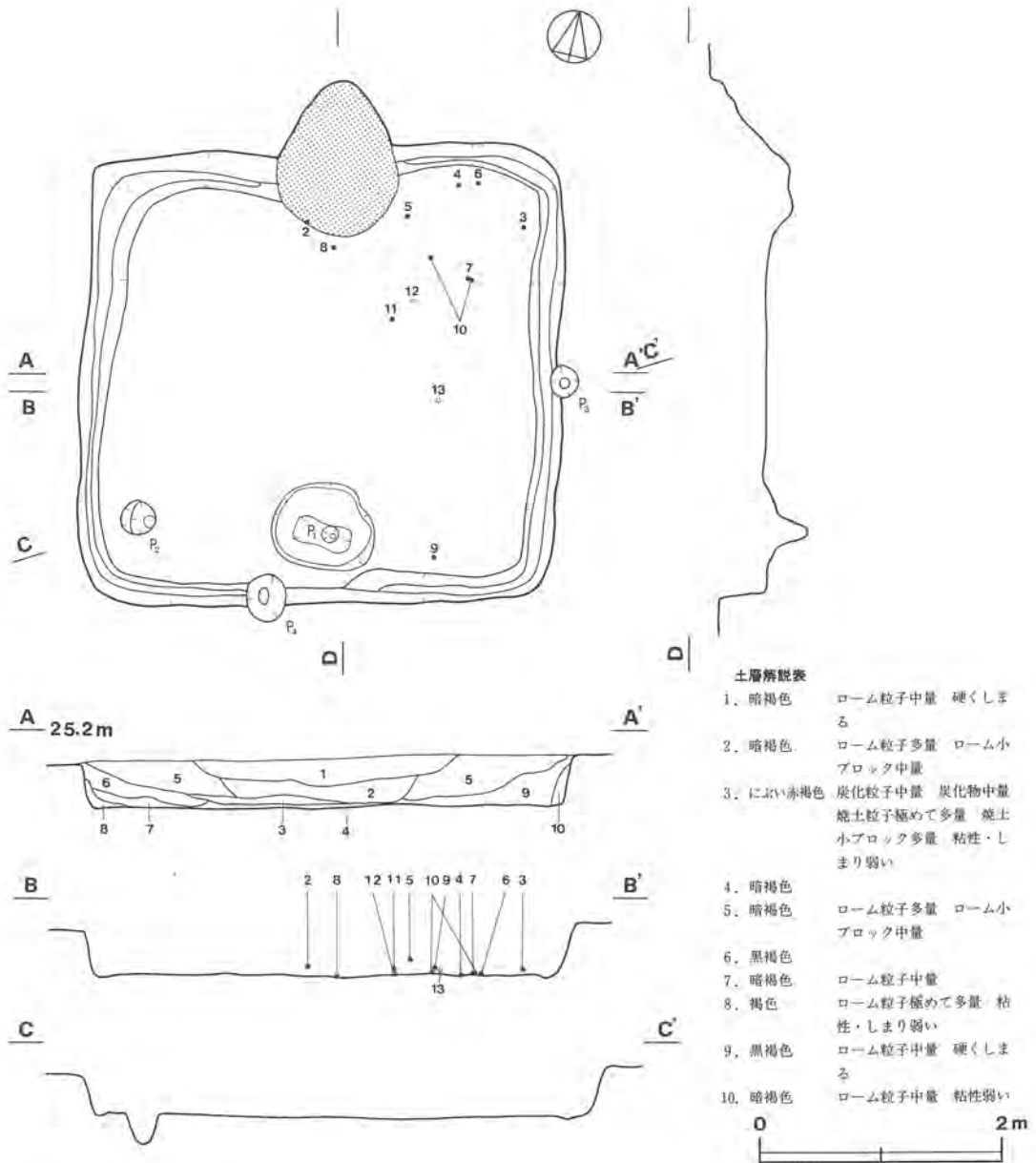
カマド土層解説表

1. 褐色 焼土粒子多量 粘土多量
2. にふい赤褐色 焼土粒子中量
3. 褐色 焼土粒子中量 粘土多量
4. にふい赤褐色 焼土小ブロック多量
5. 褐色 焼土粒子中量 粘土多量
6. 赤褐色 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック多量
7. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
8. にふい赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量
9. にふい赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック多量
10. 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子多量
11. 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック中量
12. 赤褐色 粘性弱い 硬くしまる
13. 暗赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量
14. 明褐色

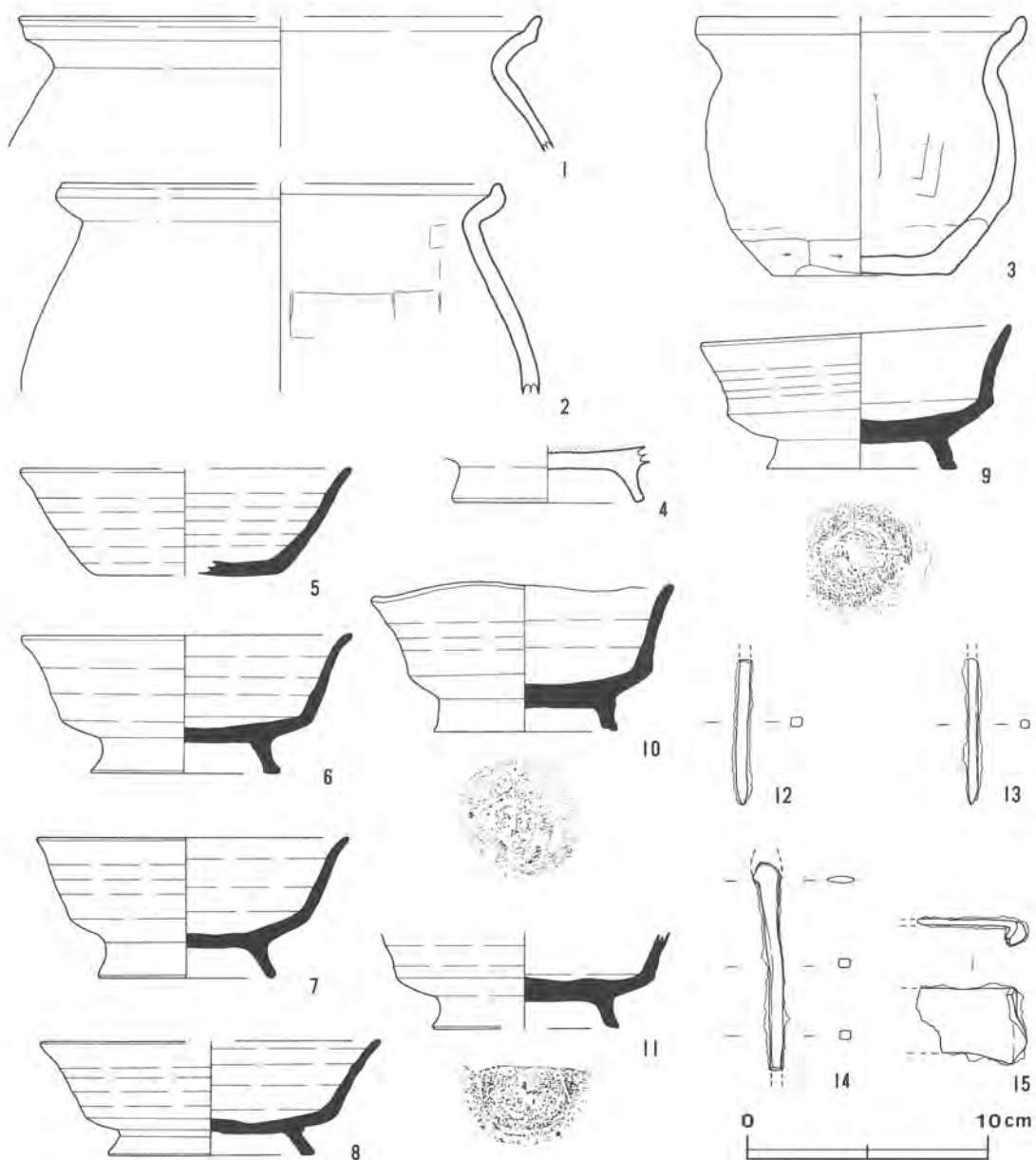
第118図 第50号住居跡カマド実測図

堆積している。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕， 坏， 高台付坏） 744点。須恵器片（甕， 坏， 高台付坏， 蓋） 146点。陶器片1点。鉄製品（鋏3， 鎌1） 4点。須恵器の高台付坏が多く， カマド付近から北東部の床面上には4点（第120図6・7・8・10）まとめて出土している。



第119図 第50号住居跡実測図



第120図 第50号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	甕 土師器	A (21.6) B (5.6)	頭部は「く」の字状に屈曲し、 口縁端部は外上方へつまみ上げ られる。	口頭部内・外面，横ナア。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P399 カマド覆土

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
2	甕 土 師 器	A (18.1) B〔 8.8〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部は「く」の字状に屈曲し、 口縁端部は上方へつまみ上げら れる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ、外面、 ナデ。	砂粒・雲母 にふい赤褐色 普通	5% P398 カマド付近覆土 下層
3	小 型 甕 土 師 器	A (13.8) B 10.9 C 7.4	平底。胴部は球形を呈し、中位 に最大径をもつ。頸部は「く」 の字状に外反する。口縁部は上 方へ屈曲し、口唇部は丸くおさ められる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面、 ナデ。胴部下端付近、横位のヘ ラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・石 英 にふい赤褐色 普通	70% P397 東壁際北部覆土 下層 P L45
4	高 台 付 坏 土 師 器	B〔 2.4〕 D 8.0 G 1.5	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、 黒色処理。底部、回転ヘラ削り 後、高台貼り付け。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	30% P400 北壁際東部床面 直上
5	坏 須 恵 器	A (13.8) B 4.5 C 7.9	平底。体部は内彎気味に外傾し て立ち上がり、口縁部で軽く外 反する。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	30% P401 カマド付近覆土 中層 P L53
6	高 台 付 坏 須 恵 器	A 13.8 B 5.9 D 7.9 G 1.5	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外傾して立ち上 がり、口縁部で外反する。体部下 位に鈍い稜をもち、高台部との 間に面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	80% P410 北壁際東部床面 逆位 P L55
7	高 台 付 坏 須 恵 器	A 13.0 B 5.9 D 7.4 G 1.5	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外傾して立ち上 がり、口縁部で外反する。体部下 位に稜をもち、高台部との間に 幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	砂粒・長石 黄灰色 不良	95% P402 北東部床面逆位 P L55
8	高 台 付 坏 須 恵 器	A (14.2) B 4.8 D 8.6 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外反しながら立ち 上がる。下位に鈍い稜をもち、 高台部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘ ラ削り、高台貼り付け。	砂粒灰色 普通	70% P404 カマド付近床面 直上北西部覆土 ヘラ記号 P L55
9	高 台 付 坏 須 恵 器	A 13.0 B 6.1 D 7.8 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外反しながら立ち 上がる。下位に強い稜をもち、 高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ、 高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 良好	100% P409 南壁際東部覆土 下層横位 ヘラ記号 P L55
10	高 台 付 坏 須 恵 器	A 12.5 B 6.1 D 7.7 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外反しながら立ち 上がる。下位に稜をもち、高台 部との間に面を成す。体部が大 きく歪む。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ、 高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	80% P403 北東部床面 ヘラ記号 P L55
11	高 台 付 坏 須 恵 器	B〔 4.0〕 D 7.8 G 1.4	平底。外側へふんばる高台が付 く。体部下位に稜をもち、高台 部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、回転ヘ ラ削り、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	20% P407 中央部覆土下層 ヘラ記号



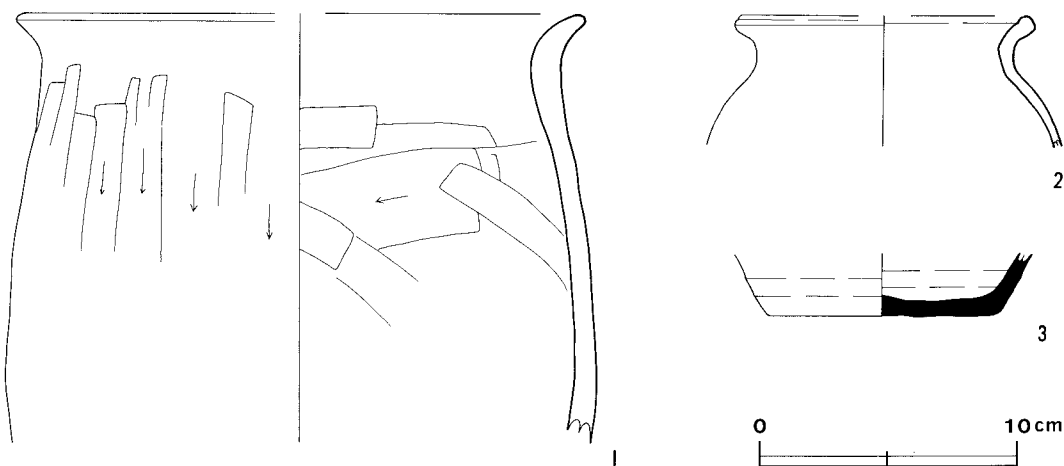
図版番号	種類	法 量 (cm)	備 考
12	鍬	全長〔6.1〕 最大幅0.6 最大厚0.4	茎の一部、北東部床面出土。 M39
13	鍬	全長〔6.1〕 最大幅0.4 最大厚0.3	茎の一部。東部床面出土。 M40
14	鍬	全長〔8.8〕 最大幅1.2 最大厚0.4	鍬身基部から茎にかけての破片。南東部覆土出土。 P L63・M41
15	鍬	全長〔4.6〕 基端部幅3.2 基端部厚0.3	接柄部破片。基端部折り返し。カマド覆土出土。 P L63・M42

### 第51号住居跡（第122図）

**位置** H4j区。平面形 長方形。規模 2.84×2.48m。主軸方向 N-88°-E。壁 直立。壁高 29~35cm。壁溝 全周。上幅20~35cm、深さ8~10cm。床 平坦。ピット 2か所。P<sub>1</sub>(20×20, -13cm) P<sub>2</sub>(16×16, -19cm) **カマド** 東壁南寄り。粘土で構築。全長105cm、幅100cm、煙道部の壁面への掘り込みは約60cm。火床は、床面より10cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕、坏、平鉢）805点。須恵器片（甕、坏、高台付坏、蓋）93点。砥石1点。いずれも小破片で、覆土から出土している。

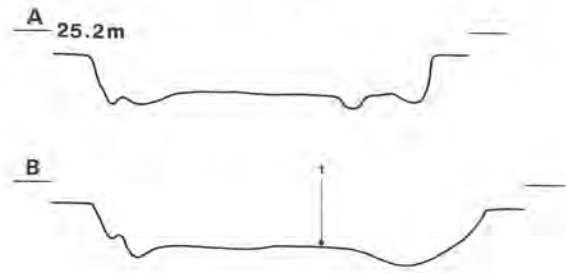
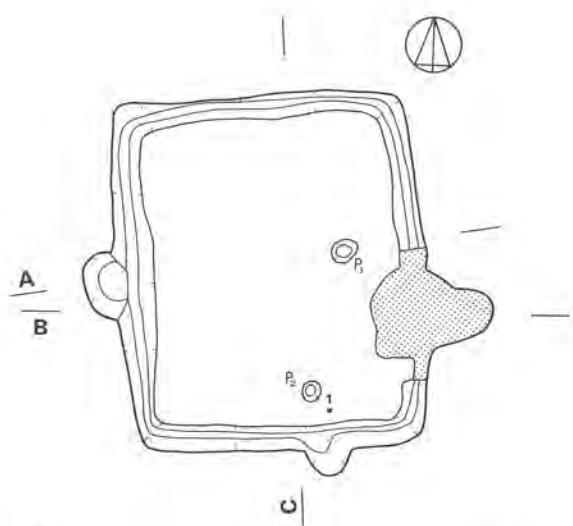
**備考** 東壁にカマドをもつ住居跡の1つ。床面の硬い部分はカマド前面の限られた範囲で、周辺部はあまり硬くなく、西・北側は壁溝に向かって緩く傾斜している。



第121図 第51号住居跡出土遺物実測図

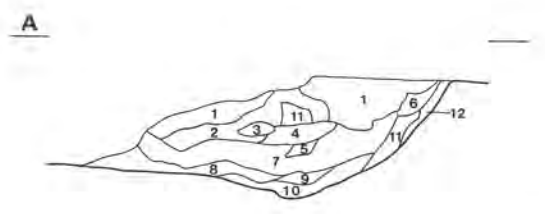
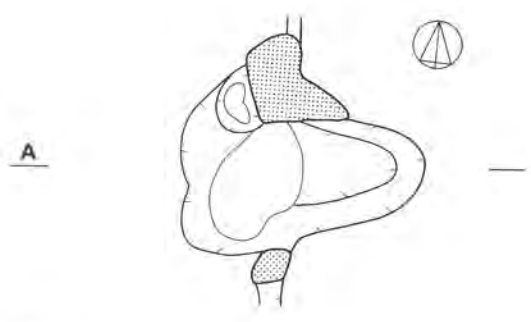
### 出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第121図 1	甕 土 師 器	A (22.0) B (17.1) E (23.3)	胴部の張りは弱い。頸部から口縁部にかけてゆるく外反する。口唇部は丸くおさまられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横・斜位のヘラナデ。外面、縦位のヘラ削り。	砂粒・石英 にふい橙色 普通	10% P411 南東部床面直上



住居跡土層解説表

- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| 1. 暗褐色  | 粘性・しまり弱い                 |
| 2. 褐色   | ローム粒子中量 粘性・しまり弱い         |
| 3. 褐色   | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 粘性弱い  |
| 4. 暗褐色  | 粘性・しまり弱い                 |
| 5. 暗褐色  | ローム粒子中量 粘性・しまり弱い         |
| 6. 暗褐色  |                          |
| 7. 暗褐色  | ローム粒子中量 粘性・しまり弱い         |
| 8. 暗褐色  | ローム粒子多量 炭化粒子中量 粘性弱い      |
| 9. 暗褐色  |                          |
| 10. 褐色  | ローム粒子中量 ローム小ブロック中量 硬くしまる |
| 11. 明褐色 |                          |
| 12. 暗褐色 | 粘性・しまり弱い                 |



カマド土層解説表

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 1. によい黄褐色  | 粘性強い                |
| 2. 褐色      | ローム粒子多量 粘土中量        |
| 3. によい黄褐色  | ローム粒子中量 粘土多量 粘性強い   |
| 4. 灰褐色     | 粘土中量 しまり弱い          |
| 5. 黄褐色     | 粘性・しまり弱い            |
| 6. によい赤褐色  | 焼土粒子中量              |
| 7. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量 焼土小ブロック多量    |
| 8. 黒褐色     |                     |
| 9. によい赤褐色  | 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック多量 |
| 10. 褐色     | 焼けたローム              |
| 11. によい赤褐色 | 焼土粒子中量              |
| 12. によい黄褐色 |                     |



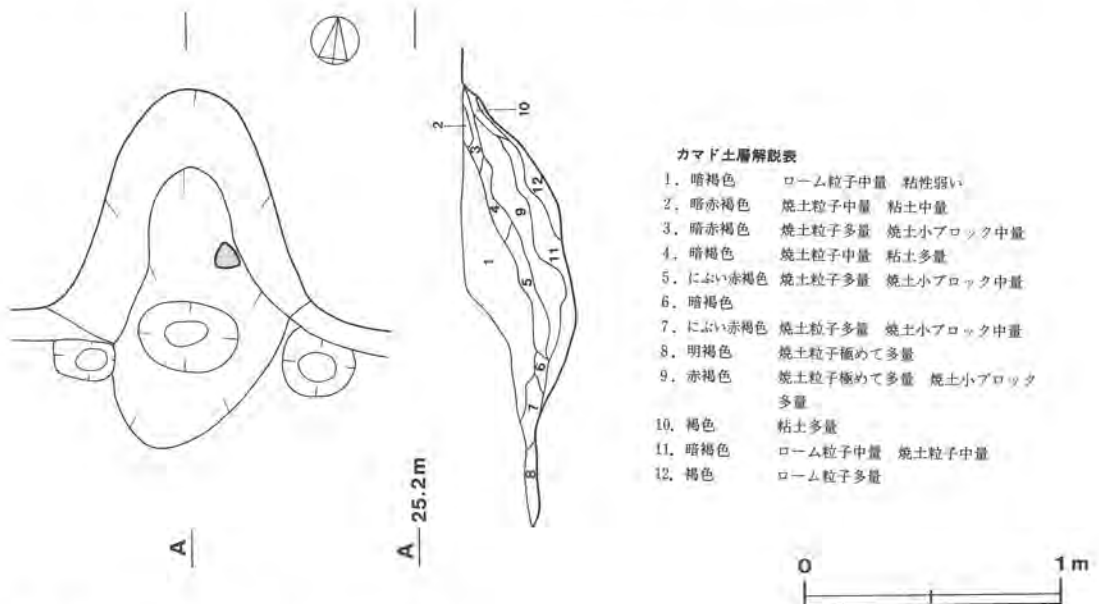
第122図 第51号住居跡・カマド実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 2	小型甕 土師器	A (11.4) B ( 5.2)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方へ軽くつまみ上げ、口管部は丸くおさめられている。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデか。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P412 南部覆土
3	坏 須恵器	B [ 2.5] C ( 8.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	20% P413 北西部覆土

### 第52号住居跡 (第124図)

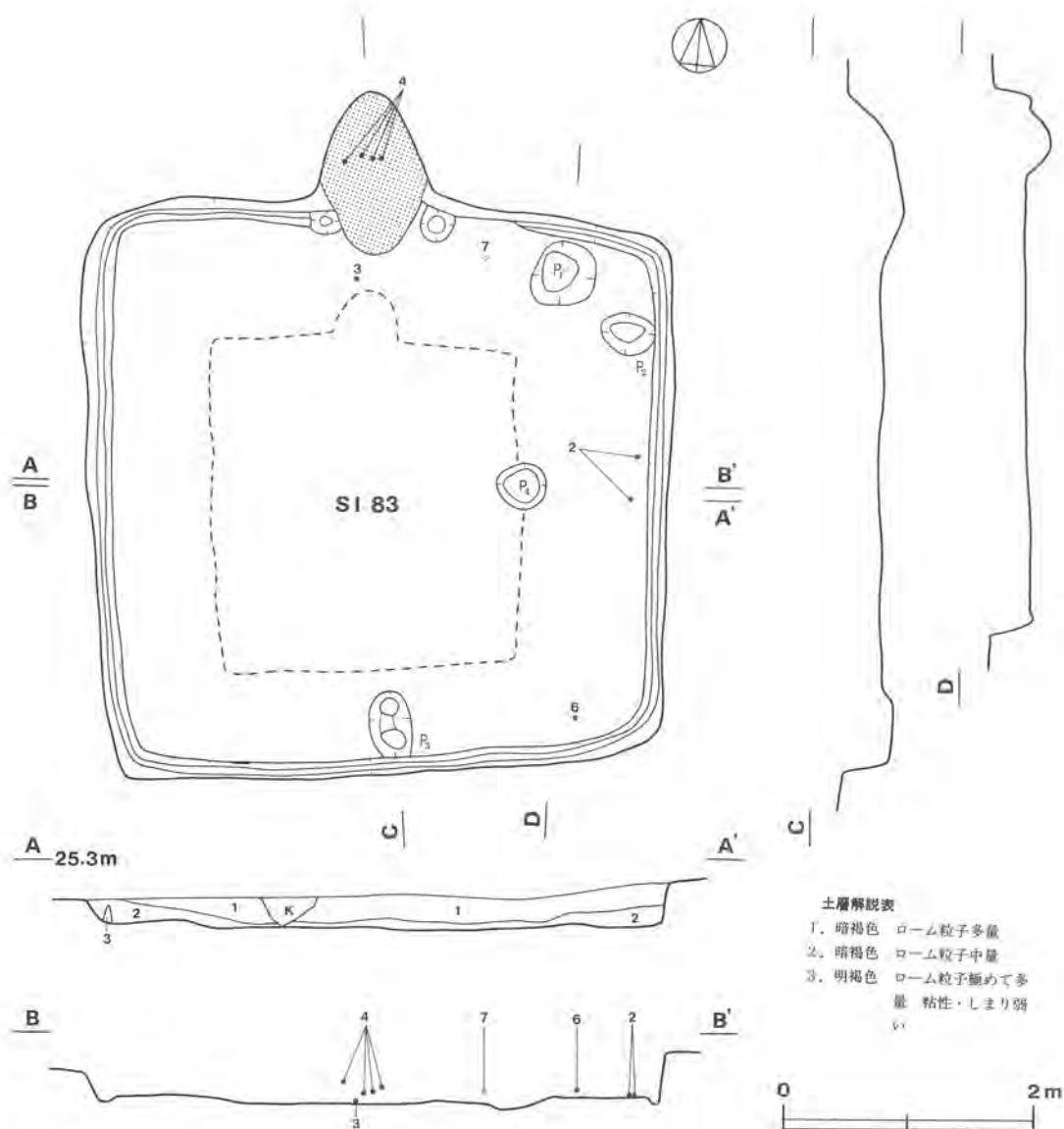
位置 H4j3区。重複関係 SI-83より新しい。平面形 方形。規模 4.74×4.72m。主軸方向 N-7°-W。壁 直立。壁高19~35cm。壁溝 全周。上幅14~25cm、深さ2~10cm。床 平坦。ピット 4か所。P<sub>1</sub> (52×50, -22cm) P<sub>2</sub> (44×34, -18cm) P<sub>3</sub> (53×24, -10cm) P<sub>4</sub> (40×36, -8cm) カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用(付近の床に散乱)。全長142cm、幅100cm、煙道部の壁面への掘り込みは約80cm。火床は、床面より15cm程度深く掘り窪められている。火床中央部からやや右寄りに凝灰岩製の支脚が立った状態で出土している。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 甑) 1,467点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 盤) 90点。鉄製品(板状鉄製品1, 器種不明1) 2点。第125図2の甕は東壁際の床面から横位で出土している。

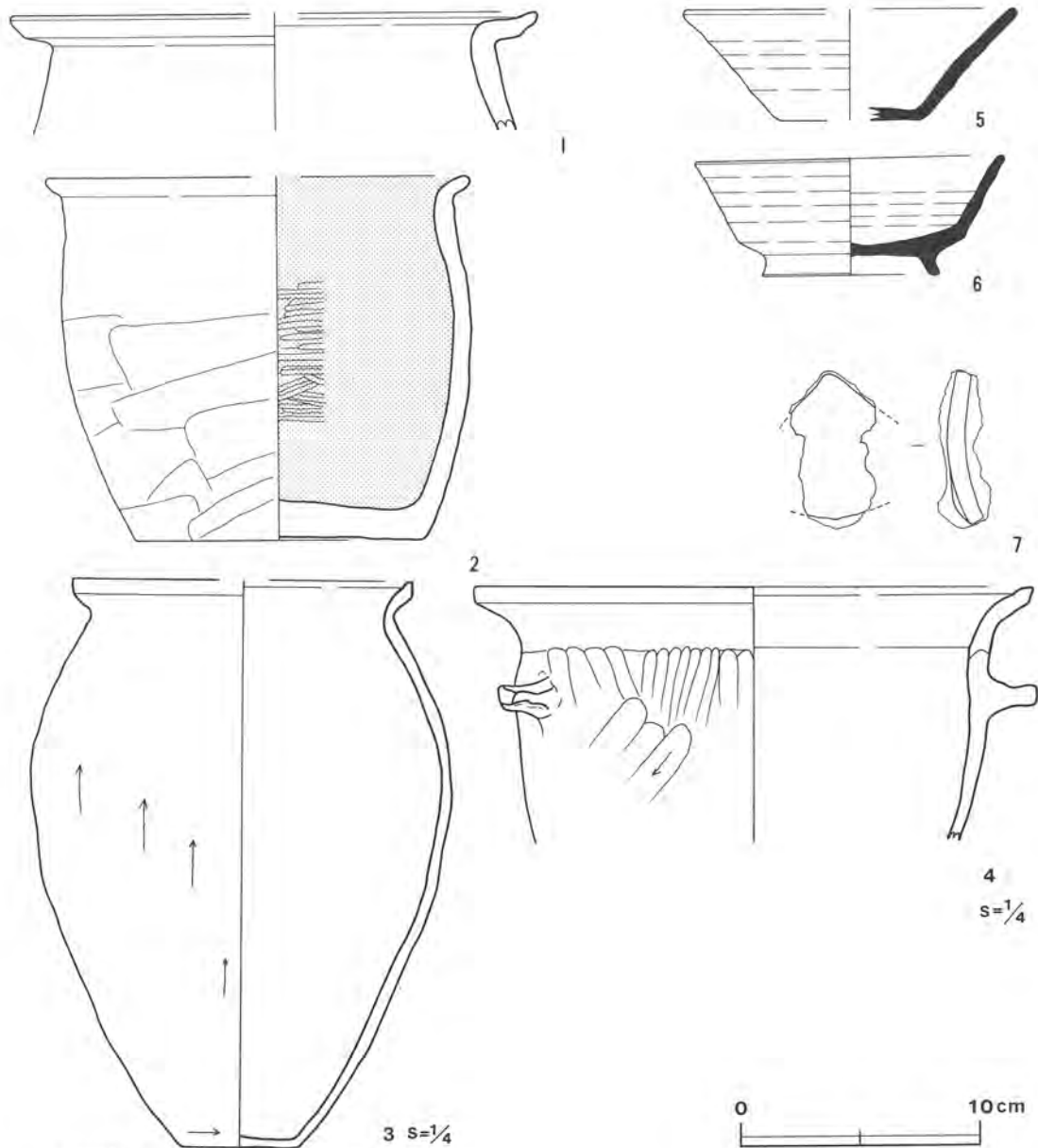


第123図 第52号住居跡カマド実測図

所見 本跡の調査終了後、貼床下からSI-83を検出。本跡とほぼ同じ軸方向をもち、四方の壁がそれぞれほぼ等間隔 (0.8~1m) に位置していることなどから、本跡はSI-83を拡張して構築したものと考えられる。



第124図 第52号住居跡実測図



第125図 第52号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 1	甕 土師器	A (22.1) B (5.0)	頸部は「く」の字状に屈曲して、 口縁部は外方へ開き、口縁端部 は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母・石 英 橙色 普通	5% P418 北部覆土

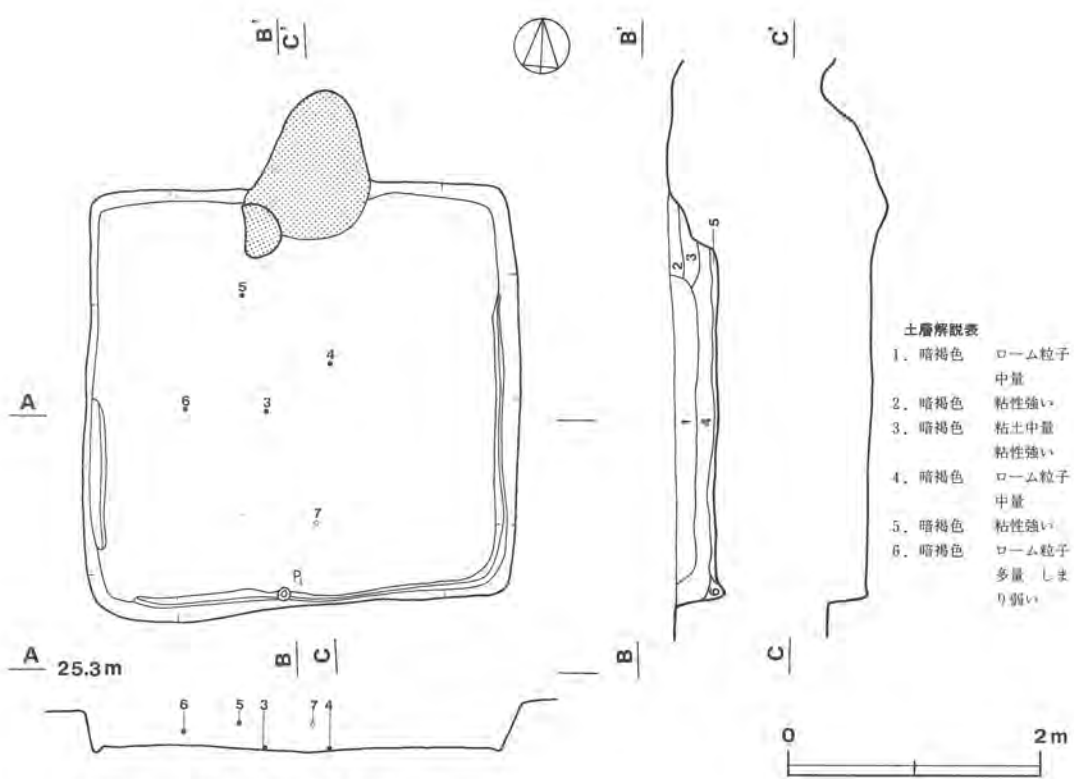
図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
2	甕 土 師 器	A (17.9) B 15.4 C 12.2 E 17.2	平底。胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反して外上方へ開き、口唇部は丸い。	口縁部内・外面、横ナデ。内面、ヘラ磨き、黒色処理。外面、横位のヘラ削り、及びナデ。底部、ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	80% P 417 東壁際北部床面 横位 P L 45
3	甕 土 師 器	A (19.0) B 32.2 C ( 6.6) E (23.5)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り。上位はヘラ削り後、ナデ。下端、横位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・ス コリア 橙色 普通	30% P 416 カマド付近床面 P L 45
4	甕 土 師 器	A 30.9 B (14.5)	胴部（上位）は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。口縁端部は軽くつまみ出され、端部外面に平坦な面を成す。胴部上位に一对の把手をもつ。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面上半は縦位、下半は斜・横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	50% P 415 カマド覆土 P L 50
5	坏 須 恵 器	A (14.0) B 4.7 C ( 6.0)	平底。体部は外反しながら立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 にふい橙色 不良	30% P 419 北部覆土
6	高台付坏 須 恵 器	A 13.0 B 5.0 D 7.5 G 0.9	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	70% P 420 南壁際東部覆土 下層横位 P L 56
図版番号	種 類	法 量 (cm)			備 考	
7	板状鉄製品	全長 [6.2]	最大幅 [3.6]	最大厚 [0.7]	器面が彎曲する。カマド付近覆土中層出土。 M44	

### 第53号住居跡（第126図）

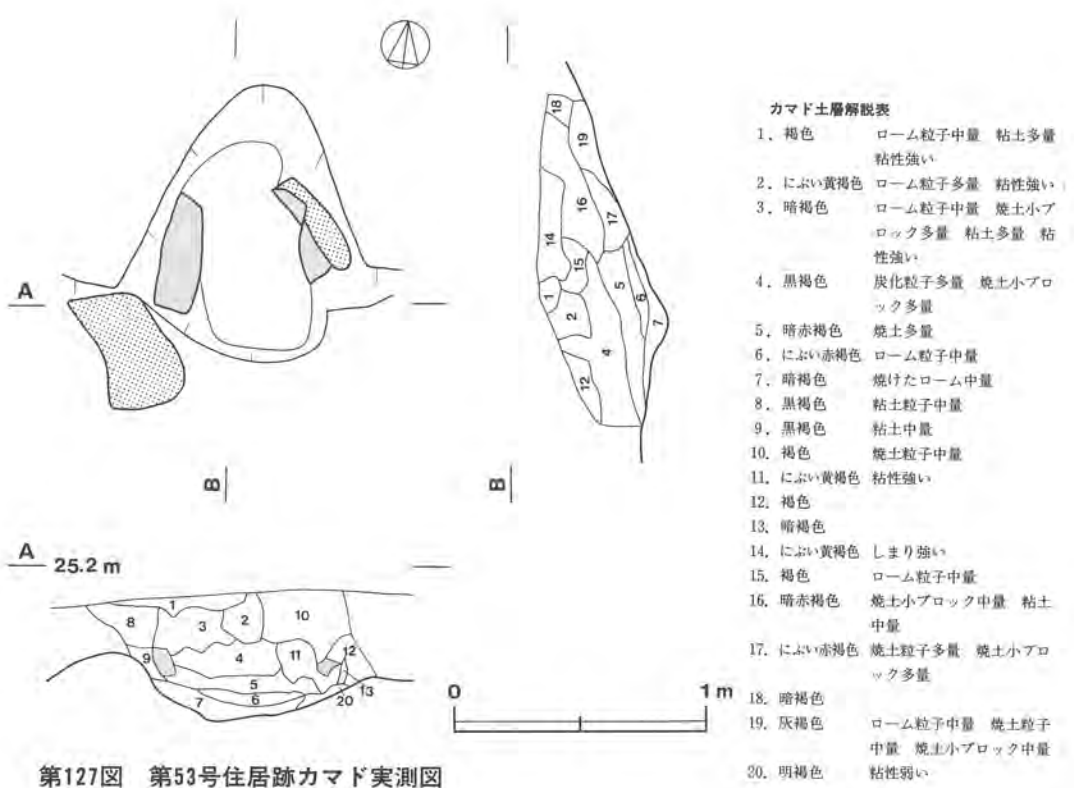
**位置** H4h3区。平面形 方形。規模 3.46×3.42m。主軸方向 N—3°—W。壁 直立。壁高 23～35cm。壁溝 東・南・西壁際に検出。上幅 7～20cm、深さ 2～4 cm。床 ゆるい起伏。ピット 1か所。P<sub>1</sub> (10×10、—8 cm) カマド 北壁中央。粘土で構築。側壁に凝灰岩を使用。全長 110cm、幅115cm、煙道部の壁面への掘り込みは約75cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏，高台付坏）1,035点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，蓋，盤，壺）127点。鉄製品（刀子1，器種不明1）2点。砥石1点。大半が小破片で、中央部やカマド内からの出土が多い。第128図4の坏と3の高台付坏は中央部床面から出土している。

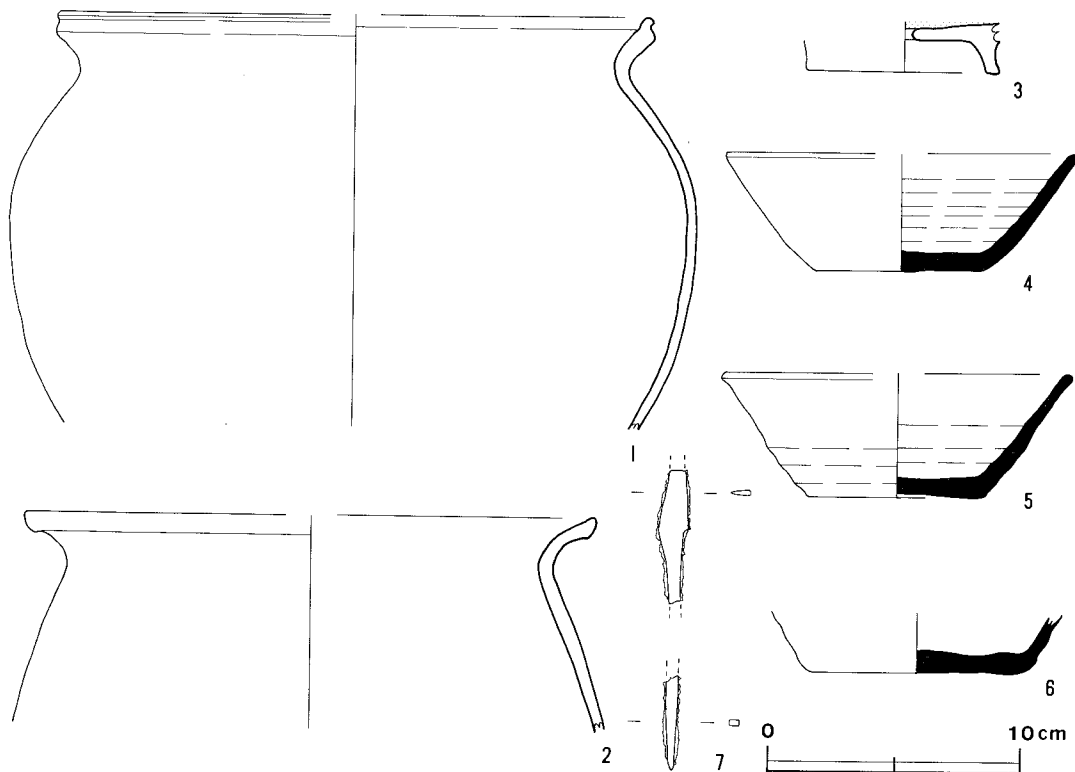
**所見** カマドの側壁に凝灰岩が使用されているのは、カマド周辺が軟らかい黒色土層に当たるので、壁面を補強するためと考えられる。



第126図 第53号住居跡実測図



第127図 第53号住居跡カマド実測図



第128図 第53号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	甕 土師器	A (23.2) B (16.4) E (27.3)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	15% P 422 カマド覆土
2	甕 土師器	A (22.6) B ( 8.6)	胴部(上位)は内傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	5% P 423 カマド覆土
3	高台付 土師器	B ( 2.0) D 7.8 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。底部中央に穿孔(径0.6 cm)。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、磨減が著しく調整不明。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	20% P 424 中央部床面直上 逆位
4	坏 須恵器	A (14.0) B 4.7 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 オリーブ灰色 普通	30% P 425 中央部床面直上 P L 53
5	坏 須恵器	A (13.6) B 5.0 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	40% P 426 北西部覆土中層 P L 53



図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	須恵器 坏	B〔2.4〕 C 8.6	平底。	底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	10% P427 西部覆土中層

図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
7	刀子	全長 (9.2)	最大幅1.1 最大厚0.3	刀身先端部欠損。南部覆土中層出土。 P L63 M45		

### 第54号住居跡 (第129図)

**位置** H4ii区。平面形 長方形。規模 3.92×3.58m。主軸方向 N-9°-W。壁 外傾。壁高54~67cm。壁溝 西・南壁際に検出。上幅10~12cm, 深さ2~3cm。床 平坦。ピット 無。

**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長120cm, 幅145cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は, 床面より5cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

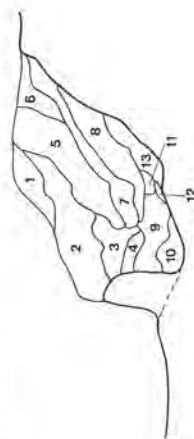
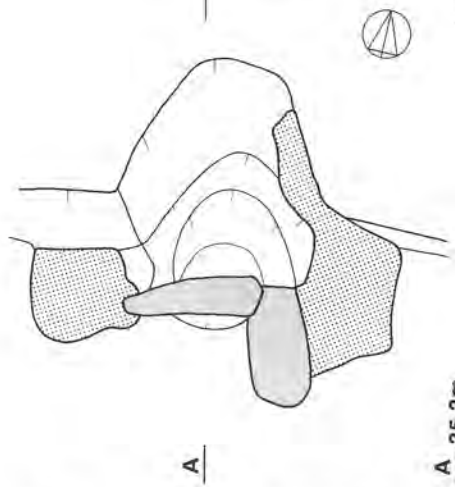
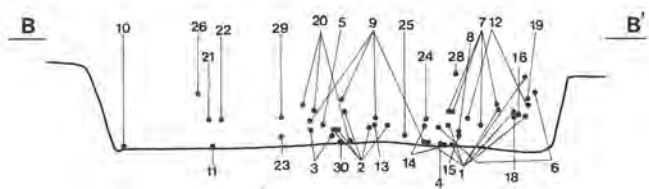
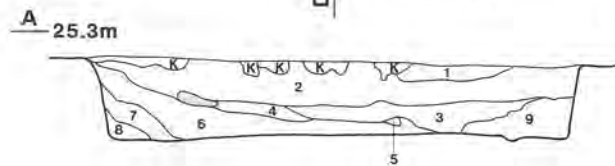
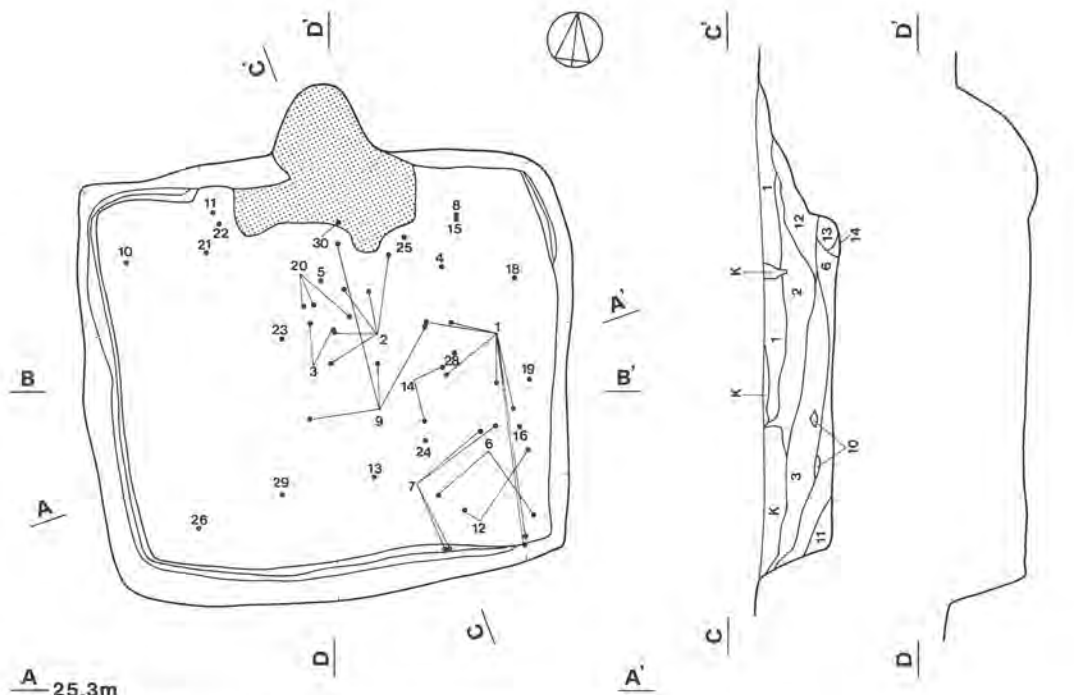
**遺物** 土師器片 (甕, 坏, 鉢) 1,549点。須恵器片 (甕, 坏, 高台付坏, 盤, 蓋) 54点。銅製品 (帯金具=巡方) 1点。遺構全域から多量の遺物が出土している。第132図10・11の甕は口頸部片で, 北西部の床面から口縁部がほぼ水平になるように据えられた状態で, 第130図4の甕は北東部の床面から横位に潰れた状態でそれぞれ出土している。覆土中・下層に多量の焼土・炭化物を含む層がレンズ状に堆積しており, その周辺に遺物が多く, 第132図21・22などの完形品もみられる。第133図31の巡方は, 南西部の覆土から出土している。

#### 住居跡土層解説表

1. 褐色	ローム粒子中量	7. 暗褐色	ローム粒子中量 しまり弱い
2. 褐色	ローム粒子多量 ローム小ブ ロック中量 炭化粒子中量 粘性・しまり弱い	8. 褐色	ローム粒子多量
3. 黒褐色	ローム粒子中量 炭化粒子多 量 炭化物中量 砂多量	9. 暗褐色	ローム粒子多量
4. 暗褐色	ローム粒子中量	10. 明赤褐色	焼けた凝灰岩ブロック
5. 暗褐色	凝灰岩ブロック中量 粘性・ しまり弱い	11. 暗褐色	ローム粒子中量
6. 褐色	ローム粒子多量 ローム小ブ ロック多量	12. 灰褐色	炭化粒子中量 粘土中量 粘 性強い
		13. 褐色	ローム粒子中量
		14. にぶい褐色	焼土粒子中量 粘性強い

### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	甕 土師器	A (23.6) B 32.3 C 10.4 E (27.3)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり, 上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し, 口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面, 横ナデ。胴部内面, ナデ。外面上位, ナデ。中位以下, 縦・斜位のヘラ磨き。底部, 木葉痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	60% P431 東部床面直上・ 覆土下層, 南壁 際東部覆土中層 P L46

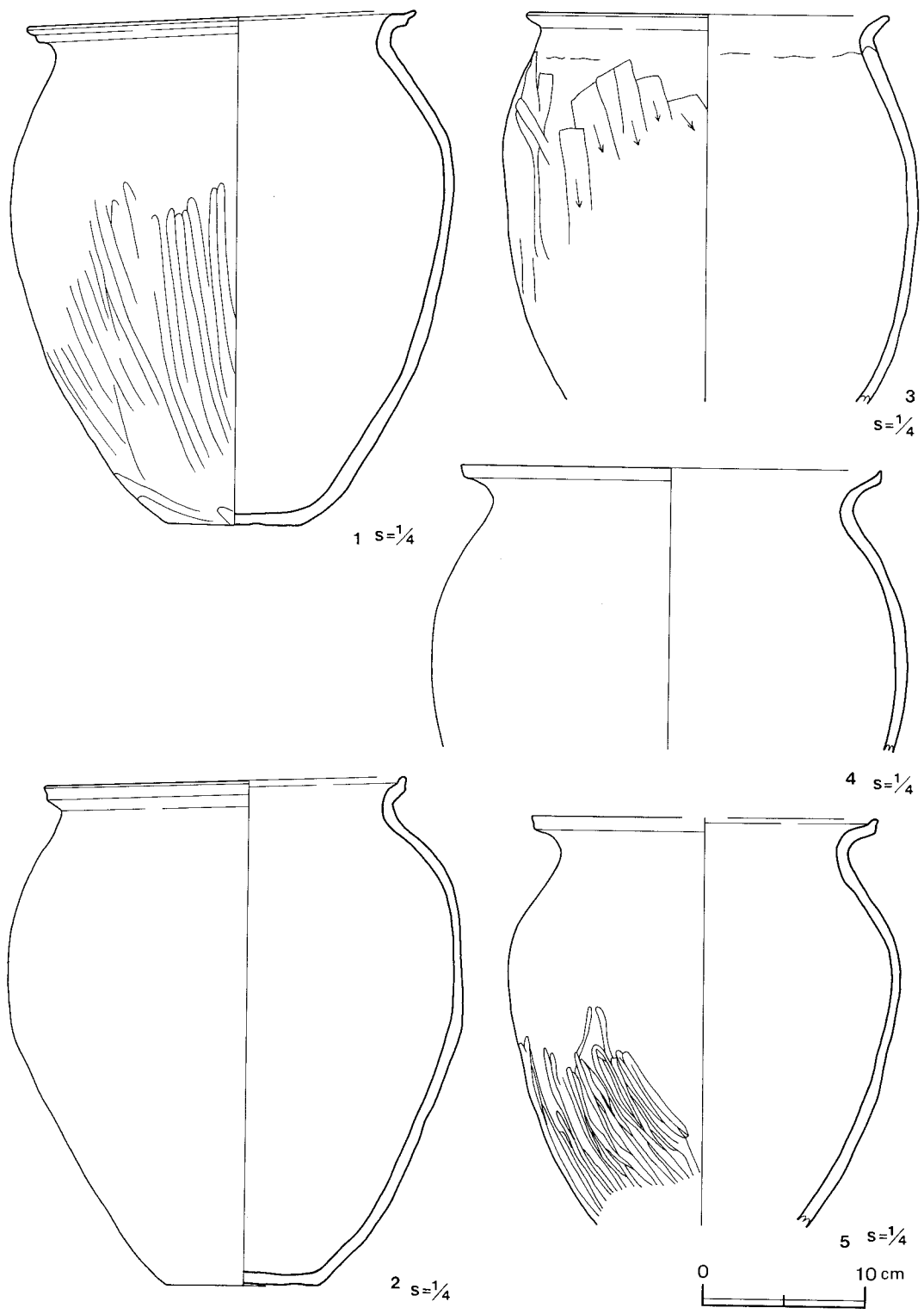


カマド土層解表

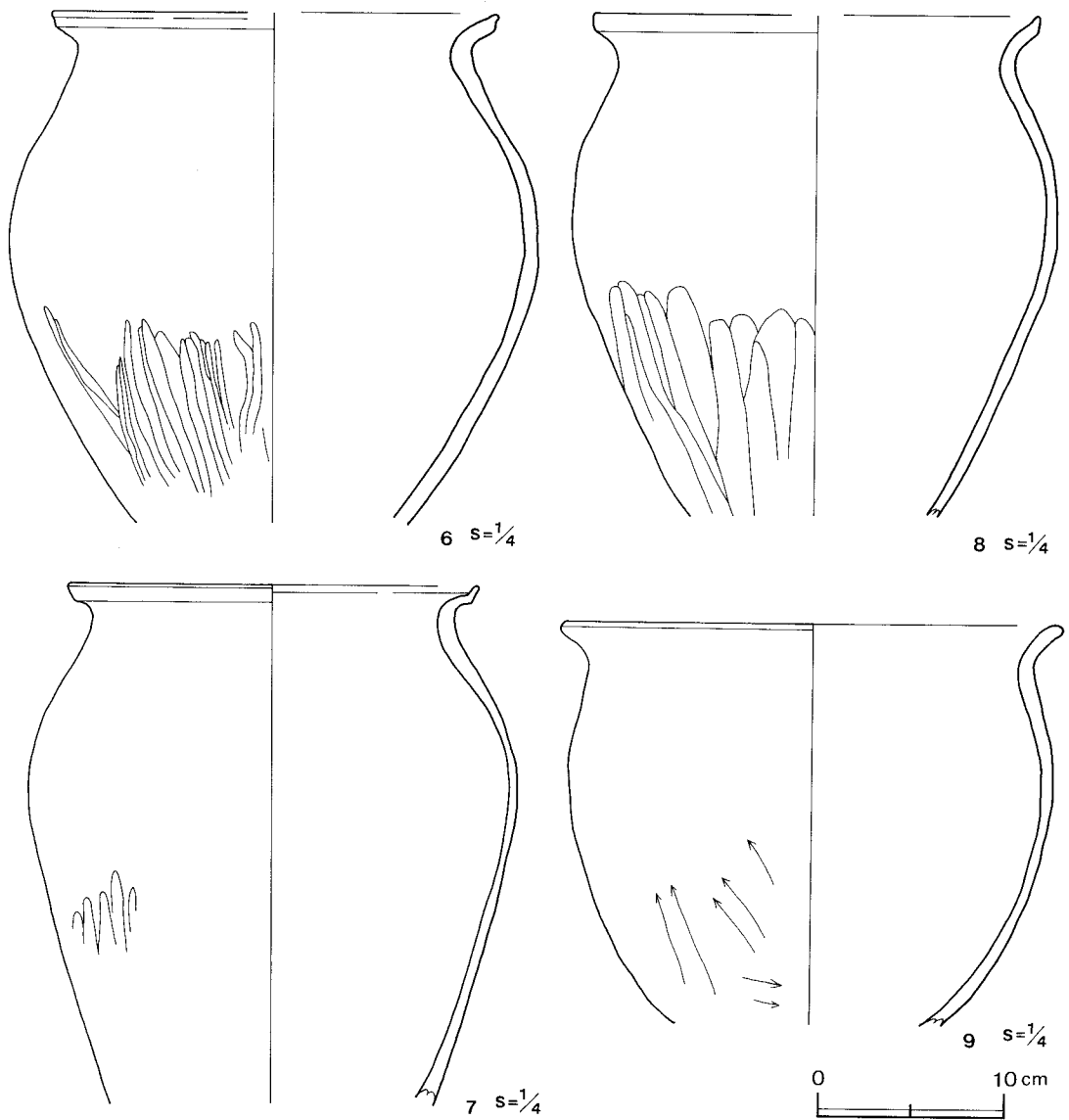
1. 黒褐色	ローム粒子中量
2. 褐色	ローム粒子中量 粘土極めて多量 硬くしまる
3. 暗褐色	ローム粒子中量
4. 灰褐色	粘土中量
5. 灰褐色	焼土粒子中量 粘土極めて多量 硬くしまる
6. 黒褐色	粘土極めて多量 硬くしまる
7. 黒褐色	焼土粒子中量
8. によい赤褐色	焼土粒子中量
9. によい赤褐色	焼土粒子多量 硬くしまる
10. 暗褐色	粘土極めて多量
11. 赤褐色	焼土粒子極めて多量
12. 暗赤褐色	ローム粒子中量
13. によい赤褐色	焼土粒子中量 粘土中量

第129図 第54号住居跡・カマド実測図



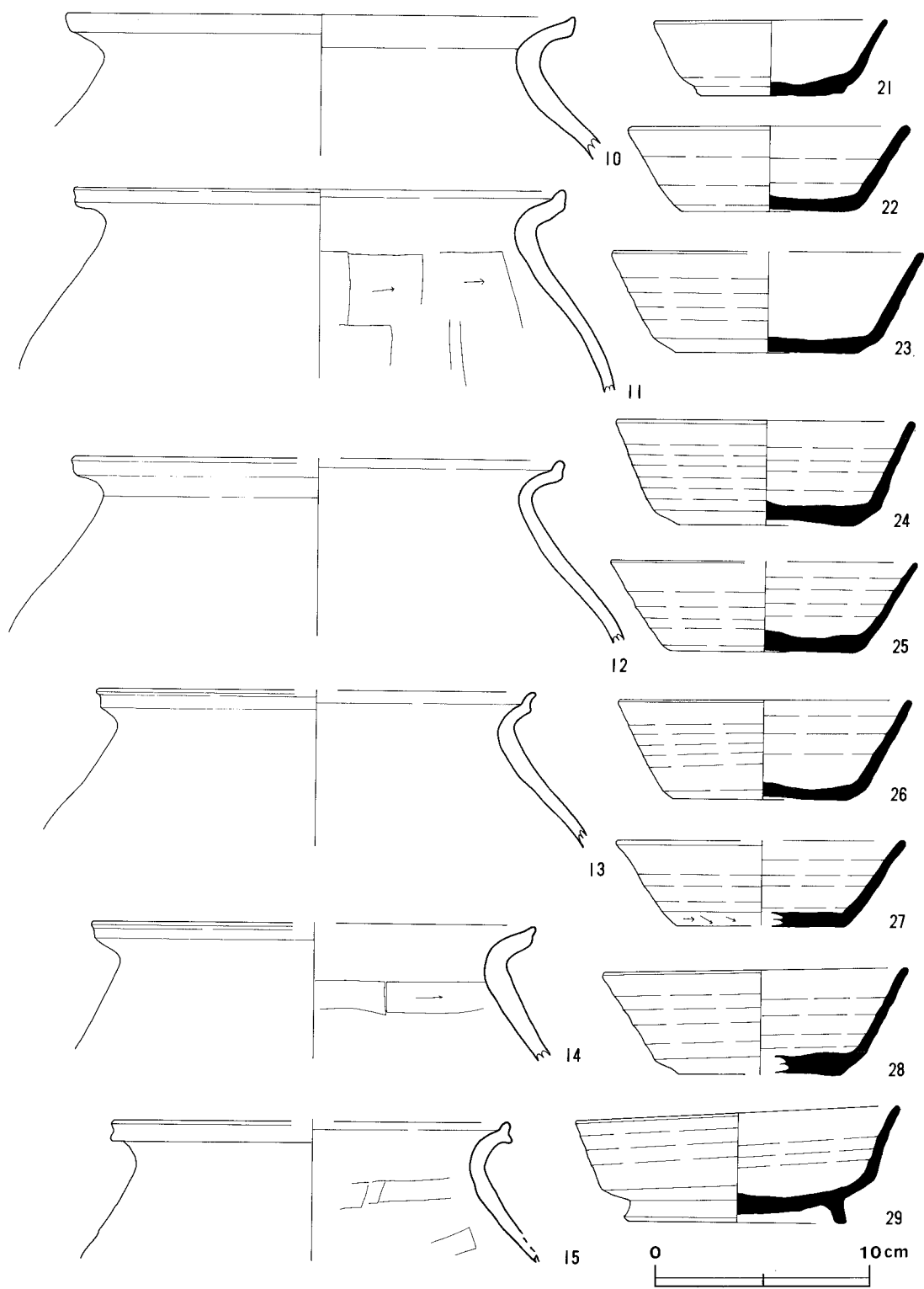


第130図 第54号住居跡出土遺物実測図(1)

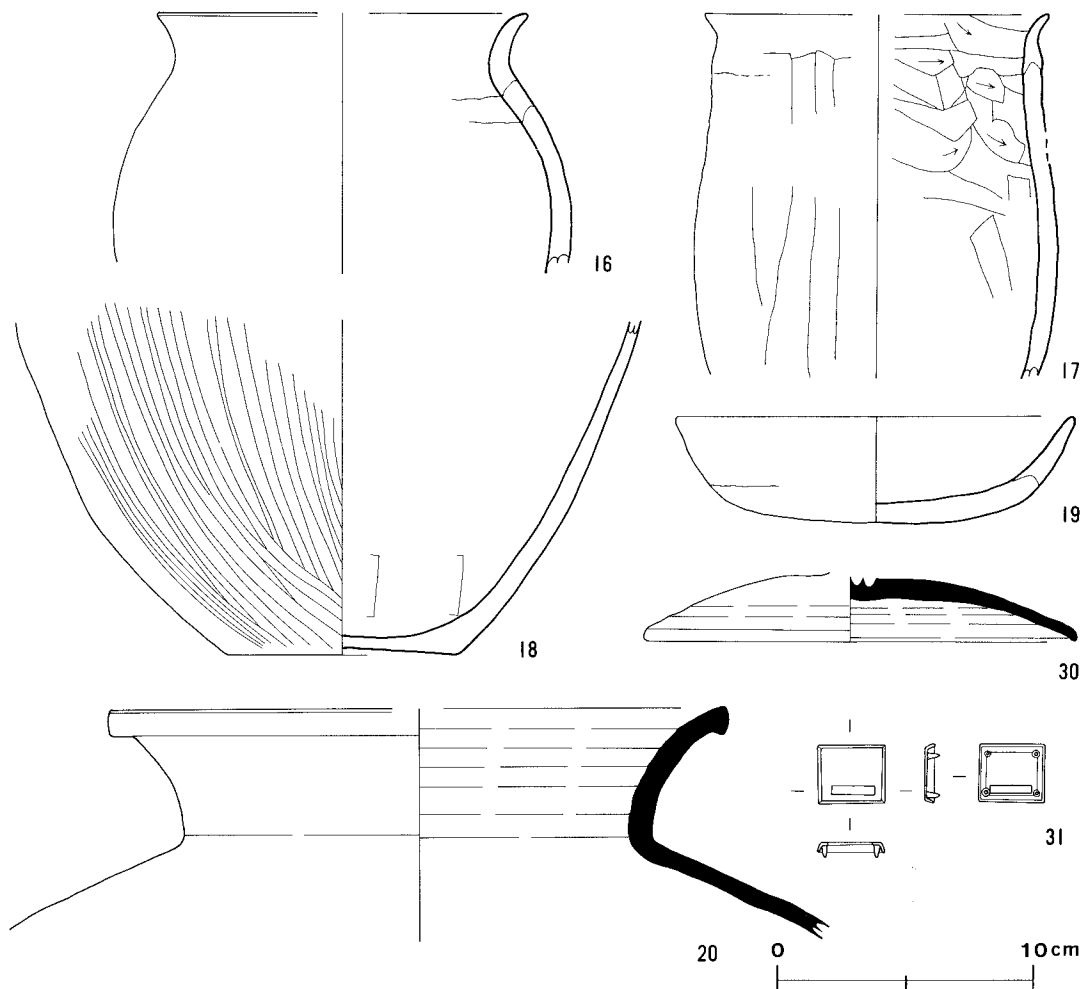


第131図 第54号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 2	甕 土師器	A 22.6 B 31.5 C 9.7 E (28.3)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。上位に最大径をもち、やや強く張る。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、全体に磨減が著しく、調整は不明瞭。底部、木葉痕。	砂粒・長石・スコリア 橙色 不良	60% P461 中央部覆土中層 P L46
3	甕 土師器	A 22.0 B (24.1) E 25.7	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦・斜位のへら削り、及びナデ。内外面に輪積み痕を部分的に残す。	砂粒・スコリア 橙色 普通	70% P460 中央部覆土中層 P L46



第132图 第54号住居跡出土遺物実測図(3)



第133図 第54号住居跡出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 4	甕 土師器	A 25.8 B [17.6] E (29.4)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、ヨコナデ。胴部内・外面、ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	40% P437 北東部床面横位
5	甕 土師器	A (21.2) B [25.5] E (24.2)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもち、やや強く張る。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面上半、ナデ。下半、縦位のヘラ磨き。	砂粒・スコリア・石英 にふい赤褐色 普通	20% P434 カマド付近覆土 中層
第131図 6	甕 土師器	A (23.6) B [27.1] E (28.4)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面上半、ナデ。下半、縦位のヘラ磨き。	砂粒・石英 にふい橙色 普通	30% P435 南東部覆土中・ 下層

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
7	甕 土 師 器	A (22.0) B (28.4) E (26.3)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 上位に最大径をもつ。頸部から 口縁部にかけて丸味をもって外 反し、口縁端部は外上方へつま み出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、ナデ。外面上半、ナデ。 下半、縦位のへら磨き。	砂粒・雲母・石英 にふい赤褐色 普通	30% P 436 東部覆土中層
8	甕 土 師 器	A (23.8) B (27.5) E (25.9)	胴部は上位に最大径をもつ。頸 部から口縁部にかけて丸味をも って外反し、口縁端部は上方へ つまみ上げられる。	口頸部、胴部上位内・外面、横 ナデ。胴部内面下半、ナデ。外 面、縦位のへら削り。	砂粒・スコリア・ 石英 にふい橙色 普通	20% P 433 北東部覆土下層 P L 45
9	甕 土 師 器	A (27.0) B (22.0) E (26.0)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、ナデ。外面、縦・斜方向 のへら削り（磨減が著しく、不 明瞭）。	砂粒・長石・ス コリア 橙色 普通	40% P 439 中央部覆土中層 P L 46
第132図 10	甕 土 師 器	A 23.8 B ( 6.8)	頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反し、口縁端部は上方 へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい橙色 普通	20% P 429 西壁際北部床面 正位
11	甕 土 師 器	A 23.0 B ( 9.5)	胴部（上位）は内傾して立ち上 がる。頸部から口縁部にかけて 丸味をもって外反し、口縁端部 は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のへらナデ。外面、 ナデ。	砂粒・長石・石 英 にふい橙色 普通	25% P 430 北壁際西部床面 正位
12	甕 土 師 器	A (22.8) B ( 8.6)	胴部（上位）は内傾して立ち上 がる。頸部から口縁部にかけて 丸味をもって外反し、口縁端部 は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内・外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% P 444 南東部覆土中層
13	甕 土 師 器	A (20.4) B ( 7.4)	胴部（上位）は内傾して立ち上 がる。頸部から口縁部にかけて 丸味をもって外反し、口縁端部 は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内・外面、ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P 451 南部覆土中層
14	甕 土 師 器	A (20.8) B ( 6.4)	頸部は「く」の字状に外反し、 口縁端部は外上方へつまみ出さ れる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のへらナデ。外面、 磨減が著しく、調整不明。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P 443 東部床面、覆土 中層
15	甕 土 師 器	A (18.6) B ( 6.6)	頸部は緩く「く」の字状に外反 する。口縁端部は上下に突出し、 外面には凹線を巡らす。	口頸部内・外面、横ナデ。頸部 直下内面、へらナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	5% P 446 北東部覆土下層
第133図 16	小 型 甕 土 師 器	A (14.6) B (10.4)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 頸部から口縁部にかけて緩やか に外反する。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内外面、ナデ。内面頸部直下に 輪積み痕を残す。	砂粒 橙色 普通	10% P 445 東部覆土中層
17	小 型 甕 土 師 器	A (13.6) B (14.5)	胴部はわずかに内彎しながら立 ち上がり、頸部から口縁部にか けて軽く外反する。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横・斜位のへらナデ。外 面、縦位のへら削り。	砂粒・スコリア にふい橙色 普通	20% P 455 北西部覆土

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	甕 土師器	B〔13.3〕 C 9.1	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦・斜位のヘラ磨き。底部、木葉痕。	砂粒・雲母にふい・橙色普通	20% P 457 北東部覆土中層
19	坏 土師器	A (15.8) B 4.3 C 11.6	器高が低く盤状を呈する。丸底気味で、体部との境は丸味をもつ。	内面、ヘラ磨き。体部外面、横ナデ。底部、多方向のヘラ削り、ナデ。	砂粒・雲母・スコリアにふい・橙色普通	80% P 459 東壁際中央部覆土中層 P L 49
20	甕 須恵器	A (24.6) B〔9.3〕	強く張った胴部から、頸部は外反して立ち上がり、口縁部は外上方へ開く。口縁端部は下方へ突出し、外面に平坦な面を成す。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、同心円の当て具痕。外面、平行叩き。	砂粒 灰色 普通	10% P 462 中央部覆土中・下層
第132図 21	坏 須恵器	A 10.8 B 3.6 C 6.7	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、上位でわずかに外反する。	底部、回転ヘラ切り。	砂粒 灰黄色 普通	90% P 619 北西部覆土中層 正位 P L 53
22	坏 須恵器	A 13.0 B 4.1 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、ナデ。	砂粒 赤灰色 普通	100% P 618 北西部覆土中層 正位 ヘラ記号 P L 53
23	坏 須恵器	A (14.4) B 4.8 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、底部との間に面を成す。口唇部は丸い。	底部、一定方向のヘラ削り。体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	40% P 466 中央部覆土下層 P L 53
24	坏 須恵器	A 13.9 B 5.0 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、底部との間に面を成す。口唇部は丸い。	底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	80% P 464 東部覆土中層 P L 53
25	坏 須恵器	A (14.3) B 4.3 C 8.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	60% P 467 カマド付近覆土 下層逆位 P L 53
26	坏 須恵器	A 13.7 B 4.8 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもつ。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。外周部、多方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	90% P 463 南西部覆土中層 P L 53
27	坏 須恵器	A (13.6) B 4.0 C (8.0)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。	底部、多方向のヘラ削り。体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	20% P 468 北西部覆土
28	坏 須恵器	A (14.4) B 5.1 C (7.6)	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもつ。口唇部は丸い。	底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	60% P 465 東部覆土上層 P L 53
29	高台付坏 須恵器	A (15.2) B 5.5 D 10.2 G 1.1	平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰黄色 普通	90% P 469 南部覆土中層逆位 P L 56
第133図 30	蓋 須恵器	A 17.2 B〔2.5〕	天井部は浅い。頂部から外周部にかけてなだらかに下降し、口縁部は短く垂下する。つまみ欠損。	天井部、径10.7cmにわたって回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	60% P 470 カマド付近床面 正位



図版番号	種類	法 量 (cm)	備 考
第133図 31	帯金具 (巡方)	縦2.4 横2.6 厚さ0.4 透し孔(縦0.4 横1.7)	銅製品。裏面の各コーナーにそれぞれ鉚が打たれている。 南西部覆土出土。 P L65 M47

### 第55号住居跡 (第134図)

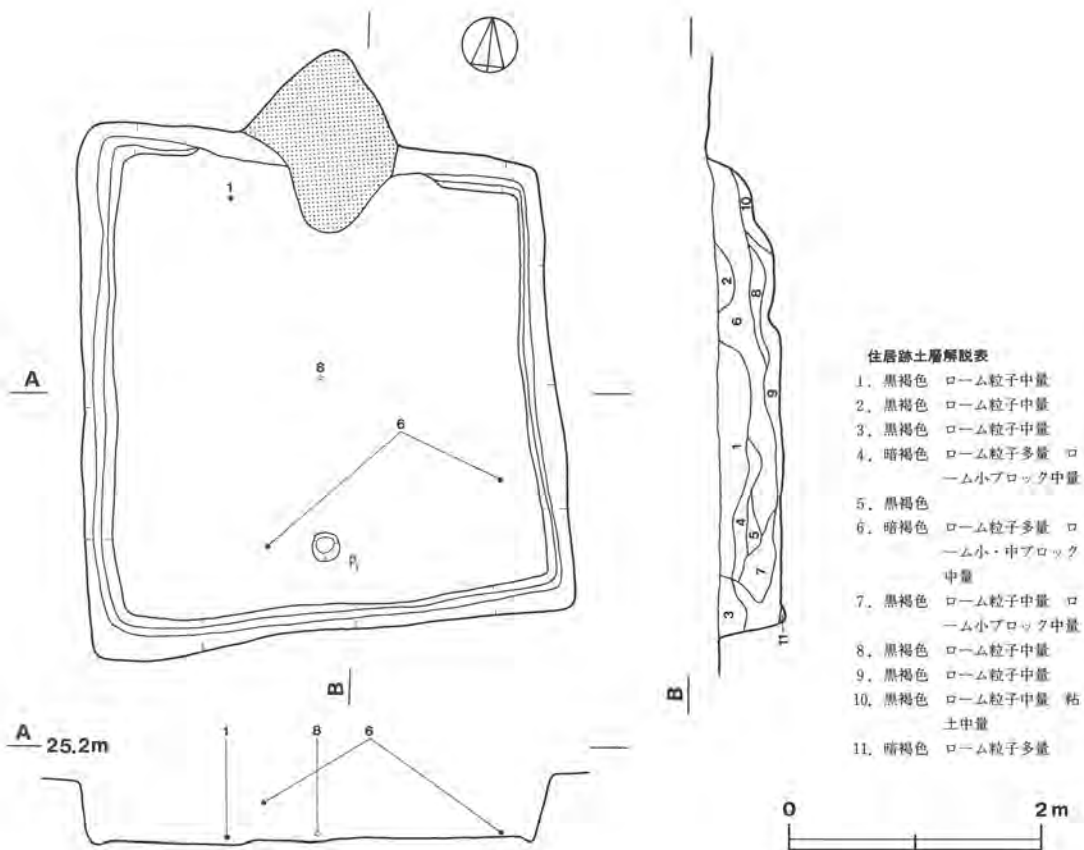
**位置** H4e1区。平面形 台形。規模 4.30×3.76m。主軸方向 N-9°-W。壁 外傾。壁高 47~48cm。壁溝 全周。上幅18~25cm, 深さ5~8cm。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(24×22, -30cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長147cm, 幅125cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は, 床面より10cm程深く掘り窪め, ローム等を含む土で整地した後, その上面を使用している。覆土 人為堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 鉢, 平鉢) 399点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋) 53点。鉄製品(鍬1, 刀子1) 2点。土器は小破片が多く, 覆土中に散らばって出土している。第135図4の平鉢はカマドの覆土から出土している。

**備考** 床面は硬く締まっているが, ちょうど鹿沼軽石層に当たるためか, 表面がザラザラしている。

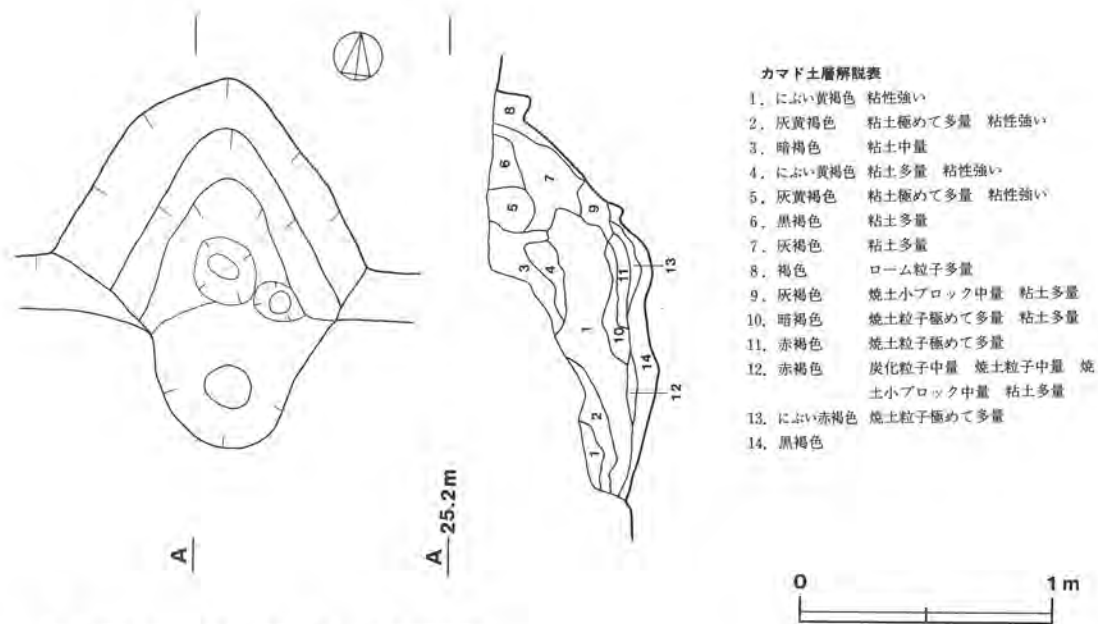
### 出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第135図 1	甕 土師器	A (20.0) B (18.3)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し, 口唇部は丸い。	口頸部内・外面, 横ナデ。胴部内外面, ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	20% P472 カマド付近覆土 下層
2	甕 土師器	A (22.0) B (13.0)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し, 口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面, 横ナデ。胴部内面, 横位のヘラナデ。外面, ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	10% P473 カマド覆土
3	甕 土師器	A (23.2) B (7.4)	頸部は「く」の字状に屈曲し, 口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面, 横ナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	5% P477 南西部覆土
4	平鉢 土師器	B (4.6) C (13.8)	平底。体部はほぼ直立する。	内面, 横位のヘラナデ。外面, ナデ, 輪積み痕を残す。底部, ナデ。	砂粒 橙色 普通	5% P479 カマド覆土
5	坏 土師器	B (3.4) C (7.8)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面, ヘラ磨き, 黒色処理。底部, 回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	10% P478 南西部覆土
6	坏 須恵器	A (14.0) B (3.8) C (8.4)	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり, 口縁部で外反する。	底部, 回転ヘラ切り後, ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	30% P480 南東部覆土下層, 南部覆土中層 P L53



住居跡土層解説表

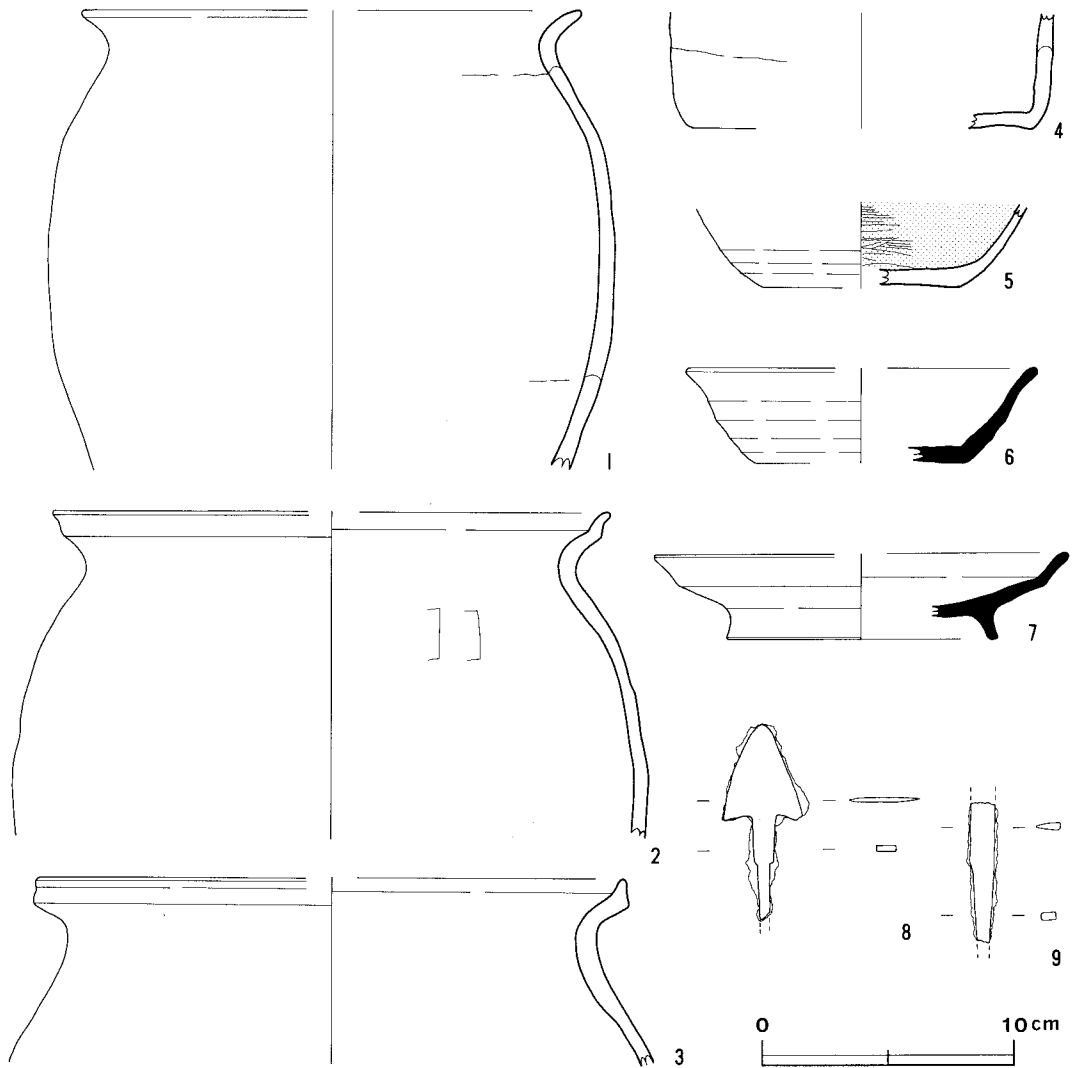
1. 黒褐色 ローム粒子中量
2. 黒褐色 ローム粒子中量
3. 黒褐色 ローム粒子中量
4. 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量
5. 黒褐色
6. 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小・中ブロック中量
7. 黒褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック中量
8. 黒褐色 ローム粒子中量
9. 黒褐色 ローム粒子中量
10. 黒褐色 ローム粒子中量 粘土中量
11. 暗褐色 ローム粒子多量



カマド土層解説表

1. にぶい黄褐色 粘性強い
2. 灰黄褐色 粘土極めて多量 粘性強い
3. 暗褐色 粘土中量
4. にぶい黄褐色 粘土多量 粘性強い
5. 灰黄褐色 粘土極めて多量 粘性強い
6. 黒褐色 粘土多量
7. 灰褐色 粘土多量
8. 褐色 ローム粒子多量
9. 灰褐色 焼土小ブロック中量 粘土多量
10. 暗褐色 焼土粒子極めて多量 粘土多量
11. 赤褐色 焼土粒子極めて多量
12. 赤褐色 炭化粒子中量 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量 粘土多量
13. にぶい赤褐色 焼土粒子極めて多量
14. 黒褐色

第134図 第55号住居跡・カマド実測図



第135図 第55号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 7	盤 須恵器	A (16.5) B 3.4 D (10.8) G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は軽く外反し、口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	20% P481 西北部覆土

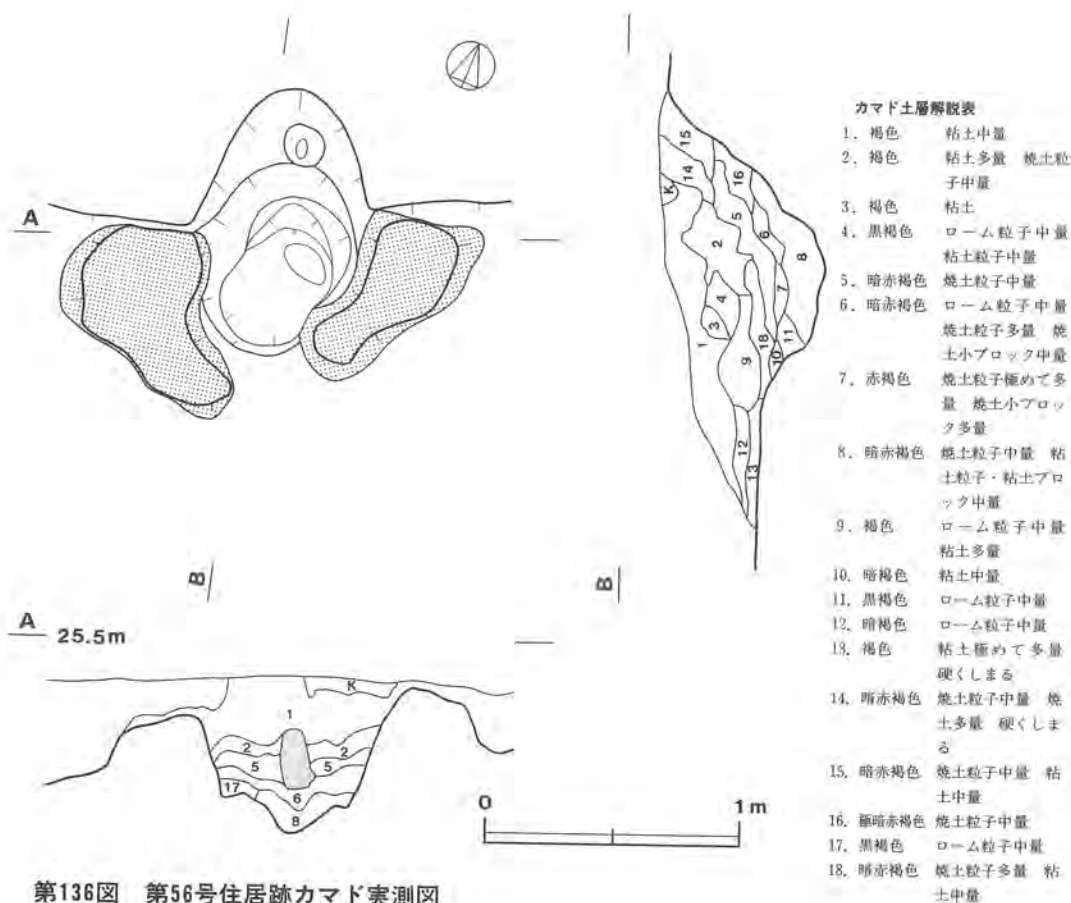
図版番号	種類	法量 (cm)	備考
8	鋏	全長〔7.8〕 鋏身長3.8 鋏身幅〔3.2〕 鋏柄長1.9 鋏被幅0.9 茎幅0.5 最大厚0.3	中央部覆土下層出土。 P L63 M48
9	刀子	全長〔5.6〕 最大幅1.1 最大厚0.3	北東部覆土出土。 M49

第56号住居跡 (第137図)

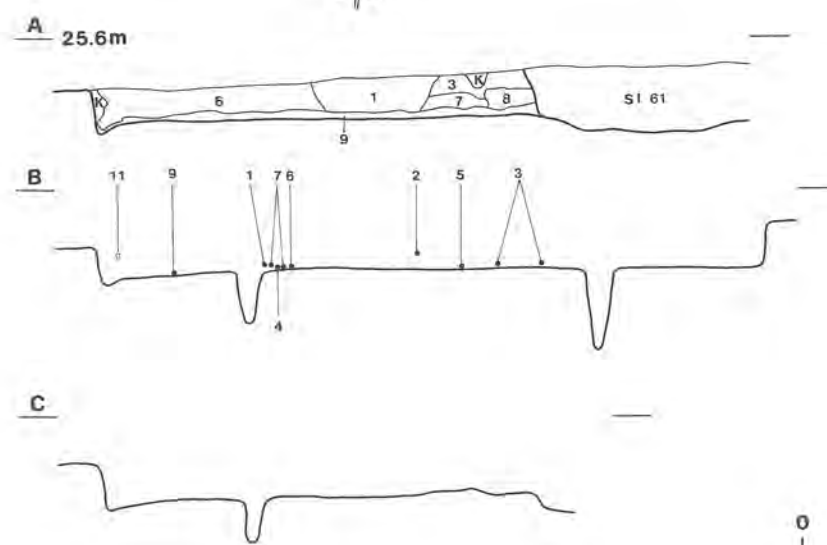
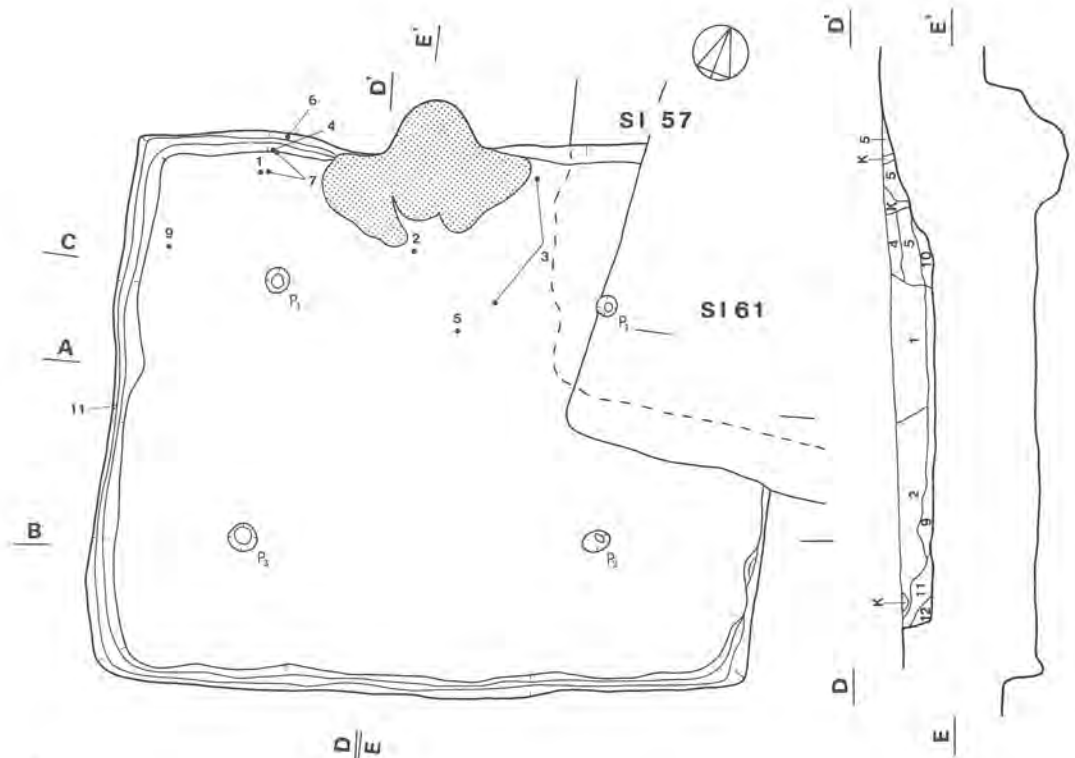
位置 H4e区。重複関係 SI-57より新しく、SI-61より古い。平面形 長方形。規模 5.28×4.45m。主軸方向 N-16°-W。壁 直立。壁高22~37cm。壁溝 ほぼ全周。上幅11~22cm、深さ5cm。床 ゆるい起伏。ピット 4か所。P<sub>1</sub>(18×16、-35cm) P<sub>2</sub>(23×16、-71cm) P<sub>3</sub>(26×23、-36cm) P<sub>4</sub>(22×20、-45cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は支柱穴。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長125cm、幅170cm、煙道部の壁面の掘り込みは約50cm。火床は、床面より20cm程深く掘り窪め、粘土等を含んだ土で整地した後、その上面を使用している。火床奥に凝灰岩製の支脚が立てられて出土している。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 鉢, 平鉢) 628点。須恵器片(甕, 坏, 蓋, 壺, 擂鉢) 96点。鉄製品(鎌) 1点。第138図9の擂鉢は、北西部、西壁際の床面上に横位に出土している。全体的にみて、遺物の出土は中央部から北側へ偏っている。

備考 擂鉢は、当遺跡では本跡の1点だけである。



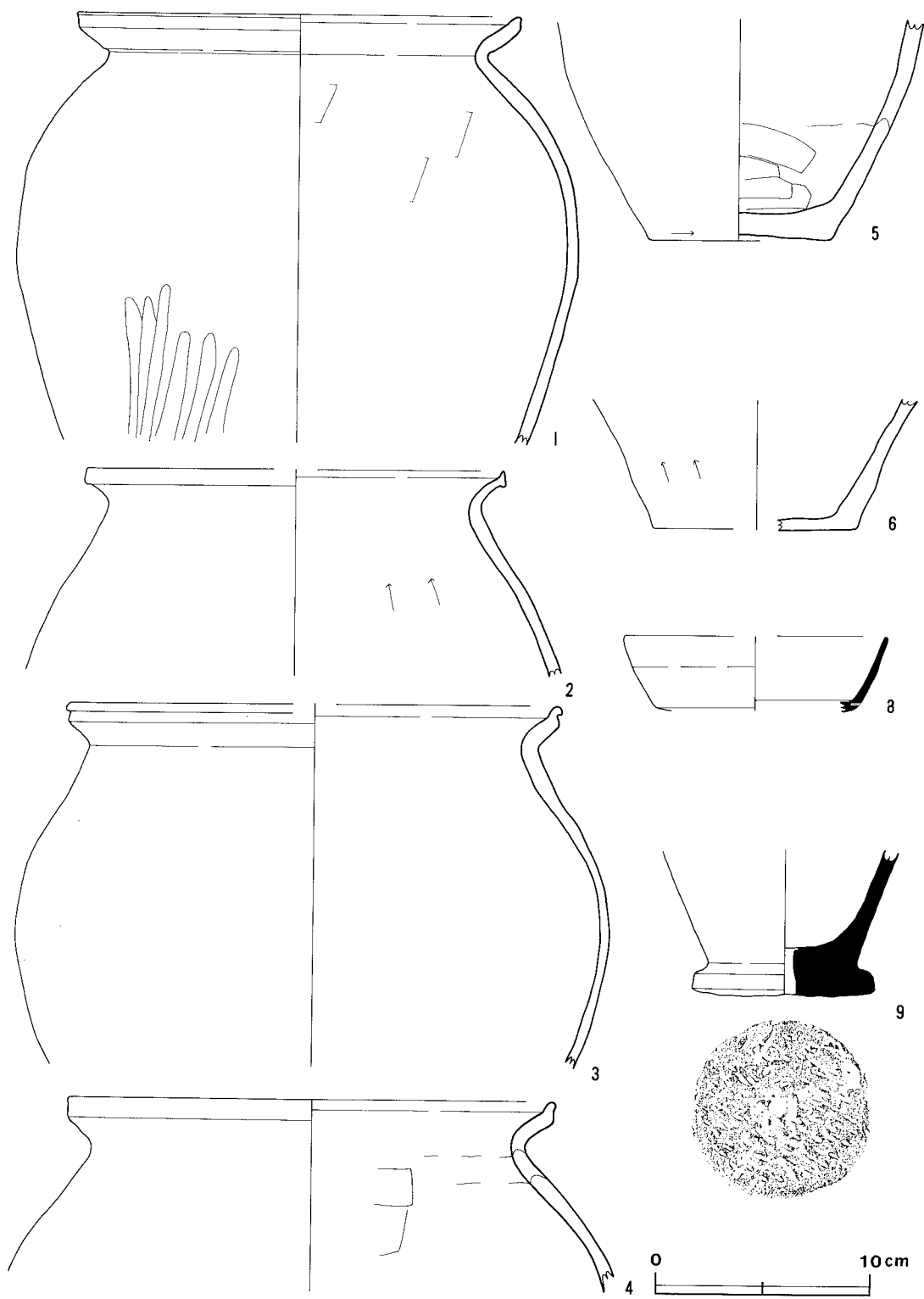
第136図 第56号住居跡カマド実測図



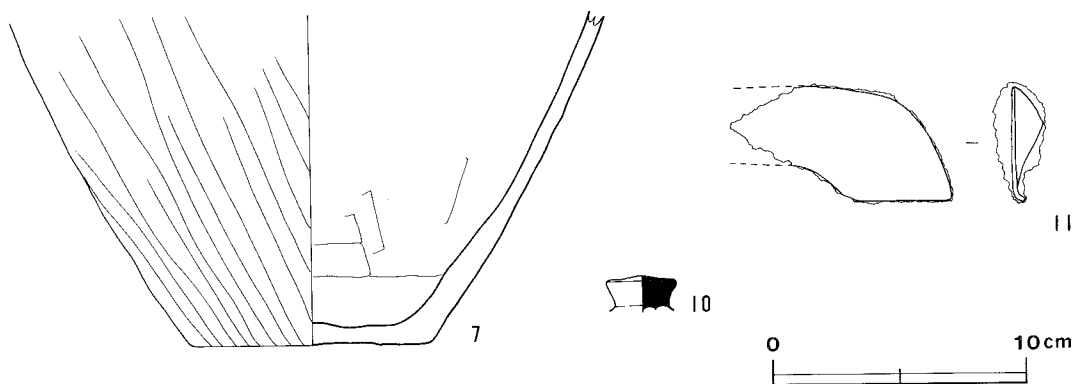
住居跡土層解表

1. 黒褐色	ローム粒子多量	粘性弱い	7. 黒褐色	ローム粒子中量	粘土中量
2. 暗褐色	ローム粒子多量	粘性弱い	8. 暗褐色	ローム粒子多量	
3. 褐色	ローム粒子多量		9. 黒褐色	ローム粒子中量	硬くしまる
4. 暗褐色	ローム粒子中量		10. 褐色	ローム粒子中量	粘土多量
5. 黒褐色	焼土粒子中量	ローム粒子中量	粘性弱い	11. 黒褐色	ローム粒子中量
6. 暗褐色	ローム粒子中量		12. 褐色	ローム粒子多量	

第137図 第56号住居跡実測図



第138图 第56号住居跡出土遺物実測図(1)



第139図 第56号住居跡出土遺物実測図(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	甕 土師器	A 20.5 B (20.2) E 26.0	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は上方へ整くつまみ上げられる。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，横位のヘラナデ。外面，ナデ。中位以下，縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	30% P 483 北壁際西部床面 P L46
2	甕 土師器	A (19.4) B ( 9.7)	胴部（上位）は内傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，縦位のナデ。外面，縦位のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P 485 カマド付近床面 直上
3	甕 土師器	A (22.7) B (17.0)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，ナデ。外面，縦位のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	20% P 484 カマド付近・中央部床面直上
4	甕 土師器	A 22.9 B ( 9.0)	張りの強い胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，横位のヘラナデ。外面，ナデ。内面，輪積み痕を部分的に残す。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	20% P 492 北壁際西部床面
5	甕 土師器	B (10.4) C 8.5	平底。胴部（下位）は内彎しながら外傾して立ち上がる。	胴部内面，横位のナデ。外面，ナデ。下端に横位のヘラ削り。底部，ナデ。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	20% P 489 中央部床面
6	甕 土師器	B ( 6.1) C ( 9.6)	平底。胴部（下位）は外傾して立ち上がる。	胴部内面，ナデ。指頭状の圧痕有り。外面，ヘラナデ。下端，横位のナデ。底部，ナデ。	砂粒・石英 浅黄橙色 普通	10% P 491 南部覆土
第139図 7	甕 土師器	B (13.2) C 9.4	平底。胴部（下位）は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面，横位のヘラナデ。外面，縦・斜位のヘラ磨き。底部，木葉痕。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	20% P 486 北壁際西部床面
第138図 8	坏 須恵器	A 12.4 B ( 3.5)	体部片。内彎気味に外傾して立ち上がる。高台が付く可能性も考えられる。		砂粒・長石 灰色 良好	20% P 493 南西部覆土

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	摺 須恵器	B ( 6.9) C 8.6	径8.6cm、厚さ1.2cmの円板状の底部に、下端部径7cmで外傾して立ち上がる胴部が付く。底部中央に径0.7cm程の穿孔。	底部に、ほぼ一定方向を向く、へら状工具による刺突痕がみられる。内面、及び外面の一部に自然釉。	砂粒・長石 暗灰色 普通	70% P702 西壁際北部床面 横位 P L58
第139図 10	蓋 須恵器	F 2.7 H 1.2	つまみ。腰高で、中央がわずかに盛り上がる。		砂粒 灰褐色 普通	5% P494 南西部覆土

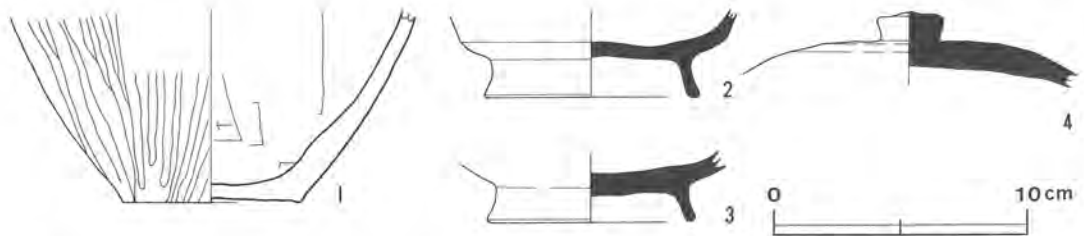
図版番号	種類	法量(cm)	備考
11	鎌	全長〔8.7〕 基端部幅3.9 最大厚0.2	基端部折り返し。西壁際覆土下層出土。 P L63 M50

### 第57号住居跡（第141図）

**位置** H4d4区。重複関係 SI-56・61より古い。**平面形** 長方形。規模 4.02×3.20m。**主軸方向** N-5°-W。**壁** 直立。壁高35~40cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長120cm、幅75cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面とほぼ同じ高さである。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏）76点。須恵器片（甕，坏，高台付坏）17点。図示した2点の高台付坏は、北東コーナー付近の床面からまとまって出土している。

**備考** 本跡の主要部はSI-56・61に切られており、北側及び東側部分だけが残っている。

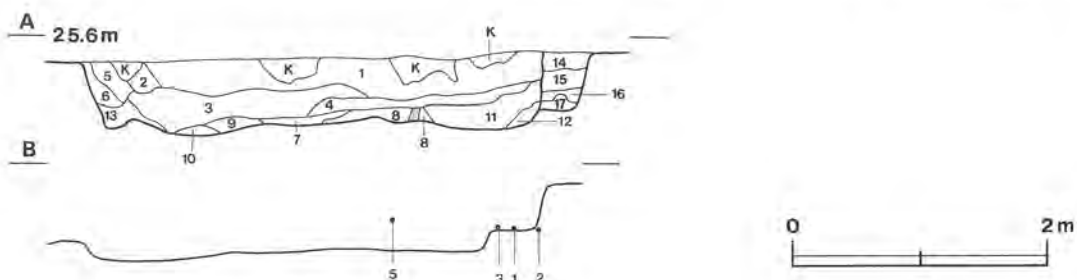
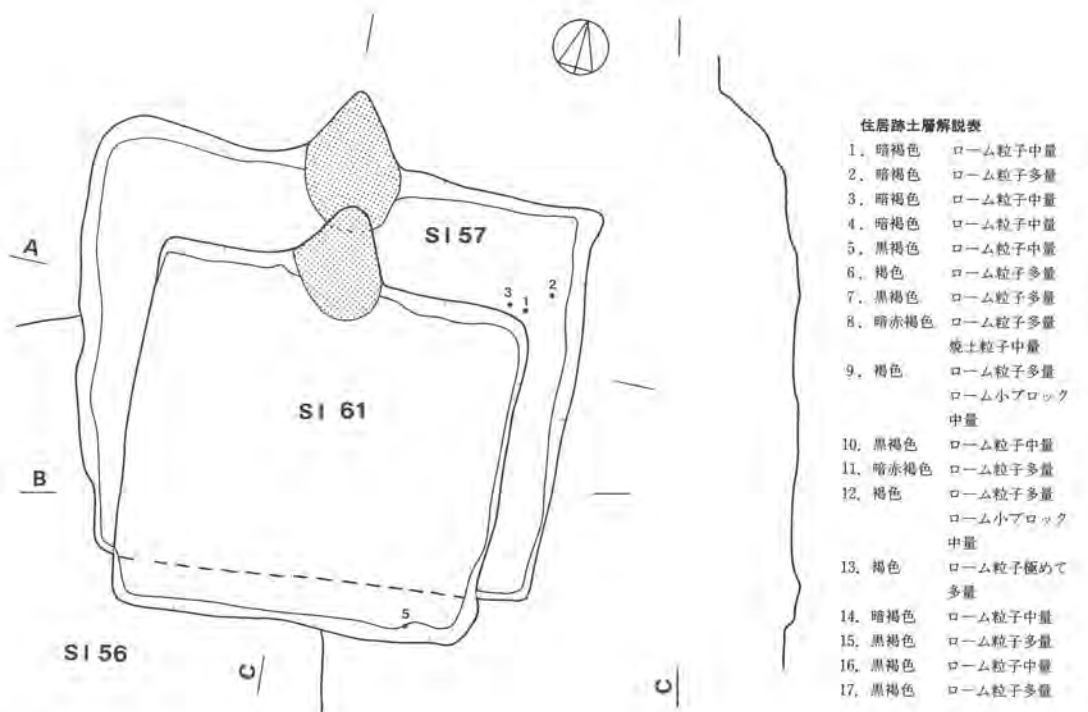


第140図 第57号住居跡出土遺物実測図

### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	甕 土師器	B ( 7.7) C ( 7.0)	平底。胴部（下位）は外傾して立ち上がる。	胴部内面、横位のへらナデ。外面、縦・斜位のへら磨き。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	10% P487 北東部床面直上





第141図 第57号住居跡・カマド・第61号住居跡実測図

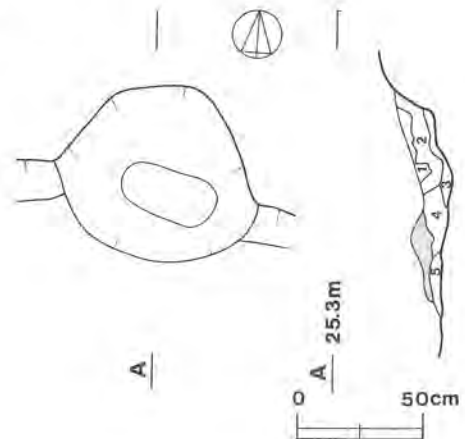
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 2	高台付坏 須惠器	B 3.31 D 8.6 G 1.5	平底。外側へふんばる高台が付く。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 良好	30% P495 東壁際北部床面 正位
3	高台付坏 須惠器	B 2.81 D 8.4 G 1.4	平底。外側へふんばる高台が付く。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・礫 灰色 普通	25% P496 東壁際北部床面 直上正位
4	蓋 須惠器	B 3.01 F 2.6 H 1.2	天井部はなだらかに下降する。 腰高で、中央がわずかに盛り上がるつまみが付く。	天井部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	30% P497 北西部覆土

### 第61号住居跡（第141図）

**位置** H4d4区。重複関係 SI-56・57より新しい。**平面形** 方形。規模 2.96×2.80m。主軸方向 N-4°-W。壁 直立。壁高10cm(SI-57の床面との比高)。確認面からは50cm程度。壁溝無。床 凹凸。ピット 無。カマド 北壁中央。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長70cm、幅80cm、煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は、床面とほぼ同じ高さである。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏) 192点。須惠器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋) 55点。鉄滓2点。カマド付近の床面に土師器の小破片が少量みられるほかは、主に覆土から出土している。鉄滓は、北西部の床面とカマド付近の覆土下層から出土している。

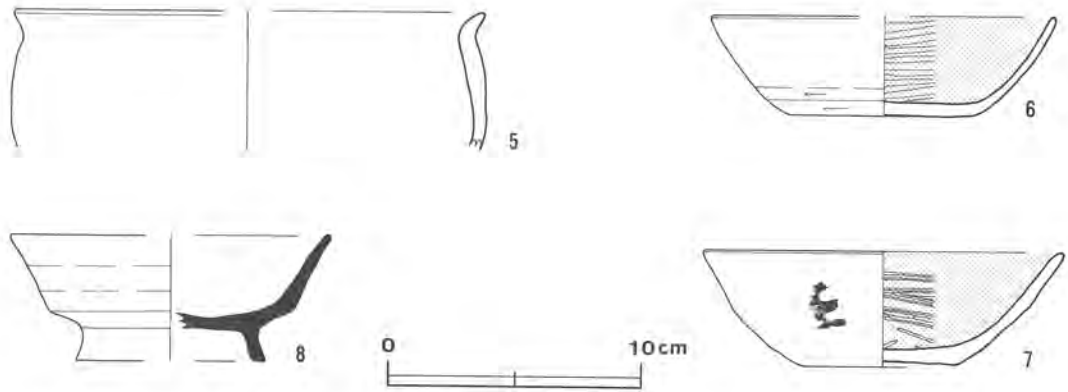
**備考** 3軒重複の中で最も新しい住居跡。カマドの焼き口部に使用されたとみられる凝灰岩の切石がカマド前面から、また、中央部からは、床面にめり込むようにして凝灰岩ブロックが出土している。



#### カマド土層解説表

1. 黒褐色
2. 暗赤褐色 焼土粒子多量
3. 黒褐色 ローム粒子中量
4. 黒褐色
5. 暗赤褐色 焼土粒子中量

第142図 第61号住居跡カマド実測図



第143図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

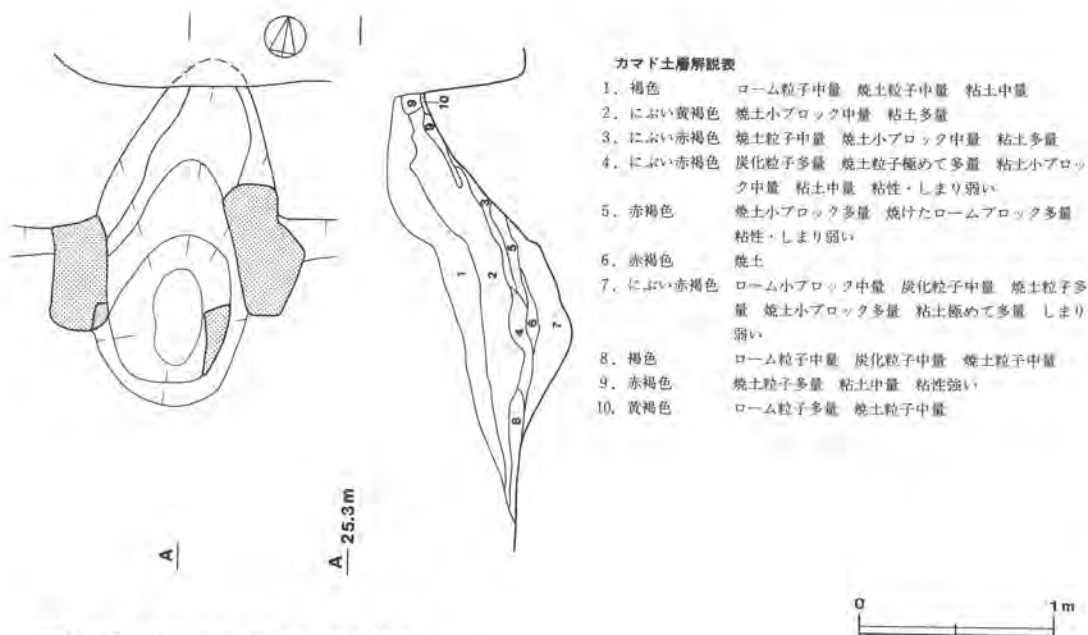
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 5	甕 土師器	A (18.6) B ( 5.5)	胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面、横ナデ。	砂粒にふい橙色普通	5% P549 南東コーナー付近覆土中層
6	坏 土師器	A (13.6) B 4.0 C 7.3	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、及び体部下端回転ヘラ削り。	砂粒にふい橙色普通	50% P550 中央部覆土
7	坏 土師器	A 14.2 B 4.6 C 6.0	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、回転糸切り後、外周部、及び体部下端、回転ヘラ削り。	砂粒にふい橙色普通	50% P551 南西部覆土 墨書
8	高台付坏 須恵器	A (12.8) B 5.1 D ( 7.6) G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ、高台貼り付け。	砂粒灰色普通	20% P552 南東部覆土

第58号住居跡 (第145図)

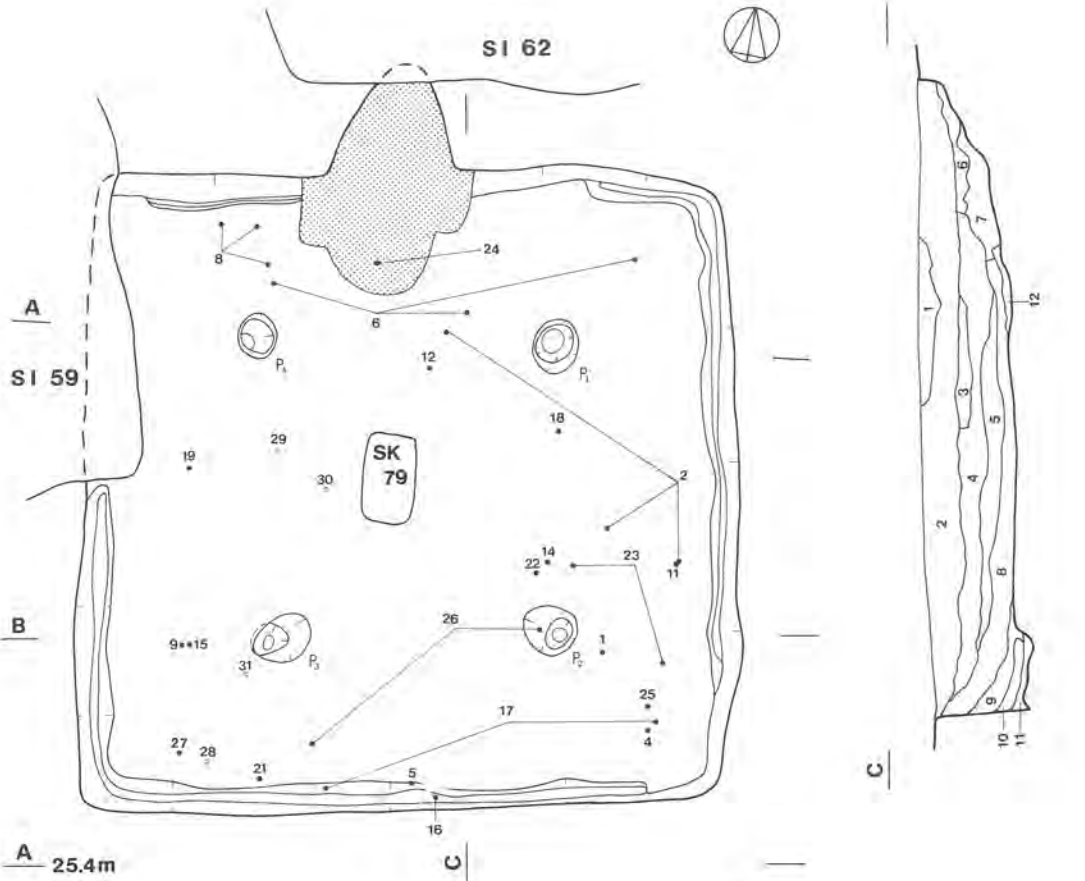
位置 H3f9区。重複関係 SI-59・62より古い。SK-79(新旧不明)。平面形 方形。規模 5.29×5.08m。主軸方向 N-8°-W。壁 直立。壁高64-71cm。壁溝 ほぼ全周。上幅15-28cm, 深さ7-14cm。床 平坦。ピット 4か所。P<sub>1</sub>(42×35, -52cm) P<sub>2</sub>(44×39, -50cm) P<sub>3</sub>(48×35, -40cm) P<sub>4</sub>(35×22, -52cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長170cm, 幅132cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は, 床面より25cm程深く掘り窪め, 粘土や焼土を含む土で整地した後, その上面を使用している。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 鉢, 平鉢) 2,299点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 盤, 蓋) 467点。石製紡錘車1点。鉄製品(刀子2, 鋸2, 鉸具1) 5点。砥石1点。多量の遺物が, 遺構全体に散乱した状態で出土している。須恵器坏やその破片が多く, 土師器平鉢の小破片も3-4個体分出土している。第147図29の鉸具は馬具の一部とみられ, 中央部やや西寄りの覆土中層から出土している。

備考 両軸とも5mを越す大型の住居跡。焼土が南壁に沿った床面直上に堆積している。覆土下層には炭化物を含む層もみられるが, 床面上に焼けた痕跡などは無く, 焼失住居とは認められない。

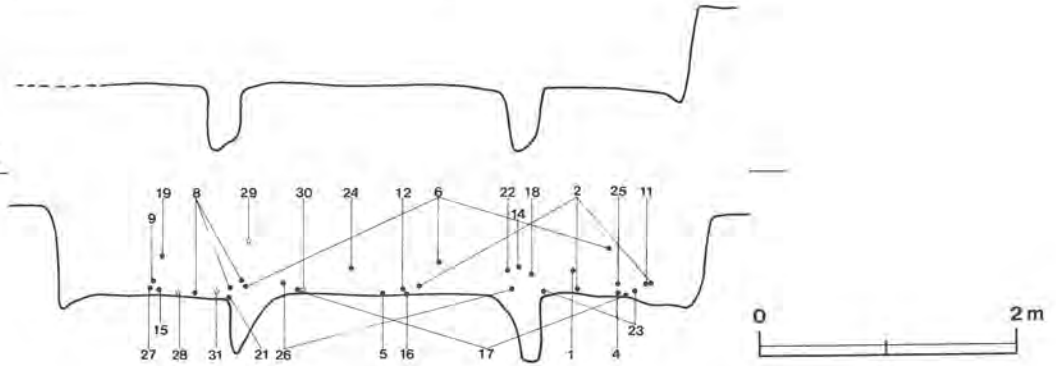


第144図 第58号住居跡カマド実測図



A 25.4m

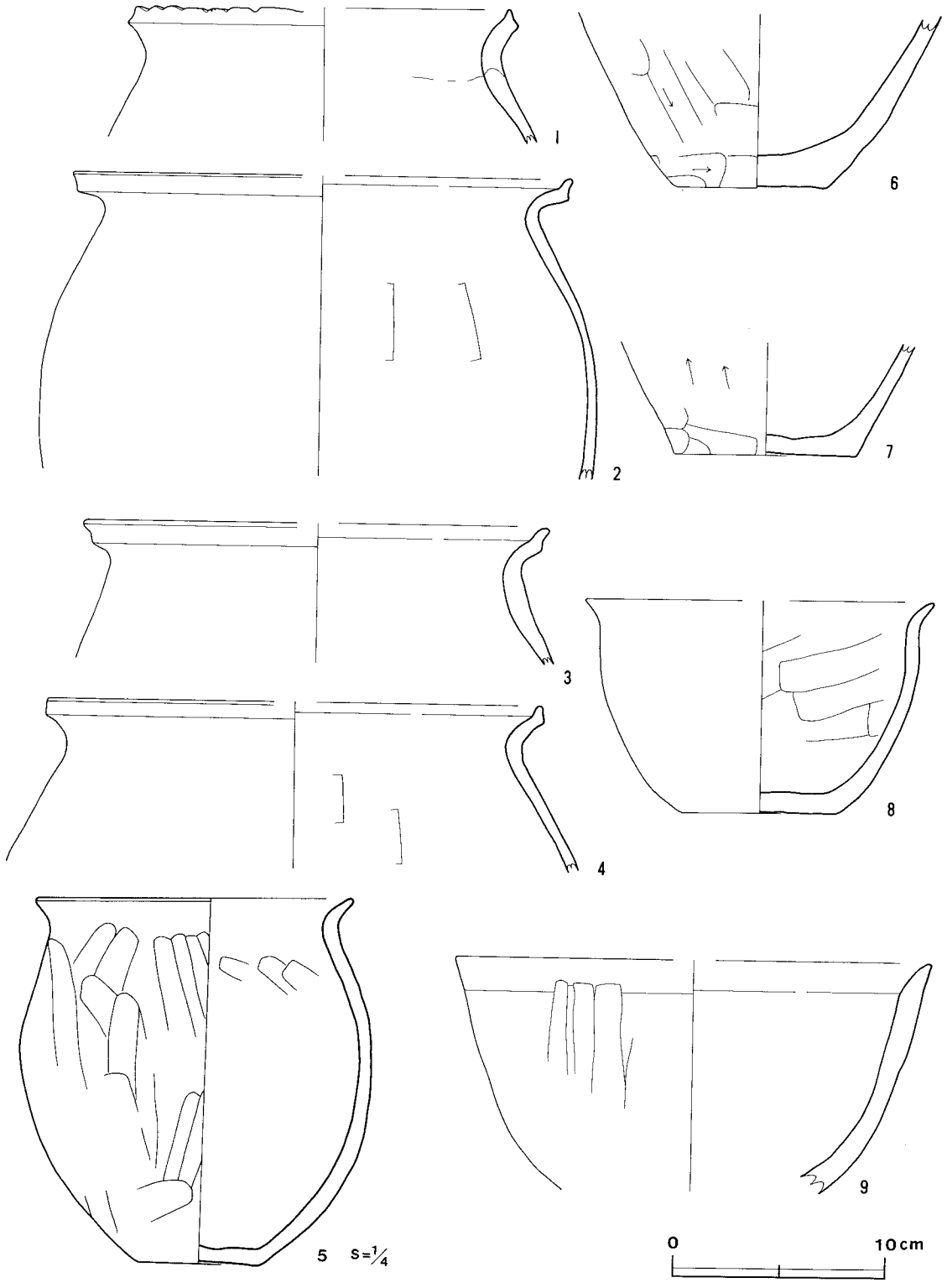
B



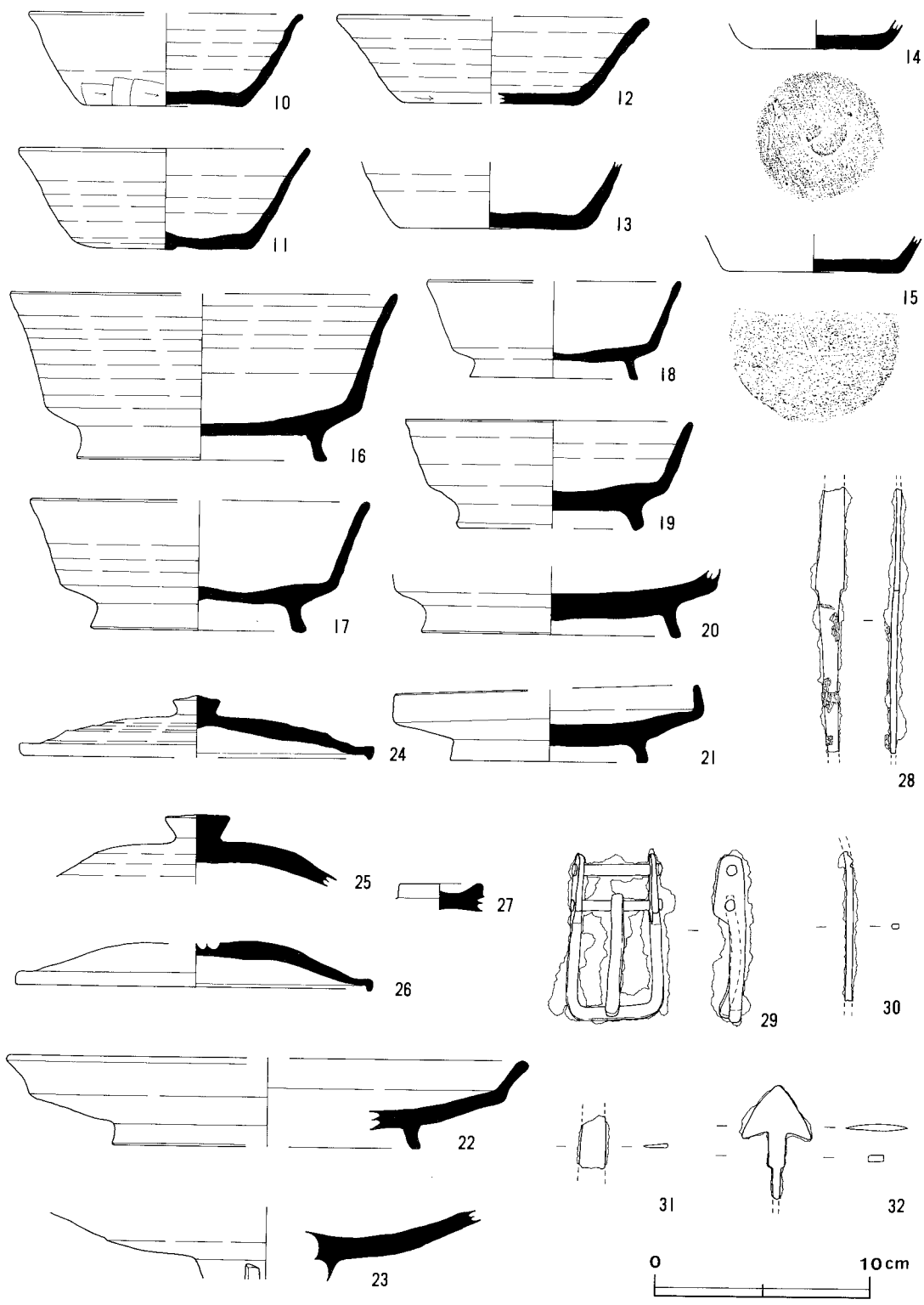
土層解説表

1. 褐色	ローム粒子多量 粘性弱い	8. 褐色	ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子中量 粘性強い
2. 暗褐色	ローム粒子中量 粘性弱い	9. 暗褐色	ローム粒子中量 炭化粒子中量 黒褐色土ブロック中量 粘性・しまり弱い
3. 暗褐色	ローム粒子中量 焼土粒子多量	10. 明赤褐色	炭化物多量 焼土粒子極めて多量 しまり弱い
4. 褐色	ローム粒子多量	11. 褐色	ローム粒子多量 しまり弱い
5. 褐色	ローム粒子中量 炭化物中量 焼土粒子中量	12. にぶい黄褐色	ローム粒子中量 ローム小ブロック中量 粘性強い
6. 褐色	ローム粒子中量		
7. 褐色	ローム粒子中量 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量 粘土小ブロック多量 粘性強い		

第145図 第58号住居跡実測図



第146图 第58号住居跡出土遺物実測図(1)



第147图 第58号住居跡出土遺物実測図(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	甕 土師器	A (17.8) B (6.4)	頸部から口縁部にかけて緩やかに外反して立ち上がる。口縁端部は上方へつまみ上げられ、0.8-1.2cm程の間隔で刻み目が入る。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内・外面、ナデ。	砂粒・石英・長石にふい橙色普通	5% P501 南東部覆土中層
2	甕 土師器	A (23.3) B (14.3)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	10% P500 カマド付近・東部覆土下層
3	甕 土師器	A (21.8) B (6.6)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	5% P503 カマド覆土
4	甕 土師器	A (23.2) B (7.9)	胴部(上位)は内傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい褐色普通	5% P502 南東コーナー付近床面直上
5	甕 土師器	A 19.8 B 23.7 C 7.6 E 22.2	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横・斜位のヘラナデ。外面、縦・斜位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・雲母にふい橙色普通	95% P498 南壁際中央部床面直上横位 P L47
6	甕 土師器	B (8.2) C 7.1	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦・斜位、下端は横位のヘラ削り。底部、木葉痕。	砂粒・石英・長石にふい赤褐色普通	10% P505 カマド付近覆土中・下層
7	甕 土師器	B (5.4) C 8.6	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面、横ナデ。外面、縦位、下端は横位のヘラ削り。底部、ナデ。	砂粒にふい橙色良好	10% P506 南壁際中央部床面直上
8	鉢 土師器	A (16.5) B 10.2 C 7.0	平底。胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横・斜位のナデ。外面、ナデ。底部、ナデ。	砂粒にふい赤褐色普通	60% P499 北西部覆土下層、南西部覆土 P L48
9	鉢 土師器	A (22.4) B (11.0)	胴部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は器厚を減しながら、わずかに外反する。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ削り、及びナデ。	砂粒・雲母にふい橙色普通	10% P507 南西部覆土下層
第147図 10	坏 須恵器	A (12.9) B 4.4 C 7.3	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒・長石灰色普通	40% P510 南西部覆土
11	坏 須恵器	A 13.4 B 4.8 C 8.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、上位でかるく外反する。底部との境は丸味をもつ。	底部、回転ヘラ切り後、外周部回転ヘラ削り。	砂粒灰色普通	80% P508 東部覆土下層正位 P L53



図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	坏須恵器	A (14.3) B 4.2 C 8.3	平底。体部は外傾して立ち上がり、上位でわずかに外反する。口唇部は丸い。	底部、一定方向のへら削り。体部下端、手持ちへら削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	40% P509 中央部覆土中・ 下層 P L53
13	坏須恵器	B ( 3.2) C 8.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転へら切り後、多方向のへら削り。	砂粒・石英 灰黄色 不良	50% P511 南東部覆土
14	坏須恵器	B ( 1.4) C 6.0	平底。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	10% P512 中央部覆土中層 へら記号
15	坏須恵器	B ( 1.8) C 8.0	平底。	底部、ナデ。	砂粒・石英 灰白色 普通	10% P513 南西部覆土下層 へら記号
16	高台付坏須恵器	A (18.1) B 7.9 D 11.6 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はわずかに外傾して立ち上がり、上位で軽く外反する。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、及び体部下端、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 黄灰色 普通	70% P514 南壁際中央部床 面直上 へら記号 P L56
17	高台付坏須恵器	A (15.8) B 6.1 D 9.8 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	70% P515 南東コーナー付 近・南壁際中央 部床面直上 P L56
18	高台付坏須恵器	A (11.6) B 4.6 D 7.8 G 0.9	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転糸切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	60% P516 東部覆土中層 P L56
19	高台付坏須恵器	A 13.3 B 5.1 D ( 8.6) G 0.9	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。体部下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 褐灰色 普通	80% P517 西部覆土中層逆 位 P L56
20	高台付坏須恵器	B ( 3.2) D 12.1 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転へら切り後、回転へら削り、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	30% P521 P 1 覆土
21	盤須恵器	A (14.0) B 3.7 D 9.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	底部、ナデ、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	70% P519 南壁際西部床面 直上正位 P L57
22	盤須恵器	A (24.2) B 4.2 D (14.2)	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	底部、調整不明。	砂粒・長石 灰色 普通	15% P520 中央部覆土中層
23	高盤須恵器	B ( 3.4)	坏部片。底部から体部にかけて緩やかに内彎しながら立ち上がる。脚部には、四方に透し孔が入る。	外面に自然釉がかかる。	砂粒 灰黄色 普通	10% P528 東部・南東部覆 土下層

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
24	蓋 須 恵 器	A (16.4) B 2.9 F 2.2 H 0.9	天井部は浅い。頂部からなだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。宝珠形つまみが付く。	天井部、径11.5cmにわたり、回転へう削り。	砂粒 灰褐色 普通	30% P523 カマド付近覆土 中層 P L57
25	蓋 須 恵 器	B ( 3.3) F 3.0 H 1.2	天井部はやや深い。腰高なつまみが付く。	天井部、径11cmにわたって回転へう削り。	砂粒 紫灰色 普通	30% P525 南東コーナー付 近覆土下層
26	蓋 須 恵 器	A 16.7 B ( 2.3)	天井部は浅く、丸い。頂部からなだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。つまみ欠損。	天井部、径10.2cmにわたって回転へう削り。	砂粒・長石 灰色 普通	70% P522 南部覆土下層 P L57
27	蓋 須 恵 器	F 3.9 H 0.7	つまみ。		砂粒 灰白色 普通	5% P527 南西部覆土下層

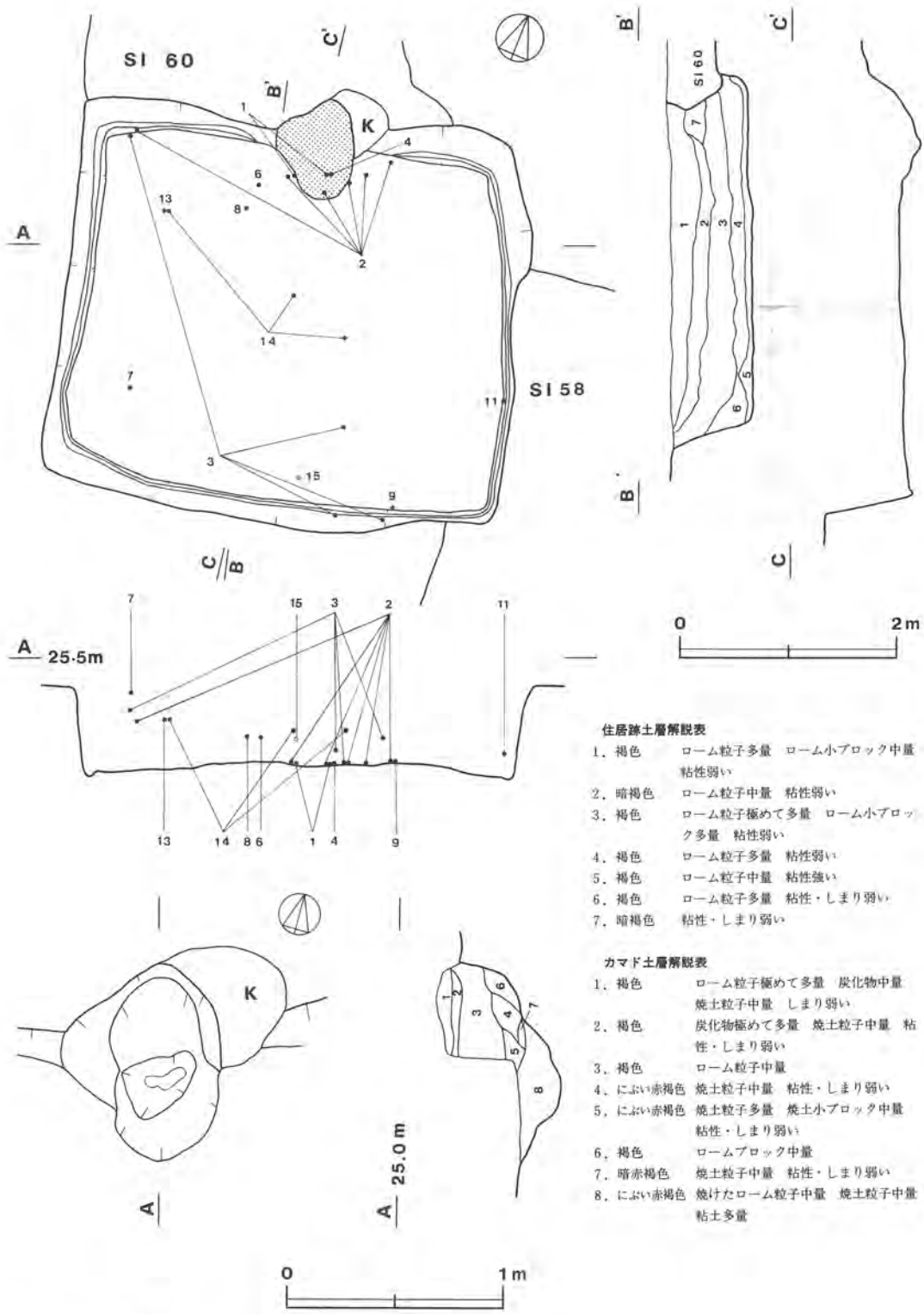
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
28	刀 子	全長〔12.4〕 刀身幅1.7 刀身重ね0.2	茎に木質付着。南西コーナー付近床面直上出土。 P L63 M54
29	帯 金 具 ( 鉸 具 )	全長7.7 頭部幅4.5 基部幅3.5 刺金長5.7	馬具の一部と思われる。中央部覆土中層出土。 P L63 M51
30	鍬	全長〔7.0〕 最大幅0.4 最大厚0.3	茎の一部。中央部床面出土。 M52
31	刀 子	全長〔2.5〕 刀身幅1.3 刀身重ね0.2	刀身部の一部。南東部覆土下層出土。 M53
32	鍬	全長〔5.4〕 鍬身長2.6 鍬身幅3.3 筥被長1.6 筥被幅0.7 茎幅0.4 最大厚0.3	東部覆土出土。 P L63 M55

### 第59号住居跡（第148図）

**位置** H3f8区。重複関係 SI-58より新しく、SI-60より古い。**平面形** 長方形。規模 4.27×3.70m。**主軸方向** N-15°-W。**壁** 直立。壁高75~82cm。**壁溝** 全周。上幅10~24cm、深さ3~5cm。**床** 凹凸。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長92cm、幅74cm、煙道部の壁面への掘り込みは約35cm。火床は、床面より20cm程深く掘り窪め、粘土、焼土を多量に含む土で整地した後、その上面を使用している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏，高台付坏）502点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，盤，壺）146点。砥石1点。鉄製品（刀子）1点。カマド付近の床面に、土師器甕の破片が多数出土している。カマドで使用されたものか、あるいはカマドの構築材として用いられたものと思われる。その他の遺物は、ほとんどが覆土から出土している。

**備考** 東部の床面上の一部に灰が薄く堆積している。北側にSI-60が重複しており、本跡のカマドを削平し、その真上にSI-60のカマドが築かれている。



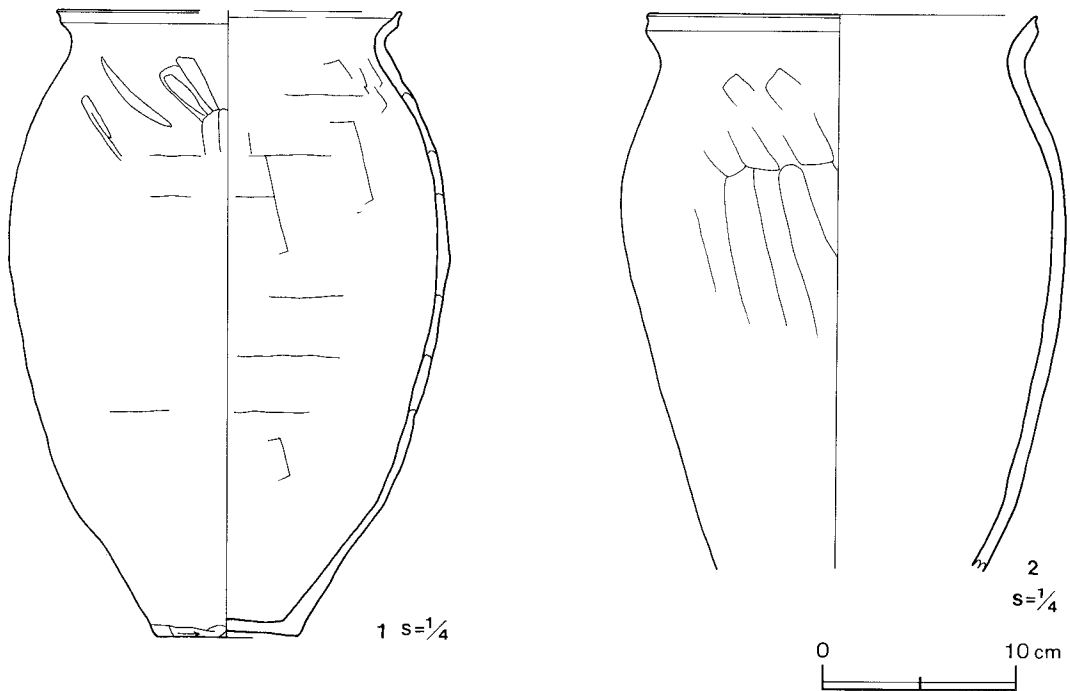
**住居跡土層解説表**

- |        |            |            |
|--------|------------|------------|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量    | ローム小ブロック中量 |
|        | 粘性弱い       |            |
| 2. 暗褐色 | ローム粒子中量    | 粘性弱い       |
| 3. 褐色  | ローム粒子極めて多量 | ローム小ブロック多量 |
|        | 粘性弱い       |            |
| 4. 褐色  | ローム粒子多量    | 粘性弱い       |
| 5. 褐色  | ローム粒子中量    | 粘性強い       |
| 6. 褐色  | ローム粒子多量    | 粘性・しまり弱い   |
| 7. 暗褐色 | 粘性・しまり弱い   |            |

**カマド土層解説表**

- |           |            |           |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 褐色     | ローム粒子極めて多量 | 炭化物中量     |
|           | 焼土粒子中量     | しまり弱い     |
| 2. 褐色     | 炭化物極めて多量   | 焼土粒子中量    |
|           | 粘性・しまり弱い   |           |
| 3. 褐色     | ローム粒子中量    |           |
| 4. にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量     | 粘性・しまり弱い  |
| 5. にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量     | 焼土小ブロック中量 |
|           | 粘性・しまり弱い   |           |
| 6. 褐色     | ロームブロック中量  |           |
| 7. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量     | 粘性・しまり弱い  |
| 8. にぶい赤褐色 | 焼けたローム粒子中量 | 焼土粒子中量    |
|           | 粘土多量       |           |

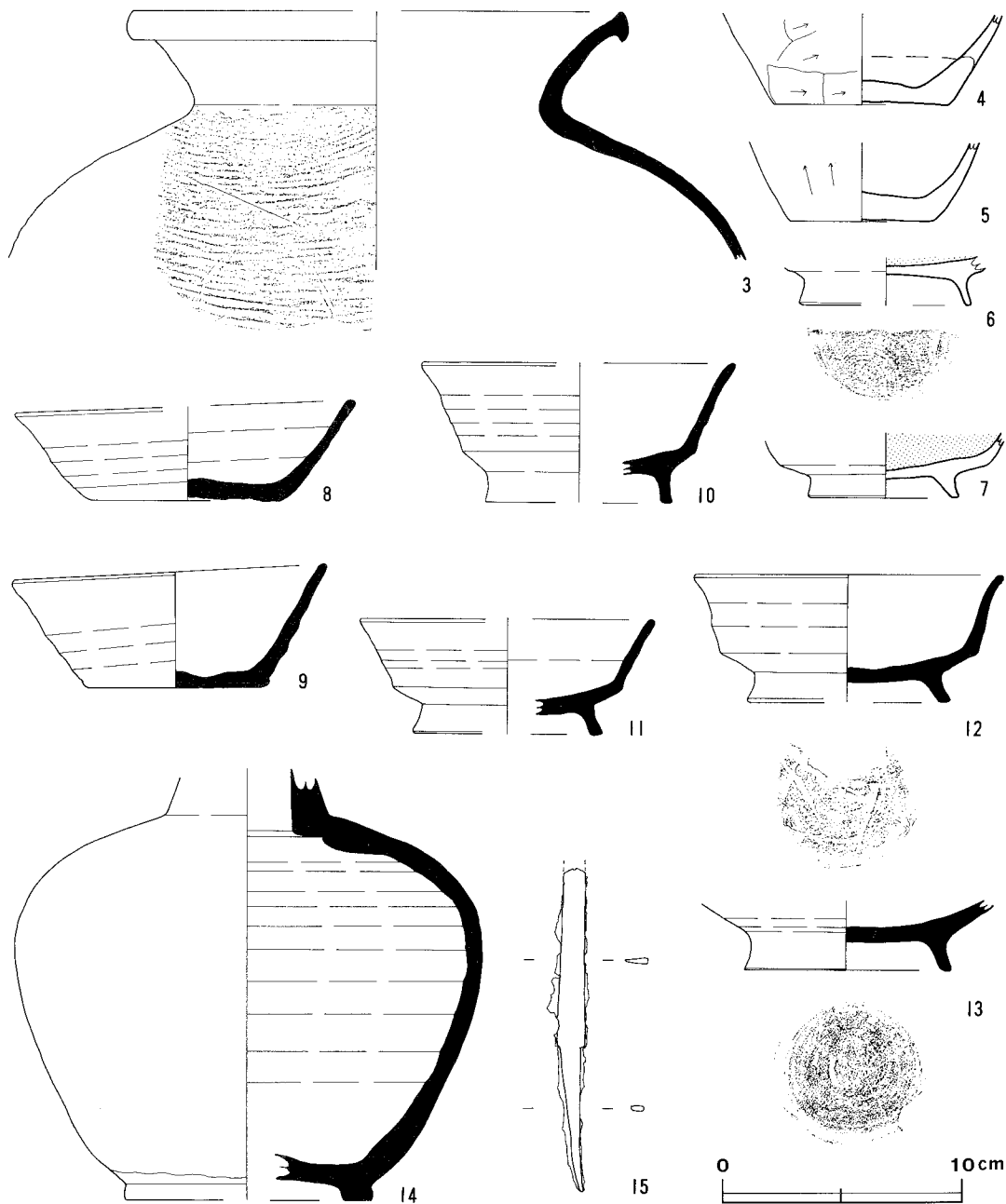
第148図 第59号住居跡・カマド実測図



第149図 第59号住居跡出土遺物実測図(1)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	甕 土師器	A (18.2) B 33.6 C (7.6) E 23.2	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方につまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のへらナデ。外面、ナデ。下端、横位のへら削り、下位、部分的にへら磨きの痕跡が残る。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	25% P530 カマド付近床面・床面直上
2	甕 土師器	A 20.4 B (29.7) E 23.4	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。底部欠損。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のナデ。外面、縦・斜位のへら削り、へら磨き。	砂粒・礫・雲母 にぶい橙色 普通	80% P529 カマド付近床面、北西部・南西部覆土 P L47
第150図 3	甕 須恵器	A (20.8) B (10.6)	肩部が強く張る。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がり、口縁端部は上下へ突出する。	口頸部内面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、平行叩き。	砂粒 褐灰色 普通	20% P536 南壁際東部ほか覆土中・下層



第150図 第59号住居跡出土遺物実測図(2)

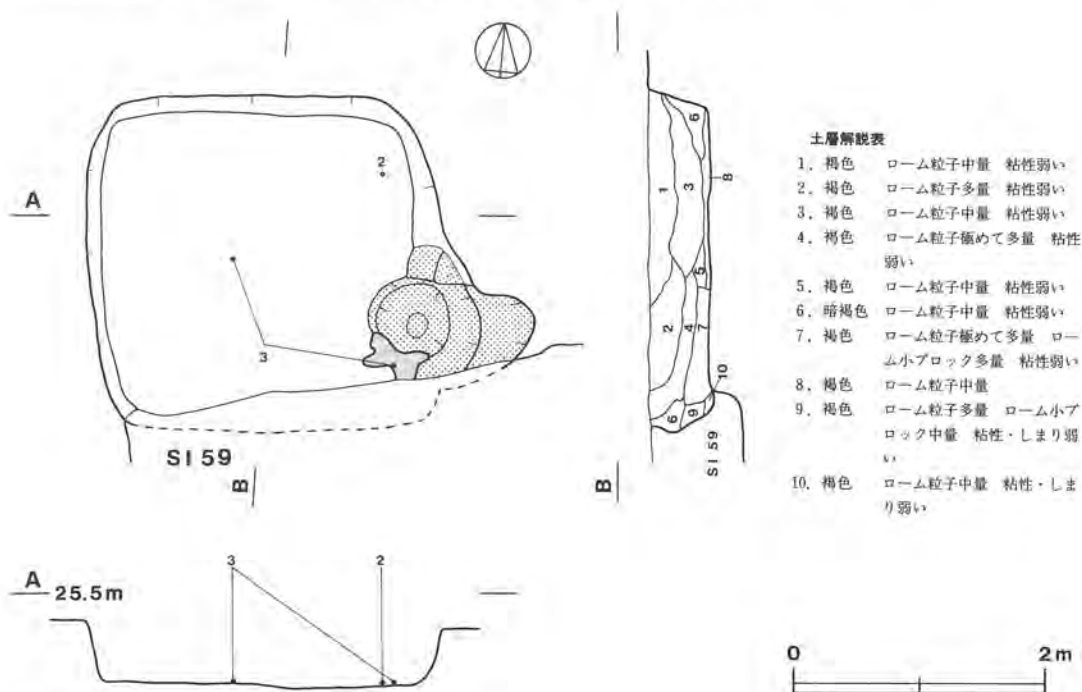
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 4	甕 土師器	B〔3.9〕 C 7.2	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面，ナデ。外面，横位のヘラ削り。底部，木葉痕。	砂粒・雲母・石英 赤灰色 普通	5% P531 カマド付近床面

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
5	小 型 甃 土 師 器	B〔3.4〕 C 6.0	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦位のへら削り、及びへらナデ。底部本葉痕。	砂粒・雲母・石英 にふい赤褐色 普通	10% P532 南東部覆土
6	高 台 付 坏 土 師 器	B〔2.1〕 D〔7.0〕	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	ロクロ整形。内面、へら磨き、黒色処理。底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 にふい橙色 普通	5% P535 カマド付近覆土 中層
7	高 台 付 坏 土 師 器	B〔2.8〕 D 6.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下端付近に稜をもち、高台部との間に面を成す。	ロクロ整形。内面、へら磨き、黒色処理。底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	20% P534 南西部覆土上層
8	坏 須 惠 器	A (14.3) B 4.3 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転へら切り後、粗いナデ。	砂粒 灰色 普通	90% P537 カマド付近覆土 中層 P L54
9	坏 須 惠 器	A 13.5 B 5.3 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転へら切り後、粗いナデ。	砂粒 灰色 普通	70% P539 南東部床面直上 P L54
10	高 台 付 坏 須 惠 器	A (13.4) B 6.0 D〔8.0〕 G 1.3	平底。ほぼ直立する高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅の狭い面を成す。	底部、調整不明。	砂粒・長石 灰色 普通	40% P542 西部覆土
11	高 台 付 坏 須 惠 器	A (12.3) B 5.0 D〔8.0〕 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。体部下位に強い稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 青灰色 良好	40% P540 東壁際中央部覆土 中層横位 P L56
12	高 台 付 坏 須 惠 器	A 13.2 B 5.5 D 8.6 G 1.3	平底。外側へふんばる高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。体部下位に稜をもち、高台部との間に幅広い面を成す。	底部、回転へら切り後、回転へら削り、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	90% P541 南東部・北部覆土 へら記号 P L56
13	高 台 付 坏 須 惠 器	B〔3.0〕 D 8.7 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母 にふい黄褐色 不良	20% P543 西部覆土上層 へら記号
14	長 頸 壺 須 惠 器	B (18.5) D (10.6) E (19.9) G 0.7	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもち、口頸部欠損。		砂粒・長石 黒色 普通	30% P L51 P544 中央部覆土中層 (SI-62カマド 付近覆土中層、 SI-60西部覆 土出土と接合)

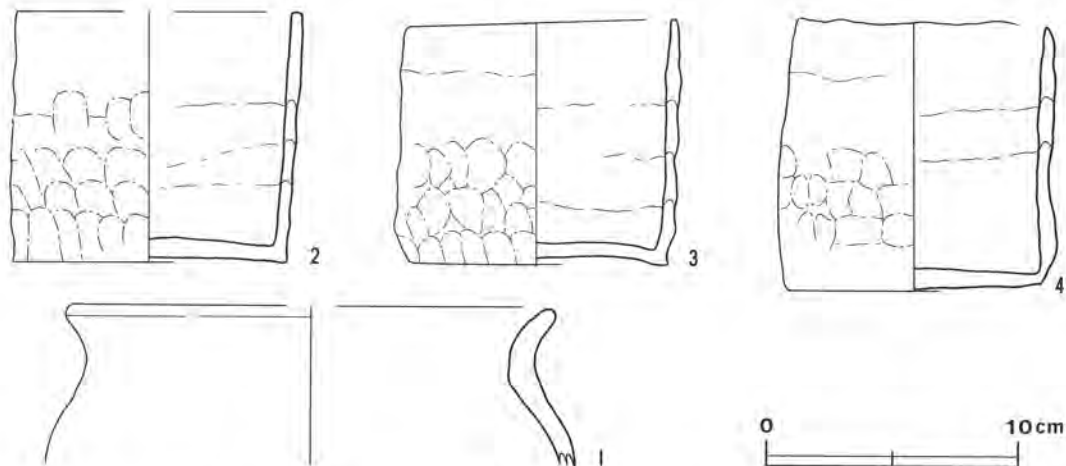
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
15	刀 子	全長 (13.9) 最大幅1.3 茎長5.2 最大厚0.3	刀身先端部欠損。南部覆土下層出土。 P L64 M56

第60号住居跡 (第151図)

位置 H3fs区。重複関係 SI-59より新しい。平面形 方形。規模 2.86×〔2.54〕m。主軸方向 N-83°-E。壁 外傾。壁高45~50cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 東壁南端。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長131cm, 幅〔105〕cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約75cm。火床は、床面とほぼ同じ高さである。覆土 自然堆積。



第151図 第60号住居跡実測図



第152図 第60号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 土師器片（甕， 坏， 高台付坏， 平鉢）123点。須恵器片（甕， 坏， 高台付坏， 蓋）44点。土製紡錘車1点。ほぼ同じ器形をもつ平鉢が3点出土している。第152図2・3は中央部と北東部の床面から正位で， 4はカマドの覆土から出土している。その他はいずれも小破片で， 覆土から出土している。

**備考** カマドが壁の端部に位置しているのは， 当遺跡では本跡だけである。カマドの主軸方向（焚き口から煙道部へ向かう軸）と住居跡の主軸方向とがほぼ同一である点で， コーナー部のカマドとは区別される。

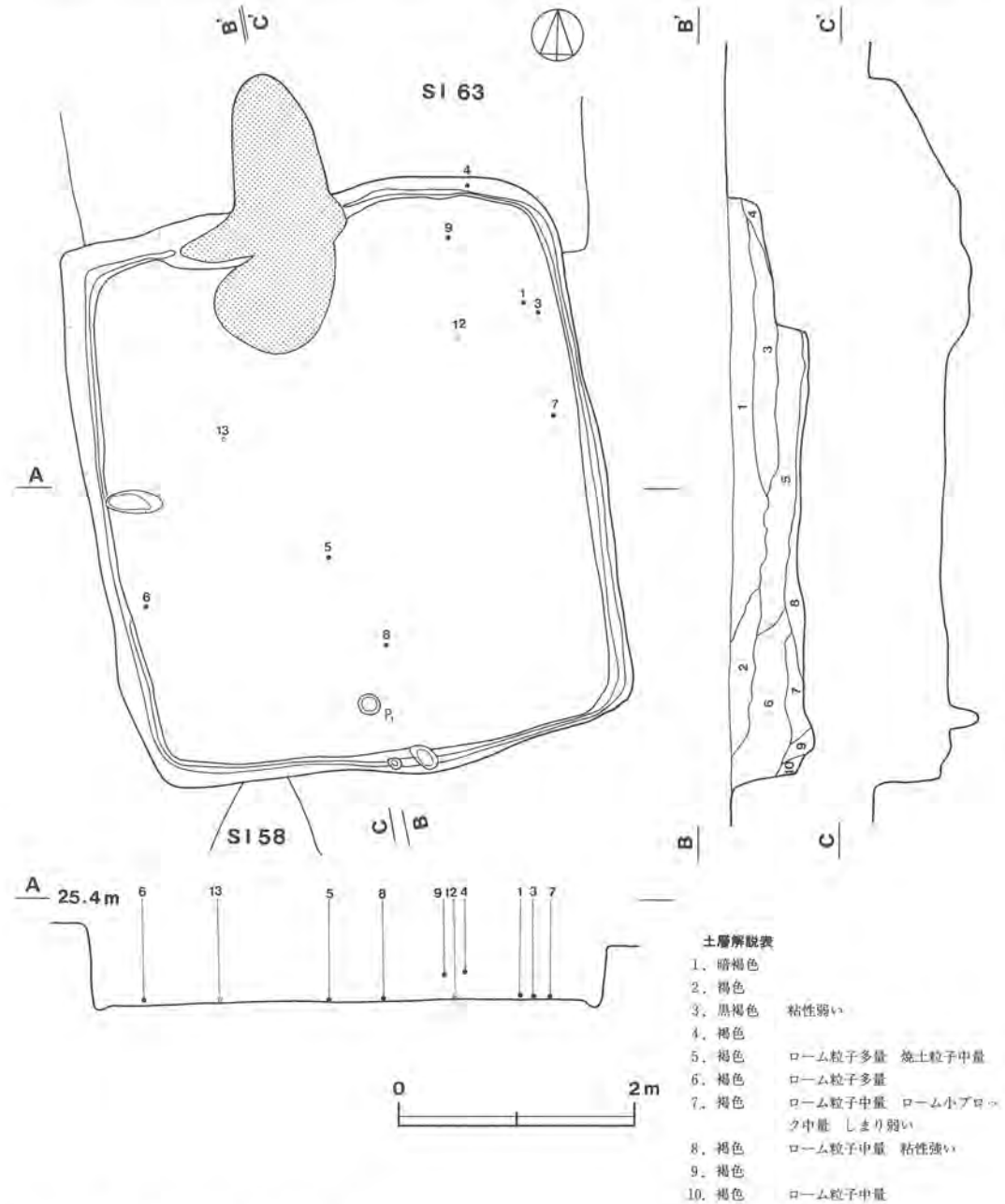
### 出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第152図 1	甕 土 師 器	A (19.1) B ( 6.4)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面， 横ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい赤褐色 普通	5% P545 カマド覆土
2	平 鉢 土 師 器	A (11.4) B 10.0 C 11.0	平底。胴部はほぼ直立し， 筒形を呈する。	内面， ヘラナデ。ほぼ平滑に整えられる。外面， ナデ。指頭状の圧痕を残す。内外面に輪積み痕を残す。	砂粒 にふい赤褐色 普通	90% P546 北東コーナー付 近床面正位 P L48
3	平 鉢 土 師 器	A 10.2 B 9.7 C 10.4	平底。胴部はほぼ直立し， 筒形を呈する。	内面， ヘラナデ。外面， 指頭によるナデ。輪積み痕を残す。	砂粒 にふい赤褐色 普通	70% P547 中央部床面正位， 南東部床面 P L48
4	平 鉢 土 師 器	A 9.9 B 10.5 C 10.0	平底。胴部はほぼ直立し， 筒形を呈する。(器形がやや歪む)	内面， ヘラナデ。外面， 指頭によるナデ。輪積み痕を残す。	砂粒 にふい橙色 普通	80% P548 カマド覆土 P L48



第62号住居跡 (第153図)

位置 H3e9区。重複関係 SI-58・63より新しい。平面形 長方形。規模 4.98×4.35m。主軸方向 N-14°-W。壁 直立。壁高44~78cm。壁溝 ほぼ全周。上幅10~27cm, 深さ3~10cm。床 平坦。北部は若干低くなる。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(20×20, -30cm) カマド 北壁中央。粘土で構築。焚き口部, 側壁に凝灰岩を使用。全長236cm, 幅128cm, 煙道部の壁面への掘り込みは

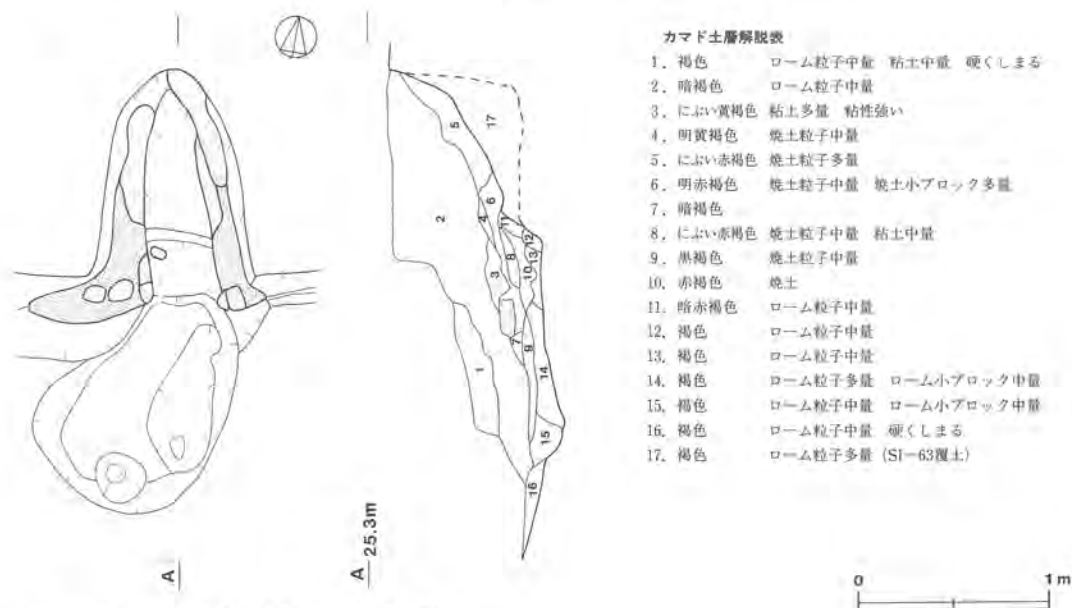


第153図 第62号住居跡実測図

約110cm。火床は、床面より20cm程掘り窪め、ロームブロックを含む土で整地してその上面を使用している。火床左奥に凝灰岩製の支脚が立った状態で出土している。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片（甕，坏）1,008点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，壺，盤，蓋，甌）204点。土製紡錘車1点。鉄製品（鋏2，器種不明1）3点。鉄滓1点。第155図3の小形甕は、北東部東壁際の床面直上から横位で出土しており、すぐ横に1の甕がつぶれた状態で出土している。7の高台付坏は東壁際，8の高台付坏は南部の，いずれも床面上から正位で出土している。

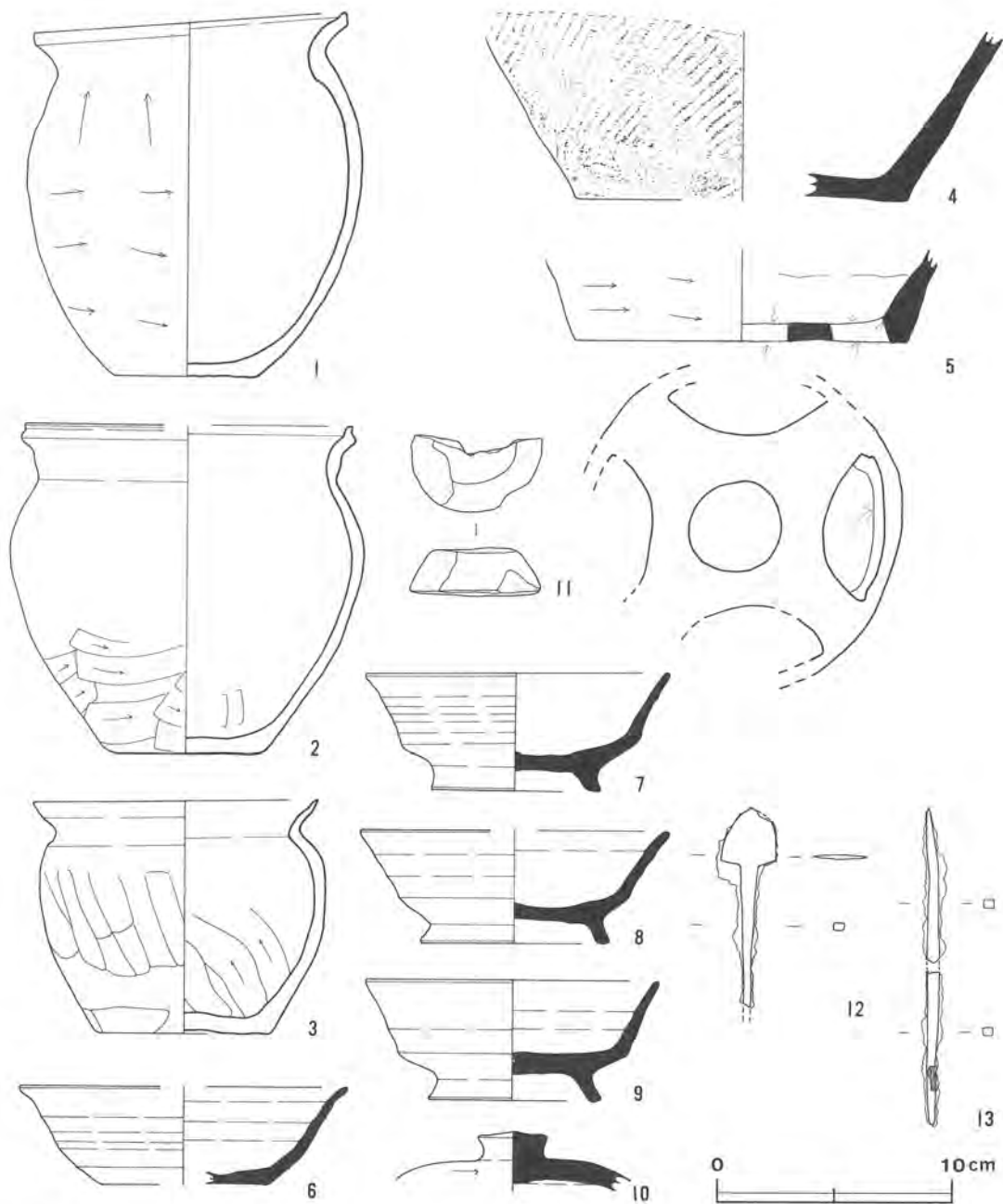
**所見** カマドの側壁まで凝灰岩を使用しているのは、本跡がSI-63の軟らかい覆土を掘り込んで構築されているので、壁面を補強するためと思われる。



第154図 第62号住居跡カマド実測図

**出土遺物観察表**

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	小型甕 土師器	A 13.5 B 15.7 C 6.0 E 14.3	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり，上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に外反し，口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，横位のヘラナデ。外面，上位は縦位，中位以下は横位のヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英 にぶい赤褐色 普通	75% P554 東壁際北部床面 P L 47
2	小型甕 土師器	A (14.0) B 15.1 C (6.5) E (15.1)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり，上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて外反し，口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面，横ナデ。胴部内面，ナデ。外面，上位はナデ，下半は横位のヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	25% P555 南東部，北西部 覆土



第155図 第62号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	小型 土師器	A 12.1	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は丸味をもって外反し、口縁部は外上方へ直線的につまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、斜・横位のナデ。外面、縦位、下位は横位のヘラ削り、及びヘラナデ。底部、ナデ。	砂粒・雲母にふい橙色普通	95% P553 東壁際北部床面横位 P L47
		B 10.1				
		C 7.6				
		E 12.2				

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
4	甕 須 恵 器	B〔7.3〕 C (14.2)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、斜位の平行叩き。底部、ナデ。	砂粒 暗灰色 良好	10% P556 北東コーナー付 近覆土中層
5	甌 須 恵 器	B〔4.0〕 C 14.2	五孔式。	胴部内面、ナデ。外面(下端部)横位のへら削り。	砂粒・雲母 にふい褐色 普通	10% P565 中央部床面、カ マド覆土 P L50
6	坏 須 恵 器	A (14.1) B 4.2 C 7.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	底部、ナデ。体部下端、手持ちへら削り。	砂粒・長石 灰色 普通	45% P557 西壁際中央部覆 土下層 P L54
7	高台付坏 須 恵 器	A 13.0 B 5.1 D 7.2 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は軽く外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	90% P559 東壁際中央部床 面正位 P L56
8	高台付坏 須 恵 器	A (13.2) B 4.8 D 8.0 G 1.0	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は軽く外反しながら立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	60% P560 南部床面正位
9	高台付坏 須 恵 器	A 12.6 B 5.2 D 7.4 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、上位で軽く外反する。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	80% P558 北東部覆土中層 斜位 P L56
10	蓋 須 恵 器	B〔2.6〕 F 2.9 H 1.2	天井部片。腰高で、中央がわずかに盛り上がるつまみが付く。	天井部、回転へら削り。	砂粒 灰色 普通	10% P564 北東部覆土

図版番号	種 類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
11	土製紡錘車	5.6×〔3.3〕×1.9	29.8	半欠品。孔径不明。南東部覆土出土。 D P 8

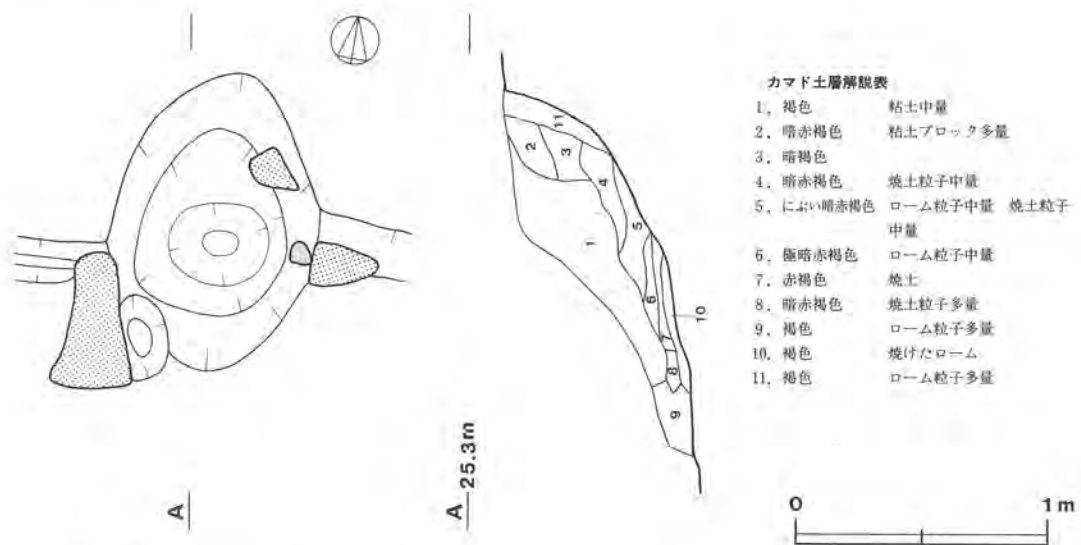
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
12	鉄	全長〔8.6〕 鎌身長2.5 鎌身幅2.3 最大厚0.3	北東部床面直上出土。 P L63 M59
13	鉄	全長〔12.8〕 最大幅0.5 最大厚0.4	茎に木質付着。中央部床面出土。 M57

第63号住居跡 (第157図)

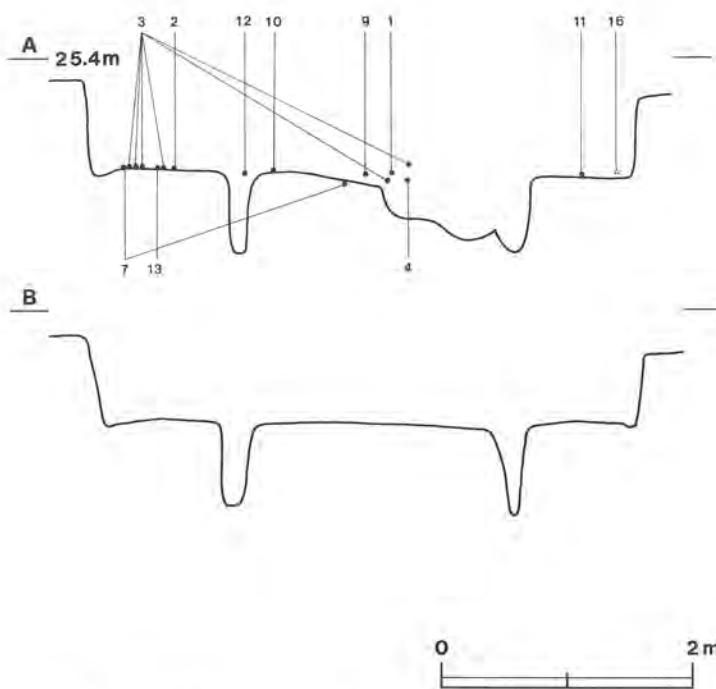
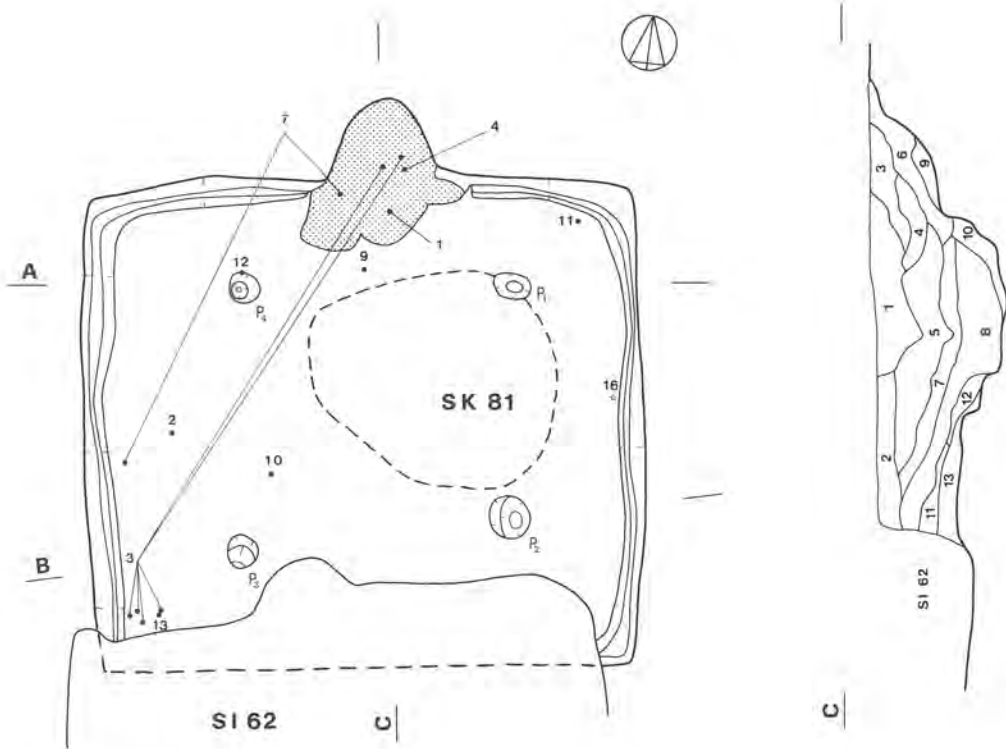
位置 H3d9区。重複関係 SI-62より古く、SK-81より新しい。平面形 長方形。規模 4.46×3.83m。主軸方向 N-9°-W。壁 直立。壁高54~70cm。壁溝 全周。上幅8~25cm。深さ2~5cm。床 平坦。中央部から北東寄りに、上端径2.0×1.7m、深さ50cm程の落ち込みを検出。ピット 4か所。P<sub>1</sub>(30×20, -60cm) P<sub>2</sub>(33×30, -76cm) P<sub>3</sub>(28×25, -66cm) P<sub>4</sub>(25×25, -73cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は主柱穴。カマド 北壁中央。粘土で構築。全長125cm、幅120cm、煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は、床面とほぼ同じ高さで使用されている。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 高台付坏, 甌) 918点。須恵器片(甕, 坏, 盤, 蓋) 132点。鉄製品(鏃) 1点。大半が小破片で、覆土からの出土である。第158図3の甕は、南西コーナー付近とカマドの覆土から出土した破片が接合している。須恵器坏はいずれも北側の床面や床面直上から出土している。

備考 北東寄りの大きな落ち込みは、より古い時期の土抗(SK-81)の上の貼床部分が陥没したものである。



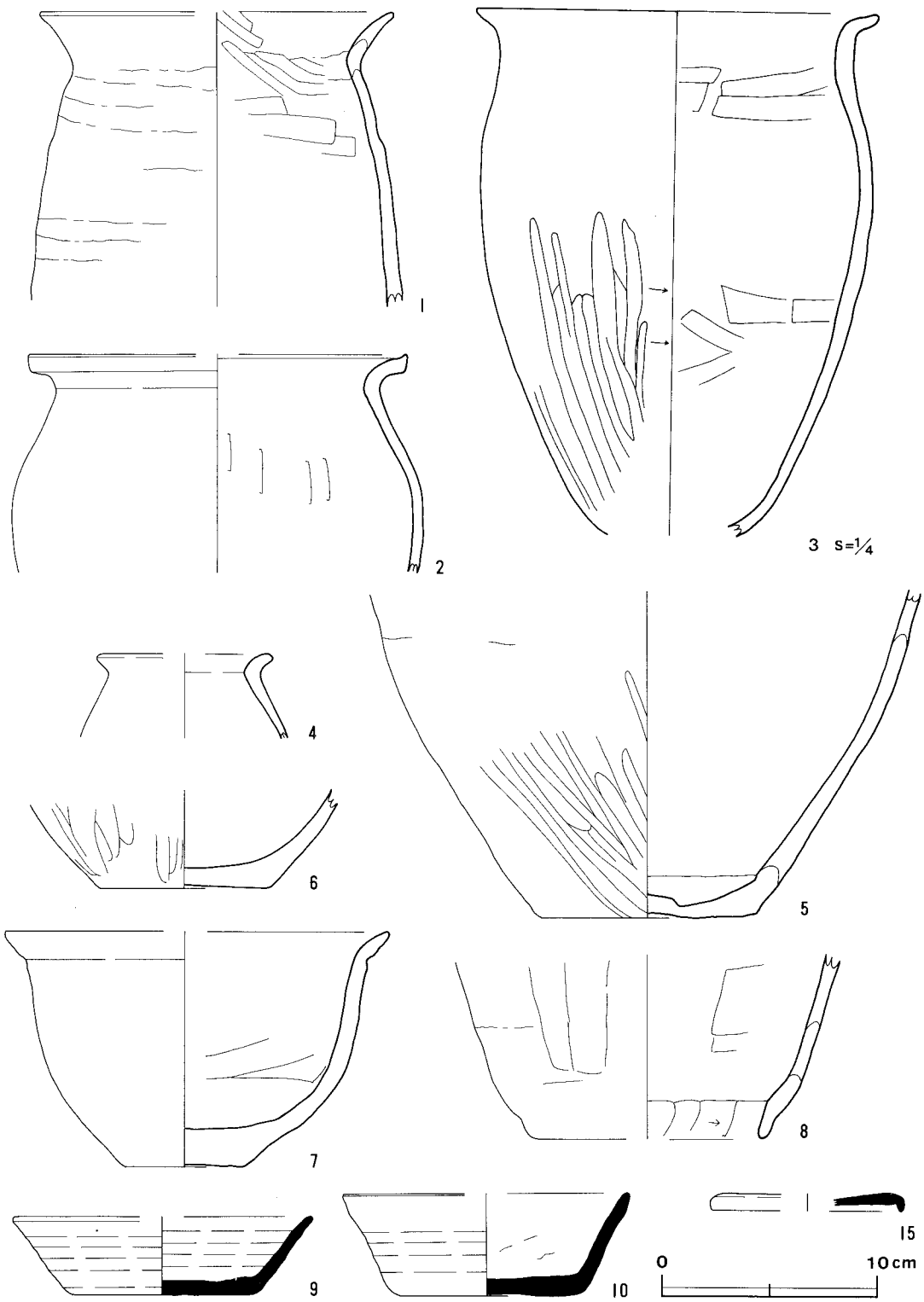
第156図 第63号住居跡カマド実測図



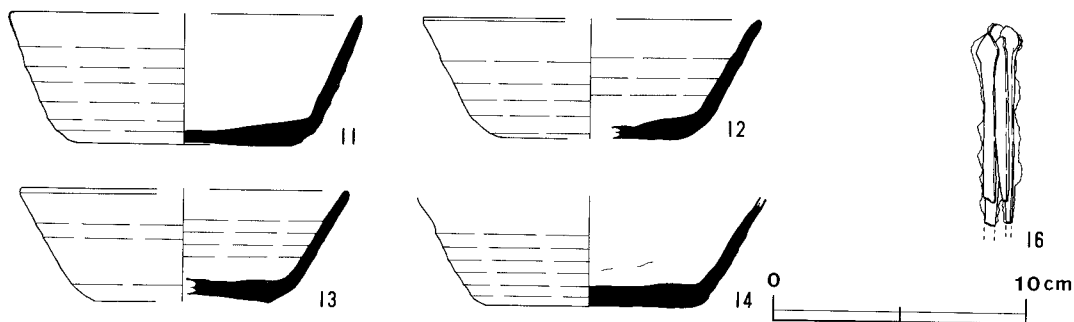
土層解表

- |         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 1. 暗褐色  | 粘性・しまり弱い                      |
| 2. 暗褐色  | 粘性・しまり弱い                      |
| 3. 暗褐色  | ローム粒子中量 粘性弱い                  |
| 4. 暗褐色  | 粘性弱い                          |
| 5. 暗褐色  | ローム粒子多量 粘性・しまり弱い              |
| 6. 褐色   | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 粘土中量       |
| 7. 暗褐色  | ローム粒子多量 暗褐色土小ブロック中量 粘性・しまり弱い  |
| 8. 褐色   | ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック多量 粘性弱い    |
| 9. 褐色   | ローム粒子中量 粘土多量                  |
| 10. 褐色  | ローム粒子中量 ローム小ブロック中量 粘土多量 しまり弱い |
| 11. 褐色  | ローム粒子多量 粘性弱い                  |
| 12. 暗褐色 | ローム粒子中量 粘性・しまり弱い              |
| 13. 褐色  | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量            |

第157図 第63号住居跡実測図



第158図 第63号住居跡出土遺物実測図(1)



第159図 第63号住居跡出土遺物実測図(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	甕 土師器	A (16.6) B (13.8)	胴部はわずかに内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に外反し、口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。輪積み痕を残す。	砂粒 黒褐色 普通	10% P568 カマド付近覆土 下層 P L46
2	甕 土師器	A (17.8) B (10.2) E (19.2)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみあげられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	10% P570 西部床面
3	甕 土師器	A 24.6 B (33.0) E (24.2)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて外反して開き、口唇部はやや尖る。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面上位、ナデ。中位以下、横位のヘラ削り後、縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	70% P566 カマド覆土、南 西コーナー付近 床面・覆土 P L47
4	小型甕 土師器	A ( 8.2) B ( 4.0)	胴部(上位)は内傾して立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部、胴部内外面、ナデ(磨滅)。	砂粒・スコリア 橙色 普通	20% P573 カマド覆土
5	甕 土師器	B (15.2) C 10.1	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦・斜位のヘラ磨き。底部、木葉痕。	砂粒・石英・長石 にふい赤褐色 普通	20% P571 カマド覆土
6	甕 土師器	B ( 4.6) C 8.0	平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	胴部内面、ナデ。外面、縦位のヘラ磨き。底部、木葉痕。	砂粒・石英 にふい赤褐色 普通	5% P572 南東部覆土
7	鉢 土師器	A (17.9) B 11.0 C 5.6	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に屈曲して外上方へ開く。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。底部、ナデ。	砂粒・石英 にふい橙色 普通	70% P567 カマド覆土、西 部床面 P L48
8	瓶 土師器	B ( 8.6) C (10.6)	無底式か。	胴部内面、ナデ。内面下端、横位のヘラ削り。外面、ナデ。輪積み痕を部分的に残す。	砂粒・石英 橙色 普通	5% P574 南東部覆土

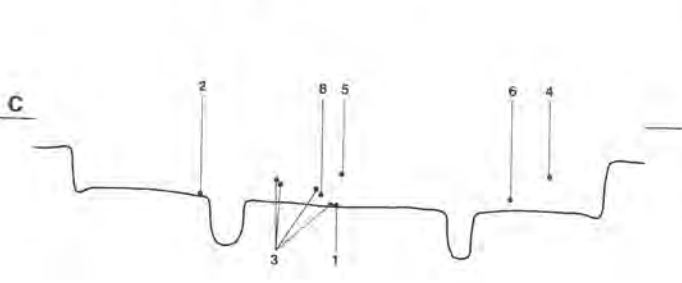
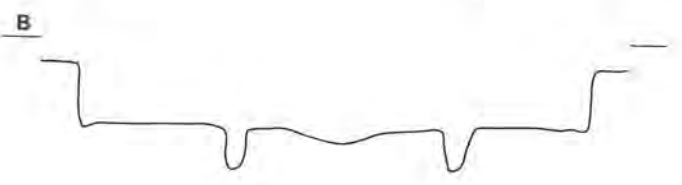
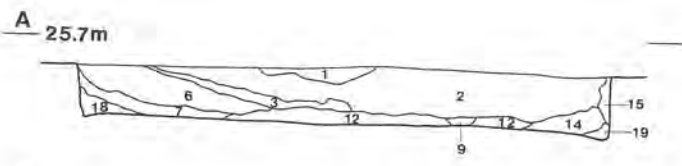
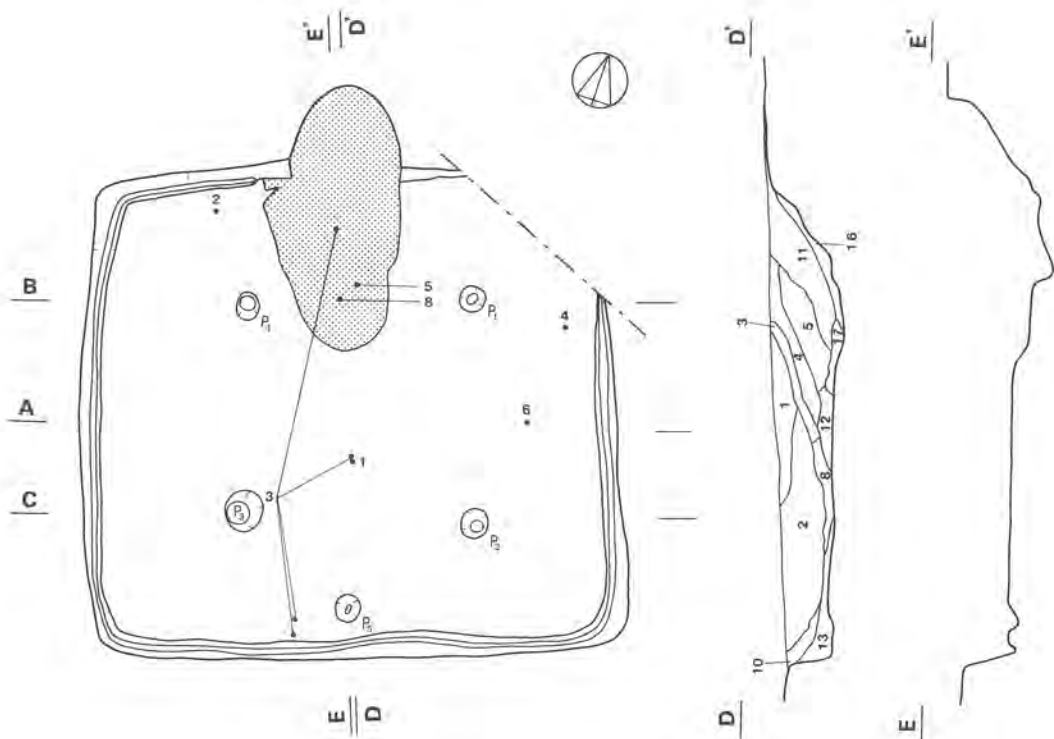


図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第158図 9	坏 須惠器	A (13.8) B 3.7 C (8.0)	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	40% P579 カマド付近床面 直上 P L54
10	坏 須惠器	A (13.4) B 4.8 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、上位でわずかに外反する。口唇部は丸い。	底部回転ヘラ切り後、ナデ。体部内面に、粘土の接合部とみられる痕跡が残る。	砂粒・長石 灰色 普通	80% P575 中央部床面正位 P L54
第159図 11	坏 須惠器	A (13.9) B 5.2 C (9.3)	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。口唇部はやや尖る。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	30% P577 北東部床面正位 P L54
12	坏 須惠器	A (13.2) B 4.8 C (6.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもつ。口唇部はやや尖る。	底部、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	40% P576 北西部床面 P L54
13	坏 須惠器	A (12.9) B 4.5 C (6.9)	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、底部との間に面を成す。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、多方向のナデ。体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒 青灰色 普通	40% P L54 P578 カマド付近覆土、 南西コーナ ー付近床面
14	坏 須惠器	B (4.4) C (8.3)	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部との境は丸味をもつ。	底部、多方向のヘラ削り。体部内面に粘土の接合部とみられる痕跡が残る。	砂粒 灰色 普通	25% P580 カマド覆土 P L54
第158図 15	蓋 須惠器	A (9.2) B 0.8	天井部は平坦で、中央がわずかに凹む。口縁部は短く垂下する。つまみ欠損。	外面に自然釉がかかる。	砂粒 灰色 普通	30% P581 北西部覆土
図版番号	種 類	法 量 (cm)		備 考		
第159図 16	鐵	全長 (8.0)	最大幅1.5 最大厚1.0	4本の鉄線が束になっている。東壁際覆土下層。 P L63 M61		

### 第65号住居跡 (第160図)

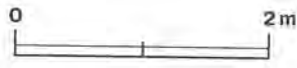
**位置** G3j0区。**平面形** 方形。**規模** 4.25×3.98m。**主軸方向** N-22°-W。**壁** 直立。壁高35~47cm。**壁溝** 全周。上幅14~20cm、深さ3~8cm。**床** ゆるい起伏。**ピット** 5ヶ所。P<sub>1</sub>(20×20, -36cm) P<sub>2</sub>(24×21, -40cm) P<sub>3</sub>(34×28, -37cm) P<sub>4</sub>(23×18, -36cm) P<sub>5</sub>(24×20, -10cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長212cm、幅145cm、煙道部の壁面への掘り込みは約60cm。火床は、床面より25cm程深く掘り窪め、粘土等を含む土で埋め戻してその上面を使用している。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏) 392点。須惠器片(甕, 坏, 高台付坏, 盤) 43点。第162図6の坏を除いてほとんどが小破片で、覆土から出土している。

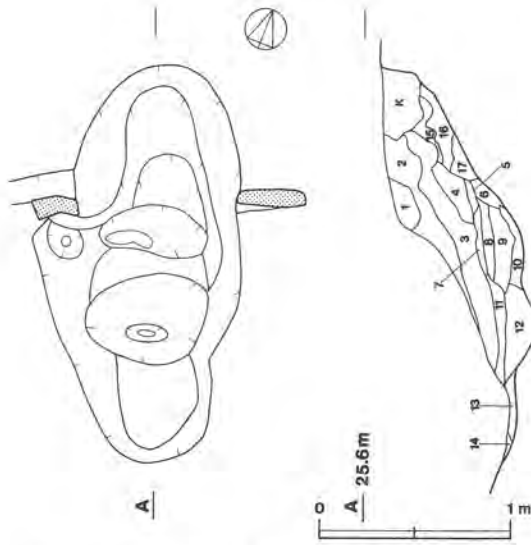


土層解説表

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| 1. 褐色   | ローム粒子多量                               |
| 2. 暗褐色  | ローム粒子多量                               |
| 3. 暗褐色  | ローム粒子多量 炭化物中量<br>焼土粒子中量 焼土小ア<br>ロック中量 |
| 4. 暗褐色  | ローム粒子多量                               |
| 5. 暗褐色  | ローム粒子多量 ローム小<br>アロック中量 しまり弱い          |
| 6. 暗褐色  | ローム粒子多量                               |
| 7. 黒褐色  |                                       |
| 8. 暗褐色  | ローム粒子中量                               |
| 9. 暗褐色  | ローム粒子中量                               |
| 10. 黒褐色 |                                       |
| 11. 暗褐色 | ローム粒子多量                               |
| 12. 黒褐色 | ローム粒子中量 ローム小<br>アロック中量                |
| 13. 暗褐色 | ローム粒子中量 しまり弱い                         |
| 14. 黒褐色 | ローム粒子中量 しまり弱い                         |
| 15. 褐色  | ローム粒子極めて多量 しま<br>り弱い                  |
| 16. 褐色  | ローム粒子中量 粘土多量                          |
| 17. 褐色  | ローム粒子中量 粘土多量                          |
| 18. 暗褐色 | ローム粒子中量 しまり弱い                         |
| 19. 褐色  | ローム粒子多量 しまり弱い                         |



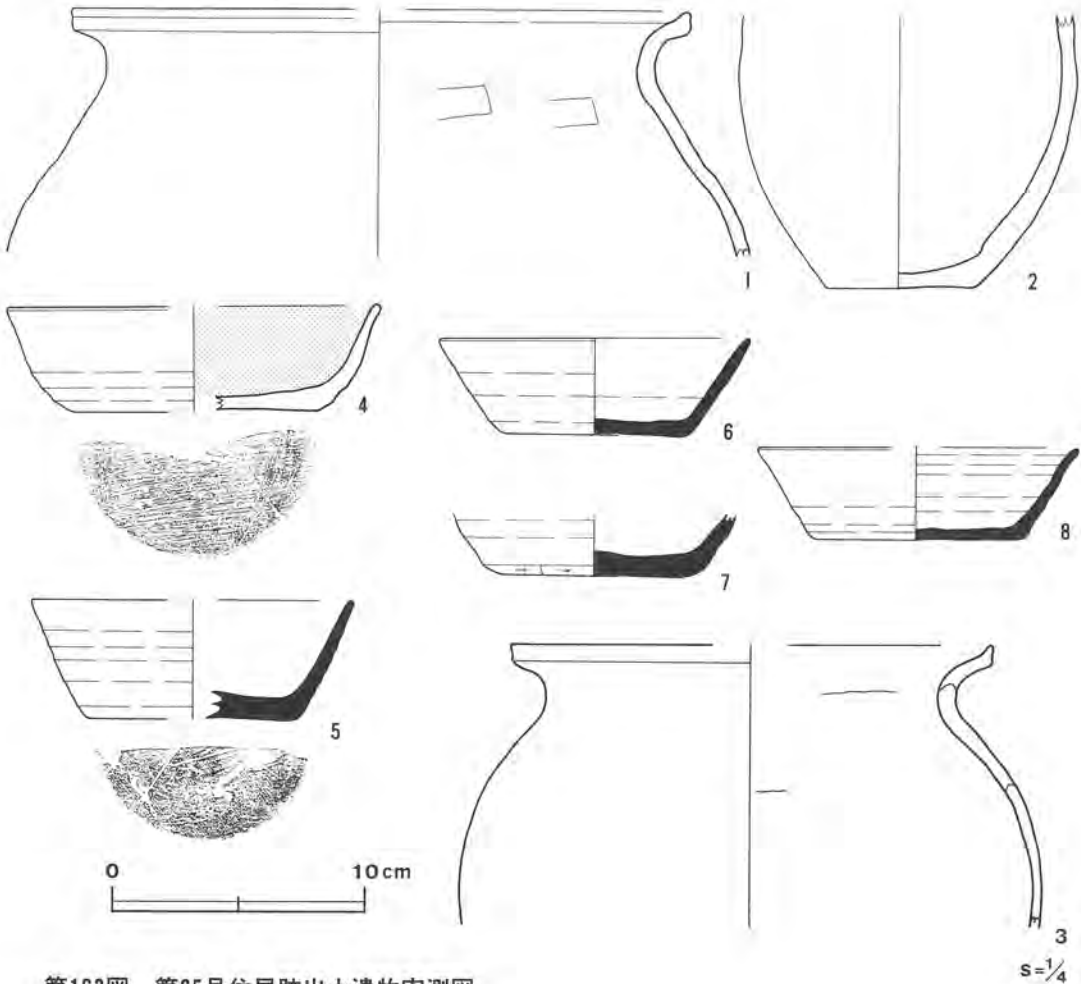
第160図 第65号住居跡実測図



カマド土層解説表

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| 1. 褐色      | ローム粒子多量                  |
| 2. にがい黄褐色  | 粘土極めて多量                  |
| 3. にがい黄褐色  | 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量 粘土極めて多量 |
| 4. 褐色      | ローム粒子中量 粘土多量             |
| 5. 黒褐色     | 焼土粒子中量                   |
| 6. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量         |
| 7. 赤褐色     | 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 粘土中量    |
| 8. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量 焼土小ブロック多量         |
| 9. 明赤褐色    | 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック極めて多量   |
| 10. 暗褐色    | 焼土粒子中量                   |
| 11. にがい赤褐色 | ローム粒子中量 ローム小ブロック中量 粘土中量  |
| 12. にがい赤褐色 | 焼土粒子多量 焼土小ブロック多量 粘土多量    |
| 13. 明褐色    |                          |
| 14. 灰褐色    | 焼土粒子中量 粘土多量 粘性強い         |
| 15. 赤褐色    | 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量 粘土中量    |
| 16. 黒褐色    |                          |
| 17. 極暗赤褐色  | 焼土粒子中量 焼土小ブロック中量         |

第161図 第65号住居跡カマド実測図



第162図 第65号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	甕 土師器	A (24.2) B ( 9.8)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内面、横ナデ。胴部内面へラナデ。外面、剝離のため調整不明。	砂粒・雲母・石英 灰褐色 普通	15% P585 中央部床面直上
2	小型甕 土師器	B (10.9) C 5.8	平底。胴部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	底部、木葉痕。内外面とも剝離が著しく、調整不明。	砂粒・石英 にふい赤褐色 普通	20% P584 カマド付近床面直上 P L46
3	甕 土師器	A (25.2) B (15.2) E (30.6)	胴部は丸く張る。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	内面に若干の輪積み痕を残す。口頸部内・外面、横ナデ。胴部ナデか。	砂粒 にふい橙色 普通	30% P583 カマド付近・南部覆土中・下層
4	坏 土師器	A (14.8) B 4.3 C ( 9.7)	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、上位で軽く外反する。	ロクロ整形。内面、へラ磨き、黒色処理。底部、ほぼ一定方向のへラ磨き。	砂粒 浅黄橙色 普通	40% P587 北東部覆土中層 P L49
5	坏 須恵器	A (12.8) B 4.8 C ( 8.2)	平底。体部は器厚を減じながら、外傾して立ち上がる。底部との境はやや丸味をもつ。	底部、回転へラ切り後、多方向のナデ。	砂粒 灰色 普通	40% P589 カマド付近覆土中層 へラ記号P L54
6	坏 須恵器	A 12.3 B 3.9 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転へラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	95% P588 東部覆土下層 P L54
7	坏 須恵器	B ( 2.4) C ( 7.3)	平底。体部下位に鈍い稜をもち、底部との間に幅の狭い面を成す。	底部、一定方向のへラ削り。体部下端、手持ちへラ削り。	砂粒 灰黄色 普通	10% P591 南西部覆土
8	坏 須恵器	A (12.6) B 3.6 C ( 8.1)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部、回転へラ切り後、ナデか。	砂粒 灰色 普通	20% P590 カマド付近覆土下層

第66号住居跡 (第164図)

**位置** G3j<sub>8</sub>区。**重複関係** SI-70より新しく、SI-90より古い。**平面形** 長方形。**規模** 5.07×4.57m。**主軸方向** N-24°-W。**壁** 直立。壁高45~58cm。**壁溝** 東壁際の一部を除き周回。上幅10~24cm、深さ5~8cm。**床** 平坦。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>(30×22, -35cm) P<sub>2</sub>(26×25, -58cm) P<sub>3</sub>(25×22, -66cm) P<sub>4</sub>(21×19, -42cm) P<sub>5</sub>(24×22, -35cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長〔110〕cm、幅115cm、煙道部の壁面への掘り込みは55cm以上。火床は、床面より15cm程深く掘り窪め、粘土を含む土で整地して、その上面を使用している。**覆土** 人為堆積。

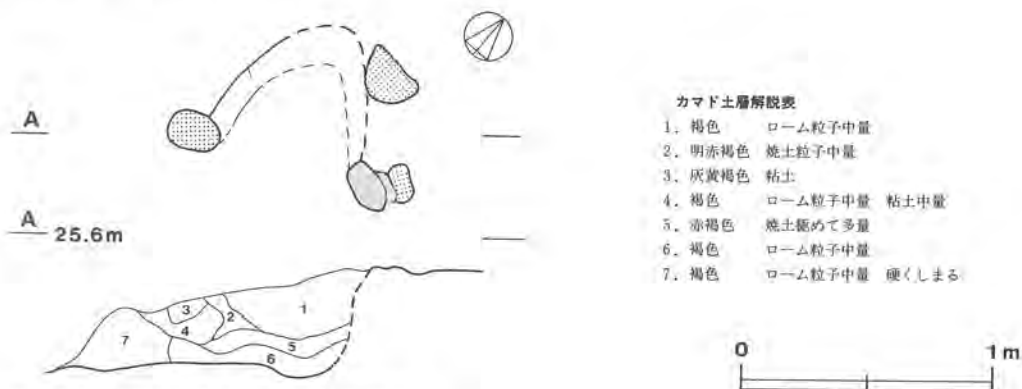
**遺物** 土師器片(甕, 坏)483点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 蓋)49点。砥石3点。鉄製品(刀子)1点。鉄滓1点。第166図5の高台付坏はほぼ完形に近いもので、南部の覆土下層から出土している。その他は大半が小破片で、覆土から出土している。

第90号住居跡 (第164図)

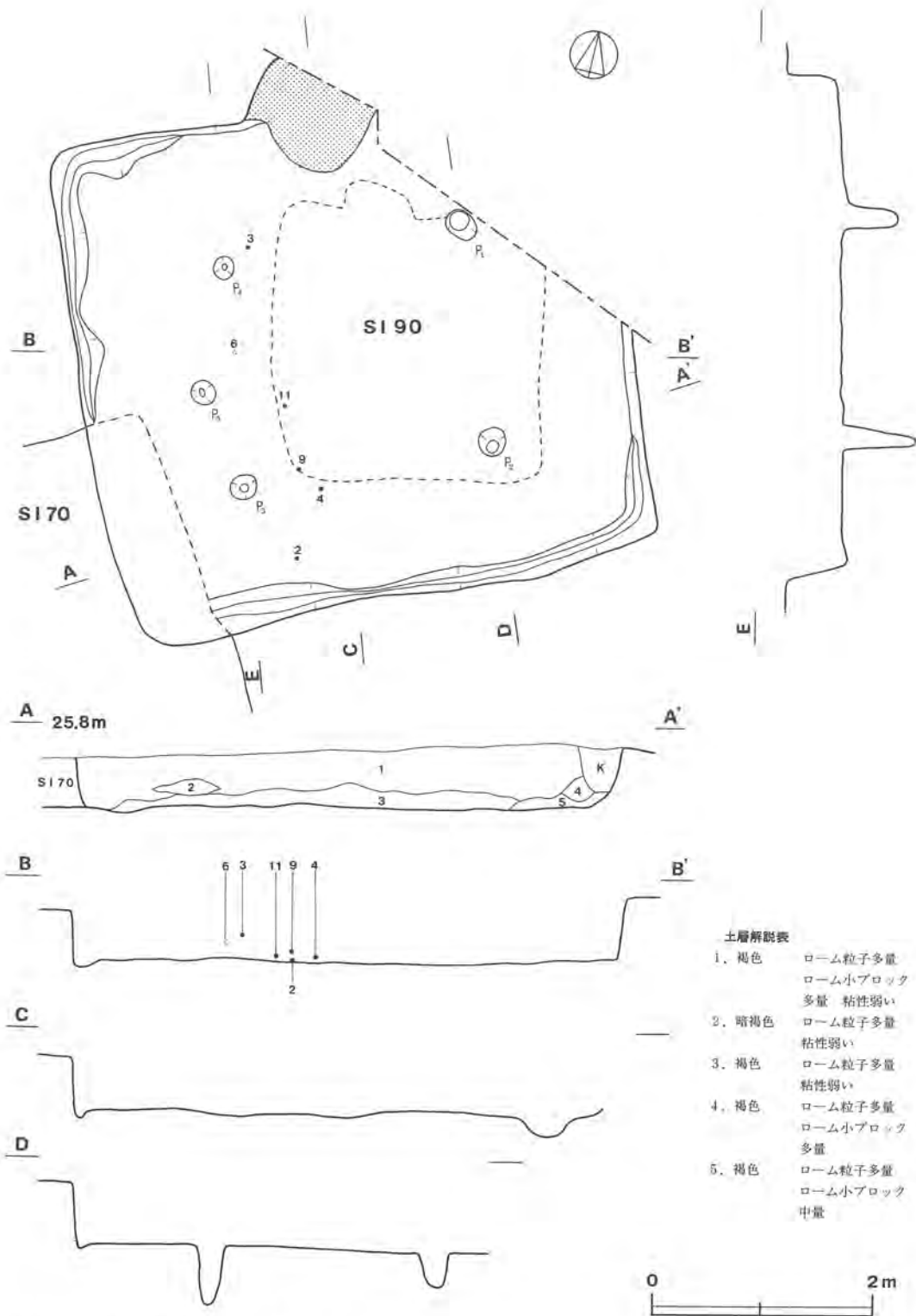
**位置** G3j<sub>8</sub>区。**重複関係** SI-66より新しい。**平面形** 方形。**規模** 2.52×2.46m。**主軸方向** N-11°-W。**壁** 不明。確認面からの深さは50cm前後。**壁溝** 無。**床** ゆるい起伏。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長70cm、幅100cm、煙道部の壁面への掘り込みは約30cm。火床は、床面とほぼ同じ高さで使用されている。燃焼部左奥に凝灰岩製の支脚が置かれていた。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏)472点。須恵器片(甕, 坏, 蓋, 壺)50点。小破片が多く、いずれも覆土から出土している。

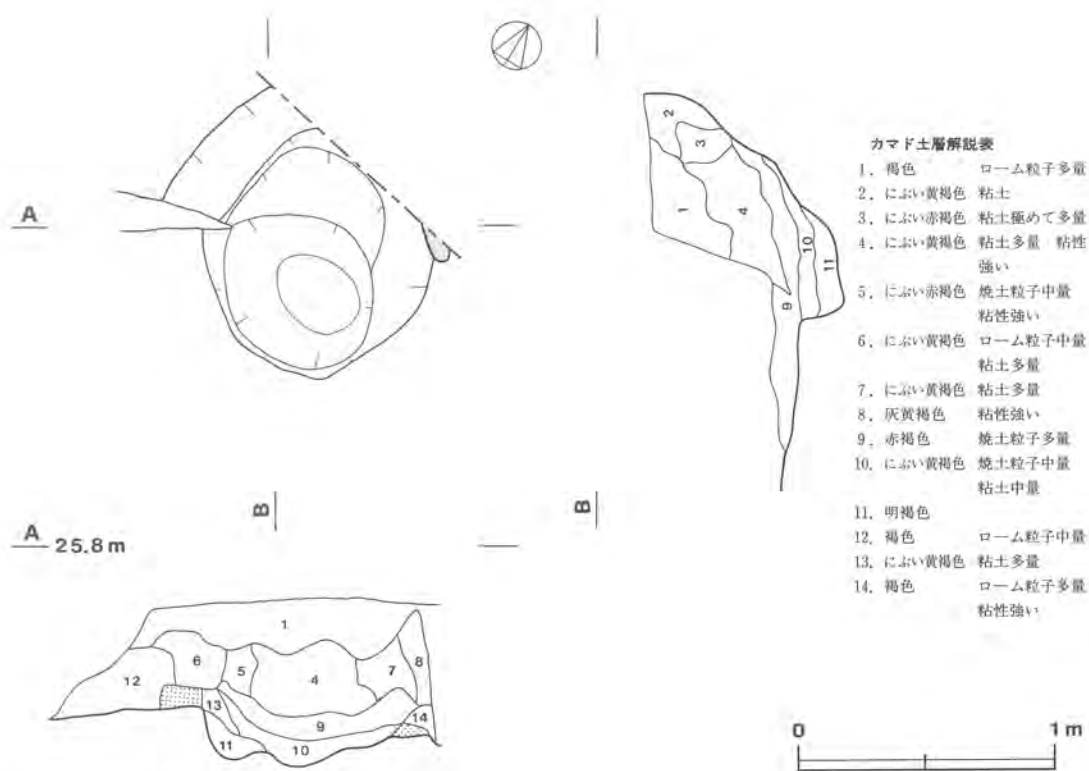
**備考** SI-66内に検出された小型の住居跡。カマドと床面の状態の違い(SI-90の床は、黒っぽく、SI-66より起伏が大きい)から、別個の遺構として取り扱う。平面形や規模などは床面の検出された範囲をもとに推定した。



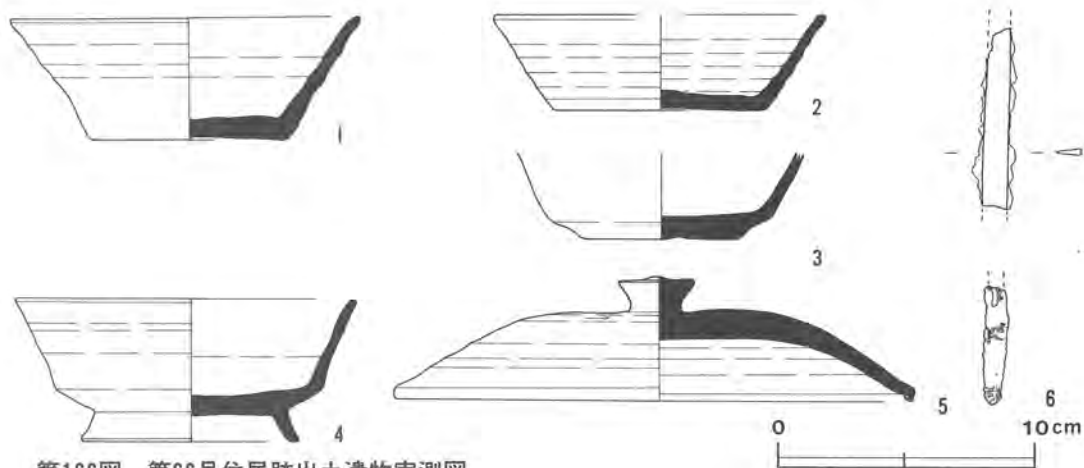
第163図 第90号住居跡カマド実側図



第164図 第66・90号住居跡実測図



第165図 第66号住居跡カマド実測図



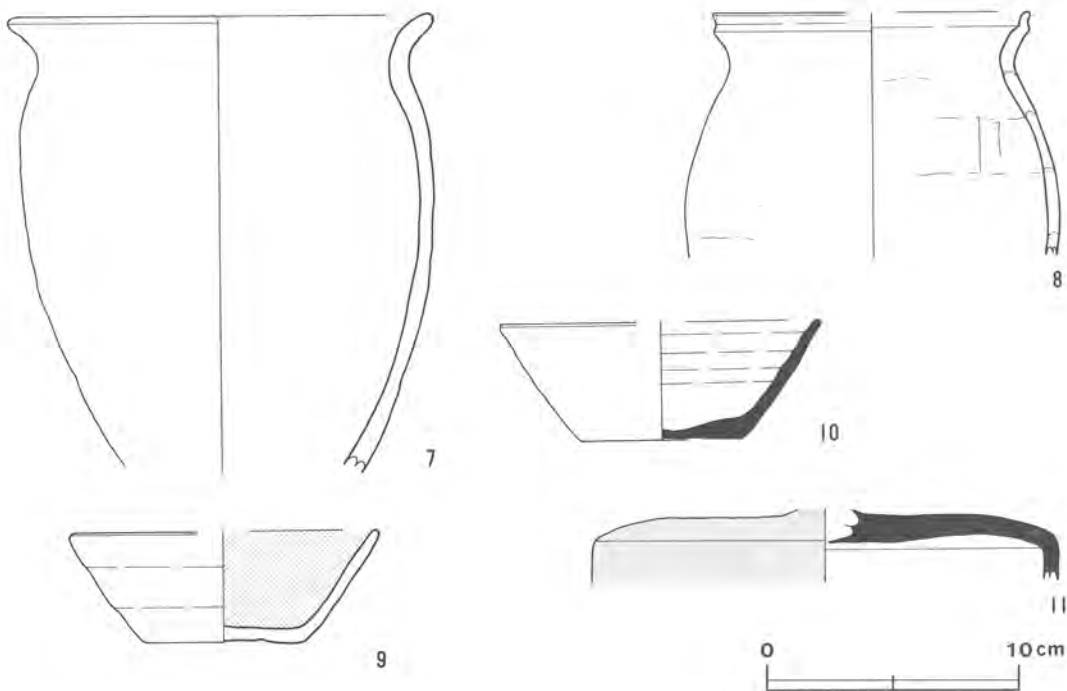
第166図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第166図 1	坏 須 恵 器	A 13.8 B 4.9 C 7.8	平底。体部は外反気味に外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	70% P593 カマド覆土 P L54

図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第166図 2	坏 須 恵 器	A (13.0) B 3.8 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	50% P594 南西部床面直上 逆位 P L54
3	坏 須 恵 器	B (3.4) C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、底部との間に凹面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	50% P595 カマド付近覆土 中層
4	高台付坏 須 恵 器	A 13.6 B 5.7 D 8.8 G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 浅黄色 不良	95% P596 南部覆土下層正 位 P L56
5	蓋 須 恵 器	A 20.6 B 5.0 F 2.9 H 1.3	天井部はなだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。腰高で中央がわずかに垂下するつまみが付く。	天井部、径13cmにわたって回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	90% P597 カマド覆土 P L57

図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考
6	刀 子	全長(12.0) 最大幅1.1 最大厚0.2	刀身、及び茎の破片。茎に木質附着。中央部覆土下層。 P L64・M62



第167号 第90号住居跡出土遺物実測図



### 第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 7	小型甕 土師器	A 16.9 B〔18.1〕	胴部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内面、横ナデ。その他、ナデ。	砂粒・礫(多)・雲母 にふい赤褐色 普通	80% P679 カマド付近覆土 下層 PL47
8	小型甕 土師器	A (12.6) B〔9.7〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に緩く外反し、口縁部は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。内外面に若干の輪積み痕を残す。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	10% P592 カマド覆土
9	坏 土師器	A (12.2) B 4.4 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 にふい黄褐色 不良	40% P681 南西部覆土下層
10	坏 須恵器	A (12.6) B 4.7 C (6.4)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	10% P683 北東部覆土
11	蓋 須恵器	A (18.5) B〔2.9〕	天井部は平坦。外周部でなだらかに下降し、屈曲して、口縁部は垂下する。つまみ欠損。	外面に自然釉がみられる。	砂粒 暗オリーブ色 良好	20% P682 南西コーナー付 近床面直上

### 第67号住居跡（第168図）

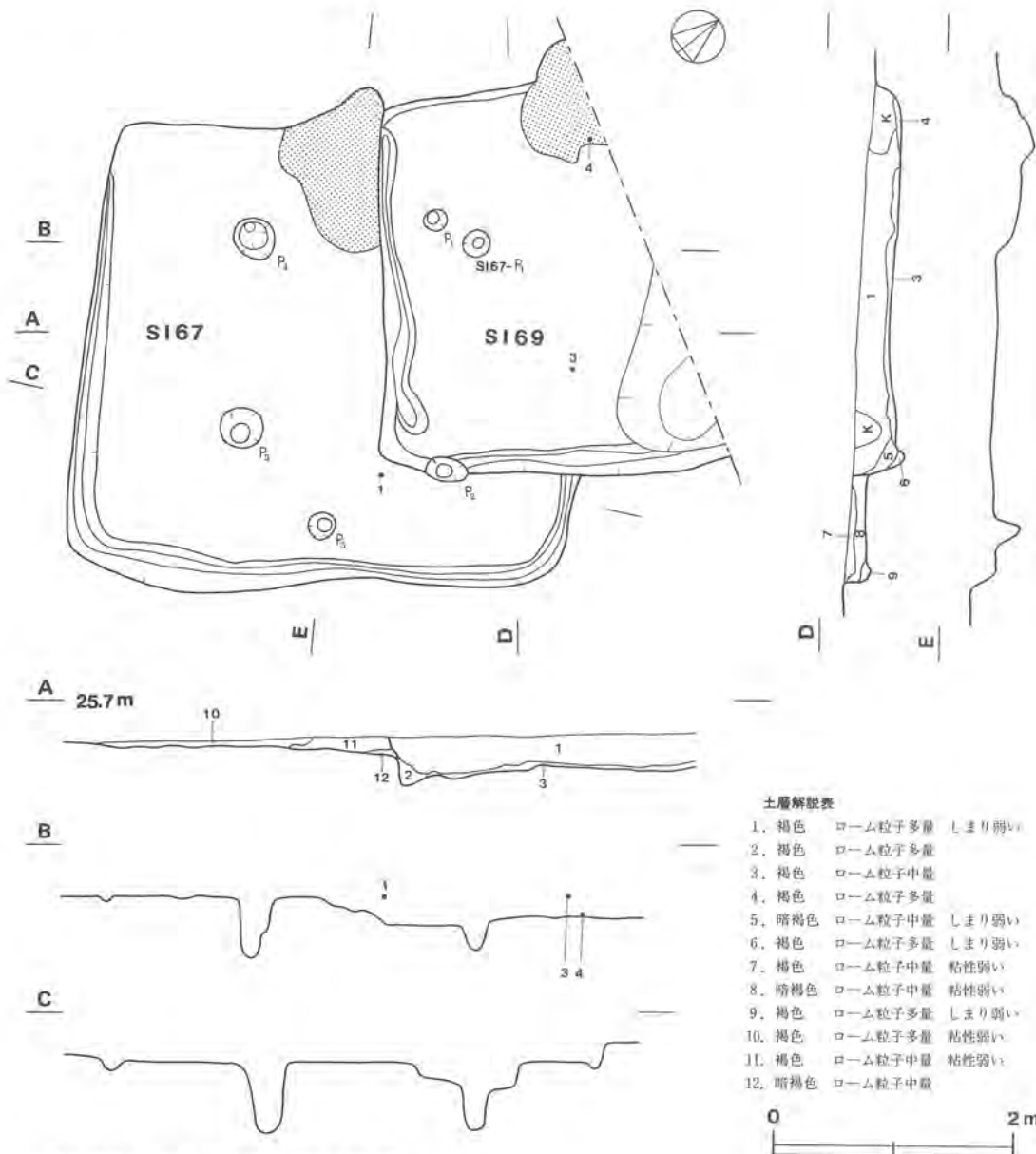
位置 G3j6区。重複関係 SI-69より古い。平面形 方形。規模 4.20×3.91m。主軸方向 N-44°-W。壁 直立。壁高0~20cm。壁溝 全周。上幅11~22cm、深さ6cm前後。床 平坦。ピット 5か所。P<sub>1</sub> (32×20, -45cm) P<sub>2</sub> (35×20, -58cm) P<sub>3</sub> (32×32, -62cm) P<sub>4</sub> (36×32, -49cm) P<sub>5</sub> (23×23, -25cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が主柱穴。カマド 北西壁中央。全長137cm、幅〔87〕cm、煙道部の壁面への掘り込みは約45cm。火床から焚き口付近を床面より25cm程深く掘り窪め、ロームブロックを多量に含む土で整地して、その上面を火床としている。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕，坏，平鉢）84点。須恵器片（甕，坏，壺）13点。自然釉のかかった須恵器短頸壺の半完形品（第170図1）が、南東部の床面から伏せた状態で出土している。その他はいずれも小破片で、床面及び覆土から出土している。

備考 西側は遺構確認の段階ですでに床面まで削平されており、カマドも火床部付近が検出されただけである。ここでは、短頸壺の出土が特筆される。

第69号住居跡 (第168図)

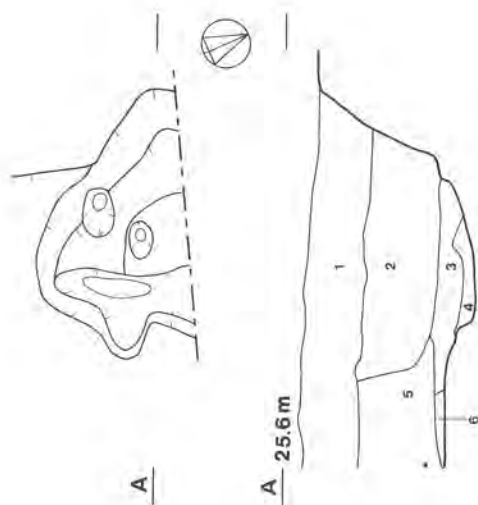
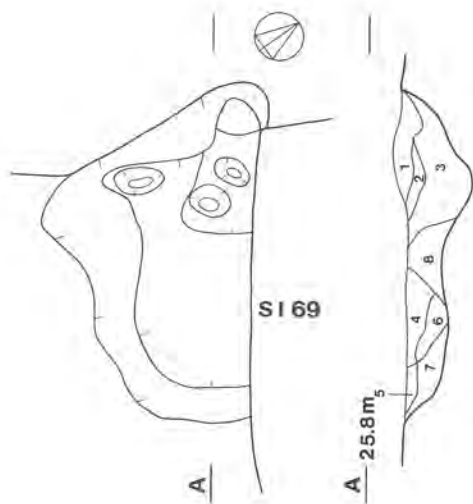
位置 G3i6区。重複関係 SI-67より新しい。平面形 方形。規模 3.25×(2.86)m。主軸方向 N-54°-W。壁 直立。壁高23~33cm。壁溝 南西・南東壁際に検出。上幅8~24cm, 深さ3~5cm。床 凹凸。東部に床面から26cmの深さの落ち込み(攪乱)有り。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(19×18, -18cm) カマド 北西壁中央。粘土で構築。凝灰岩を使用(床面に粘土・凝灰岩が散乱)。全長108cm, 幅〔62〕cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約30cm。火床は, 床面より5cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。



第168図 第67・69号住居跡実測図

遺物 土師器片(甕, 坏) 117点。須恵器片(甕, 坏) 17点。陶器片1点。いずれも小破片で床面, 及び覆土からまばらに出土している。

備考 遺構は北東側(調査区域外)へ延びており, 全体を捉えることはできなかった。



第67号住居跡カマド土層解説表

1. 赤褐色 焼土小ブロック中量
2. 明赤褐色 焼土
3. 褐色 炭化粒子中量
4. 褐色 ローム粒子中量 ローム中ブロック多量
5. 褐色 ローム粒子中量
6. 赤褐色 ローム粒子中量
7. 明褐色
8. 褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック中量

第69号住居跡カマド土層解説表

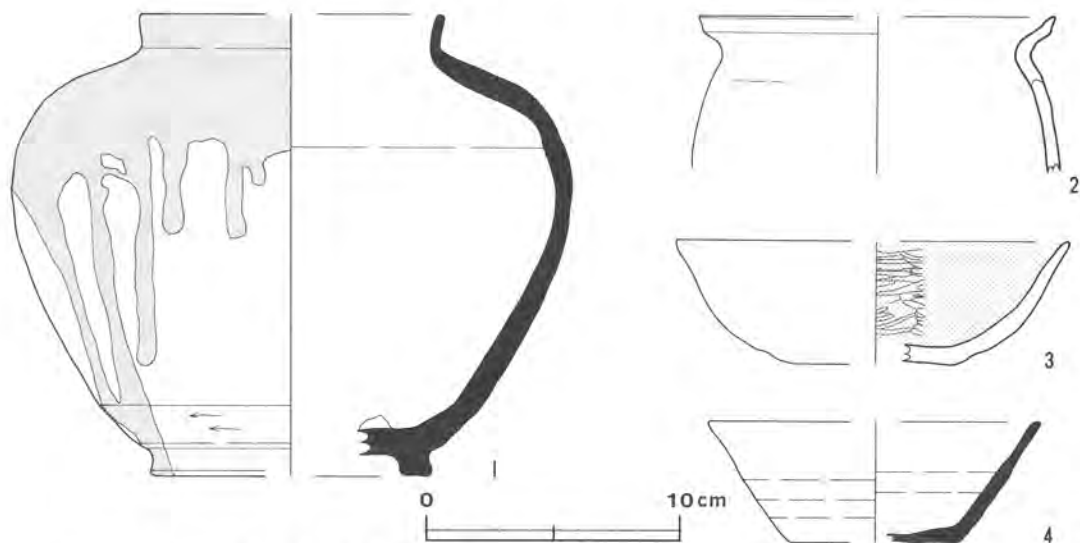
1. 褐色 ローム粒子中量
2. 褐色 ローム粒子多量
3. 暗赤褐色
4. 褐色 焼けたローム小ブロック多量
5. 褐色 ローム粒子多量
6. 褐色 ローム粒子中量

第169図 第67・69号住居跡カマド実測図



第67号出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 J	短頸壺 須恵器	A (12.0) B 18.4 D (11.0) G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。胴部は内彎しながら立ち上がる。上位に最大径をもち、肩部が張る。口縁部はほぼ直立する。	底部, ナテ, 高台貼り付け。胴部外面に自然釉。	砂粒・石英 暗赤灰色 良好	40% P598 東部床面横位 P L51



第170図 第67・69号住居跡出土遺物実測図

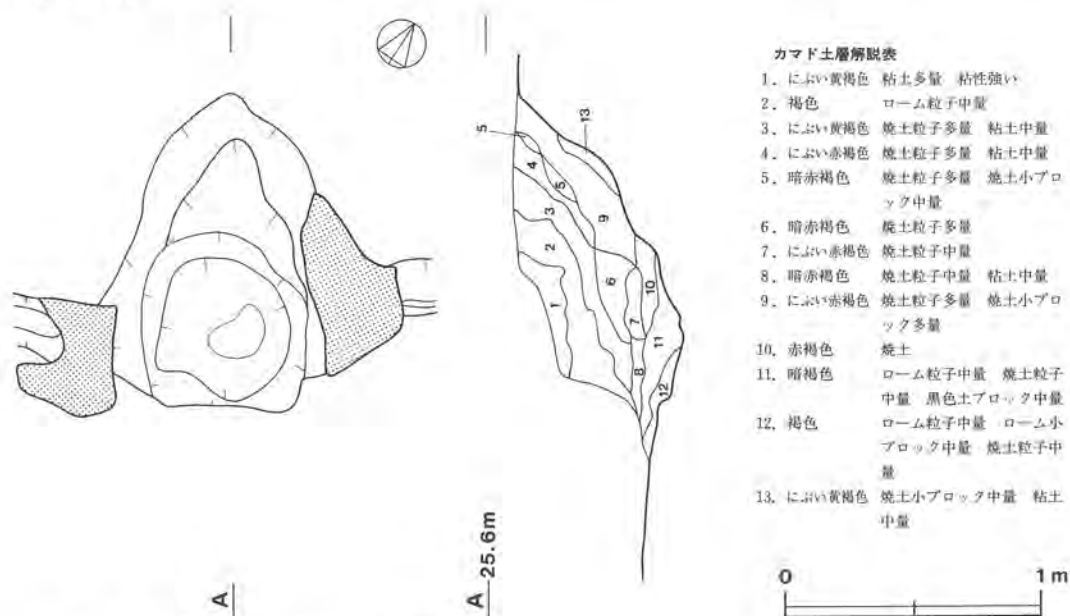
第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 2	小型甕 土師器	A (14.0) B ( 6.2)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味を持って外反する。口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内外面、ナデ。外面に輪積み痕を若干残す。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P599 東部覆土
3	坏 土師器	A (15.4) B 4.9 C ( 6.2)	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、上位でわずかに外反する。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。外面、及び底部、磨減が著しく、調整不明。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	15% P600 東部覆土上層
4	坏 須恵器	A (13.0) B 4.8 C ( 6.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰白色 普通	20% P601 カマド付近床面

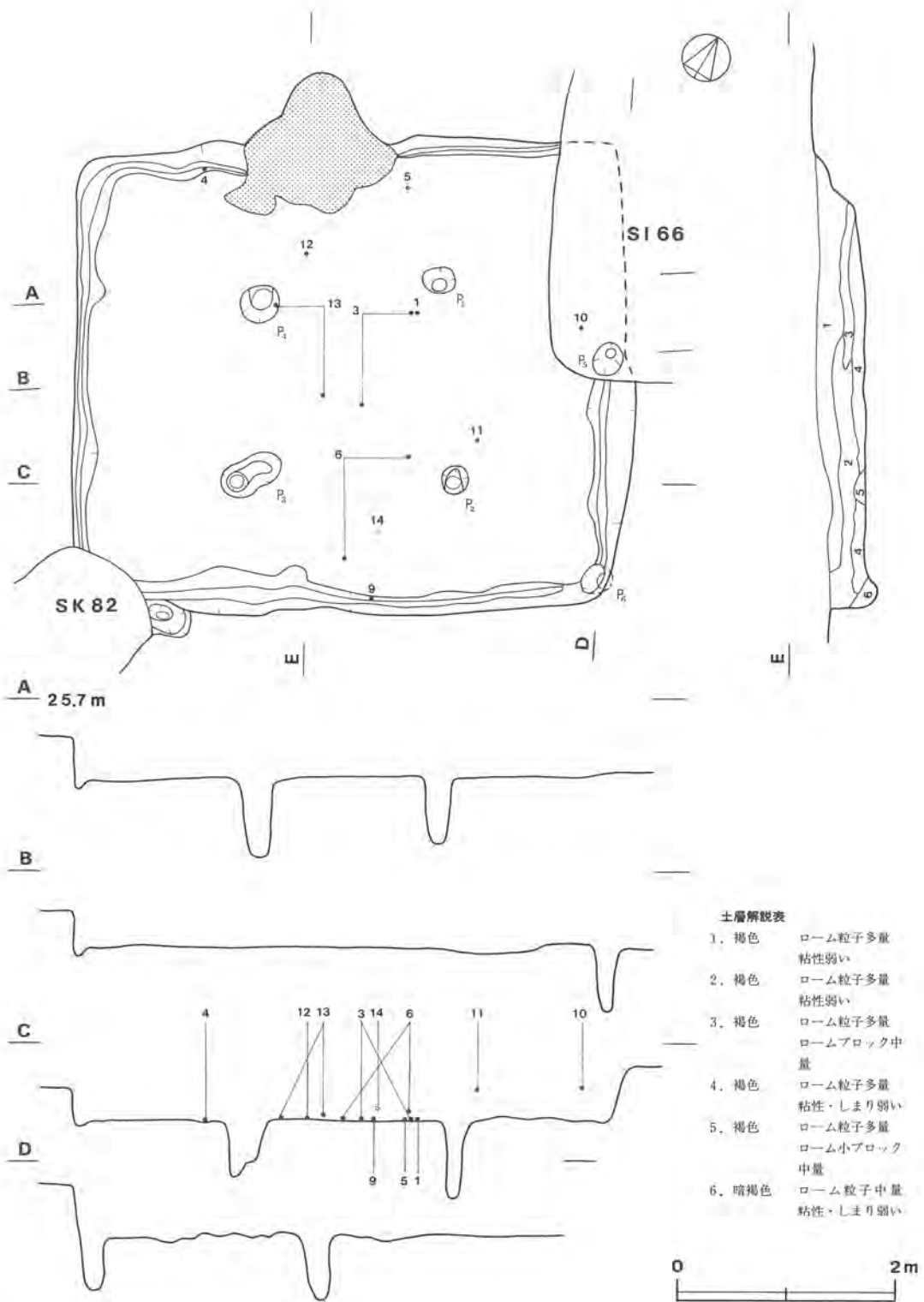
第70号住居跡 (第172図)

位置 H3a7区。重複関係 SI-66より新しい。SK-82 (新旧不明)。平面形 長方形。規模 5.18×4.42m。主軸方向 N-32°-W。壁 直立。壁高30~52cm。壁溝 全周。上幅9~30cm, 深さ3~9cm。床 平坦。ピット 6か所。P<sub>1</sub> (32×24, -63cm) P<sub>2</sub> (28×26, -73cm) P<sub>3</sub> (58×34, -54, -42cm) P<sub>4</sub> (46×37, -75cm) P<sub>5</sub> (32×27, -62cm) P<sub>6</sub> (30×18, -49cm) P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が支柱穴。P<sub>3</sub>は二段掘り込み。P<sub>6</sub>は若干内傾。P<sub>5</sub>・P<sub>6</sub>も本跡に伴う柱穴と思われるが、西壁際には対応するピットが検出されない。カマド 北壁中央。粘土で構築。全長125cm, 幅155cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約75cm。火床は、床面より15cm程深く掘り窪められている。覆土 自然堆積。

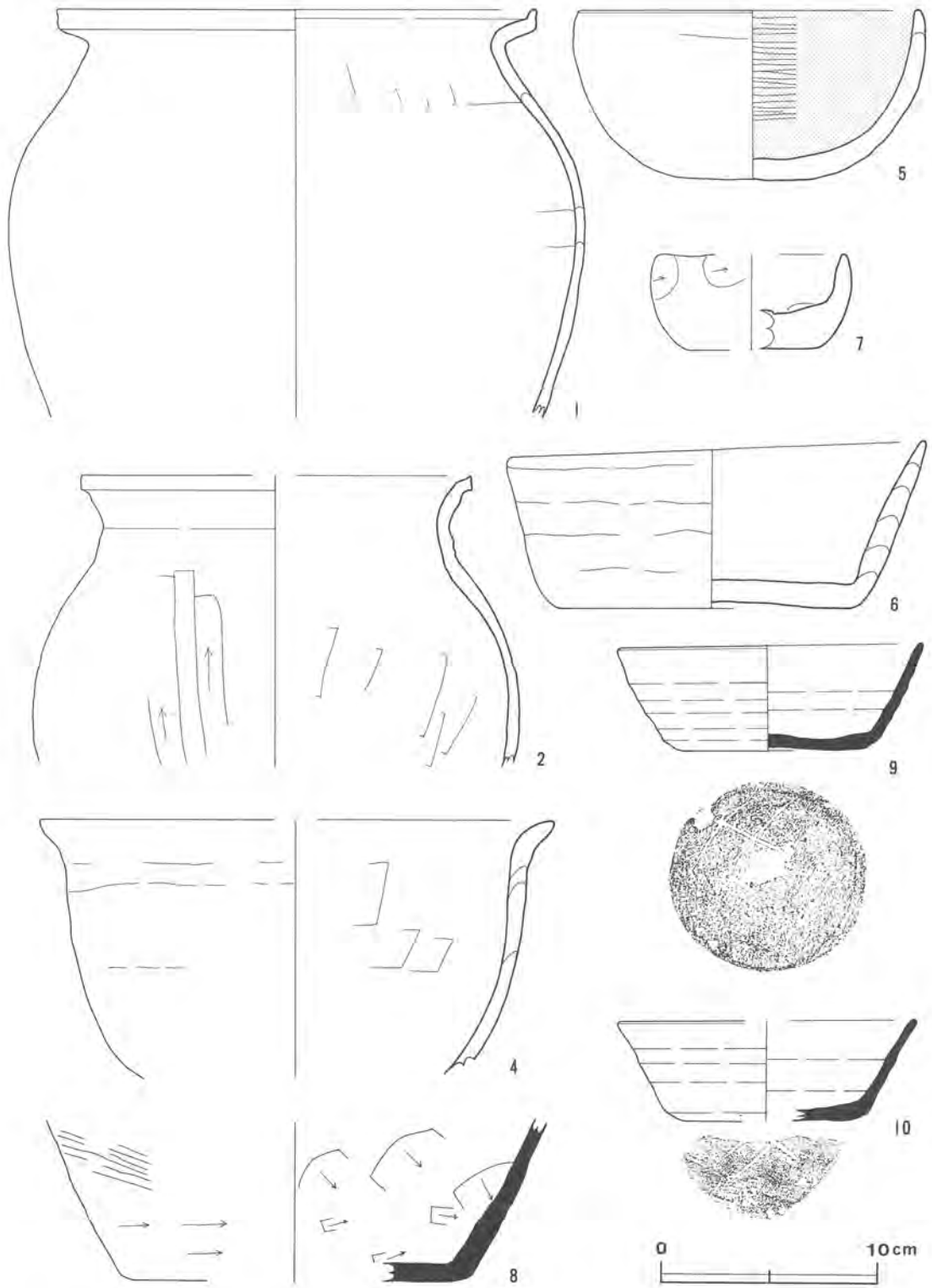
遺物 土師器片 (甕, 坏, 鉢, 平鉢) 881点。須恵器片 (甕, 坏, 高台付坏, 蓋, 壺, 盤) 154点。手捏土器1点。鉄製品 (鏃) 1点。鉄滓1点。第173図5の鉢は内黒で、埴に近い器形をしており、カマド付近の床面から潰れた状態で出土している。6の平鉢は南部の床面に破片が散らばるように出土している。第174図13の壺は口縁部から胴部にかけての破片で、中央部の床面から出土している。



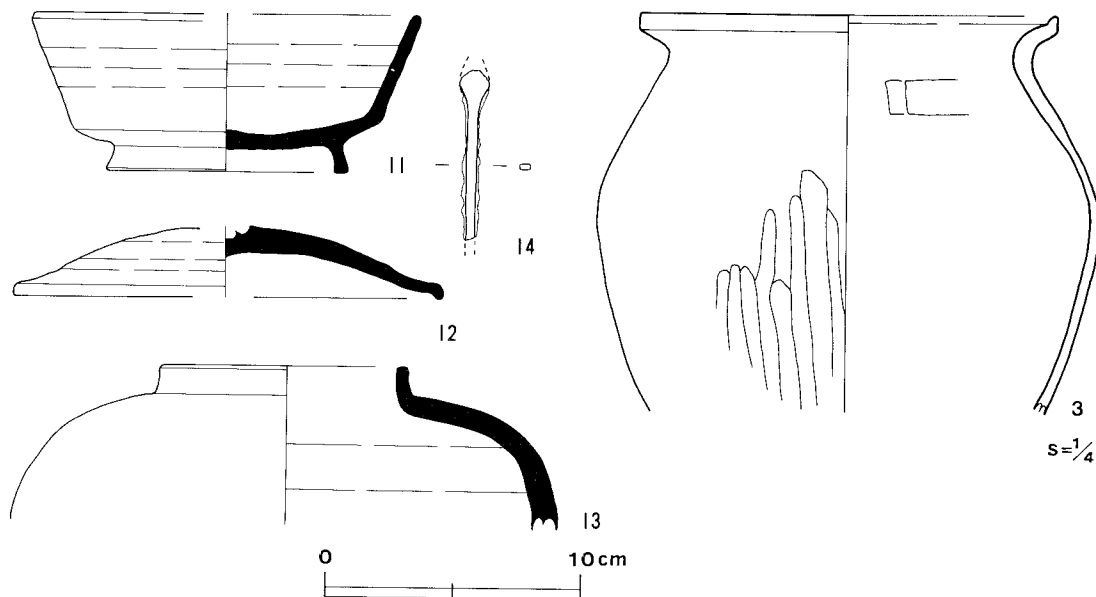
第171図 第70号住居跡カマド実測図



第172図 第70号住居跡実測図



第173図 第70号住居跡出土遺物実測図(1)



第174図 第70号住居跡出土遺物実測図(2)

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	甕 土師器	A 22.2 B (19.2) E (27.0)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	20% P604 中央部床面直上
2	甕 土師器	A (18.2) B (13.7)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に外反し、口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦位のヘラ削り(磨減)。	砂粒・石英・スコリアにふい橙色普通	20% P705 覆土
第174図 3	甕 土師器	A 21.6 B (21.3) E (26.2)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方につまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面上位、ナデ。中位以下、縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英にふい橙色普通	30% P603 中央部床面
第173図 4	鉢 土師器	A (24.0) B (12.2)	胴部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は緩く外反して外上方へ開く。	口縁部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、ナデ。上位に輪積み痕を残す。	砂粒 橙色 普通	10% P605 北壁際西部床面直上
5	鉢 土師器	A 15.7 B 7.9 C 6.5	丸底。底部から胴部にかけて内彎しながら立ち上がる。口唇部は丸い。	内面、ヘラ磨き、黒色処理。外面、ナデ。胴部下半から底部、磨減のため調整不明。	砂粒・雲母にふい橙色普通	90% P607 カマド付近床面 P L 48
6	平鉢 土師器	A 19.5 B 7.9 C (13.6)	平底。体部は外傾して立ち上がる。上位は器厚を減じ、口唇部はやや尖る。	内面、ヘラナデ。平滑に整えられる。外面、底部、ナデ。体部外面に輪積み痕を残す。	砂粒にふい橙色普通	70% P606 中央部・南壁際床面直上 P L 48



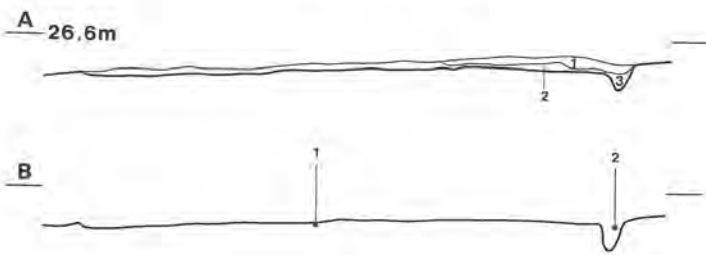
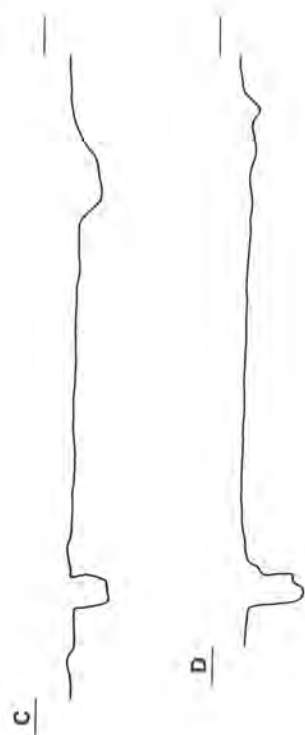
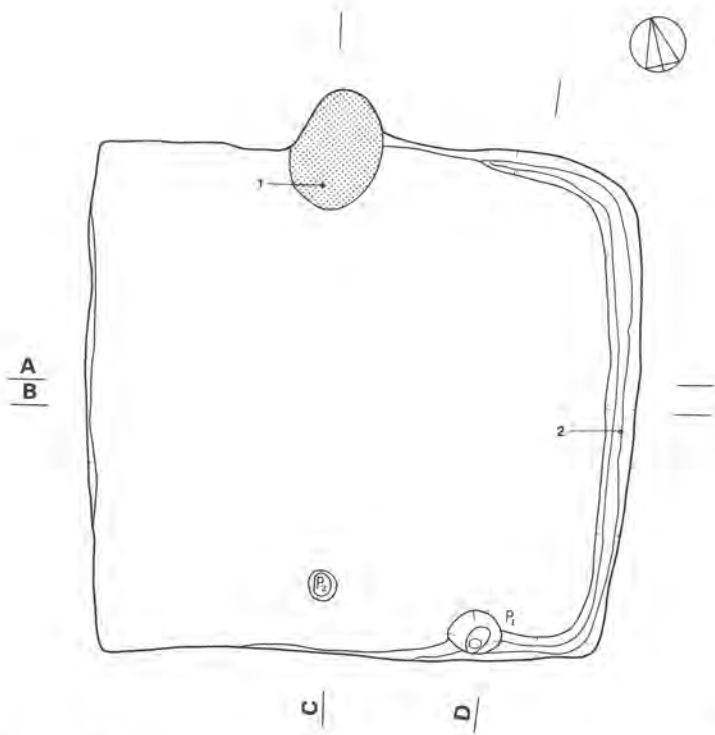
図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
7	手捏土器 土師器	A ( 8.6) B 4.5 C ( 6.2)	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口唇部は丸い。	内面、指頭によるナデ。外面、ナデ。上位にヘラナデの痕跡を残す。底部、木葉痕。	砂粒 にふい橙色 普通	40% P 608 東部覆土
8	甕 須恵器	B ( 7.5) C (14.8)	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	内面、横・斜位のヘラナデ。外面、斜位の平行叩き。下端、横位のヘラ削り。底部、ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	5% P 708 覆土
9	坏 須恵器	A 14.2 B 5.0 C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、底部との間に幅の狭い面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	90% P L54 P 610 南壁際中央部床面直上正位 ヘラ記号
10	坏 須恵器	A (13.6) B 4.7 C ( 8.4)	平底。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、底部との間に幅の狭い面を成す。	底部、一定方向のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	20% P 613 東部覆土中層 ヘラ記号
第174図 11	高台付坏 須恵器	A (15.2) B 6.3 D 9.4 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰白色 普通	50% P 615 南東部覆土中層 P L 56
12	蓋 須恵器	A (16.7) B ( 2.8)	天井部は浅く丸い。頂部からならだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。つまみ欠損。	天井部、径12cmにわたって回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	60% P 617 カマド付近床面 正位 P L 57
13	短頸壺 須恵器	A 9.9 B ( 6.4)	肩部が強く張る。口縁部はほぼ直立する。		砂粒 灰色 普通	20% P 609 中央部床面 P L 51
図版番号	種 類	法 量 (cm)		備 考		
14	織	全長 (6.8)	織身幅1.2 茎幅0.4 最大厚0.2	南東部覆土中層出土。		P L 63 M 63

### 第71号住居跡 (第175図)

**位置** E3h8区。**平面形** 方形。**規模** 4.35×4.18m。**主軸方向** N-16°-E。**壁** 直立。壁高0～7cm。**壁溝** 東壁際に検出。上幅15～25cm、深さ22cm。**床** 平坦。**ピット** 2か所。P<sub>1</sub> (43×35、-50cm) P<sub>2</sub> (26×25、-33cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長104cm、幅100cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面より15cm程掘り窪められている。**覆土** 遺構確認の段階で大半が削平されており、堆積状況は不明。

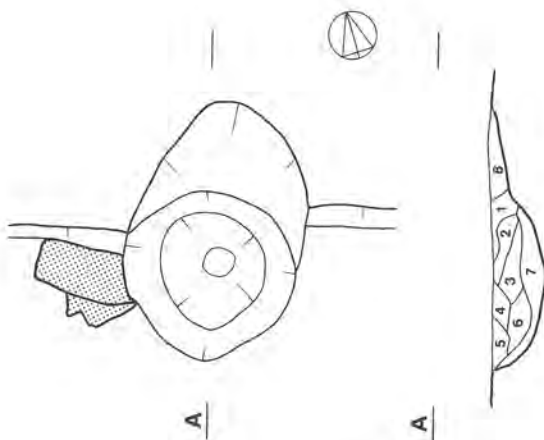
**遺物** 土師器片 (甕, 坏) 50点, 須恵器片 (甕, 坏, 高台付坏, 高盤) 6点。第176図2の高盤は脚部が欠けており、東壁際の溝の上に正位の状態で出土している。

**備考** 攪乱が多く、西側は床面の下まで削平されている。中央部の床面に若干焼けた跡が見られる。



住居跡土層解説表

- 1. 暗褐色 ローム粒子中量 粘性・しまり弱い
- 2. 褐色 ローム粒子中量
- 3. 褐色 ローム粒子多量 しまり弱い

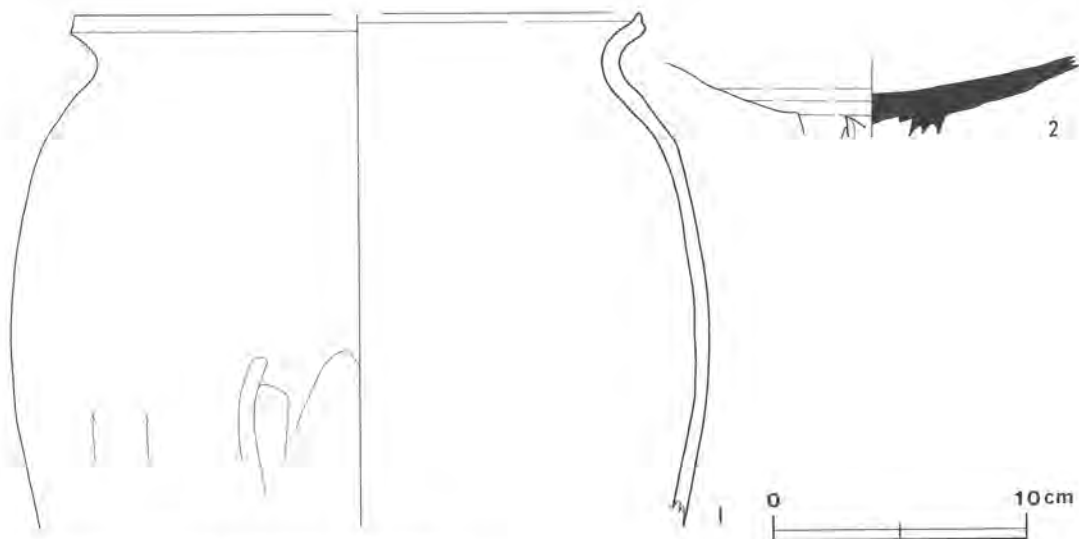


カマド土層解説表

- 1. によい赤褐色 ローム粒子多量 炭化物中量 焼土粒子中量
- 2. 赤褐色 焼土小ブロック極めて多量
- 3. 赤褐色 ローム粒子極めて多量
- 4. によい赤褐色 炭化粒子中量
- 5. 赤褐色 焼土
- 6. 暗褐色 焼土粒子中量
- 7. 赤褐色 ローム粒子多量
- 8. 暗褐色 ローム粒子中量 炭化物中量



第175図 第71号住居跡・カマド実測図



第176図 第71号住居跡出土遺物実測図

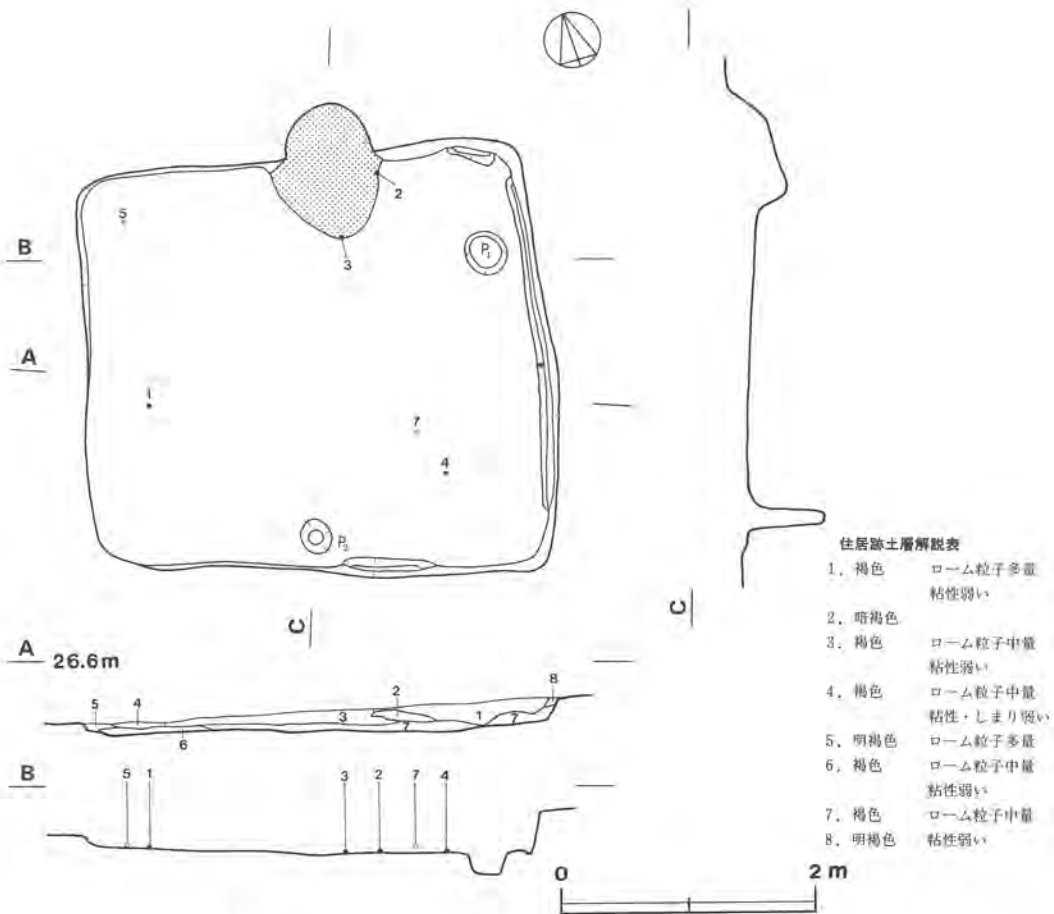
出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	甕 土師器	A (22.4) B (20.4) E (27.6)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、縦位のヘラナデ。外面、中位以下縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	10% P620 カマド覆土
2	高須恵器	B (3.1)	坏部破片。体部は緩やかに外傾して立ち上がる。脚部には四方に透し孔をもつ。	脚部貼り付け後、透し孔をあける。	砂粒 灰色 普通	30% P622 東壁際中央部壁溝上面

第72号住居跡 (第177図)

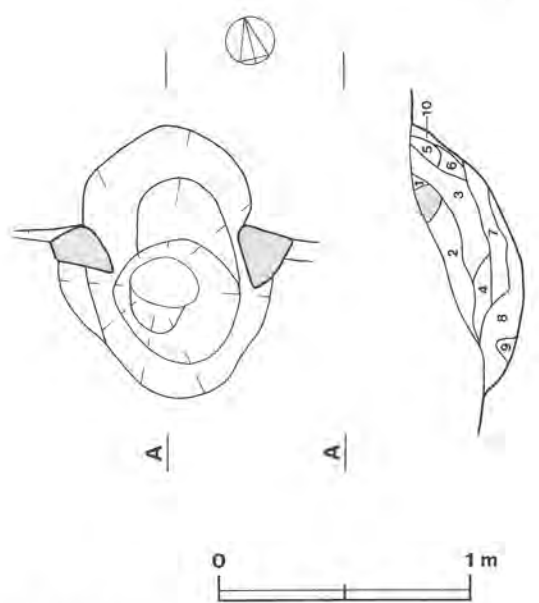
**位置** E3a7区。**平面形** 不整形。 **規模** 3.74×3.40m。 **主軸方向** N-14°-E。 **壁** 直立。壁高0~32cm。 **壁溝** 東壁際に検出。上幅10~15cm、深さ5cm。 **床** 平坦。 **ピット** 2ヶ所。P<sub>1</sub>(35×30、-19cm) P<sub>2</sub>(27×24、-60cm) **カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長107cm、幅95cm、煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は、床面より15cm程掘り窪め、ロームを多く含む土で埋め戻して、その上面を使用している。 **覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕)148点。須恵器片(甕、坏、高台付坏、盤)19点。鉄製品(鎌1、刀子1、器種不明1)3点。第178図4の高台付坏はほぼ完形で、南東部の床面直上から正位で出土している。1・2・3の甕は、西部からカマド付近にかけての床面直上から出土している。5の鎌は、北西コーナー付近の床面に、刃を上に向けた状態で出土している。



住居跡土層解説表

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量<br>粘性弱い     |
| 2. 暗褐色 |                     |
| 3. 褐色  | ローム粒子中量<br>粘性弱い     |
| 4. 褐色  | ローム粒子中量<br>粘性・しまり強い |
| 5. 明褐色 | ローム粒子多量             |
| 6. 褐色  | ローム粒子中量<br>粘性弱い     |
| 7. 褐色  | ローム粒子中量             |
| 8. 明褐色 | 粘性弱い                |

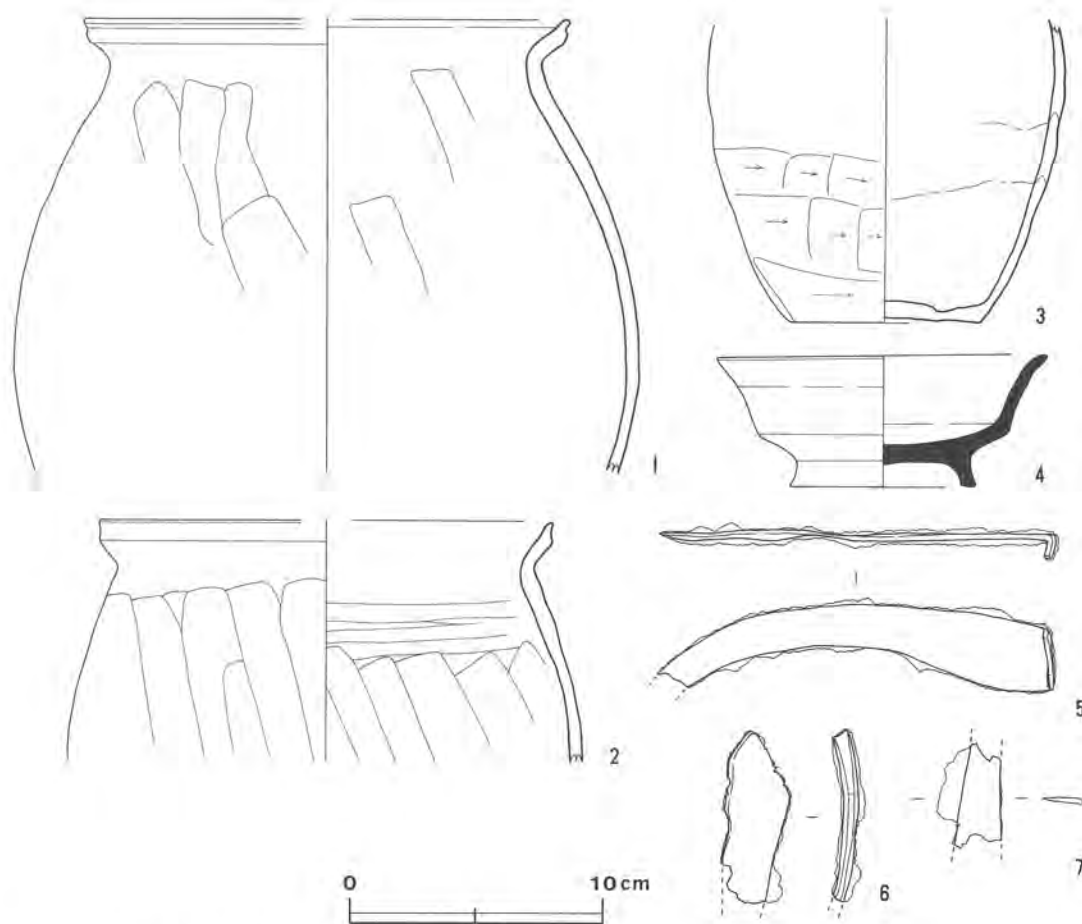


カマド土層解説表

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 褐色     |                   |
| 2. 褐色     | ローム粒子多量<br>焼土粒子中量 |
| 3. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量            |
| 4. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量            |
| 5. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量            |
| 6. 暗赤褐色   | 焼土粒子中量            |
| 7. によい赤褐色 | 焼土粒子多量            |
| 8. 褐色     | ローム粒子多量           |
| 9. 明褐色    |                   |
| 10. 明褐色   |                   |

備考 南西コーナー付近は床面まで削られている。中央部から北部の床面上にかけて、カマドの構築材と思われる凝灰岩が出土している。

第177図 第72号住居跡・カマド実測図



第178図 第72号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	甕 土師器	A (19.2) B (18.0) E (24.6)	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、縦位のへらナデ（ハケ目状）。外面、縦位のへら削り。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	10% P 623 西部床面直上
2	甕 土師器	A (17.8) B (9.6)	胴部はゆるく内彎しながら立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。内面頸部直下、幅の狭いへらナデ。胴部内面、縦位のへらナデ。外面、縦位のへら削り。	砂粒・雲母・礫 にぶい橙色 普通	10% P 624 カマド付近床面直上
3	小型甕 土師器	B [12.1] C 7.5	平底。胴部は内彎しながら立ち上がる。	胴部外面下位、横位のへら削り。内面、ナデ。底部、粗いナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	20% P 625 カマド付近床面直上

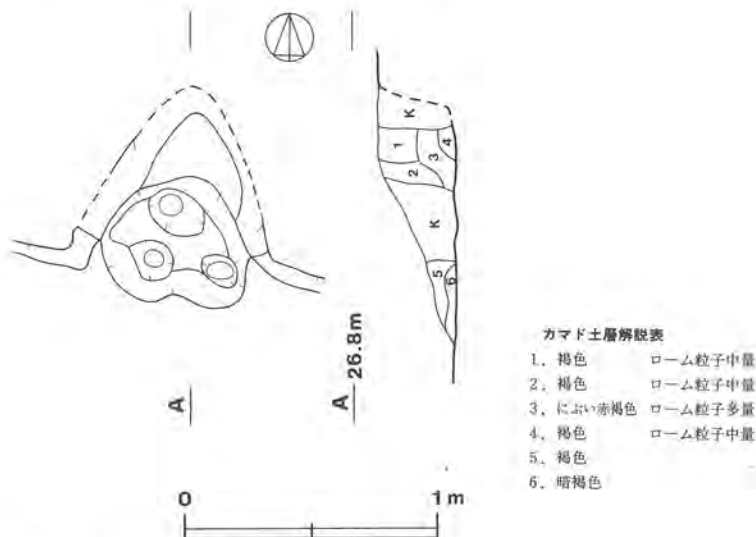
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	高台付坏 須恵器	A 13.0	平底。「フ」の字状に開く高台が付く。体部は外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	90% P621 南東部床面直上 P L56
		B 5.3				
		D 7.4				
		G 1.3				

図版番号	種類	法量 (cm)	備考
5	鎌	全長〔15.8〕 最大幅2.8 最大厚0.2	基端部折り返し。北西コーナー付近床面出土。 P L64 M65
6	器種不明	全長〔6.9〕 最大幅2.7 最大厚0.5	器面が彎曲する。カマド覆土出土。 M66
7	刀子	全長〔4.2〕 最大幅1.9 最大厚0.2	刀身の一部。南東部床面出土。 M64

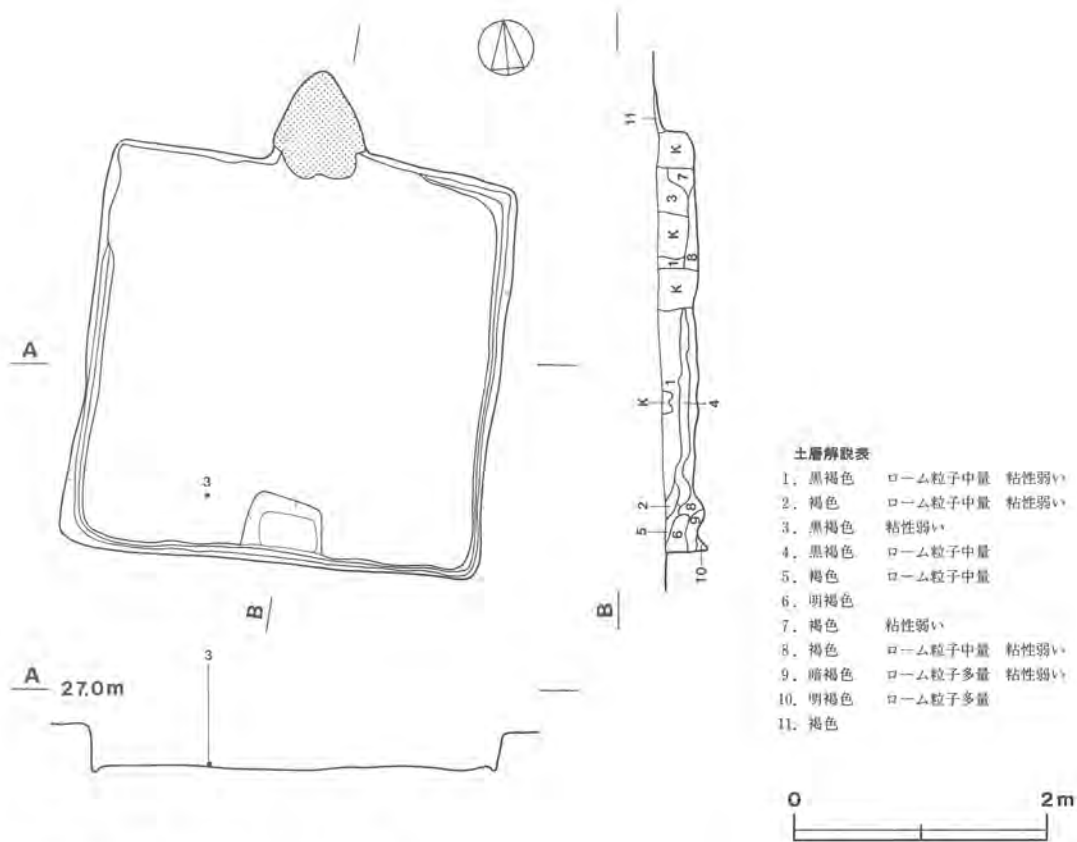
### 第73号住居跡（第180図）

**位置** D3hs区。**平面形** 方形。規模 3.35×3.34m。**主軸方向** N-12°-E。**壁** 直立。壁高 24~33cm。**壁溝** 北壁際の一部を除いて周回。上幅7~13cm、深さ3~8cm。**床** 平坦。南壁際の中央部がわずかに窪む。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長88cm、幅88cm、煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は、床面より10cm弱深く掘り窪められている。全体に攪乱を大きく受けている。**覆土** 自然堆積。

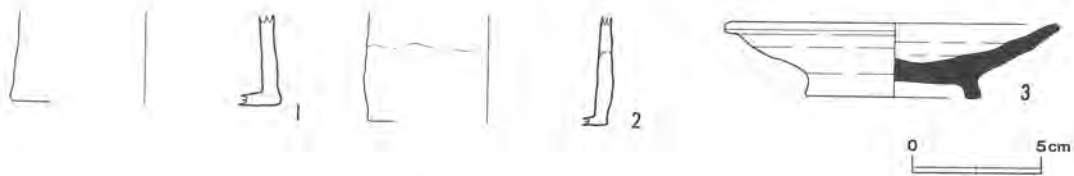
**遺物** 土師器片（甕，坏，平鉢）187点。須恵器片（甕，坏，高台付坏，高台付皿）8点。砥石1点。第181図3の高台付皿は南西コーナー付近の床面から出土している。平鉢片が多く、主としてカマド付近から6~7個体分出土している。



第179図 第73号住居跡カマド実測図



第180図 第73号住居跡実測図



第181図 第73号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

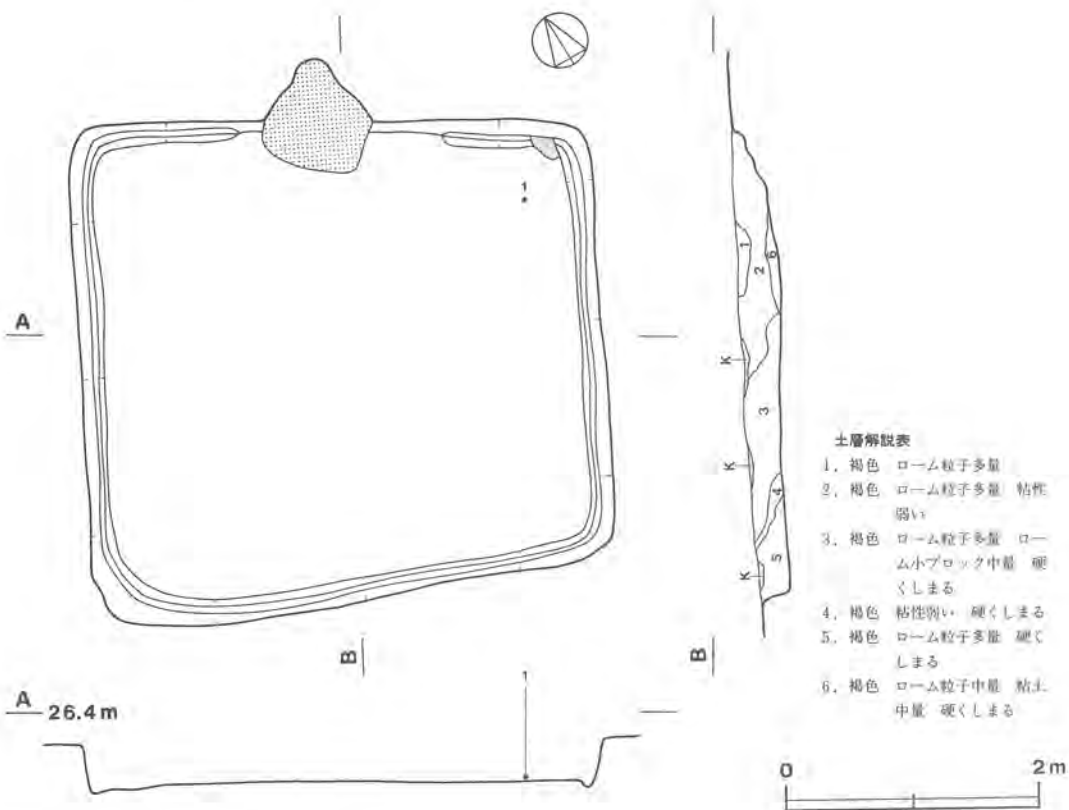
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	平鉢 土師器	B〔3.7〕 C〔10.6〕	平底。胴部は直立して立ち上がる。	内面、ヘラナデ。外面には輪積み痕を残す。	砂粒にふい橙色普通	5% P627 カマド覆土
2	平鉢 土師器	B〔4.3〕 C〔9.4〕	平底。胴部は直立して立ち上がる。	内面、ヘラナデ。外面には輪積み痕を残す。	砂粒橙色普通	5% P628 カマド覆土

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高台付皿 須恵器	A 13.4	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は内彎気味に立ち上 がり、口縁部で軽く外反する。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼 り付け。	砂粒 灰色 普通	95% P629 南部床面遺位 P.L57
		B 3.0				
		D 7.0				
		G 0.8				

### 第74号住居跡 (第182図)

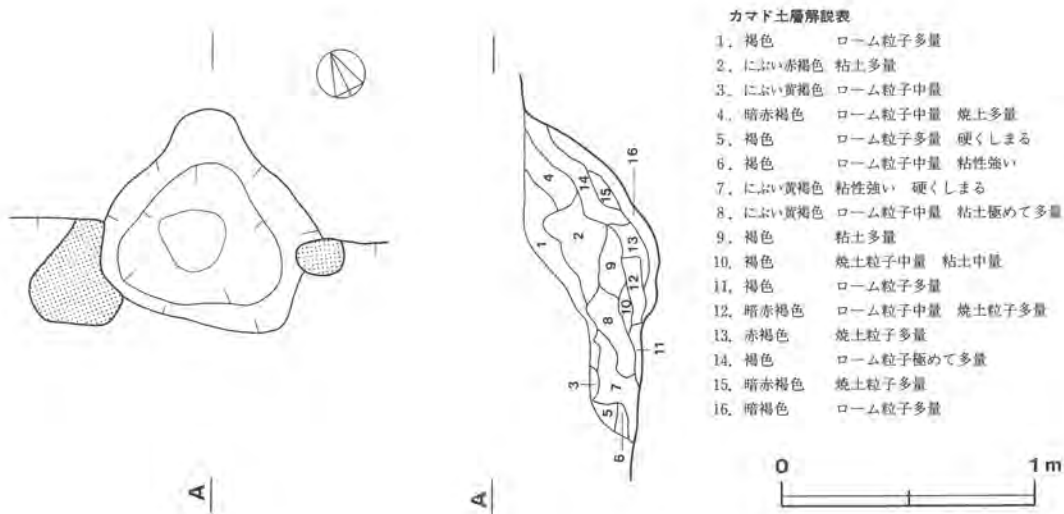
**位置** D3i4区。**平面形** 方形。規模 4.16×4.02m。**主軸方向** N-28°-E。**壁** 直立。壁高 22~33cm。**壁溝** 全周。上幅14~21cm、深さ5cm前後。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。全長85cm、幅110cm、煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は、床面より10cm程深く掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕)61点。須恵器片(坏、蓋)9点。第184図1の甕は北東部の覆土下層から出土している。大半が小破片で、覆土からの出土である。

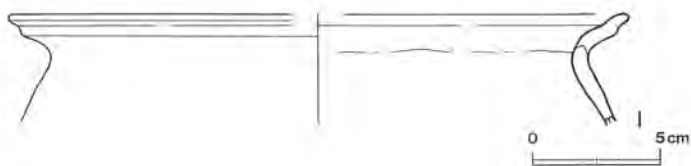


第182図 第74号住居跡実測図





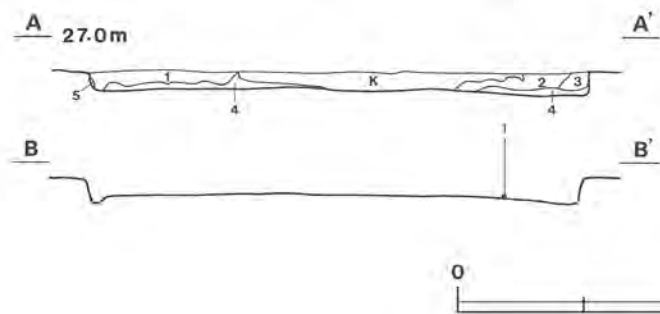
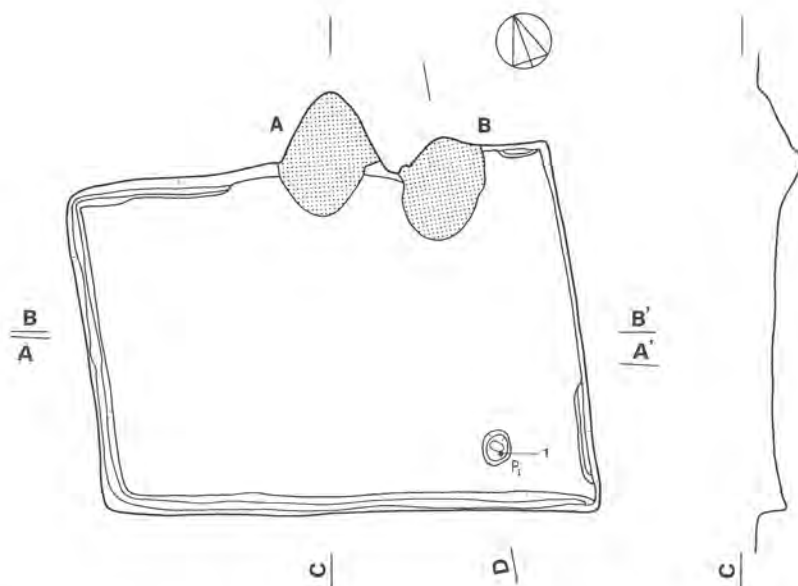
第183図 第74号住居跡カマド実測図



第184図 第74号住居跡出土遺物実測図

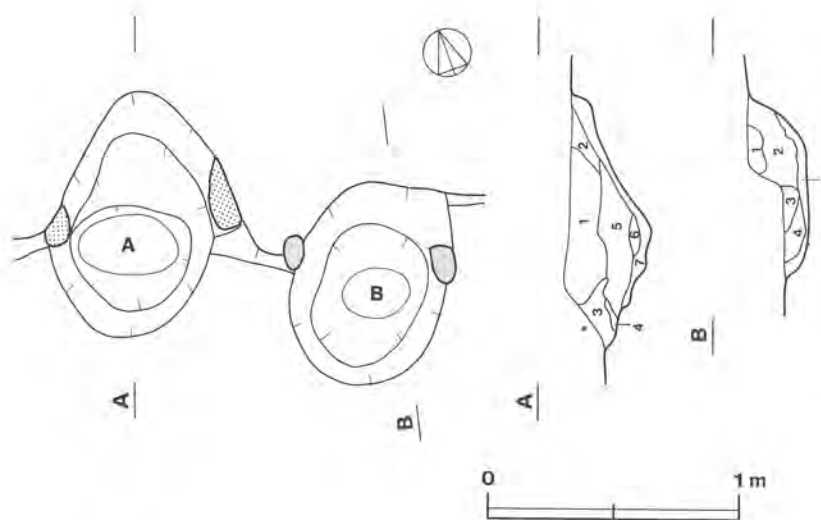
出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 1	甕 土師器	A (24.2) B (4.3)	頸部は「く」の字状に屈曲し、 口縁端部は外上方へつまみ出さ れる。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P630 北東部覆土下層



住居跡土層解説表

1. 褐色 ローム粒子中量 粘性弱い
2. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 粘性弱い
3. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量 粘性しまり弱い
4. 褐色 ローム粒子中量
5. 明褐色



カマドA土層解説表

1. 褐色 ローム粒子中量 しまり弱い
2. 褐色
3. 褐色 ローム粒子中量
4. 褐色 粘土多量
5. にい赤褐色 焼土粒子多量
6. 赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子極めて多量
7. 明褐色 焼けたローム粒子多量

カマドB土層解説表

1. 褐色 ローム粒子中量
2. 暗褐色 焼土粒子多量 焼土ブロック中量
3. 灰褐色 焼土粒子中量
4. にい赤褐色 焼土粒子中量
5. 褐色 ローム粒子中量

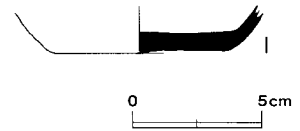
第185図 第75号住居跡・カマドA・B実測図

**第75号住居跡 (第185図)**

**位置** D3a7区。**平面形** 長方形。**規模** 3.93×2.95m。**主軸方向** N-18°-E。**壁** 直立。壁高11~17cm。**壁溝** 東壁際の一部を除いて周回。上幅12~16cm, 深さ7~9cm。**床** 平坦。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub> (28×23, -31cm) **カマドA** 北壁中央。粘土で構築。全長100cm, 幅80cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は床面より10cm程深く掘り窪められている。**カマドB** 北壁東寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長81cm, 幅69cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約25cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片 (甕) 12点。須恵器片 (坏) 3点。大半が小破片で, 覆土から出土している。

**所見** 2基のカマドのうち, カマドAの方がやや大型である。A・Bいずれも塞いだ様子はなく, 同時期に使用されたものと思われる。



**第186図 第75号住居跡  
出土遺物実測図**

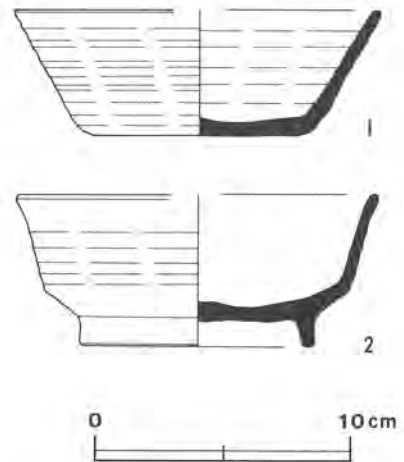
**出土遺物観察表**

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坏 須恵器	B ( 1.9) C 7.1	平底。	底部, 回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	40% P631 南東部床面

第76号住居跡 (第188図)

位置 D3i7区。重複関係 SI-77より古い。平面形 方形。規模 3.36×3.13m。主軸方向 N-9°-E。壁 直立。壁高18~27cm。壁溝 北壁際の一部を除いて周回。上幅5~12cm, 深さ4~8cm。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub> (45×40, -28cm) カマド 北壁中央。粘土で構築。全長70cm, 幅64cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。覆土 人為堆積。

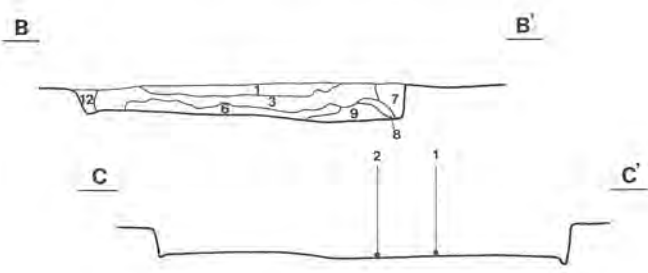
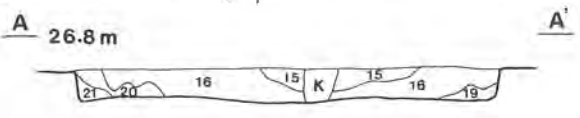
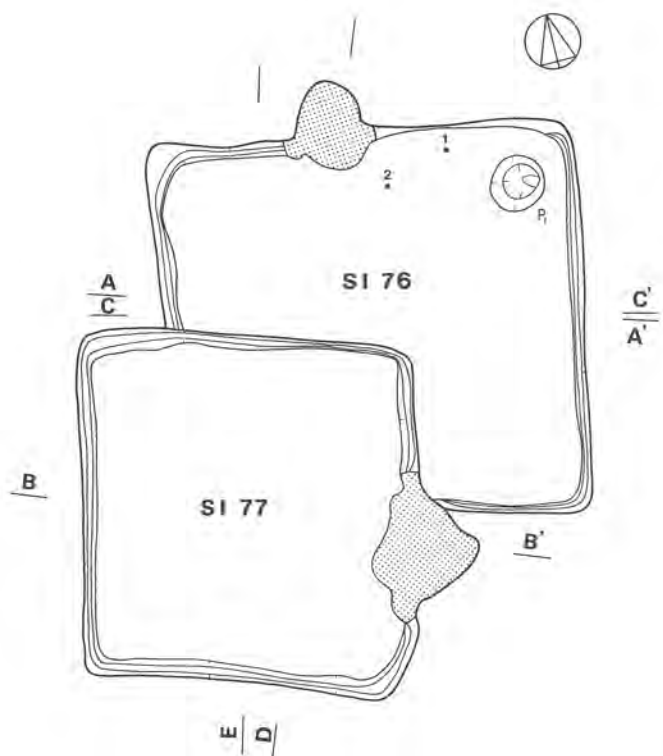
遺物 土師器片 (甕, 平鉢) 135点。須恵器片 (坏, 高台付坏) 4点。第187図1の坏は, カマド前面の床面上から潰れた状態で出土している。



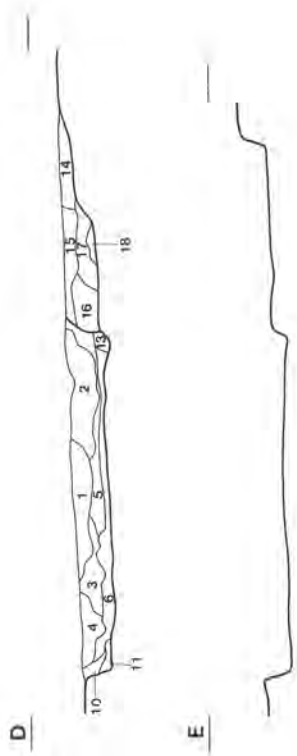
第187図 第76号住居跡出土  
遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 1	坏 須恵器	A (14.4)	平底。体部は外傾して立ち上がり、口唇部はやや丸い。	底部、回転へラ削り。	砂粒 灰色 普通	60% P632 カマド付近床面 P L54
		B 5.0				
		C 8.2				
2	高台付坏 須恵器	A (14.1)	平底。ほぼ直立する高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部、回転へラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	50% P634 カマド付近床面 P L56
		B 6.1				
		D 9.2				



- 土層解説表**
- |         |          |              |
|---------|----------|--------------|
| 1. 褐色   |          |              |
| 2. 褐色   | ローム粒子多量  | ローム小アロック中量   |
| 3. 褐色   | ローム粒子中量  | 粘性弱い         |
| 4. 暗褐色  | ローム粒子多量  | ローム小アロック中量   |
|         | 粘土中量     | 凝灰岩ブロック      |
| 5. 暗赤褐色 | 炭化物粒子多量  | 炭化物中量 焼土粒子中量 |
|         | 粘性・しまり弱い |              |



- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 6. 赤褐色   | 炭化物極めて多量 | 焼土粒子多量   |
|          | 粘性・しまり弱い |          |
| 7. 暗赤褐色  | ローム粒子中量  | 焼土粒子中量   |
|          | 粘性・しまり弱い |          |
| 8. 暗赤褐色  | 焼土粒子多量   | 粘性・しまり弱い |
| 9. 暗褐色   | ローム粒子中量  | 粘性・しまり弱い |
| 10. 暗褐色  | ローム粒子中量  | 炭化物多量    |
| 11. 褐色   | ローム粒子中量  |          |
| 12. 暗褐色  | ローム粒子中量  | 炭化物中量    |
|          | 炭化物中量    | しまり弱い    |
| 13. 褐色   | ローム粒子中量  |          |
| 14. 褐色   | ローム粒子多量  |          |
| 15. 暗褐色  | ローム粒子中量  | 粘性弱い     |
| 16. 褐色   | ローム粒子多量  |          |
| 17. 褐色   | ローム粒子多量  | 粘土中量     |
| 18. 灰黄褐色 | 粘土中量     | 粘性強い     |
| 19. 暗褐色  | 粘性弱い     |          |
| 20. 暗褐色  |          |          |
| 21. 褐色   | ローム粒子中量  | 粘性弱い     |



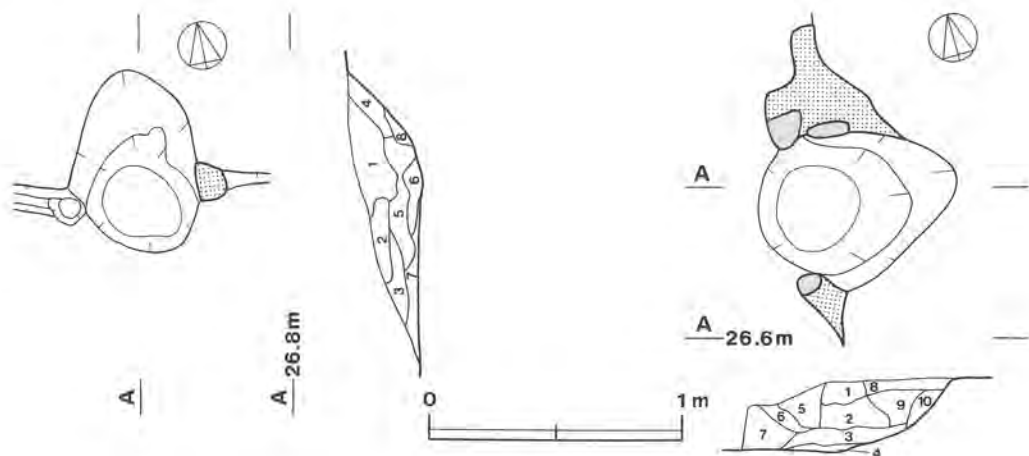
第188図 第76・77号住居跡実測図

第77号住居跡 (第188図)

位置 D3i7区。重複関係 SI-76より新しい。平面形 方形。規模 2.75×2.64m。主軸方向 N-72°-W。壁 直立。壁高15~28cm。壁溝 全周。上幅7~18cm, 深さ2~5cm。床 平坦。ピット 無。カマド 東壁南寄り。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。全長78cm, 幅120cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片 (甕, 高台付坏) 80点。須恵器片 (坏, 盤) 15点。砥石 1点。第191図2の高台付坏の底部に墨書『午家』がみられ, 内面には灯明皿として使用された痕跡が認められる。4の坏, 6の盤とともに3個体まとまって南東部の床面から出土している。南西コーナー付近には, 大きな切石 (29×23×14cm) が床面に置かれた状態で出土している。上面は平坦ではないが, 底面は平坦で広く, 安定感がある。何らかの用途をもって据えられたものと思われる。

備考 焼失住居。焼土が多量に堆積し, 炭化材が中央に向かって放射状に到れ込んでいる状態で検出されている。



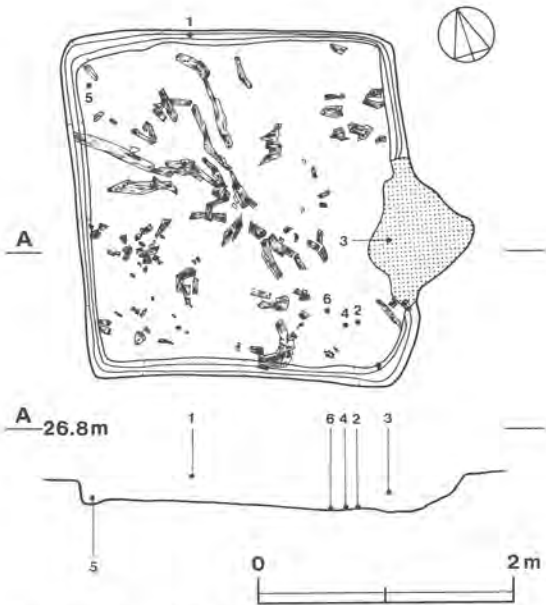
第76号住居跡カマド土層解説表

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 褐色     | ローム粒子多量          |
| 2. によい黄褐色 | 粘性強い             |
| 3. 褐色     | ローム粒子多量          |
|           | ローム小ブロック中量 硬くしまる |
| 4. によい赤褐色 | ローム粒子多量          |
|           | ローム小ブロック中量       |
| 5. によい赤褐色 | 焼土               |
| 6. 赤褐色    | 焼土中ブロック多量        |
| 7. 褐色     | 硬くしまる            |
| 8. によい黄褐色 | 粘土多量 粘性強い        |

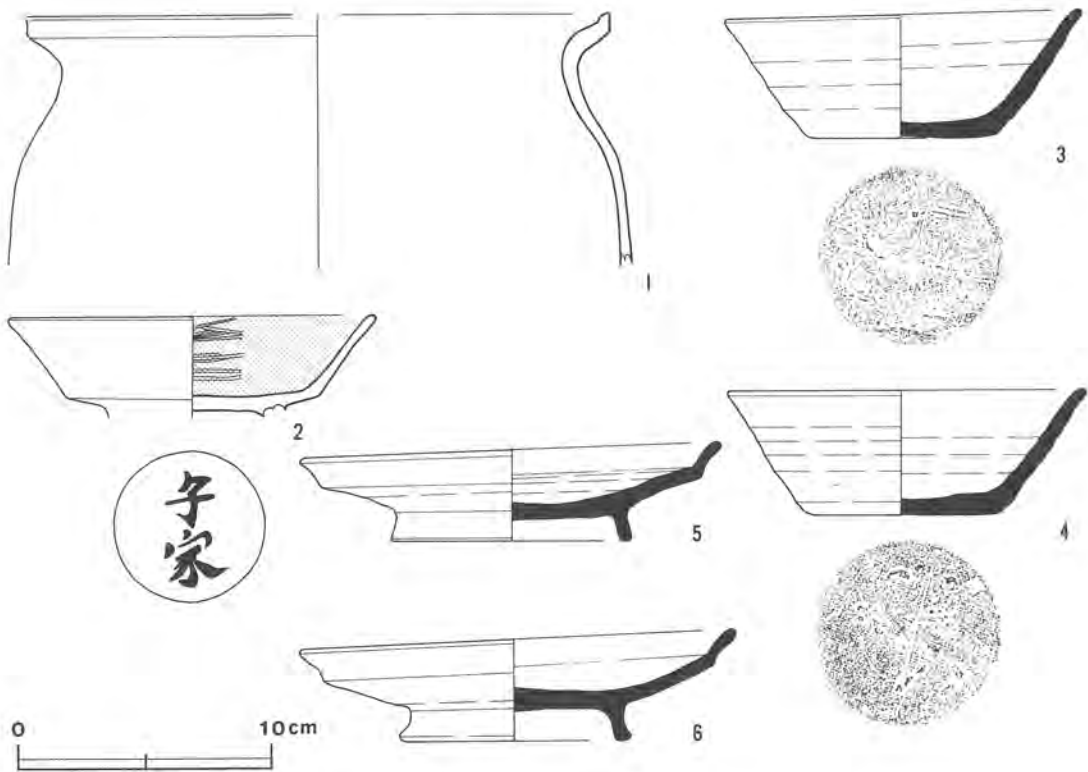
第77号住居跡カマド土層解説表

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1. によい黄褐色 |                |
| 2. によい赤褐色 | ローム粒子中量 焼土粒子中量 |
| 3. 暗赤褐色   | ローム粒子中量        |
| 4. 赤褐色    | 焼土             |
| 5. 褐色     | ローム粒子中量        |
| 6. 暗赤褐色   | ローム粒子中量        |
| 7. 褐色     | ローム粒子中量 粘性弱い   |
| 8. 褐色     | ローム粒子極めて多量     |
| 9. 極暗褐色   | 焼土粒子中量         |
| 10. 暗褐色   | ローム粒子多量        |

第189図 第76・77号住居跡カマド実測図



第190图 第77号住居跡炭化材検出状況実測図



第191图 第77号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	甗 土師器	A (23.0) B (10.0)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	5% P 639 北壁際西寄り覆土上層
2	高台付 土師器	A 14.6 B (4.0)	平底。高台は、大半が欠損している。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。下位に稜をもち、高台部との間に幅の広い面を成す。	ロクロ整形。 内面、へら磨き、黒色処理。底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 にぶい橙色 普通	90% P 640 墨書「午家」 南東部床面斜位 灯明皿に転用か。 P L 49
3	坏 須恵器	A 14.0 B 5.1 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、粗いナデ。	砂粒 灰色 普通	100% P 636 カマド付近覆土 中層 へら記号 P L 54
4	坏 須恵器	A 14.0 B 5.0 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	100% P 635 南東部床面正位 へら記号 P L 54
5	盤 須恵器	A 16.7 B 4.0 D 9.6 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	95% P 637 北西部床面正位 P L 57
6	盤 須恵器	A 17.2 B 4.4 D 9.1 G 1.3	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はゆるやかに外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸い。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	95% P 638 南東部床面正位 P L 57

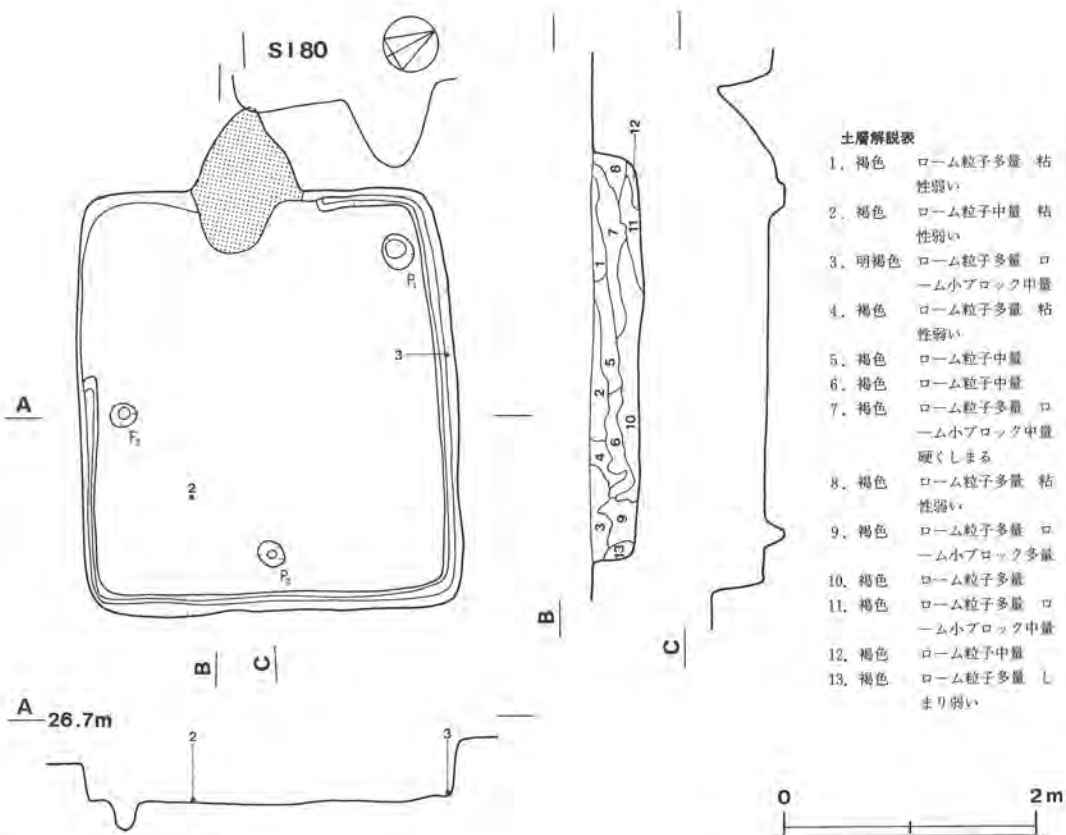


第78号住居跡 (第192図)

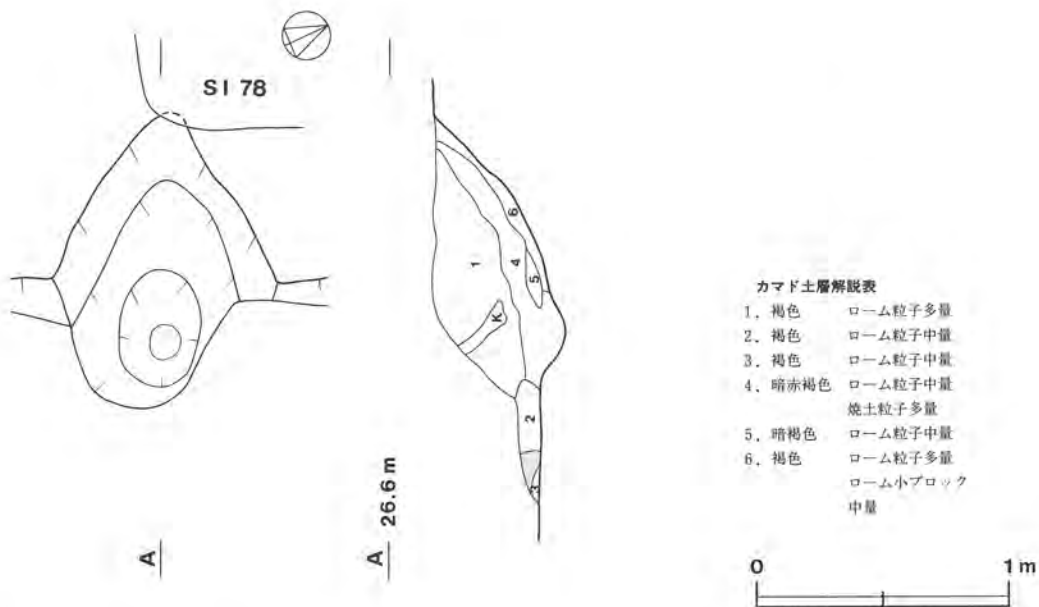
位置 D3h6区。重複関係 SI-80より古い。平面形 長方形。規模 3.38×2.98m。主軸方向 N-63°-W。壁 直立。壁高29~46cm。壁溝 南西コーナーを除いて周回。上幅8~18cm, 深さ2~3cm。床 平坦。ピット 3か所。P<sub>1</sub>(29×25, -10cm) P<sub>2</sub>(20×20, -22cm) P<sub>3</sub>(22×22, -24cm) カマド 北西壁南西寄り。粘土で構築。全長120cm, 幅90cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約70cm。火床は, 床面より10cm程掘り窪められている。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕, 坏, 高台付坏) 160点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 高台付皿) 31点。第194図2の高台付皿は, 南東部の床面から伏せた状態で出土している。3の高台付坏(底部)は北壁直下に, 壁に貼りつくような状態で出土している。土師器坏には, 墨書が1点含まれるが, 小破片のため判読不可能である。

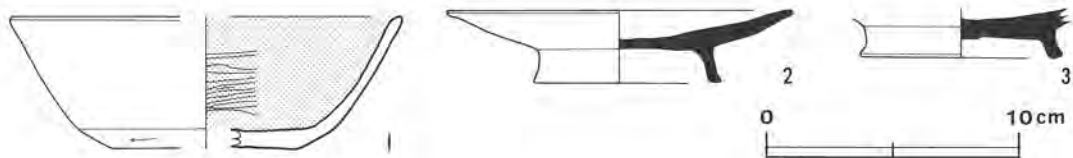
所見 カマドの先端部がSI-80に切られていることから, SI-80より古い遺構とする。



第192図 第78号住居跡実測図



第193図 第78号住居跡カマド実測図



第194図 第78号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

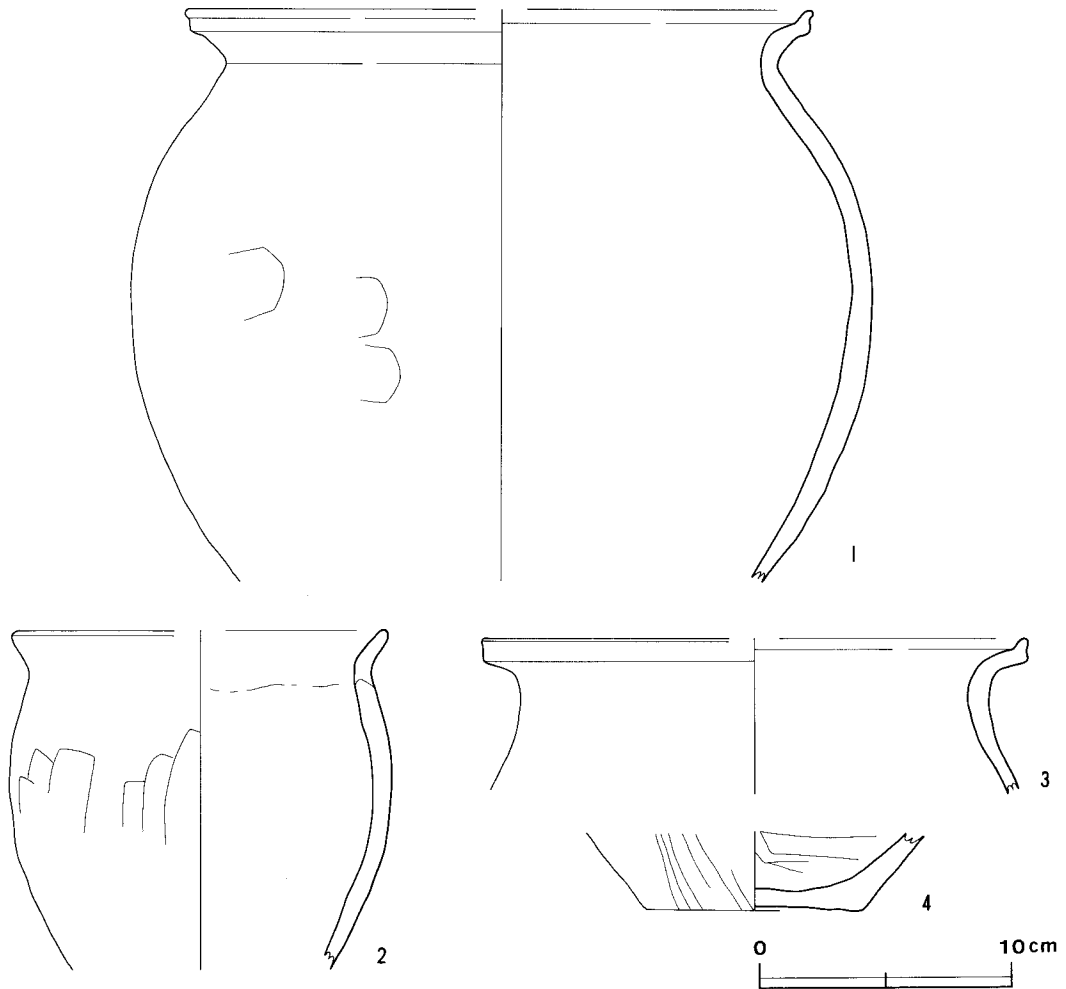
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第194図 1	坏 土師器	A (15.6) B 5.3 C (7.4)	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	ロクロ整形。内面、へら磨き、黒色処理。底部及び体部下端付近、回転へら削り。	砂粒・バミス 淡赤橙色 普通	40% P641 北東部覆土
2	高台付皿 須恵器	A 13.9 B 2.9 D 7.5	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり。口縁部で軽く外反する。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	90% P644 南東部床面逆位 P L57
3	高台付坏 須恵器	B (2.0) D 8.0 G 1.1	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 浅黄橙色 普通	20% P643 北壁際中央部床面

第79号住居跡 (第196図)

位置 D3g6区。重複関係 SI-80より古い。平面形 方形。規模  $2.45 \times [1.17]$  m。主軸方向 N-19°-E。壁 直立。壁高22~36cm。壁溝 無。床 ゆるい起状。ピット 1か所。P<sub>1</sub>(48×34, -16cm) 貼床下に検出。カマド 北壁。粘土で構築。全長110cm, 幅〔70〕cm, 煙道部の壁面への掘り込みら約80cm。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片(甕) 128点。陶器片 1点。主に, カマド付近から東部の床面及び覆土下層からの出土である。P<sub>1</sub>内から多量の焼土とともに, 多数の土師器(甕)片が出土しており, その上に貼床がなされている。本跡から須恵器は出土していない。

備考 本跡の西側半分はSI-80に切られている。



第195図 第79号住居跡出土遺物実測図

## 出土遺物観察表

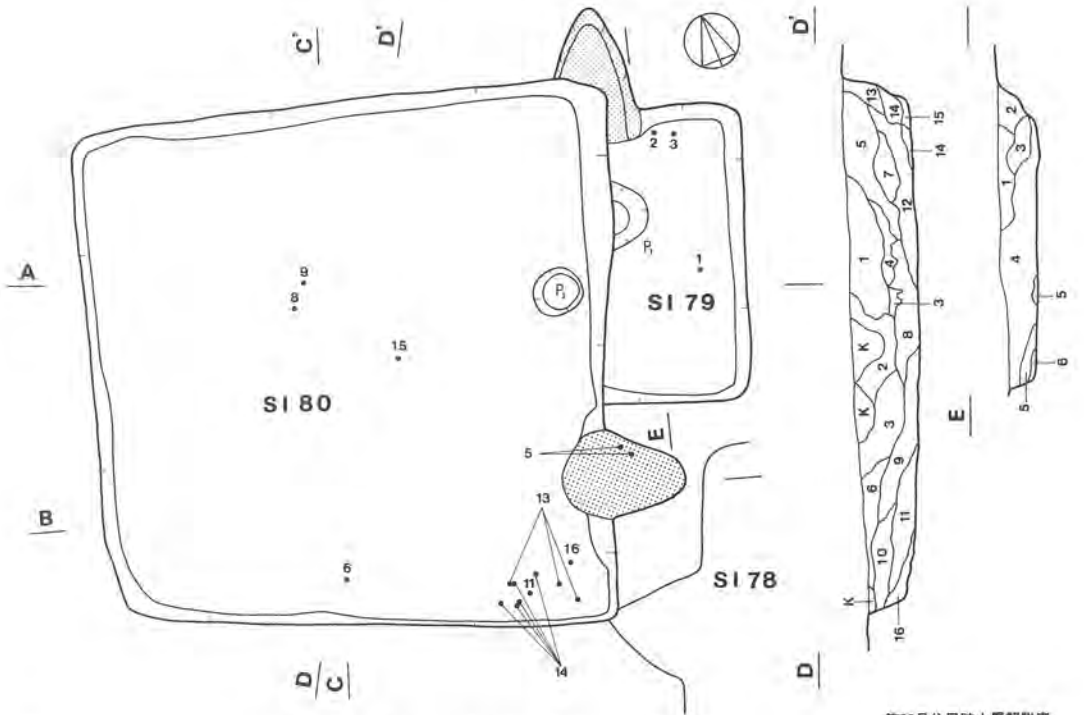
図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第195図 1	甕 土 師 器	A (25.0) B (22.8)	丸く張った胴部から、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面上位、ナデ。中位、横位のへら削り、及びナデ。	砂粒・長石・パミス にふい橙色 普通	20% P645 東部床面
2	小 型 甕 土 師 器	A (14.8) B (13.5)	胴部は内彎しながら立ち上がり、頸部から口縁部にかけて外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面及び胴部上位内面、横ナデ。胴部外面、縦位のへら削り。	砂粒・雲母・スコリア 暗赤灰色 普通	20% P646 カマド付近覆土 中層
3	甕 土 師 器	A (21.8) B (6.2)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P647 カマド付近覆土 中層
4	甕 土 師 器	B (3.1) C 8.6	平底。胴部下端部は外傾して立ち上がる。	内面、横位のへらナデ。外面、縦位のへら磨き。底部、木葉痕。	砂粒・長石 にふい橙色 普通	5% P648 カマド覆土

### 第80号住居跡（第196図）

**位置** D3g<sub>5</sub>区。重複関係 SI-78・79より新しい。**平面形** 不整形。規模 4.30×4.27m。**主軸方向** N-67°-W。**壁** 直立。壁高25～52cm。**壁溝** 北壁際の一部に検出。上幅12～15cm、深さ2～3cm。**床** 平坦。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub> (40×36, -14cm) **カマド** 東壁南寄り。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長100cm、幅132cm、煙道部の壁面への掘り込みは約65cm。火床は、床面より5cm程深く掘り窪められている。**覆土** 自然堆積。

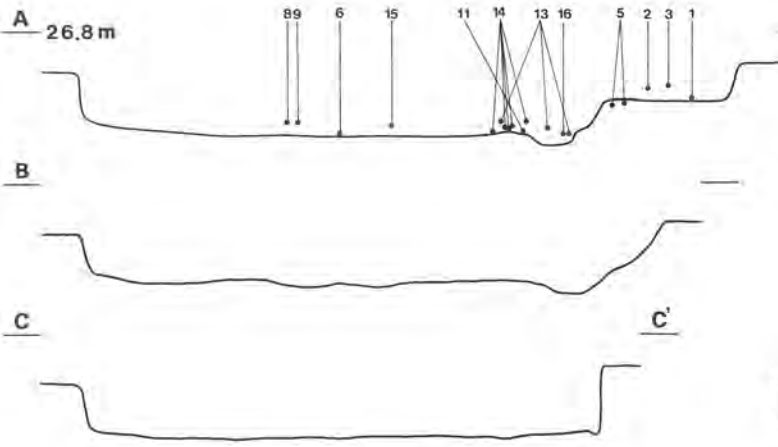
**遺物** 土師器片（甕、坏）210点、須恵器片（甕、坏、高台付坏）20点。鉄滓8点。南東コーナー付近の床面から覆土下層に、須恵器（坏・高台付坏）が3～4個体分まとまって出土している。第198図6の甕は、南壁際の床面から潰れた状態で出土している。本跡は鉄滓の出土が多いが、そのうち5個は南東部の床面から比較的まとまって出土している。

**備考** 本跡の周囲は北から南へ傾斜している。凝灰岩でカマドの焼き口部を組んだ状態が良好に残されている。



第79号住居跡土層解説表

- 1. 褐色 ローム粒子中量
- 2. 褐色 ローム粒子中量
- 3. 褐色 ローム粒子多量
- 4. 褐色 ローム粒子多量  
ローム小ブロック多量
- 5. 暗褐色 ローム粒子中量
- 6. 明褐色 ローム粒子多量  
粘性・しまり弱い



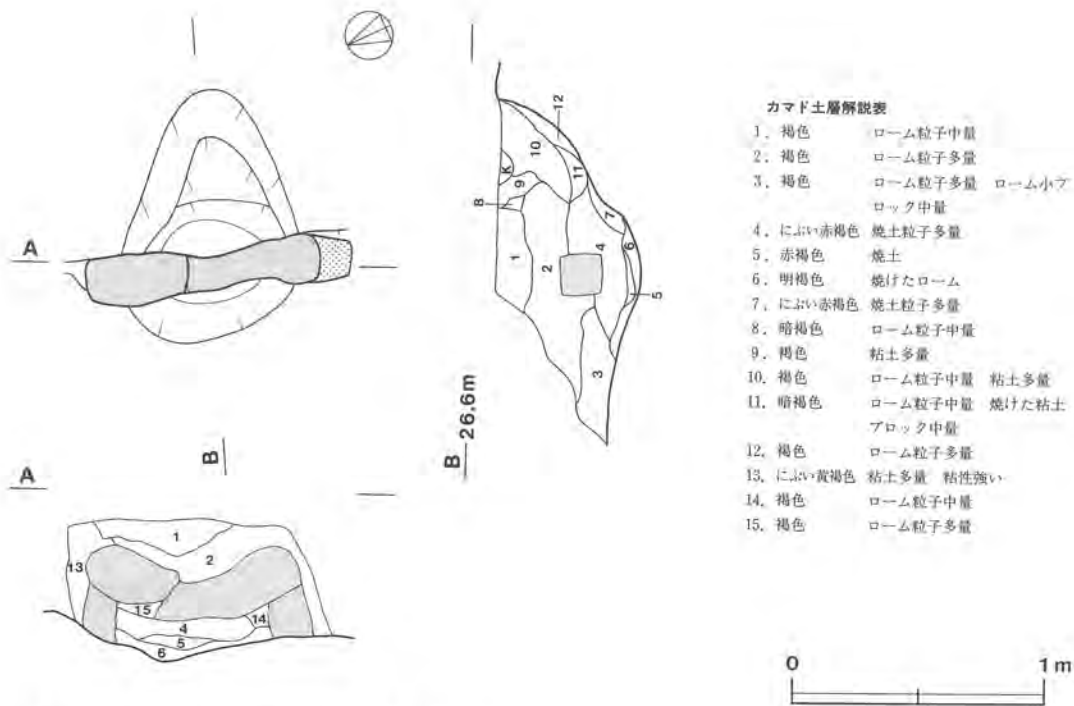
第80号住居跡土層解説表

- 1. 褐色 ローム粒子中量
- 2. 褐色 ローム粒子多量
- 3. 明褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量 硬くしまる
- 4. 褐色 ローム粒子極めて多量
- 5. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 硬くしまる
- 6. 明褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量 粘性弱い

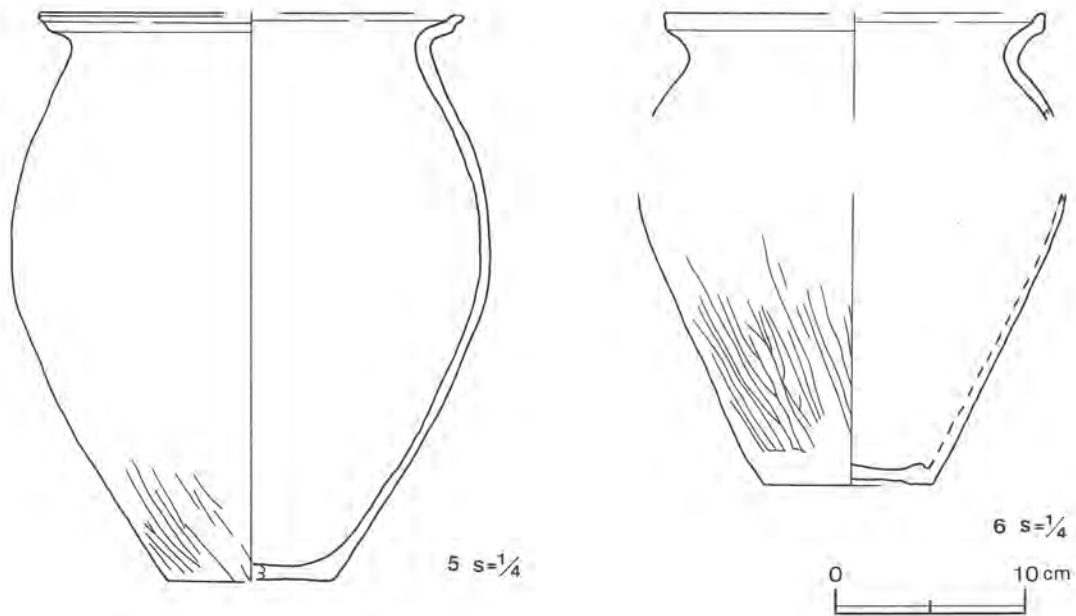
- 7. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量 粘性・しまり弱い
- 8. 暗褐色 ローム粒子多量 粘性弱い
- 9. 褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック多量 焼土小ブロック中量
- 10. 褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック多量 粘性・しまり弱い
- 11. 明褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック極めて多量 しまり弱い

- 12. 明褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック多量 粘性弱い
- 13. 褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック多量 粘性・しまり弱い
- 14. 暗褐色 ローム粒子中量 硬くしまる
- 15. 明褐色 ローム粒子多量
- 16. 明褐色 ローム粒子中量 粘性・しまり弱い

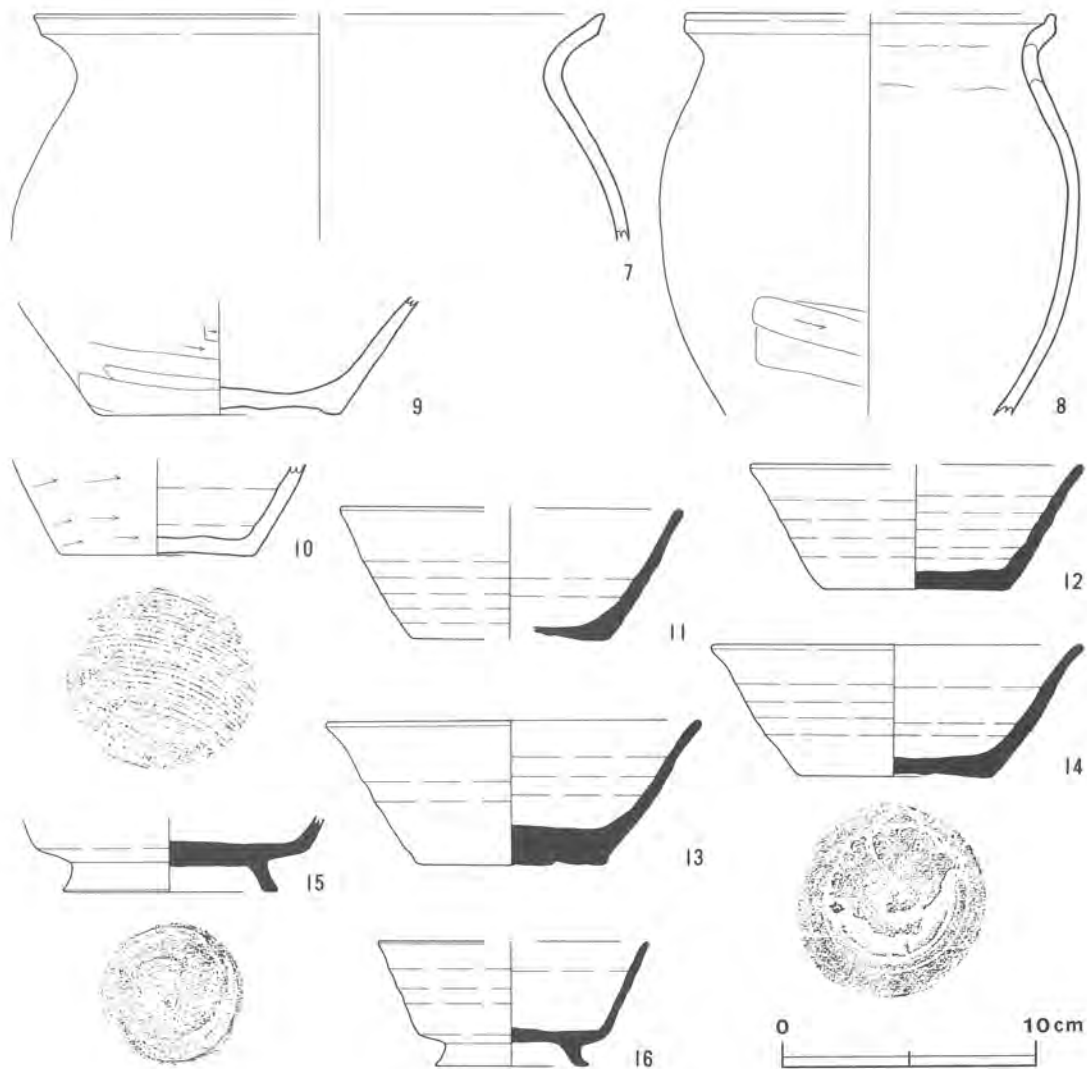
第196図 第79・80号住居跡実測図



第197図 第80号住居跡カマド実測図



第198図 第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第199図 第80号住居跡出土遺物実測図(2)

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 5	甕 土師器	A (22.4) B 30.5 C (8.6) E (25.2)	平底。胴部は内彎しながら立ち上がり、中位よりやや上部に最大径をもつ。頸部から口縁部にかけて強く外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面下位、縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	40% P649 カマド覆土 P L47

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	甗 土師器	A (20.0) C 9.0	平底。胴部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって屈曲する。口縁端部は上方へつまみあげられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部外面下位、縦位のへら磨き。剥離、磨滅が著しく、調整痕は不明瞭である。底部、木葉痕。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	50% P653 南部床面
第199図 7	甗 土師器	A (22.4) B〔9.2〕	胴部は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反し、口縁部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内・外面、ナデ。	砂粒 灰褐色 普通	5% P652 北東部覆土
8	小型甗 土師器	A (14.8) B〔16.0〕 E (16.6)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面及び胴部内面上位、横ナデ。胴部外面中・下位、横位のへら削り。	砂粒・雲母 にふい赤褐色 普通	30% P650 中央部覆土下層
9	甗 土師器	B〔4.6〕 C 9.6	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	胴部外面、横位のへら削り。内面、ナデ。底部、ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P654 中央部覆土下層
10	小型甗 土師器	B〔3.7〕 C 7.7	平底。胴部は外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。底部、静止糸切り後、一部へら削り。胴部外面横位のへら削り。	砂粒・雲母・スコリア 灰褐色 普通	5% P655 中央部覆土
11	坏 須恵器	A (13.3) B 5.3 C (7.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸い。	底部、回転へら切り。	砂粒 灰白色 普通	20% P658 南壁際東寄り床面直上 PL54
12	坏 須恵器	A (13.0) B 5.0 C (7.4)	平底。体部は外傾して立ちあがる。口唇部は丸い。	底部、回転へら切り後、ナデ。	砂粒 灰色 普通	30% P659 西部覆土
13	坏 須恵器	A 14.9 B 5.8 C 7.6	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。口唇部は丸い。底部の器肉が厚い。	底部、回転へら切り後、粗いナデ。	砂粒 灰白色 普通	80% P661 南東コーナー付近床面・覆土下層 PL54
14	坏 須恵器	A 14.5 B 5.3 C 7.8	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。口唇部は丸い。	底部、回転へら切り。	砂粒 灰白色 普通	90% P657 南壁際東寄り床面・覆土下層 PL54
15	高台付坏 須恵器	B〔3.0〕 D 8.6 G 1.2	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部、回転へら削り後、高台貼り付け。	砂粒・礫 灰色 普通	40% P663 中央部覆土下層へら記号
16	高台付坏 須恵器	A (10.7) B 5.0 D 6.0	平底。外側へふんばる高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口唇部は丸い。	底部、回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	60% P662 南東コーナー付近床面逆位



第81号住居跡（第202図）

位置 D3i0区。重複関係 SI-84より古い。平面形 方形。規模 2.74×〔2.50〕m。主軸方向 N-28°-E。壁 直立。壁高27~30cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 1か所。P<sub>1</sub>（20×16，-23cm）カマド 北壁中央。粘土で構築。全長100cm，幅〔85〕cm。煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は床面とほぼ同じ高さである。覆土 人為堆積。

遺物 土師器片（甕，坏，鉢）41点。須恵器片（甕，坏）2点。第200図1の甕はカマドの崩壊した粘土層下から出土している。その他は，いずれも小破片で覆土からの出土である。

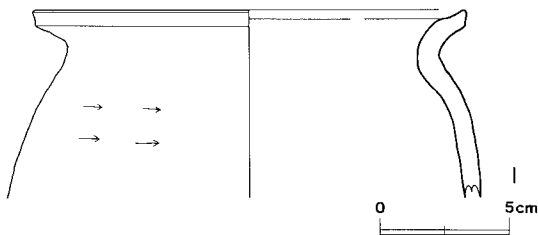
備考 東側（調査区域外）へ遺構が延びており，全体を捉えることはできなかった。

第84号住居跡（第202図）

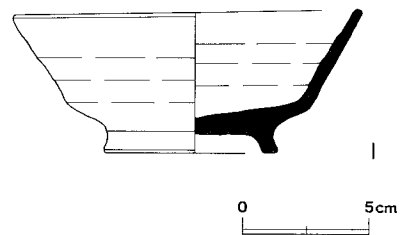
位置 D3j0区。重複関係 SI-81より新しい。平面形 方形。規模 3.36×〔3.20〕m。主軸方向 N-21°-E。壁 直立。壁高40~45cm。壁溝 全周。上幅7~21cm，深さ5~8cm。床 平坦。中央部がやや窪む。ピット 無。カマド 不明。北壁際の床面に凝灰岩片が散乱していることから，北壁に構築されたことが推測できる。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕）21点。須恵器片（甕，坏，高台付坏）8点。遺物の出土は極めて少ない。第201図1の高台付坏は，南西コーナー付近の床面上に正位で出土している。その他は小破片で，覆土からの出土である。

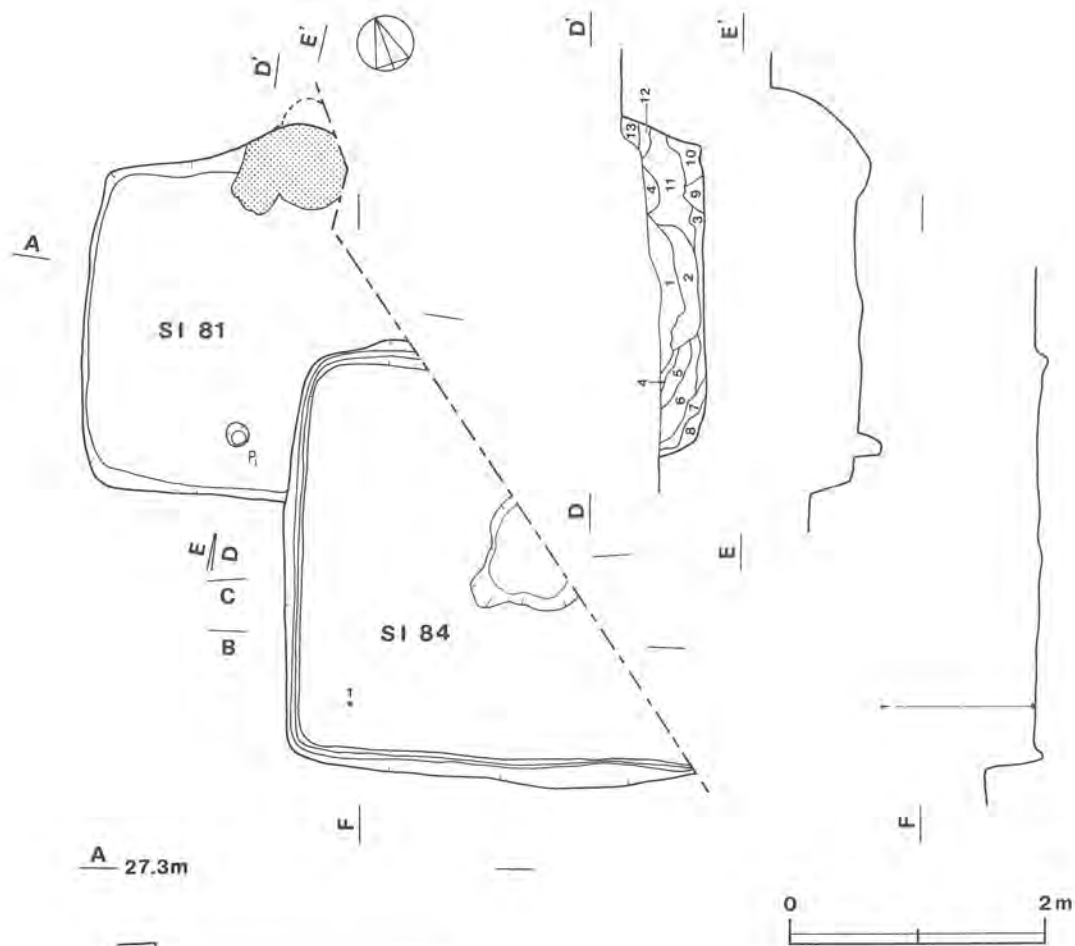
備考 SI-81の南東部を切って構築されている。本跡は東側の調査区域外へ延びているため，西側部分のみの調査に留まる。



第200図 第81号住居跡出土遺物実測図



第201図 第84号住居跡  
出土遺物実測図



A 27.3m

B

C

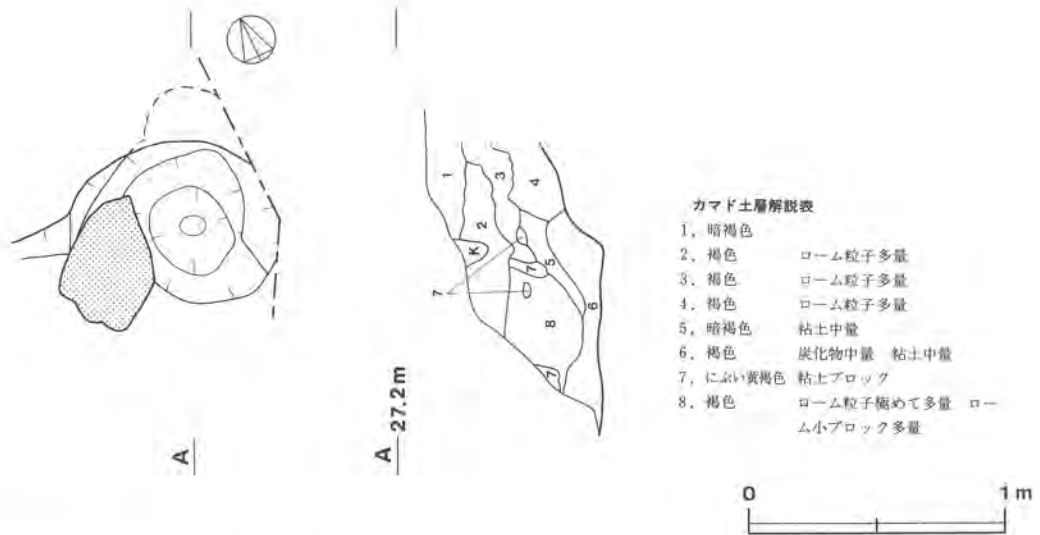
第84号住居跡土層解説表

- |    |     |                    |
|----|-----|--------------------|
| 1. | 黒褐色 |                    |
| 2. | 褐色  | ローム粒子多量            |
| 3. | 褐色  | ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 |
| 4. | 褐色  | ローム粒子中量            |

第81号住居跡土層解説表

- |     |        |            |            |         |
|-----|--------|------------|------------|---------|
| 1.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ローム小ブロック中量 | 粘性弱い    |
| 2.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ロームブロック中量  |         |
| 3.  | 褐色     | ローム粒子中量    | ローム小ブロック中量 |         |
| 4.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ローム小ブロック中量 | 粘性弱い    |
| 5.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ローム小ブロック多量 |         |
| 6.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ローム小ブロック中量 | 粘性弱い    |
| 7.  | 暗褐色    | ローム粒子中量    |            | 粘性弱い    |
| 8.  | 褐色     | ローム粒子多量    | ローム小ブロック中量 |         |
| 9.  | 黒褐色    |            |            | 硬くしまる   |
| 10. | にがい黄褐色 |            |            | 粘土極めて多量 |
| 11. | 褐色     | ローム粒子極めて多量 | ローム小ブロック中量 | 粘性弱い    |
| 12. | 褐色     | ローム粒子中量    |            | 粘性弱い    |
| 13. | 暗褐色    |            |            |         |

第202図 第81・84号住居跡実測図



第203図 第81号住居跡カマド実測図

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 1	甕 土師器	A 17.0 B (7.5)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は外上方へ軽くつまみ上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、ナデ。外面、横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 に濃い橙色 普通	15% P 664 カマド覆土

第84号住居跡出土遺物観察表

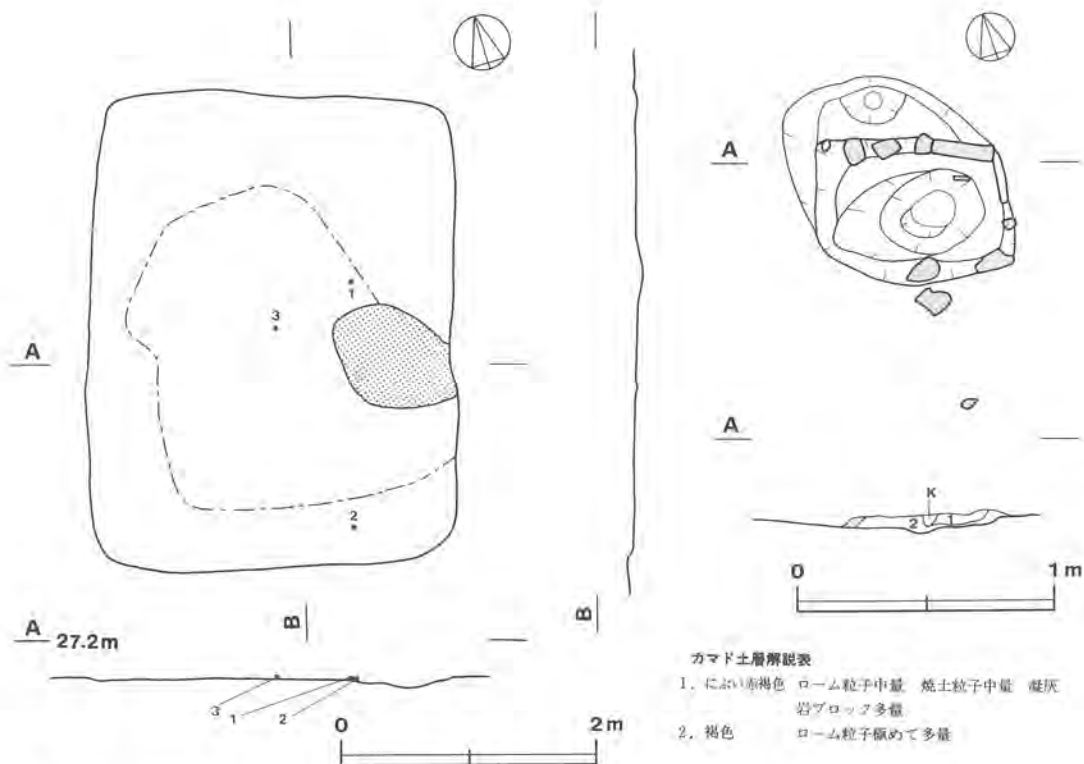
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 1	高台付杯 須恵器	A 13.6 B 5.7 D 6.9 G 0.9	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広い面を成す。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒 灰白色 普通	100% P 704 南西部床面正位 P L 56

第82号住居跡 (第204図)

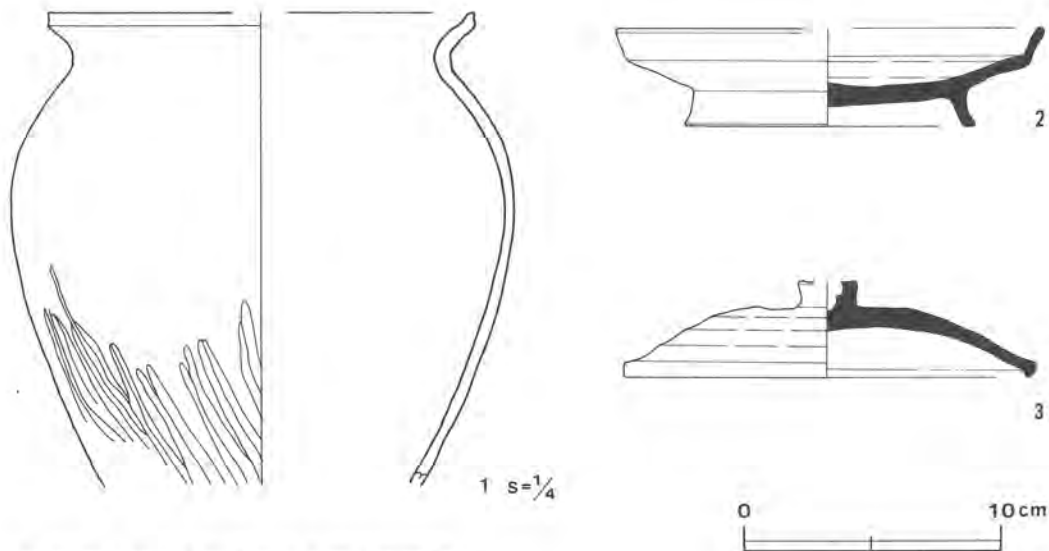
**位置** D3a5区。**平面形** 長方形。**規模** 3.84×2.90m。**主軸方向** N-70°-W。**壁** 外傾。壁高0~4cm。**壁溝** 無。**床** 凹凸。**ピット** 無。**カマド** 東壁南寄り。全長75cm, 幅60cmの範囲で, 凝灰岩の切石が火床部を囲んで, 長方形に配置されたと思われる痕跡が検出された。火床は, 床面とほぼ同じ高さである。**覆土** 削平が著しく, 堆積状況は不明。

**遺物** 土師器片 (甕, 坏) 37点。須恵器片 (蓋, 盤) 2点。砥石1点。第205図1の甕はカマド付近の床面に潰れた状態で出土している。3の蓋は中央部, 2の盤は南東部の床面直上から正位で出土している。遺構の保存状況は良くないが, 遺物は良好に残されている。

**所見** 攪乱が著しいうえに, 遺構確認の段階で既に床面近くまで削平されており, 極めて遺存状態の良くない遺構である。中央部に検出された硬い床面とカマド, 遺物の散布状況, わずかに残った覆土の範囲などから, 平面形や規模が捉えられる。カマドは火床付近のみの検出ではあるが, 長方形に配された凝灰岩の痕跡からみて, ほかのカマドとは違った形態であったことが推測される。



第204図 第82号住居跡・カマド実測図



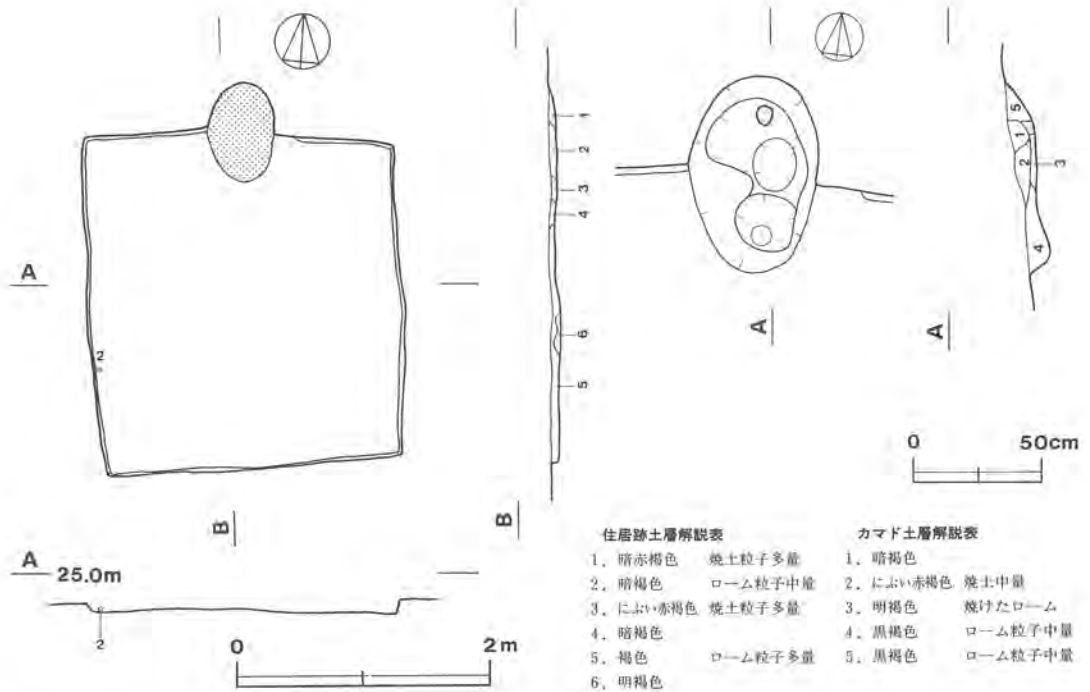
第205図 第82号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	甕 土師器	A (22.3) B (25.4)	胴部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方につまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部内面、横位のヘラナデ。外面、縦位のヘラ削り後、ヘラ磨き。	砂粒・雲母にふい橙色。普通	20% P665 カマド付近床面
2	盤 須恵器	A (16.8) B 3.9 D 11.4	平底。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 灰色 普通	60% P666 南東部床面直上 正位
3	蓋 須恵器	A 16.2 B 3.9 F (2.4)	天井部は浅く丸い。狭く平坦な頂部からなだらかに下降し、外周部で軽く外反する。口縁部は短く垂下する。腰高で上部が平坦なつまみが付く。	天井部、径8.6cmにわたり、回転ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	95% P667 中央部床面正位 P L57

第83号住居跡 (第206図)

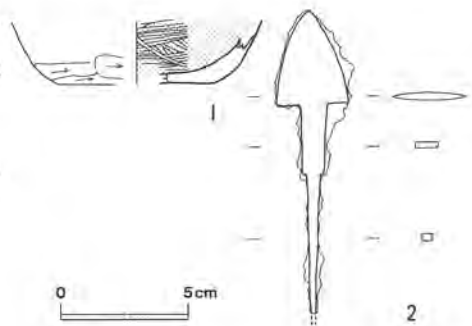
位置 H4j3区。重複関係 SI-52より古い。平面形 方形。規模 2.74×2.50m。主軸方向 N-9°-W。壁 直立。壁高7~12cm (SI-52の床面との比高。確認面からは約35~40cmの深さである)。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁中央。全長78cm, 幅51cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約40cm。火床は、床面とほぼ同じ高さで使用されている。燃焼部の奥に検出された凝灰岩片は、支脚の一部と思われる。覆土 人為堆積。SI-52の貼床がなされている。



第206図 第83号住居跡・カマド実測図

遺物 土師器片(甕, 坏) 117点。須恵器片(甕, 坏, 蓋) 12点。鉄製品(鏃) 1点。細かい破片が床面、及び覆土から出土している。

備考 本跡はSI-52調査終了後、そのほぼ中央から検出されている。



第207図 第83号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

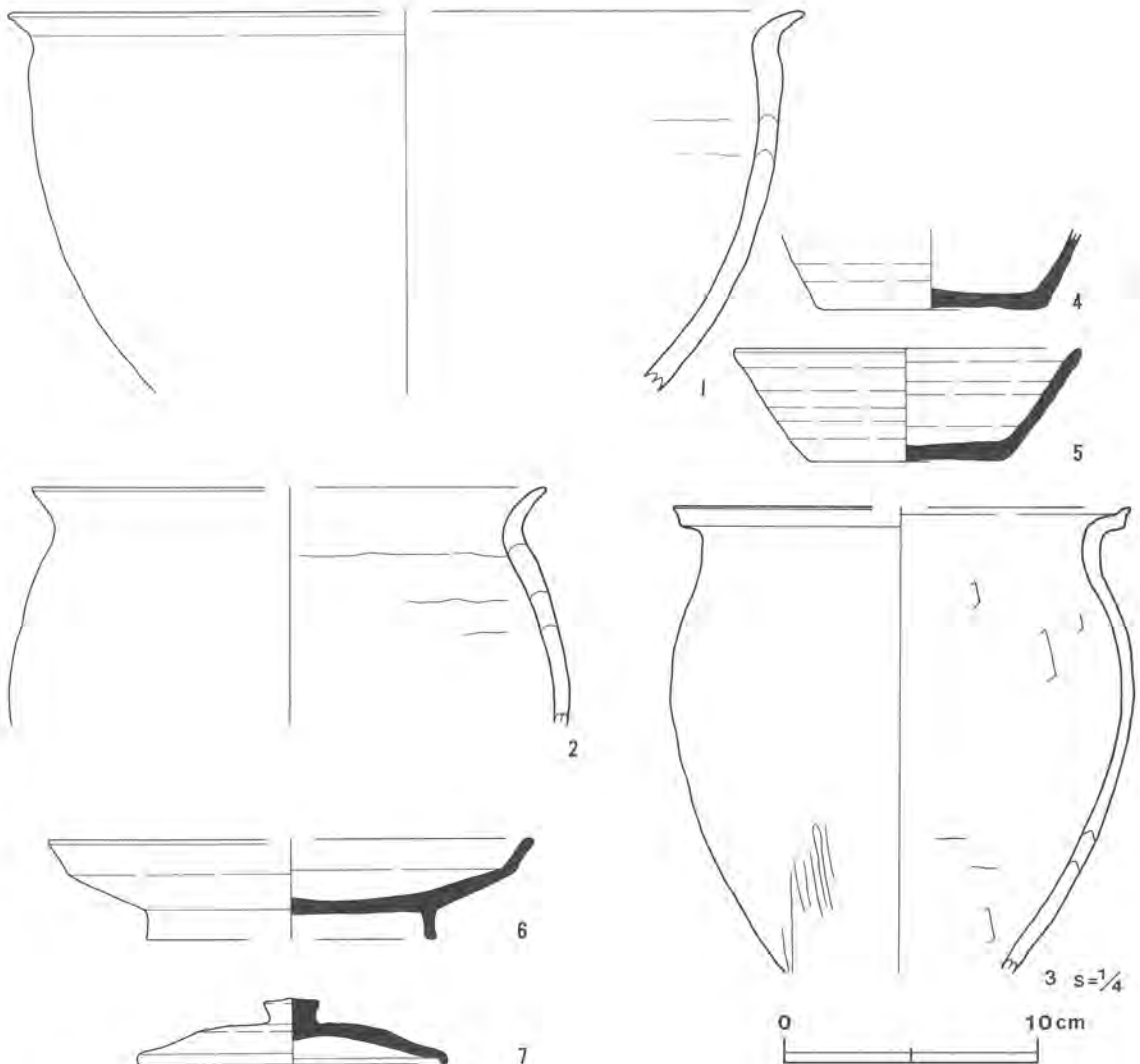
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 1	坏 土師器	B [ 2.5] C ( 6.2)	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、静止糸切り後、回転ヘラ削り。体部下端付近、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母にふい橙色普通	5% P668 北東部覆土
図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
2	鏃	全長 [12.0]	鏃身長3.8 鏃身幅2.9	西壁際床面出土。 M67		

第85号住居跡 (第209図)

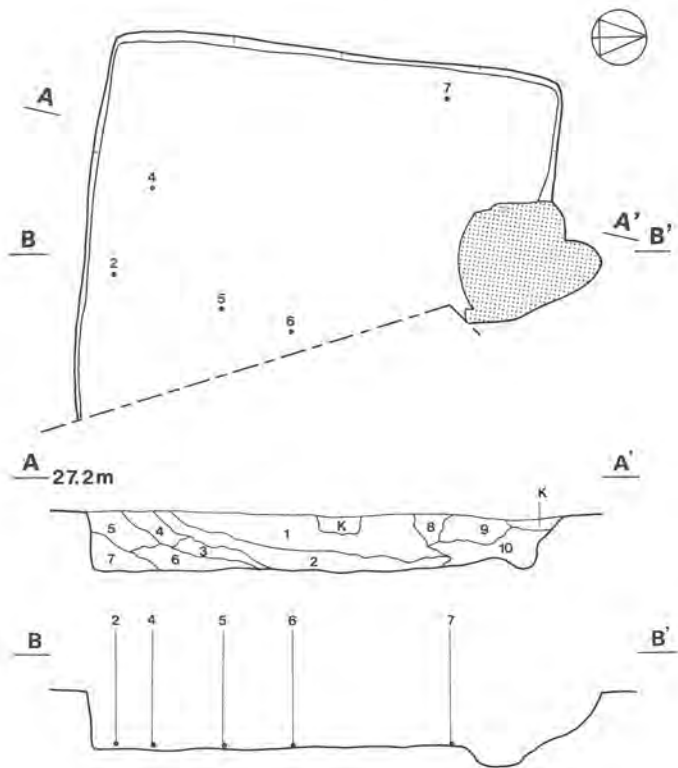
位置 D3c8区。平面形 方形。規模 3.65×[3.10]m。主軸方向 N-9°-E。壁 直立。壁高44~50cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁西寄り。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長110cm, 幅98cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約50cm。火床は, 床面より15cm程深く掘り窪め, ロームブロックを含む土で整地した後, その上面が使用されている。火床奥にある小さな窪みは, 支脚を置いた痕跡と思われる。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片 (甕) 116点。須恵器片 (甕, 坏, 盤, 蓋) 6点。カマド付近のほか, 南部の床面, 及び覆土から出土している。

備考 東側の調査区域外へ遺構が延びており, 西側部分のみの調査に留まる。

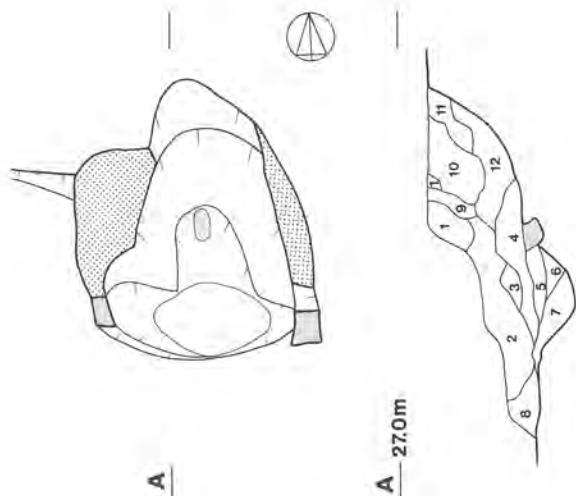


第208図 第85号住居跡出土遺物実測図



住居跡土層解説表

- |        |         |            |          |
|--------|---------|------------|----------|
| 1. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック多量 | 粘性弱い     |
| 2. 褐色  | ローム粒子中量 |            |          |
| 3. 褐色  | ローム粒子中量 |            |          |
| 4. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック多量 | 粘性弱い     |
| 5. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 | 粘性弱い     |
| 6. 褐色  | ローム粒子多量 | ローム小ブロック中量 |          |
| 7. 褐色  | ローム粒子中量 |            | 粘性・しまり弱い |
| 8. 褐色  | ローム粒子多量 |            | 粘性・しまり弱い |
| 9. 褐色  | ローム粒子多量 |            | 粘性弱い     |
| 10. 褐色 |         | 粘土ブロック中量   |          |



カマド土層解説表

- |            |                  |            |      |
|------------|------------------|------------|------|
| 1. 褐色      | ローム粒子多量          | ローム小ブロック中量 |      |
| 2. にぶい黄褐色  | 粘土多量             |            |      |
| 3. にぶい黄褐色  | 粘土少量             |            |      |
| 4. 暗赤褐色    | 焼土粒子多量           | 焼土小ブロック多量  |      |
| 5. 赤褐色     | 焼土               |            |      |
| 6. 褐色      | 施けたローム小ブロック極めて多量 |            |      |
| 7. 暗褐色     | ローム粒子多量          |            |      |
| 8. 褐色      | ローム粒子多量          |            |      |
| 9. 暗褐色     | ローム粒子中量          |            |      |
| 10. にぶい黄褐色 | 焼土小ブロック中量        | 粘土極めて多量    | 粘性強い |
| 11. 褐色     | ローム粒子中量          |            |      |
| 12. 暗赤褐色   | 焼土粒子多量           |            |      |



第209図 第85号住居跡・カマド実測図



出土遺物観察表

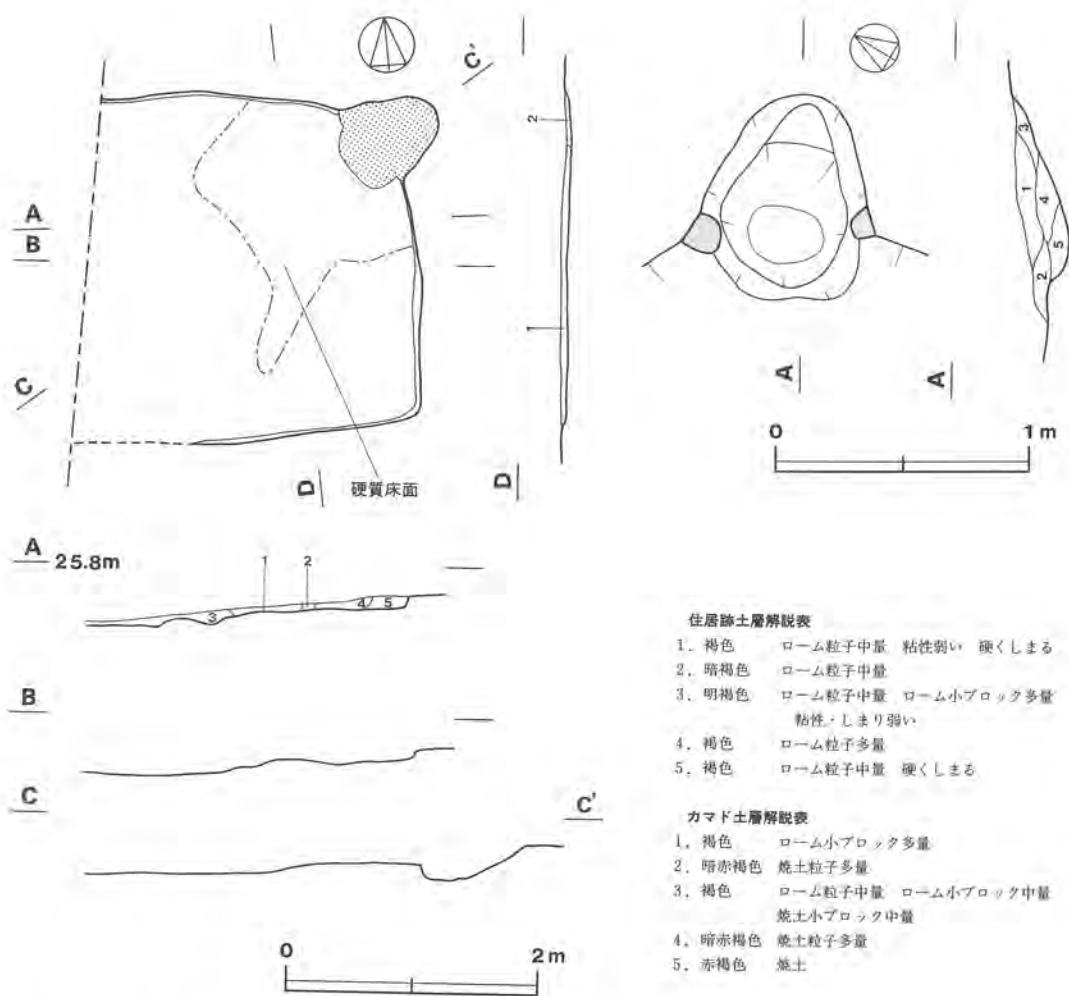
図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	甕 土師器	A (31.5) B (15.1)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 頸部は「く」の字状に外反する。 口縁部に最大径をもつ。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内・外面、ナデ。内・外面にお ずかに輪積み痕を残す。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% P 726 カマド覆土
2	甕 土師器	A (20.4) B (9.5)	胴部は内彎しながら立ち上がる。 頸部から口縁部にかけて丸味を もって外反する。口唇部は丸い。	口頸部内・外面、横ナデ。その 他ナデ。胴部内面に輪積み痕を 部分的に残す。	砂粒・雲母 橙色 普通	15% P 690 カマド覆土・南 部覆土下層
3	甕 土師器	A (23.8) B (25.0) E (24.3)	胴部は内彎しながら立ち上がり、 上位に最大径をもつ。頸部は強 く外反して、口縁部は外方へ開 く。口縁端部は外上方へつまみ 出される。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、横位のヘラナデ。外面上 位、ナデ。中位以下、縦位のヘ ラ磨き。磨滅のため、調整痕は 不明瞭。	砂粒・雲母・石英 にふい橙色 普通	30% P 669 カマド覆土
4	坏 須恵器	B (3.2) C (8.8)	平底。体部は外傾して立ち上が る。	底部、回転ヘラ切り後、多方向 のヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	30% P 672 南部覆土下層
5	坏 須恵器	A 13.5 B 4.5 C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上が り、口唇部は丸い。	底部、回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒 灰色 不良	80% P 671 中央部覆土下層 ヘラ記号P L 54
6	盤 須恵器	A (19.0) B 4.0 D (11.4)	平底。直立する高台が付く。体 部は直線的に立ち上がり、口縁 部は軽く外反する。口唇部は丸 い。	底部、回転ヘラ削り後、高台貼 り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	30% P 673 中央部床面逆位
7	蓋 須恵器	A 12.3 B 2.6 F 2.2 H 0.9	腰高で、中央が軽く盛り上がる つまみが付く。天井部はなだら かに下降し、周縁部で軽く外反 する。口縁部は短く垂下する。	天井部、径7.5cmにわたって回転 ヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	60% P 674 北西部床面逆位 P L 57

第86号住居跡 (第210図)

位置 E3f3区。平面形 方形。規模 2.60×〔1.65〕m。南北軸方向 N-6°-E。壁 外傾。壁高0~10cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北東コーナー。粘土で構築。焼き口部に凝灰岩を使用。全長80cm, 幅76cm, 煙道部の壁面への掘り込みは約55cm。火床は, 床面とはほぼ同じ高さである。覆土 残りがわずかなため, 堆積状況は不明。

遺物 土師器片 (甕, 平鉢) 117点。須恵器片 (坏) 4点。いずれも小破片で, 主に覆土から出土している。

備考 本跡は, カマドを含む北東部以外は, 遺構確認の段階で床面以下まで削平されており, 全体を捉えられない。



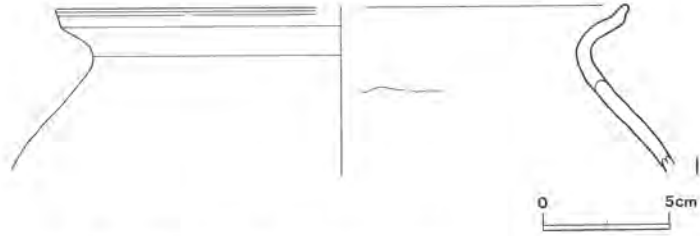
住居跡土層解説表

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 1. 褐色  | ローム粒子中量 粘性弱い 硬くしまる             |
| 2. 暗褐色 | ローム粒子中量                        |
| 3. 明褐色 | ローム粒子中量 ローム小ブロック多量<br>粘性・しまり弱い |
| 4. 褐色  | ローム粒子多量                        |
| 5. 褐色  | ローム粒子中量 硬くしまる                  |

カマド土層解説表

- |         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 1. 褐色   | ローム小ブロック多量                      |
| 2. 暗赤褐色 | 焼土粒子多量                          |
| 3. 褐色   | ローム粒子中量 ローム小ブロック中量<br>焼土小ブロック中量 |
| 4. 暗赤褐色 | 焼土粒子多量                          |
| 5. 赤褐色  | 焼土                              |

第210図 第86号住居跡・カマド実測図

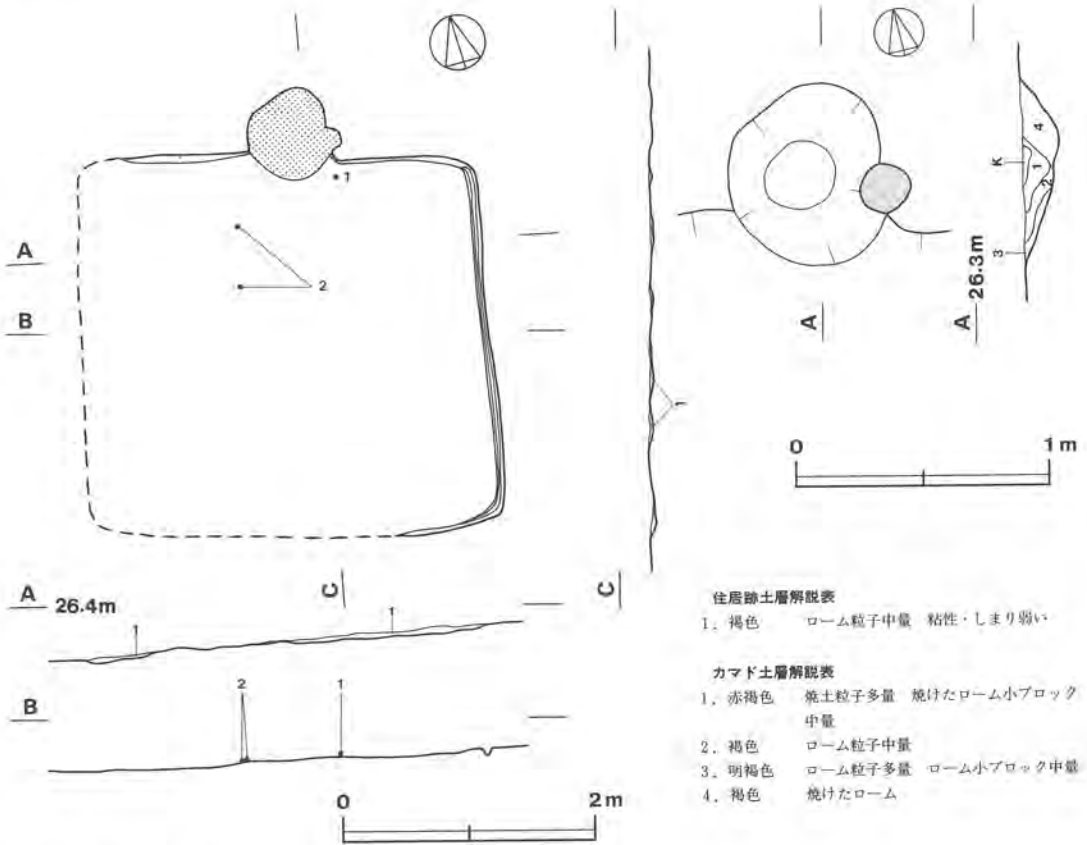


第211図 第86号住居跡出土遺物実測図

出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第211図 1	甕 土師器	A (22.7) B [ 6.7]	張りの強い胴部から、頭部は丸味をもって外反し、口縁端部は外上方へつまみ出される。	口頸部内・外面、横ナデ。その他、ナデか。	砂粒・雲母にふい橙色普通	5% P675 カマド覆土

第87号住居跡 (第212図)

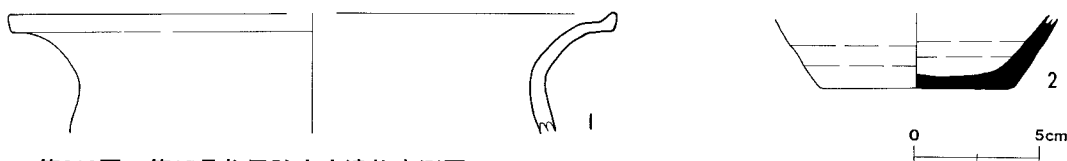


第212図 第87号住居跡・カマド実測図

**位置** E3c6区。**平面形** 方形。**規模** [3.15×3.00]m。**主軸方向** N-10°-E。**壁** 不明。**壁溝** 東壁際に検出。上幅5～7cm。深さ5cm前後。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。焚き口部に凝灰岩を使用。火床部のみ検出。全長72cm，幅72cm，壁面への掘り込みは約50cm。床面より10cm程掘り窪められている。**覆土** 覆土の残りがわずかなため，堆積状況は不明。

**遺物** 土師器片（甕，高台付坏）28点。須恵器片（甕，坏）2点。カマド付近の床面から極く少量出土している。

**備考** 遺構確認の段階で，床面が露出して検出された。耕作による攪乱も多く，西部は削平され，失われているが，カマドと中央部の硬い床面，及び東壁際の壁溝から，形状をほぼ捉えることができた。



第213図 第87号住居跡出土遺物実測図

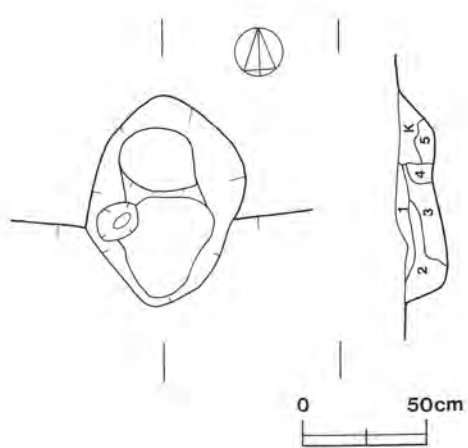
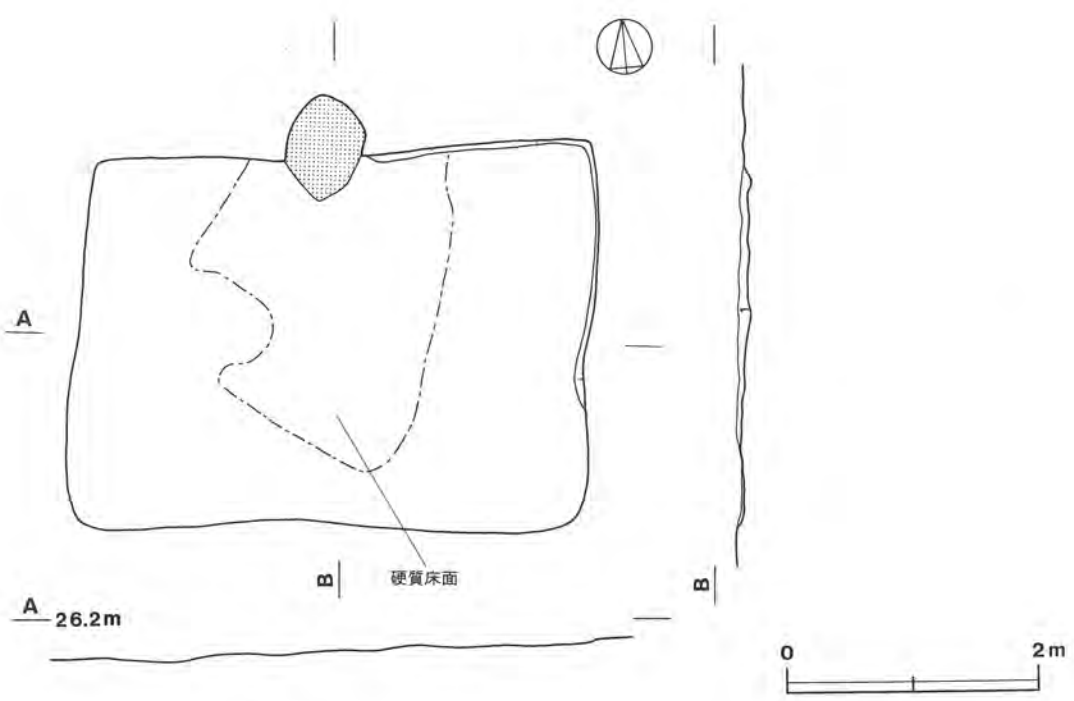
### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	土師器 甕	A (24.2) B (4.8)	頸部から口縁部にかけて丸味をもって外反する。口縁端部は上方につまみ上げられる。	内外面とも磨滅が著しく，調整痕は不明。	砂粒・スコリア に よ い 橙 色 普 通	5% P676 カマド付近床面
2	須恵器 坏	B (3.0) C (7.8)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部，ナデ。	砂粒 緑灰色 普通	5% P677 中央部床面 へら記号

### 第88号住居跡（第214図）

**位置** E3g5区。**平面形** 長方形。**規模** 4.17×3.12m。**主軸方向** N-8°-E。**壁** 外傾。壁高0～6cm。**壁溝** 無。**床** 平坦。**ピット** 無。**カマド** 北壁中央。粘土で構築。凝灰岩を使用（カマドに使用したと思われる凝灰岩片が，中央やや東寄りの床面に散乱している）。火床部のみ検出。上端径85×60cm，壁面への掘り込みは約50cm。床面より15cm程深く掘り窪められている。**覆土** 本来の覆土の残りがわずかなため，堆積状況は不明。

**遺物** 土師器片（甕）33点。須恵器片（甕，坏）5点。中央部から南東部の床面，及び床面直上に散乱して出土している。



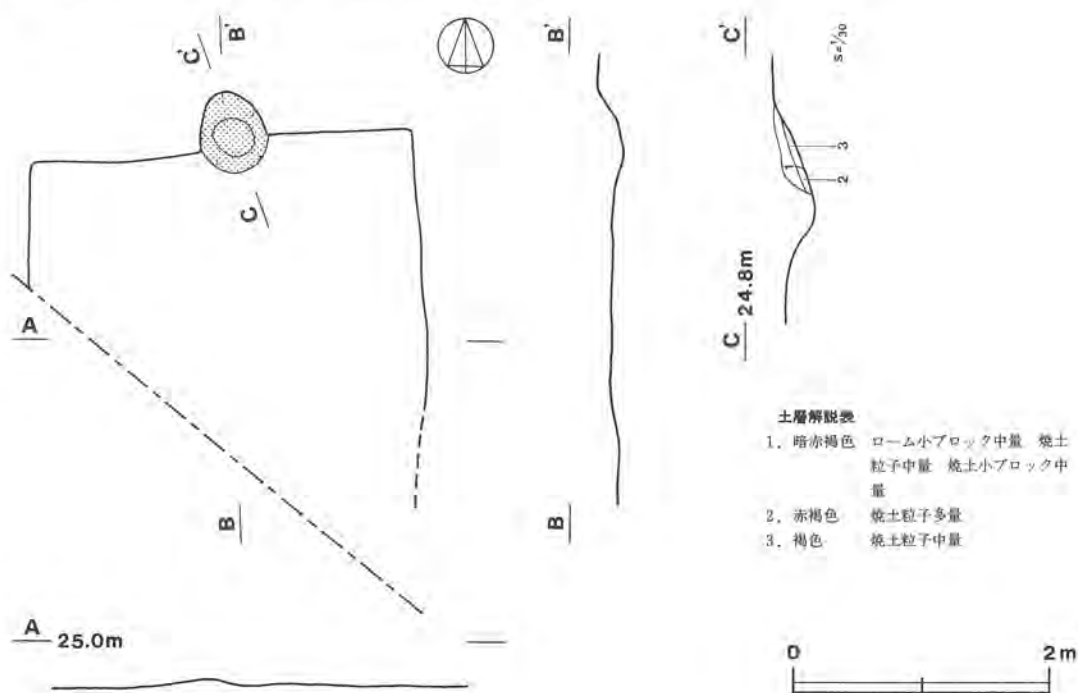
- 住居跡土層解説表**
1. 褐色      ローム粒子中量 粘性・しまり弱い
- 
- カマド土層解説表**
1. 褐色      ローム粒子中量
2. 褐色      ローム小ブロック中量 焼土粒子中量
3. 赤褐色   焼土粒子多量
4. 褐色
5. 明褐色

第214図 第88号住居跡・カマド実測図

第89号住居跡 (第215図)

位置 I3d8区。平面形 方形。規模 [3.05×2.30]m。主軸方向 N-3°-W。壁 不明。壁溝 北壁際の一部に検出。上幅8cm, 深さ3cm。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁。火床部のみ検出。上端径66×56cm, 壁面への掘り込みは約45cm。床面より5cm程深く掘り窪められている。構築材は不明。他の遺構の例からみて粘土と思われる。覆土 不明。遺物 無。

備考 遺構確認の段階で、床面が露出している。



第215図 第89号住居跡実測図

### 第3節 溝

#### 第1号溝 (第217図)

**位置** E4g3区～G3i3区。**規模** 上幅0.65～1.50m, 下幅0.25～0.77m, 深さ0.10～0.45m, 全長〔96.6〕m。**主軸方向** N-19°-E。北北東から南南西に向かってほぼ直線的に延びる。**断面形** 皿状。**底面高度** 最高点は北部のE4h2区内(標高26.40m)にあり, そこから北, 及び南へ傾斜する。南端部(標高24.40m)との比高は2m。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕) 6点。須恵器片(甕, 高台付坏) 15点。鉄滓1点。土器はいずれも小破片で, 覆土からの出土である。中央部から北部を中心に多数の礫(300点弱)が出土している。角のとれた丸味のある礫が多く, 長径は1.7～22.2cm(平均8.6cm)と大小さまざまで, 主として覆土中・上層から出土している。

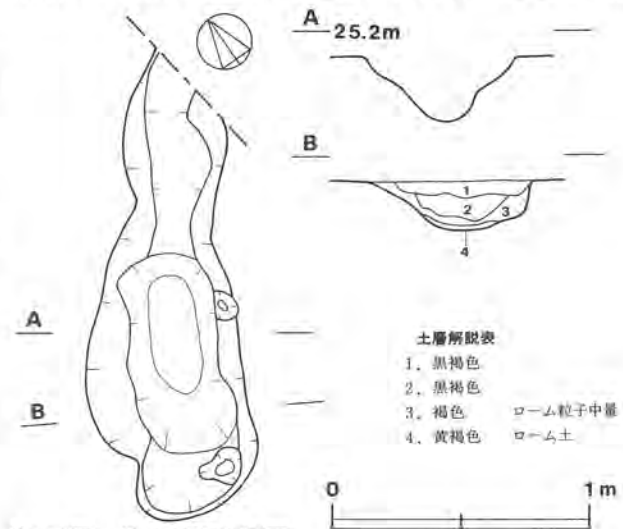
**備考** 本跡は, 細く, 浅い溝で, ビット(上端径12～50cm, 深さ37～62cm)が33か所検出されている。各ビット間の間隔は不規則だが, いずれも中央から東側に寄って, ほぼ全域にわたって分布している。本跡は, 金木場遺跡を海岸側と内陸側とに区分する位置にあり, また, 本跡と重複する遺構は無く, 東西両側に若干の距離を置いて竪穴住居跡が検出されていることから, 奈良・平安時代の集落を区画する溝(柵列)と捉えることもできる。

#### 第2号溝 (第216図)

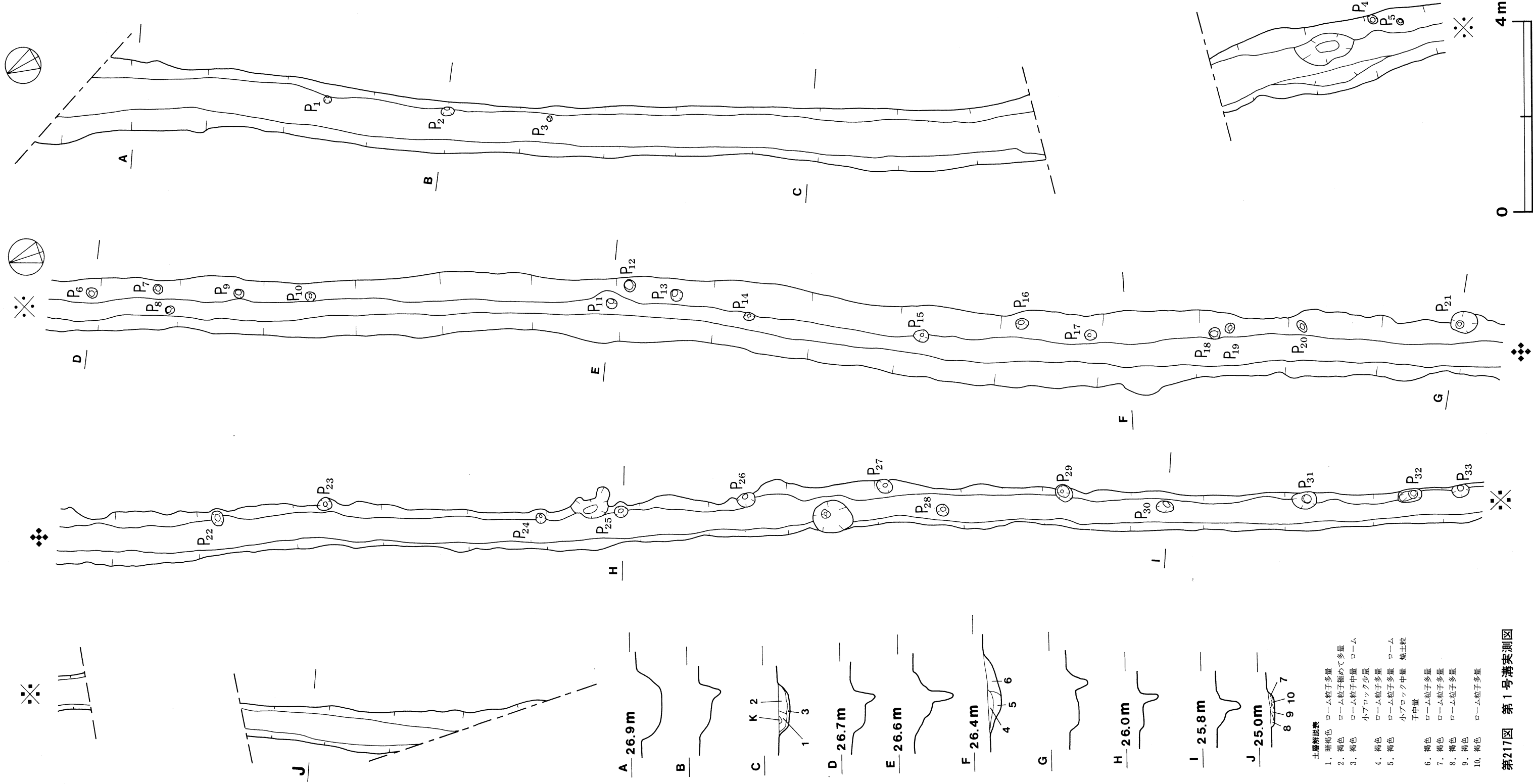
**位置** I4d7区。**規模** 上幅0.52～1.23m, 下幅0.28～0.45m, 深さ0.10～0.50m, 全長〔3.75〕m。**主軸方向** N-37°-E。北東から南西にはほぼ直線的に延びる。**断面形** V字状。**底面高度** 北端部に最高点(標高24.91m)をもち, 南部で急に落ち込む(標高24.47m)。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕) 2点。

**備考** 遺構は東側(調査区域外)へ延びている。土師器片が2点出土しているが, 時期・性格は特定できない。



第216図 第2号溝実測図



土層解説表

- 1. 暗褐色 ローム粒子多量
- 2. 褐色 ローム粒子極めて多量
- 3. 褐色 ローム粒子中量 ローム
- 4. 褐色 小アロック少量
- 5. 褐色 ローム粒子少量
- 6. 褐色 ローム粒子多量
- 7. 褐色 ローム粒子多量
- 8. 褐色 ローム粒子多量
- 9. 褐色 小アロック中量 横土粒子中量
- 10. 褐色 ローム粒子多量

第217号溝実測図



## 第4節 その他の遺構

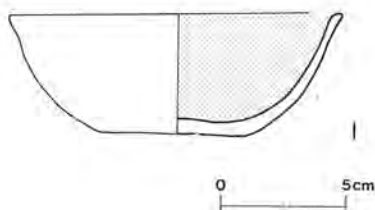
### 1 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡 (第219図)

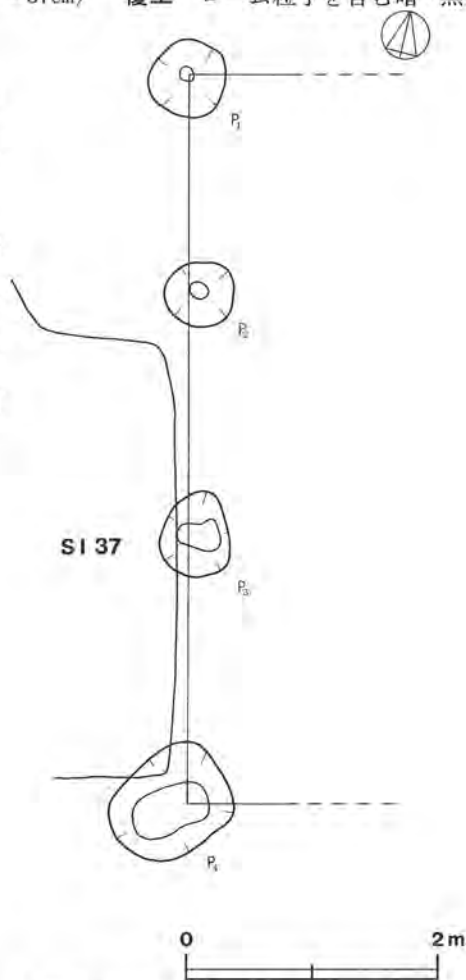
位置 14h7区・14i7区。重複関係 SI-37 (新旧不明)。規模 3間 (5.80m)。梁行のみ検出。  
 梁行方向 N-13°-W。柱間寸法 1.75~2.10m。柱掘り方 P<sub>1</sub> (62×53, -70cm) P<sub>2</sub> (57×47, -52cm) P<sub>3</sub> (54×52, -54cm) P<sub>4</sub> (98×85, -57cm) 覆土 ローム粒子を含む暗・黒褐色土を主体とする。

遺物 土師器片 (甕, 坏) 33点。須恵器片 (坏) 3点。鉄製品 (鏃) 1点。4か所の柱掘り方から出土したものの総数である。

所見 本跡は調査区域の東縁部に位置しており, 対を成す柱の掘り方は東側 (調査区域外) へ延びているものと思われる。重複するSI-37との新旧関係は捉えられなかったが, 遺物からみて, 奈良・平安時代の遺構と判断する。



第218図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第219図 第1号掘立柱建物跡実測図

#### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第218図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.9 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部で軽く外反する。	ロクロ整形。内面, ヘラ磨き, 黒色処理。底部及び体部下端, 回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア に濃い橙色 普通	70% P707 P <sub>2</sub> 確認面 P L49

## 2 土抗

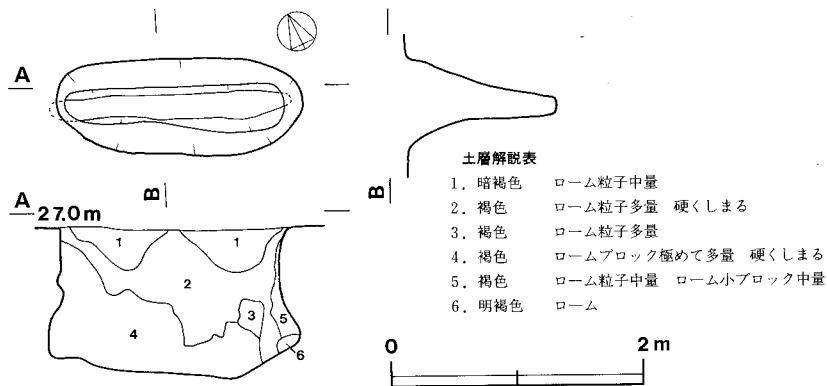
当遺跡で番号を付して調査した土抗の数は83基であるが、遺構の状況等を検討した結果、第63・65・66・67号土抗を掘立柱建物跡、第39～41、43、46、48、50、61号土抗をピットとして取り扱い、欠番とした。その結果、当遺跡から検出された土抗の数は71基となった。

これらの土抗の多くは、調査区域の南側部分に位置する。全体的に小規模で、遺物の出土量も少なく、時期や性格を決定する資料に乏しいものが多い。特徴的な土抗としては、陥し穴と思われる第33号土抗、袋状の形態をもち、大型の第55・81号土抗などが挙げられる。ここでは、以上の3基について、個別に解説を記し、その他は一覧表にまとめて掲載する。

### 第33号土抗 (第220図)

**位置** D3c5区。**平面形** 長楕円形。**規模** 上端径1.95×0.74m、深さ1.20m。**長径方向** N-64°-W。**壁** 直立。**底面** ゆるい起伏。**覆土** 自然堆積。**遺物** 無。

**備考** 重複する遺構や遺物が無く、時期の特定は困難であるが、形態からみて、縄文時代に多い「陥し穴」と考えられる。



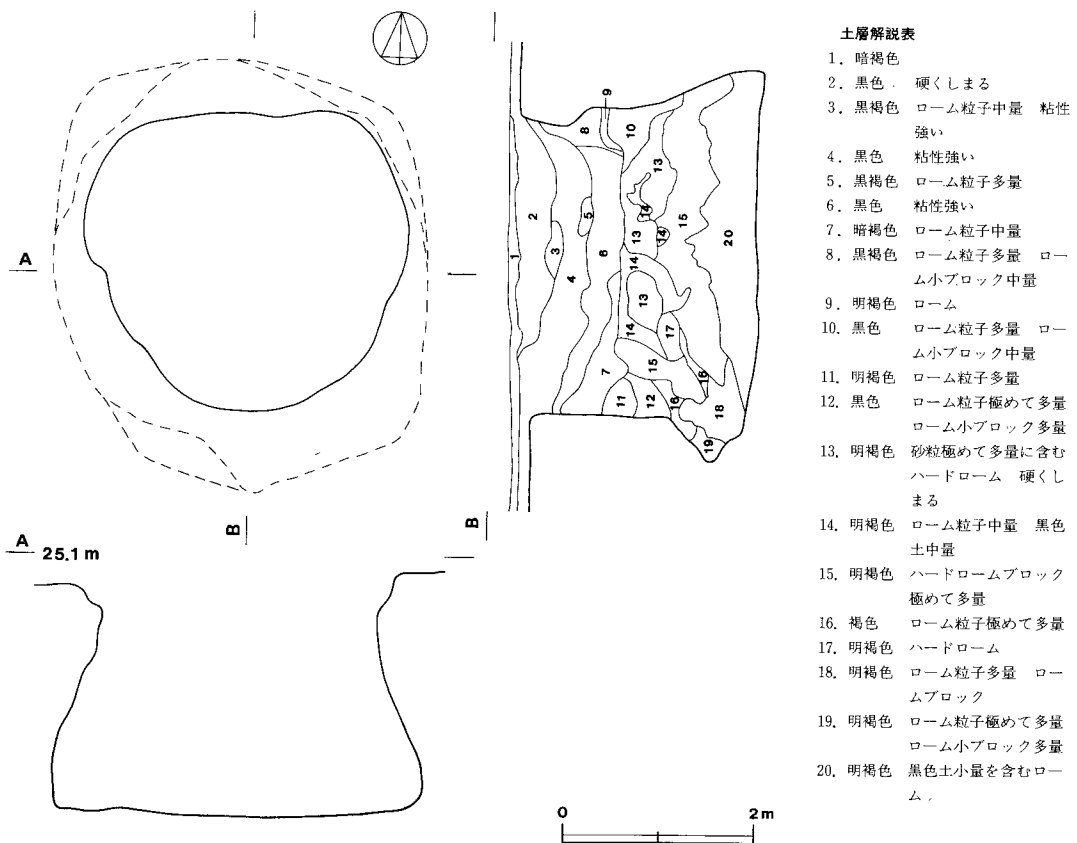
第220図 第33号土抗実測図

### 第55号土抗 (第221図)

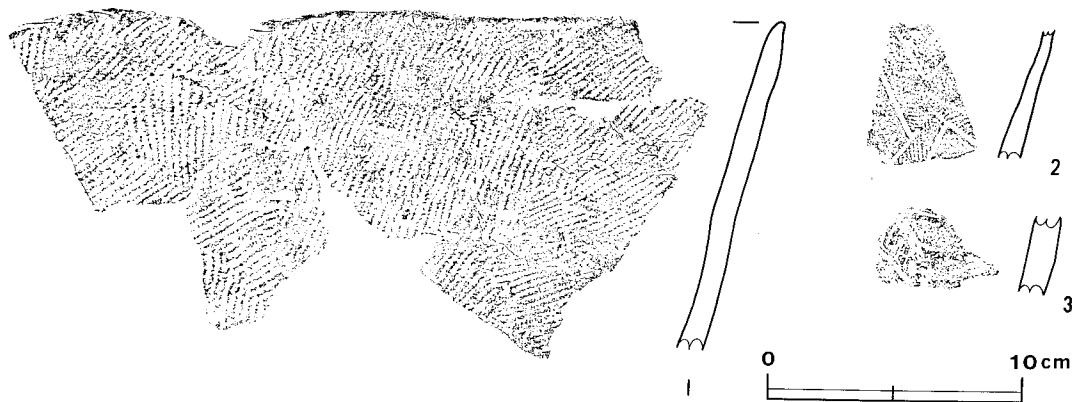
**位置** H4g2区。**平面形** 不整楕円形。**規模** 上端径4.53×3.50m、深さ2.37m。**長径方向** N-12°-W。**壁** 袋状。**底面** 平坦。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 縄文式土器片5点。土師器片(甕, 鉢)12点。いずれも小破片で、覆土上層(黒色土)からの出土である。

**備考** 形態からみれば縄文時代の袋状土抗に類するもので、かなり大型である。時期、性格等は特定されない。



第221号 第55号土抗実測図



第222図 第55号土抗出土遺物拓影図

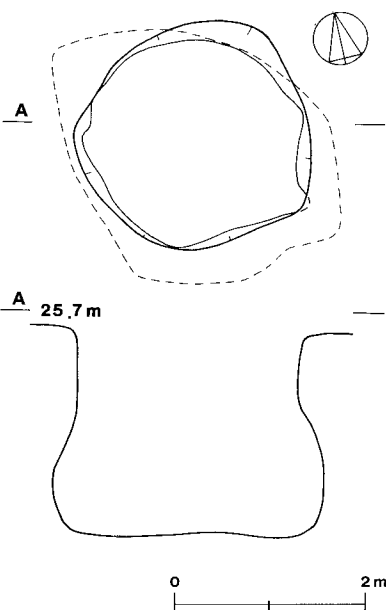
第222図 1～3は縄文式土器で、いずれも第55号土抗から出土したものである。1は口縁部片で、器面全体に縄文（単節RL）が施されている。2は胴部片で、沈線により幾何学的に区画された中を縄文で充填している。3も胴部片で、条線が横・斜位に施されている。

第81号土抗 (223図)

位置 H3d9区。重複関係 SI-63より古い。平面形 不整楕円形。規模 上端径3.55×2.82m, 深さ2.20m。長径方向 N-43°-W。壁 袋状。底面 平坦。覆土 褐色のローム土を主体とし、締まりが弱い。自然堆積。

遺物 土師器片(甕) 6点。須恵器片(坏) 1点。いずれも小破片で、覇土から出土している。

備考 SI-63の床面の陥没した部分から検出する。壁面の崩壊が著しく、遺存状態は良くないが、SK-55とほぼ同じ形態と考えられる。



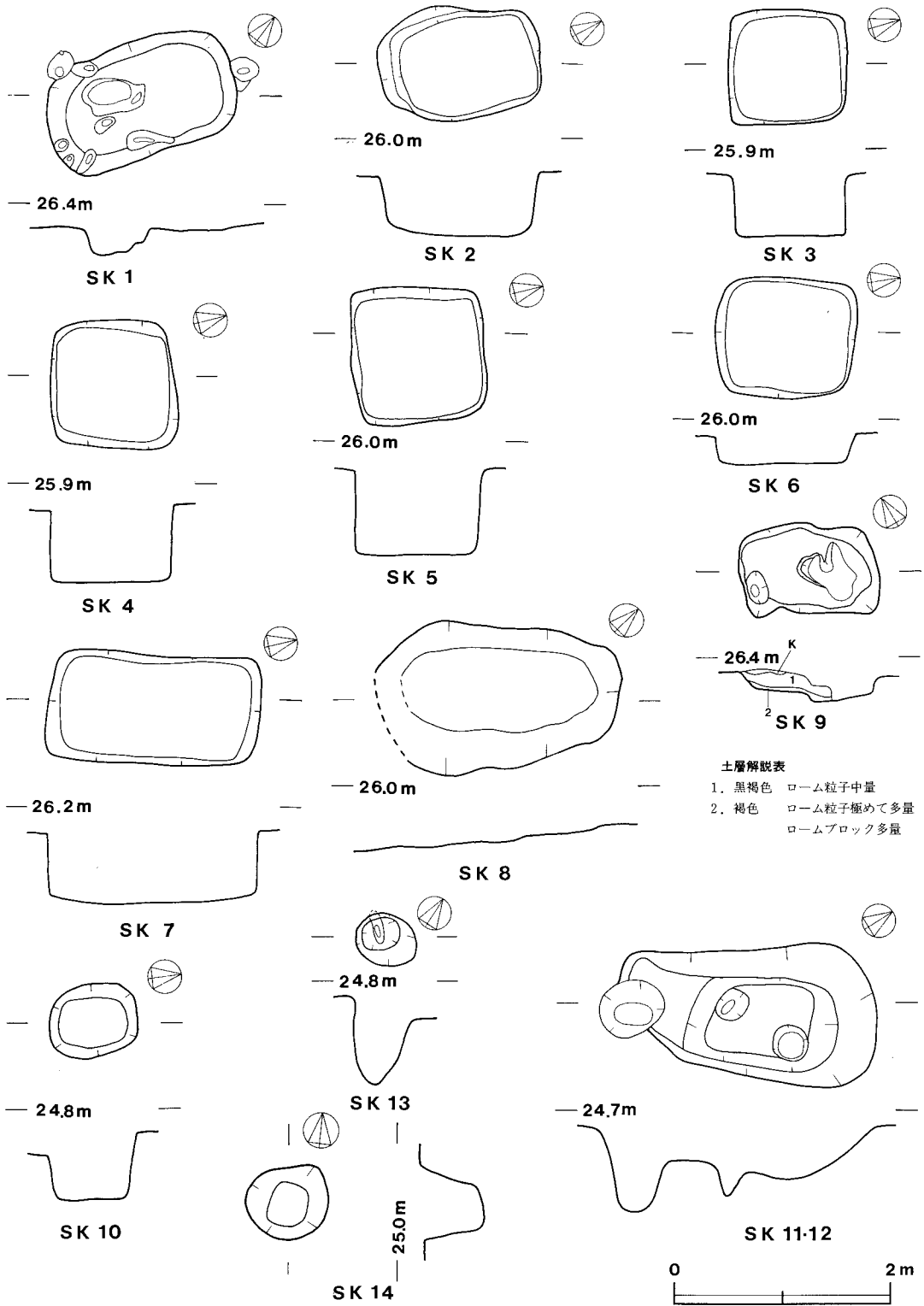
第223図 第81号土抗実測図

表2 金木場遺跡土抗一覧表

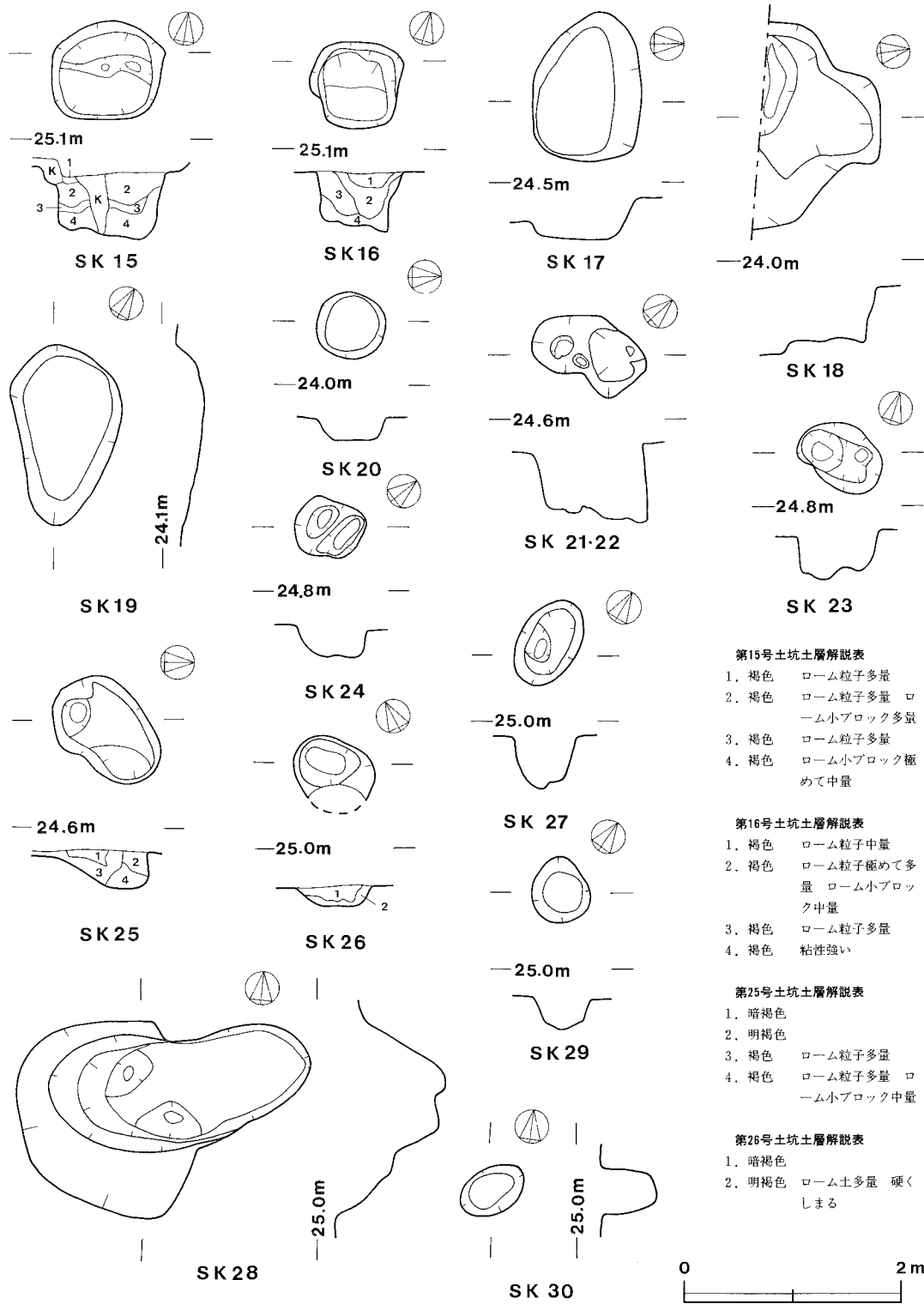
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
1	G4g <sub>5</sub>	N-37°-E	隅丸長方形	1.70 × 1.05	0.27	外傾	凹凸		土師器片11点, 須恵器片2点	
2	G3b <sub>5</sub>	N-18°-E	長方形	1.47 × 1.00	0.58	直立	平坦	人為	土師器片3点	
3	G3b <sub>5</sub>	N-16°-E	方形	1.07 × 1.07	0.54	"	"	"		
4	G3a <sub>5</sub>	N-16°-E	"	1.16 × 1.15	0.70	"	"	"		
5	G3a <sub>5</sub>	N-79°-W	"	1.25 × 1.22	0.74	"	"	"		
6	F3j <sub>5</sub>	N-13°-E	"	1.28 × 1.14	0.27	"	"	"		
7	F3i <sub>5</sub>	N-14°-E	長方形	1.92 × 1.00	0.63	"	"	"		
8	G3c <sub>5</sub>	N-39°-E	隅丸長方形	(2.25) × 1.30	0.15	外傾	"	自然		
9	F3i <sub>5</sub>	N-56°-W	"	1.30 × 0.78	0.12	直立	凹凸	人為		
10	J4e <sub>5</sub>	N-3°-E	方形	0.82 × 0.68	0.65	"	平坦	"	縄文式土器片1点, 土師器片14点, 須恵器片1点	
11	J4e <sub>5</sub>	N-39°-E	不整楕円形	2.35 × 0.88	0.40	外傾	皿状	自然		SK-12と重複
12	J4e <sub>5</sub>	N-37°-E	円形	(0.58) × 0.45	0.76	直立	"	人為		SK-11と重複
13	J4b <sub>5</sub>	N-79°-E	"	0.61 × 0.43	0.78	"	"	"	縄文式土器片5点, 土師器片1点	
14	I4j <sub>6</sub>	N-11°-E	"	0.71 × 0.68	0.55	"	"	"	土師器片9点	
15	I4h <sub>3</sub>	N-15°-W	"	0.93 × 0.85	0.60	"	凹凸	"	土師器片11点	SI-18と重複
16	I4h <sub>4</sub>	N-20°-W	隅丸方形	0.81 × 0.65	0.40	"	"	"	土師器片4点	SI-19と重複

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
17	J4e.	N-77°-W	不整楕円形	1.39 × 0.99	0.33	外 傾	平 坦	自然	土師器片13点	
18	J4i3	N-79°-W	不 定 形	1.87 × [1.13]	0.45	"	凹 凸	人為	縄文式土器片1点, 土師器片6点, 須惠器片2点	
19	J4g4	N-22°-W	不整楕円形	1.68 × 0.98	0.20	"	皿 状	"	土師器片33点, 須惠器片2点	
20	J4e4	N-57°-W	円 形	1.35 × 1.19	0.20	"	平 坦	自然	土師器片2点	
21	J4f6	N-51°-E	"	0.55 × [0.53]	0.55	直 立	凹 凸	人為	土師器片2点	SK-22と重複
22	J4f6	N-45°-W	隅丸方形	0.63 × 0.52	0.57	"	"	"	縄文式土器片1点, 土師器片5点, 須惠器片1点	SK-21と重複
23	J4d4	N-74°-E	楕 円 形	0.81 × 0.56	0.42	"	"	自然		
24	J4e6	N-30°-E	隅丸方形	0.67 × 0.50	0.36	外 傾	"	人為		
25	J4e6	N-49°-E	楕 円 形	1.12 × 0.69	0.40	外 傾	凹 凸	人為	土師器片3点	
26	J4b5	N-31°-W	"	0.80 × 0.66	0.20	"	皿 状	自然	土師器片2点, 須惠器片2点	
27	I4j6	N-5°-E	"	0.80 × 0.56	0.48	"	凹 凸	"		
28	I4i6	N-71°-E	不整楕円形	2.73 × 1.02	0.58	"	"	"	縄文式土器片1点, 土師器片5点	SI-37と重複
29	I4j5	N-38°-W	円 形	0.61 × 0.54	0.30	"	"	"		
30	I4i5	N-50°-E	楕 円 形	0.62 × 0.41	0.50	直 立	皿 状		縄文式土器片1点, 土師器片7点, 須惠器片2点	
31	I4i4	N-12°-W	隅丸長方形	1.28 × 0.90	0.45	"	凹 凸	人為	土師器片25点, 須惠器片2点	
32	I4j5	N-80°-E	長 方 形	1.20 × 0.72	1.12	"	"	"	土師器片18点, 須惠器片5点	
33	D3c5	N-64°-W	長楕円形	1.95 × 0.74	1.20	"	"	自然		陥し穴状遺構
34	D3d7	N-11°-W	楕 円 形	1.21 × 1.04	0.57	"	平 坦	人為		
35	I4a1	N-39°-E	円 形	1.15 × 1.14	0.57	外 傾	皿 状	"		
36	I4g1	N-57°-E	不 定 形	0.97 × 0.72	0.58	直 立	凹 凸	"		
37	H4g6	N-24°-E	楕 円 形	0.91 × 0.69	0.34	"	皿 状	"		
38	H4c2	N-38°-W	不 定 形	0.78 × 0.42	0.43	"	凹 凸	"	土師器片11点, 須惠器片1点	
42	I4c5	N-28°-E	不整楕円形	1.40 × 0.97	0.33	外 傾	凹 凸	自然		SI-48と重複
44	I4i6	N-46°-E	楕 円 形	1.02 × 0.70	0.92	"	皿 状	人為	縄文式土器片1点, 土師器片11点, 須惠器片3点	
45	I4h4	N-51°-E	円 形	0.94 × 0.86	0.38	外 傾	平 坦	自然		
47	H4g4	N-45°-E	不整円形	0.64 × 0.62	0.35	直 立	凹 凸	"	土師器片1点	
49	H4g4	N-43°-W	円 形	0.70 × 0.65	0.21	外 傾	平 坦	自然		
51	H4j4	N-27°-W	不整楕円形	2.00 × 1.70	0.68	"	皿 状	人為		
52	H4j5	N-43°-E	"	2.00 × 1.24	0.66	"	凹 凸	自然	土師器片1点	
53	H4i6	N-46°-E	不整円形	1.67 × 1.46	0.48	"	皿 状	人為		
54	H3c9	N-53°-E	"	0.97 × 0.80	0.26	"	凹 凸	自然		
55	H4g2	N-12°-W	"	4.53 × 3.50	2.37	内 傾	平 坦	"	縄文式土器片5点, 土師器片12点	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
56	I4e <sub>7</sub>	N-25°-E	不定形	(0.55) × 0.50	0.28	外傾	平坦		土師器片1点, 須恵器片1点	SI-40と重複
57	I4b <sub>3</sub>	N-47°-W	不整楕円形	1.80 × 1.20	0.57	"	凹凸	自然		
58	I4d <sub>3</sub>	N-50°-E	"	0.93 × 0.58	0.45	"	"	人為		
59	I4e <sub>4</sub>	N-39°-W	方形	1.12 × 1.02	0.35	直立	"	自然	土師器片1点, 須恵器片2点	
60	I4d <sub>6</sub>	N-35°-E	楕円形	1.35 × 0.98	0.62	"	"	"		
62	I4h <sub>8</sub>	N-34°-W	"	1.30 × 0.70	0.38	"	"	"	縄文式土器片1点, 土師器片14点	
64	I4h <sub>7</sub>	N-49°-E	不整楕円形	1.01 × 0.52	0.55	直立	"	"		
68	I4i <sub>3</sub>	N-50°-E	円形	0.65 × 0.62	0.20	外傾	"	"	土師器片4点	SI-18と重複
69	I4i <sub>3</sub>	N-18°-W	隅丸長方形	1.00 × 0.72	0.32	直立	凹凸	"	須恵器片1点	SI-18と重複
70	H4b <sub>2</sub>	N-42°-W	円形	0.74 × 0.74	0.46	外傾	皿状	"		
71	I4h <sub>8</sub>	N-38°-W	楕円形	1.01 × 0.83	0.52	"	"		土師器片1点, 須恵器片2点	
72	I4i <sub>4</sub>	N-6°-E	隅丸長方形	1.28 × (0.88)	0.63	"	"	自然		SI-19・68と重複
73	I4i <sub>6</sub>	N-25°-E	楕円形	0.78 × 0.50	0.61	直立	凹凸	"	土師器片4点, 須恵器片1点	
74	D3f <sub>8</sub>	N-30°-E	円形	0.70 × 0.65	0.38	外傾	皿状	人為		
75	D3f <sub>8</sub>	N-26°-W	不整楕円形	0.77 × 0.63	0.26	"	凹凸	"		
76	D3e <sub>7</sub>	N-17°-E	円形	0.67 × 0.60	0.25	"	皿状	"		
77	D3g <sub>4</sub>	N-22°-W	方形	0.53 × 0.45	0.37	直立	平坦	"	土師器片3点	
78	H4f <sub>2</sub>	N-37°-E	楕円形	0.80 × 0.78	0.84	"	"			
79	H3f <sub>9</sub>	N-4°-W	長方形	0.70 × 0.40	0.49	"	皿状	自然	土師器片9点, 須恵器片1点	SI-58と重複, 底面が焼けている
80	I4g <sub>5</sub>	N-15°-W	楕円形	0.73 × (0.59)	0.60	"	"		土師器片1点	SI-39と重複
81	H3d <sub>9</sub>	N-43°-W	不整楕円形	3.55 × 2.82	2.20	内傾	平坦	自然	土師器片6点, 須恵器片1点	SI-63と重複
82	H3b <sub>7</sub>	N-40°-E	楕円形	1.51 × 1.30	0.48	外傾	皿状	"		SI-70と重複
83	I4f <sub>4</sub>	N-19°-W	"	(1.90 × 0.45)	0.50	"	"	"		SI-46と重複

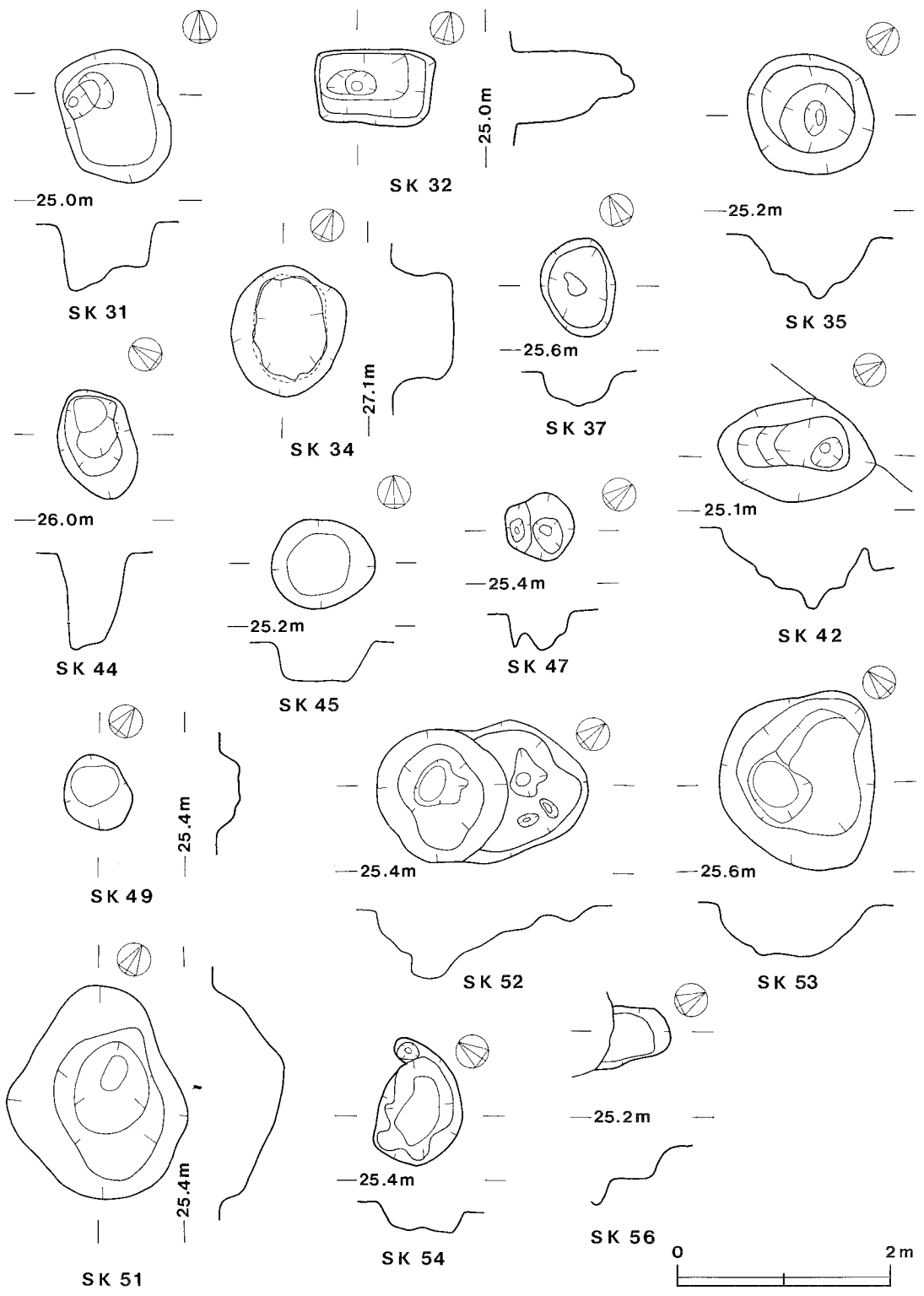


第224図 土坑実測図(1)

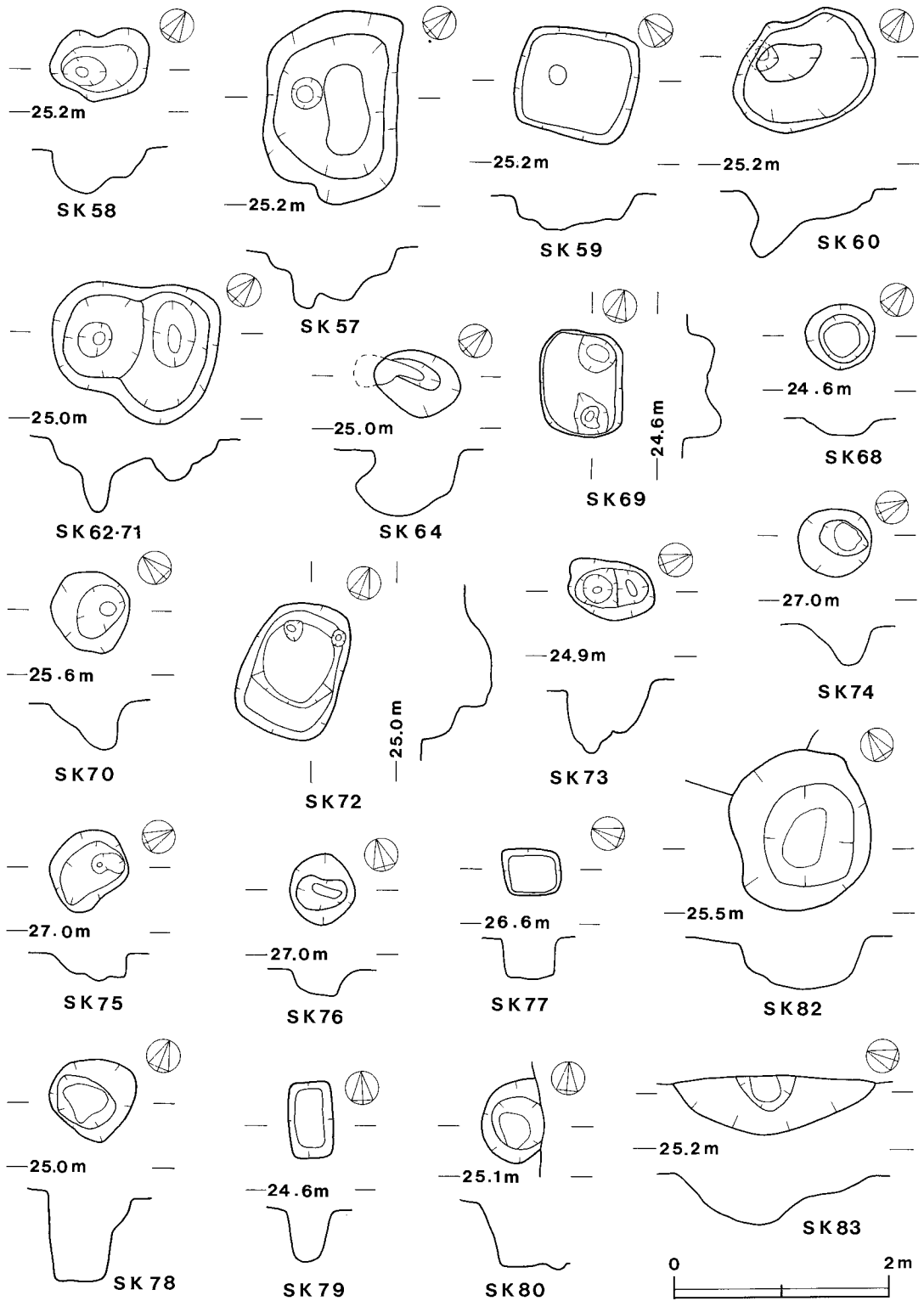


第225図 土坑実測図(2)





第226図 土坑実測図(3)



第227图 土坑实测图(4)

### 3 集石

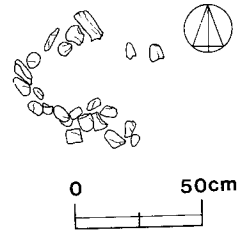
遺構確認の際に、確認面上で、礫が狭い範囲に集積して検出されたものを集石遺構として記録した。当遺跡では、調査区域の中央部から2基検出されている。

#### 第1号集石 (第228図)

**位置** G4i6区。**平面形** 楕円形。**規模** 0.60×0.55m。**長径方向** N-89°-E。**集石の状況** 長径3.9~8.3cm (平均5.7cm) の丸味をもった礫が、25点程、半円形に配されている。

**遺物** 縄文式土器片3点。土師器片2点。

**備考** 集石に伴う掘り込み(土抗)は検出されない。南側に隣接してSI-7(平安時代)が位置する。



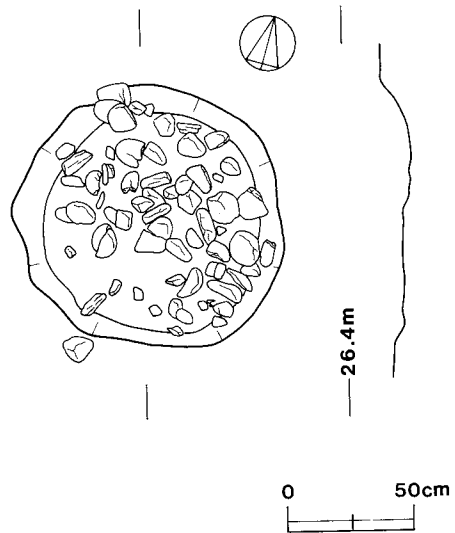
第228図 第1号集石  
実測図

#### 第2号集石 (第229図)

**位置** G4d5区。**平面形** 楕円形。**規模** 1.00×0.72m。**長径方向** N-40°-W。**集石の状況** 長径1.7~22.2cm (平均8.8cm) の礫が楕円形状に密集し、礫の隙間は、煤を混入した黒色土で充填されている。礫は、角の残るものが多く。火を受けた様子が観察される。礫の数は110点程。

**遺物** 礫以外の土器片等は出土していない。

**備考** 集石の下に、上端径1.0~1.1m、深さ0.12mの土抗を検出。遺物も無く、本跡の時期は不明である。



第229図 第2号集石実測図

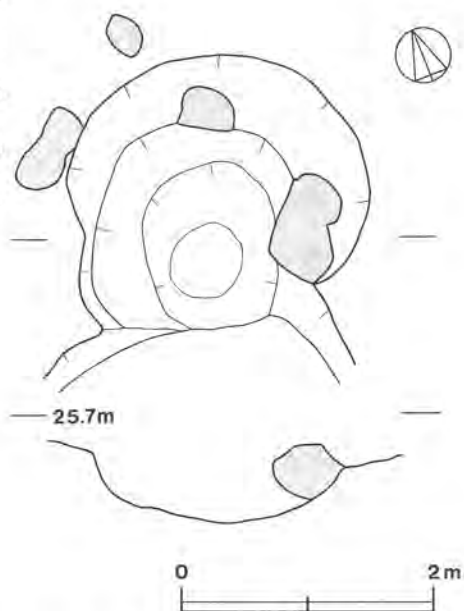
#### 4 性格不明遺構

##### 第1号性格不明遺構 (第230図)

**位置** G4i3区。**重複関係** SI-10より新しく、SI-11より古い。**平面形** 楕円形。**規模** 上端径1.40×1.10m、深さ0.27m。**長径方向** N-24°-E。**構築状況** 地面を楕円形に掘り窪め、それを囲むように凝灰岩が置かれている。底面から壁面にかけて、内面は全体的に強く焼けており、大型の炉、あるいはカマドの形態を示す。**覆土** 上層(灰)、下層(焼土)の2層に分けられる。

**遺物** 無。

**備考** SI-11の北東コーナーに位置している。当初はSI-11のコーナーカマドかとも考えられたが、その規模の大きさや、覆土の状態からみて、別個の遺構と判断する。グリッド発掘の際に本跡の周辺から羽口の一部と思われる小破片が出土していることや、鉄製品の出土が多い当遺跡の状況からみて、小鍛冶に関する遺構の可能性が考えられる。



第230図 第1号性格不明遺構実測図

#### 5 ピット

平面形が円形ないし楕円形を呈し、上端径50cm前後の柱穴状の掘り込みを持つものをピットとして調査した。当遺跡では、調査区域の南側部分から69か所検出されているが、特に規則的な配列は認められない。ここでは、各ピットの規模、遺物等について、一覧表にまとめて掲載する。

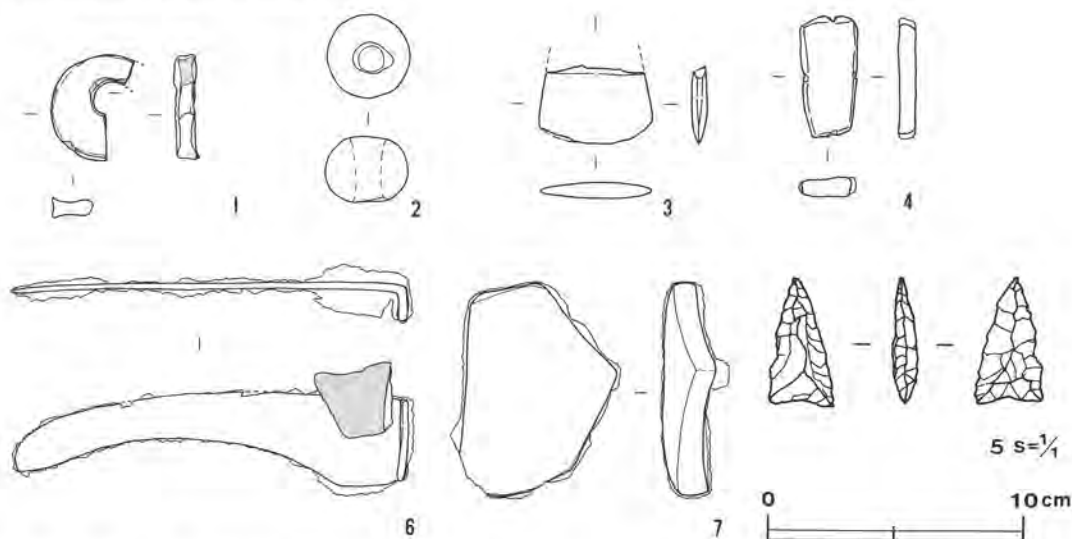
表3 金木場遺跡ピット一覧表

番号	位置	規模		備考(出土遺物)	番号	位置	規模		備考(出土遺物)
		長径×短径(cm)	深さ(cm)				長径×短径(cm)	深さ(cm)	
1	J4f <sub>7</sub>	(25)×25	34		33	I4e <sub>5</sub>	47×31	45	土師器片2点
2	J4f <sub>7</sub>	(25)×21	38		34	I4d <sub>5</sub>	60×33	44	
3	J4f <sub>7</sub>	36×33	26	土師器片15点	35	I4e <sub>3</sub>	35×33	49	
4	J4e <sub>6</sub>	21×16	66		36	I4c <sub>5</sub>	32×31	31	
5	J4e <sub>6</sub>	44×42	44		37	I4b <sub>2</sub>	36×30	25	
6	I4i <sub>5</sub>	53×44	23	土師器片4点	38	I4a <sub>4</sub>	51×42	41	土師器片7点, 須惠器片1点
7	J4e <sub>7</sub>	35×31	62		39	H4j <sub>6</sub>	57×36	46	
8	J4d <sub>5</sub>	39×31	20		40	H4i <sub>6</sub>	26×24	42	
9	J4d <sub>5</sub>	36×32	39	土師器片1点, 須惠器片1点	41	H4i <sub>6</sub>	32×29	85	
10	J4d <sub>5</sub>	60×56	43	土師器片4点, 須惠器片2点	42	H4h <sub>5</sub>	39×33	22	
11	J4d <sub>4</sub>	43×35	38		43	H4h <sub>6</sub>	57×52	36	
12	J4d <sub>5</sub>	61×50	51	土師器片1点	44	H4c <sub>1</sub>	37×25	37	
13	I4i <sub>5</sub>	43×39	31	土師器片2点	45	H4g <sub>6</sub>	57×51	44	
14	I4i <sub>5</sub>	44×33	37		46	H4c <sub>2</sub>	41×30	54	土師器片4点, 須惠器片1点
15	I4i <sub>4</sub>	49×34	41		47	H4c <sub>3</sub>	33×29	27	
16	I4i <sub>4</sub>	49×41	26	土師器片5点	48	H4c <sub>3</sub>	37×33	38	土師器片1点
17	I4h <sub>4</sub>	35×28	19		49	H4b <sub>1</sub>	38×36	46	
18	I4h <sub>2</sub>	43×37	42		50	H4b <sub>1</sub>	35×31	50	土師器片3点, 須惠器片1点
19	I4g <sub>2</sub>	33×31	26		51	H4b <sub>1</sub>	35×25	44	土師器片3点
20	I4f <sub>2</sub>	52×42	33		52	H3b <sub>0</sub>	51×39	46	土師器片1点
21	I4f <sub>2</sub>	50×31	33		53	H4b <sub>1</sub>	36×33	31	
22	I4f <sub>3</sub>	49×37	28		54	H4c <sub>1</sub>	33×32	34	土師器片1点, 須惠器片1点
23	I4g <sub>4</sub>	55×54	44		55	H3b <sub>0</sub>	24×20	38	
24	I4g <sub>5</sub>	54×35	58		56	I4i <sub>5</sub>	31×29	33	
25	I4h <sub>7</sub>	60×59	28		57	H4h <sub>2</sub>	51×50	36	
26	I4e <sub>7</sub>	53×40	26	土師器片1点	58	H4g <sub>2</sub>	44×35	90	
27	I4e <sub>7</sub>	60×48	50	土師器片4点, 須惠器片1点	59	H4c <sub>3</sub>	39×39	38	
28	I4e <sub>7</sub>	37×33	31		60	H4c <sub>4</sub>	56×43	55	土師器片6点
29	I4d <sub>7</sub>	46×36	43		61	I4e <sub>7</sub>	48×43	35	
30	I4d <sub>7</sub>	21×19	36		62	H4g <sub>4</sub>	45×52	60	土師器片4点
31	I4d <sub>6</sub>	47×45	40		63	H4h <sub>4</sub>	54×52	63	土師器片13点, 須惠器片2点
32	I4d <sub>5</sub>	44×44	30		64	H4f <sub>4</sub>	56×43	33	土師器片7点, 須惠器片2点

番号	位置	規 模		備考 (出土遺物)	番号	位置	規 模		備考 (出土遺物)
		長径×短径 (cm)	深さ (cm)				長径×短径 (cm)	深さ (cm)	
65	I4e <sub>7</sub>	56 × 53	48	土師器片 9 点	68	H4g <sub>4</sub>	53 × 49	39	土師器片 2 点、須恵器片 2 点
66	H4b <sub>1</sub>	50 × 49	38		69	I4d <sub>7</sub>	57 × 42	46	土師器片 3 点、須恵器片 2 点
67	H4g <sub>4</sub>	48 × 46	63	土師器片 5 点					

## 第5節 遺構外出土遺物

当遺跡からは、グリッド発掘や表土除去作業の際にも少量の遺物が出土している。土器片（縄文式土器，弥生式土器，土師器，須恵器）や陶器片（緑釉陶器）のほか，鉄製品（鎌，板状鉄製品など），石製品（磨製石斧，石錘），土製品（玦状耳飾，羽口）などがある。ここでは，主なものの実測図や拓影図を掲載した。



第231図 遺構外遺物実測図

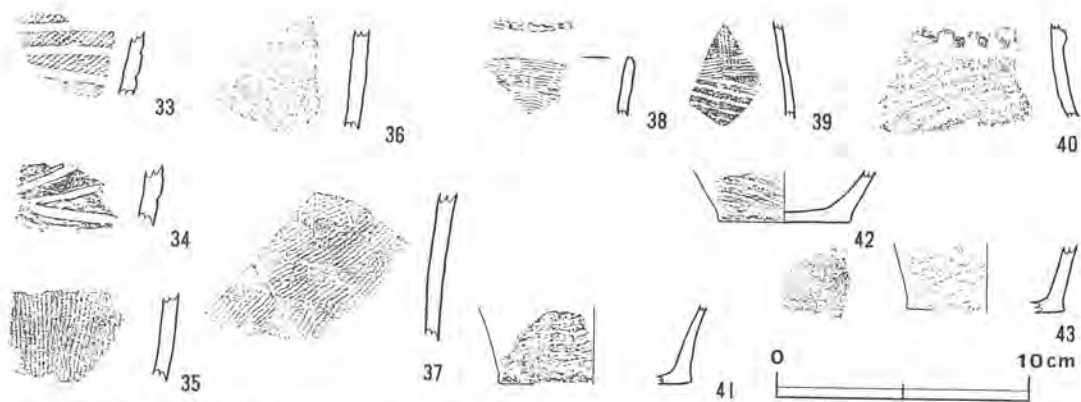
### 出土遺物観察表

図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	備	考
第231図1	玦状耳飾	4.2 × [3.2] × 0.8	8.5		PL65・DP7
2	玉	3.4 × 3.3 × 2.6	40.9	滑石。孔径1.0cm。	PL65・Q36
3	磨製石斧	(3.2) × 4.4 × 0.6	14.3	粘板岩。刃部破片。	PL65・Q38
4	石錘	4.8 × 2.4 × 0.7	13.6	流紋岩。4辺に刻みが入る。	PL65・Q39
5	石鎌	2.4 × 1.2 × 0.4	0.9	メノウ。	PL65・Q37
図版番号	種類	法 量 (cm)		備	考
6	鎌	全長 (15.6)	最大幅3.2 最大厚0.3	基端部折り返し。接柄部に土師器 (内黒) 片付着。	PL64・M75
7	板状鉄製品	全長 8.5	最大幅6.1 最大厚1.2	器面が彎曲する。	M73



第232图 遺構外出土遺物拓影图(1)





第233図 遺構外出土遺物実測図・拓影図(2)

第232図1～32は縄文式土器である。1～3は胴部片である。1は撚糸文が施されている。2は、竹管による円形の刺突の周囲に、縄文原体の圧痕が同心円状に施され、下半にはへら状工具による刺突文が施されている。3は、縄文原体の2条単位の押圧と棒状工具による刺突が横位に施されている。下半にはループ文を伴う縄文が施されている。4は口縁部片で、2条単位の原体圧痕によって三角形に区画された内部に、へら状工具による刺突文が施されている。

5・6はループ文の施された口縁部片である。6の口縁端部にはへら状工具による刻みが施され、中位には補修孔が穿たれている。7～9は胴部片で、ループ文、あるいは羽状縄文が施されている。1～9の胎土には繊維が含まれている。

10・11は山形の波状口縁の一部である。10は、口縁部に沿って竹管状工具による刺突文が巡らされている。11は口縁端部に刻みが施され、その下には、沈線を伴う変形爪形文が施されている。12は口縁部片で、縄文(単節LR)が施されている。13は胴部片で、竹管状工具による横位の沈線が施されている。

14・15は胴部片で、楕円形、あるいは弧状に貼り付けられた隆帯に沿って、棒状工具による押引文が施されている。

16～25は口縁部片である。16は貝殻腹縁による刻みが施されている。17は、口縁直下の2条の沈線間に交互刺突が加えられている。18は、竹管状工具による横位の沈線が施されている。19は口縁端部が肥厚して凹面を成し、棒状工具による押引文が施されている。外面には断面三角形の隆帯が貼り付けられ、その上下にも押引文が施されている。20は、横位の隆帯の上に蛇行する隆帯が貼り付けられている。21～23は、ゆるやかな波状口縁を呈する。いずれも横位の隆帯が貼り付けられ、下半には縄文が施されている。22・23は、口縁端部、及び隆帯上にへら状工具による刻みが、また、隆帯直下には刺突文が施されている。24・25は口縁端部が内面に肥厚し、外面には、縄文地文上に棒状工具による沈線が施されている。26・27は胴部片で、26は縄文(単節RL)

地文上に、棒状工具による4～5条の弧状の沈線が描かれている。27は縄文（単節RL）が施されている。

28・29は口縁部片である。28は、縄文（単節RL）地文上に横位、弧状の沈線が施され、口唇部には2個の刺突文が施されている。29は、低い隆帯上に刺突文が施されている。30～32は胴部片である。30は、5条の沈線が縦位に施されている。31は、沈線により幾何学的に区画された内部に縄文が充填されている。32は、縄文（単節LR）地文上に、3～5条の沈線が斜位、及び弧状に施されている。

第233図33～43は弥生式土器である。33～37は胴部片である。33は縄文施文後、横位の沈線が施されている。34は幾何学的な沈線、35は条痕、36は撚糸文が施されている。37は、縄文（無節）施文後、垂下する沈線が施されている。

38は口縁部片で、6本の櫛描文が波状に施され、口唇部には棒状工具による押圧がみられる。39・40は胴部片である。39は、6本の櫛描文が横・斜位に施されている。40は粘土紐が波状に貼り付けられ、下位には付加条縄文が施されている。

41～43は胴部下端から底部にかけての破片である。いずれも胴部には付加条縄文が施されており、42の底部には布目痕が残っている。41・43の底部は砂粒が多くザラザラしている。

## 第6節 まとめ

### 1 縄文時代

2軒の竪穴住居跡（第64・68号住居跡）が調査区域の南側から検出されている。いずれも奈良・平安時代の住居跡と重複しており、形状に不明確な部分もあるが、長径がほぼ4～5mの楕円形の住居跡として捉えられた。このうち、第68号住居跡は、床面が2段掘り込みを呈している。外側の壁の立ち上がりが緩やかなのに対し、内側の壁は10～20cmの段差をもってほぼ垂直に掘り込まれており、下段の床面は比較的硬くふみしまっている。2段掘り込みの例としては、日立では諏訪遺跡から中期の住居跡が1軒報告されている<sup>(4)</sup>。炉は、第64号住居跡から検出されている。炉跡とした掘り込みからは焼土等の検出は極少量ではあったが、その上端に沿った部分の床面が焼けていることや、すぐ横から焼けた礫がまとまって出土したことから、炉と判断したものである。また、同住居跡からは6か所のピットが検出されているが、その位置や規模からみて、支柱穴を組むものとは思われない。

遺物は、2軒の住居跡から少量の土器片と石器が出土している。土器のうち、器形を復元できたのは第64号住居跡の小型の深鉢1点だけで、その他は小破片であるが、ループ文や羽状縄文を主体としていること、胎土に繊維を含むことなどから、縄文前期前半の関山式に相当するものと思われる。石器は他の礫に混じって出土しており、特に整った形状をもつものは少ないが、磨りや敲きの痕跡が認められるものについて、石器として記録した。石質は流紋岩を主体としている。

遺構外出土遺物には、より多様なものが含まれている。土器は、小破片ではあるが早期末から後期（堀之内式）まで幅広い時期のものが出土しており、当地における人々の活動が、前期に限らず、かなり長期にわたって行われていたことが窺われる。その他、小型の磨製石斧や石錐、珧状耳飾など貴重なものが含まれている。

## 2 奈良・平安時代

### (1) 竪穴住居跡の時期区分について

奈良・平安時代の遺構としては、竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡1棟が検出されている。これらは調査区域のほぼ全域にわたって分布しているが、特に南側部分に密集している。各遺構から出土した土器類をみると、いわゆる「常陸型」<sup>(2)</sup>といわれる、口縁端部をつまみ出す土師器甕や、平底で、体部が直線的に、あるいは内彎したり外反したりしながら外傾して立ち上がる、ロクロ（回転台）を利用して整形した土師器坏、須恵器坏を主体としていることから、基本的に奈良時代から平安時代前期（およそ8・9世紀代）に属するものと捉えられる。そして、この限られた時間幅の中で、重複関係が16か所で確認されており、何期かの集落の変遷がみられる。

記号によって新旧関係を図示すると、次の通りである。

(旧)	(新)	(旧)	(新)
①SI-7	↘	⑨SI-83	→ SI-52
SI-8	↗	SI-6	⑩SI-57 → SI-56 → SI-61
②SI-10	↘	⑪SI-58	→ SI-59 → SI-60
SI-12	↗	SI-63	↘
③SI-21 → SI-20 → SI-17 → SI-22		⑫SI-70	→ SI-66 → SI-90
④SI-18 → SI-19		⑬SI-67	→ SI-69
⑤SI-23 → SI-31		⑭SI-76	→ SI-77
⑥SI-35	↗	⑮SI-78	↘
SI-36	↖	SI-79	↗
⑦SI-37 (不明)	SB-1	⑯SI-81	→ SI-84
⑧SI-41	↗		
SI-39	↖		
SI-42			

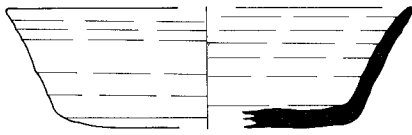
この中で、最も多くの住居跡が重複しているのは、第58・59・60・62・63号住居跡の5軒である。図示した通り、5軒は③のような直線的な重複関係は示していない。しかし、第58号住居跡と第63号住居跡、第59・60号住居跡と第62号住居跡はそれぞれ直接の重複はなくても、極めて近接した位置にあるため、同時期に存在したとは考えられない。そこで、この部分だけからみても、少なくとも5期に区分されることになる。その他の重複関係についてみても、それぞれの部分で2～4期に区分される。

次にこれらの間の並行関係をみななければならないが、手がかりとなるのは出土土器、特に器形の変化を捉えやすい須恵器坏、及び土師器坏である。そこで、まず須恵器坏、土師器坏について器形や整形技法に基づく分類を行った。

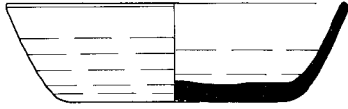
## 須恵器坏について

底部から口縁部まで器形を復元できたものを抽出し、口径に対する底径の比、器形、底部の調整技法により、次のように分類した。

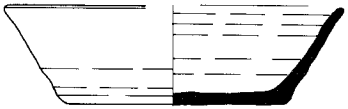
- 1類 口径に対する底径の比が0.65以上で、また、器高が低く、底径の $\frac{1}{2}$ 以下のものである。底部の形状、調整技法により、3類に細分できる。
  - 1-a類 底部が若干丸底気味になるもので、底部は回転ヘラ削りが施されている。(口径12.7~15.2cm, 底径8.3~10.5cm, 器高4.1~4.5cm, 体部の傾きは59°~65°)
  - 1-b類 底部が平底で、体部下端が丸味をもつものである。底部は回転ヘラ削りが施されている。(口径10.8~14.4cm, 底径7.3~9.7cm, 器高3.5~4.4cm, 体部の傾きは59°~64°)
  - 1-c類 体部下端があまり丸味をもたず、底部にナデが施されているものである。(口径11.6cm, 底径8.1cm, 器高3.6cm, 体部の傾きは57°)
- 2類 口径に対する底径の比が0.55~0.65で、体部下端が丸味をもつか、幅の狭い面を成すものである。底部の調整技法により4類に細分できる。
  - 2-a類 底部に回転ヘラ削りが施されているものである。(口径12.1~14.4cm, 底径7.2~8.9cm, 器高3.2~5.0cm, 体部の傾きは56°~62°)
  - 2-b類 底部に手持ちヘラ削りが施されているものである。(口径12.4~14.4cm, 底径7.6~9.0cm, 器高4.0~5.0cm, 体部の傾きは53°~64°)
  - 2-c類 底部にナデが施されているものである。(口径11.4~14.3cm, 底径6.6~8.6cm, 器高4.3~5.0cm, 体部の傾きは58°~66°)
  - 2-d類 底部がほとんど無調整のものである。(口径10.8~13.8cm, 底径6.7~8.0cm, 器高3.6~3.7cm, 体部の傾きは53°~60°)
- 3類 口径に対する底径の比が0.55~0.65で、体部下端が丸味や面をもたないものである。底部の調整技法により3類に細分できる。
  - 3-a類 底部に手持ちヘラ削りが施されているものである。(口径12.8~14.0cm, 底径7.3~8.2cm, 器高3.8~4.9cm, 体部の傾きは57°~64°)
  - 3-b類 底部にナデが施されているものである。(口径12.3~14.2cm, 底径7.4~8.4cm, 器高3.8~5.1cm, 体部の傾きは54°~60°)
  - 3-c類 底部がほとんど無調整のものである。(口径13.3~14.3cm, 底径7.7~8.0cm, 器高4.3~5.3cm, 体部の傾きは55°~61°)
- 4類 口径に対する底径の比が0.55以下で、体部下端に丸味をもつか、幅の狭い面を成すものである。底部の調整技法により3類に細分できる。
  - 4-a類 底部に回転ヘラ削りが施されているものである。(口径13.2~14.8cm, 底径6.8~7.9



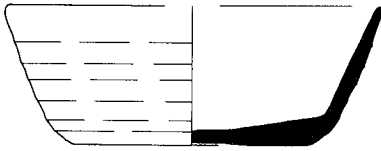
1-a類 (SI-18)



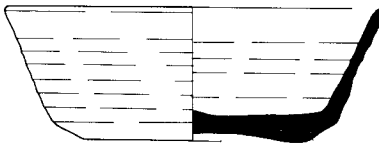
1-b類 (SI-40)



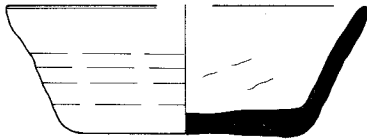
1-c類 (SI-65)



2-a類 (SI-63)



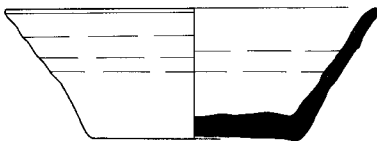
2-b類 (SI-54)



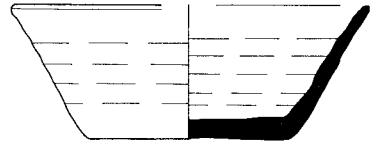
2-c類 (SI-63)



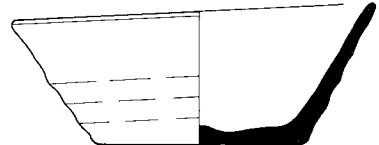
2-d類 (SI-54)



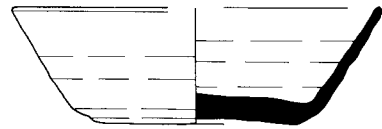
3-a類 (SI-66)



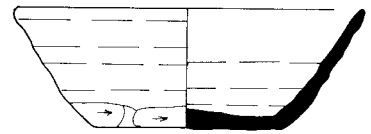
3-b類 (SI-80)



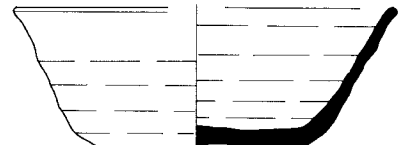
3-c類 (SI-59)



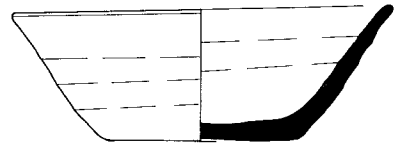
4-a類 (SI-40)



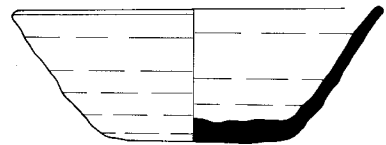
4-b類 (SI-30)



4-c類 (SI-30)

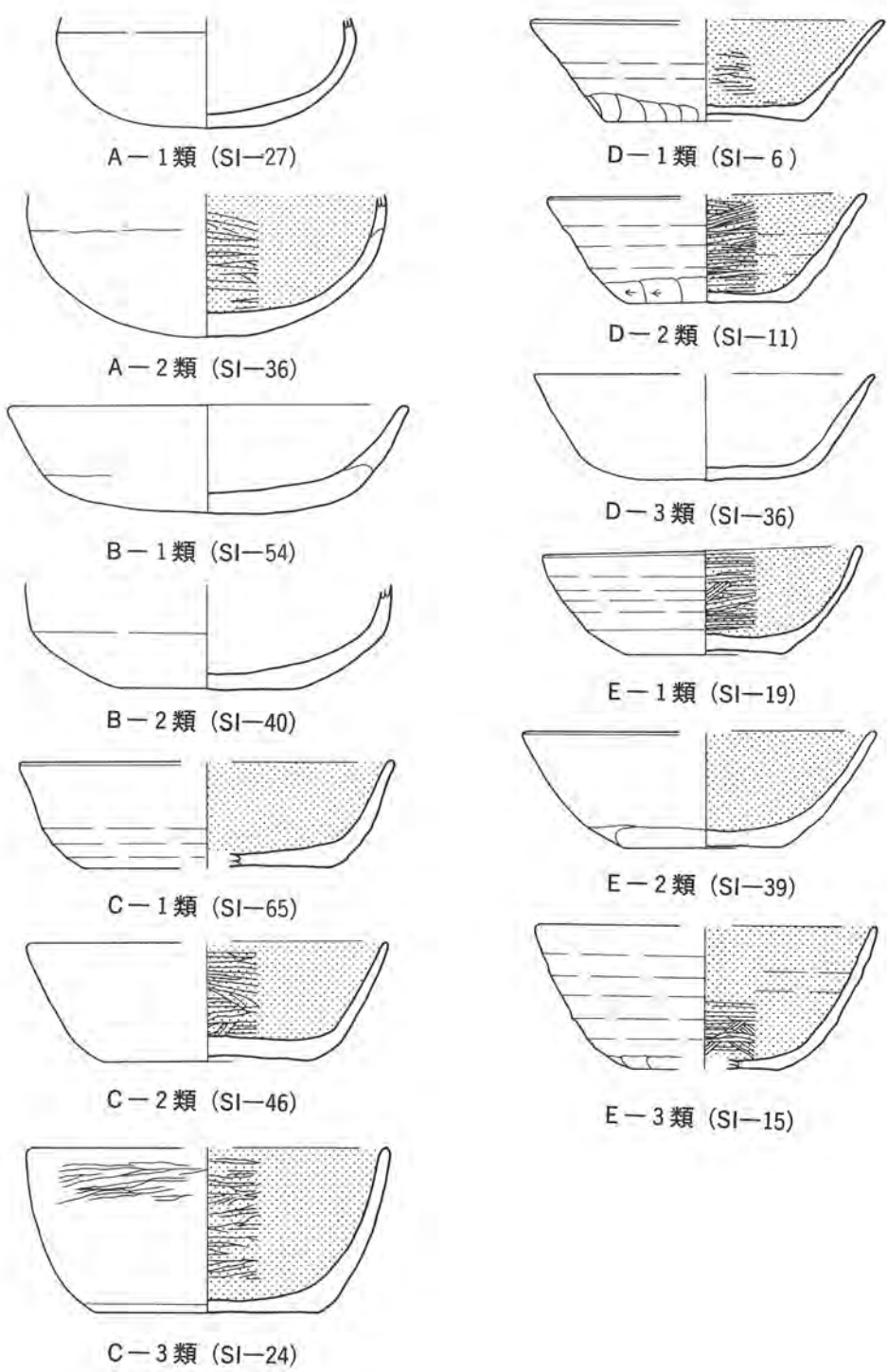


5-a類 (SI-77)



5-6類 (SI-5)

第234図 須恵器坏分類図



第235図 土師器坏分類図

cm, 器高4.3~5.4cm, 体部の傾きは57°~61°)

4—b類 底部に手持ちへら削りが施されているものである。断面形からみれば次の5類にも似たものでも, 体部下端に手持ちへら削りが施されているものは本類に加えた。(口径13.0~14.6cm, 底径6.9~7.8cm, 器高4.2~4.6cm, 体部の傾きは51°~56°)

4—c類 底部にナデが施されているものである。(口径13.0~14.4cm, 底径6.8~7.6cm, 器高4.5~5.2cm, 体部の傾きは56°~60°)

5類 口径に対する底径の比が0.55以下で, 体部下端が丸味や面をもたないものである。底部の調整技法により2類に細分できる。

5—a類 底部にナデが施されているものである。(口径12.6~14.9cm, 底径6.4~7.8cm, 器高4.1~5.4cm, 体部の傾きは50°~59°)

5—b類 底部が無調整のものである。(口径13.7~14.5cm, 底径6.5~7.8cm, 器高5.1~5.3cm, 体部の傾きは55°~56°)

#### 土師器坏について

底部から口縁部まで器形をほぼ復元できたものを抽出し, 器形や調整技法によって, 次のように分類した。土師器坏は, 平底で体部が外傾して立ち上がり, 内面にへら磨きと黒色処理が施されているものが大半で, これらをC~E類に分類した。そして, これらに属さない数点のものについては, A, B類としてまとめた。

A類 丸底を呈するものである。2点確認しており, いずれも内面が黒色を呈するが, へら磨きの有無により, 2類に細分される。

A—1類 内面にへら磨きが施されていないもので, 第27号住居跡から出土している。

A—2類 内面にへら磨きが施されているものである。第36号住居跡から出土しているが, 口縁部付近の形状は復元できていない。

B類 盤状を呈するものである。2点確認しているが, 底部から口縁部に至るまでの形状により, 2類に細分される。

B—1類 器肉が厚く, 底部が丸底気味のもので, 第54号住居跡から出土している。

B—2類 平底で, 体部は直線的に立ち上がり, 口縁部は直立するもので, 第40号住居跡から出土している。

C類 口径に対する底径の比が大きく(0.55以上), 体部が急な角度(60°以上)で立ち上がる。器高や底部の調整技法により, 3類に細分される。

C—1類 器高が4.3cmと低く, 底部にへら磨きが施されている。(第65号住居跡出土の1点のみ)



- C-2類 器高が5 cm前後で、底部に回転ヘラ削りが施されている。
- C-3類 器高が6.5cmと高く、底部、及び体部下端に回転ヘラ削りが施されている。(第24号住居跡出土の1点のみ)
- D類 口径に対する底径の比が0.5よりもやや大きく、体部が50~57°程度の傾きで直線的に立ちあがるものである。器形、底部の調整技法により3類に細分される。
- D-1類 底部に回転ヘラ削り、体部下端に手持ちヘラ削りが施されているものである。糸切りの痕跡を残すものもみられる。器高が4 cm程度のものと5 cm程度のものがある。
- D-2類 底部に手持ちヘラ削りが施されているもので、体部下端に手持ちヘラ削りが施されているものもある。(口径12.2~12.6cm, 底径6.4~6.6cm, 器高4.3~4.4cm)
- D-3類 体部下端が丸味をもって立ち上がるもので、内面のヘラ磨き、黒色処理は施されていない。(口径13.4cm, 底径8.2cm, 器高4.2cm)
- E類 口径に対する底径の比が0.4~0.5程度と小さく、体部が50~55°程度の傾きで内彎しながら立ち上がるものである。器形、底部の調整技法により3類に細分される。
- E-1類 口径12~14cm, 底径6~7 cmで、器高が4.5cm以下の低いものである。底部、及び体部下端に回転ヘラ削りが施されている。糸切りの痕跡を残すものもみられる。
- E-2類 口径13~14cm, 底径6~7 cmで、器高が5 cm程度のものである。底部、及び体部下端に回転ヘラ削りが施されている。
- E-3類 口径13.4~13.5cm, 底径5.4~5.8cmで、器高が5.6~5.7cmと高いものである。底部に回転ヘラ削り、体部下端に手持ちヘラ削りが施されており、糸切りの痕跡を残すものがある。第15号住居跡から3点出土している。



第236図は、住居跡の重複関係を縦軸に、須恵器坏、土師器坏の分類を横軸にして、時期区分を試みたものである。

須恵器坏についてみると、まず、第63—60号住居跡、第76—77号住居跡、第70—90号住居跡の関係からみて、口径に対する底径の比が大きいものが古く、小さいものが新しいという傾向がみられる。そして、底部の調整技法では、口径に対して底径の大きなものや丸底気味のものでは、回転ヘラ削りや手持ちヘラ削りが主体であるのに対し、底径の小さくなるものでは、ナデや無調整のものが主体となる。「回転ヘラ削り→手持ちヘラ削り→ナデ・無調整」の、ていねいな調整から粗雑な調整へという流れがみられる。また、口径に対する底径の比がほぼ同じで、底部の調整技法が同じもの場合は、第66—70号住居跡にみられるように、体部下端に丸味や面をもつものが、もたないものよりも先行することがわかる。図示したように、新しい段階には5類がそろうことでも、それが証明されていると思われる。反対に、器高が低く、底部が丸底気味で回転ヘラ削りが施されているものが、当遺跡の須恵器坏の中では最も古い段階と考えられる。

次に土師器坏であるが、器形をほぼ復元できたものは大半がD、E類に分類される。しかも、D、E類が出土した住居跡同士の重複がないため、D、E類内で新旧を確認することはできない。しかし、D、E類が出土した住居跡は、各住居跡の重複関係でみると、最も新しい時期の住居跡であり、須恵器坏5類を伴うものもみられることから、当遺跡では新しい段階のものといえよう。A、B、C類については、個体数が少なく、重複関係や須恵器坏との関係から新旧を確認することは困難である。

これらのことから、須恵器坏を基準にし、土師器坏で若干補足して、金木場遺跡の主な住居跡の時期区分を行い、第236図のように表した。

まず、須恵器坏1—a類の第18号住居跡から、5類の第90号住居跡ほかまで6時期に区分した。次に、口縁部と体部との間にわずかに稜をもつ土師器坏（器面は著しく磨滅している）を出土した第27号住居跡と、長胴形で中位に最大径をもつ土師器甕を出土した第32号住居跡が、第18号住居跡よりも1段階古い時期と考えられる。（いずれも鬼高式的な特徴を残すものである。ただし、覆土からの出土ではあるが、平底とみられる須恵器坏の破片も若干含まれている。）

さらに、新しい段階では、土師器坏D、E類の新旧の問題や、須恵器坏と土師器坏とが共伴するものほとんど須恵器坏を伴わないものとの関係などから、さらに時期を細分できることも考えられる。

以上のことから、須恵器坏、土師器坏の分類からみると、金木場遺跡の集落について、現時点では7～8段階の時期区分が設定できるものと思われる。

竪穴住居跡を形態からみると、まず規模では、長軸×短軸が5.70×5.28mの第20号住居跡が最大、2.83×1.95mの第31号住居跡が最小で、全体的には一辺が3～5mの方形、ないし長方形を

呈するものが主体である。床面はほぼ平坦で、硬く踏み締まるものが多い。柱穴が検出された住居跡は少なく、4か所の支柱穴を組むものは、第17、18、20号住居跡など20例である。カマドは、重複で破壊されたり、調査区域外へ遺構が延びているものを除いて、全部の住居跡から検出されている。その位置は北壁の中央部に設置されているものが多いが、やや東側、あるいは西側へ片寄るものもあり、中には、コーナー部や東壁に設置されるものもある。また、凝灰岩の切石を利用して焚き口部を構築するものも多く、第14号住居跡などのように、カマドの構築時の状態が良好に残っている例もみられる。東壁のカマドを廃棄して北壁に作りかえた第5号住居跡や、2基のカマドが並んで検出された第75号住居跡が特筆される。

以上の調査内容を、前述の時期区分と比較してみると、一辺4～5m前後の（当遺跡では）大型の部類で、4か所の支柱穴をもち、凝灰岩をほとんど使わずにカマドを構築している住居跡は、第18、20号住居跡など古い時期（Ⅱ～Ⅳ期）に比定されるものが多い。反面、新しい時期（Ⅶ期）に比定される住居跡は、一辺3～4mとやや小さくなり、支柱穴をもたず、カマドには凝灰岩を利用しているものが多い。規模の大小にしても、凝灰岩の使用にしても例外はあるが、おおむね、このような傾向があるといえよう。

また、主軸方向についてみると、調査区域の中央部から南側部分に検出された住居跡は、大半が北からやや西へ傾いているのに対し、北側部分から検出された住居跡の主軸方向は、東へ傾いているものが多い。これは、第1号溝を挟んでの海岸側と内陸側との違いにもなり、第1号溝が集落を東西に区画するものと見なすことができる根拠の一つにもなる。しかし、北側部分は、南方向からの支谷が入り込む台地のくびれ部に当たり、大きく南西方向へ傾斜している。ほぼ平坦な中央部以南との地形的条件の違いが、竪穴住居の構築にも影響していることも考えられる。

## (2) その他

### 平鉢について

器厚のうすい底部から、体部が直立、あるいはわずかに外傾して立ち上がり、円筒形を呈する土器（土師器）を「平鉢」とした。内面はへらなどでていねいに整えられているが、外面は輪積み痕や指頭状の圧痕を残し、粗雑な作りである。日立市内では、遠下遺跡から2点出土しており「シャーレ型土器」として報告されている<sup>(3)</sup>。また、石岡市の鹿の子C遺跡からも1点出土している<sup>(4)</sup>。

平鉢は、法量や体部の形状から次の2類に分類できる。

A類 口径17～18cm、底径14～15cm、器高7～8cm前後のもので、器厚が比較的厚く、体部はやや外傾して立ち上がるものが多い。第16、48、70号住居跡などから出土している。

B類 口径10～11cm、底径10～11cm、器高10cm前後の小型のもので、器厚が極くうすく、体部はほぼ直立する。第60、73号住居跡などから出土している。

当遺跡における平鉢の出土状態をみると、第60、73号住居跡では、カマドの覆土から、第16号住居跡ではカマド前面の床面から出土しているが、その他のものは、住居跡内のほかの部分の床面、あるいは覆土から出土が大半であり、出土状態からその用途を特定することは困難である。しかし、器面が加熱を受けているものが多いことから、カマド内において使用されたものであることは十分に考えられる。

平鉢と同じ器形のものが福島県内でも多く出土しており、「筒形土器」と呼ばれている。その用途については、①カマドの支脚、②キャンプサイトでの煮沸用土器、③製塩に関する土器などが示されている<sup>(5)</sup>。

### 成沢窯跡産の須恵器坏について

第54号住居跡から出土した須恵器坏(第132図21, PL53)は、口径10.8cm、底径6.7cm、器高3.6cmの小型のもので、灰黄色を呈し、胎土には粗砂粒を含むほか、器面に黒色粒がふき出している。その形状、法量、色調、胎土などについて、日立市郷土博物館に保管されている日立市成沢窯跡出土の須恵器と比較したところ、極めてよく似たものであり、同窯跡で生産されたものである可能性が非常に高いことが判明した<sup>(6)</sup>。

この坏と全く同じ特徴をもつ土器は、ほかには見当たらない。しかし、ただ1点だけでも、成沢窯跡産と思われる須恵器が集落跡から出土したことが確認されたのは初めてであり、貴重な発見である。

## 鉄製品について

金木場遺跡から出土した鉄製品は、総数80点で、器種別にみれば次の通りである。

- ① 武器———刀子15, 鋏21, 小札2, 足金具1
- ② 工具———斧5
- ③ 農具———鎌5
- ④ 帯金具———鉸具2 (内1点は馬具の一部と思われる)
- ⑤ 焼印———1
- ⑥ 板状鉄製品—11
- ⑦ 器種不明——17

焼印は、第47号住居跡から出土しており、「子」の字状を呈するもので、中央に柄を差し込むための小孔があいている。焼印は他の地域でも出土例は少なく、県内では、大宮町小中遺跡「丈」に次いで2点目、関東地方でも7点目である<sup>(7)</sup>。小中遺跡の焼印は、印部を支える柄が付いたもので、牛馬に押すためのものとしている。当遺跡でも、第77号住居跡から「午家」と読める墨書土器が出土していることから、当遺跡の焼印もやはり牛馬に関する遺物である可能性が考えられる。

板状鉄製品としたものは、三角形ないし四角形の小さな板状のもので、厚さ1cm程度のやや厚めのものと、7mm程度のうすいものがある。その用途・性格については不明であるが、まず考えられることは、ほかの鉄製品を作るための原料鉄(一次加工品)ではないかということである。当遺跡では鉄製品のほかに鉄滓が27点出土しており、小鍛冶遺構の存在が推測される。そして性格不明遺構とした大型のカマド状の遺構も、周辺から羽口の小片が出土していることからみて小鍛冶遺構である可能性も考えられることなどから、板状鉄製品を一次加工品とみてもよいのではないと思われる。ただ板状鉄製品としたものは、形はさまざまだが、共通して器面が内彎していることから、ある一定の器種、たとえば鍋状のもの破片ではないかとの見方もある<sup>(8)</sup>。

## 帯金具(巡方)について

第54号住居跡から出土した巡方は表金具のみで、縦幅2.4cm、横幅2.6cm、厚さ0.4cmの法量をもつ。

阿部義平氏<sup>(9)</sup>は、銜帯についての分類の中で、縦幅1.8cmの巡方を付す革帯を最小幅、縦幅3.9cmの巡方を付するものを最大幅とし、その間に3mmずつの変化を指摘して8段階に区分したものをA系列としている。そして、横長の巡方を付す最小幅のBと合わせて9段階を設定し、6位以下の官位に対応させている。

当遺跡の巡方は縦幅2.4cmで、阿部氏の分類によれば「A6」の段階に入り、官位では従八位に

相当するものと思われる。

銚帯の使用は707年から796年、807年から810年に限られることが知られており、遺跡の実年代推定の貴重な資料となるものである。

ところで、この銚帯の使用された年代、奈良時代から平安時代初期にかけての時代は、中央政権の主導による蝦夷征伐が行われていた時代でもある<sup>(10)</sup>。金木場遺跡の所在する滑川町付近は、当時多珂郡道口郷に属しており、東北地方へ通じる官道があった地域である。また金木場遺跡から南西へ約3 km余離れた日立市助川町付近は「助川駅」の比定地であり、官道や駅家を控えた集落として、何らかの役割があったのではないかと思われる。巡方の出土により、下級役人や役所的機能の存在とともに、その年代観から、蝦夷征伐への交通路に沿った集落としての金木場遺跡の歴史的環境も思い浮かべることができる。

#### 注

- (1) 日立市教育委員会『諏訪遺跡発掘調査報告書』 昭和55年
- (2) 村田健二「常陸型甕」『千天』 大洗地区遺跡発掘調査会 昭和55年
- (3) 日立市教育委員会『日立市遠下遺跡発掘調査報告書』 昭和50年
- (4) 茨城県教育財団「鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第20集』 昭和58年
- (5) 福島県文化センター「松ヶ平A遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告IV』 昭和58年
- (6) 佐藤政則，鈴木裕芳両氏の御教示による。
- (7) 大宮町教育委員会『上村田小中遺跡』 昭和63年
- (8) 阿久津久氏の御教示による
- (9) 阿部義平「銚帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』 東北考古学会 昭和51年
- (10) 茨城県『茨城県史 原始古代編』 昭和60年

表4 金木場遺跡竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	ピット	カマド	覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						
1	F4i <sub>2</sub>	N-18°-W	方形	2.83 × 2.63	11~17	平坦	0	北壁東寄り	自然	土師器片84点 須恵器片21点 土製品1点 鉄滓1点	
2	F4j <sub>1</sub>	N-39°-W	方形	3.04 × 2.93	4~7	平坦	0	北壁中央	攪乱	土師器片88点 須恵器片7点 鉄滓1点	
3	G4a <sub>4</sub>	N-36°-W	長方形	4.34 × 3.80	34~43	平坦	2	北壁中央	自然	土師器片830点 須恵器片14点 鉄製品1点	
4	G4a <sub>1</sub>	N-32°-W	方形	3.28 × 3.19	5~15	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片41点 須恵器片3点	
5	G4c <sub>4</sub>	N-32°-W	方形	4.58 × 4.25	30~38	平坦	1	A 北壁東寄り B 東壁南寄り	自然	土師器片447点 須恵器片50点	
6	G4j <sub>6</sub>	N-24°-W	方形 (あるいは長方形)	3.80 × (2.78)	45	平坦	2	北壁(中央)	自然	土師器片599点 須恵器片75点 鉄製品4点 砥石2点	SI-7,8より新しい
7	G4i <sub>5</sub>	N-9°-W	長方形	3.56 × 3.18	26~40	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片241点 須恵器片71点	SI-6より古い
8	G4j <sub>6</sub>	N-4°-W	(方形)	4.47 × (2.48)	44~48	平坦	2	北壁中央	人為	土師器片49点 須恵器片105点 鉄製品1点 砥石点 土製紡錘車1点	SI-6より古い
9	H4c <sub>5</sub>	N-7°-W	長方形	(5.46 × 4.12)	40~48	平坦	0	北壁西寄り	人為	土師器片70点 須恵器片8点 鉄製品2点	
10	G4i <sub>4</sub>	N-27°-W	方形	3.70 × (3.20)	30~36	ゆるい起伏	0	北壁中央	人為	土師器片486点 須恵器片41点 鉄製品1点	SI-11より古い
11	G4j <sub>3</sub>	N-6°-W	方形	4.06 × 3.75	42~57	平坦	2	北壁中央	自然	土師器片1,248点 須恵器片128点	SI-10, 12より新しい
12	G4j <sub>3</sub>	N-26°-W	方形	3.69 × 3.66	25~34	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片171点 須恵器片17点 砥石1点	SI-11より古い
13	F4d <sub>3</sub>	—	—	—	—	—	—	北壁	—	土師器片4点	
14	G3h <sub>5</sub>	N-53°-W	方形	3.10 × (2.72)	44~62	平坦	2	北西壁中央	自然	土師器片125点 須恵器片11点	
15	I4g <sub>2</sub>	N-4°-W	方形	3.47 × 3.22	45~50	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片379点 須恵器片34点 鉄製品2点 砥石2点	
16	I4e <sub>1</sub>	N-4°-W	方形	3.53 × 3.48	33~42	平坦	3	北壁東寄り	自然	土師器片193点 須恵器片28点	
17	I4j <sub>1</sub>	N-9°-E	方形	5.50 × 5.03	0~25	平坦	5	北壁中央	人為	土師器片140点 須恵器片37点 砥石1点 鉄滓1点	SI-20より新しい, SI-22より古い
18	I4i <sub>3</sub>	N-19°-W	方形	5.20 × 4.95	40~46	平坦	7	北壁中央	人為	土師器片453点 須恵器片56点 石製紡錘車1点 鉄滓1点	SI-19より古い
19	I4h <sub>4</sub>	N-75°-E	不整形	3.97 × (3.85)	24~26	凹凸	0	東壁中央	自然	土師器片968点 須恵器片88点 鉄製品4点 鉄滓1点	SI-18, 68より新しい
20	I4j <sub>2</sub>	N-5°-W	方形	5.70 × 5.28	13~35	平坦	5	北壁中央	人為	土師器片503点 須恵器片43点 鉄製品1点	SI-21より新しい, SI-17より古い
21	J4a <sub>2</sub>	N-13°-W	(方形)	3.80 × (2.00)	18~31	平坦	1	—	自然	土師器片29点 須恵器片3点	SI-20より古い
22	I3i <sub>5</sub>	N-38°-W	方形	(3.17 × 3.15)	0~8	平坦	0	北壁中央	—	土師器片15点 須恵器片2点	SI-17より新しい
23	J4a <sub>4</sub>	N-4°-W	方形	5.12 × 4.95	25~42	平坦	5	北壁中央	自然	土師器片1,620点 須恵器片205点 陶器片1点 鉄製品5点	SI-64より新しい, SI-31より古い
24	I3c <sub>5</sub>	N-81°-E	長方形	4.78 × 4.20	32~44	平坦	1	東壁南寄り	自然	土師器片597点 須恵器片37点 鉄製品1点 土製品1点	
25	I3a <sub>5</sub>	N-26°-W	方形	4.57 × 4.25	14~23	ゆるい起伏	5	北壁中央	人為	土師器片185点 須恵器片39点	
26	J4e <sub>3</sub>	N-8°-E	長方形	4.42 × 3.98	7~28	凹凸	0	北壁中央	自然	土師器片296点 須恵器片65点 陶器片2点 鉄製品3点 砥石1点	
27	J4e <sub>5</sub>	N-4°-W	方形	5.07 × 4.75	12~36	平坦	7	北壁東寄り	自然	土師器片239点 須恵器片16点 鉄製品1点	
28	J4g <sub>5</sub>	N-4°-W	方形	4.02 × 4.02	0~25	平坦	6	北壁中央	自然	土師器片234点 須恵器片2点	
29	J4f <sub>4</sub>	—	—	—	—	—	—	北壁	—	土師器片30点 須恵器片2点	
30	J4g <sub>2</sub>	N-4°-E	長方形	5.85 × 4.93	0~26	平坦	5	北壁中央	人為	土師器片386点 須恵器片62点 鉄製品2点	
31	J4a <sub>4</sub>	N-6°-W	長方形	2.83 × 1.95	10~14	平坦	1	北壁中央	自然	土師器片228点 須恵器片35点 土製紡錘車1点	SI-23より新しい
32	J4g <sub>7</sub>	N-14°-E	方形	3.72 × (2.02)	21~36	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片280点 須恵器片4点	
33	J4e <sub>7</sub>	N-12°-W	方形	4.05 × (1.13)	29~39	平坦	0	北壁か	人為	土師器片76点 須恵器片74点	



番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	ビット	カマド	覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						
34	J4c <sub>7</sub>	N-11°-W	方形	2.95 × (2.82)	22~34	平坦	0	北東コーナー	人為	土師器片131点 須恵器片17点	
35	J4a <sub>7</sub>	N-1°-W	(方形)	3.34 × (1.19)	25~30	ゆるい起伏	0	—	自然	土師器片228点 須恵器片20点	SI-36・38より古い
36	I4j <sub>7</sub>	N-79°-E	長方形	5.70 × (4.07)	12~25	平坦	5	東壁南寄り	人為	土師器片882点 須恵器片53点 鉄製品1点	SI-35より新しい
37	I4i <sub>6</sub>	N-14°-W	方形	3.68 × 3.42	45~57	平坦	1	北壁中央	自然	土師器片590点 須恵器片91点 鉄製品2点	SB-1と重複(新旧不明)
38	J4b <sub>7</sub>	N-3°-W	(方形)	(2.74 × 1.30)	15	平坦	0	—	自然	土師器片28点 須恵器片6点	
39	I4g <sub>6</sub>	N-8°-W	長方形	3.90 × 3.43	30~57	ゆるい起伏	3	北壁中央	自然	土師器片1,207点 須恵器片123点 鉄製品2点 鉄滓1点	SI-41より新しい
40	I4e <sub>6</sub>	N-8°-W	方形	5.05 × 4.75	35~53	平坦	6	北壁中央	自然	土師器片857点 須恵器片68点 鉄製品1点	
41	I4g <sub>7</sub>	N-77°-E	長方形	5.51 × 4.05	15~30	平坦	9	東壁南寄り	自然	土師器片2,063点 須恵器片63点 土製品1点	SI-39・42より古い
42	I4g <sub>7</sub>	N-18°-W	方形	3.18 × (1.60)	55	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片559点 須恵器片35点 鉄製品2点	SI-41より新しい
43	J4h <sub>3</sub>	—	—	—	—	—	—	北壁か	—		
44	J4h <sub>3</sub>	—	—	—	—	—	—	北壁か	—		
45	J4h <sub>1</sub>	N-19°-E	(方形)	(3.50 × 2.50)	0~8	平坦	0	北壁	—	土師器片10点 須恵器片8点	
46	I4f <sub>4</sub>	N-19°-W	方形	4.71 × 4.56	46~55	平坦	5	北壁中央	自然	土師器片1,640点 須恵器片144点 石製紡錘車1点	
47	I4a <sub>7</sub>	N-18°-W	(方形)	4.51 × (2.82)	30~32	平坦	1	北壁	自然	土師器片244点 須恵器片38点 鉄製品1点 砥石1点	
48	I4b <sub>6</sub>	N-14°-W	方形	4.72 × 4.45	38~47	平坦	6	北壁中央	人為	土師器片59点 須恵器片2点	
49	I4c <sub>4</sub>	N-12°-W	長方形	2.75 × 2.38	43~50	平坦	1	北壁東寄り	人為	土師器片103点 須恵器片13点 砥石1点	
50	I4a <sub>3</sub>	N-10°-W	方形	4.02 × 3.82	35~43	平坦	4	北壁中央	自然	土師器片744点 須恵器片146点 陶器片1点 鉄製品4点	
51	H4j <sub>1</sub>	N-88°-E	長方形	2.84 × 2.48	29~35	平坦	2	東壁南寄り	自然	土師器片805点 須恵器片93点 砥石1点	
52	H4j <sub>3</sub>	N-7°-W	方形	4.74 × 4.72	19~35	平坦	4	北壁中央	自然	土師器片1,467点 須恵器片90点 鉄製品2点	SI-83より新しい
53	H4h <sub>3</sub>	N-3°-W	方形	3.46 × 3.42	23~35	ゆるい起伏	1	北壁中央	自然	土師器片1,035点 須恵器片127点 鉄製品2点 砥石1点	
54	H4i <sub>1</sub>	N-9°-W	長方形	3.92 × 3.58	54~67	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片1,549点 須恵器片54点 銅製品1点	
55	H4e <sub>1</sub>	N-9°-W	台形	4.30 × 3.76	47~48	平坦	1	北壁中央	人為	土師器片399点 須恵器片53点 鉄製品2点	
56	H4e <sub>4</sub>	N-16°-W	長方形	5.28 × 4.45	22~37	ゆるい起伏	4	北壁中央	人為	土師器片628点 須恵器片96点 鉄製品1点	SI-57より新しい・SI-61より古い
57	H4d <sub>4</sub>	N-5°-W	長方形	4.02 × 3.20	35~40	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片76点 須恵器片17点	SI-56・61より古い
58	H3f <sub>9</sub>	N-8°-W	方形	5.29 × 5.08	64~78	平坦	4	北壁中央	自然	土師器片2,299点 須恵器片467点 鉄製品5点 石製紡錘車1点 砥石1点	SI-59・62より古い
59	H3f <sub>8</sub>	N-15°-W	長方形	4.27 × 3.70	75~82	凹凸	0	北壁中央	自然	土師器片502点 須恵器片146点 鉄製品1点 砥石1点	SI-58より新しい・SI-60より古い
60	H3f <sub>6</sub>	N-83°-E	方形	2.86 × (2.54)	45~50	平坦	0	東壁南端	自然	土師器片123点 須恵器片44点 土製紡錘車1点	SI-59より新しい
61	H4d <sub>4</sub>	N-4°-W	方形	2.96 × 2.80	10	凹凸	0	北壁中央	自然	土師器片192点 須恵器片55点 鉄滓2点	SI-56・57より新しい
62	H3e <sub>9</sub>	N-14°-W	長方形	4.98 × 4.35	44~78	平坦	1	北壁中央	自然	土師器片1,008点 須恵器片204点 鉄製品3点 土製紡錘車1点 鉄滓1点	SI-58・63より新しい
63	H3d <sub>9</sub>	N-9°-W	長方形	4.46 × 3.83	54~70	平坦	4	北壁中央	自然	土師器片918点 須恵器片132点 鉄製品1点	SI-62より古い
64	I4j <sub>4</sub>	N-85°-W	楕円形	(4.85 × 4.00)	5~18	ゆるい起伏	6	炉・床面中央から東寄り	自然	縄文式土器片116点 石器5点	SI-23より古い(縄文前期)
65	G3j <sub>6</sub>	N-22°-W	方形	4.25 × 3.98	35~47	ゆるい起伏	5	北壁中央	自然	土師器片392点 須恵器片43点	
66	G3j <sub>8</sub>	N-24°-W	長方形	5.07 × 4.57	45~58	平坦	5	北壁中央	自然	土師器片483点 須恵器片49点 鉄製品1点 砥石3点 鉄滓1点	SI-70より新しい・SI-90より古い
67	G3j <sub>8</sub>	N-44°-W	方形	4.20 × 3.91	0~20	平坦	5	北西壁中央	自然	土師器片84点 須恵器片13点	SI-69より古い

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	ピット	カマド	覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						
68	I4h <sub>5</sub>	N-10°-W	楕円形	3.95 × (2.98)	5~20	ゆるい起伏	2	炉・無	自然	縄文式土器片15点 石器3点	SI-19より古い(縄文前期)
69	G3i <sub>6</sub>	N-54°-W	(方形)	3.25 × (2.86)	23~33	凹凸	1	北西壁中央	自然	土師器片117点 須恵器片17点 陶器片1点	SI-67より新しい
70	H3a <sub>7</sub>	N-32°-W	長方形	5.18 × 4.42	30~52	平坦	6	北壁中央	自然	土師器片881点 須恵器片154点 手捏土器1点 鉄製品1点 鉄滓1点	SI-66より古い
71	E3h <sub>8</sub>	N-16°-E	方形	4.35 × 4.18	0~7	平坦	2	北壁中央	—	土師器片50点 須恵器片6点	
72	E3a <sub>7</sub>	N-14°-E	不整形	3.74 × 3.40	0~32	平坦	2	北壁中央	自然	土師器片148点 須恵器片19点 鉄製品3点	
73	D3h <sub>8</sub>	N-12°-E	方形	3.35 × 3.34	24~33	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片187点 須恵器片8点 砥石1点	
74	D3i <sub>4</sub>	N-28°-E	方形	4.16 × 4.02	22~33	平坦	0	北壁中央	自然	土師器片61点 須恵器片9点	
75	D3a <sub>7</sub>	N-18°-E	長方形	3.93 × 2.95	11~17	平坦	1	北壁中央	自然	土師器片12点 須恵器片3点	
76	D3i <sub>7</sub>	N-9°-E	方形	3.36 × 3.13	18~27	平坦	1	北壁中央	人為	土師器片135点 須恵器片4点	SI-77より古い
77	D3i <sub>7</sub>	N-72°-W	方形	2.75 × 2.74	15~28	平坦	0	東壁南寄り	人為	土師器片80点 須恵器片15点 砥石1点	SI-76より新しい
78	D3h <sub>8</sub>	N-63°-W	長方形	3.38 × 2.98	29~46	平坦	3	北西壁西寄り	自然	土師器片160点 須恵器片31点	SI-80より古い
79	D3g <sub>6</sub>	N-19°-E	方形	2.45 × (1.17)	22~36	ゆるい起伏	1	北壁	自然	土師器片128点 陶器片1点	SI-80より古い
80	D3g <sub>5</sub>	N-67°-W	不整形	4.30 × 4.27	25~52	平坦	1	東壁南寄り	自然	土師器片210点 須恵器片20点 鉄滓8点	SI-78・79より新しい
81	D3i <sub>0</sub>	N-28°-E	方形	2.74 × (2.50)	27~30	平坦	1	北壁中央	人為	土師器片41点 須恵器片2点	SI-84より古い
82	D3a <sub>5</sub>	N-70°-W	長方形	3.84 × 2.90	0~4	凹凸	0	東壁南寄り	—	土師器片37点 須恵器片2点 砥石1点	
83	H4j <sub>3</sub>	N-9°-W	方形	2.74 × 2.50	7~12	平坦	0	北壁中央	人為	土師器片117点 須恵器片12点 鉄製品1点	SI-52より古い
84	D3j <sub>0</sub>	N-21°-E	方形	3.36 × (3.20)	40~45	平坦	0	—	自然	土師器片21点 須恵器片8点	SI-81より新しい
85	D3c <sub>8</sub>	N-9°-E	方形	3.65 × (3.10)	44~50	平坦	0	北壁西寄り	自然	土師器片116点 須恵器片6点	
86	E3f <sub>3</sub>	N-6°-E	方形	2.60 × (1.65)	0~10	平坦	0	北東コーナー	—	土師器片117点 須恵器片4点	
87	E3c <sub>6</sub>	N-10°-E	方形	(3.15 × 3.00)	—	平坦	0	北壁中央	—	土師器片28点 須恵器片2点	
88	E3g <sub>5</sub>	N-8°-E	長方形	4.17 × 3.12	0~6	平坦	0	北壁中央	—	土師器片33点 須恵器片5点	
89	I3d <sub>8</sub>	N-3°-W	(方形)	(3.05 × 2.30)	—	平坦	0	北壁	—		
90	G3j <sub>8</sub>	N-11°-W	方形	2.52 × 2.46	—	ゆるい起伏	0	北壁中央	自然	土師器片472点 須恵器片50点	SI-66より新しい

# 第4章 向畑遺跡

## 第1節 遺跡の概要

向畑遺跡は、金木場遺跡の北西側に隣接する標高27～30mの台地上に位置する。『茨城県遺跡地図』によると、北から南へ傾斜する台地上全面が、縄文、及び奈良・平安時代の遺跡として捉えられており、今回の調査範囲は、その東縁部に当たる。

調査によって検出された遺構は、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、溝1条、土坑24基、ピット35か所である。このうち、溝は調査区域の北端部に位置しているが、その他の遺構はいずれも中央部から南東部にかけて分布している。竪穴住居跡のうち、第1号住居跡は縄文時代前期に属するもので、第2・3号住居跡、及び掘立柱建物跡は奈良・平安時代に属するものである。

当遺跡から出土した遺物の量は、遺物収納箱（54×34×20cm）に4箱程度である。縄文式土器（前・中期）、土師器・須恵器のほか、石器、鉄製品が数点出土している。土器はほとんどが小破片の状態で出土しており、全体的に量も少ない。

## 第2節 竪穴住居跡

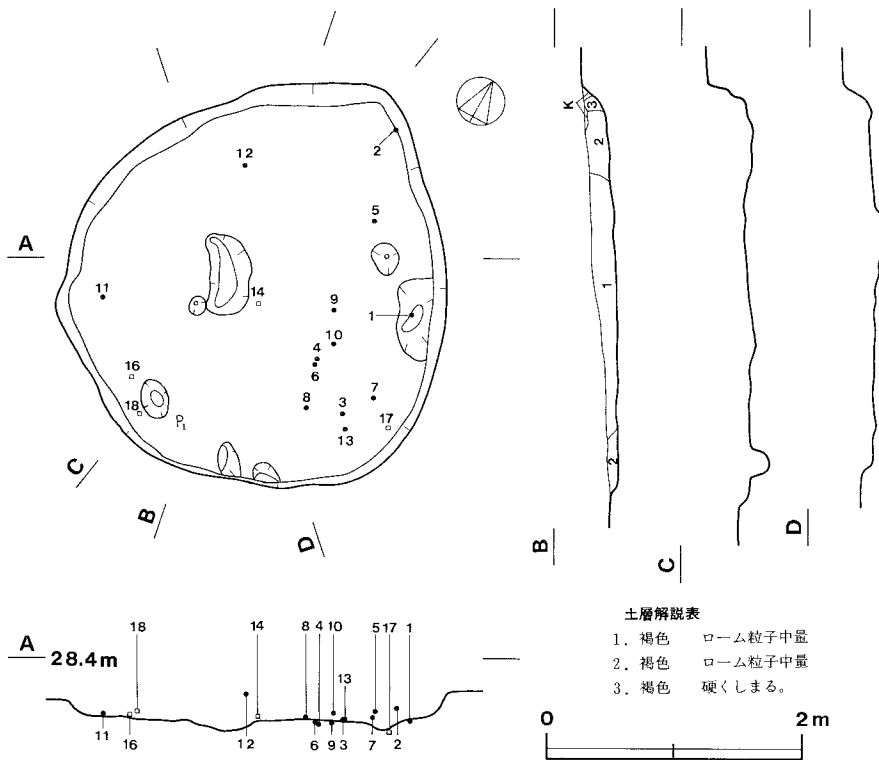
### 1 縄文時代

#### 第1号住居跡（第237図）

**位置** Bli0区。**平面形** 不整楕円形。**規模** 3.42×3.06m。**長径方向** N-2°-E。**壁** 外傾。壁高10～29cm。**壁溝** 無。**床** 凹凸。**ピット** 1か所。P1(32×21, -17cm) **炉** 無。**覆土** 自然堆積。

**遺物** 縄文式土器片61点。石器（磨石3，敲石2）5点。土器はいずれも小破片で、住居跡内全体からまばらに出土している。

**備考** 本跡は、出土遺物から、縄文時代前期前半に比定される。

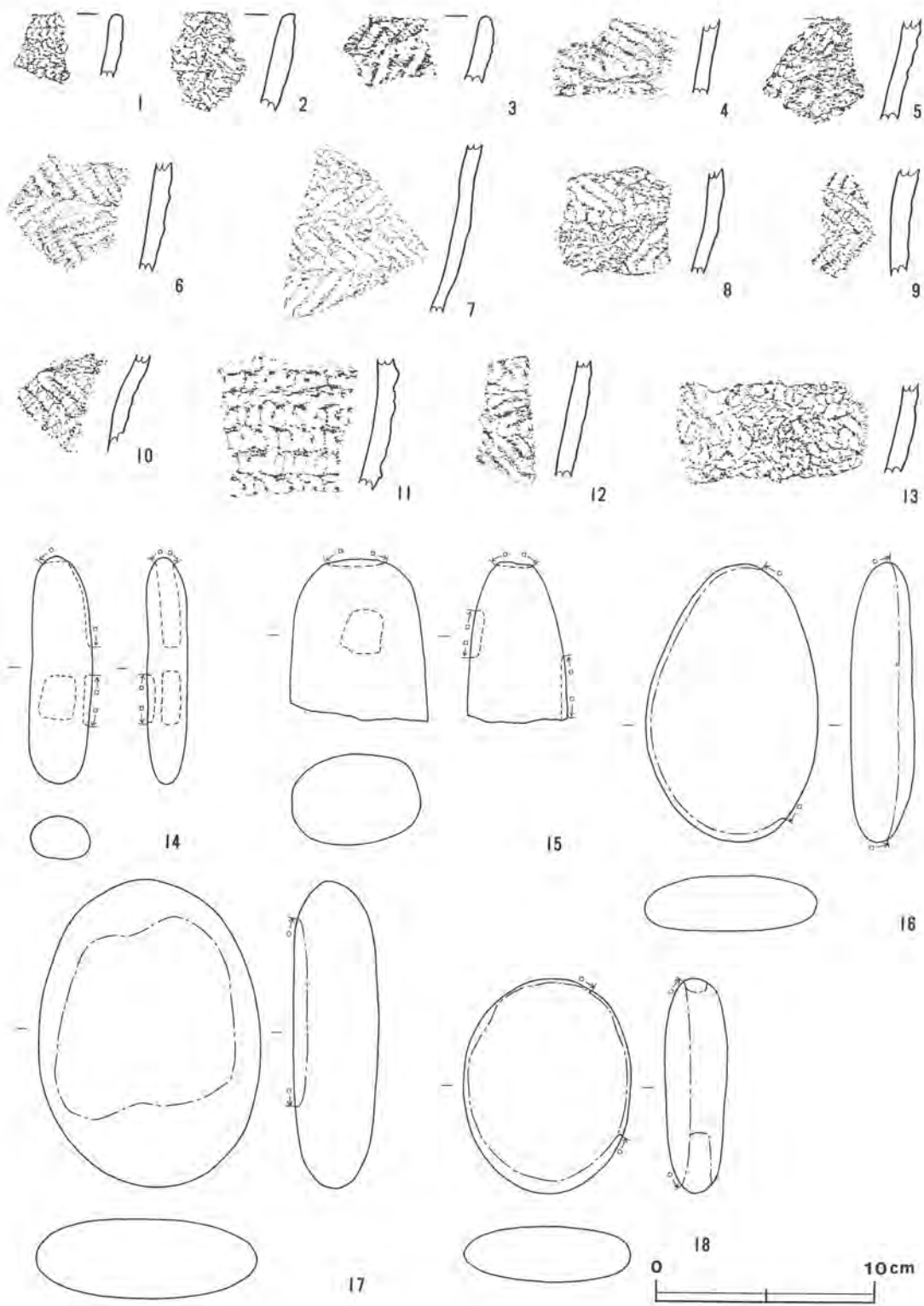


第237図 向畑遺跡第1号住居跡実測図

第1号住居跡出土遺物 (第238図)

1～13は縄文式土器である。1は口縁部片で、縄文地上に竹管状工具による爪形文が横・斜位に施されている。2・3も口縁部片で、縄文が施されている。4～13は胴部片である。4・7・8・12・13は、ループ文を伴って縄文が羽状に施されている。5・6・9・10は羽状縄文のみが、11は7段のループ文が施されている。いずれの土器も胎土に繊維が含まれている。(PL66)

図版番号	種類	長さ × 幅 × 厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第238図 14	敲石	10.6 × 3.0 × 2.0	100.7	流紋岩。2面に使用痕が認められる。東壁際床面出土。 PL66・Q9
15	敲石	(7.5) × 6.4 × 4.2	360.4	流紋岩。3面に使用痕が認められる。中央部床面出土。 PL66・Q8
16	磨石	13.1 × 7.9 × 2.6	444.4	流紋岩。1面に使用痕が認められる。中央部覆土中層出土。 PL66・Q3
17	磨石	14.4 × 10.3 × 3.7	942.9	流紋岩。1面に使用痕が認められる。南西部覆土下層出土。 PL66・Q6
18	磨石	10.0 × 7.9 × 2.6	304.0	流紋岩。2面に使用痕が認められる。南西部覆土下層出土。 Q5



第238图 向畑遺跡第1号住居跡出土遺物実測図・拓影図

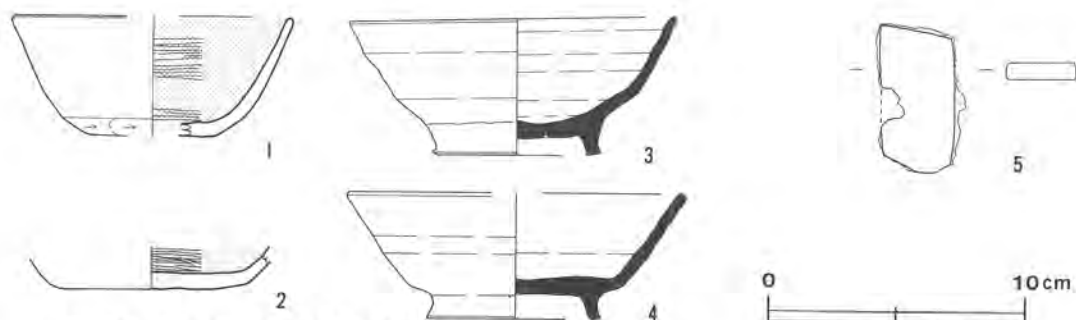
## 2 奈良・平安時代

### 第2号住居跡（第240図）

位置 Blg7区。重複関係 SI-3より古い。SB-1（新旧不明）。平面形 方形。規模 4.09×〔1.77〕m。南北軸方向 N-5°-W。壁 直立。壁高40~65cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 不明。覆土 自然堆積。

遺物 土師器片（甕，坏，平鉢）56点。須恵器片（甕，坏，高台付坏）12点。鉄製品（板状鉄製品）2点。第239図3の高台付坏は、本跡内では唯一の完形品。その他はいずれも破片で、覆土中・上層から出土している。

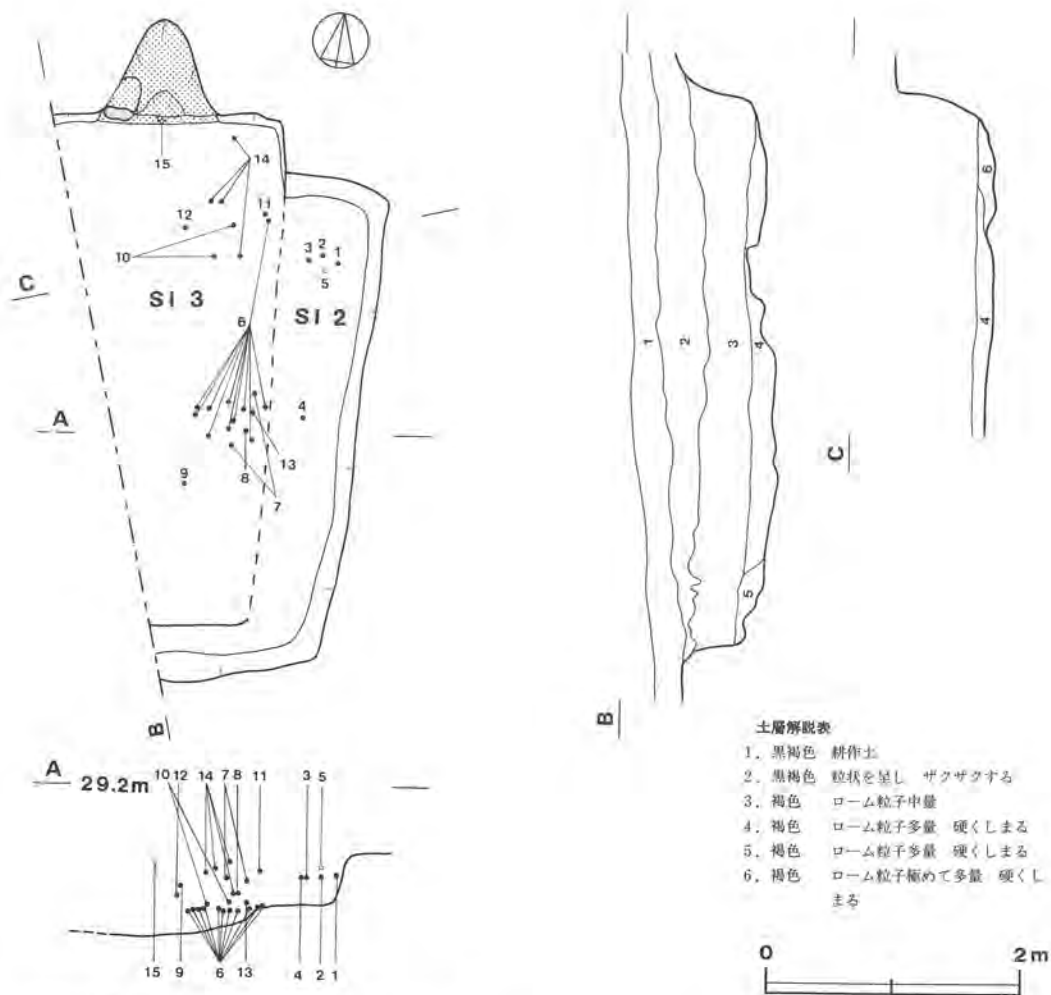
備考 遺跡の主要部がSI-3に切られており、東部から南部にかけての狭い範囲だけが調査される。



第239図 向畑遺跡第2号住居跡出土遺物実測図

### 出土遺物観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	土師器 甕	A (11.2) B 4.8 C (4.9)	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部及び体部下端、手持ちヘラ削り。	砂粒 にふい黄橙色 普通	20% P4 北東部覆土中層
2	土師器 坏	B [1.7] C 7.9	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面、ヘラ磨き、黒色処理。底部、多方向のナデ。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	40% P3 北東部覆土中層
3	高台付坏 須恵器	A (13.0) B 5.6 D 6.6 G 1.2	平底。外側へ軽くふんばる高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で軽く外反する。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅広の面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	90% P11 北東部覆土中層 PL67
4	高台付坏 須恵器	A (13.2) B 5.0 D 6.8	平底。外側へふんばる高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。下位に鈍い稜をもち、高台部との間に幅の狭い面を成す。	底部、回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	50% P13 東部覆土中層
図版番号	種類	法量 (cm)		備考		
5	板状鉄製品	全長 (5.9)	最大幅2.8 最大厚0.6	北東部覆土中層出土。		M2



第240図 向畑遺跡第2・3住居跡実測図

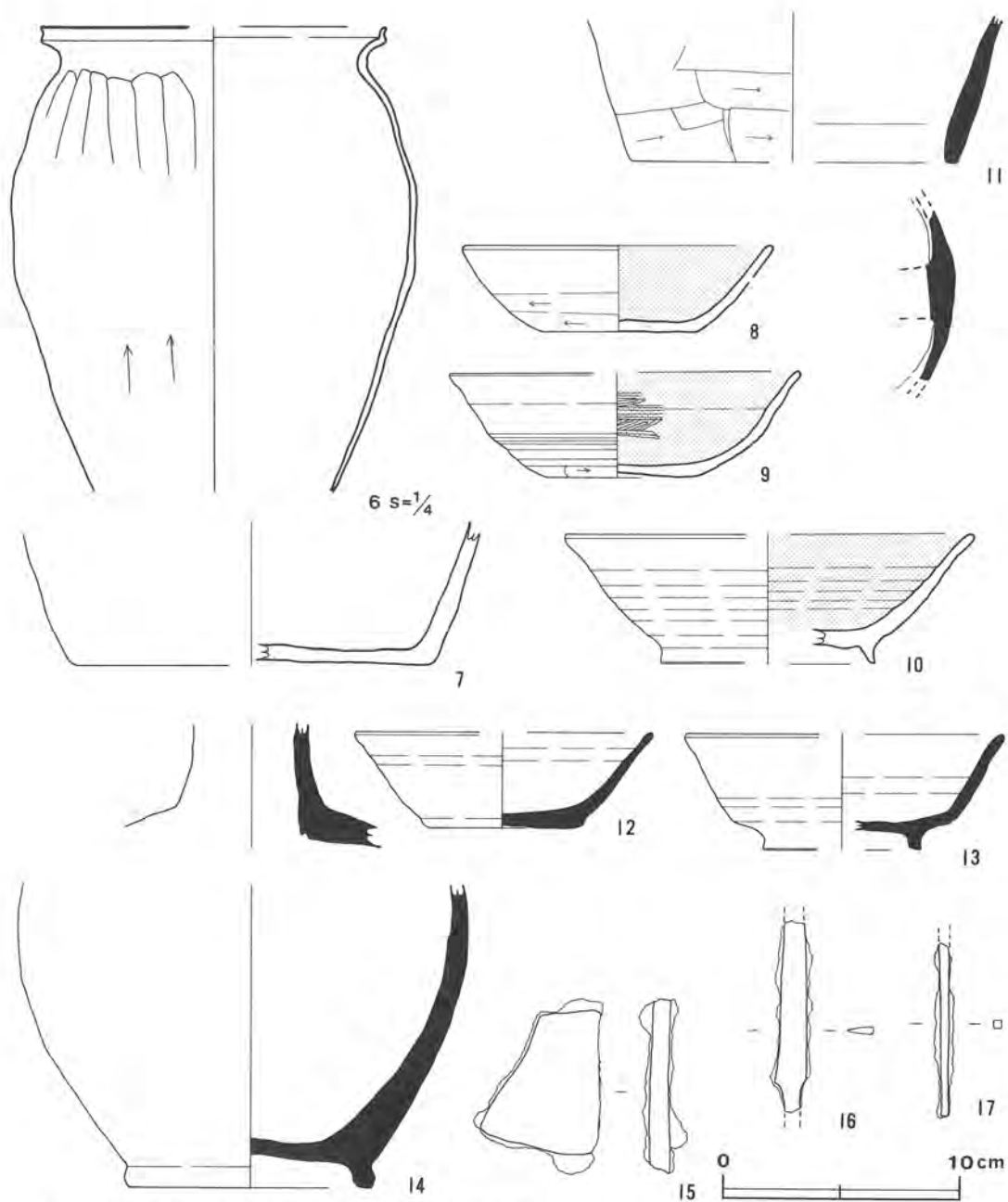
### 第3号住居跡 (第240図)

**位置** Blg7区。重複関係 SI-2より新しい。SB-1(新旧不明)。平面形 方形。規模 3.98×[1.38]m。主軸方向 N-10°-W。壁 直立。壁高40~67cm。壁溝 無。床 平坦。ピット 無。カマド 北壁東寄り。崩壊が著しく、構築材の粘土と凝灰岩が壁に貼り付くようにして残っている程度。煙道部は約90cm壁面を掘り込んでいる。覆土 自然堆積。

**遺物** 土師器片(甕, 坏, 高台付坏) 810点。須恵器片(甕, 坏, 高台付坏, 甌, 盤, 壺) 104点。砥石1点。鉄製品(刀子1, 鎌1, 板状鉄製品2, 器種不明1) 5点。住居跡内ほぼ全体に破片が散乱した状態で出土している。

**備考** SI-2とは床面の高さがほとんど同じで、覆土でも明瞭な差違を区別できなかったが、北東部の壁の形状と貼床部分の土層の違いから、本跡がSI-2より新しい遺構であると判断する。西

側の調査区域外へ遺構が延びており、東側部分のみの調査となる。また、本跡を取り囲むようにしてSB-1が検出されている。



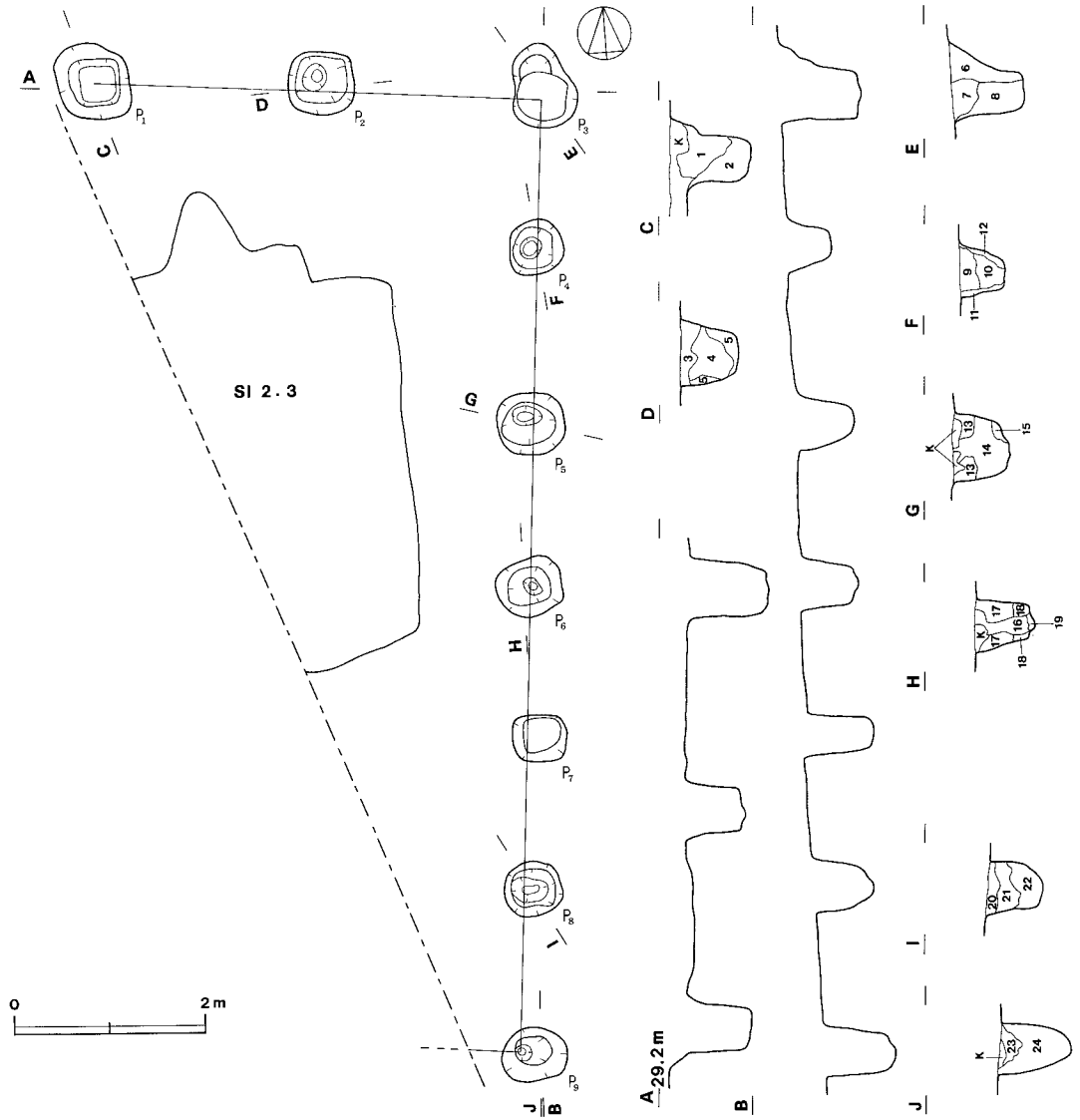
第241図 向畑遺跡第3号住居跡出土遺物実測図



出土遺物観察表

図版番号	器 種	法量 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第241図 6	甕 土 師 器	A (19.6) B (26.9) E (23.0)	胴部は内彎気味に立ち上がり、 上位に最大径をもつ。頸部から 口縁部にかけて丸味をもって外 反し、口縁端部は上方へつまみ 上げられる。	口頸部内・外面、横ナデ。胴部 内面、ナデ。外面、縦位のへら 削り。	砂粒・雲母・ス コリア にふい橙色 普通	60% P1 東部床面直上 PL67
7	甕 土 師 器	B (5.7) C 15.6	底部片。平底。胴部は外傾して 立ち上がる。	胴部内面、横位のナデ。外面、 横位のへら削り（磨滅のため不 明瞭）。底部、ナデ。内面下端に 輪積み痕がわずかに残る。	砂粒・雲母 にふい黄橙色 普通	10% P7 東部覆土中層
8	坏 土 師 器	A 13.3 B 3.8 C 6.6	平底。体部は内彎気味に外傾し て立ち上がり、口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、へら磨き。 黒色処理は不十分。底部及び体 部下位、回転へら削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	60% P2 東部覆土中層 PL67
9	坏 土 師 器	A (15.1) B 4.5 C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち 上がり、口縁部で軽く外反する。 口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、へら磨き、 黒色処理。外面下位、工具によ る沈線が巡る。底部、多方向の へら削り後、外周部、ナデ。	砂粒 にふい橙色 普通	50% P8 南東部覆土中層 PL67
10	高台付坏 土 師 器	A (17.4) B 5.6 D (9.2)	平底。短く「ハ」の字状に開く 高台が付く。体部は内彎気味に 外傾して立ち上がり、口縁部で 軽く外反する。口唇部は丸い。	ロクロ整形。内面、へら磨き、 黒色処理。底部、ナデ調整後、 高台貼り付け。	砂粒・雲母 にふい橙色 普通	10% P6 北東部覆土下層
11	甗 須 恵 器	B (6.4) C (14.0)	胴部は外傾して立ち上がる。底 部に、透し孔のしきりをもつ。 孔数は不明。	胴部下位外面、横位のへら削り。	砂粒 灰色 普通	5% P14 北東部覆土中層
12	坏 須 恵 器	A (12.6) B 4.1 C 6.5	平底。体部は内彎気味に外傾し て立ち上がり、口縁部でわずか に外反する。口唇部は丸い。	底部、ナデ。	砂粒 灰色 普通	30% P10 北東部覆土下層 へら記号
13	高台付坏 須 恵 器	A (13.6) B 5.0 D (6.8)	平底。「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は外傾して立ち上 がり、口縁部で外反する。	底部、回転へら切り後、高台貼 り付け。	砂粒 灰色 普通	40% P12 東部覆土下層 PL13
14	長頸壺 須 恵 器	B (18.2) D 10.5	平底。短く「ハ」の字状に開く 高台が付く。胴部は内彎しなが ら立ち上がる。頸部は外反気味 に直立する。	底部、ナデ後、高台貼り付け。 外面に自然釉がみられる。	砂粒 にふい黄橙色 普通	20% P9 北東部覆土中・ 下層
図版番号	種 類	法 量 (cm)	備 考			
15	板状鉄製品	全長6.2 最大幅5.0 最大厚0.9	器面がわずかに彎曲する。北東部覆土中層出土。 PL67・M1			
16	刀 子	全長(8.2) 最大幅1.4 最大厚0.3	刀身先端部・茎欠損。南東部覆土出土。 PL67・M5			
17	鉄	全長(7.4) 最大幅0.4 最大厚0.4	茎の一部。南東部覆土出土。 M6			

### 第3節 掘立柱建物跡



#### 土層解説表

P1	1. 暗褐色 ローム粒子中量	2. 褐色 ローム粒子多量	P2	3. 褐色	4. 褐色 ローム粒子中量	5. 黄褐色 ローム土多量	P3	6. 褐色 ローム粒子中量 し まり弱い	7. 褐色 硬くしまる	8. 褐色 ローム粒子多量 硬 くしまる	P4	9. 褐色 ローム粒子中量	10. 褐色	11. 褐色 ローム粒子多量	12. 褐色 ローム粒子多量	P5	13. 褐色 ローム粒子多量	14. 褐色	15. 明褐色 ローム粒子多量	P6	16. 褐色 ローム粒子多量 し まり弱い	17. 褐色 ローム粒子多量	18. 褐色 ローム粒子中量	19. 褐色 ローム粒子中量	17~19層 硬くしまる	P8	20. 褐色 ローム粒子中量	21. 褐色	22. 褐色 ローム粒子中量	P9	23. 暗褐色	24. 褐色 ローム粒子中量 全体に硬くしまる
----	-------------------	------------------	----	-------	------------------	------------------	----	-------------------------------	----------------	-------------------------------	----	------------------	--------	-------------------	-------------------	----	-------------------	--------	--------------------	----	--------------------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-----------------	----	-------------------	--------	-------------------	----	---------	-------------------------------

第242図 向畑遺跡第1号掘立柱建物跡実測図

## 第1号掘立柱建物跡（第242図）

**位置** Blg8・Blh8区。**重複関係** SI-2・3（新旧不明）。**規模** 6間（10.20m）×〔2間（4.68m）〕。**梁行方向** N-3°-E。**柱間寸法** 桁行2.30~2.38m, 梁行1.58×1.82m。**柱掘り方** P<sub>1</sub>（80×76, -75cm）P<sub>2</sub>（68×58, -64cm）P<sub>3</sub>（88×66, -83cm）P<sub>4</sub>（58×53, -42cm）P<sub>5</sub>（70×66, -60cm）P<sub>7</sub>（56×49, -71cm）P<sub>8</sub>（60×60, -62cm）P<sub>9</sub>（67×60, -73cm）。**覆土** ローム粒子を多量に含む褐色土で、全体的に硬く締まる。

**遺物** 土師器片（甕, 坏）26点。須恵器片（甕, 坏）4点。いずれも小破片で、覆土からの出土である。点数は、9か所の柱掘り方から出土したものの総数である。土師器坏は、内面にヘラ磨き・黒色処理を施したものである。

**備考** 本跡は、SI-2・3を取り囲むようにして位置しているが、西側の調査区域外へ遺構が延びていたため、全体を捉えられない。わずかではあるが、土師器片・須恵器片を出土していることから、奈良・平安時代の遺構と判断する。

## 第4節 その他の遺構

### 1 土坑

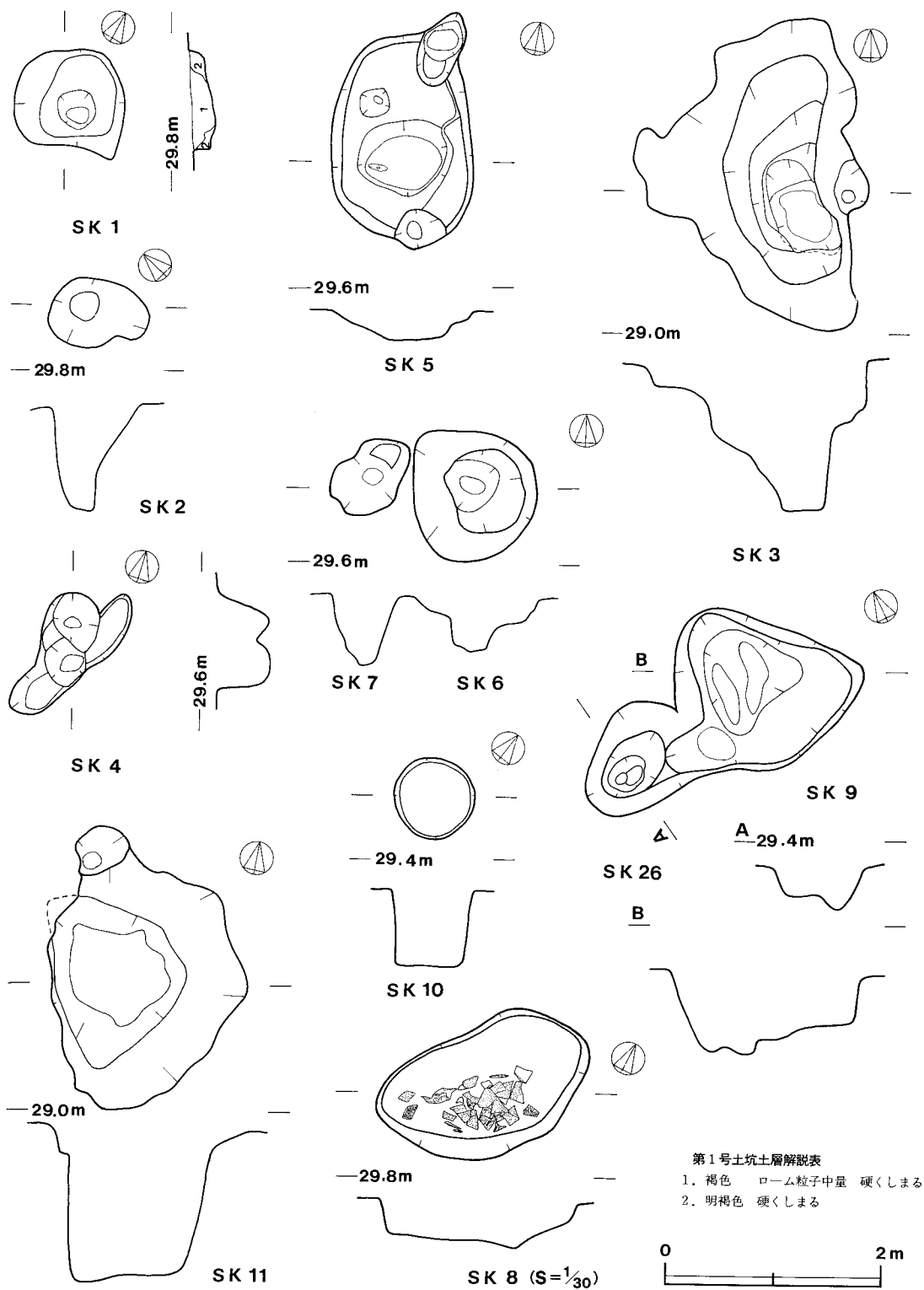
当遺跡で番号を付して調査した土坑の数は33基であるが、このうち、第17・18・20・23・24・29・30・31・32号土坑は掘立柱建物跡として取り扱うことにしたため、欠番とした。その結果、当遺跡から検出された土坑の数は24基となった。

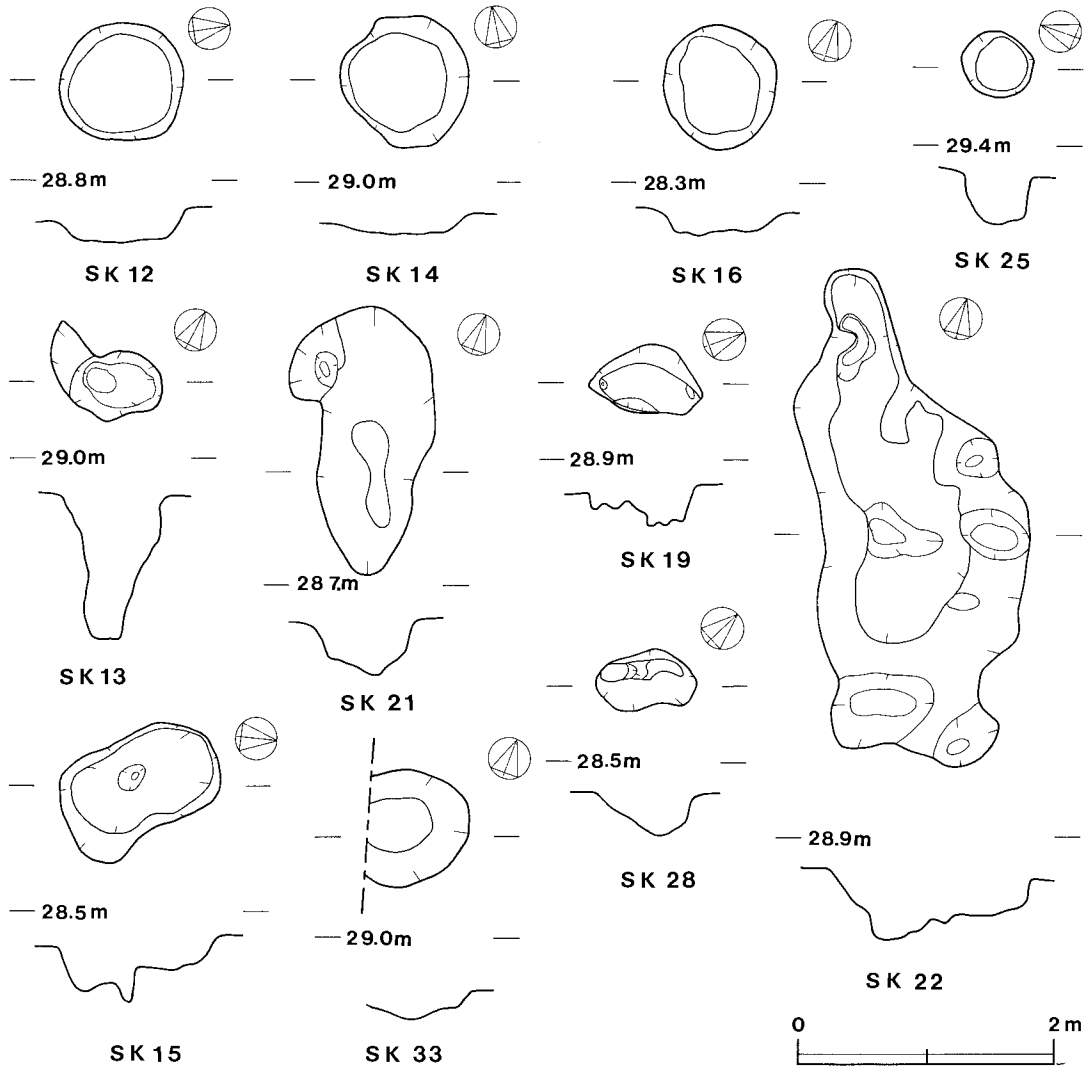
これらの土坑は、調査区域の中央部から南東部にかけて位置している。全体的に小型のものが多く、遺物の出土量も少なく、時期や性格を決定する資料に乏しいものが多い。特徴的な土坑としては、縄文式土器が多量に出土した第8号土坑が挙げられる。ここでは、各土坑の規模・形状・出土遺物等について一覧表にまとめて掲載する。

表5 向畑遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
1	Bl <sub>d</sub> <sub>6</sub>	N-47°-E	円形	1.05 × 0.91	0.20	外傾	皿状	自然		
2	Bl <sub>d</sub> <sub>6</sub>	N-45°-W	楕円形	0.95 × 0.66	1.02	直立	平坦	人為	土師器片4点 須恵器片1点	
3	Bl <sub>f</sub> <sub>6</sub>	N-5°-W	不定形	2.95 × 1.98	1.40	外傾	"	"	縄文式土器片7点 土師器片5点 須恵器片1点	
4	Bl <sub>d</sub> <sub>6</sub>	N-35°-E	"	1.52 × 0.66	0.50	"	凹凸	"	土師器片6点	
5	Bl <sub>d</sub> <sub>7</sub>	N-12°-W	不整楕円形	2.04 × 1.28	0.30	"	"	"	土師器片6点	
6	Bl <sub>e</sub> <sub>7</sub>	N-43°-W	円形	1.32 × 1.21	0.53	"	"	"	縄文式土器片2点 土師器片4点 須恵器片3点	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
7	B1e <sub>7</sub>	N-37°-E	不整楕円形	0.83 × 0.60	0.67	外傾	皿状	自然		
8	B1c <sub>8</sub>	N-48°-E	楕円形	1.04 × 0.60	0.16	"	"	不明	縄文式土器片47点	(縄文時代)
9	B1d <sub>9</sub>	N-90°-E	不整合形	2.05 × 1.62	0.80	"	凹凸	人為	土師器片1点	SK-26と重複
10	B1d <sub>9</sub>	N-32°-W	円形	0.76 × 0.74	0.73	直立	平坦	"		
11	B1f <sub>9</sub>	N-4°-W	不定形	2.49 × 1.83	1.42	外傾	"	"	縄文式土器片9点 土師器片6点	
12	B1h <sub>9</sub>	N-13°-W	円形	1.01 × 0.94	0.24	"	"	"	縄文式土器片2点 土師器片11点	
13	B1g <sub>9</sub>	N-83°-E	不整楕円形	0.91 × 0.55	1.17	直立	皿状	自然	縄文式土器片2点 土師器片2点	
14	B1g <sub>9</sub>	N-9°-W	円形	1.10 × 0.95	0.24	外傾	平坦	"	土師器片2点	
15	B2i <sub>1</sub>	N-49°-W	隅丸長方形	1.33 × 0.79	0.30	"	凹凸	人為		
16	B2i <sub>3</sub>	N-36°-W	円形	0.99 × 0.90	0.21	"	平坦	自然	縄文式土器片3点 土師器片1点	
19	B2g <sub>1</sub>	N-29°-E	不定形	0.89 × 0.55	0.33	"	凹凸	不明		
21	B1i <sub>9</sub>	N-18°-W	不整楕円形	2.14 × 0.88	0.45	"	皿状	人為		
22	B1h <sub>9</sub>	N-6°-W	不定形	3.98 × 1.61	0.32	"	凹凸	"	縄文式土器片1点 土師器片1点 須恵器片1点	
25	B1e <sub>7</sub>	N-10°-W	円形	0.55 × 0.52	0.40	直立	皿状	自然		
26	B1d <sub>9</sub>	N-61°-E	楕円形	1.19 × 0.96	0.48	外傾	凹凸	不明	縄文式土器片2点	SK-9と重複
27	B1h <sub>9</sub>	N-59°-E	長楕円形	1.54 × 0.29	0.28	"	"	自然		
28	B1i <sub>9</sub>	N-45°-E	楕円形	0.82 × 0.46	0.34	"	皿状	"	土師器片1点	
33	B1h <sub>8</sub>	N-17°-W	円形	0.94 × (0.79)	0.23	"	"	人為	縄文式土器片1点 土師器片1点	



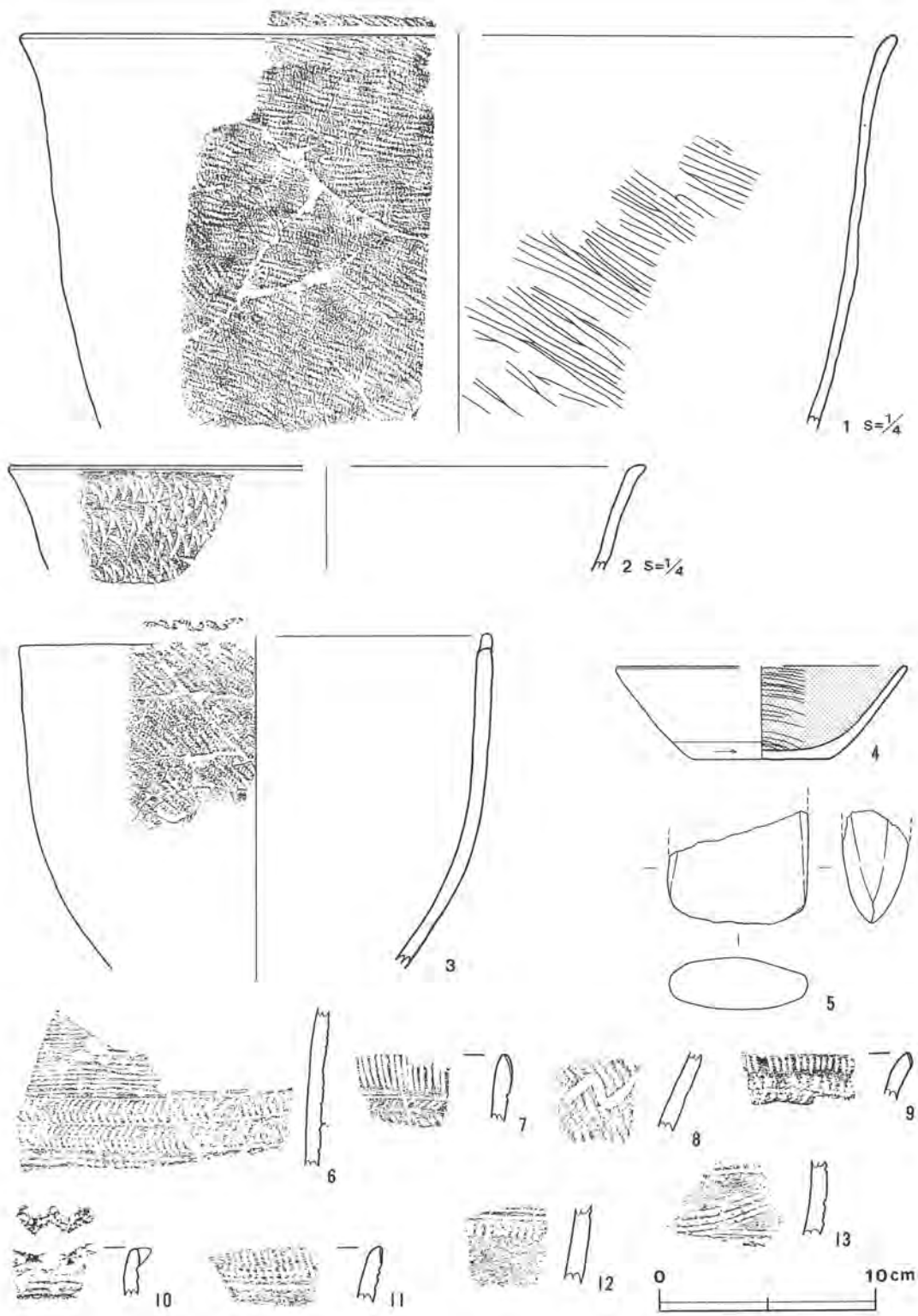


第224図 向畑遺跡土坑実測図(2)

土坑出土遺物 (第245図)

1～3は第8号土坑から出土した縄文式土器の口縁部から胴部上位にかけての破片である。1は口径が54cm(推定)を測る大きなもので、口唇部から胴部にかけて全面に縄文(単節RL)が施されており、内面はていねいなヘラナデが施されている(PL66)。2は、波状貝殻文が4段にわたって施されている。3は、口唇部に粘土紐が鋸歯状に貼り付けられ、その後に、口唇部から胴部にかけて縄文(単節RL)が施されている。

4は、第6号土坑から出土した土師器坏である。平底で、体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。内面はヘラ磨き、黒色処理が施され、外面は、底部、及び体部下端に回転ヘラ削りが施されている。(口径(13.5)cm, 器高4.2cm, 底径(6.2)cm)



第245图 向畑遺跡土坑出土遺物実測図・拓影図

5は、第3号土坑から出土した磨製石斧（PL66）である。（現存長5.2cm，幅6.6cm，厚さ2.4cm，重量115.4g）

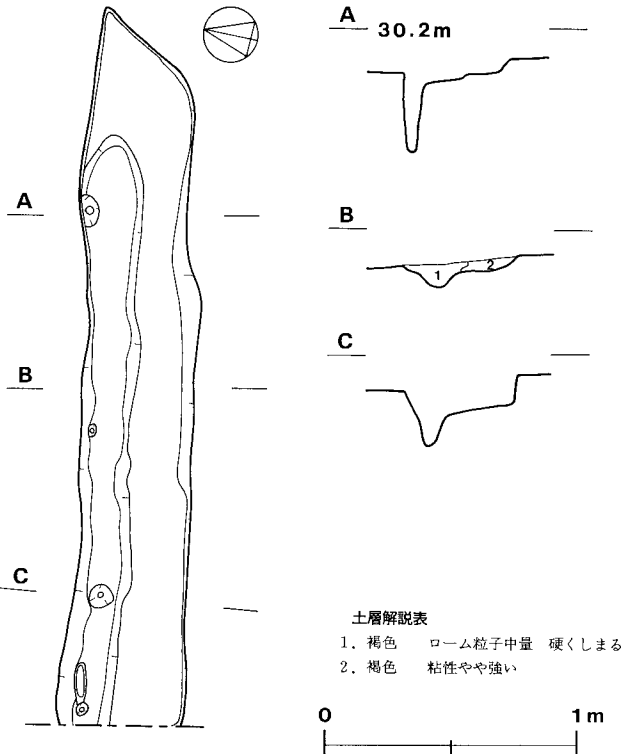
6～13は縄文式土器である。6～8は第11号土坑から出土している。6は胴部片で，沈線で区画された中に竹管状工具による変形爪形文が横位に2条施され，その上位に横位の沈線，下位に竹管状工具による連続刺突文が施されている。上位に，斜位の刻みがみられる。7は口縁部片で，口縁直下に縦位の刻み，下位に変形爪形文が施されている。8は胴部片で，縄文（単節RL）地文上に波状の沈線が描かれている。9・10は第9号土坑出土の口縁部片である。9は，口縁端部に刻みが施され，下位には波状貝殻文が施されている。10は，竹管による横位の刺突文が施されている。口唇部には，上面に刺突を加えた「W」字状の貼り付け文が施されている。11・12は第12号土坑から出土している。11は口縁部片で，口縁端部への刻み，及び波状貝殻文が施されている。12は胴部片で，2条の沈線の下に竹管状工具による連続刺突文が横位に施されている。13は第26号土坑出土の胴部片で，竹管状工具による連続刺突文が横・斜位に施されている。

## 2 溝

### 第1号溝（第246図）

**位置** A1f3区～A1e4区。**規模** 上幅0.80～1.02m，下幅0.56～0.85m，深さ0.10～0.24m，全長〔5.70〕m。**主軸方向** N-82°-E。ほぼ東西に直線的に延びる。**断面形** 皿状。北側がわずかに低く，2段に掘り込まれている。**底面高度** ほぼ水平。東部で標高29.77m，西端部で標高29.74m。**覆土** 自然堆積。**遺物** 土師器片（甕）1点。須恵器片（坏）1点。いずれも小破片で，覆土から出土している。

**備考** 本跡は調査区域の北端部に位置する。北壁に沿って，小ピット（上端径10～25cm，深さ25～64cm）が4か所，0.9～1.7m程の間隔で検出されており，柵列を伴うことも考えられる。



第246図 向畑遺跡第1号溝実測図



### 3 ピット

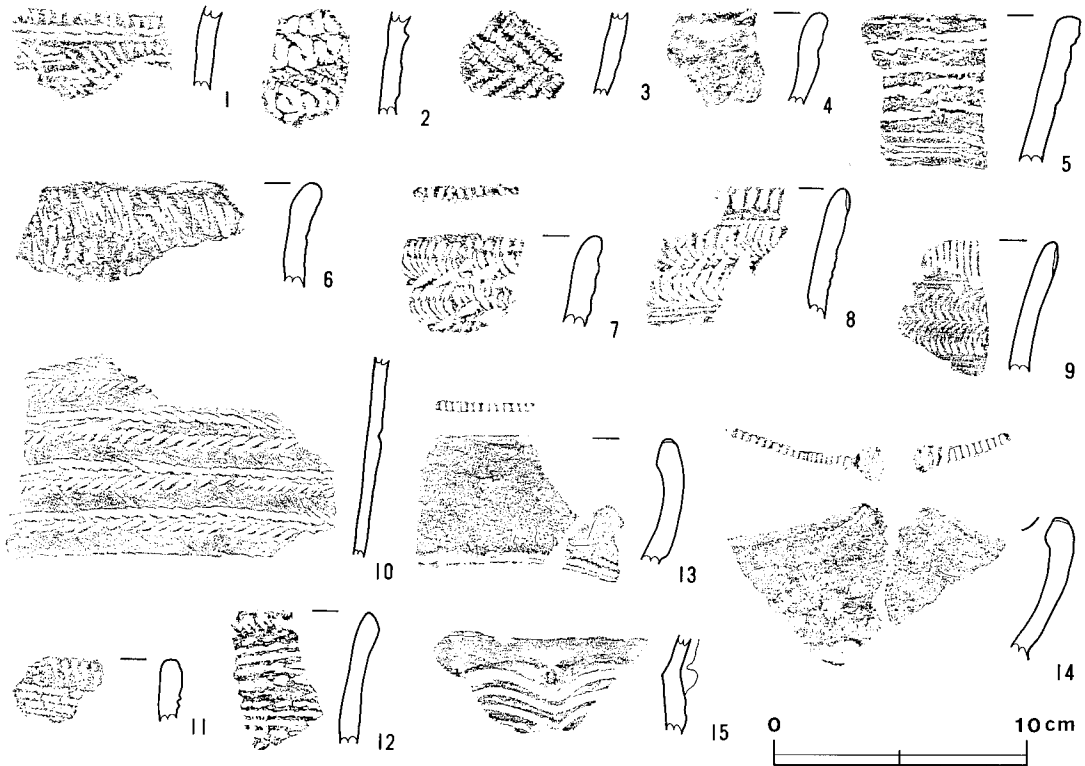
当遺跡からは、35か所のピットが検出されている。調査区域の中央部から南東部にかけて分布しているが、規則的な配列はみられない。ここでは、各ピットの規模・遺物等について、一覧表にまとめて掲載する。

表 6 向畑遺跡ピット一覧表

番号	位置	規 模		備 考 (出土遺物)	番号	位置	規 模		備 考 (出土遺物)
		長径×短径(cm)	深さ(cm)				長径×短径(cm)	深さ(cm)	
1	B1e <sub>6</sub>	60 × 40	42	土師器片 3点 須恵器 1点	19	B1i <sub>8</sub>	37 × 32	72	
2	B1b <sub>6</sub>	66 × 35	60		20	B1i <sub>8</sub>	(40) × 36	30	縄文式土器片 1点 土師器片 1点
3	B1e <sub>8</sub>	48 × 40	50		21	B1i <sub>8</sub>	(62) × 46	57	縄文式土器片 1点 土師器片 1点
4	B1e <sub>8</sub>	69 × 50	74	土師器片 2点 須恵器片 2点	22	B1h <sub>0</sub>	49 × 39	64	
5	B1e <sub>9</sub>	43 × 42	38		23	B2h <sub>1</sub>	27 × 24	51	
6	B1e <sub>9</sub>	38 × 37	45	土師器片 1点	24	B1g <sub>9</sub>	46 × 45	39	縄文式土器片 1点 土師器片 1点
7	B1h <sub>0</sub>	60 × 35	29		25	B1h <sub>8</sub>	58 × 35	67	
8	B2i <sub>2</sub>	42 × 38	25		26	B1h <sub>0</sub>	42 × (35)	51	
9	B2i <sub>2</sub>	42 × 37	30		27	B1h <sub>0</sub>	(31) × 25	50	
10	B2j <sub>1</sub>	37 × 36	21		28	B1d <sub>7</sub>	47 × 35	32	
11	B2j <sub>1</sub>	35 × 31	26		29	B1d <sub>7</sub>	50 × 37	88	土師器片 5点 須恵器片 1点
12	B1j <sub>1</sub>	36 × 29	18		30	B1g <sub>8</sub>	49 × 33	16	
13	B2j <sub>2</sub>	38 × 31	39		31	B1b <sub>5</sub>	41 × 33	35	
14	B2i <sub>2</sub>	64 × 57	28		32	B1h <sub>9</sub>	50 × 40	42	
15	B1g <sub>0</sub>	31 × 24	45		33	B1h <sub>9</sub>	36 × (32)	60	
16	B1g <sub>0</sub>	23 × 23	39		34	B1h <sub>9</sub>	(48) × 42	29	
17	B1g <sub>8</sub>	30 × 27	42		35	B1f <sub>0</sub>	49 × 41	79	
18	B1f <sub>9</sub>	46 × 30	50						

## 第5節 遺構外出土遺物

当遺跡からは、グリット発掘、表土除去作業の際にも少量の遺物が出土している。縄文式土器の破片が中心で、ほかに土師器片、須恵器片も若干含まれる。ここでは、主なものの拓影図を掲載した。



第247図 向畑遺跡遺構外出土遺物拓影図

第247図1～15は縄文式土器である。1～3は胴部片で、胎土に繊維が含まれている。1は縄文原体圧痕の上下に竹管状工具による刺突文が施されている。2はループ文、3は羽状縄文が施されている。4～9は口縁部片である。4は無文である。5は、上半に有節平行沈線、下半に沈線が施されている。6～9は貝殻腹縁による変形爪形文が施されたもので、6は口縁端部に刻みをもち、7・9は、変形爪形文の上から斜位の刻みが施されている。10は胴部片で、竹管状工具による変形爪形文が4条施されている。11・12は口縁部片で、いずれも口縁端部に刻みをもち、竹管状工具による連続刺突文が施されている。12は縄文地文上に刺突が施されている。13・14は口縁部片で、口唇部に棒状工具による押圧が施されている。14はゆるやかな波状口縁で、突起が欠損している。15は胴部片で、粘土紐が「V」字状に貼り付けられ、それに沿って沈線が4条施されている。13～15は同一個体と思われる。

## 第6節 まとめ

縄文時代のものとしては、竪穴住居跡が1軒検出されている。形状は、北側がやや張り出す不整楕円形を呈しており、長軸方向はほぼ北を向く。床面は比較的凹凸が大きく、炉や柱穴は検出されない。出土した土器は関山式に相当し、金木場遺跡の第64・68号住居跡とほぼ同時期のものと思われる。また、第8号土坑は、上端径が1.04×0.60mで深さ16cm程度の小型の土坑だが、縄文式土器片（前期後半）が3個体分出土した点で特徴的である。

奈良・平安時代のものとしては、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟が検出されている。第2・3号住居跡は互いに重複しているうえ、調査区域外へ遺構が延びているため、全体を捉えることはできなかったが、出土遺物からみて、金木場遺跡のⅦ期前後に比定される。掘立柱建物跡は、第2・3号住居跡を取り囲むようにして位置しているのが注目される。

向畑遺跡は、現在は市道の走る切通しによって金木場遺跡と分断されているが、かつてはひとつづきの台地であったことが容易に推測できる。当遺跡から検出された遺構・遺物は、内容からみて金木場遺跡とほぼ同時期のものであり、金木場遺跡とは一連の集落であるとみることもできよう。

表7 向畑遺跡竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	ピット	カマド	覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)						
1	B1i <sub>0</sub>	N-2°-E	不整楕円形	3.42 × 3.06	10~29	凹凸	1	炉・無	自然	縄文式土器片61点 石器5点	(縄文前期)
2	B1g <sub>7</sub>	N-5°-W	(方形)	4.09 × (1.77)	40~65	平坦	0	—	自然	土師器片56点 須恵器片12点 鉄製品2点	SI-3より古い・SB-1(新旧不明)
3	B1g <sub>7</sub>	N-10°-W	(方形)	3.98 × (1.38)	40~67	平坦	0	北壁東寄り	自然	土師器片810点 須恵器片104点 鉄製品5点 磁石1点	SI-2より新しい・SB-1(新旧不明)

## 終 章 む す び

茨城県日立市滑川町において、一般国道6号（日立バイパス）改築工事に先立ち、その予定地内に所在する金木場遺跡と向畑遺跡の発掘調査を実施した。調査の結果、縄文時代、及び奈良・平安時代の遺構・遺物を確認することができた。

縄文時代の遺構としては、金木場遺跡から2軒、向畑遺跡から1軒の竪穴住居跡が検出されている。出土遺物からみて、いずれも前期前半の関山式期に比定されるものである。そのほか、金木場遺跡では陥し穴状遺構が検出されている。遺構外出土のものも合わせると、遺物は早期から後期まで幅広い時期のものが認められる。

また、遺構は検出されなかったが、弥生式土器片（中・後期）も若干出土しており、かなり長い期間にわたって人々の生活の場となっていたことが窺われる。

奈良・平安時代の遺構・遺物は圧倒的に多い。金木場遺跡から88軒、向畑遺跡から2軒の竪穴住居跡が検出され、それに伴い、多数の遺物（土師器、須恵器、鉄製品など）が出土している。中には、巡方や焼印など注目される遺物も含まれている。

金木場遺跡がのる台地は、この周辺では最も広い平坦面をもつ台地であり、集落を営むには良好な条件があったものと思われる。また、この滑川町付近は、古代には多珂郡道口郷に属しており、官道も通っていた。奈良時代から平安時代初期にかけて蝦夷征伐が行われていた時代には、その交通路に沿った集落として、金木場の人たちが何らかの役割を果たしていたことも考えられよう。

以上のように、金木場・向畑遺跡の発掘調査によって得られた成果をまとめてきた。十分な形で報告できたことは言い難いが、日立市の歴史を解明する上でささやかな一助となれば幸いである。

最後に、発掘調査から報告書作成に至るまで、日立市教育委員会ははじめ、関係各位から御指導、御協力をいただいたことに対し、感謝の意を表したい。

# 写真図版



遺跡遠景



調査前風景

# PL2



第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡



第2号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡



第3号住居跡カマド



第3号住居跡遺物出土状況



第4号住居跡



第4号住居跡カマド



第4号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡



第5号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡カマドA



第5号住居跡カマドB



PL4



第5号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡



第6号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡カマド



第6号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡遺物出土状況



第6・8号住居跡  
遺物出土状況



第7号住居跡



第7号住居跡カマド



第7号住居跡遺物出土状況



第8号住居跡



第9号住居跡遺物出土状況



第9号住居跡遺物出土状況



第10号住居跡遺物出土状況



第10号住居跡遺物出土状況

PL6



第11号住居跡カマド



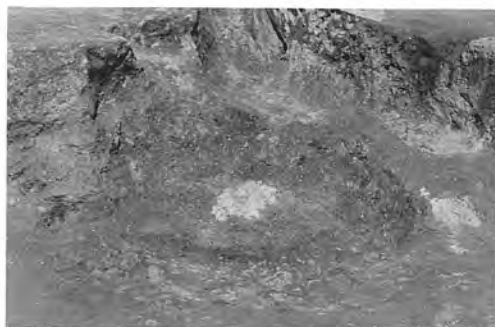
第11号住居跡遺物出土状況



第10・11・12号住居跡



第11・12号住居跡遺物出土状況



第12号住居跡カマド



第14号住居跡



第14号住居跡カマド



第14号住居跡遺物出土状況



第14号住居跡遺物出土状況



第15号住居跡



第15号住居跡カマド



第15号住居跡遺物出土状況



第15号住居跡遺物出土状況

PL8



第16号住居跡



第16号住居跡カマド



第16号住居跡遺物出土状況



第16号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡



第17号住居跡カマド



第17号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡



第18号住居跡カマド



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡



第19号住居跡カマド



第19号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡遺物出土状況



第20・21号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡カマド



第20号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡遺物出土状況



第20・21号住居跡



第21号住居跡遺物出土状況



第21号住居跡遺物出土状況



第22号住居跡



第22号住居跡カマド



第23・31号住居跡



第23号住居跡カマド



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡遺物出土状況



PL12



第24号住居跡



第24号住居跡カマド



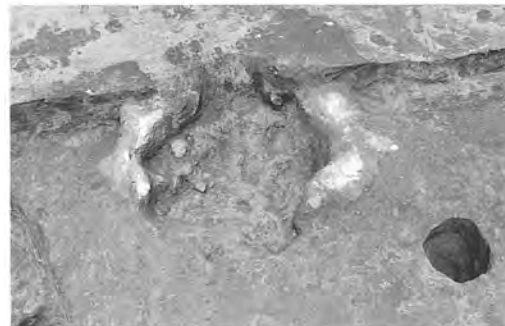
第24号住居跡遺物出土状況



第24号住居跡遺物出土状況



第25号住居跡



第25号住居跡カマド



第25号住居跡遺物出土状況



第25号住居跡遺物出土状況



第26号住居跡



第26号住居跡カマド



第26号住居跡遺物出土状況



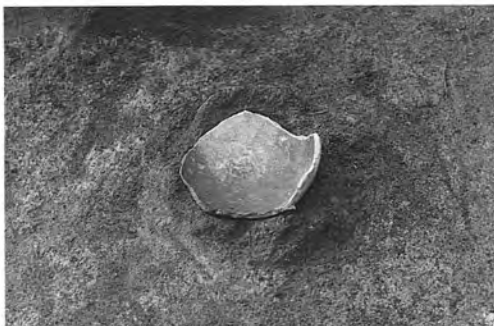
第26号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡



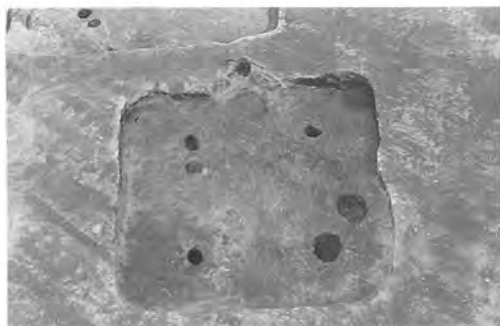
第27号住居跡カマド



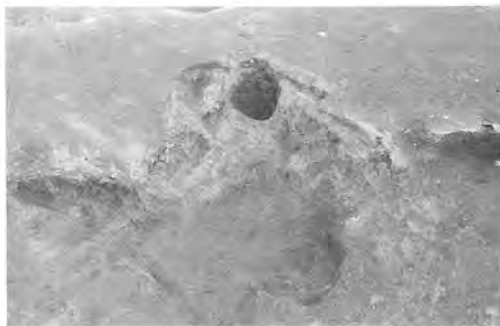
第27号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡遺物出土状況



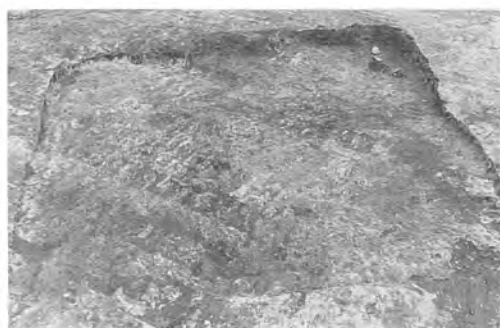
第28号住居跡



第28号住居跡カマド



第28号住居跡遺物出土状況



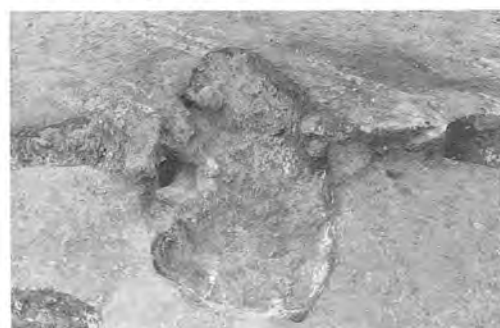
第28号住居跡遺物出土状況



第29号住居跡カマド



第30号住居跡



第30号住居跡カマド



第30号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡遺物出土状況



第32号住居跡



第32号住居跡カマド



第32号住居跡遺物出土状況



第32号住居跡遺物出土状況

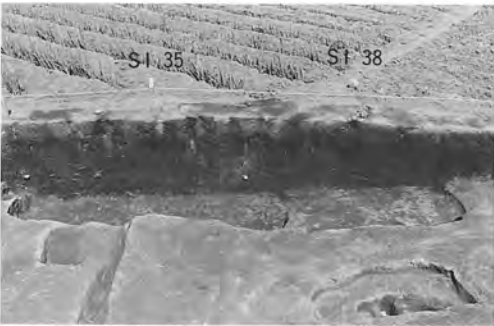
PL16



第33号住居跡



第34号住居跡



第35・38号住居跡



第34号住居跡カマド



第36号住居跡



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡遺物出土状況



第37号住居跡



第37号住居跡カマド



第37号住居跡遺物出土状況



第37号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡遺物出土状況



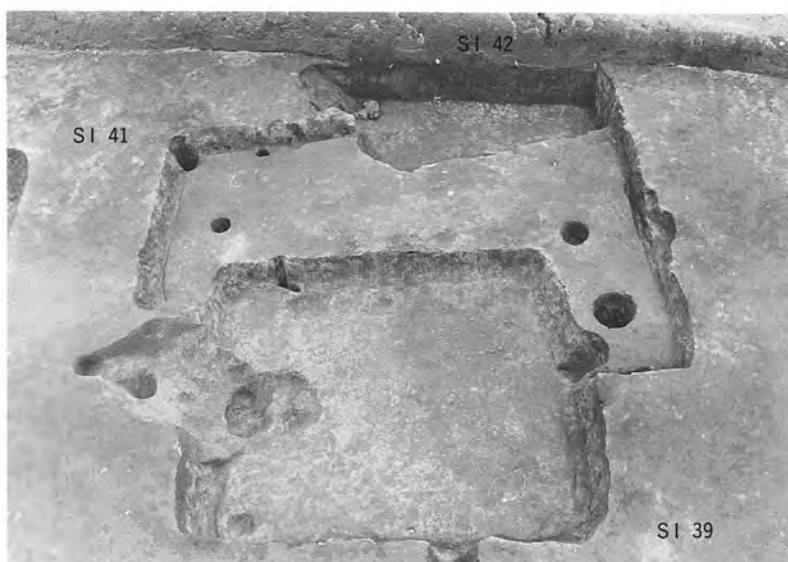
第41号住居跡遺物出土状況



第39・41・42号住居跡遺物出土状況



第39号住居跡カマド



第39・41・42号住居跡



第42号住居跡カマド



第41号住居跡カマド



第40号住居跡



第40号住居跡カマド



第40号住居跡遺物出土状況



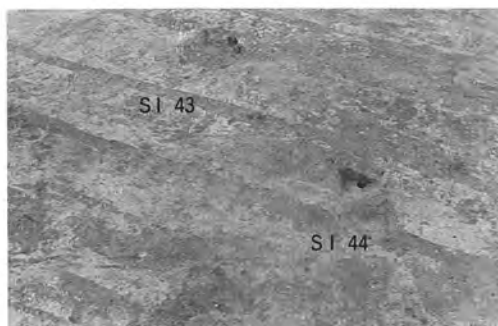
第40号住居跡遺物出土状況



第40号住居跡遺物出土状況



第40号住居跡遺物出土状況



第43・44号住居跡



第45号住居跡カマド



PL20



第45号住居跡



第45号住居跡遺物出土状況



第46号住居跡



第46号住居跡カマド



第46号住居跡遺物出土状況



第46号住居跡遺物出土状況



第46号住居跡遺物出土状況



第47号住居跡



第47号住居跡遺物出土状況



第47号住居跡遺物出土状況



第47号住居跡遺物出土状況



第48号住居跡



第49号住居跡



第48号住居跡カマド



第49号住居跡カマド



第49号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡



第50号住居跡カマド



第50号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡



第51号住居跡カマド



第51号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡遺物出土状況



第52号住居跡



第52号住居跡カマド



第52号住居跡遺物出土状況



第52号住居跡遺物出土状況



第53号住居跡



第53号住居跡カマド



第53号住居跡遺物出土状況



第53号住居跡



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡カマド



第55号住居跡



第55号住居跡遺物出土状況



第56号住居跡



第56号住居跡カマド



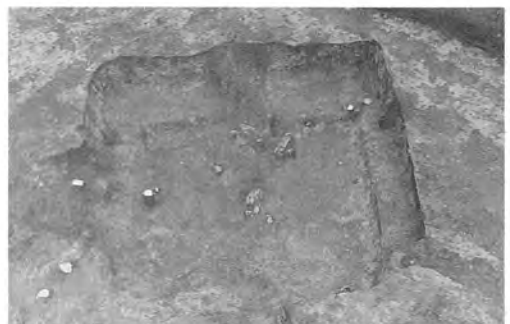
第56号住居跡遺物出土状況



第56号住居跡遺物出土状況



第57・61号住居跡



第57・61号住居跡遺物出土状況



第57号住居跡遺物出土状況



第61号住居跡カマド



第58号住居跡



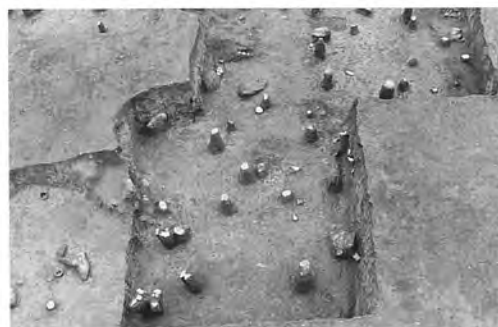
第58号住居跡遺物出土状況



第58号住居跡遺物出土状況



第59号住居跡



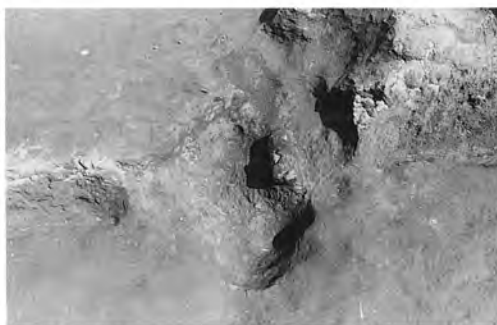
第59号住居跡遺物出土状況



第60号住居跡



第58号住居跡カマド



第59号住居跡カマド



第58・59・60・62号住居跡



第60号住居跡カマド



第62号住居跡カマド





第60号住居跡



第60号住居跡遺物出土状況



第62号住居跡



第62号住居跡遺物出土状況



第63号住居跡



第63号住居跡カマド



第63号住居跡遺物出土状況



第63号住居跡遺物出土状況



第64号住居跡遺物出土状況



第64号住居跡遺物出土状況



第65号住居跡



第65号住居跡遺物出土状況



第65号住居跡遺物出土状況



第66・90号住居跡



第66号住居跡カマド



第90号住居跡カマド

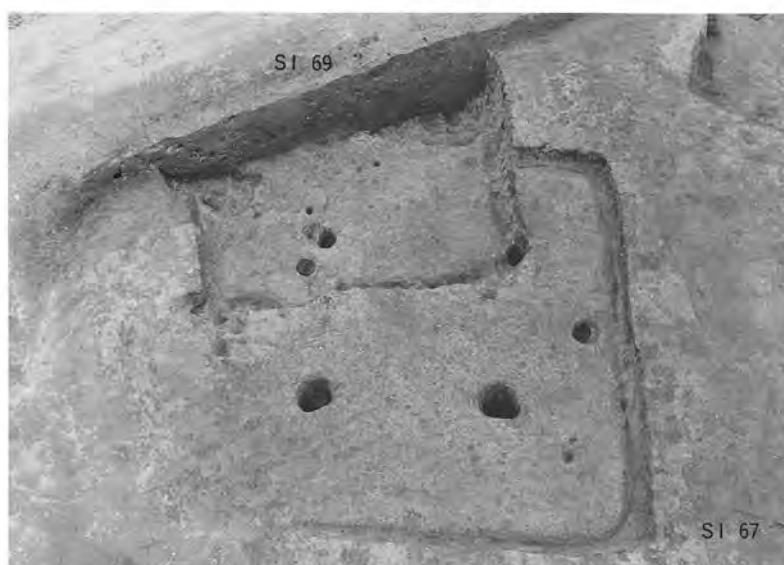
PL30



第66号住居跡遺物出土状況



第66号住居跡遺物出土状況



第67・69号住居跡



第67号住居跡遺物出土状況



第69号住居跡遺物出土状況



第68号住居跡遺物出土状況



第68号住居跡遺物出土状況



第66・67・69・70号住居跡



第70号住居跡



第70号住居跡カマド



第70号住居跡遺物出土状況



第70号住居跡遺物出土状況



第71号住居跡



第71号住居跡カマド



第71号住居跡遺物出土状況



第72号住居跡



第72号住居跡遺物出土状況



第72号住居跡遺物出土状況



第72号住居跡カマド



第73号住居跡



第73号住居跡遺物出土状況



第73号住居跡遺物出土状況



第74号住居跡



第74号住居跡カマド



第74号住居跡遺物出土状況



第74号住居跡遺物出土状況



第75号住居跡



第75号住居跡カマド



第76・77号住居跡



第76号住居跡カマド



第77号住居跡遺物出土状況



第76号住居跡遺物出土状況



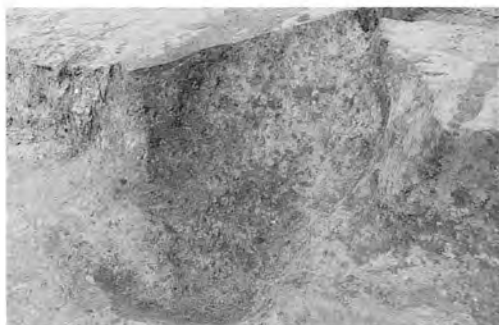
第77号住居跡遺物出土状況



第77号住居跡カマド



第78号住居跡



第78号住居跡カマド



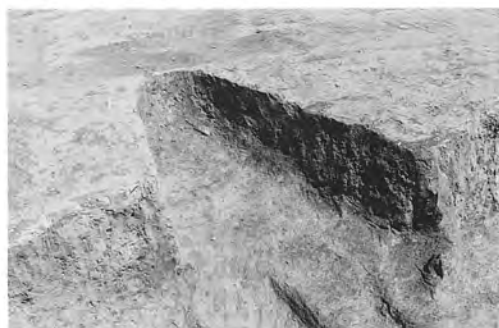
第78号住居跡遺物出土状況



第78号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡



第79号住居跡カマド



第79号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡遺物出土状況





第79・80号住居跡



第80号住居跡カマド



第80号住居跡遺物出土状況



第80号住居跡遺物出土状況



第80号住居跡遺物出土状況



第80号住居跡遺物出土状況



第81・84号住居跡



第81号住居跡カマド



第82号住居跡



第82号住居跡カマド



第82号住居跡遺物出土状況



第82号住居跡遺物出土状況



第83号住居跡



第83号住居跡カマド



第85号住居跡



第85号住居跡カマド



第85号住居跡遺物出土状況



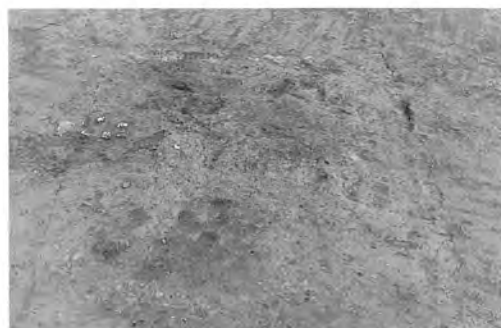
第85号住居跡遺物出土状況



第86号住居跡



第86号住居跡カマド



第87号住居跡



第87号住居跡遺物出土状況



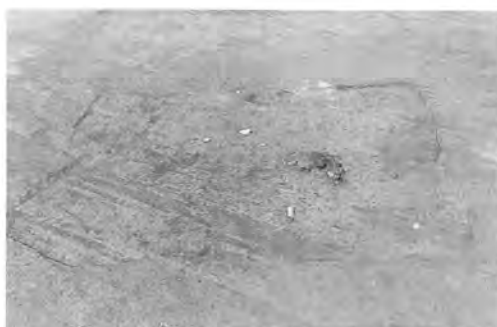
第87号住居跡カマド



第88号住居跡



第88号住居跡カマド



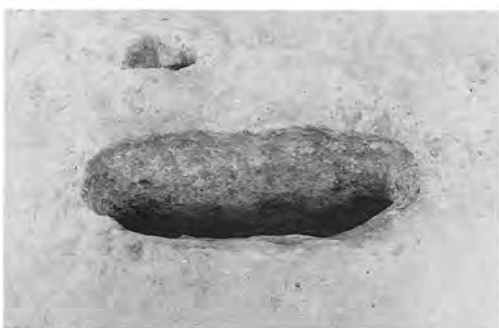
第88号住居跡遺物出土状況



第89号住居跡



第89号住居跡カマド



第33号土坑



第55号土坑



第81号土坑



第2号集石

PL40



第1号性格不明遺構



第1号溝



第1号溝



第1号溝



第1号溝



基本土層



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



金木場遺跡南部



向畑遺跡調査前風景



第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡遺物出土状況

向畑遺跡



第2・3号住居跡



第2号住居跡遺物出土状況



第2・3号住居跡遺物出土状況



第2・3号住居跡遺物出土状況



第1号溝

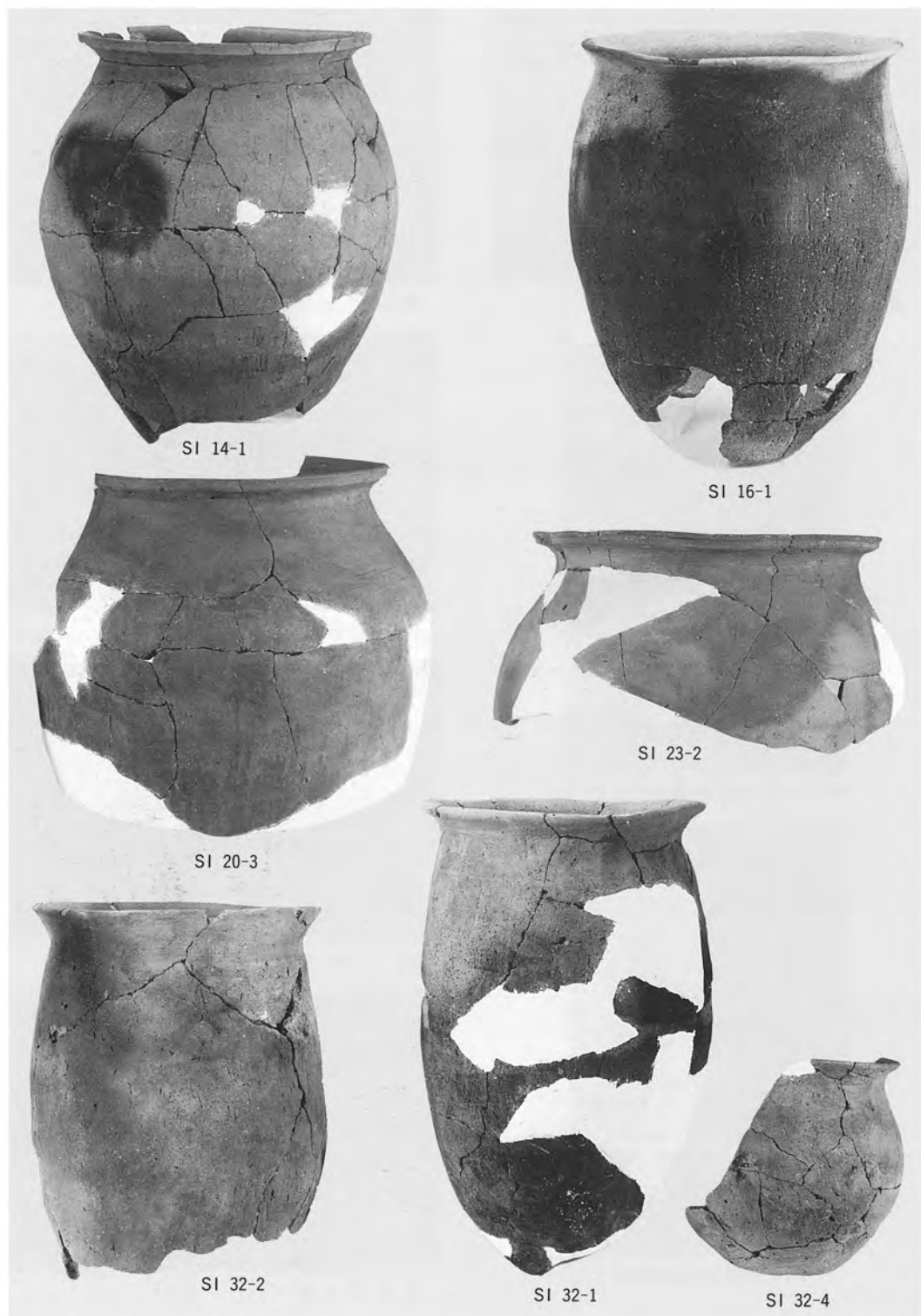


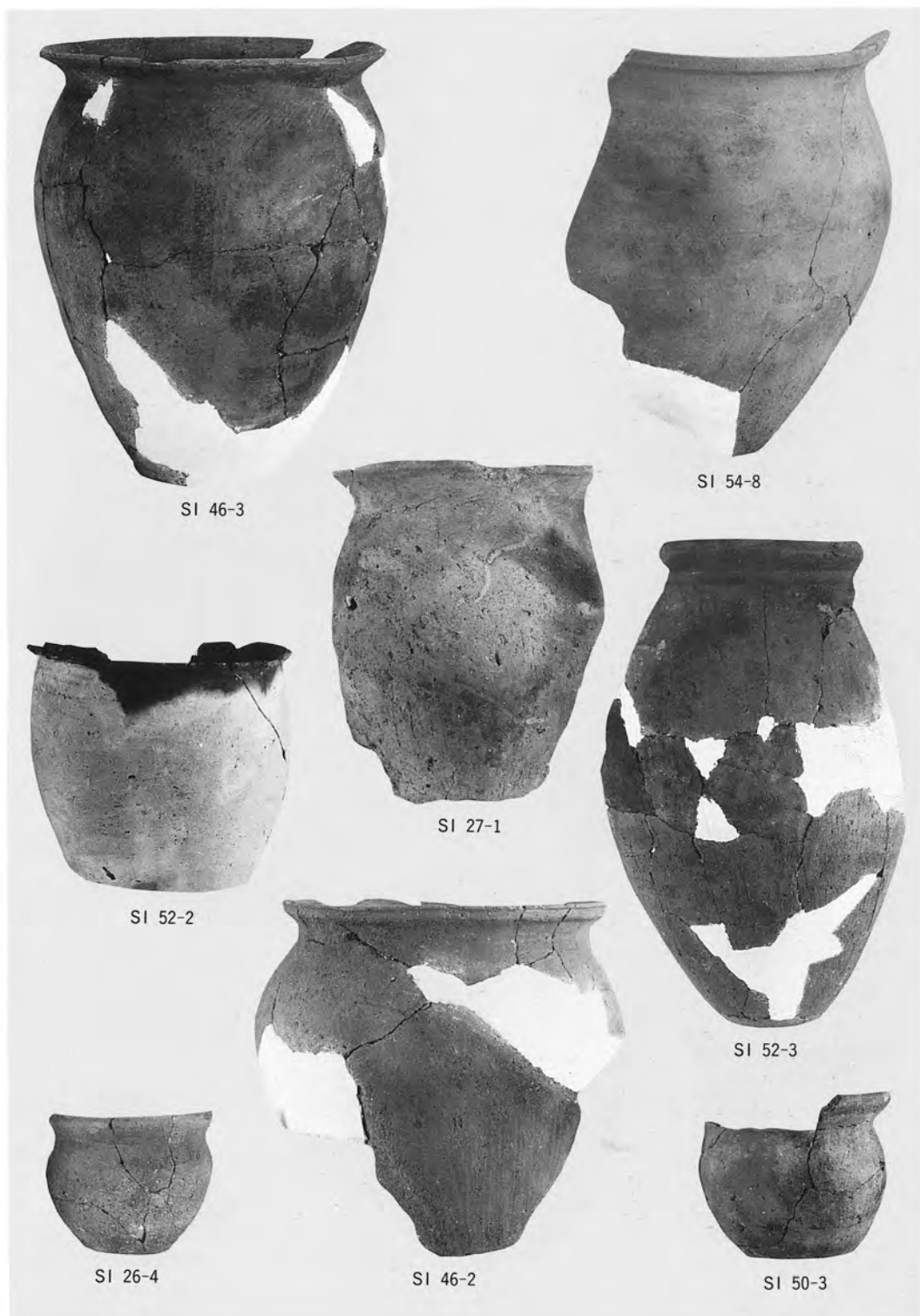
第1号掘立柱建物跡

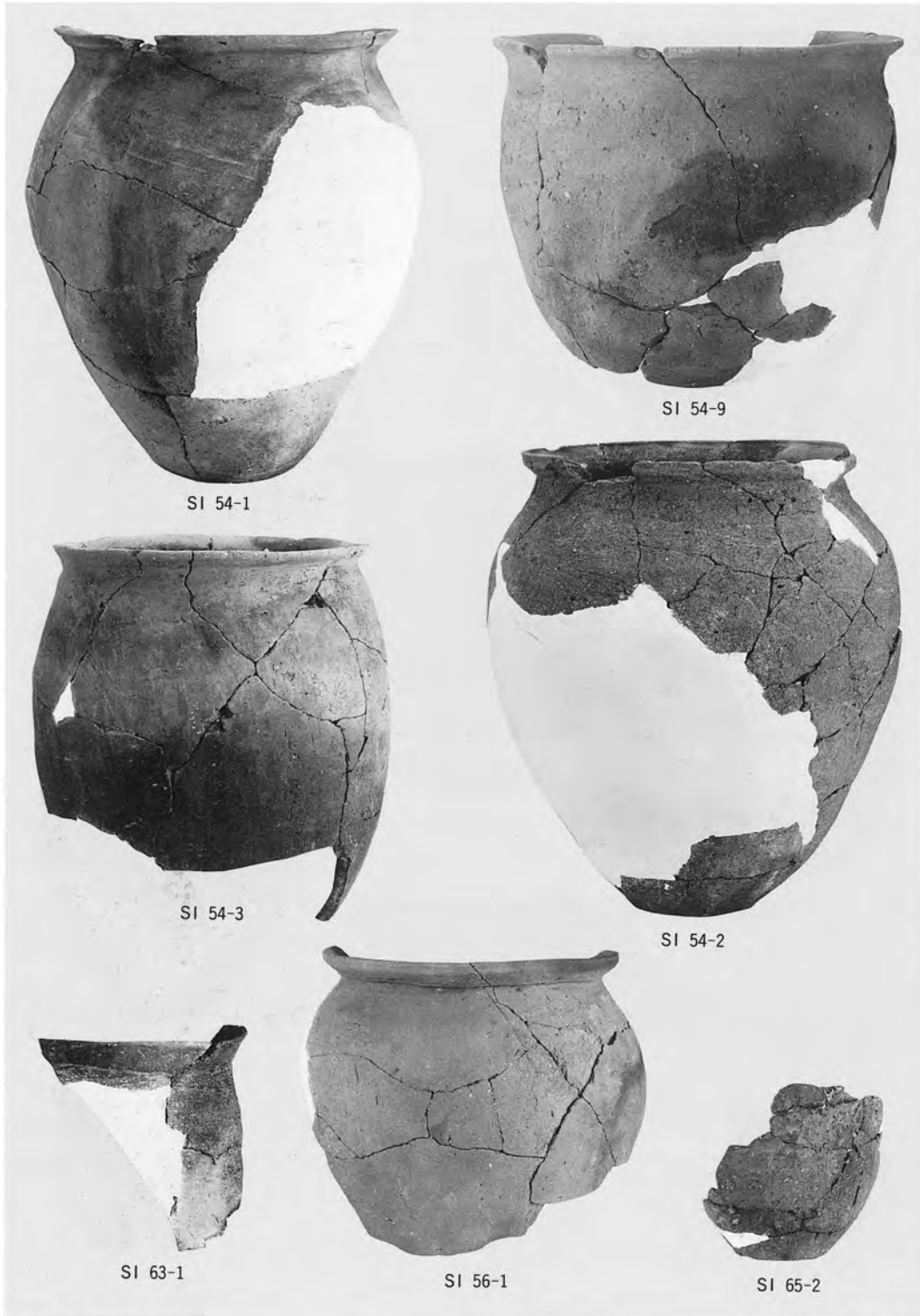


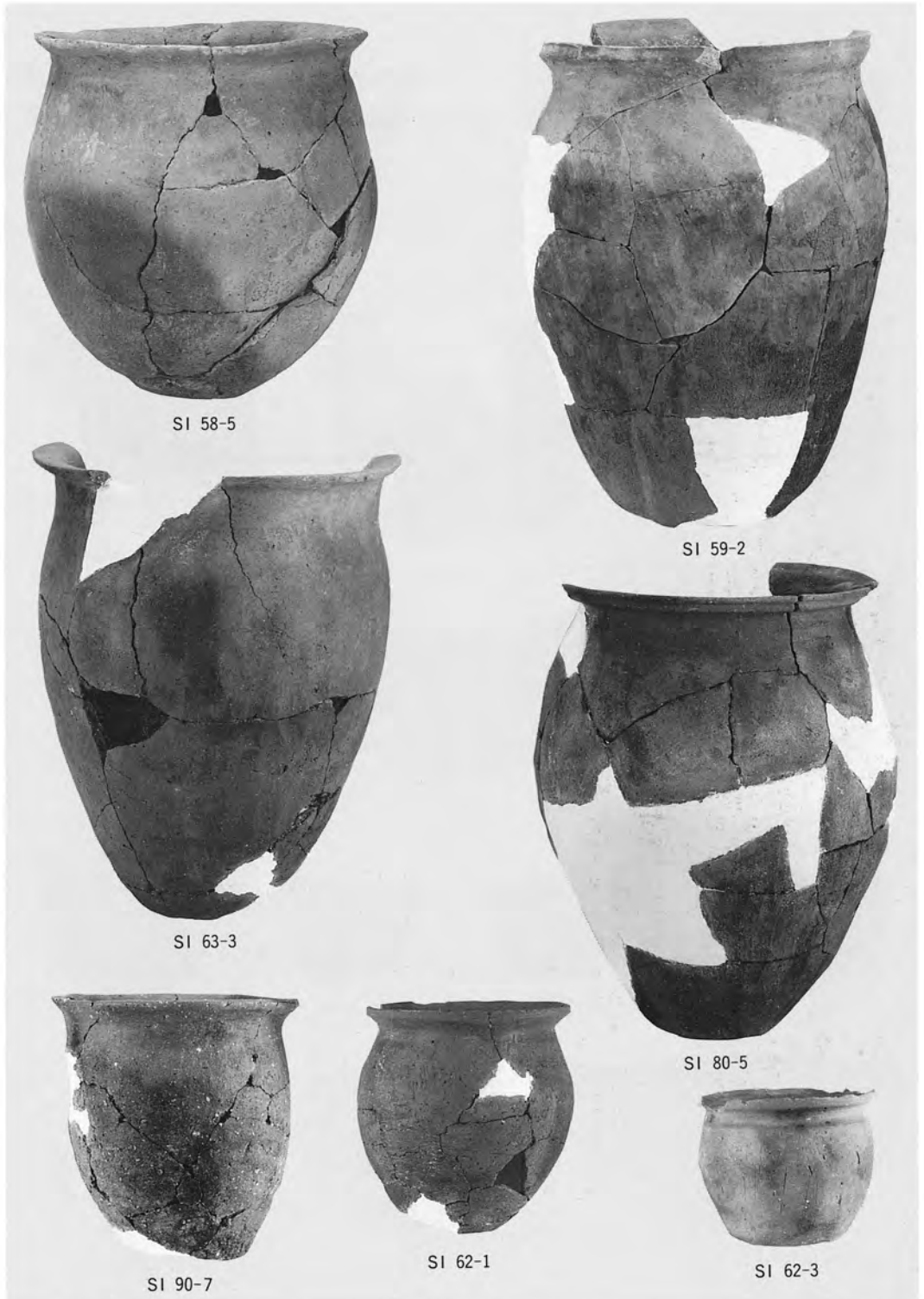
第8号土坑

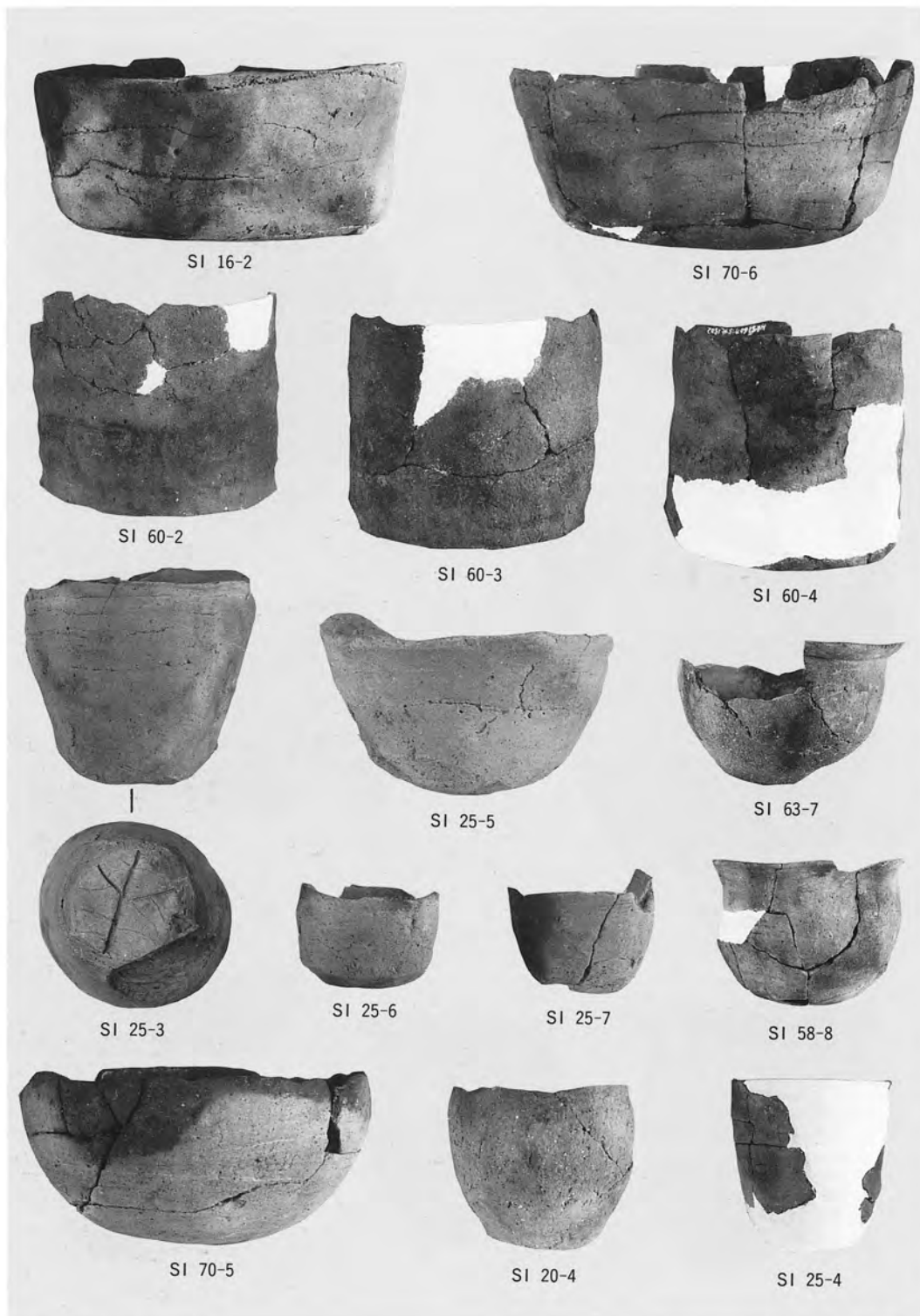


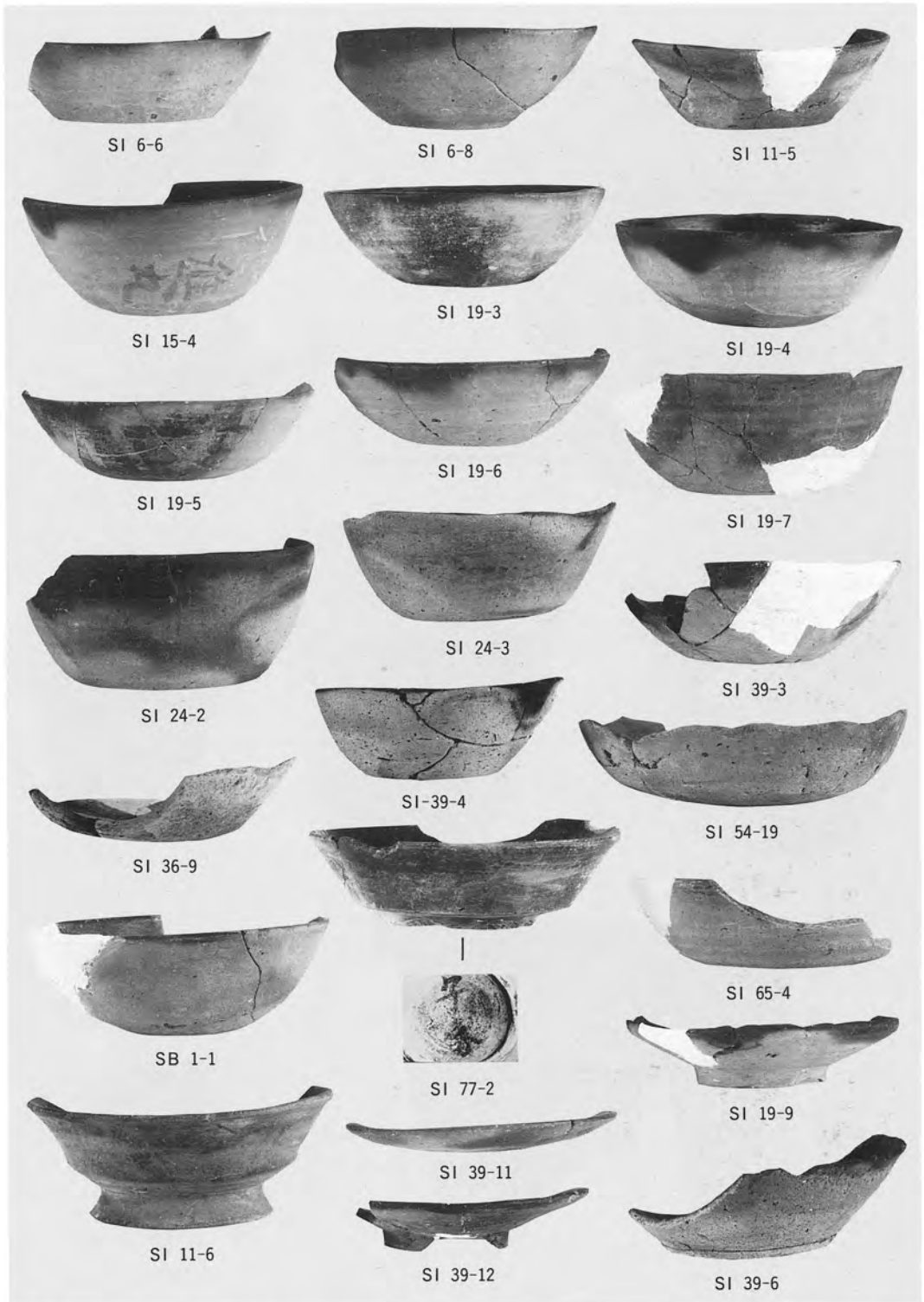




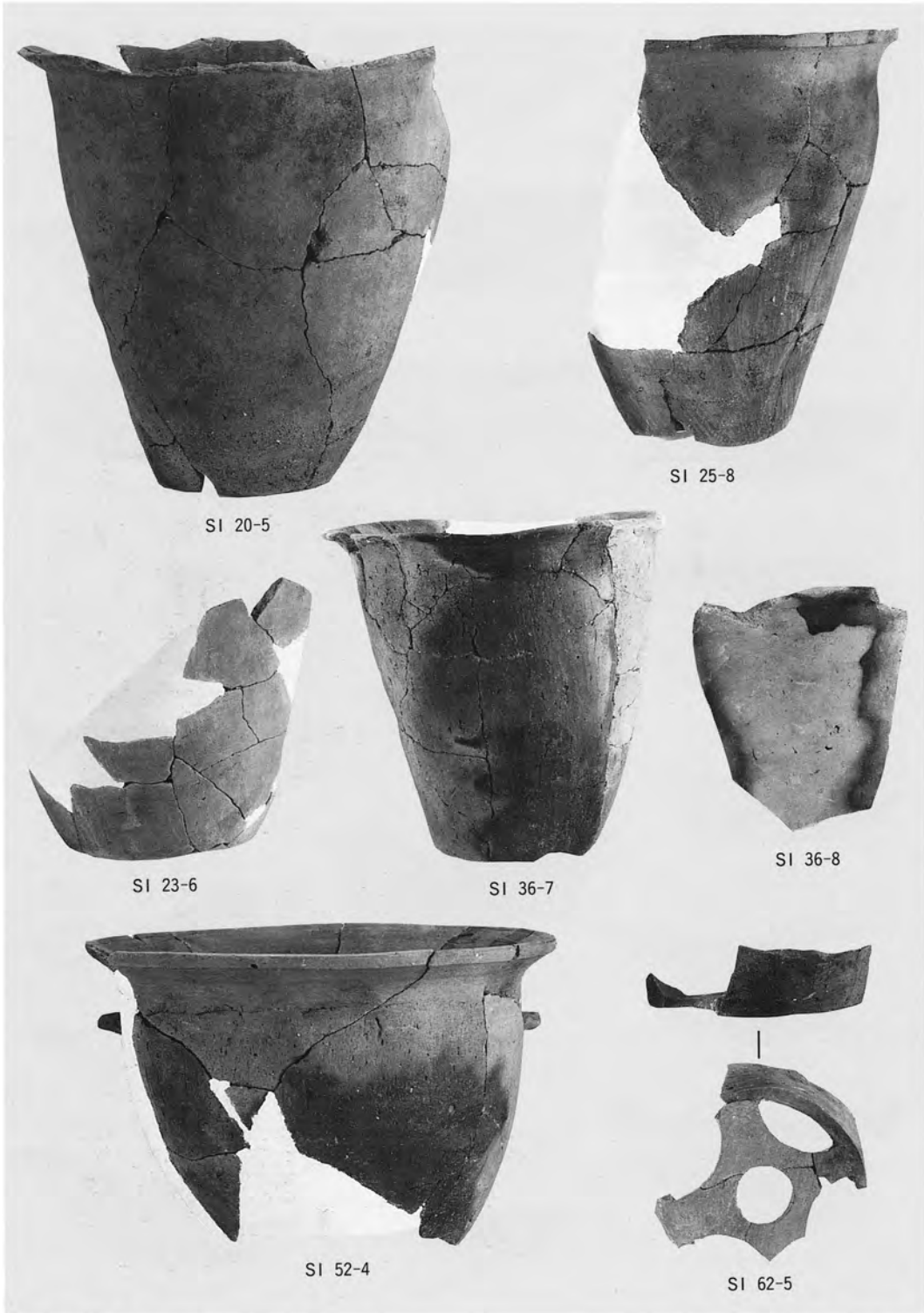


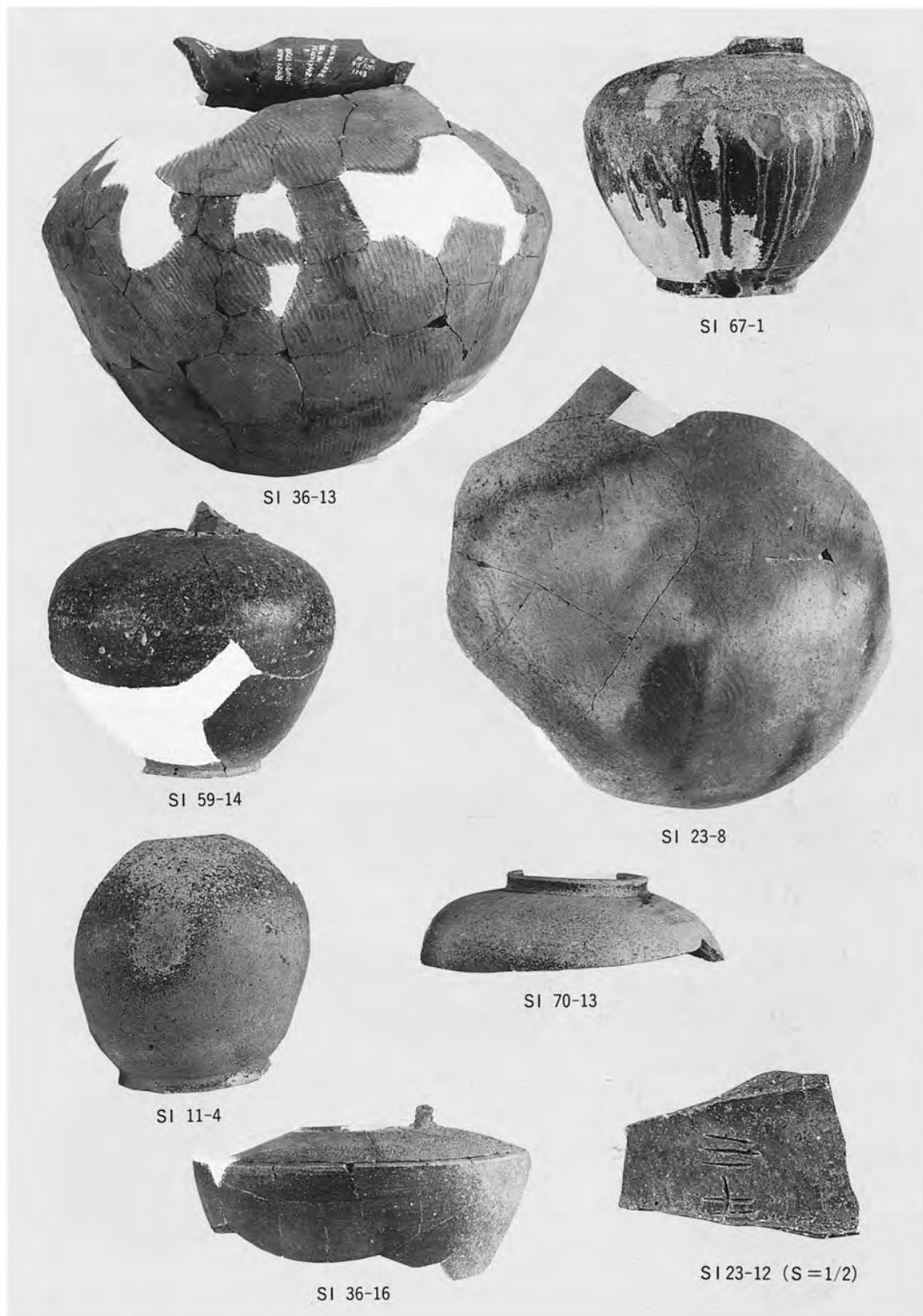






土師器(坏・高台付坏・皿・高台付皿)

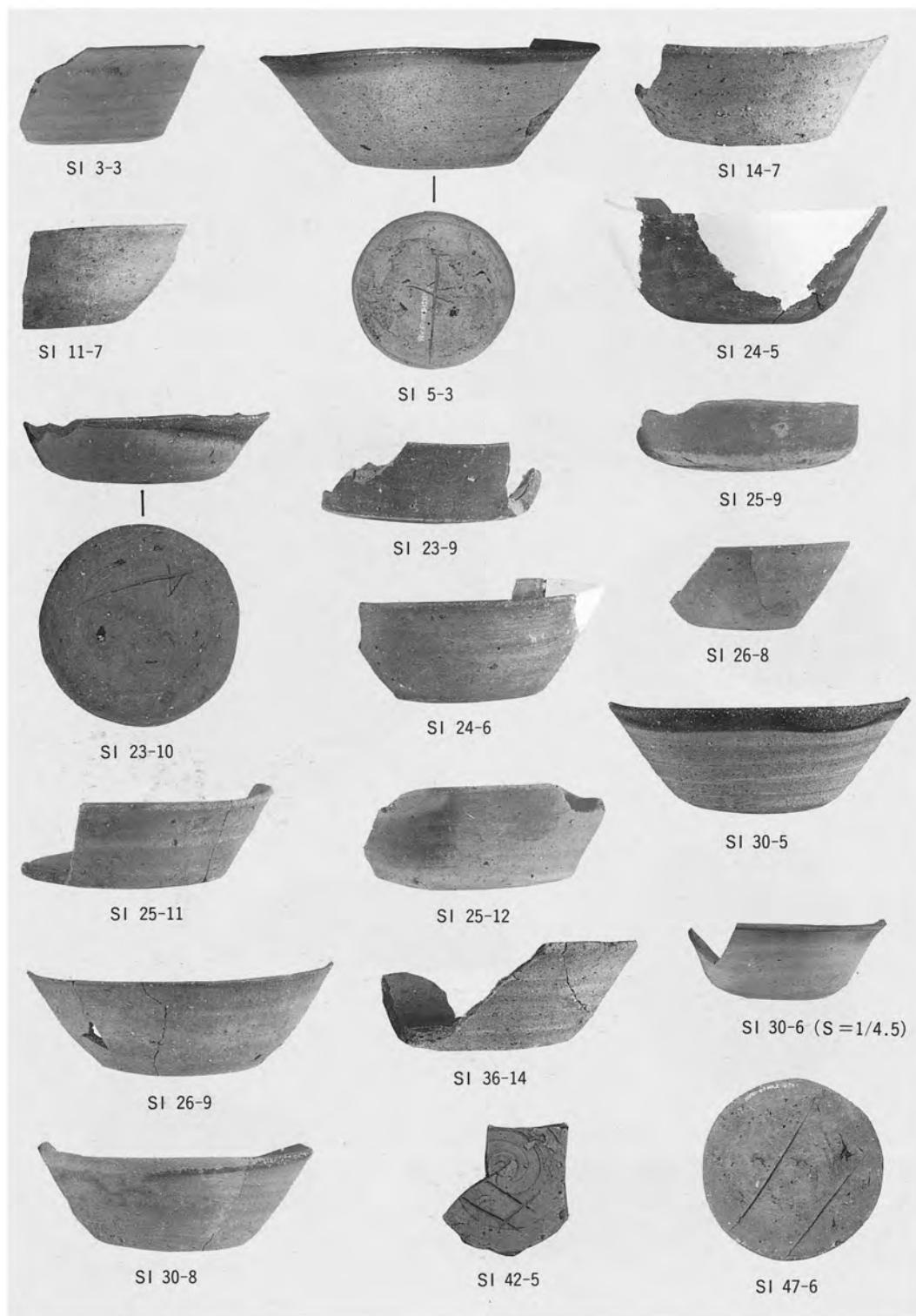


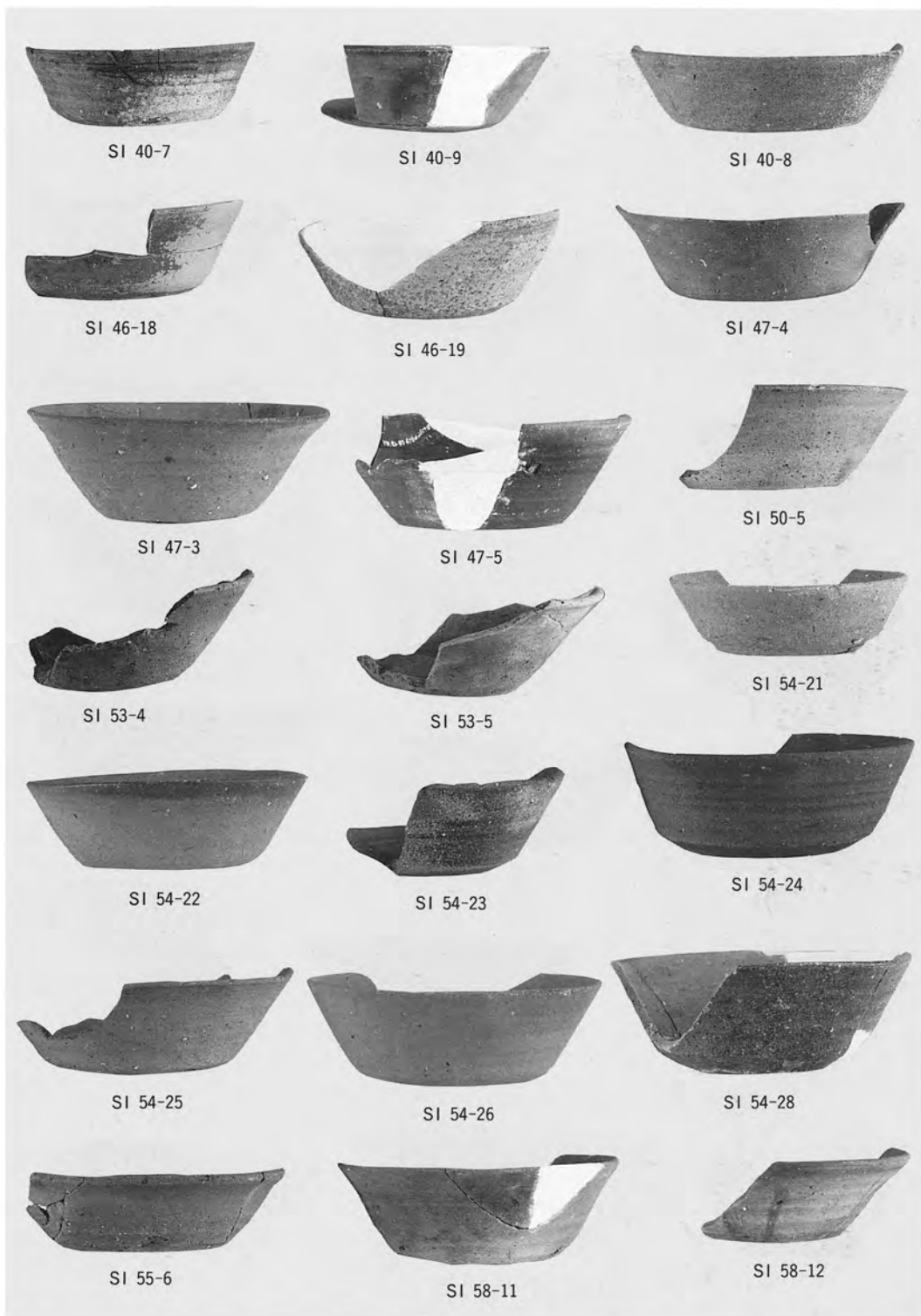


須恵器(甕・壺)

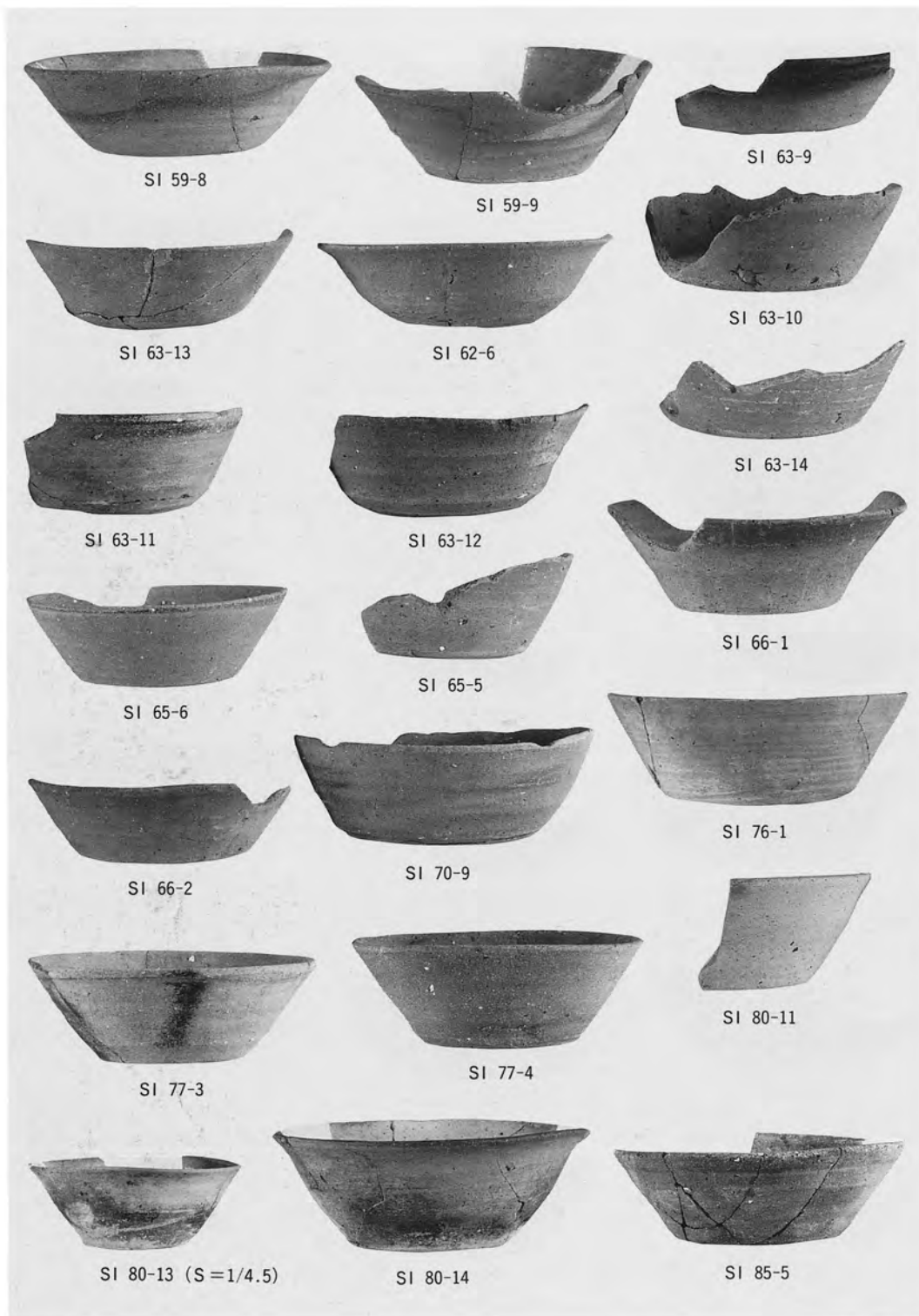
S=1/4.5





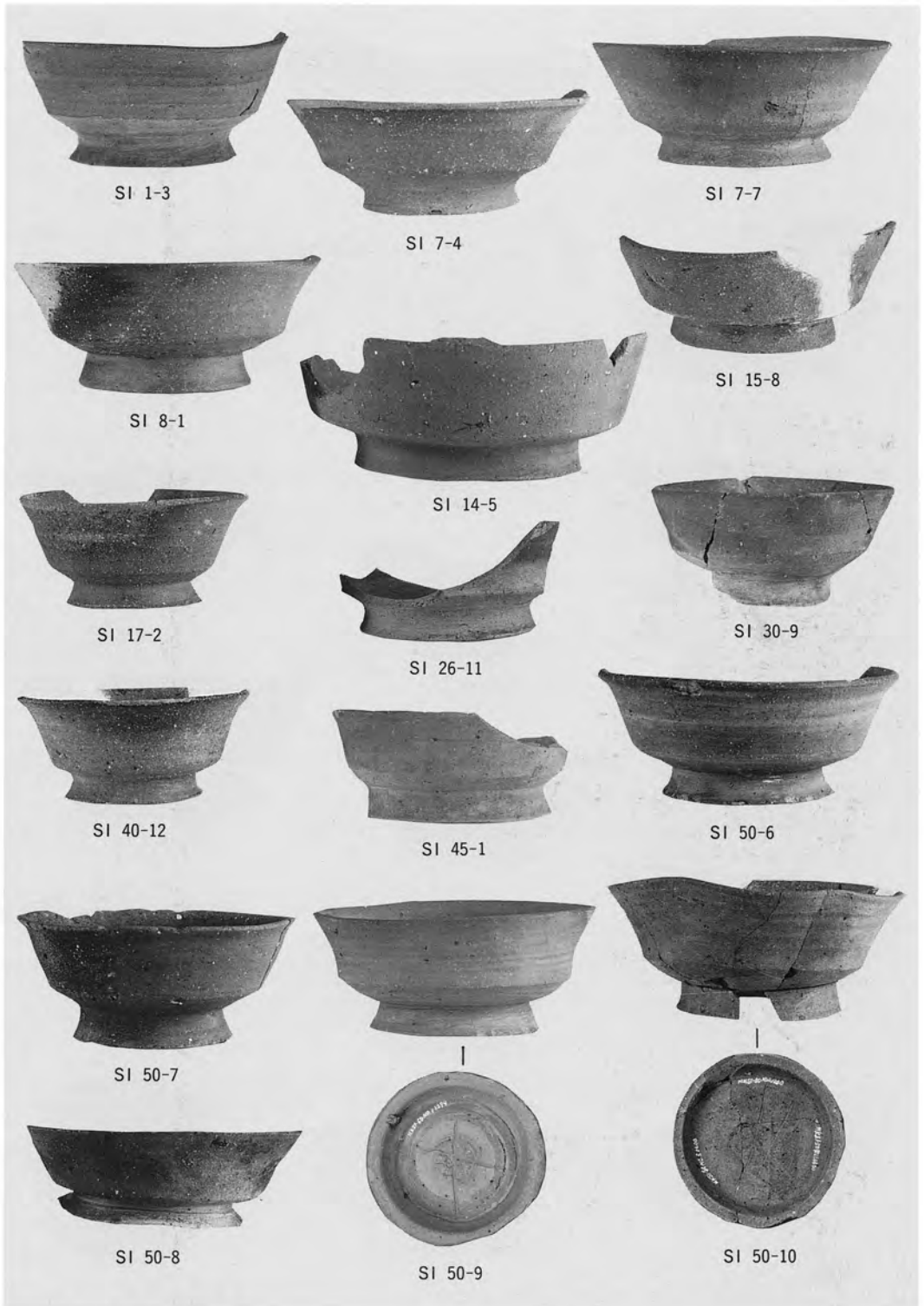


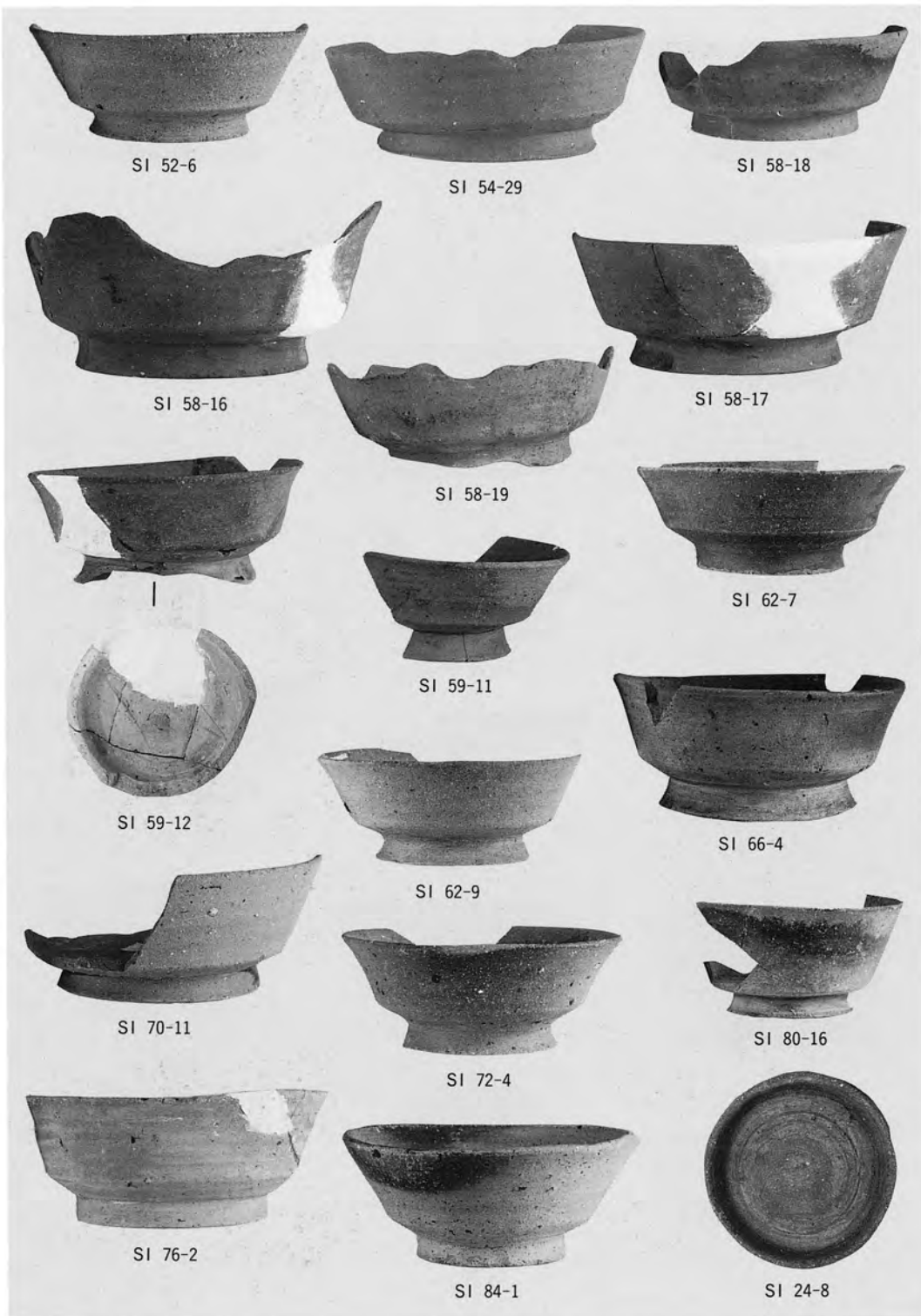
PL54

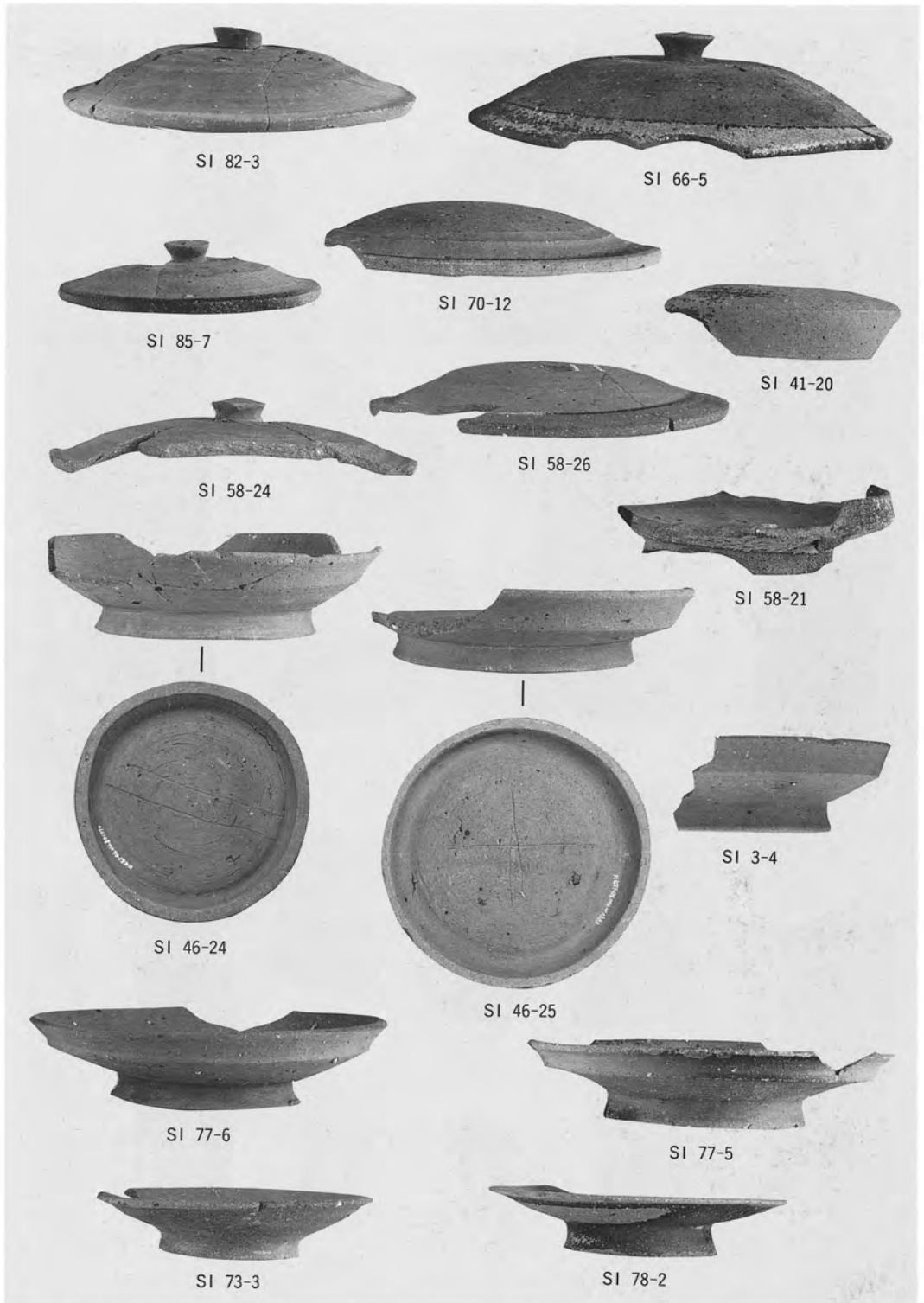


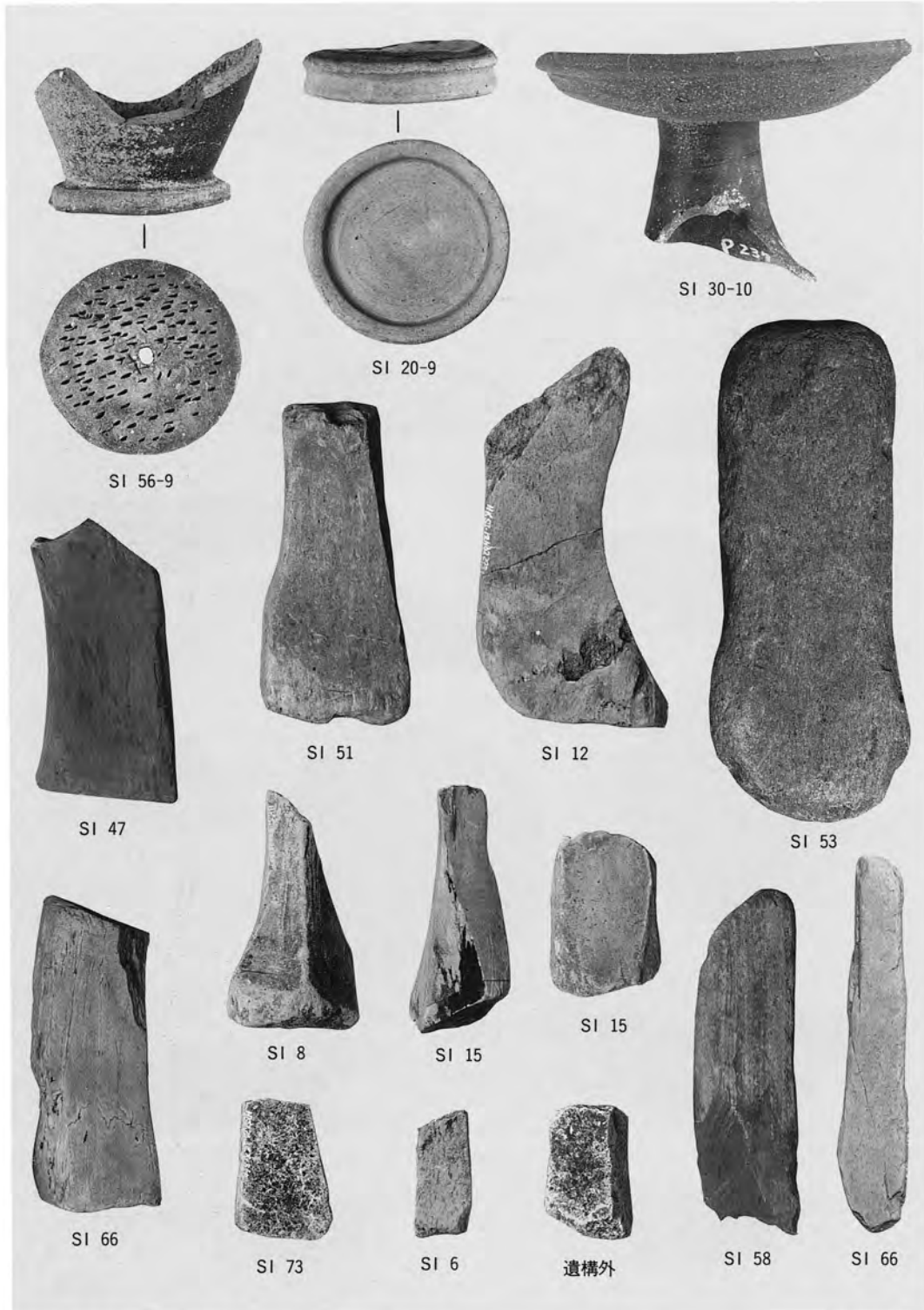
須恵器坏 (3)

S=1/3

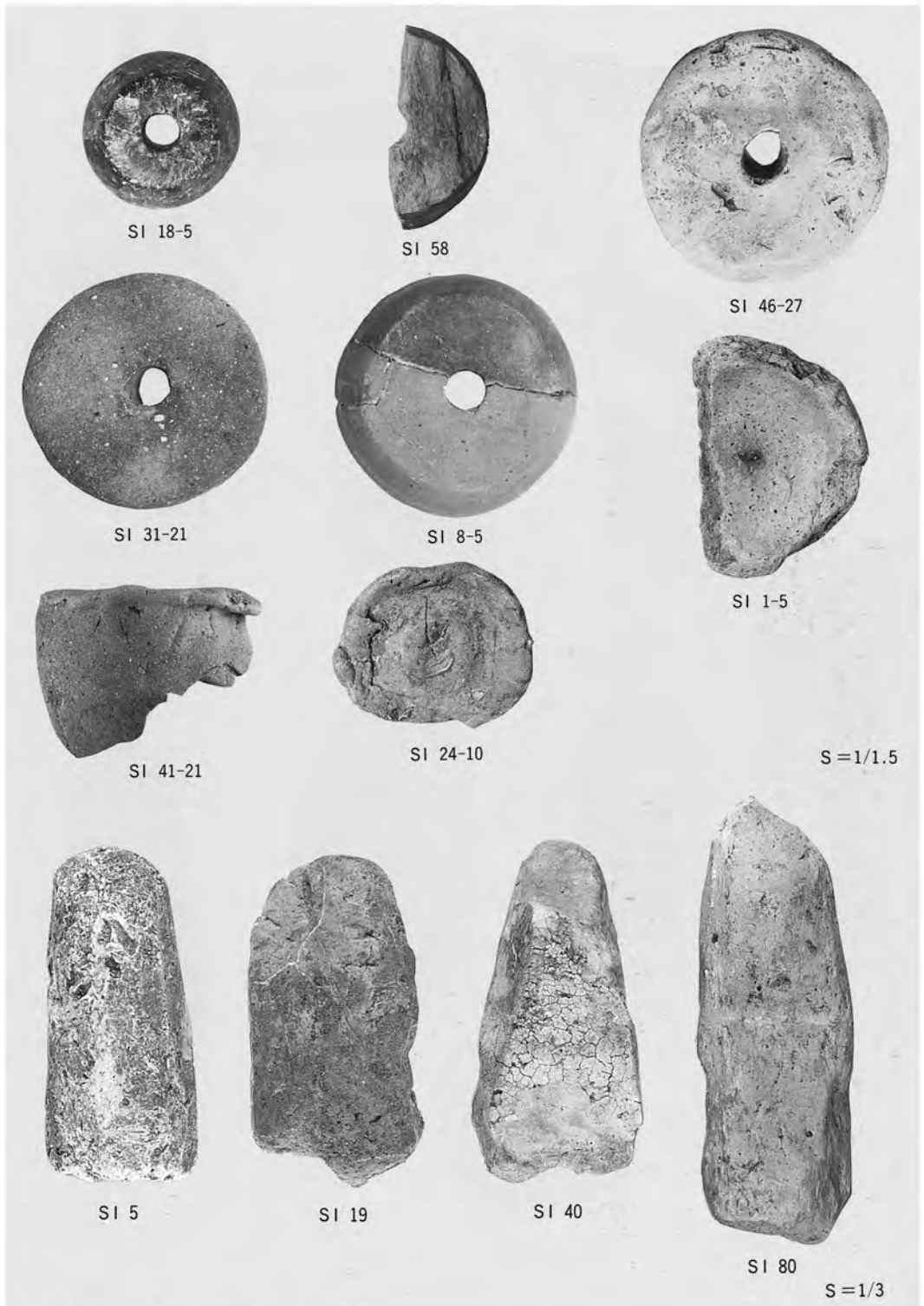






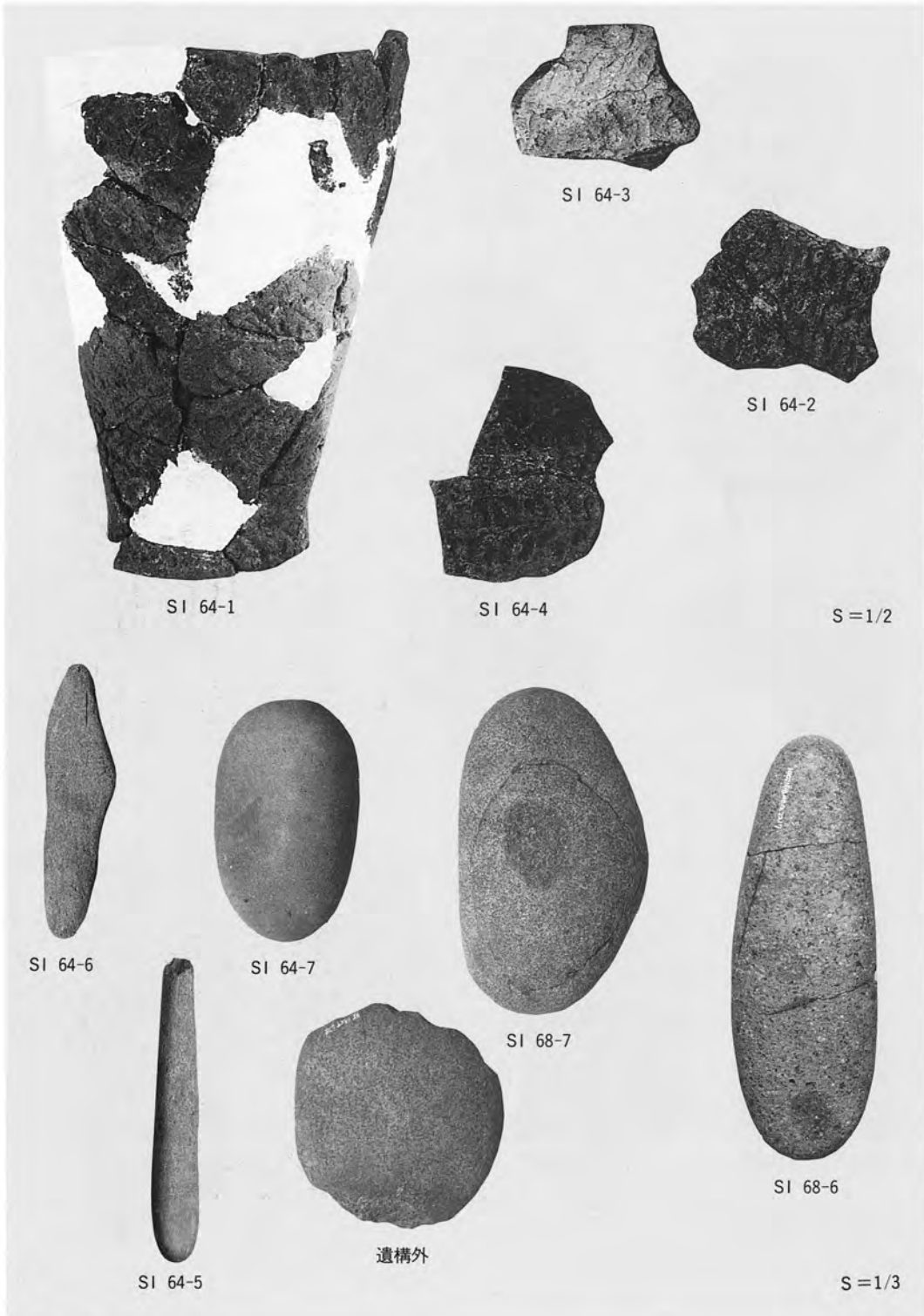


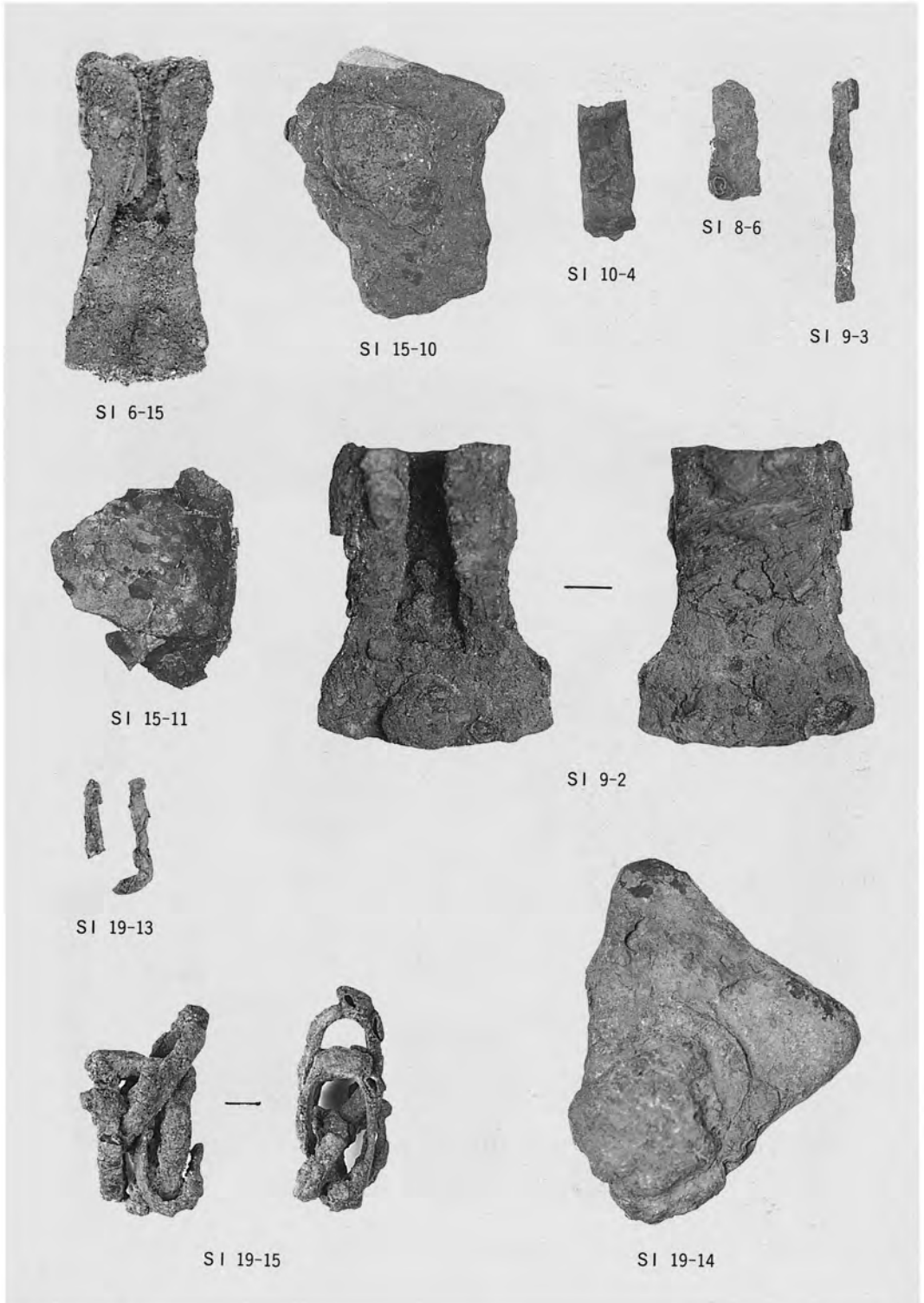
須恵器(播鉢・転用硯・高坏), 砥石



紡錘車・土製品・支脚







SI 6-15

SI 15-10

SI 10-4

SI 8-6

SI 9-3

SI 15-11

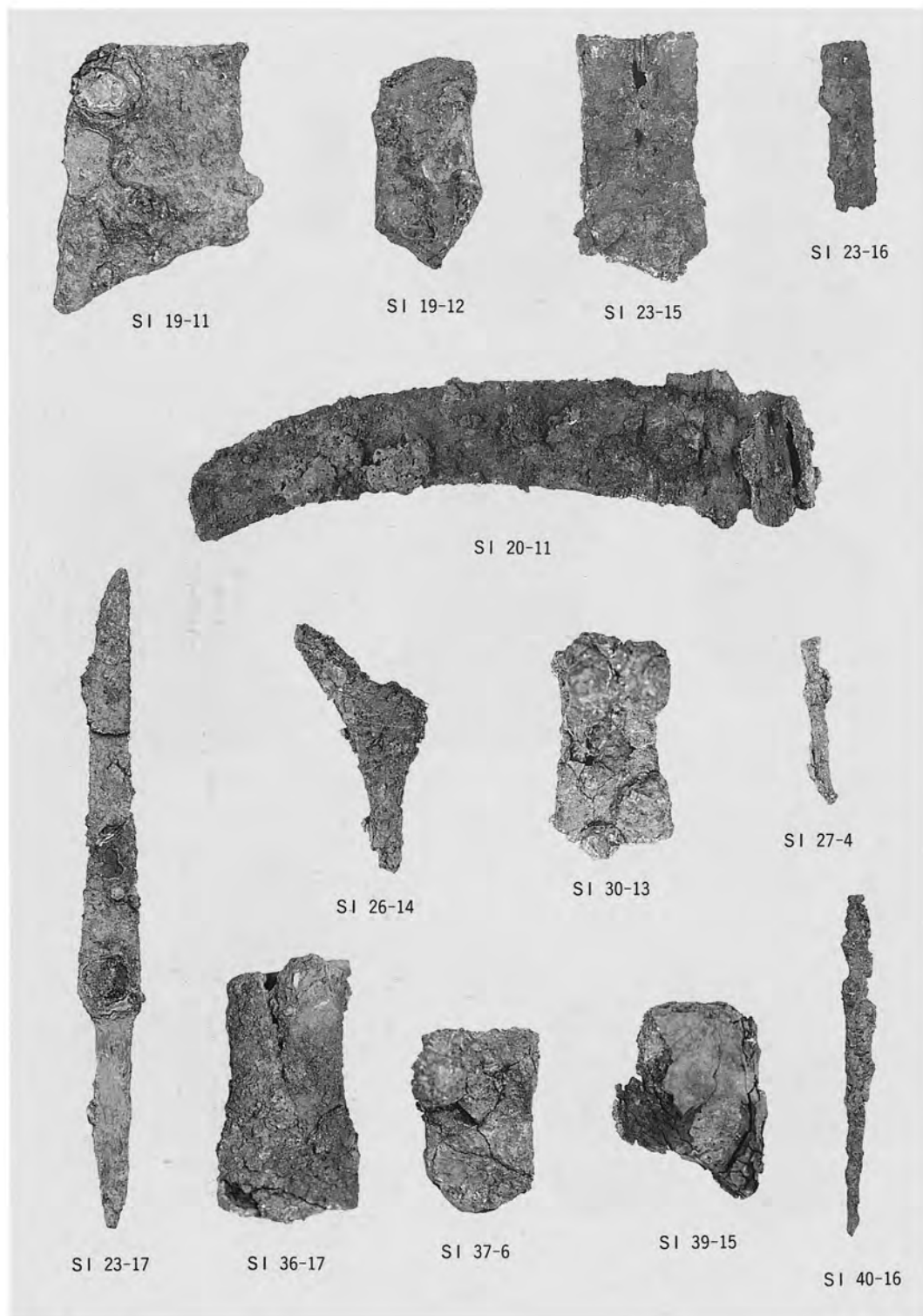
SI 9-2

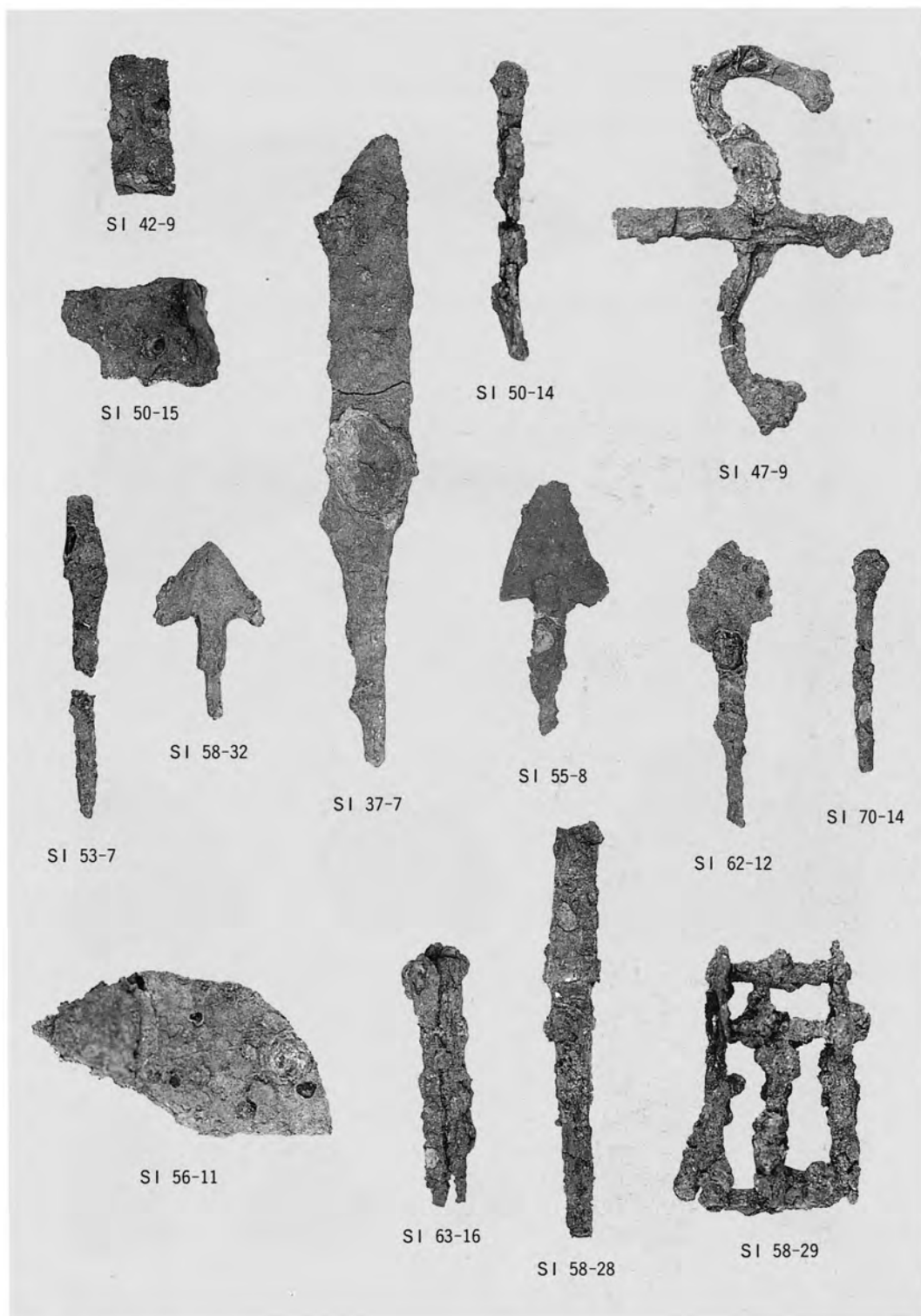
SI 19-13

SI 19-15

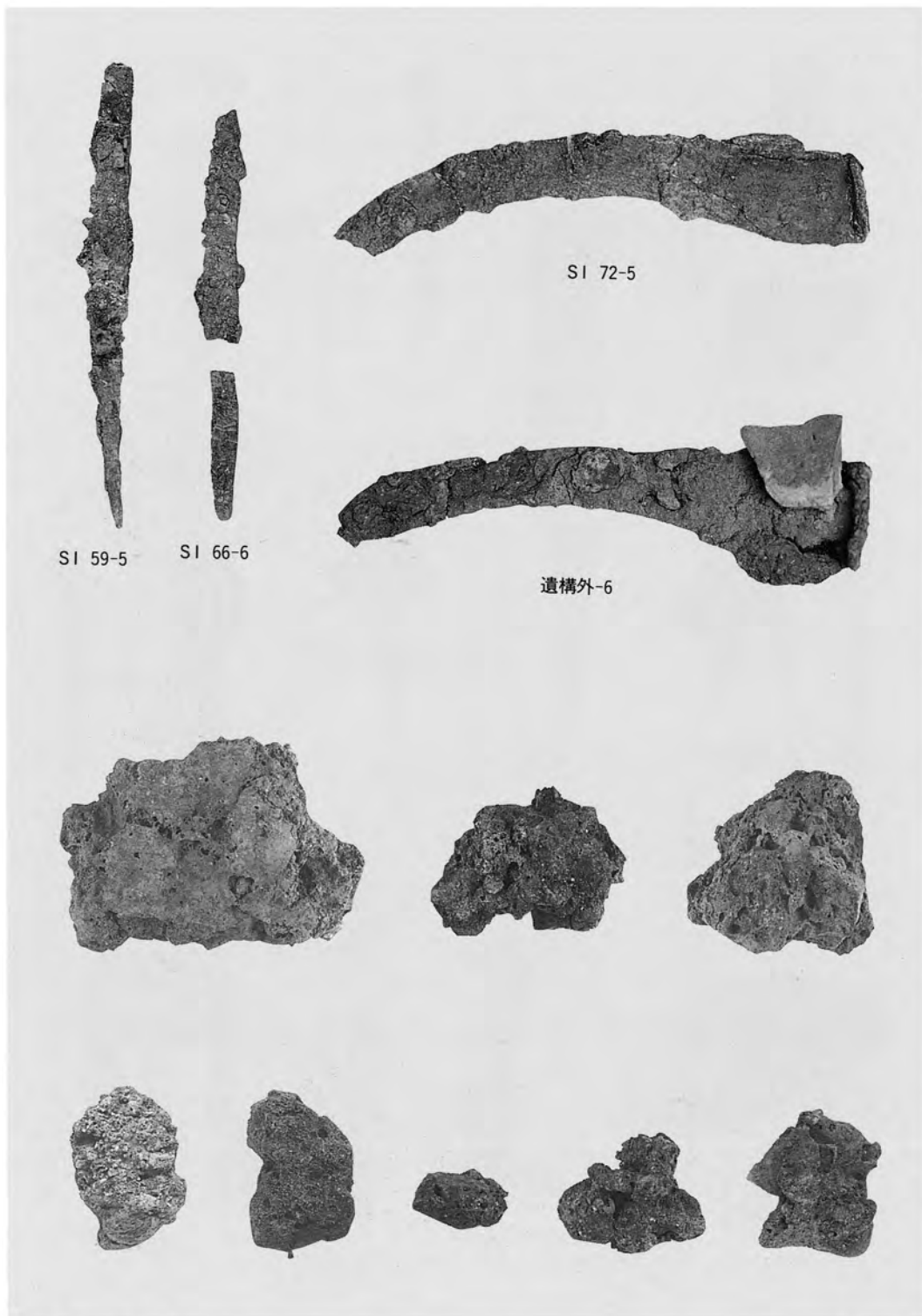
SI 19-14

PL62





PL64





SI 23-11 (S=1/3)



遺構外(緑釉)



SI 54-31



遺構外(羽口)



遺構外-4



遺構外-1



遺構外-2

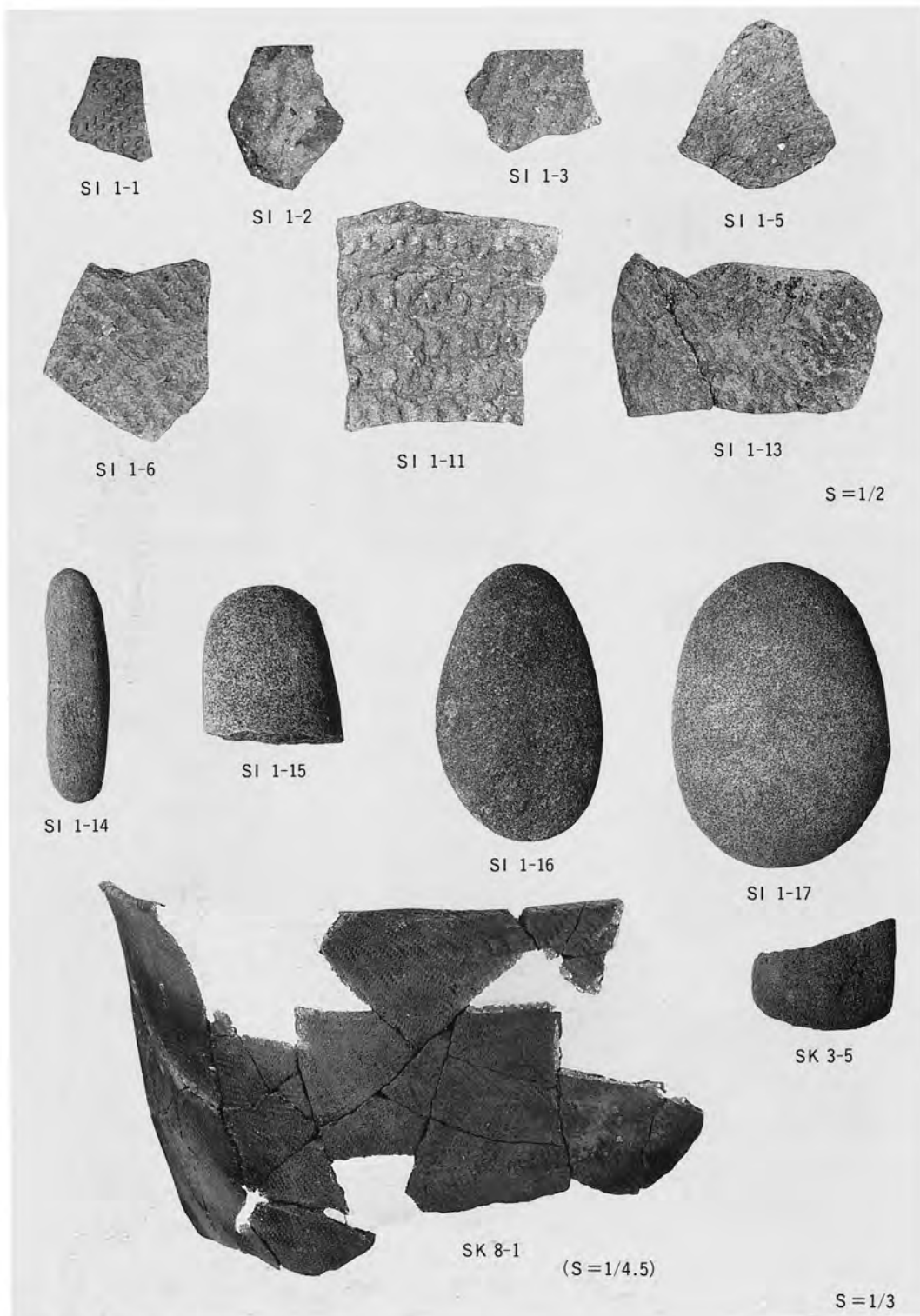


遺構外-3

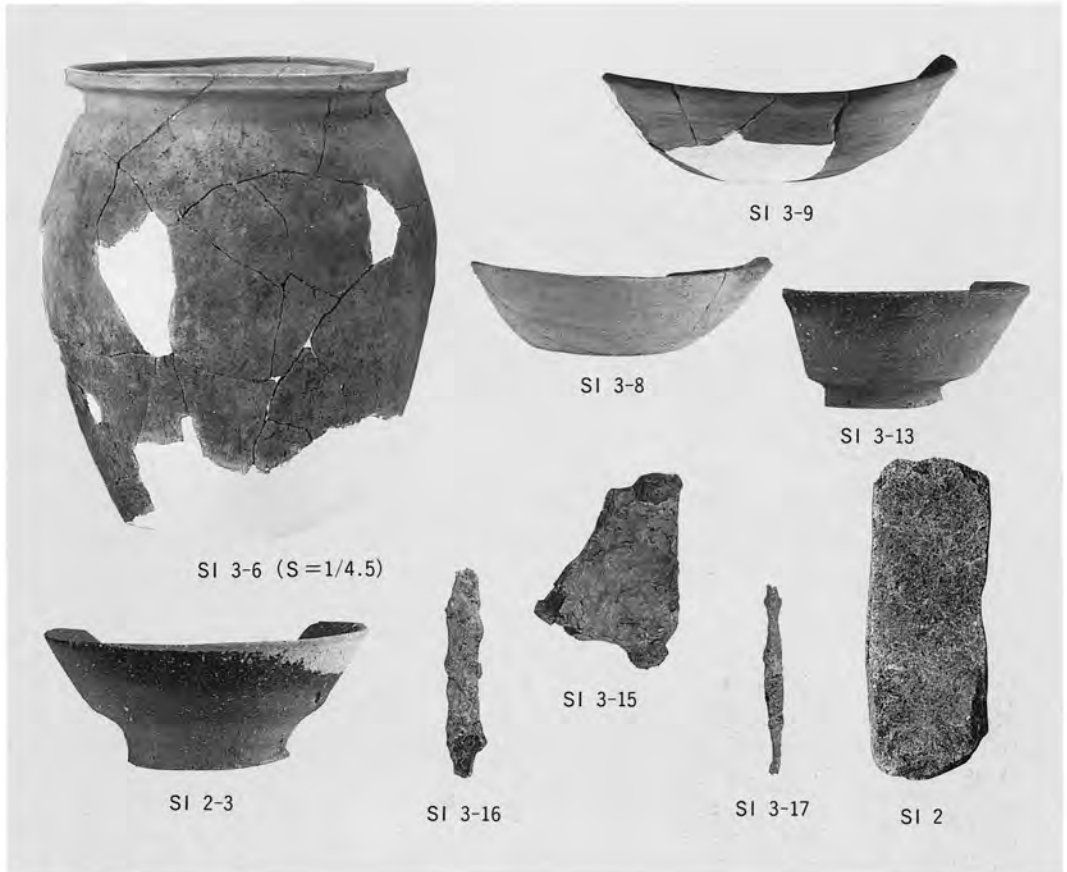


遺構外-5

PL66



向畑遺跡出土遺物 (1)



向畑遺跡出土遺物 (2)

S=1/3



向畑遺跡全景

S=1/1.25



PL68



遺跡全景

茨城県教育財団文化財調査報告第59集

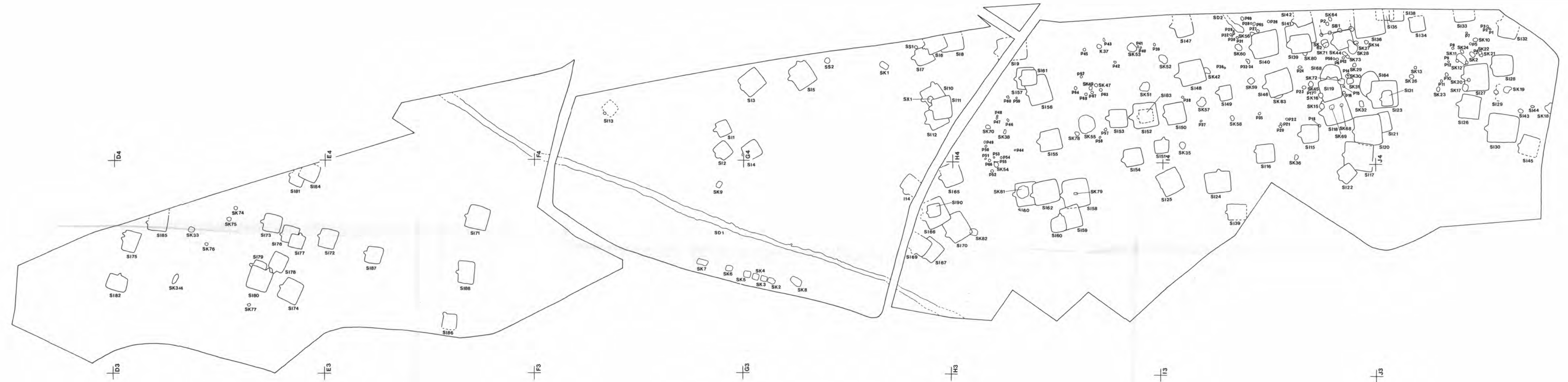
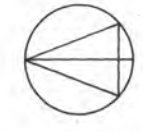
一般国道6号（日立バイパス）改築  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

かな き ぼ  
金 木 場 遺 跡  
むかい はた  
向 畑 遺 跡

平成2年3月27日 印刷

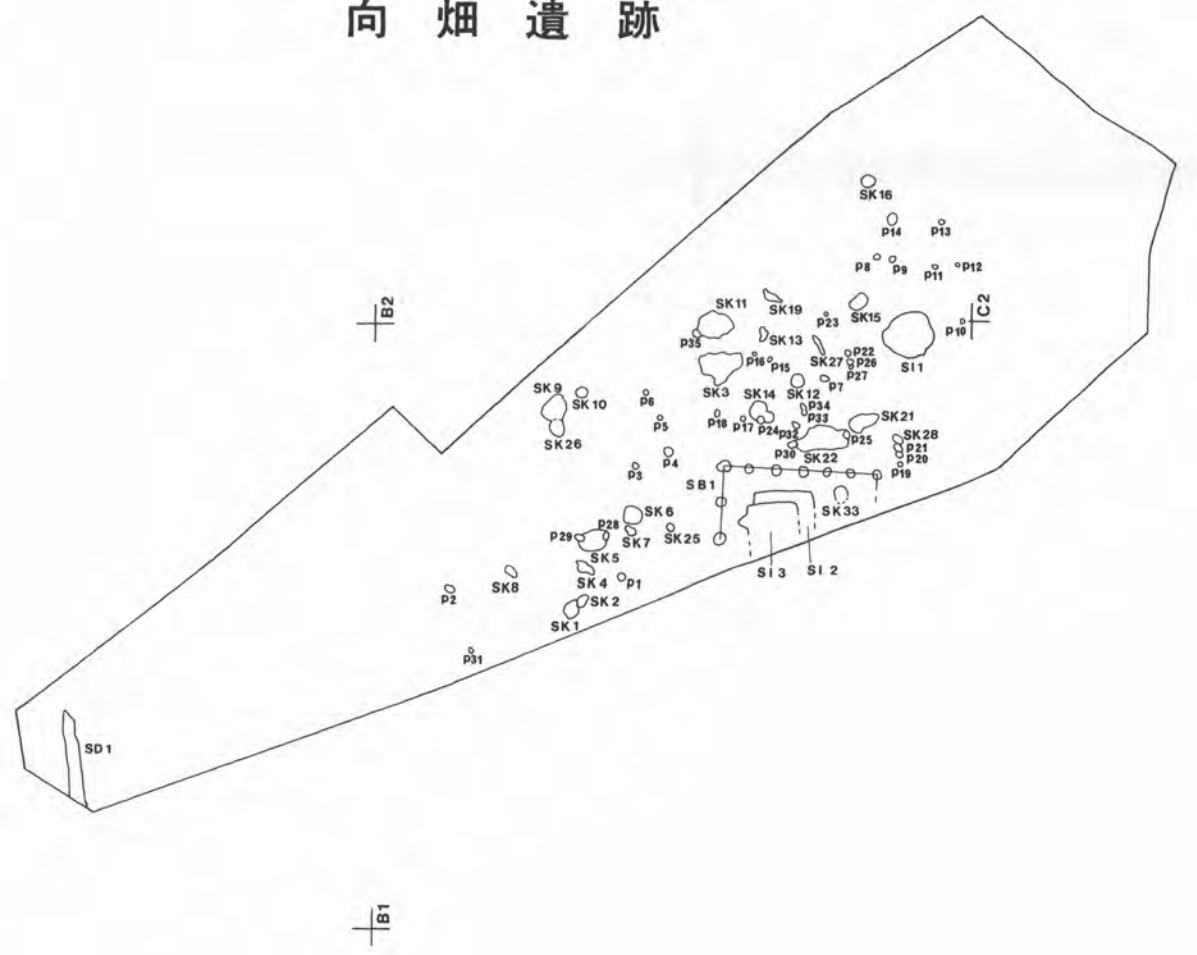
平成2年3月31日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
水戸市南町3丁目4番57号 TEL 0292-25-6587  
印刷 富士オフセット印刷株式会社  
水戸市根本3丁目1534-2 TEL 0292-31-4241



金 木 場 遺 跡

向 畑 遺 跡



第248図 金木場遺跡・向畑遺跡遺構全体図

